

## 医学部

第一内科学教室 (呼吸器内科)	3	放射線腫瘍学教室	94
第一内科学教室 (腎臓・リウマチ膠原病内科)	7	麻酔科学教室	94
第一内科学教室 (神経内科)	11	臨床検査医学教室	96
第二内科学教室 (循環器内科)	13	総合医療学教室	97
第二内科学教室 (血液内科)	21	リハビリテーション医学教室	99
第三内科学教室 (消化器内科)	21	リハビリテーション室	101
第三内科学教室 (糖尿尿・内分泌・代謝内科)	29	脳卒中医学教室	101
腫瘍内科学教室	33	医学教育学教室	104
高齢医学教室	38	解剖学教室 (肉眼解剖学)	104
精神神経科学教室	41	解剖学教室 (顕微解剖学)	105
小児科学教室	44	統合生理学教室	107
外科学教室 (消化器・一般外科)	45	細胞生理学教室	108
外科学教室 (呼吸器・甲状腺外科)	50	生化学教室 (1)	109
外科学教室 (乳腺外科)	52	生化学教室 (2)	109
小児外科学教室	53	薬理学教室	110
救急医学教室	54	病理学教室	111
脳神経外科学教室	56	感染症学教室 (微生物学)	113
心臓血管外科学教室	60	感染症学教室 (寄生虫学)	115
整形外科学教室	61	衛生学公衆衛生学教室	116
皮膚科学教室	66	法医学教室	119
形成外科学教室	71	共同研究施設 RI部門	119
泌尿器科学教室	74	フローサイトメトリー部門	119
多発性嚢胞腎研究講座	77	実験動物施設部門	120
眼科学教室	79	生物学教室	121
耳鼻咽喉科学教室	86	物理学教室	121
産科婦人科学教室	89	化学教室	122
放射線医学教室	92	英語学教室	122

第一内科学教室  
(呼吸器内科)

## 講演

1. 皿谷健:呼吸器疾患と身体所見～肺高血圧症を中心に～. 第10回埼玉成人肺高血圧症フォーラム, さいたま, 2015年4月3日.
2. 渡辺崇靖, 皿谷健, 小田未来, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始:胸部X線を用いた肺野 scoring による小児及び成人マイコプラズマ肺炎の画像所見の検討. 第89回日本感染症学会総会, 京都, 2015年4月16-17日.
3. 大熊康介, 皿谷健, 辻本直貴, 小出卓, 高田佐織, 倉井大輔, 石井晴之, 木村博一, 滝澤始:当院における肺炎球菌肺炎とマイコプラズマ肺炎の臨床像・画像所見の後ろ向き研究. 第89回日本感染症学会総会, 京都, 2015年4月16-17日.
4. 皿谷健, 倉井大輔, 石井晴之, 塚越博之, 木村博一, 滝澤始:成人気管支喘息発作・COPD 憎悪における呼吸器ウイルス感染の頻度, 臨床像の前向き観察研究. 第89回日本感染症学会総会, 京都, 2015年4月16-17日.
5. 皿谷健:第14回症例から学ぶ感染症セミナー 急激な経過を辿った市中肺炎の一例. 第89回日本感染症学会総会, 京都, 2015年4月17日.
6. 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 塚越博之, 木村博一, 滝澤始:成人市中肺炎における呼吸器ウイルス感染の頻度及び臨床的特徴を調べる前向き観察研究. 第89回日本感染症学会総会, 京都, 2015年4月16-17日.
7. 中本啓太郎, 皿谷健, 佐田充, 乾俊哉, 田中康隆, 小出卓, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 和田裕雄, 石井晴之, 福岡利仁, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 有村義宏, 滝澤始:生物学的製剤を使用した関節リウマチ患者における呼吸器感染症の臨床的研究. 第55回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2015年4月17-19日.
8. 佐田充, 和田裕雄, 乾俊哉, 中本啓太郎, 中村益夫, 本多紘二郎, 堀江真史, 三上優, 野口智史, 山内康宏, 滝澤始:気管支喘息患者における GSTP1 遺伝子多型と大気汚染の影響. 第55回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2015年4月17-19日.
9. 中元康雄, 横山琢磨, 高田佐織, 平田彩, 肥留川一郎, 乾俊哉, 石井晴之, 滝澤始:未治療進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対する Cisplatin + Pemetrexed + Bevacizumab 療法後の Pemetrexed 維持療法第II相試験; ALCT001. 第55回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2015年4月17-19日.
10. 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 木村博一, 塚越博之, 滝澤始:Respiratory syncytial virusとHuman metapneumovirusの成人症例の検討. 第55回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2015年4月17-19日.
11. 堀江真史, 三上優, 野口智史, 松崎博崇, 垂井愛, 成本治, 三谷明久, 齋藤朗, 城大祐, 坂本真樹子, 高見和孝, 幸山正, 滝澤始, 長瀬隆英, 山内康宏:TGF- $\beta$ は肺線維芽細胞における神経栄養因子の産生を増強する. 第55回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2015年4月17-19日.
12. 加藤冠, 高野智子, 木村文平, 滝澤始:地域的一般病院における抗酸菌感染の診療実態. 第55回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2015年4月17-19日.
13. 石井晴之:肺胞蛋白症の診療は, ここまで来た! -AMED(日本版NIH)での研究開発-. 第545回呼吸器臨床談話会(研究会). 東京, 2015年4月24日.
14. 滝澤始:ステロイドの内服・全身投与の使い方 呼吸器疾患について. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月29-31日.
15. Ishii H, Tazawa R, Inoue Y, Saraya T, Koide T, Handa T, Morita M, Yamamoto S, Tanino Y, Ohkouchi S, Tomii K, Nakata K: The analysis of alveolar macrophage form on BALF specimens in secondary alveolar proteinosis. American Thoracic Society 2015 International Conference, USA, May 15th-20th, 2015.
16. Tsujimoto N, Saraya T, Tsukahara Y, Shimodo M, Koide T, Ishii H, Takizawa H: A Simple Method for Differentiating Empyema from Parapneumonic Effusion Using the Split Pleura Sign and the Amount of Pleural Effusion on Thoracic CT. American Thoracic Society 2015 International Conference, USA, May 15th-20th, 2015.
17. Saraya T, Ohmuka K, Tsukahara Y, Kimura H, Tsujimoto N, Koide T, Kurai D, Ishii H, Goto H, Takizawa H: Relationships Among Clinical Features, HRCT Findings, and a Visual Scoring System in Patients with Mycoplasma Pneumoniae Pneumonia. American Thoracic Society 2015 International Conference, USA, May 15th-20th, 2015.
18. Honda K, Saraya T, Yokoyama T, Nishizawa T, Ohba T, Okuda R, Kurai D, Amano M, Ishii H, Matsushima H, Takiawa H: Mycotic Hepatic and Splenic Artery Aneurysms Complicated in a Patient with Pneumococcal Pneumonia. American Thoracic Society 2015 International Conference, USA, May 15th-20th, 2015.
19. Shimoda M, Saraya T, Yonetani S, Araki K, Makino H, Kurai D, Koida T, Tsujimoto N, Ishii H, Takizawa H: A Significance of Engulfment of Bacteria on Gram Stained Sputum in Patients with Respiratory Infections. American Thoracic Society 2015 International Conference, USA, May 15th-20th, 2015.
20. Sada M, Wada H, Inui T, Nakamoto K, Honda K, Nakamura M, Horie M, Mikami Y, Noguchi S, Yamauchi Y, Takizawa H: Influence of Air Pollutants and Glutathione S-Transferase P1 Gene Polymorphism in Patients with Bronchial Asthma. American Thoracic Society 2015 International Conference, USA, May 15th-20th, 2015.
21. Koide T, Saraya T, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: Prognostic Value of Carcinoembryonic Antigen in Pleural Effusion in patients with Primary Lung Adenocarcinoma. American Thoracic Society 2015 International Conference, USA, May 15th-20th, 2015.
22. 乾俊哉, 中本啓太郎, 佐田充, 辻晋吾, 中村益夫, 田中康隆, 小出卓, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 和田裕雄, 滝澤始:成人喘息管理 気管支喘息, COPD, ACOS の表現型の比較検討. 第64回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2015年5月26-28日.
23. 中本啓太郎, 和田裕雄, 辻晋吾, 佐田充, 乾俊哉, 中村益夫, 本多紘二郎, 高田佐織, 横山琢磨, 倉井大輔, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始:成人喘息の診断・マーカー 気管支喘息患者におけるバイオマーカーの検討. 第64回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2015年5月26-28日.
24. 石井晴之:呼吸器疾患の診断と治療のピットフォール. 第103回横浜市南部地区胸部疾患談話会(研究会), 横浜, 2015年5月27日.
25. 皿谷健:呼吸器系の診かた. 平成27年度 新・ナースのためのフィジカルアセスメントセミナー, 東京, 2015年6月6日.
26. 石田学, 石井晴之, 平田彩, 渡邊崇靖, 大熊康介, 小田未来, 肥留川一郎, 小出卓, 高田佐織, 横山琢磨, 滝澤始:続発性肺胞蛋白症の肺胞マクロファージの形態学的特徴に関する研究. 第38回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2015年6月11-12日.

27. 石井晴之:続発性肺胞蛋白症における臨床研究—重症難治化の要因解析:現状と展望—.平成27年度第1回班会議,大阪,2015年6月14日.
28. 滝澤始:呼吸器科臨床でのマクロライドの使われ方.アボットジャパンWEB講演会,大阪,2015年6月27日.
29. 乾俊哉,中本啓太郎,佐田充,辻晋吾,中村益夫,渡辺雅人,小川ゆかり,小出卓,高田佐織,横山琢磨,倉井大輔,皿谷健,石井晴之,松崎博崇,野口智史,三上優,堀江真史,金俊行,小山ひかり,和田裕雄,山内康宏,幸山正,滝澤始:喘息,COPD及びオーバーラップにおけるバイオマーカーと大気汚染物質:GSTP1遺伝子多型の影響.第46回日本職業・環境アレルギー学会総会・学術大会,東京,2015年7月3-4日.
30. 佐田充,和田裕雄,乾俊哉,中本啓太郎,中村益夫,本田紘二郎,堀江真史,三上優,野口智史,山内康宏,滝澤始:気管支喘息およびCOPDにおける血清バイオマーカー,呼気一酸化窒素,呼気凝縮液に関する検討.第34回気道分泌研究会,札幌,2015年7月11-12日.
31. 佐久間翔,皿谷健,大熊康介,野坂岳志,福田のぞみ,市川華理,野村知宏,滝澤始:胆汁性胸水の診断におけるグリココール酸の有用性を示した二症例.第215回日本呼吸器学会関東地方会,東京,2015年7月11日.
32. 野坂岳志,中元康雄,石田学,皿谷健,倉井大輔,石井晴之,滝澤始:胸部CTでは同定できず気管支動脈造影で診断しえた気管支動脈蔓状血管腫の一例.第215回日本呼吸器学会関東地方会,東京,2015年7月11日.
33. 倉井大輔:マクロライドの抗ウイルス効果:慢性呼吸器疾患増悪における呼吸器ウイルスの関与とマクロライド.第22回マクロライド新作用研究会,東京,2015年7月18日.
34. 滝澤始:気管支喘息における好中球性炎症とマクロライドの役割.第25回国際喘息学会日本・北アジア部会,横浜,2015年9月3-4日.
35. Nakamoto K, Wada H, Tsuji S, Sada M, Inui T, Nakamura M, Honda K, Tanaka Y, Koide T, Takata S, Watanabe M, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: Oxidative stress and biomarkers in patients with bronchial asthma. European Respiratory Society International congress 2015, the Netherlands, September 26th-30th, 2015.
36. Inui T, Nakamoto K, Sada M, Tsuji S, Nakamura M, Honda K, Tanaka Y, Koide T, Takata S, Watanabe M, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: Phenotypic characterization of asthma-COPD overlap syndrome: Comparison with asthma and COPD. European Respiratory Society International congress 2015, the Netherlands, September 26th-30th, 2015.
37. 滝澤始:呼吸器疾患に対するマクロライド療法:現状と課題.第3回金鯨呼吸器感染症フォーラム,名古屋,2015年10月7日.
38. 倉井大輔:当院の市中肺炎における呼吸器ウイルスの関与について.多摩臨床感染症研究会,東京,2015年10月6日.
39. 中沢弘一,桑平一郎,滝澤始,陳和夫,小泉潔,門倉光隆,千原幸司,川前金幸,山田芳嗣,3学会合同呼吸療法認定士認定委員会:呼吸ケアスタッフ育成のアウトカムと今後の課題.3学会合同呼吸療法認定士の現況と今後の使命.第25回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会,横浜,2015年10月15-16日.
40. 皿谷健:肺炎球菌肺炎の経過中に感染性肝脾動脈瘤を合併した1例.第15回症例から学ぶ感染症セミナー,第58回日本感染症学会中日本地方会学術集会,奈良,2015年10月17日.
41. 石井晴之:続発性肺胞蛋白症の臨床的特徴.肺胞蛋白症セミナー in Izumo, 出雲, 2015年10月20日.
42. 石井晴之:血液疾患に合併した続発性肺胞蛋白症の全国調査—日本血液学会血液研修施設への横断的研究—.平成27年度第2回班会議,大阪,2015年10月30日.
43. 石井晴之:骨髄異形成症候群と肺胞マクロファージ:続発性肺胞蛋白症を中心に.第51回日本肺サーファクタント・界面医学会学術研究会,大阪,2015年10月31日.
44. 小倉航,大塚弘毅,横山琢磨,滝澤始,高城靖志,大西宏明,渡邊卓:肺癌患者の癌性髄膜炎における髄液EGFR遺伝子変異検査の有用性の検討.第62回日本臨床検査医学会学術集会,岐阜,2015年11月19-22日.
45. 石井晴之:精神科病院における呼吸器感染症診療について.精神科の身体合併症を考える会~呼吸器感染症対策~,東松山,2015年11月4日.
46. 小川ゆかり,横山琢磨,平田彩,高田佐織,石井晴之,滝澤始:StageIIIB/IV期あるいは術後再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するnab-PTX+CBDCA+BEV療法.第II相試験ALCT004.第56回日本肺癌学会学術集会,横浜,2015年11月26-28日.
47. 平田彩,横山琢磨,肥留川一郎,小田未来,小川ゆかり,小出卓,高田佐織,石井晴之,滝澤始:当院におけるAlectinibを投与したEML4-ALK融合遺伝子陽性肺癌4例の検討.第56回日本肺癌学会学術集会,横浜,2015年11月26-28日.
48. 森元能仁,武井秀史,新井信晃,三ツ間智也,松脇りえ,橋啓盛,河内利賢,荻田真,中里陽子,田中良太,長島鎮,近藤晴彦,肥留川一郎,小川ゆかり,高田佐織,横山琢磨,石井晴之,滝澤始,関礼輔,篠原高雄:タルクとOK-432による胸膜癒着療法はどちらが有用か?.第56回日本肺癌学会学術集会,横浜,2015年11月26-28日.
49. 高田佐織,横山琢磨,平田彩,肥留川一郎,小川ゆかり,乾俊哉,中本啓太郎,石井晴之,滝澤始:肺がん悪液質とカルニチンの関連について.第56回日本肺癌学会学術集会,横浜,2015年11月26-28日.
50. Ishii H, Tazawa R, Inoue Y, Nakata K: Significance of high-resolution CT findings by using densitometry in patient with Pulmonary Alveolar Proteinosis. What range of density is applied in ground glass opacity in patients with PAP?. 20<sup>th</sup> Congress of Asian Pacific Society of Respirology, Malaysia, December 3rd-6th, 2015.
51. Nakamoto K, Saraya T, Sada M, Inui T, Ogawa Y, Koide T, Takata S, Watanabe M, Yokoyama T, Kurai D, Ishii H, Takizawa H: Respiratory infections in patients undergoing first-line biologic therapy for rheumatoid arthritis. 20<sup>th</sup> Congress of Asian Pacific Society of Respirology, Malaysia, December 3rd-6th, 2015.
52. Inui T, Nakamoto K, Sada M, Ishii H, Kogane T, Koyama H, Matsuzaki H, Noguchi S, Mikami Y, Horie M, Yamauchi Y, Kohyama T, Takizawa H: Influence of gene polymorphism on biological markers in patients with asthma and COPD associated with air pollutants. 20<sup>th</sup> Congress of Asian Pacific Society of Respirology, Malaysia, December 3rd-6th, 2015.
53. 滝澤始:インフルエンザと肺炎について.杏林大学公開講演会,三鷹,2015年12月5日.
54. 石井晴之:呼吸器内科診療におけるピットフォール.第149回中野胸部レ線読影会,東京,2015年12月11日.
55. 中元康雄,皿谷健,野村知宏,肥留川一郎,石井晴之,滝澤始:胸部CTでは同定できず気管支動脈造影で診断しえた気管支動脈蔓状血管腫の1例.第169回日本結核病学会関東支部学会.第218回日本呼吸器学会関東地方

会合同学会, 東京, 2016年2月6日.

56. 野村知宏, 肥留川一郎, 平田彩, 小川ゆかり, 高田佐織, 横山琢磨, 石井晴之, 滝澤始: 癌関連網膜症 (CAR) を伴う肺小細胞癌に対して化学療法を施工し視機能の改善を得た一例. 第169回日本結核病学会関東支部学会第218回日本呼吸器学会関東地方会合同学会, 東京, 2016年2月6日.
57. 滝澤始: IPEの新展開~診断・治療・管理~. 呼吸器研究フロンティア, 東京, 2016年3月5日.
58. 小川ゆかり: IPFにおけるpirfenidone導入時の肺機能と治療効果の関連性. GOYA! Meeting, 東京, 2016年3月22日.

## 論文

1. Watanabe M, Takizawa H, Tamura M, Nakajima A, Kurai D, Ishii H, Takata S, Nakamoto K, Sohara E, Honda K, Nakamura M, Inui T, Wada H, Goto H: Soluble ST2 as a prognostic marker in community-acquired pneumonia. *J Infect* 70(5):474-482, 2015.
2. Saraya T, Sada M, Ohkuma K, Sakuma S, Tsujimoto N, Yoshida S, Fujiwara M, Tsukahara Y, Kurai D, Ishii H, Takizawa H, Goto H: Evidence of unilateral metastatic pulmonary calcification with a prolonged Fever and arthralgia caused by acute lymphoblastic leukemia in a chronic dialysis patient. *Intern Med.* 54(1):63-67, 2015.
3. Tsujimoto N, Saraya T, Light RW<sup>1</sup>, Tsukahara Y<sup>2</sup>, Koide T, Kurai D, Ishii H, Kimura H<sup>3</sup>, Goto H, Takizawa H<sup>4</sup>(Division of Allergy/Pulmonary/Critical Care, Vanderbilt University Medical Center, Nashville, Tennessee, United States of America, <sup>2</sup>Department of Radiology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>National Institute of Infectious Diseases): A Simple Method for Differentiating Complicated Parapneumonic Effusion/Empyema from Parapneumonic Effusion Using the Split Pleura Sign and the Amount of Pleural Effusion on Thoracic CT. *PLoS One.* 10(6):e0130141, 2015.
4. Takizawa H: Impacts of Particulate Air Pollution on Asthma: Current Understanding and Future Perspectives. *Recent Pat Inflamm Allergy Drug Discov.* 9(2):128-135, 2015.
5. Moriyama M<sup>1</sup>, Yano T<sup>1</sup>, Furukawa T<sup>1</sup>, Takada T<sup>1</sup>, Ushiki T<sup>1</sup>, Masuko M<sup>1</sup>, Takizawa J<sup>1</sup>, Sone H<sup>1</sup>, Tazawa R<sup>1</sup>, Saijo Y<sup>1</sup>, Ishii H, Nakata K<sup>1</sup> (Niigata University Medical and Dental Hospital Niigata City): Possible Involvement of Lung Cells Harboring an Abnormal Karyotype in the Pathogenesis of Pulmonary Alveolar Proteinosis Associated with Myelodysplastic Syndrome. *Ann Am Thorac Soc.* 12(8):1251-1253, 2015.
6. Akasaka K<sup>1</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Kitamura N<sup>1</sup>, Ohkouchi S<sup>2</sup>, Tazawa R<sup>1</sup>, Takada T<sup>1</sup>, Ichiwata T<sup>3</sup>, Yamaguchi E<sup>4</sup>, Hirose M<sup>5</sup>, Arai T<sup>5</sup>, Nakano K<sup>6</sup>, Nei T<sup>7</sup>, Ishii H, Handa T<sup>8</sup>, Inoue Y<sup>5</sup>, Nakata K<sup>1</sup> (Niigata University Medical and Dental Hospital. <sup>2</sup>Tohoku University Graduate school of Medicine. <sup>3</sup>Tokyo Medical School. <sup>4</sup>Aichi Medical School. <sup>5</sup>Clinical Research Center, NHO Kinki-Chuo Chest Medical Center. <sup>6</sup>Dokkyo Medical University Koshigaya Hospital. <sup>7</sup>Nippon Medical University of Medicine. <sup>8</sup>Kyoto University Hospital): Outcome of corticosteroid administration in autoimmune pulmonary alveolar proteinosis: a retrospective cohort study. *BMC Pulm Med.* 15:88, 2015.
7. Yanagihara K<sup>1</sup>, Kadota J<sup>2</sup>, Aoki N<sup>3</sup>, Matsumoto T<sup>4</sup>, Yoshida M<sup>4</sup>, Yagisawa M<sup>4</sup>, Oguri T<sup>4</sup>, Sato J<sup>4</sup>, Ogasawara K<sup>4</sup>, Wakamura T<sup>4</sup>, Sunakawa K<sup>4</sup>, Watanabe A<sup>4</sup>, Iwata S<sup>4</sup>,

Kaku M<sup>4</sup>, Hanaki H<sup>5</sup>, Ohsaki Y<sup>6</sup>, Watari T<sup>6</sup>, Toyoshima E<sup>6</sup>, Takeuchi K<sup>6</sup>, Shiokoshi M<sup>7</sup>, Takeda H<sup>8</sup>, Miki M<sup>9</sup>, Kumagai T<sup>9</sup>, Nakanowatari S<sup>9</sup>, Takahashi H<sup>10</sup>, Utagawa M<sup>10</sup>, Nishiya H<sup>11</sup>, Kawakami S<sup>11</sup>, Kobayashi N<sup>12</sup>, Takasaki J<sup>12</sup>, Mezaki K<sup>12</sup>, Konosaki H<sup>12</sup>, Aoki Y<sup>13</sup>, Yamamoto Y<sup>13</sup>, Shoji M<sup>13</sup>, Goto H, Saraya T, Kurai D, Okazaki M, Niki Y<sup>14</sup>, Yoshida K<sup>14</sup>, Kawana A<sup>15</sup>, Saionji K<sup>15</sup>, Fujikura Y<sup>15</sup>, Miyazawa N<sup>16</sup>, Kudo M<sup>16</sup>, Sato Y<sup>16</sup>, Yamamoto M<sup>16</sup>, Yoshida T<sup>17</sup>, Nakamura M<sup>17</sup>, Tsukada H<sup>18</sup>, Imai Y<sup>18</sup>, Tsukada A<sup>18</sup>, Kawasaki S<sup>19</sup>, Kawasaki Y<sup>19</sup>, Yamamoto T<sup>20</sup>, Ban N<sup>20</sup>, Mikamo H<sup>21</sup>, Sawamura H<sup>21</sup>, Miyara T<sup>22</sup>, Toda H<sup>22</sup>, Sato K<sup>22</sup>, Nakamura T<sup>23</sup>, Fujikawa Y<sup>23</sup>, Mitsuno N<sup>23</sup>, Mikasa K<sup>24</sup>, Kasahara K<sup>24</sup>, Sano R<sup>24</sup>, Sugimoto K<sup>25</sup>, Asari S<sup>26</sup>, Nishi I<sup>26</sup>, Toyokawa M<sup>26</sup>, Miyashita N<sup>27</sup>, Koguchi Y<sup>27</sup>, Kusano N<sup>28</sup>, Mihara E<sup>28</sup>, Kuwabara M<sup>29</sup>, Watanabe Y<sup>29</sup>, Takeda K<sup>30</sup>, Tokuyasu H<sup>30</sup>, Masui K<sup>30</sup>, Negayama K<sup>31</sup>, Hiramatsu K<sup>32</sup>, Aoki Y<sup>33</sup>, Fukuoka M<sup>33</sup>, Magarifuchi H<sup>33</sup>, Nagasawa Z<sup>33</sup>, Suga M<sup>34</sup>, Muranaka H<sup>34</sup>, Morinaga Y<sup>35</sup>, Honda J<sup>36</sup>, Fujita M<sup>37</sup>. (1The Surveillance Committee of Japanese Society of Chemotherapy (JSC), The Japanese Association for Infectious Diseases (JAID) and The Japanese Society for Clinical Microbiology (JSCM), Nagasaki University School of Medicine, 2The Surveillance Committee of Japanese Society of Chemotherapy (JSC), The Japanese Association for Infectious Diseases (JAID) and The Japanese Society for Clinical Microbiology (JSCM), Oita University Faculty of Medicine, 3The Surveillance Committee of Japanese Society of Chemotherapy (JSC), The Japanese Association for Infectious Diseases (JAID) and The Japanese Society for Clinical Microbiology (JSCM), Shinrakuen Hospital, 4The Surveillance Committee of Japanese Society of Chemotherapy (JSC), The Japanese Association for Infectious Diseases (JAID) and The Japanese Society for Clinical Microbiology (JSCM), 5The Kitasato Institute, 6Asahikawa Medical University, 7Iwate Prefectural Central Hospital, 8Saiseikai Yamagata Saisei Hospital, 9Japanese Red Cross Sendai Hospital, 10Saka General Hospital, 11Teikyo University School of Medicine, 12National Center for Global Health and Medicine, 13National Hospital Organization Tokyo Medical Center, 14Showa University, School of Medicine, 15National Defense Medical College, 16Yokohama City University Hospital, 17Toyama Prefectural Central Hospital, 18Niigata City General Hospital, 19Shinrakuen Hospital, 20Kasugai Municipal Hospital, 21Aichi Medical University Hospital, 22Kinki University, Faculty of Medicine, 23Osaka City General Hospital, 24Center for Infectious Diseases, Nara Medical University, 25Kobe Red Cross Hospital, 26Osaka University Hospital, 27Kawasaki Medical School, 28Okayama University Hospital, 29Hiroshima Prefectural Hospital, 30Matsue Red Cross Hospital, 31Kagawa University Hospital, 32Oita University Faculty of Medicine, 33Saga University, School of Medicine, 34Saiseikai Kumamoto Hospital, 35Nagasaki University School of Medicine, 36St. Mary's Hospital, 37Faculty of Medicine, Fukuoka University) : Nationwide surveillance of bacterial respiratory pathogens conducted by the surveillance committee of Japanese Society of Chemotherapy, the Japanese Association for Infectious Diseases, and the Japanese Society for Clinical Microbiology in 2010: General view of the pathogens' antibacterial

- susceptibility. *J Infect Chemother.* 21(6):410-420, 2015.
8. Ohkuma K, Saraya T, Tsujimoto N, Takizawa H: Massive Barium Sulfate Aspiration in the Bronchial Tree. *Intern Med.* 54(16):2081, 2015.
  9. Saraya T, Matsuoka R, Tsujimoto N, Takizawa H: Yellow Nail Syndrome in Toenails. *Intern Med.* 54(16):2089, 2015.
  10. Nakamura M, Wada H, Honda K, Nakamoto K, Inui T, Sada M, Watanabe M, Takata S, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Goto H, Kamma H<sup>1</sup>, Takizawa H (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Clarithromycin ameliorates pulmonary inflammation induced by short term cigarette smoke exposure in mice. *Pulm Pharmacol Ther.* 35:60-66, 2015.
  11. Matsuzaki H<sup>1</sup>, Mikami Y<sup>1</sup>, Makita K<sup>1</sup>, Takeshima H<sup>1</sup>, Horie M<sup>1</sup>, Noguchi S<sup>1</sup>, Jo T<sup>1</sup>, Narumoto O<sup>1</sup>, Kohyama T<sup>2</sup>, Takizawa H, Nagase T<sup>1</sup>, Yamauchi Y<sup>1</sup>: (<sup>1</sup>the University of Tokyo, <sup>2</sup>Teikyo University School of Medicine, Mizonokuchi Hospital): Interleukin-17A and Toll-Like Receptor 3 Ligand Poly(I:C) Synergistically Induced Neutrophil Chemoattractant Production by Bronchial Epithelial Cells. *PLoS One.* 10(10): e0141746, 2015.
  12. Honda K, Saraya T, Yokoyama T, Goto H, Takizawa H: Multiple mycotic hepatic and splenic artery aneurysms in a patient with pneumococcal pneumonia: a case report with a review of the literature. *Clin Case Rep.* 3(10):891-896, 2015.
  13. Higaki M, Wada H<sup>1</sup>, Mikura S, Yasutake T, Nakamura M, Niikura M<sup>2</sup>, Kobayashi F<sup>2</sup>, Kamma H<sup>2</sup>, Kamiya S<sup>3</sup>, Ito K<sup>4</sup>, Barnes PJ<sup>4</sup>, Goto H, Takizawa H (<sup>1</sup>Juntendo University, <sup>2</sup>Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, <sup>4</sup>Airway Disease Section, National Heart and Lung Institute, Imperial College London): Interleukin-10 modulates pulmonary neutrophilic inflammation induced by cigarette smoke exposure. *Exp Lung Res.* 41(10):525-534, 2015.
  14. Saraya T, Fujiwara M<sup>1</sup>, Shimura C, Goto H (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Not paraneoplastic pemphigus but pemphigus vulgaris in a patient with thymoma. *BMJ Case Rep.* 2015.
  15. Kimura H<sup>1</sup>, Saitoh M<sup>2</sup>, Kobayashi M<sup>2</sup>, Ishii H, Saraya T, Kurai D, Tsukagoshi H<sup>2</sup>, Shirabe K<sup>3</sup>, Nishina A<sup>4</sup>, Kozawa K<sup>2</sup>, Kuroda M<sup>1</sup>, Takeuchi F<sup>1</sup>, Sekizuka T<sup>1</sup>, Minakami H<sup>5</sup>, Ryo A<sup>6</sup>, Takeda M<sup>7</sup>. (<sup>1</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>2</sup>Gunma Prefectural Institute of Public Health and Environmental Sciences, <sup>3</sup>Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health and Environment, <sup>4</sup>Nihon University, <sup>5</sup>Hokkaido University Graduate School of Medicine, <sup>6</sup>Yokohama City University Graduate School of Medicine, <sup>7</sup>National Institute of Infectious Diseases): Molecular evolution of haemagglutinin (H) gene in measles virus. *Sci Rep.* 5:11648, 2015.
  16. Saraya T, Nosaka T, Fujiwara M, Nonokawa H, Ohkuma K, Tsujimoto N, Takizawa H: Pulmonary Aspergillosis Mimicking Primary Lung Cancer. *Pulm Res Respir Med Open J.* 2(2): 75-76, 2015.
  17. Shimoda M, Saraya T, Ogawa Y, Tanaka Y: Dumping Syndrome due to the Misplacement of the Gastrostomy Feeding Tube. *Intern Med.* 54(19):2529, 2015.
  18. Saraya T, Ariga M, Takahashi M, Tanabe E: Othello Pica: A Clue of Recurrent Rectal Cancer. *Intern Med.* 54(19):2525, 2015.
  19. Saraya T, Ohara M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kameda medical center): Identification of Cryoglobulin deposition on electron microscope. *J Gen Fam Med.* 16:303-304, 2015.
  20. Saraya T, Tsujimoto N, Ohkuma K, Takizawa H: A Memory of World War II in a Japanese elderly man. *J Gen Fam Med.* 16:305-306, 2015.
  21. Saraya T, Shimoda M, Hirata A, Takizawa H: Paradoxical respiration: 'Seesaw' motion with massive pulmonary consolidation. *BMJ Case Rep.* 2016.
  22. Saraya T, Nunokawa H, Fujiwara M, Ohkuma K, Tsujimoto N, Tsukahara Y, Ishii H, Goto H, Takizawa H: Tracheobronchial Amyloidosis in a Patient with Sjogren's Syndrome. *Intern Med.* 55(8):981-4, 2016.
  23. Morimoto K<sup>1</sup>, Saraya T, Kurosaki A<sup>1</sup>, Yano R, Sasaki Y, Osawa T<sup>1</sup>, Kudoh S<sup>1</sup>, Goto H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Fukujuji Hospital): Relapse of Yellow Nail Syndrome with Pulmonary Lymphedema. *Intern Med.* 55(2):169-172, 2016.
  24. Saraya T: The History of Mycoplasma pneumoniae Pneumonia. *Front Microbiol.* 7:364, 2016.
  25. Hirukawa I, Saraya T, Wada S, Takizawa H: Marked Enlargement of Liver over a Short Period of Time. *Pulm Res Respir Med Open J.* 3(1):129, 2016.
  26. Saraya T, Light RW<sup>1</sup>, Sakuma S, Nakamoto Y, Wada S, Ishida M, Inui T, Koida T, Ishii H, Takizawa H (<sup>1</sup>Division of Allergy/Pulmonary/Critical Care, Vanderbilt University Medical Center, Nashville, Tennessee, United States of America): A new diagnostic approach for Bilious Pleural Effusion. *Respir Investig.* 2016. (in press).
  27. Neerukonda AR<sup>1</sup>, Fengshuo L<sup>1</sup>, Gabid T<sup>1</sup>, Saraya T (<sup>1</sup>SUNY Stony Brook University Hospital): Refractory Adult Primary Autoimmune Neutropenia that Responded to Alemtuzumab. *Intern Med.* 2016. (in press).
  28. 木村博一<sup>1</sup>, 塚越博之<sup>2</sup>, 吉住正和<sup>2</sup>, 石井晴之, 梁明秀<sup>3</sup>, 大石和徳<sup>1</sup> (<sup>1</sup>国立感染症研究所感染症疫学センター, <sup>2</sup>群馬県衛生環境研究所, <sup>3</sup>横浜市立大学): 呼吸器ウイルス感染症における分子病態 RSウイルス感染肺線維芽細胞におけるサイトカイン産生と細胞内シグナル伝達機構. *Respiratory Medical Research* 3(2): 99-103, 2015.
  29. 横山琢磨, 平田彩, 西沢知剛, 石田学, 小田未来, 肥留川一郎, 乾俊哉, 中本啓太郎, 高田佐織, 石井晴之, 滝澤始, 後藤元: 超音波気管支鏡下リンパ節生検 (EBUS-TBNA) にて診断した胸膜中皮腫の1例. *気管支学* 37(3): 285-289, 2015.
  30. 皿谷健, 原田 壮平<sup>1</sup> (<sup>1</sup>がん研究会有明病院): MRSA腸炎は存在するか. *日本医事新報* 4754: 52-53, 2015.
  31. 石井晴之: 診断メモ ANCA関連肺疾患. *内科* 115(6): 927-928, 2015.
  32. 石田学, 石井晴之: 気管支肺胞洗浄検査はどのように解釈すべきでしょうか?. *Modern Physician* 35(6): 715-718, 2015.
  33. 中本啓太郎, 滝澤始: 抗ARS抗体症候群. *呼吸* 34(7): 696-701, 2015.
  34. 金俊行<sup>1</sup>, 滝澤始 (<sup>1</sup>帝京大): ディーゼル排気微粒子. *最新医学* 70(7): 1240-1243, 2015.
  35. 石原享介<sup>1</sup>, 矢内勝<sup>2</sup>, 滝澤始, 棟方充<sup>3</sup> (<sup>1</sup>神戸市立医療センター西市民病院, <sup>2</sup>石巻赤十字病院, <sup>3</sup>福島県立医科大

- 学) : 災害・大気汚染と呼吸器障害. 最新医学 70(7) : 1165-1177, 2015.
36. 倉井大輔: 人工呼吸器管理の合併症 VAPを中心に. 呼吸器内科 28(2) : 112-117, 2015.
  37. 小川ゆかり, 田中康隆, 滝澤始: 呼吸器感染症におけるマクロライド系抗菌薬の抗炎症作用と効果について. 呼吸と循環 63(8) : 762-767, 2015.
  38. 小田未来, 倉井大輔, 滝澤始: 呼吸補助機器とパルスオキシメーター. 薬局 66(10) : 2641-2646, 2015.
  39. 三友貴代<sup>1</sup>, 堀江千穂<sup>1</sup>, 倉田麻衣子<sup>1</sup>, 福田知雄<sup>1</sup>, 平田彩, 蘇原慧伶, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始 (<sup>1</sup>杏林大・医・皮膚科) : Intravascular large B-cell lymphomaの2例皮膚所見と生検のポイント. 臨床皮膚科 69(10) : 761-766, 2015.
  40. 肥留川一郎, 滝澤始: 治療薬の選択 喘息から考える. 呼吸器内科 28(4) : 297-302, 2015.
  41. 小出卓, 滝澤始: PM2.5の健康被害影響. THE LUNG-perspectives 23(4) : 344-347, 2015.
  42. 皿谷健: サイトメガロウイルス感染症. Medical Practice 33(1) : 69-74, 2016.
  43. 滝澤始: COPDに対するマクロライドの可能性Source. Progress in Medicine 36(2) : 271-275, 2016.
  44. 倉井大輔: 急性咳嗽の概念と診断の進め方. 呼吸器内科 29(2) : 98-103, 2016.
  45. 皿谷健: 咳や喀痰が出る時. 総合診療 26(3) : 215-219, 2016.
  46. 和田翔子, 皿谷健, 辻本直貴, 蘇原慧伶, 中元康雄, 渡邊崇靖, 平田彩, 辻晋吾, 西沢知剛, 武井秀史, 藤原正親, 矢澤卓也, 滝澤始, 後藤元: 胸部CTにおいて特発性間質性肺炎 (fibrotic nonspecific interstitial pneumonia) との鑑別を要し胸腔鏡下肺生検で診断したトリコスポロン抗原吸入による慢性過敏性肺炎の1例. 日本胸部臨床 2016. (in press).
- 著 書**
1. 田中康隆, 滝澤始: 肺線維化マーカー (KL-6, SP-A, SP-D). Medicina. 東京, 医学書院, 2015. p.152-154.
  2. 滝澤始: 「サルコイドーシス」はどのような病気ですか. NHKテレビテキストきょうの健康. 東京, NHK出版, 2015. p.120.
  3. 滝澤始: 免許皆伝! 呼吸療法の考え方, 進め方. 東京, 中外医学社, 2015.
  4. 滝澤始: 細胞内分子機構とマクロライド系薬. マクロライド系薬の新しい使い方. 東京, 南江堂, 2015. p.16-18.
  5. 滝澤始: マクロライド療法が期待できる気管支喘息の病態とエビデンス. マクロライド系薬の新しい使い方. 東京, 南江堂, 2015. p.52-57.
  6. 滝澤始: 顕微鏡的多発血管炎 (MPA). 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 呼吸器疾患. 永井厚志編. 東京, 日本医事新報社, 2015. p.230-238.
  7. 石井晴之: 肺胞蛋白症 (PAP). 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 呼吸器疾患. 永井厚志編. 東京, 日本医事新報社, 2015. p.206-213.
  8. 石井晴之: 様々な疾患による胸水. 胸膜疾患のすべて 改訂3版. 東京, 診断と治療社, 2015. p.350-364.
  9. Ying-Ji Li, Masakazu umezawa, Hajime Takizawa, Ken Takeda, Tomoyuki kawasa: PM2.5 Rple of Oxidative Stress in Health Effects and Prevention Strategy. USA, Nova, 2015.
  10. 滝澤始: 肺炎. 笑顔. 東京, 保健同人社, 2015.
  11. 滝澤始: 慢性好酸球性肺炎. 呼吸器疾患最新の治療2016-2018. 杉山幸比古, 門田淳一, 弦間昭彦編. 東京, 南江堂, 2015. p.302-303.
  12. 滝澤始: 管理・治療 経過・予後. 特発性は線維症とその周辺疾患 診断と治療ABC. 吾妻安良太編. 大阪, 最新医学社, 2015. p.233-239.
  13. 倉井大輔: 急性上気道炎とCOPD増悪 内科の立場から. ENTONI 上気道疾患とCOPD(慢性閉塞性肺疾患). 甲能直幸編. 東京, 全日本病院出版会, 2015. p.32-39.
  14. 皿谷健, 倉井大輔, 後藤元: 成人マイコプラズマ肺炎の治療. 最新マイコプラズマ学. 東京, 近代出版, 2016. p.111-115.
- 特許等知的財産関係, 報告書**
1. 滝澤始: 微小粒子状物質をはじめとする大気汚染物質に高感受性を示すぜん息群の抽出とその増悪予防のための効率的な健康管理手法の確立. 独立行政法人環境再生保全機構委託業務 2015年度報告書.
- その他**
1. 滝澤始: 暮らし 健康「非結核性抗酸菌症」手術すべきか, 読売新聞. 2015年4月15日.
  2. 皿谷健: マイコプラズマ肺炎, 株式会社日経ワイド社, 2015年5月18日.
  3. 皿谷健: 看護roo 聴診スキル講座. <https://www.kango-roo.com/sn/k/view/2424>. 2016年3月11日～連載中.
- 第一内科学教室  
(腎臓・リウマチ膠原病内科)**
- 講 演**
1. 軽部美穂, 要伸也, 清水英樹, 池谷紀子, 早川哲, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 有村義宏: 関節リウマチの疾患活動性と慢性腎臓病 (CKD) 発症の関連についての検討. 第112回日本内科学会, 京都, 2015年4月10-12日.
  2. Furuta S, Chaudhry A, Arimura Y, Dobashi H, Fujimoto S, Homma S, Rasmussen N, Jayne D: Comparison of the Phenotype and Outcomes of Granulomatosis with Polyangiitis Between UK and Japanese Cohorts, UK, April 19th-22nd, 2015.
  3. Murakami K, Komagata Y, Kida C, Endo A, Kawashima S, Shimizu H, Ikegaya N, Hayakawa S, Fukuoka T, Karube M, Yamada A, Kaname S, Arimura Y: The Release of Nets from MPO-AAV Neutrophils was Increased by Anti-MPO Antibody and Correlated with Disease Activity. 17<sup>th</sup> International Vasculitis & ANCA Workshop 2015, UK, April 19th-22nd, 2015.
  4. Soko K, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y: Analysis of Clinical Features in Relapsing MPO-ANCA-Positive Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis. 17<sup>th</sup> International Vasculitis & ANCA Workshop 2015, UK, April 19th-22nd, 2015.
  5. 川嶋聡子, 要伸也, 吉原堅, 駒形嘉紀, 有村義宏: 当院におけるANCA関連血管炎の過去30年間にわたる年次経過の検討. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015年4月23-25日
  6. 土屋尚之, 長谷部成美, 日高操希, 佐田憲映, 小林茂人, 山田秀裕, 古川宏, 山縣邦弘, 住田孝之, 宮坂信之, 當間重人, 尾崎承一, 松尾清一, 橋本博史, 槇野博史, 有村義宏, 針谷正祥, 川崎綾: 日本人集団におけるANCA関連血管炎の遺伝素因. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015年4月23-25日.
  7. 村上華奈子, 駒形嘉紀, 森知真子, 遠藤彰子, 川嶋聡子, 清水英樹, 池谷紀子, 早川哲, 福岡利仁, 軽部美穂, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 好中球産生NETsのANCA関連血管炎の病態への関与. 第59回日本リウマチ学会総会・学

- 術集会, 名古屋, 2015年4月23-25日.
8. 池谷紀子, 片岡郁穂, 高橋孝幸, 遠藤彰子, 佐藤綾, 窪田沙也花, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 清水英樹, 早川哲, 小路仁, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 抗糸球体基底膜 (GBM) 病11例の臨床的検討. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015年4月23-25日.
  9. 福岡利仁, 前園知宏, 池谷紀子, 早川哲, 清水英樹, 宮澤さやか, 高橋孝幸, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: SLEに合併した血栓性微小血管障害症 (TMA) 3症例の検討. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015年4月23-25日.
  10. 軽部美穂, 駒形嘉紀, 清水英樹, 早川哲, 福岡利仁, 要伸也, 有村義宏: 当院におけるRA生物学的製剤のbiobiologic-naïveとbiobiologic-switchの治療効果の検討. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015年4月23-25日.
  11. 福岡利仁, 軽部美穂, 池谷紀子, 清水英樹, 早川哲, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 高齢RA患者における生物学的製剤の寿命延長効果とリスク因子に関する検討. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015年4月23-25日.
  12. 小澤祐子, 遠藤彰子, 國沢恭平, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 尿閉で発症し前立腺生検にて確定診断に至った多発血管炎肉芽腫症の一例. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015年4月23-25日.
  13. Komagata Y, Arimura Y: Emerging Therapies for ANCA-associated vasculitis. 第59回日本リウマチ学会総会・学術集会, 名古屋, 2015年4月23-25日.
  14. 有村義宏: ANCA関連血管炎—基礎・臨床研究の進歩—. 第4回福岡血管炎研究会, 福岡, 2015年5月12日.
  15. 要伸也: なぜいまCKDなのか. 第10回三鷹市民公開講座 腎臓について考えるフォーラム, 東京, 2015年5月16日.
  16. 福岡利仁: CKD最近のトピックス: 第10回三鷹市民公開講座 腎臓について考えるフォーラム, 東京, 2015年5月16日.
  17. Kaname S: Hyperkalemia management in chronic hemodialysis patients. Hemodialysis University 2015 Shanghai Update (2015上海国際血液透析会議), China, May 23rd, 2015.
  18. 有村義宏: ANCA関連血管炎の国際試験. 第58回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2015年6月5-7日.
  19. 軽部美穂, 要伸也, 宮澤さやか, 川嶋聡子, 池谷紀子, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 有村義宏: IgA腎症患者に合併した妊娠高血圧腎症の臨床的検討. 第58回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2015年6月5-7日.
  20. 川嶋聡子, 要伸也, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 有村義宏: 当院における過去30年のANCA関連血管炎の臨床像の検討—初発時RPGNと腎予後—. 第58回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2015年6月5-7日.
  21. 池谷紀子, 有村義宏, 吉原堅, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也: 膠原病におけるHPCLによる尿中インタクト微量アルブミンの臨床的意義. 第58回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2015年6月5-7日.
  22. 福岡利仁, 前園知宏, 宮澤さやか, 早川哲, 池谷紀子, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: プシラミンによる腎障害12例の臨床的検討. 第58回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2015年6月5-7日.
  23. 齋藤督芸, 要伸也, 清水英樹, 森知真子, 駒形嘉紀, 有村義宏: 虚血再灌流AKIモデルにおけるアバタセプトの有効性. 第58回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2015年6月5-7日.
  24. 有村義宏: ANCA関連血管炎の国際試験. 第58回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2015年6月6日.
  25. 要伸也: よくわかるシリーズ: ANCA関連血管炎の治療. 第58回日本腎臓学会学術総会, 名古屋, 2015年6月7日.
  26. 片山満代, 濱井章, 渡辺恭子, 曹由美, 千々和京介, 平松佐紀子, 山田裕信, 軽部美穂, 要伸也, 西川あや子, 有村義宏: 当透析センターにおけるインシデント・アクシデントの現状と課題. 三多摩腎疾患治療医会第69回研究会, 東京, 2015年6月14日.
  27. 福岡利仁: 膠原病診療・最近の話題. 西東京市女性医師の会, 東京, 2015年6月17日.
  28. 要伸也: 膠原病関連AKIの診断と治療. 第60回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2015年6月26-28日.
  29. 池谷紀子, 片岡郁穂, 高橋孝之, 遠藤彰子, 佐藤綾, 窪田沙也花, 齋藤督芸, 川嶋聡子, 高昌京, 清水英樹, 早川哲, 小路仁, 福岡利仁, 軽部美穂, 吉原堅, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 早期の治療開始により腎機能を回復した抗GBM病 (旧Goodpasture's syndrome) の一例. 第60回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2015年6月26-28日.
  30. 村上華奈子, 池谷紀子, 米良尚晃, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 塩酸ピルジカイニド中毒により血液透析を要した急性腎不全の一例. 第60回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2015年6月26-28日.
  31. 河野郁枝, 要伸也, 駒形嘉紀, 片岡肇一, 有村義宏: 透析導入後に関節リウマチを発症しアバタセプトが有効であった末期腎不全の1例. 第60回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2015年6月26-28日.
  32. 片岡郁穂, 清水英樹, 要伸也, 駒形嘉紀, 山田佐紀子, 木村仁志, 前田昌紀, 高野秀樹, 河原崎宏雄, 有村義宏: 多職種・多施設によるチーム医療が有効であった超高齢 (要介護5) 在宅PDの一例. 第60回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2015年6月26-28日.
  33. 前園知宏, 清水英樹, 遠藤彰子, 軽部美穂, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: AKIを呈し一時的にHDを要した若年発症溶連菌感染後急性糸球体腎炎 (PSAGN) の一例. 第60回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2015年6月26-28日.
  34. 関本琴恵, 藤田直己, 濱井章, 新井由美, 早川哲, 要伸也, 有村義宏: 血液透析導入パスを作成して. 第60回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2015年6月26-28日.
  35. 稲永亮平, 清水英樹, 内田裕子, 増古紳太郎, 片岡郁穂, 窪田沙也花, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 潰瘍性大腸炎に対するメサラジン治療中に発症した多発血管炎性肉芽腫症 (GPA) の1例. 第56回関東リウマチ研究会, 東京, 2015年6月27日.
  36. 有村義宏: 難治性血管炎に関する調査研究. 第1回血管炎関連3班合同班会議 (厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業), 東京, 2015年7月3日.
  37. 有村義宏: 難治性血管炎診療のエビデンス構築のための戦略的研究. 第1回血管炎関連3班合同班会議 (日本医療研究開発機構 (AMED) 難治性疾患実用化研究事業), 東京, 2015年7月3日.
  38. 駒形嘉紀, 村上華奈子, 木田知真子, 要伸也, 有村義宏: AAV患者好中球NETs放出能の病勢マーカーとしての有用性. 厚労省難治性血管炎に関する研究班班会議, 東京, 2015年7月3日.
  39. 有村義宏: SLICCによるSLE診断分類について一腎臓内科の視点から. 腎と膠原病研究会: 自己免疫疾患 Now and Future, ワークショップ, 東京, 2015年7月4日.
  40. 有村義宏: 蛋白尿をみつけたらどうするか?. 杏林大学同窓会茨木支部会講演会. 茨城, 2015年7月5日.
  41. 有村義宏: ANCA関連血管炎治療における最新知見. 第8回副都心リウマチ研究会, 東京, 2015年7月16日.
  42. 有村義宏: ANCA関連血管炎の病態と診断・治療. 第25回

- 千葉膠原病セミナー, 千葉, 2015年7月18日.
43. 有村義宏: 膠原病ってどんな病気?. 第6回リウマチ・膠原病教室, 三鷹, 2015年7月18日.
  44. 福岡利仁: 腹膜透析概論. 第一回三鷹・武蔵野腹膜透析地域セミナー, 東京, 2015年7月19日
  45. 福岡利仁: 日常診療におけるCKD管理の理論と実践: 西東京医師会学術講演会, 東京, 2015年7月21日.
  46. 要伸也: CKD患者の水電解質管理. 第2回北多摩CKD病診連携講演会, 東京, 2015年7月30日.
  47. 有村義宏: 血管炎関連についての最近の知見. 第9回埼玉リウマチ・膠原病フォーラム, さいたま, 2015年8月1日.
  48. 要伸也: 腎臓の機能と腎臓病の診断法(組織診断を含む). 平成27年度腎臓病専門管理栄養士研修会, 東京, 2015年8月8日.
  49. 福岡利仁: 夏場の毒虫・感染症について. 七生特別支援学校産業医講演会, 東京, 2015年8月26日
  50. 有村義宏: ANCA関連血管炎の難治性病変と最新の治療. 第25回日本リウマチ学会近畿支部学術集会, 大阪, 2015年9月5日.
  51. 駒形嘉紀: 病診連携について. 第4回RA病診連携の会, 東京, 2015年9月5日.
  52. 要伸也: 腎臓病にならないために. 杏林大学病院と三鷹市老人クラブ連合会との合同行事, 東京, 2015年9月15日.
  53. 要伸也: CKDにおける抗アルドステロン薬の有用性～EVALUATE試験の結果をふまえて～. アルドステロン講演会in東京, 東京, 2015年9月17日.
  54. 福岡利仁: SLEに合併したTMAの1例. 第11回腎・膠原病治療研究会, 東京, 2015年9月18日.
  55. 有村義宏: 血管炎(ANCA関連血管炎を中心に)～基礎・臨床研究の最近の進歩～. 第10回順天堂リウマチ・膠原病研究会, 東京, 2015年9月19日.
  56. 佐藤由利子, 福岡利仁, 増古紳太郎, 川嶋聡子, 要伸也, 有村義宏: 脳卒中後に著しい高リン, 高カリウム, 高窒素血症を呈した透析患者の1例. 第47回臨床体液研究会, 東京, 2015年9月26日.
  57. 小澤祐子, 池谷紀子, 宮本彩子, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 微小変化型ネフローゼ症候群(MCNS)で発症した全身性エリテマトーデス(SLE)の1例. 第45回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2015年10月2-3日.
  58. 佐藤綾, 軽部美穂, 國沢恭平, 宮澤さやか, 早川哲, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 多彩な症状とMPGN様糸球体病変を認めたPOEMS症候群の一例. 第45回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2015年10月2-3日.
  59. 増古紳太郎, 七条祥恵, 窪田沙也花, 川嶋聡子, 軽部美穂, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 強皮症腎クラーゼを合併した高齢・限局型全身強皮症の一例. 第45回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2015年10月2-3日.
  60. 清水英樹, 要伸也, 有村義宏: 高齢ネフローゼ患者の腎生検や免疫抑制療法の適応. 第45回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2015年10月2-3日.
  61. 宮澤さやか, 軽部美穂, 國沢恭平, 佐藤綾, 早川哲, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 悪性リンパ腫再発に対する臍帯血移植2年後にTMA病変を発症した1例. 第45回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2015年10月2-3日.
  62. 前園知宏, 福岡利仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 吉田瑤子, 加藤秀樹, 南学正臣: SLEの長期治療経過中にTMAを発症した一例. 第45回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2015年10月2-3日.
  63. 片岡郁穂, 軽部美穂, 清水英樹, 池谷紀子, 駒形嘉紀, 山田明, 要伸也, 有村義宏: 妊娠時にネフローゼ症候群を呈しながら出産に成功したクリオグロブリン血症性腎炎の1例. 第45回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2015年10月2-3日.
  64. 國沢恭平, 遠藤彰子, 小路仁, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 2回の腎生検で腎病理組織学的経過を観察し得たC3腎症の1例. 第45回日本腎臓学会東部学術大会, 東京, 2015年10月2-3日.
  65. 増古紳太郎, 福岡利仁: 皮膚硬化を認めない高血圧の1例. 第三回膠原病を熱く語る会, 東京, 2015年10月2日.
  66. 要伸也: HUSの診療指針, 成人における診断. 多摩aHUS学術講演会, 立川, 2015年10月8日.
  67. 福岡利仁: SLEに合併したTMA症例. 第9回多摩腎膠原病カンファレンス, 東京, 2015年10月16日
  68. 福岡利仁: C-Opera試験と市販後自県例から考えるセルトリズマブ・ベゴルの症例像. 東京地区Cimzia学術講演会-c-OPERAから見たRA治療選択-, 東京, 2015年10月17日
  69. 有村義宏: 新しい疾患概念—ANCA関連血管炎—. 杏林大学医学部同窓会支部長会講演会, 東京, 2015年10月18日.
  70. 要伸也: 日本腎臓学会が目指すCKDチーム医療. 第9回日本CKDチーム医療研究会, 東京, 2015年10月31日.
  71. 清水英樹, 稲永亮平, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏: 薬剤誘発性MPO-ANCA関連血管炎: ケースレポート. 第21回MPO研究会, 東京, 2015年10月31日.
  72. 要伸也: 腎臓病・腎不全についてご存じですか?. 多摩腎疾患フォーラム, 東京, 2015年11月3日.
  73. Saito M, Kaname S, Shimizu S, Mori C, Komagata Y, Arimura Y: The renoprotective effect of abatacept in ischemia/reperfusion injury in mice. American Society of Nephrology meeting 2015, USA, November 5th, 2015.
  74. Kawashima S, Kaname S, Komagata Y, Arimura Y : Analysis of clinical features in ANCA-associated vasculitis: 30 years single center experience-relationship between RPGN and renal prognosis. American Society of Nephrology meeting 2015, USA, November 6th, 2015.
  75. Karube M, Kaname S, Fukuoka K, Shimizu H, Komagata Y, Arimura Y: Cryoglobulinemic nephropathy with successful childbirth after recurrent episodes of nephrotic syndrome during pregnancy. American Society of Nephrology meeting 2015, USA, November 7th, 2015.
  76. Yoshifuji H, Isobe M, Fujimoto S, Arimura Y (Research Committee on Intractable Vasculitis, Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan): Takayasu arteritis (TAK) and giant cell arteritis (GCA) epidemiological study. Annual Meeting for Clinical Investigators in Vasculitis, USA, November 7th, 2015.
  77. 有村義宏: ANCA関連血管炎(EGPAを含む)—最近の話題—. 第6回多摩川血管炎研究会, 東京, 2015年11月17日.
  78. 要伸也: アンケート結果からみた家庭血圧測定の現状. 高血圧フォーラム2015, 東京, 2015年11月19日.
  79. 有村義宏: ANCA関連血管炎に対する生物製剤治療. 第30回日本臨床リウマチ学会, 神戸, 2015年11月21日.
  80. 本郷瑛子, 池谷紀子, 上野愛, 宮本彩子, 小澤祐子, 前園知宏, 駒形嘉紀, 要伸也, 有村義宏, 船橋紗耶華, 竹内真介, 谷合誠一, 吉野秀朗: 急性心外膜炎を繰り返した原発性シェーグレン症候群の1例. 第44回杏林医学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.



81. 要伸也:最近のエビデンスから考えるCKD-MBD.城西地区透析学術講演会,東京,2015年11月26日.
82. 早川哲,小路仁,高橋孝幸,駒形嘉紀,要伸也,有村義宏:可逆性白質脳症を呈した顕微鏡的多発血管炎の一例.第26回日本リウマチ学会関東支部学術集会,宇都宮,2015年12月5日.
83. 上野愛,池谷紀子,宮本彩子,小澤祐子,前園知宏,駒形嘉紀,要伸也,有村義宏:急性心外膜炎を繰り返した原発性シェーグレン症候群の一例.第26回日本リウマチ学会関東支部学術集会,宇都宮,2015年12月5日.
84. 有村義宏:日本医療研究開発機構(Japan Agency for Medical Research and Development:AMED)難治性疾患実用化研究事業研究代表者報告.難治性血管炎診療のエビデンス構築のための戦略的研究班.平成27年度第2回班会議,東京,2015年12月11日.
85. 有村義宏:厚労省難治性血管炎に関する調査研究班 研究代表者報告.血管炎関連3班第2回合同班会議,東京,2015年12月11日.
86. 駒形嘉紀,村上華奈子,要伸也,有村義宏:AAV患者好中球NETs放出能の病勢マーカーとしての有用性.厚労省難治性血管炎に関する研究班班会議,東京,2015年12月11日.
87. 有村義宏:厚労省3班合同ANCA関連血管炎診療ガイドライン作成「難治性血管炎調査研究班」「びまん性肺疾患に関する調査研究班」「難治性腎疾患に関する調査研究班」.厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)「びまん性肺疾患に関する調査研究班」第2回班会議,東京,2015年12月12日.
88. 駒形嘉紀:地域一体で実現する最先端のRA診療.第5回RA病診連携の会,東京,2015年12月12日.
89. 有村義宏:顕微鏡的多発動脈炎(MPA)と多発血管炎性肉芽腫症(GPA)の違い.第3回血管炎早期発見研究会特別講演,東京,2015年12月19日.
90. 要伸也:膝原病・血管炎と腎疾患～補体・免疫シグナルの役割を中心に～.つくば腎セミナー,つくば,2016年1月21日.
91. 福岡利仁:透析の基本.第一回CKD連携フォーラム,東京,2016年1月23日.
92. 有村義宏:一関節リウマチの病態と治療戦略一関節リウマチはどう変わったか.東京都病院薬剤師会多摩西南・東支部合同勉強会,東京,2016年2月18日.
93. 福岡利仁:フラッシュ画像検討会.第3回リウマチ膠原病若手医師座談会,東京,2016年2月18日.
94. 有村義宏:顕微鏡的多発動脈炎(MPA)と多発血管炎性肉芽腫症(GPA)の違い.血管炎早期発見フォーラムin広島,広島,2016年2月20日.
95. 久木元光,清水英樹,内田裕子,増古紳太郎,塚田弘之,川嶋総子,軽部美穂,駒形嘉紀,要伸也,有村義宏:乳腺の生検で壊死性肉芽腫性血管炎を認めたMPO-ANCA陽性多発血管炎性肉芽腫症(GPA)の一例.血管炎早期発見フォーラムin広島,広島,2016年2月20日.
96. 山田裕信,村野祐司,萬知子,片山満代,濱井章,西川あや子,軽部美穂,有村義宏,要伸也:当透析センターのインシデント・アクシデントレポートの現況と課題.第44回東京透析研究会,東京,2016年2月21日.
97. 軽部美穂,要伸也,國沢恭平,遠藤彰子,川嶋総子,池谷紀子,駒形嘉紀,有村義宏:妊娠高血圧症候群を合併したIgA腎症患者の臨床的検討.第26回腎と妊娠研究会,大阪,2016年3月5日.
98. 要伸也:チーム医療の推進:CKD療養指導士について.世界腎臓デーに合わせたCKD啓発イベント『新たなCKD対策にむけて～J-CKDIのCKD対策10年間の成果と今後の課題～』講演会,東京,2016年3月6日.
99. 福岡利仁,清水英樹,吉田雅治,安藤亮一,角田隆俊,西尾康英,花岡一成,村上円人,要伸也,有村義宏,多摩地区のCKD-MBDの現状(アンケート結果報告).多摩MD研究会,東京,2016年3月12日.
100. 宮本彩子,福岡利仁,小澤祐子,前園知宏,池谷紀子,駒形嘉紀,要伸也,有村義宏:乳癌骨髄転移により成人Still病様症状を呈した一例.第622回内科学会地方会,東京,2016年3月12日.
101. 有村義宏:血管炎 Update-ANCA関連血管炎を中心に-.第3回名古屋膠原病エキスパートセミナー,名古屋,2016年3月17日.
102. 有村義宏:血管炎の診かた,考え方.第7回リウマチ膠原病ウインターセミナー@聖路加,東京,2016年3月19日.
103. 福岡利仁:当院における保存期治療の実際～導入後の管理も含めて.腎テレビフォーラム,東京,2016年3月25日.

## 論文

- 有村義宏:好酸球性多発血管炎性肉芽腫症.診断と治療 103(5):649-654, 2015.
- 有村義宏:ANCA関連血管炎.呼吸器内科 27(4):287-292, 2015.
- 有村義宏:好酸球浸潤と膠原病 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症を含む.成人病と生活習慣病 45(7):857-863, 2015.
- 有村義宏:ANCA血管炎—歴史的変遷と今後の展望—.腎と透析 79(2):263-266, 2015.
- 有村義宏:血管炎症候群.リウマチ科 54(1):31-41, 2015.
- 有村義宏:血管炎症候群.炎症と免疫 23(6):32-36, 2015.
- 福岡利仁,清水英樹,富安朋宏,村上円人,吉田啓,要伸也,有村義宏:東京多摩地区における腹膜透析の現況について.腎と透析 79(別冊):54-57, 2015.
- 有村義宏:顕微鏡的多発血管炎.日本臨床 34:777-783, 2015.
- Nakada Y, Tsuboi N, Takahashi Y, Yoshida H, Hara Y, Okonogi H, Kawamura T, Arimura Y, Yokoo T: A Case of Concurrent MPO-/PR3-Negative ANCA-Associated Glomerulonephritis and Membranous Glomerulopathy. Case Rep Nephrol. 2015:316863. doi:10.1155/2015/316863. (Epub).
- Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Takasaki Y, Amano K, Fujimoto S, Muso E, Murakawa Y, Arimura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.: Different responses to treatment across classified diseases and severities in Japanese patients with microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis: a nationwide prospective inception cohort study. Arthritis Res Ther. 17:305, 2015. doi:10.1186/s13075-015-0815-y.
- Hirayama K, Kobayashi M, Usui J, Ariimura Y, Sugiyama H, Nitta K, Muso E, Wada T, Matsuo S, Yamagata K; Japanese RPGN Study Group of Progressive Renal Disease: Pulmonary involvements of anti-neutrophil cytoplasmic autoantibody-associated renal vasculitis in Japan. Nephrol Dial Transplant. 2015(1):i83-3, 2015. doi:10.1093/ndt/gfu385. (Epub).
- Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Ariimura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan: Issues associated with the

- Ministry of Health, Labour and Welfare diagnostic criteria for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitides: Reclassification of patients in the prospective cohort study of Remission Induction Therapy in Japanese patients with ANCA-associated vasculitides according to the MHLW criteria. *Mod Rheumatol*. 25(4):657-659, 2015. doi:10.3109/14397595.2014.982270. (Epub).
13. 福岡利仁:東京多摩地区における腹膜透析の現況について. 腎と透析 79(別冊): 54-57, 2015.
  14. Tsukada H, Shimizu H, Kaname S : Bilateral nephromegaly due to isolated renal sarcoidosis. *Clin Exp Nephrol* 2016. (in press).
  15. Muso E, Arimura Y: Vasculitis. *Nihon Jinzo Gakkai Shi*. 58(1):5-11, 2016.
  16. Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H; for Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan: Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study. *Mod Rheumatol*. 11:1-8, 2016. (Epub ahead of print).
  17. 香美祥二, 岡田浩一, 南学正臣, 要伸也, 丸山彰一, 安田隆, 加藤秀樹, 吉田瑠子, 服部元史, 芦田明, 幡谷浩史, 日高義彦, 澤井俊宏, 伊藤秀一, 藤丸季可, 藤村吉博, 宮川義隆, 非典型溶血性尿毒症症候群診断基準改訂委員会: 非典型溶血性尿毒症症候群(aHUS)診療ガイド2015. *日本腎臓学会誌* 58(2):62-75, 2016.
  18. 宮田敏行, 加藤秀樹, 内田裕美子, 吉田瑠子, 小亀浩市, 福岡利仁, 要伸也, 大田敏之, 浦山耕太郎, 藤永周一郎, 櫻谷浩志, 喜瀬智郎, 渡邊栄三, 織田成人, 永田裕子, 玉井宏史, 小松真太郎, 前沢浩司, 川村尚久, 永野幸治, 河野智康, 松本雅則, 藤村吉博, 南学正臣:日本人の非典型溶血性尿毒症症候群患者の遺伝子解析補体系因子とDGKEの遺伝子変異. *補体* 52(1):71-72, 2015.
  19. 要伸也:急速進行性糸球体腎炎(RPGN)と抗好中球細胞質抗体(ANCA)関連血管炎の最新治療. *医薬ジャーナル* 51(5):81-86, 2015.
  20. 要伸也:腎臓病と代謝異常-内科医に求められる基礎と応用-酸塩基異常. *日本内科学会雑誌* 104(5):938-947, 2015.
  21. 増古紳太郎, 要伸也:具体例を通じて学ぶ輸液:高ナトリウム血症・低ナトリウム血症. *レジデント* 8(7):76-83, 2015.
  22. 要伸也:腎臓病療養指導士の創設に向けて. *日本腎臓学会誌* 57(5): 869-871, 2015.
  23. 菅野義彦, 要伸也:CKD4, 5患者の療養指導と医療連携の指針. *日本腎臓学会誌* 57(5): 869-871, 2015.
  24. 國沢恭平, 要伸也:高血圧を伴わない低カリウム血症. *内分泌・糖尿病・代謝内科* 40(3): 177-182, 2015.
  25. 川嶋聡子, 要伸也:好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(旧名Churg-Strauss症候群). *日本臨床社* 34:790-794, 2015.
  26. 駒形嘉紀, 有村義宏:ANCA関連血管炎の診療ガイドラインのポイント. *Medical Practice* 32:1159-1164, 2015.
  27. 要伸也:膠原病におけるAKIと予後への影響. *腎臓内科・泌尿器科* 3(1):36-41, 2016.
  28. 塚田弘之, 要伸也:高カリウム血症. 腎と透析 80(3): 331-335, 2016.
- 著書**
1. 菅野義彦, 要伸也:チーム医療と医療連携. 腎障害進展予防と腎代替療法への移行 CKDステージC3b~5診療ガイドライン2015. 慢性腎不全診療最適化による新規透析導入減少実現のための診療システム構築に関する研究研究班監修・編. 東京, 東京医学社, 2015. P.115-122.
  2. 内田裕子, 要伸也:知っておきたい水・電解質輸液の基礎知. 脱水症と浮腫のすべて. *Medical Practice* 32巻臨増. 東京, 文光堂, 2015. p.11-16.
  3. 要伸也:急速進行性腎炎症候群(ANCA関連血管炎を含む)に対するステロイド療法のエビデンスは?. ステロイドのエビデンス. 河合眞一編. 東京, 羊土社, 2015. p.128-132.
  4. 要伸也:急速進行性腎炎症候群(ANCA関連血管炎を含む)に対するステロイドパルス療法のエビデンスは?. ステロイドのエビデンス. 河合眞一編. 東京, 羊土社, 2015. p.133-135.
  5. 要伸也:尿細管機能検査. 臨床検査法提要(改訂第34版). 東京, 金原出版, 2015. p.1508-1520.
  6. 要伸也:膠原病関連AKIの診断と治療. 最新透析医療 先端技術との融合. 新田孝作監修, 大阪, 医薬ジャーナル社, 2016. p.339-345.
  7. 清水英樹, 要伸也:高血圧をとまなうCKDには, どのような指導・管理をするのでしょうか? 降圧薬で血圧が良好にコントロールされれば食船制限は不要でしょうか?. CKDの最新食事療法のなぜに答える 臨床栄養別冊 栄養指導・管理のためのスキルアップシリーズvol 3. 東京, 医歯薬出版, 2015. p.90-94.
  8. 要伸也:高ナトリウム血症. 今日の治療指針2015年度版. 東京, 医学書院, 2015. p.622.
- その他**
1. 福岡利仁, 富安朋宏, 清水英樹, 吉田雅治, 安藤亮一, 角田隆俊, 西尾康英, 花岡一成, 村上円人, 要伸也, 有村義宏:東京多摩地区における腹膜炎の現状調査結果(多摩PD研究会 共同研究報告II). *日本腹膜透析学会*, 仙台, 2015年11月29日(高得点演題受賞講演).
  2. 福岡利仁:高齢リウマチ症例の治療と課題. ヤンセンWeb TV 講演会, 東京, 2016年3月4日.
- 第一内科学教室  
(神経内科)**
- 講演**
1. 千葉厚郎, 内堀歩:免疫沈降アッセイ系による抗synapsin 1a抗体の検討. 第56回日本神経学会学術大会, 新潟, 2015年5月20-23日.
  2. 大石知瑞子, 園生雅弘, 時村文秋, 花北順哉, 篠江隆, 千葉厚郎:感覚障害を欠くが, 下肢体性感覚誘発電位(SEP)から腰部に局在診断できた3症例. 第56回日本神経学会学術大会, 新潟, 2015年5月20-23日.
  3. 宮崎泰, 永井健太郎, 栗田瑛里子, 綾野水樹, 中島昌典, 田中雅貴, 小川有紀, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子, 千葉厚郎:パーキンソン病・Lewy小体型認知症における脳血流SPECTの検討. 第56回日本神経学会学術大会, 新潟, 2015年5月20-23日.
  4. 内堀歩, 千葉厚郎:Guillain-Barré症候群における糖脂質複合による抗原抗体反応増強機序に関する検討. 第56回日本神経学会学術大会, 新潟, 2015年5月20-23日.
  5. 栗田瑛里子, 田中雅貴, 市川弥生子, 中島昌典, 大石知瑞子, 千葉厚郎:L-dopaがパーキンソン症状に有効であったFahr病の64歳女性例. 第213回日本神経学会総会,

東京, 2015年6月6日.

6. 中島昌典, 岡野晴子, 傳法倫久, 平野照之, 千葉厚郎, 遠藤英仁, 窪田博, 磯村杏那, 下山田博明: 大動脈原性脳塞栓症を発症し, 上行大動脈置換術を施行した80歳男性例. 第2回日本心血管脳卒中学会学術集会, 徳島, 2015年6月12-13日.
7. 中島昌典, 田中雅貴, 栗田瑛里子, 市川弥生子, 千葉厚郎: 低ナトリウム血症補正による浸透圧性脱髄症候群 (osmotic demyelination syndrome: ODS) が考えられた52歳男性例. 第59回三鷹ニューロ研究会, 東京, 2015年7月2日.
8. 吉田悠貴, 田中雅貴, 栗田瑛里子, 中島昌典, 市川弥生子, 内堀歩, 千葉厚郎: 約1ヵ月の経過で神経症状が回復したNMDA受容体抗体陽性脳炎の46歳女性例. 第214回日本神経学会総会, 東京, 2015年9月5日.
9. 千葉厚郎: 2次元電気泳動法. 第27回日本神経免疫学会学術集会, 岐阜, 2015年9月15-16日.
10. 内堀歩, 千葉厚郎: TPI抗体陽性小脳性運動失調症の臨床像の検討. 第27回日本神経免疫学会学術集会, 岐阜, 2015年9月15-16日.
11. 千葉厚郎, 岡田和将, 内堀歩: IgG synapsin 1a抗体の臨床的検討. 第27回日本神経免疫学会学術集会, 岐阜, 2015年9月15-16日.
12. 大石知瑞子, 園生雅弘, 千葉厚郎: 下肢末梢神経伝導検査における所謂「50%ルール」の妥当性について. 第26回日本末梢神経学会学術集会, 長野, 2015年9月18-19日.
13. 宮地洋輔, 大石知瑞子, 神谷久雄, 畑中裕己, 田中章景, 園生雅弘: 手根管症候群の種々の電気診断手技の感度特異度の比較: 偽陽性例の適切な扱いを含めて. 第26回日本末梢神経学会学術集会, 長野, 2015年9月18-19日.
14. 千葉厚郎: 1症例から始める新規自己抗体の探索. 神奈川神経免疫疾患学術講演会, 相模原, 2015年10月6日.
15. Oishi C, Sonoo M, Yamada K, Tokimura F, Hanakita J, Chiba A: TIBIAL NERVE SOMATOSENSORY EVOKED POTENTIALS (SEPS) LOCALIZED LUMBAR LESIONS IN 3 PATIENTS LACKING SENSORY SYMPTOMS OR SIGNS. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 62th Annual Meeting, USA, October 28th-31st, 2015.
16. Miyaji Y, Oishi C, Kamiya H, Hatanaka Y, Tanaka F, Sonoo M: PROPER TREATMENT OF "FALSE-POSITIVE" CASES IN COMPARING THE DIAGNOSTIC YIELDS OF VARIOUS NERVE CONDUCTION TECHNIQUES TO DIAGNOSE CARPAL TUNNEL SYNDROME. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine 62th Annual Meeting, USA, October 28th-31st, 2015.
17. 大石知瑞子, 園生雅弘, 山田和明, 時村文秋, 花北順哉, 千葉厚郎: 感覚障害を欠くが, 下肢体性感覚誘発電位 (SEP) から腰部に局在診断できた3症例. 第45回日本臨床神経生理学会・学術集会, 大阪, 2015年11月5-7日.
18. 宮地洋輔, 大石知瑞子, 神谷久雄, 畑中裕己, 小林正人, 田中章景, 園生雅弘: 手根管症候群の種々の電気診断手技の感度特異度の比較: 偽陽性例の適切な扱いを含めて. 第45回日本臨床神経生理学会・学術集会, 大阪, 2015年11月5-7日.
19. 溝井令一, 宮地洋輔, 大石知瑞子, 神谷久雄, 畑中裕己, 園生雅弘: 無症候性根根管症候群 (CTS) についての検討. 第45回日本臨床神経生理学会・学術集会, 大阪, 2015年11月5-7日.
20. 千葉厚郎: 自己抗体による外眼筋麻痺: 抗GQ1b抗体とFisher症候群. 第53回日本神経眼科学会総会, さいたま, 2015年11月6日.
21. 千葉厚郎: 一臨床症例から始める新規自己抗体の探索. 武蔵野フォーラム2, 東京, 2015年11月21日.
22. 上月直樹, 栗田瑛里子, 中島昌典, 田中雅貴, 内堀歩, 市川弥生子, 宮崎泰, 千葉厚郎: 抗TPI抗体陽性急性小脳性運動失調症の46歳男性例. 第44回杏林医学学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
23. 宮内弘子, 植地貴弘, 平澤愛, 坂入佐知子, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 小林敬明, 大石知瑞子, 柴田茂貴, 松田剛明: 当院救急外来を受診した一過性意識障害患者の特徴と背景 (高プロラクチン血症とてんかんの関係). 第44回杏林医学学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
24. 大津晃康, 綾野水樹, 田中雅貴, 内堀歩, 大石知瑞子, 市川弥生子, 海田賢一, 千葉厚郎: CIDPの診断でIVIg加療後も中枢伝導遅延が進行した抗Neurofascin 155抗体陽性の19歳男性例. 第215回日本神経学会総会, 東京, 2015年12月5日.
25. 大井長和, 林紗葵, 市川弥生子, 辻省次: Autosomal recessive spastic ataxia of Charlevoix-Saguenay (ARSACS) の一症例. 第208回日本神経学会九州地方会, 西原, 2014年12月20日.
26. 中島昌典, 岡野晴子, 栗田瑛里子, 平野照之, 千葉厚郎, 塩川芳昭: 意識障害のエピソードを契機にCerebral amyloid angiopathy (CAA) と診断された83歳女性例. 第39回日本脳神経CI学会総会, 東京, 2016年1月29-30日.
27. 城野喬史, 綾野水樹, 岡野晴子, 平野照之, 千葉厚郎, 塩川芳昭: Hybrid of Opposite-Contrast MRAにて責任血管の同定を試みた脳卒中の2症例. 第39回日本脳神経CI学会総会, 東京, 2016年1月29-30日.
28. 澁谷裕彦, 永井健太郎, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 抗CRMP-5抗体が陽性であったParaneoplastic choreaの93歳女性例. 第216回日本神経学会総会, 東京, 2016年3月5日.
29. 中島昌典, 栗田瑛里子, 綾野水樹, 田中雅貴, 内堀歩, 市川弥生子, 千葉厚郎: 妊娠初期に広範な大脳白質病変を呈した43歳女性例. 第61回三鷹ニューロ研究会, 東京, 2016年3月10日.
30. 永井健太郎, 岡野晴子, 海野佳子, 千葉厚郎, 平野照之: LSA領域に脳梗塞を認めた片頭痛性脳梗塞の1例. 首都圏脳卒中フォーラム, 東京, 2016年3月18日.

## 論文

1. 千葉知宏, 穴戸-原由紀子, 木戸直樹, 千葉厚郎, 菅間博: 発症8年目のMIBG心筋シンチで集積低下が乏しかったParkinson病の一剖検例. 病理と臨床 33: 763-770, 2015.
2. 千葉厚郎: 慢性炎症性脱髄性多発根ニューロパチー. Medical Practice 32: 1027-1031, 2015.
3. 千葉厚郎: Guillain-Barré症候群の診断. 医学のあゆみ 255: 407-412, 2015.
4. 内堀歩, 千葉厚郎: ギラン・バレー症候群の自己抗体. BRAIN and NERVE 神経研究の進歩 67: 1347-1357, 2015.
5. Mitsui J, Matsukawa T, Sasaki H, Yabe I, Matsushima M, Dürr A, Brice A, Takashima H, Kikuchi A, Aoki M, Ishiura H, Yasuda T, Date H, Ahsan B, Iwata A, Goto J, Ichikawa Y, Nakahara Y, Momose Y, Takahashi Y, Hara K, Kakita A, Yamada M, Takahashi H, Onodera O, Nishizawa M, Watanabe H, Ito M, Sobue G, Ishikawa K, Mizusawa H, Kanai K, Hattori T, Kuwabara S, Arai K, Koyano S, Kuroiwa Y, Hasegawa K, Yuasa T, Yasui K, Nakashima K, Ito H, Izumi Y, Kaji R, Kato T, Kusunoki S, Osaki Y, Horiuchi M, Kondo T, Murayama S, Hattori N, Yamamoto M, Murata M, Satake W, Toda T, Filla A, Klockgether T, Wüllner U, Nicholson G, Gilman S, Tanner CM, Kukull WA, Stern MB, Lee VM,

Trojanowski JQ, Masliah E, Low PA, Sandroni P, Ozelius LJ, Foroud T, Tsuji S: Variants associated with Gaucher disease in multiple system atrophy. *Ann Clin Transl Neurol* 2(4):417-26, 2015.

6. Mano KK, Matsukawa T, Mitsui J, Ishiura H, Tokushige S, Takahashi Y, Sato NS, Nakamoto FK, Ichikawa Y, Nagashima Y, Terao Y, Shimizu J, Hamada M, Uesaka Y, Oyama G, Ogawa G, Yoshimura J, Doi K, Morishita S, Tsuji S, Goto J. Atypical parkinsonism caused by Pro105Leu mutation of prion protein: A broad clinical spectrum. *Neurol Genet.* 2(1):e48, 2016.
7. Chiba T<sup>1</sup>, Konoeda F<sup>2</sup>, Higashihara M<sup>3</sup>, Kamiya H<sup>1</sup>, Oishi C, Hatanaka Y<sup>1</sup>, Sonoo M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>2</sup>Tokyo Saiseikai Central Hospital, <sup>3</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital): C8 and T1 innervation of forearm muscles. *Clin Neurophysiol* 126(4): 837-842, 2015.

**著書**

1. 千葉厚郎: 神経筋疾患の経静脈的免疫グロブリン (IVIg) 療法. 今日の治療指針2016. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編. 東京, 医学書院, 2016. p.913-914.
2. 千葉厚郎: Guillain-Barré症候群の検査・診断・鑑別診断. 日本臨床増刊号 免疫性神経疾患, 大阪, 日本臨床社, 2015. p.374-379.
3. 内堀歩, 千葉厚郎: 免疫性神経疾患と免疫系 免疫性神経疾患と液性免疫. 日本臨床増刊号 免疫性神経疾患, 大阪, 日本臨床社, 2015. p.42-49.
4. 千葉厚郎: 抗MAG抗体陽性ニューロパチー. 別冊日本臨床 新領域別症候群 免疫症候群(第2版), 大阪, 日本臨床社, 2015. p.60-64.
5. 千葉厚郎: 慢性脱髄性多発根ニューロパチー. 免疫性神経疾患 病態と治療のすべて. 辻省次総編, 吉良潤一専門編集. 東京, 中山書店, 2016. p.309-314.
6. 千葉厚郎: 多巣性運動ニューロパチー. 免疫性神経疾患 病態と治療のすべて. 辻省次総編, 吉良潤一専門編集. 東京, 中山書店, 2016. p.315-318.

**その他**

1. 市川弥生子: 脊髄小脳変性症と遺伝. 全国脊髄小脳変性症・多系統萎縮症 (SCD・MSA) 友の会ニュース216号, p12-17 (2015), 2015年8月21日発行.

**第二内科学教室  
(循環器内科)**

**講演**

1. 副島京子: VDD lead ICD. 札幌リードマネージメント研究会, 札幌, 2015年4月4日.
2. 谷合誠一, 山崎聡子, 合田あゆみ, 佐藤徹, 吉野秀朗: 新方式による非心臓手術前循環器スクリーニングシートの有用性に関する検討. 第112回日本内科学会総会・講演会, 京都, 2015年4月10日.
3. 副島京子: round table discussion Management of electrical storm. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月24日.
4. 副島京子: 男女共同参画 留学について. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月24日.
5. 副島京子: Epicardial ablation. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月24日.
6. Ueda A, Soejima K, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Hoshida K, Higuchi S, Miwa Y, Sato T, Yoshino H: Contact Force cannot be Predicted by the Conventional Parameters; Injury current and

impedance. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月24-26日.

7. Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Shigeta Y, Yoshino H, Satoh T: Progress of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty in our institution. The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Osaka, April 24th-26th, 2015.
8. Ueda A, Oginosawa Y, Soejima K, Abe H, Kohno R, Ohe H, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Hoshida K, Higuchi S, Miyakoshi M, Miwa Y, Togashi I, Sato T, Yoshino H: Outcomes of single-or dual-lead ICD system in Japanese patients -Experience of 2 University hospitals in Japan-. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月24-26日.
9. 松下紀子, 長岡身佳, 百瀬裕一, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 佐藤俊明, 副島京子, 吉野秀朗: Cause of Death in Patients with Implantable Cardioverter-defibrillators-Primary vs. Secondary Prevention. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月24-26日.
10. Sakata K, Uesugi Y, Isaka A, Minamishima T, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H: Importance of Right Atrial Strain Using Speckle-Tracking Imaging in Patients with Pulmonary Artery Hypertension. The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, OSAKA, April 25th, 2015.
11. Murakami T, Yoshikawa T, Maekawa Y, Isogai T, Yamaguchi T, Ueda T, Sakata K, Yamamoto T, Nagao K, Takayama M: Divergent Clinical Features of Takotsubo Cardiomyopathy by the Type of Preceding Stress. The 79th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society. OSAKA, April 25th, 2015.
12. 副島京子: leadless pacemaker. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月26日.
13. Taniiai A, Yamasaki S, Goda A, Satoh T, Yoshino H: New cardiovascular perioperative screening system can provide effective preoperative evaluation for non-cardiac surgery. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月26日.
14. 副島京子: Safety of MRI for leadless pacemaker. Heart Rhythm Society年次集会, USA, 2015年5月5日.
15. 副島京子: Minicourse: Entrainment mapping. Heart Rhythm Society年次集会, USA, 2015年5月5日.
16. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 佐藤徹, 吉野秀朗: Strategy for chronic thromboembolic pulmonary hypertension in our institution. CTEPH SUMMIT, 東京, 2015年5月12日.
17. 重田洋平, 伊波巧, 福士圭, 上杉陽一郎, 石黒晴久, 佐藤徹, 吉野秀朗: 肺動脈区域枝に脱落した断裂CVポートカテーテル断端を経皮的肺動脈形成術システムを用いて回収に成功した一例. 多摩地区虚血性心疾患研究会, 東京, 2015年5月28日.
18. 上杉陽一郎, 伊波巧, 福士圭, 重田洋平, 石黒晴久, 佐藤徹, 吉野秀朗: 重症右心不全及び永続性心房細動を伴った慢性血栓性肺高血圧症を経皮的肺動脈形成術によって救命及び洞調律復帰に成功した一例. 第117回日本シネアンジオ研究会, 東京, 2015年5月13日.
19. 佐藤徹: 最新の肺高血圧症診断と治療. 第6回名古屋肺高血圧症研究会, 名古屋, 2015年5月22日.
20. 副島京子: MRI conditional CIEDs. デバイス研究会, 東京, 2015年5月23日.
21. 副島京子: 抗凝固療法. 横浜不整脈研究会, 横浜, 2015年5月29日.

22. 副島京子: 不整脈治療のupdate. 旭川循環器研究会. 旭川, 2015年6月5日.
23. 谷合誠一, 伊波巧, 田口浩樹, 佐藤徹, 吉野秀朗: 非心臓手術の術後に冠攣縮を発症した64例. 第11回冠攣縮性狭心症研究会, 東京, 2015年6月5日.
24. 佐藤徹: 肺高血圧症に対する新薬/未承認薬.PAHの会 第9回全国PH大会, 東京, 2015年6月7日.
25. Yamagishi T, Matsushita K, Minamishima T, Goda A, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Differences between patients with diastolic heart failure and those with systolic heart failure in the way that hypertension is involved in acute worsening renal function. The 25th European Meeting on Hypertension and Cardiovascular Protection, Italy, June 12th-15th, 2015.
26. 副島京子: ICDの適応. 信州デバイス研究会. 信州, 2015年6月13日.
27. 谷合誠一, 山崎聡子, 吉野秀朗: 杏林大学の負荷心筋シンチの方法について. 第20回西東京核医学研究会, 東京, 2015年6月16日.
28. 坂田好美: 一虚血性心疾患をマスターする一使いこなせ! 負荷エコー. 日本超音波医学会「超音波診断講習会(心エコー)」, 東京, 2015年6月20日.
29. 伊藤準之助, 谷合誠一, 伊波巧, 遠藤英仁, 佐藤徹, 窪田博, 吉野秀朗: 繰り返す失神で診断に難渋した収縮性心膜炎. 第236回日本循環器学会関東甲信越地方会, 東京, 2015年6月20日.
30. 佐藤徹: 心不全治療にサムスカをどのように活かすか. 日経メディカル座談会, 東京, 2015年6月25日.
31. 佐藤徹: 肺高血圧症の診断と治療について, 最新知見を学ぶ. 大日本住友製薬株式会社循環器勉強会, 東京, 2015年7月2日.
32. 佐藤徹: Diagnosis and Treatment of Chronic Thrombotic Pulmonary Hypertension. The 59<sup>th</sup> Annual Scientific Meeting of the Korean Society of Cardiology, Korea, 2015年7月2日.
33. 副島京子: デバイス治療の最先端. 三河不整脈研究会, 名古屋, 2015年7月11日.
34. 副島京子: 不整脈治療. 府中循環器勉強会, 府中, 2015年7月13日.
35. 佐藤徹: 肺高血圧診療の最近の動向. 三鷹市医師会循環器研究会, 三鷹, 2015年7月14日.
36. 副島京子: 心電図からわかること. 市川Expert Meeting. 市川, 2015年7月15日.
37. 谷合誠一: 高血圧・治療選択の実地. 吉祥寺 高血圧セミナー2015, 東京, 2015年7月17日.
38. 副島京子: Tips and Tricks for VT Ablation. Meet the Master, Thailand, 2015年7月24-25日.
39. Sato T: Implantable Cardioverter Defibrillators in Arrhythmogenic Right Ventricular Dysplasia/Cardiomyopathy. 第30回日本不整脈学会学術大会/第32回日本心電学会学術集合同学術大会, 京都, 2015年7月28-31日.
40. 佐藤俊明: 心臓植込みデバイスの遠隔モニタリング. 第30回日本不整脈学会学術大会/第32回日本心電学会学術集合同学術大会, 京都, 2015年7月28-31日.
41. Togashi I, Sato T, Soejima K, Ueda A, Miwa Y, Higuchi S, Hoshida K, Matsushita N, Momose Y, Yoshino H: Lethal arrhythmic episodes and the cause of death after the implantation of CRT-P. 第30回日本不整脈学会学術大会/第32回日本心電学会学術集合同学術大会, 京都, 2015年7月28-31日.
42. Matsushita N, Soejima K, Momose Y, Higuchi S, Hoshida K, Miwa Y, Maeda A, Togashi I, Ueda A, Sato A, Yoshino H: Deactivation of Defibrillators - Considerations at the End of Life in our experience. 第30回日本不整脈学会学術大会/第32回日本心電学会学術集合同学術大会, 京都, 2015年7月29-31日.
43. Momose Y, Sato T, Nagaoka M, Matsushita N, Higuchi S, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Ueda A, Maeda A, Soejima K, Yoshino H: The lead revision or upgrade from the ipsilateral side of the cardiovascular implantable electronic devices. 第30回日本不整脈学会学術大会/第32回日本心電学会学術集合同学術大会, 京都, 2015年7月29-31日.
44. 副島京子: Tips and Tricks for VT Ablation: Substrate Mapping, Entrainment, and Pacemapping. 第30回日本不整脈学会, 京都, 2015年7月30日.
45. 副島京子: Oklahoma Course. 第30回日本不整脈学会, 京都, 2015年7月30日.
46. 副島京子: epicardial catheter ablation is the first line therapy? 第30回日本不整脈学会, 京都, 2015年7月30日.
47. 副島京子: 周術期の抗凝固療法. 第30回日本不整脈学会一血栓止血学会共同シンポジウム, 京都, 2015年7月31日.
48. 樋口聡: Residual LAD lesion is associated with higher 3-year mortality in super-elderly patients with acute coronary syndrome. Cardiovascular Intervention and Therapeutics 2015 oral session, 福岡, 2015年7月30日-8月1日.
49. 樋口聡: Activities of daily life at discharge can predict 1-year mortality of the super-elderly patients with acute coronary syndrome. Cardiovascular Intervention and Therapeutics 2015 oral session, 福岡, 2015年7月30日-8月1日.
50. 樋口聡: Rotational Atherectomy to the Calcified Bifurcation Lesion of the Left Main Trunk in a Patient with Acute Coronary Syndrome, Low Ejection Fraction, and Congestive Heart Failure. Complex Cardiovascular Therapeutics 2015 oral session, 福岡, 2015年7月30日-8月1日.
51. 副島京子: 不整脈治療のupdate. 松山生活習慣病カンファレンス, 松山, 2015年8月22日.
52. 樋口聡: Residual LAD Lesion is Associated with Higher 3-year Mortality in Super-elderly Patients with Acute Coronary Syndrome. European Society of Cardiology 2015 poster session, Italy, 2015年8月29日-9月2日.
53. 副島京子: Mapping technique for VT. Arrhythmia Academy VT module, 神戸, 2015年8月30日.
54. Uesugi Y, Sakata K, Matsushita K, Isaka A, Minamishima T, Satoh T, Yoshino H: Right ventricular post systolic shortening using speckle-tracking echocardiography associated with prognosis in patients with pulmonary artery hypertension. ESC Congress 2015, London, September 1st, 2015.
55. 副島京子: MRI conditional CIEDs. ペーシングデバイス研究会, 広島, 2015年9月5日.
56. 副島京子: SVTの治療. Arrhythmia Academy, 東京, 2015年9月12日.
57. 副島京子: VT マッピング. Arrhythmia Academy, 東京, 2015年9月13日.
58. 副島京子: 不整脈治療のupdate. 佐賀不整脈研究会. 佐

- 賀, 2015年9月14日.
59. 谷合誠一, 伊波巧, 田口浩樹, 佐藤徹, 吉野秀朗: 非心臓手術の術後に冠攣縮を発症した4例. 第63回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 2015年9月18日.
  60. 坂田好美, 上杉陽一郎, 井坂葵, 南島俊徳, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 肺動脈性肺高血圧症における肺動脈拡大の影響. 第63回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 2015年9月19日.
  61. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 仁科善雄, 菊池華子, 佐藤徹, 吉野秀朗: 経皮的肺動脈形成術の現状. 第63回日本心臓病学会学術集会, 横浜, 2015年9月20日.
  62. 副島京子: デバイス治療の最先端. 山形デバイスセミナー, 山形, 2015年9月25日.
  63. 坂田好美: 心エコーを用いた肺高血圧症の診断. 第11回埼玉肺高血圧症フォーラム, 埼玉, 2015年9月25日.
  64. 副島京子: 循環器学の面白さ. 佐世保卒後教育セミナー, 佐世保, 2015年9月26日.
  65. 佐藤徹: 循環器疾患の診察法 主に視診・触診. 調布医師会講演会, 調布, 2015年9月28日.
  66. 副島京子: NOAC治療. Web seminar, 山梨, 2015年9月29日.
  67. 吉野秀朗: 冠攣縮性狭心症と冠攣縮性左心不全. 第23回眉山循環器カンファレンス, 徳島, 2015年10月2日.
  68. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 石川不整脈研究会, 金沢, 2015年10月2日.
  69. 坂田好美, 井坂葵, 上杉陽一郎, 南島俊徳, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀朗: 3次元心エコー法による肺動脈幹拡張を認める肺動脈性肺高血圧症例の特徴. 第3回日本肺高血圧学会, 東京, 2015年10月3日.
  70. 三輪陽介, 百瀬裕一, 長岡身佳, 松下紀子, 星田京子, 富樫郁子, 上田明子, 佐藤俊明, 吉野秀朗, 副島京子: ICD・CRT-D植え込み症例におけるアミオダロンの使用. 第20回アミオダロン研究会, 東京, 2015年10月3日.
  71. 上杉陽一郎, 坂田好美, 南島俊徳, 井坂葵, 伊波巧, 松下健一, 佐藤徹, 吉野秀明: 慢性血栓性肺高血圧の経皮的肺動脈拡張術後再灌流障害の予測. 第3回日本肺高血圧学会, 東京, 2015年10月3日.
  72. 若林典弘, 坂田好美, 松下健一, 井坂葵, 上杉陽一郎, 南島俊徳, 佐藤徹, 吉野秀朗: Speckle-tracking法による右室strainによる肺動脈性肺高血圧症の予後評価. 第3回日本肺高血圧学会, 東京, 2015年10月3日.
  73. 水見彩子, 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 菊池華子, 末岡順介, 重田洋平, 合田あゆみ, 佐藤徹, 吉野秀朗: Pressure-wire-guided PTPAの運動時における肺循環への効果. 第3回日本肺高血圧学会第4回日本肺循環学会合同集会, 東京, 2015年10月3日.
  74. 若林典弘, 佐藤徹: 肺高血圧症の治療に難渋し, エポプロステノールが有効であったシェーグレン症候群の1例. 第4回膠原病とPHを考える会, 東京, 2015年10月8日.
  75. 三輪陽介, 百瀬裕一, 長岡身佳, 松下紀子, 星田京子, 富樫郁子, 上田明子, 佐藤俊明, 吉野秀朗, 副島京子: ICD・CRT-D植え込み症例におけるアミオダロンの使用. 第20回アミオダロン研究会, 東京, 2015年10月3日.
  76. 三輪陽介, 副島京子, 佐藤俊明, 上田明子, 富樫郁子, 星田京子, 松下紀子, 百瀬裕一, 長岡身佳, 吉野秀朗: 虚血性心疾患に合併した左脚ブロック型心室頻拍が心腔内エコーで同定された左室基部側壁心外膜の基質でアブレーションに成功した一例. 第27回カテーテルアブレーション関連秋季大会, 郡山, 2015年10月15-17日.
  77. Yamasaki S, Tani ai S, Yoro zu T, Satoh T, Yoshino H: Vasospastic angina pectoris during post-operative period of non-cardiac surgery. 4<sup>th</sup> Acute Cardiovascular Care 2015, Austria, October 18th, 2015.
  78. Tani ai S, Yamasaki S, Yoro zu T, Satoh T, Yoshino H: Risk stratification by perioperative cardiovascular screening system for non-cardiac surgery. 4<sup>th</sup> Acute Cardiovascular Care 2015, Austria, October 18th, 2015.
  79. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 岩手不整脈セミナー, 岩手, 2015年10月23日.
  80. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 仁科善雄, 菊池華子, 佐藤徹, 吉野秀朗: 当院の経皮的肺動脈形成術の現状. 第56回日本脈管学会総会, 東京, 2015年10月30日.
  81. 副島京子: Epicardial Access. Samsung Medical Center VT symposium, Korea, 2015年10月31日.
  82. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 新潟不整脈研究会, 新潟, 2015年11月7日.
  83. 副島京子: デバイスリードの変遷. 長崎大学リードセミナー. 2015年11月13日.
  84. 三輪陽介: 心室頻拍(特発性, 流出路起源, 器質的心疾患). 不整脈治療関連指定講習会・応用編, 東京, 2015年11月13-14日.
  85. 副島京子: SVTの治療. Arrhythmia Academy, 東京, 2015年11月14日.
  86. 坂田好美: 心エコー図検査における肺高血圧症の現状. 第14回関東甲信越地方会講習会, 東京, 2015年11月14日.
  87. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 佐藤徹, 吉野秀朗: Current status of chronic thromboembolic pulmonary hypertension in our institution. 多摩地区虚血性心疾患研究会, 東京, 2015年11月14日.
  88. 佐藤徹: 3-2 血行動態と身体所見. 第13回循環器physical examination講習会, 神戸, 2015年11月15日.
  89. 副島京子: VT マッピング. Arrhythmia Academy, 東京, 2015年11月15日.
  90. 佐藤徹: 肺高血圧診療の最近の動向. 第6回熊本肺高血圧症研究会, 熊本, 2015年11月18日.
  91. 副島京子: leadless pacemaker. APHRS, Australia, 2015年11月19日.
  92. 副島京子: tips and tricks for 3D mapping. APHRS, Australia, 2015年11月19日.
  93. 副島京子: epicardial access. APHRS, Australia, 2015年11月19日.
  94. 副島京子: Radiation exposure: Mediguide. APHRS, Australia, 2015年11月19日.
  95. Miwa Y, Hoshida K, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Togashi I, Ueda A, Sato T, Yoshino H, Soejima K: Preserved f Wave Amplitude in V1 as a Marker of Tachycardia-Induced Cardiomyopathy. The 8th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Sessions, Australia, November 19th-22nd, 2015.
  96. 松下紀子: Stellate Ganglion Phototherapy as a Rescue Therapy for Refractory Ventricular Arrhythmias. The 8th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session, Australia, November 19th-22nd, 2015.
  97. Ueda A, Soejima K, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Hoshida K, Higuchi S, Miwa Y, Sato T, Yoshino H: Impact of ECG-defined right ventricular enlargement on response to cardiac resynchronization therapy in patients with left bundle branch block. The 8th Asian Pacific Heart Rhythm Society Scientific Sessions (APHRS), Australia, 2015年11月19-22日.

98. 谷合誠一, 山崎聡子, 佐藤徹, 萬知子, 吉野秀朗: 新方式による非心臓手術前循環器スクリーニングの有用性に関する検討. 第29回日本冠疾患学会学術集会, 札幌, 2015年11月20日.
99. 谷合誠一, 山崎聡子, 佐藤徹, 萬知子, 吉野秀朗: 非心臓手術の周術期に冠攣縮を発症した4例. 第29回日本冠疾患学会学術集会, 札幌, 2015年11月21日.
100. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 佐藤徹, 吉野秀朗: エストロゲン製剤使用によるCTEPHに対するPTPAの効果. 第22回肺塞栓症研究会, 東京, 2015年11月21日.
101. 副島京子: 不整脈治療の進歩. TAMA cardiac conference. 多摩, 2015年11月24日.
102. 佐藤徹: 心臓病の診察法～視診・触診を中心に～. 第38回川越循環器談話会, 2015年11月26日.
103. 吉野秀朗: 冠攣縮性狭心症と冠攣縮性心不全. 第36回栃木循環器セミナー, 宇都宮, 2015年11月27日.
104. 副島京子: リードレスペースメーカー. 次世代不整脈医師, 博多, 2015年11月28日.
105. 伊波巧, 片岡雅晴, 石黒晴久, 重田洋平, 吉野秀朗, 佐藤徹: 右心不全合併CTEPHに対する治療戦略. CTEPH Clinical Conference Tokyo 2015, 東京, 2015年11月28日.
106. 副島京子: 循環器医のキャリア. 若手循環器医師, 大阪, 2015年12月4日.
107. 副島京子: リードレスペースメーカー. 近畿デバイス研究会, 大阪, 2015年12月5日.
108. 副島京子: VTアブレーション. 筑波VTカンファレンス, 筑波, 2015年12月8日.
109. 副島京子: VTマッピング. 筑波VTカンファレンス, 筑波, 2015年12月8日.
110. 副島京子: SVTの治療. 次世代不整脈エキスパート講座, 札幌, 2015年12月12日.
111. 副島京子: VTマッピング. 次世代不整脈エキスパート講座, 札幌, 2015年12月13日.
112. 副島京子: 知っておくべき心電図. 大和市医師会勉強会, 大和, 2016年1月15日.
113. 上田明子: ICD・CRTD患者さんにおけるアブレーション・薬物療法の位置づけ. 日本ICDの会東京講演会, 東京, 2016年1月16日.
114. 副島京子: 不整脈治療アップデート. AKT Forum名古屋, 名古屋, 2016年1月22日.
115. 副島京子: 不整脈治療アップデート. 仙台不整脈フォーラム, 仙台, 2016年1月23日.
116. 坂田好美: 負荷エコーによる診断. 日本心エコー学会第20回冬季講習会, 大阪, 2016年1月24日.
117. 坂田好美: 三次元エコーは実臨床に使えますか?. 日本心エコー学会第20回冬季講習会, 大阪, 2016年1月24日.
118. 三輪陽介: 心房細動の治療戦略. 第3回中央区循環器フォーラム, 東京, 2016年1月27日.
119. 佐藤徹: 慢性肺血栓塞栓性肺高血圧に対する肺動脈形成術. 第26回日本心血管画像動態学会, 東京, 2016年1月29日.
120. 佐藤俊明: 非虚血性心筋症 (LVEF>35%) に対する心臓突然死一次予防. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月5-7日.
121. 三輪陽介, 佐藤俊明, 前田明子, 上田明子, 富樫郁子, 星田京子, 松下紀子, 長岡身佳, 百瀬裕一, 吉野秀朗, 副島京子: 右室心尖部ペーシングにも関わらず左室ペーシング波形を呈した一例. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月5-7日.
122. 松下紀子, 長岡身佳, 百瀬裕一, 星田京子, 三輪陽介, 富樫郁子, 上田明子, 佐藤俊明, 副島京子, 吉野秀朗: 80歳以上のICD/CRTD患者での除細動機能の中止の現状. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月5-7日.
123. 富樫郁子, 佐藤俊明, 副島京子, 上田明子, 三輪陽介, 宮越睦, 星田京子, 松下紀子, 百瀬裕一, 長岡身佳, 吉野秀朗: 新しいGPSナビゲーションシステム (MediGuide Technologies) を用いた, 心臓再同期療法のための左室リード植込み. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月5-7日.
124. 富樫郁子: 高齢者にはCRT-P vs CRT-D Pro「高齢者にはCRT-Pを」. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月5-7日.
125. 長岡身佳, 佐藤俊明, 副島京子, 上田明子, 三輪陽介, 宮越睦, 星田京子, 松下紀子, 百瀬裕一, 竹内真介, 吉野秀朗: 局所麻酔補助としてドロペリドール投与後にtorsade de pointesを認めた1例. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月5-7日.
126. 三輪陽介, 佐藤俊明, 前田明子, 上田明子, 富樫郁子, 星田京子, 松下紀子, 長岡身佳, 百瀬裕一, 吉野秀朗, 副島京子: 右室心尖部ペーシングにも関わらず左室ペーシング波形を呈した一例. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月5-7日.
127. 安村佑樹, 川上俊一郎, 吉村高寛, 露口晃, 萩原陽, 村野祐司, 大戸真喜男, 佐藤俊明, 副島京子, 似鳥俊明, 萬知子: MediGuide™テクノロジーを導入して. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月5-7日.
128. 副島京子: 患者の知る権利・インフォームドコンセント. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月6日.
129. 副島京子: SICDの将来. 第8回植込みデバイス関連冬季大会, 北九州, 2016年2月7日.
130. 副島京子: リードの現在過去未来. SJM, Web Seminar@大阪日赤, 2016年2月9日.
131. 副島京子: Unmet Needs/Future of Device Therapy. Arrhythmia Forum Kanazawa, 金沢, 2016年2月12日.
132. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 奈良県臨床不整脈カンファレンス, 奈良, 2016年2月13日.
133. Inami T, Kataoka M, Ishiguro H, Yoshino H, Satoh T: The surgeon in the operating theatre-current status of chronic thromboembolic pulmonary hypertension. Cardioevent 2016, Florence, February 13th, 2016.
134. 副島京子: 不整脈治療の進歩. 第1回cardiology conference, 川崎, 2016年2月23日.
135. 副島京子: リードの現在過去未来. SJM, Web Seminar@近畿大学, 2016年2月23日.
136. 副島京子: Unmet Needs/Future of Device Therapy. Arrhythmia Forum Kanazawa, 金沢, 2016年2月24日.
137. 副島京子: 女性EP医師のキャリア形成. Women in EP, 浦安, 2016年2月27日.
138. 副島京子: 不整脈治療の進歩. エリキュース3周年記念講演, 浦安, 2016年3月1日.
139. 谷合誠一: 大規模臨床研究 HONEST Studyから得られた家庭血圧治療の新たな知見. Hypertension Meeting 2016 ~家庭血圧を再考する~, 東京, 2016年3月1日.
140. 副島京子: Epicardial Access in Substrate VT. international forum of ventricular arrhythmia, China, 2016年3月13日.
141. 副島京子: Role of entrainment of VT. international forum of ventricular arrhythmia, China, 2016年3月

13日.

142. 佐藤徹: 右心不全診療 問題点と今後の発展. 第80回日本循環器学会学術集会, 仙台, 2016年3月18日.
143. Sakata K, Isaka A, Uesugi Y, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H: Evaluation of Right Ventricular Function Using Three Dimensional. The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, March 18th, 2016.
144. Sakata K : Echocardiography in Patients with Pulmonary Artery Hypertension. The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, March 18th, 2016.
145. Sakata K, Isaka A, Uesugi Y, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H : Characteristic of Pulmonary Artery Aneurysm in Patients with Pulmonary Arterial Hypertension. The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, March 18th, 2016.
146. Sato T, Soejima K, Momose Y, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Togashi I, Ueda A, Yoshino H : A Novel GPS Navigated Implant Procedures for Cardiac Resynchronization Therapy; First Experience of MediGuide™ in Asia. 第80回日本循環器学会学術集会, 仙台, 2016年3月18-20日.
147. Ueda A, Soejima K, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Sato T, Yoshino H : Initial experience of non-fluoroscopic catheter tracking system MediGuide™ for outflow tract PVC ablation in Japan. 第80回日本循環器学会学術集会, 仙台, 2016年3月18-20日.
148. Ueda A, Soejima K, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Sato T, Yoshino H : Identification of Clinical VT Circuit Utilizing Voltage Channel and Pace Mapping. 第80回日本循環器学会学術集会, 仙台, 2016年3月18-20日.
149. 樋口聡 : The Clinical Characteristics of the Type2 Myocardial Infarction. The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 仙台, 2016年3月18-20日.
150. Inami T, Kataoka M, Shimura N, Ishiguro H, Yanagisawa R, Taguchi H, Kohshoh H, Satoh T, Yoshino H : Left ventricular dysfunction associated with coronary spasm. The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, March 18th-20th, 2016.
151. Funabashi S, Inami T, Kataoka M, Kikuchi T, Yanagisawa R, Ishiguro C, Okamoto S, Watanabe K, Satoh T, Yoshino H : Examination of Relevance of chronic thromboembolic pulmonary hypertension. The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, March 18th-20th, 2016.
152. Shigeta Y, Inami T, Mizumi A, Kikuchi H, Ishiguro H, Kataoka M, Goda A, Satoh T, Yoshino H : Usefulness of pressure-wire-guided percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for pulmonary circulation on exercise. The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, March 18th-20th, 2016.
153. Nishina Y, Inami T, Ishiguro H, Kataoka M, Sakata K, Satoh T, Yoshino H : Efficacy of percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for right ventricular function. The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Sendai, March 18th-20th, 2016.

## 論文 欧文

1. Satoh T : Systemic abnormalities derived from chronic thromboembolic pulmonary hypertension and their improvement by balloon pulmonary angioplasty. *Circ J.* 80(4) : 823-824, 2016.
2. Satoh T, Okano H, Hara T : Effectiveness and Safety of Long-term Epoprostenol Treatment in Japanese Patients with Pulmonary Hypertension-A Multicenter Prospective Study. *Progress in Medicine* 35(8) : 87-95, 2015.
3. Soejima K, Nogami A<sup>1</sup>, Sekiguchi Y<sup>1</sup>, Harada T<sup>2</sup>, Satomi K<sup>3</sup>, Hirose T<sup>4</sup>, Ueda A, et al (<sup>1</sup>University of Tsukuba, <sup>2</sup>St. Marianna University School of Medicine Hospital, <sup>3</sup>Tokyo Medical University Hachioji Medical Center, <sup>4</sup>Gifu Prefectural General Medical Center) : Epicardial catheter ablation of ventricular tachycardia in no entry left ventricle: mechanical aortic and mitral valves. *Circ Arrhythm Electrophysiol* 8 : 381-389, 2015.
4. Sakata K, Uesugi Y, Isaka A, Minamishima T, Matsushita K, Satoh T, Yoshino H : Evaluation of right atrial function using right atrial speckle tracking analysis in patients with pulmonary artery hypertension. *J Echocardiogr* 14 : 30-38, 2016.
5. Matsushita K, Minamishima T, Goda A, Ishiguro H, Kosho H, Sakata K, Satoh T, Yoshino H : Comparison of the reliability of E/E' to estimate pulmonary capillary wedge pressure in heart failure patients with preserved ejection fraction versus those with reduced ejection fraction. *Int J Cardiovasc Imaging* 31(8) : 1497-1502, 2015.
6. Matsushita K, Minamishima T, Goda A, Ishiguro H, Kosho H, Sakata K, Satoh T, Yoshino H : Comparison of the reliability of E/E' to estimate pulmonary capillary wedge pressure in heart failure patients with preserved ejection fraction versus those with reduced ejection fraction. *Int J Cardiovasc Imaging* 31 : 1497-1502, 2015.
7. Matsushita K, Wu Y<sup>1</sup>, Pratt RE<sup>1</sup>, Dzau VJ<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Duke University Medical Center) : Blockade of angiotensin II type 2 receptor by PD123319 inhibits osteogenic differentiation of human mesenchymal stem cells via inhibition of extracellular signal-regulated kinase signaling. *J Am Soc Hypertens* 9 : 517-525, 2015.
8. Matsushita K, Morello F<sup>1</sup>, Zhang Z<sup>1</sup>, Masuda T<sup>2</sup>, Iwanaga S<sup>3</sup>, Steffensen KR<sup>4</sup>, Gustafsson JA<sup>4,5</sup>, Pratt RE<sup>1</sup>, Duau VJ<sup>1,6</sup> (<sup>1</sup>Duke University Medical Center, <sup>2</sup>Keio University School of Medicine, <sup>3</sup>Saitama Medical University and Saitama International Medical Center, <sup>4</sup>Karolinska Institutet, <sup>5</sup>University of Houston, <sup>6</sup>Institute of Medicine) : Nuclear hormone receptor LXR $\alpha$  inhibits adipocyte differentiation of mesenchymal stem cells with Wnt/beta-catenin signaling. *Lab Invest* 96(2) : 230-238, 2016.
9. Higuchi S, Kabeya Y<sup>1</sup>, Matsushita K, Taguchi H, Ishiguro H, Kohshoh H, Yoshino H. (<sup>1</sup>Tokai University Hachioji Hospital) : Barthel Index as a Predictor of 1-Year Mortality in Very Elderly Patients Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention for Acute Coronary Syndrome : Better Activities of Daily Living, Longer Life. *Clin Cardiol.* 39(2) : 83-9, 2016.
10. Inami T, Kataoka M<sup>1</sup>, Shimura N, Ishiguro H, Yanagisawa



- R, Kawakami T<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Satoh T ( <sup>1</sup>Keio University School of Medicine ) : Incidence, avoidance, and management of pulmonary artery injuries in percutaneous transluminal pulmonary angioplasty. *Int J Cardiol.* 201 : 35-37, 2015.
11. Ishiguro H, Kataoka M<sup>2</sup>, Inami T, Shimura N, Yanagisawa R, Kawakami T<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>2</sup>, Yoshino H, Satoh T ( <sup>2</sup>Keio University School of Medicine ): Diversity of Lesion Morphology in CTEPH Analyzed by OCT, Pressure Wire, and Angiography. *JACC Cardiovasc Imaging.* 9(3) : 324-5. 2016.
  12. Kanaya M, Matsushita K, Inami T, Yamasaki S, Mizumi S, Minamishima T, Goda A, Ueda A, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Successful Treatment of Severe Right-Sided Heart Failure Due to Postoperative Constrictive Pericarditis With Tolvaptan. *Am J Ther.* 23(1) : e264-267, 2016.
  13. Miwa Y, Soejima K, Sato T, Matsushita K, Sueoka J, Takayama N, Yoshino H: Dramatic improvement of refractory anemia caused by mechanical hemolysis in a patient with hypertrophic obstructive cardiomyopathy using dual-chamber pacing. *J Arrhythm* 31(4) : 243-245, 2015.
  14. Sueoka J, Kataoka M<sup>1</sup>, Shimura N, Inami T, Yanagisawa R, Ishiguro H, Kawakami T<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Satoh T<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>Keio University School of Medicine ) : Therapeutic efficacy after percutaneous transluminal pulmonary angioplasty in CTEPH with and without clotting disorder according to anti-cardiolipin antibody. *Int J Cardiol.* 201:271-273, 2015.
  15. Yamagishi T, Matsushita K, Minamishima T, Goda A, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Comparison of risk factors for acute worsening renal function in heart failure patients with and without preserved ejection fraction. *Eur J Intern Med* 26(8) : 599-602, 2015.
  16. Yanagisawa R, Kataoka M<sup>1</sup>, Inami T, Fukuda K, Yoshino H, Satoh T ( <sup>1</sup>Keio University School of Medicine ) : Intravascular imaging-guided percutaneous transluminal pulmonary angioplasty for peripheral pulmonary stenosis and pulmonary Takayasu arteritis. *J Heart Lung Transplant.* 35(4) : 537-540, 2016.
  17. Yanagisawa R, Kataoka M<sup>1</sup>, Inami T, Momose Y, Kawakami T<sup>1</sup>, Takei M<sup>1</sup>, Kimura M<sup>1</sup>, Isobe S<sup>1</sup>, Yamakado M<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Sano M<sup>1</sup>, Satoh T. ( <sup>1</sup>Keio University School of Medicine ): Usefulness of circulating amino acid profile and Fischer ratio to predict severity of pulmonary hypertension. *Am J Cardiol.* 115(6) : 831-836, 2015.
  18. Ueda A, Oginosawa Y<sup>1</sup>, Soejima K, Abe H<sup>1</sup>, Kohno R<sup>1</sup>, Ohe H<sup>1</sup>, Momose Y, Nagaoka M, Matsushita N, Hoshida K, Miwa Y, Miyakoshi M, Togashi I, Maeda A, Sato T, Yoshino H ( <sup>1</sup>University of Occupational and Environmental Health ): Outcomes of single- or dual-chamber implantable cardioverter defibrillator systems in Japanese patients. *J Arrhythm* 32 : 89-94, 2016.
  19. Tani S, Takemoto K, Nagai W, Inaba Y<sup>1</sup>, Endo H<sup>1</sup>, Noma M<sup>1</sup>, Kubota H<sup>1</sup>, Sudo K<sup>1</sup>, Sakata K, Satoh T, Yoshino H ( <sup>1</sup>Heart blood vessel surgery, Kyorin University Hospital ) : Two adult cases of Bland-White-Garland syndrome with lethal arrhythmia due to coronary steal phenomenon during physical or mental stress. *Journal of Cardiology Cases JCCASE-* 717, 2016. (web).
  20. Takei M<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>1</sup>, Goda A, Izumi Y<sup>2</sup>, Yagawa M<sup>2</sup>, Mizuno A<sup>3</sup>, Sawano M<sup>1</sup>, Inohara T<sup>1</sup>, Kohno T<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Sakakibara Heart Institute <sup>3</sup>StLuka Hospital ; West Tokyo Heart Failure Registry Investigators ) : Effect of estimated plasma volume reduction on renal function for acute heart failure differs between patients with preserved and reduced ejection fraction. *Circ Heart Fail.* 8(3) : 527-532, 2015.
  21. Mizuno A<sup>3</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>1</sup>, Goda A, Yoshikawa T<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Keio University, <sup>2</sup>Sakakibara Heart Institute <sup>3</sup>StLuka Hospital; West of Tokyo Heart Failure Registry Investigators ) : Seasonal changes in systemic volume overload are to be considered. *Circ J.* 79(3):670, 2015.
  22. Makino J<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Shiraishi Y<sup>1</sup>, Inohara T<sup>1</sup>, Goda A, Izumi Y<sup>2</sup>, Yagawa M<sup>2</sup>, Mizuno A<sup>3</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>2</sup> ( <sup>1</sup> Keio University, <sup>2</sup>Sakakibara Heart Institute <sup>3</sup>StLuka Hospital ) : Application of the United States acute heart failure risk prediction model in Japanese patients; analysis from a contemporary multicenter registry. *Int J Cardiol.* 195 : 323-325, 2015.
  23. Shiraishi Y<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Mizuno A<sup>3</sup>, Goda A, Izumi Y<sup>2</sup>, Yagawa M<sup>2</sup>, Akita K<sup>1</sup>, Sawano M<sup>1</sup>, Inohara T<sup>1</sup>, Takei M<sup>1</sup>, Kohno T<sup>1</sup>, Higuchi S, Yamazoe M<sup>3</sup>, Mahara K<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Sakakibara Heart Institute <sup>3</sup>StLuka Hospital ) : West Tokyo Heart Failure Registry Investigators : Validation of the Get With The Guideline-Heart Failure risk score in Japanese patients and the potential improvement of its discrimination ability by the inclusion of B-type natriuretic peptide level. *Am Heart J.* 171(1) : 33-39, 2016.
  24. Ritter P<sup>1</sup>, Duray GZ<sup>2</sup>, Steinwender C<sup>3</sup>, Soejima K, Omar R<sup>4</sup>, Mont L<sup>5</sup>, Boersma LV<sup>6</sup>, Knops RE<sup>7</sup>, et al ( <sup>1</sup>Université Bordeaux, <sup>2</sup>Medical Centre, Hungarian Defence Forces, <sup>3</sup>Johannes Kepler University School of Medicine Linz, <sup>4</sup>Electrophysiology and Pacing Unit, National Heart Institute, <sup>5</sup>Universitat de Barcelona, <sup>6</sup>St Antonius Ziekenhuis, <sup>7</sup>Academisch Medisch Centrum (AMC) ) : Early performance of a miniaturized leadless cardiac pacemaker : the Micra Transcatheter Pacing Study. *Eur Heart J* 17 : 607-613, 2015.
  25. Ritter P<sup>1</sup>, Duray GZ<sup>2</sup>, Zhang S<sup>3</sup>, Narasimhan C<sup>4</sup>, Soejima K, Omar R<sup>5</sup>, Laager V<sup>6</sup> ( <sup>1</sup>IHU LIRYC, <sup>2</sup>Medical Centre, <sup>3</sup>Fuwai Hospital, <sup>4</sup>CARE Hospitals and CARE Foundation, <sup>5</sup>National Heart Institute, <sup>6</sup>Medtronic ) : The rationale and design of the Micra Transcatheter Pacing Study : safety and efficacy of a novel miniaturized pacemaker. *Europace* 17(5) : 807-813, 2015.
  26. Reynolds D<sup>1</sup>, Duray GZ<sup>2</sup>, Omar R<sup>3</sup>, Soejima K, Neuzil P<sup>4</sup>, Zhang S<sup>5</sup>, Narasimhan C<sup>6</sup>, Steinwender C<sup>7</sup>, Brugada J<sup>8</sup>, Lloyd M<sup>9</sup>, Roberts PR<sup>10</sup>, Sagi V<sup>11</sup>, Hummel J<sup>12</sup>, Bongiorno MG<sup>13</sup>, Knops RE<sup>14</sup>, Ellis CR<sup>15</sup>, Gornick CC<sup>16</sup>, Bernabei MA<sup>17</sup>, Laager V<sup>18</sup>, Stromberg K<sup>18</sup>, Williams ER<sup>18</sup>, Hudnall JH<sup>18</sup>, Ritter P<sup>19</sup> ( <sup>1</sup>University of Oklahoma Health Sciences Center, <sup>2</sup>Medical Center, <sup>3</sup>National Heart Institute, <sup>4</sup>Na Homolce Hospital, <sup>5</sup>Fuwai Hospital, <sup>6</sup>CARE Hospitals and CARE Foundation, <sup>7</sup>Johannes Kepler University School of Medicine,

- <sup>8</sup>Hospital Universitari Clínic de Barcelona, <sup>9</sup>Emory University Hospital, <sup>10</sup> University of Southampton, <sup>11</sup>Baptist Heart Specialists, <sup>12</sup>Ohio State University, <sup>13</sup>Azienda Ospedaliero Universitaria Pisana, <sup>14</sup>Academisch Medisch Centrum, <sup>15</sup>Vanderbilt University Medical Center, <sup>16</sup>Minneapolis Heart Institute, <sup>17</sup>Lancaster Heart and Vascular Institute, <sup>18</sup>Medtronic, <sup>19</sup>IHU LIRYC ; Micra Transcatheter Pacing Study Group) : A Leadless Intracardiac Transcatheter Pacing System. *N Engl J Med.* 374(6) : 533-541, 2016.
27. Morris DA<sup>1</sup>, Takeuchi M<sup>2</sup>, Krisper M<sup>1</sup>, Köhncke C<sup>1</sup>, Bekfani T<sup>1</sup>, Carstensen T<sup>1</sup>, Hassfeld S<sup>1</sup>, Dorenkamp M<sup>1</sup>, Otani K<sup>2</sup>, Takigiku K<sup>3</sup>, Izumi C<sup>4</sup>, Yuda S<sup>5</sup>, Sakata K, Ohte N<sup>6</sup>, Tanabe K<sup>7</sup>, Osmanoglou E<sup>8</sup>, Kühnle Y<sup>1</sup>, Dungen HD<sup>1</sup>, Nakatani S<sup>9</sup>, Otsuji Y<sup>2</sup>, Haverkamp W<sup>1</sup>, Boldt LH<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Charité University Hospital, <sup>2</sup>University of Occupational and Environmental Health, <sup>3</sup>Nagano Children's Hospital, <sup>4</sup>Tenri Hospital, <sup>5</sup>Sapporo Medical University School of Medicine, <sup>6</sup>Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, <sup>7</sup>Shimane University Faculty of Medicine, <sup>8</sup>Meoclinic, <sup>9</sup>Osaka University Graduate School of Medicine) : Normal values and clinical relevance of left atrial myocardial function analysed by speckle-tracking echocardiography: multicentre study. *Eur Heart J Cardiovasc Imaging* 16 : 364-372, 2015.
28. Murakami T, Yoshikawa T, Maekawa Y, Ueda T, Isogai T, Sakata K, Nagao K, Yamamoto T, Takayama M : Gender Differences in Patients with Takotsubo Cardiomyopathy: Multi-Center Registry from Tokyo CCU Network. *PLoS One* 10 : e0136655, 2015.
29. Inami T, Kataoka M<sup>1</sup>, Ishiguro H, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Satoh T (<sup>1</sup>Keio University) : Incidence, avoidance, and management of pulmonary artery injuries in percutaneous transluminal pulmonary angioplasty. *Int J Cardiol* 201:35-37, 2015.
30. Yueoka J, Kataoka M<sup>1</sup>, Shimura N, Inami T, Yanagisawa R, Ishiguro H, Kawakami T<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Satoh T (<sup>1</sup>Keio University) : Therapeutic efficacy after percutaneous transluminal pulmonary angioplasty in CTEPH with and without clotting disorder according to anti-cardiolipin antibody. *Int J Cardiol* 201:271-273, 2015.
31. Shimura N, Kataoka M<sup>1</sup>, Inami T, Yanagisawa R, Ishiguro H, Kawakami T<sup>1</sup>, Higuchi Y<sup>2</sup>, Ando M<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Satoh T (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Fujita Health University) : Additional precutaneous transluminal pulmonary angioplasty for residual or recurrent pulmonary hypertension after pulmonary endarterectomy. *Int J Cardiol* 183:138-142, 2015.
32. Ishiguro H, Kataoka M<sup>1</sup>, Inami T, Shimura N, Yanagisawa R, Kawakami T<sup>1</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshino H, Satoh T (<sup>1</sup>Keio University) : Diversity of lesion morphology in CTEPH analyzed by OCT, pressure wire and angiography. *JACC Cardiovasc imaging* 183: 138-142, 2016.
33. Kimura Y<sup>1</sup>, Tanaka N<sup>1</sup>, Okura H<sup>2</sup>, Yoshida K<sup>2</sup>, Akabane M<sup>3</sup>, Takayama T<sup>3</sup>, Hirayama A<sup>3</sup>, Tada T<sup>4</sup>, Kimura T<sup>4</sup>, Takano H<sup>5</sup>, Mizuno K<sup>5</sup>, Inami T, Yoshino H, Yamashita A<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Medical University, <sup>2</sup>Kawasaki Medical school, <sup>3</sup>Nihon University School of Medicine, <sup>4</sup>Kyoto University Graduate School of medicine, <sup>5</sup>Nippon Medical school) : Characterization of real-world patients with low fractional flow reserve immediately after drug-eluting stents implantation. *Cardiovasc Interv Ther* 31:29-37, 2016.
34. Kimura Y<sup>1</sup>, Tanaka N<sup>1</sup>, Okura H<sup>2</sup>, Yoshida K<sup>2</sup>, Akabane M<sup>3</sup>, Takayama T<sup>3</sup>, Hirayama A<sup>3</sup>, Tada T<sup>4</sup>, Kimura T<sup>4</sup>, Takano H<sup>5</sup>, Mizuno K, Inami T, Yoshino H, Yamashita A<sup>1</sup>. (<sup>1</sup>Tokyo Medical University, <sup>2</sup>Kawasaki Medical School, <sup>3</sup>Nihon University School of Medicine, <sup>4</sup>Kyoto University School, <sup>5</sup>Nippon Medical School) : Characterization of real-world patients with low fractional flow reserve immediately after drug-eluting stents implantation. *Cardiovasc Interv and Ther* 31:29-37, 2016.
35. Kimura M<sup>1</sup>, Tamura Y<sup>1</sup>, Takei M<sup>1</sup>, Yamamoto T<sup>1</sup>, Ono T<sup>1</sup>, Fujita J<sup>1</sup>, Kataoka M<sup>1</sup>, Kuwana M<sup>2</sup>, Satoh T, Fukuda K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Nippon Medical School) : Dual phosphodiesterase type 5 inhibitor therapy for refractory pulmonary arterial hypertension: a pilot study. *BMC Pulm Med.* 15 : 62, 2015.
36. Kimura M<sup>1</sup>, Tamura Y<sup>2</sup>, Takei M<sup>2</sup>, Yamamoto T<sup>2</sup>, Ono T<sup>2</sup>, Kuwana M<sup>2</sup>, Fukuda K<sup>2</sup>, Satoh T (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Nippon Medical School) : Rapid initiation of intravenous epoprostenol infusion is the favored option in patients with advanced pulmonary arterial hypertension. *PLoS One.* 10(4) : e0121894, 2015.
37. Saji T<sup>1</sup>, Myoishi M<sup>2</sup>, Sugimura K, Tahara N, Takeda Y, Fukuda K<sup>2</sup>, Olschewski H, Matsuda Y, Nikkho S, Satoh T (<sup>1</sup>Toho University Omori Medical Center, <sup>2</sup>Keio University School of Medicine) : Efficacy and Safety of Inhaled Iloprost in Japanese Patients With Pulmonary Arterial Hypertension- Insights From the IBUKI and AIR Studies. *Circ J.* 80(4) : 835-42, 2016.
38. Shiraishi Y<sup>1</sup>, Kohsaka S<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Mizuno A<sup>2</sup>, Goda A, Izumi Y<sup>3</sup>, Yagawa M<sup>3</sup>, Akita K<sup>1</sup>, Sawano M<sup>1</sup>, Inohara T<sup>1</sup>, Takei M<sup>1</sup>, Kohno T<sup>1</sup>, Higuchi S, Yamazoe M<sup>2</sup>, Mahara K<sup>3</sup>, Fukuda K<sup>1</sup>, Yoshikawa T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>St Luke's International Hospital, <sup>3</sup>Sakakibara Heart Institute ; West Tokyo Heart Failure Registry Investigators) : Validation of the Get With The Guideline-Heart Failure risk score in Japanese patients and the potential improvement of its discrimination ability by the inclusion of B-type natriuretic peptide level. *Am Heart J.* 171(1) : 33-39, 2016.
39. Tamura Y<sup>1</sup>, Kimura M<sup>1</sup>, Takei M<sup>1</sup>, Ono T<sup>1</sup>, Kuwana M<sup>2</sup>, Satoh T, Fukuda K<sup>1</sup>, Humbert M<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Nippon Medical School, <sup>3</sup>Université Paris-Sud) : Oral vasopressin receptor antagonist tolvaptan in right heart failure due to pulmonary hypertension. *Eur Respir J.* 46(1) : 283-286, 2015.

## 和文

1. 吉野秀朗: 心筋梗塞一病患の理解編. *CSClinical Study ナーシングプロセス* 36(12) : 25-32, 2015.
2. 佐藤徹, 福田恵一, 巽浩一郎, 中西宣文: 肺高血圧症をめぐる展開 up-to-date. *Cardiac Practice* 26(2) : 57-63, 2015.
3. 佐藤徹: 診断におけるポイント注意点. *Heart View別冊* 19(7) : 8-13, 2015.
4. 佐藤徹: 肺動脈性肺高血圧症の治療指標と治療目標. *診断と治療のABC* 104(別冊) : 100-106, 2015.
5. 佐藤徹: 肺循環と凝固・線溶機能. *血栓と循環* 23(3) : 6-8, 2015.
6. 佐藤徹: 特発性および遺伝性 P A H の治療戦略一血管拡張剤の併用療法を中心に. *医学のあゆみ* 255(1) : 60-64,

- 2015.
- 佐藤徹：PHの分類と予後．血栓と循環 23(3):72-77, 2015.
  - 佐藤徹：診断におけるポイントと注意点 肺高血圧の治療はどう変貌したか．Heart View 19(7):8-13, 2015.
  - 佐藤徹：再発の防止と慢性期治療．ICUとCCU 39(3):183-186, 2015.
  - 福田恵一，巽浩一郎，佐藤徹，中西宣文：肺高血圧症をめぐる展開up-to-date．Cardiac Practice 26(2): 57-63, 2015.
  - 石黒晴久，伊波巧，佐藤徹：肺血栓症に対する最新のカテーテル治療．診断と治療 103(6): 797-803, 2015.
  - 小池和彦，山田嘉仁，波多野将，佐藤徹：肺高血圧症の診療のすすめかた．Medical Practice 32(12): 1927-1945, 2015.
  - 坂田好美：最新の循環器診療-どこまで進むか心エコー検査．杏林医学会雑誌45(4): 175-182, 2015.
  - 坂田好美：どう行う？ドブタミン負荷心エコー法．虚血性心疾患に対する負荷心エコー法．月刊心エコー16(7):676-684, 2015.
  - 坂田好美：新人ナースのための心臓これだけガイドー弁膜症．ハートナーシング4(373): 39-51, 2015.
  - 佐藤俊明，副島京子：心臓植込みデバイス交換手術時の合併症．呼吸と循環63(5): 413-416, 2015.
  - 佐藤俊明：心臓植込みデバイスの遠隔モニタリングをもちいた地域医療連携．J. Kyorin. Med. Soc. 46(1): 67-71, 2015.
  - 佐藤俊明：心臓植込みデバイスをもちいた診療の最新．J. Kyorin. Med. Soc. 46(1): 107-110, 2015.
  - 松下紀子，上田明子，長岡身佳，百瀬裕一，樋口聡，星田京子，宮越睦，三輪陽介，富樫郁子，佐藤俊明，副島京子，吉野朗，森山久美，萬知子：硬膜外麻酔でVF stormを脱し星状神経節レーザー照射でICD作動抑制に至ったTOF根治術後の1例．日本成人先天性心疾患学会雑誌4(1): 170, 2015.
  - 松下紀子，副島京子：心室頻拍アブレーションの適応と目標．Heart View. 19(11): 1210-1214, 2015.
  - 鈴木和基<sup>1</sup>，合田あゆみ，西田悠一郎<sup>1</sup>，田中耕史<sup>1</sup>，横山さち<sup>1</sup>，吉野秀朗，佐藤徹，山田深<sup>2</sup>，岡島康友<sup>2</sup>（<sup>1</sup>杏林大学医学部付属病院リハビリテーション室，<sup>2</sup>杏林大学医学部付属病院リハビリテーション科）：経皮的肺動脈拡張術後の慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者における運動中の呼吸循環反応の検討 - 肺高血圧症の至適運動療法レベルはATレベルか？．心臓リハビリテーション21(1/3): 93-98, 2016.
- 著書**
- 吉野秀朗：心筋梗塞既往，心不全患者での抗がん剤の使い方とマネジメントは？．ガイドラインには載っていない肝胆膵がんPractical Treatment. 古瀬純司，石井浩，奥坂拓志，山口武人，山下竜也編．東京，Medical View, 2015. p. 35-40.
  - 吉野秀朗：スニチニブの心昨日への注意点とモニタリングをどうするか？．ガイドラインには載っていない肝胆膵がんPractical Treatment. 古瀬純司，石井浩，奥坂拓志，山口武人，山下竜也編．東京，Medical View, 2015. p. 239-242.
  - 吉野秀朗：肺動脈形成術PTPA/BPA 実践ガイド．佐藤徹，吉野秀朗監修．片岡雅晴編．東京，南山堂，2015.
  - 吉野秀朗：虚血性心疾患患者の注意点．循環器研修ノート 改訂第2版．永井良三監修．東京，診断と治療社，2016.
  - 佐藤徹：慢性血栓塞栓性肺高血圧症CTEPHの診断と治療．肺動脈形成術PTPA/BPA 実践ガイド．佐藤徹，吉野秀朗監修．片岡雅晴編．東京，南山堂，2015. p. 2-3.
  - 佐藤徹：CTEPHのチオ量と経皮的肺動脈形成術PTPAの歴史．肺動脈形成術PTPA/BPA 実践ガイド．佐藤徹，吉野秀朗監修．片岡雅晴編．東京，南山堂，2015. P. 11-13.
  - 坂田好美：PTPA治療前後の右心機能の変化-心エコー．肺動脈形成術PTPA/BPA 実践ガイド．佐藤徹，吉野秀朗監修．片岡雅晴編．東京，南山堂，2015. p. 142-144.
  - 坂田好美：悪性リンパ腫．月刊心エコー16-2, 東京，文光堂，2015. p134-141.
  - 佐藤俊明：ナース必携！循環器の薬剤ガイド150：くすりのはたらきと使用ポイントがよくわかる！（ハートナーシング2015年春季増刊）．大阪，メディカ出版，2015.
  - 星田京子，佐藤俊明：開心術後の患者さんのペースメーカ手術を依頼されました．注意点を教えてください．今さら聞けない心臓ペースメーカ．岡村英夫編．東京，メジカルビュー社，2015.
  - 吉村高寛，佐藤俊明：整骨院で電気治療を受けていいか聞かれました．どう答えたらよいでしょうか？．今さら聞けない心臓ペースメーカ．岡村英夫編．東京，メジカルビュー社，2015.
  - 佐藤俊明：心電図検定ワーキンググループ．改訂2版 心電図検定公式問題集&ガイド：受検者必携！2級/3級．池田隆徳監修．大阪，メディカ出版，2016.
  - 百瀬裕一，佐藤俊明：抗凝固療法をやめなくてはならないとき，何か目安はありますか？．治療 98巻3号 身近に考えよう循環器内科の素朴な疑問．東京，南山堂，2016. p. 388-390.
  - 三輪陽介，副島京子，佐藤俊明，上田明子，富樫郁子，星田京子，樋口聡，松下紀子，百瀬裕一，吉野秀朗：頻脈誘発性心筋症によるQT延長症候群でTorsades de pointesを呈した1例．心臓 47巻Suppl.2. 東京，メディカルオンライン，2015. p. 72-77.
  - 坂田好美：肺高血圧症における心エコーのポイントについて教えてください．～早期診断・治療のための～肺高血圧症Q&A. 東京，先端医学社，2015.
  - 上田明子：頻脈性不整脈 発作性頻拍 上室性頻拍，心室頻拍，異所性心房頻拍．lectrocardiography A to Z. 清水渉，村川裕二，弓倉整編．東京，医学書院，2015. p. 192-193, p. 195-197, p. 200-201.
  - 上田明子，副島京子：ICD頻回作動．ICUとCCU Vol139.No.9 集中治療における不整脈管理．志賀剛編，東京，医学図書出版，2015. p. 545-550.
  - 合田あゆみ：カテーテル挿入下心肺運動負荷試験による治療適応と治療効果の検討．肺動脈形成術PTPA/BPA実践ガイド．佐藤徹，吉野秀朗監修．片岡雅晴編．東京，南山堂，2015. p. 89-93.
  - 柳澤亮爾：術後管理-肺水腫への対応を含めて-．肺動脈形成術PTPA/BPA 実践ガイド．佐藤徹，吉野秀朗監修．片岡雅晴編．東京，南山堂，2015. P. 81-83.
  - 柳澤亮爾：PTPAセッションの施行回数と施行期間の判断．肺動脈形成術PTPA/BPA 実践ガイド．佐藤徹，吉野秀朗監修．片岡雅晴編．東京，南山堂，2015. P. 85-86.
  - 柳澤亮爾：高齢者におけるPTPAの効果と安全性．肺動脈形成術PTPA/BPA 実践ガイド．佐藤徹，吉野秀朗監修．片岡雅晴編．東京，南山堂，2015. p. 128-131.
- その他**
- 佐藤俊明：心臓を遠くから見る．富山新聞，北國新聞 2015年10月3日．
  - 佐藤俊明：心臓の状態を病院が見守り．神戸新聞 2015年10月5日．
  - 佐藤俊明：心臓を遠くから見守る．山梨日日新聞 2015年10月8日．

- 佐藤俊明: 体内からデータ送信. 茨城新聞 2015年10月11日.
- 佐藤俊明: 遠隔で心臓を見守る. 上毛新聞 2015年10月12日.
- 伊波巧: 平成27年度杏林医学会奨励賞受賞. 三鷹, 2015年11月21日.

### 第二内科学教室 (血液内科)

#### 講演

- 高山信之: 血液内科専門外来初診カルテから ~我々は日々血液疾患をこのように診断しています~. 多摩血液疾患連携懇話会, 三鷹, 2015年6月4日.
- 関雅史, 桑原彩子, 式場星矢, 百瀬恵美, 佐藤範英, 高山信之: t(9;22)とinv(16)を有し, 好酸球および好塩基球の増加を認めた急性骨髄性白血病の1例. 第3回日本血液学会関東甲信越地方会, つくば, 2015年7月4日.
- 佐藤範英: 当院におけるボシユリフの使用経験. 第7回多摩支持療法研究会, 三鷹, 2015年7月3日.
- Takayama N, Shikiba S, Kuwabara A, Seki M, Momose E, Kobayashi M, Satoh N: Tacrolimus alone as GVHD prophylaxis for myeloablative cord blood transplantation. 第77回日本血液学会学術集会, 金沢, 2015年10月16日.
- Shikiba S, Satoh N, Kuwabara A, Seki M, Momose E, Kobayashi M, Satoh N, Takayama N: No maintenance therapy after autologous stem cell transplantation for multiple myeloma. 第77回日本血液学会学術集会, 金沢, 2015年10月17日.
- 小林誠: 8年間の経過後にびまん性大細胞型B細胞リンパ腫への移行がみられた治療抵抗性寒冷凝集素症に対し, 非血縁者間同種骨髄移植を施行した1例. 第22回多摩臨床血液・輸血療法研究会, 立川, 2015年11月5日.
- 高山信之: 急性白血病の治療 ~当院の現状を踏まえて~. 第7回中杉血液感染症講演会, 中野, 2015年12月1日.
- 高山信之, 式場星矢, 桑原彩子, 関雅史, 小林誠, 百瀬恵美, 佐藤範英: 低用量ATGを併用した強度減弱前処置 (FLU+MEL+TBI) による臍帯血移植. 第38回日本造血細胞移植学会総会, 名古屋, 2016年3月4日.
- 小林誠, 式場星矢, 関雅史, 桑原彩子, 佐藤範英, 高山信之: 胸椎腫瘍による脊髄横断症状で発症するも, 緊急CHOP療法にて対麻痺を回避し得た多発性骨髄腫の1例. 第4回日本血液学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年3月19日.

#### 論文

- 中島千絵<sup>1</sup>, 井澤朋子<sup>1</sup>, 高山信之, 岩下光利<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・産科婦人科). CML合併妊娠にイマチニブを使用した1例. 日本産婦人科・新生児血液学会誌 25: 8-9, 2015.
- Matsumoto K<sup>1</sup>, Takayama N, Aisa Y<sup>2</sup>, Ueno H<sup>3</sup>, Hagihara M<sup>4</sup>, Watanabe K<sup>5</sup>, Nakaya A<sup>1</sup>, Chen K<sup>6</sup>, Shimizu T<sup>7</sup>, Tsukada Y<sup>5</sup>, Yamada Y<sup>8</sup>, Nakazato T<sup>2</sup>, Ishida A<sup>9</sup>, Miyakawa Y<sup>5</sup>, Yokoyama K<sup>5</sup>, Nakajima H<sup>5</sup>, Masuda Y<sup>10</sup>, Yano T<sup>3</sup>, Okamoto S<sup>1</sup>; Keio BRB Group (<sup>1</sup>Tokyo Dental College Ichikawa Hospital, <sup>2</sup>Yokohama Municipal Citizen's Hospital, <sup>3</sup>Nationla Hospital Organization Tokyo Medical Center, <sup>4</sup>Eiju General Hospital, <sup>5</sup>Tokyo Saiseikai Central Hospital, <sup>6</sup>Kieyu Hospital, <sup>7</sup>Keio University School of Medicine, <sup>8</sup>Kawasaki Municipal Kawasaki Hospital, <sup>9</sup>Tachikawa Hospital Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations, <sup>10</sup>Saiseikai Utsunomiya Hospital): A Phase II study of bendamustine plus rituximab in Japanese

patients with relapsed or refractory indolent B-cell non-Hodgkin lymphoma and mantle cell lymphoma previously treated with rituximab: BRB study. Int J Hematol 101: 554-62, 2015.

- Miwa Y, Soejima K, Sato T, Matushita K, Sueoka J, Takayama N, Yoshino H: Dramatic improvement of refractory anemia caused by mechanical hemolysis in a patient with hypertrophic obstructive cardiomyopathy using dual-chamber pacing. J Arrhythm 31:243-245, 2015.
- 秋田貴之<sup>1</sup>, 尾坂真<sup>1</sup>, 大森嘉彦<sup>2</sup>, 菅間博<sup>2</sup>, 大倉康男<sup>2</sup>, 松本吉史<sup>3</sup>, 高山信之, 河合伸<sup>4</sup>, 片野晴隆<sup>5</sup>, 望月眞 (<sup>1</sup>杏林大・医学部医学科, <sup>2</sup>杏林大・病理, <sup>3</sup>杏林大・耳鼻咽喉科頭頸科, <sup>4</sup>杏林大・総合医療学教室感染症科, <sup>5</sup>国立感染症研究所感染病理部): Human immunodeficiency virus リンパ節炎とHuman immunodeficiency virus 顎下腺炎を伴った顎下腺原発Diffuse large B-cell lymphomaの1例. 診断病理 33: 7-11, 2016.

#### 著書

- 高山信之: 赤血球の異常. 薬がみえる. 医療情報科学研究所編. 東京, メディックメディア, 2015. p242-257.
- 高山信之: 白血球の異常. 薬がみえる. 医療情報科学研究所編. 東京, メディックメディア, 2015. p258-279.

### 第三内科学教室 (消化器内科)

#### 講演

- 高橋信一: 酸関連疾患と*H. pylori*除菌の最新の話について. タケキャブ錠発売記念講演会, 東京, 2015年4月10日.
- 高橋信一: 胃粘膜障害の現状とその予防-NSAIDsとピロリ菌-. 第55回多摩整形外科医会, 武蔵野, 2015年4月11日.
- 高橋信一: 酸関連疾患と*H. pylori*除菌の最新の話について. タケキャブ錠発売記念講演会, 町田, 2015年4月13日.
- 西川かおり: 腹部エコーマスター講座 ビギナーセミナー 胆道・膵臓・脾臓. アスリード, 東京, 2015年4月19日.
- 森秀明: 腹部エコーマスター講座 ビギナー 総論・肝臓・消化管. セミナー. アスリード, 東京, 2015年4月19日.
- 田中昭文: 酸関連疾患と*H. pylori*除菌における最新の話. 第111回葛飾区薬剤師会夜間講座, 東京, 2015年4月21日.
- 久松理一, 細江直樹, 金井隆典: SL0C02A1変異によるPG輸送障害と非特異性多発性小腸潰瘍症. 第101回日本消化器病学会総会, 仙台, 2015年4月23-25日.
- 森清人, 久松理一, 金井隆典: 炎症性マクロファージの真菌に対する反応性とCrohn病病態への関与. 第101回日本消化器病学会総会, 仙台, 2015年4月23-25日.
- 竹下梢, 久松理一, 金井隆典: Fusocatenibacter saccharivoransの潰瘍性大腸炎疾患活動性との関連と腸炎抑制効果について. 第101回日本消化器病学会総会, 仙台, 2015年4月23-25日.
- 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: *H. pylori*三次除菌療法の現状. 第101回日本消化器病学会総会, 仙台, 2015年4月25日.
- 大野亜希子: おなかを切らずに胃がんを治す一診断と治療の最先端-. 第39回おなか健康シリーズ, 武蔵野市, 2015年5月1日.
- 高橋信一: 酸関連疾患と*H. pylori*除菌の最新の話について. 多摩講演会, 武蔵野, 2015年5月11日.

13. 徳永健吾:ピロリ感染症の実地診療および胃癌リスク検診のピットフォール. 三鷹医師会講演会, 東京, 2015年5月12日.
14. 高橋信一:酸関連疾患と*H. pylori*除菌の最新の話について. 三郷市医師会学術講演会, 三郷, 2015年5月12日.
15. 高橋信一:ピロリ胃炎除菌療法の最前線. 横浜消化器内視鏡医会総会, 横浜, 2015年5月13日.
16. 森秀明:超音波検査の標準化はどこまで進めるのか. 一標準化に対する日本超音波医学会の試み. 第40回日本超音波検査学会. 横浜, 2015年5月17日.
17. Takahashi R, Tokunaga K, Tanaka A, Takahashi S: The marked increase of primary and secondary drug resistance in *Helicobacter pylori* necessitates the establishment of more reliable eradication protocols in Japan. Annual Meeting of the American Gastroenterological Association(DDW2015), USA, May 17th, 2015.
18. Miura M, Saito D, Hayashida M, Takahashi S: Is Double-Balloon Endoscopy Applicable to Elderly Patients?. Digestive Disease Week 2015 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association(DDW2015), USA, May 18th, 2015.
19. Takahashi S, Tokunaga K, Ito M, Mizuno S, Tanaka A, Sakaki N: New sitafloxacin based triple therapy is effective in third-line eradication therapy for *H. pylori* infection: A multicenter clinical trial in Tokyo metropolitan area-. Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (DDW2015), USA, May 19th, 2015.
20. Miura M, Saito D, Hayashida M, Takahashi S: Is Double-Balloon Endoscopy Applicable to Elderly Patients?. Digestive Disease Week 2015 and Annual Meeting of the American Gastroenterological Association(DDW2015), USA, May 18th, 2015.
21. 關里和, 奥山秀平, 塚田幾太郎, 中村一久, 松岡弘泰, 佐藤悦久, 川村直弘, 西川かおり, 森秀明, 高橋信一: 肝硬変に伴う体液貯留に対するトルバプタンの効果予測に関する検討. 第51回日本肝臓学会総会, 熊本, 2015年5月22日.
22. 西川かおり, 塚田幾太郎, 關里和, 倉田勇, 楠原光謙, 森秀明, 高橋信一, 横山政明, 杉山政則, 千葉知宏, 大倉康男: 症例検討(2). 第117回腹部エコー研究会, 東京, 2015年5月23日.
23. 森秀明, 西川かおり, 塚田幾太郎, 關里和, 小樽二世, 本田普久, 峯佳毅, 高橋信一, 岸野智則, 賛田真由美: 腹部領域におけるSMI (Superb Micro-vascular Imaging) の検討. 日本超音波医学会第88回学術集会, 東京, 2015年5月23日.
24. 西川かおり:検査士制度・指導検査士制度の現状と展望. 日本超音波医学会第88回学術集会, 東京, 2015年5月24日.
25. 森秀明, 西川かおり, 関根智紀, 山田博康: 認定超音波検査士取得のための報告書作成時のポイントと注意点ー消化器領域ー. 日本超音波医学会第88回学術集会, 東京, 2015年5月24日.
26. 高橋信一: *H. pylori*除菌の最新の話について. 東村山市医師会学術講演会, 東村山, 2015年5月26日.
27. 高橋信一:酸関連疾患と*H. pylori*除菌の最新の話について. 三鷹市医師会学術講演会, 三鷹, 2015年5月27日.
28. 大野亜希子, 畑英行, 土岐真朗, 高橋信一, 辻陽介, 小田島慎也, 藤城光弘: 当院における大腸ESD導入について. 第15回EMR-ESD研究会, 東京, 2015年5月27日.
29. 齋藤大祐, 桜庭彰人, 三浦みき, 山田雄二, 林田真理, 徳永健吾, 小山元一, 大倉康男, 高橋信一: 当院での導入期におけるCold polypectomyに関する検討. 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月29日.
30. 神保陽子, 土岐真朗, 落合一成, 太田博崇, 新井健介, 渡辺俊介, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 平野和彦, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 大倉康男1, 高橋信一: 当院における転移性胃腫瘍の特徴. 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月29日.
31. 久松理一, 細江直樹, 金井隆典: 非特異性多発性小腸潰瘍症の診断における内視鏡下生検の意味. 第89回日本消化器内視鏡病学会総会, 名古屋, 2015年5月29-31日.
32. 齋藤大祐, 桜庭彰人, 三浦みき, 山田雄二, 林田真理, 徳永健吾, 小山元一, 大倉康男, 高橋信一: 当院での導入期におけるCold polypectomyに関する検討. 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月29-31日.
33. 土岐真朗, 倉田勇, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 新井健介, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 高橋信一: 超高齢者における内視鏡的截手術ハイリスク症例の治療戦略. 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月30日.
34. 田中昭文, 徳永健吾, 土岐真朗, 大倉康男, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 放射線治療が奏功した *H. pylori*陰性胃MALTリンパ腫の3例. 第20回多摩消化管疾患研究会, 東京, 2015年6月6日.
35. 久松理一: 環境の変化は腸疾患にどのような影響を与えたか?. 第24回日本臨床環境医学会学術集会, 東京, 2015年6月6-7日.
36. 高橋信一: 酸関連疾患と*H. pylori*除菌の最新の話について. 海老名消化器内視鏡カンファレンス, 海老名, 2015年6月9日.
37. 木下聡, 飽本哲兵, 南一洋, 相良誠二, 前畑忠輝, 藤本愛, 落合康利, 後藤修, 中村理恵子, 西澤俊宏, 長沼誠, 久松理一, 金井隆典, 矢作直久: 腸管Behcetによる食道気管支瘻に対してネオペールで加療した1例. 第100回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2015年6月13-14日.
38. 田中昭文, 徳永健吾, 土岐真朗, 大倉康男, 森秀明, 高橋信一: 放射線治療が奏功した *H. pylori*陰性胃MALTリンパ腫の3例. 第100回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 東京, 2015年6月14日.
39. 高橋信一: 慢性胃炎の過去, 現在そして未来の診療. 第35回診療に役立つガイドラインセミナー, 東京, 2015年6月17日.
40. Hisamatsu T: Indication of oral and topical 5-ASA: Is it necessary in extensive UC?. Educational Committee Workshop The 3rd Asian Organization for Crohn's and Colitis, China, June 18th 2015.
41. 三浦みき, 林田真理, 齋藤大祐, 桜庭彰人, 山田雄二, 徳永健吾, 小山元一, 高橋信一: ダブルバルーン内視鏡検査で診断した小腸腫瘍の内視鏡像に関する検討. 第43回日本潰瘍学会, 恩納, 2015年6月19日.
42. 中村正彦, Overby Anders, 高橋哲史, 高橋信一, 松井英則: 胃マルトリンパ腫におけるVASH2の関与-その局在およびVEGF拮抗剤投与時の変化-. 第43回日本潰瘍学会, 恩納, 2015年6月19日.
43. 徳永健吾, 田中昭文, 齋藤大祐, 三浦みき, 林田真理, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: *H. pylori*に対する一次および二次薬剤耐性の現状. 第43回日本潰瘍学会, 恩納, 2015年6月19日.
44. 桜庭彰人, 三浦みき, 齋藤大祐, 山田雄二, 林田真理, 小山元一, 高橋信一: 直腸炎型潰瘍性大腸炎の長期経過における口側進展についての検討. 第43回日本潰瘍学会, 恩納, 2015年6月19日.

45. 齋藤大祐, 徳永健吾, 三浦みき, 桜庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 小山元一, 高橋信一: 消化管サイトメガロウイルス感染症における臨床像および内視鏡像の検討. 第43回日本潰瘍学会, 恩納, 2015年6月19日.
46. 森秀明: Dr.MORIの超音波診断—知っておきたい腹部症例—. 東京都臨床検査技師会, 東京, 2015年6月25日.
47. 大崎敬子, 徳永健吾, 米澤英雄, ザマン シンシア, 田中昭文, 北条史, 花輪智子, 高橋信一, 神谷茂: 慢性胃炎患者における胃内細菌叢の16Sメタゲノム解析. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月26日.
48. 徳永健吾, 伊藤慎芳, 水野滋章, 栗原直人, 松久威史, 鈴木雅之, 永原章仁, 浅岡大介, 竹内義明, 小俣富美雄, 川上浩平, 西澤俊宏, 河合隆, 川村洋, 鳥居明, 正岡建洋, 鈴木秀和, 大草敏史, 峯徹哉, 榊信廣, 高橋信一(東京HP研究会): シタフロキサシンを用いた *H. pylori* 三次除菌療法の有用性—東京都内多施設検討—. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月26日.
49. 正岡建洋, 鈴木秀和, 西澤俊宏, 小俣富美雄, 伊藤慎芳, 浅岡大介, 水野滋章, 大草敏史, 川村洋, 徳永健吾, 佐々木仁, 鳥居明, 栗原直人, 松久威史, 鈴木雅之, 永原章仁, 峯徹哉, 河合隆, 榊信廣, 高橋信一(東京HP研究会): 東京都内多施設共同調査における *Helicobacter pylori* 一次・二次除菌率の経年変化 続報. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月27日.
50. Takahashi T, Matsui H, Kawase N, Ishida Y, Overby Anders, Takizawa A, Takahashi S, Nakamura M: Gene expression profiling of mouse host response to *Helicobacter suis* Infection. The 3<sup>rd</sup> International Consensus Symposium on *Helicobacter heilmannii/suis*, Tokyo, June 29th, 2015.
51. Overby Anders, Murayama SY, Matui H, Takahashi T, Takahashi S, Suzuki H, Mabe K, Araki H, Sato Y, Nakamura M: Unexpected high prevalence of *Helicobacter heilmannii*-like organisms in *H. pylori* negative patient with gastric diseases in Japan. The 3<sup>rd</sup> International Consensus Symposium on *Helicobacter heilmannii/suis*, Tokyo, June 29th, 2015.
52. Takahashi S, Tokunaga K, Tanaka A, Matsui H, Fujiwara M, Hisamatu T, Ohkura Y, Nakamura M: Two cases of gastric mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma with *Helicobacter heilmannii* infection. The 3<sup>rd</sup> International Consensus Symposium on *Helicobacter heilmannii/suis*, Tokyo, June 29th, 2015.
53. 高橋信一: 酸関連疾患と *H. pylori* 除菌の最新の話について. 第183回厚木内科集談会 胃がんリスク検診2015〜タケキャブ発売記念〜, 厚木, 2015年6月30日.
54. 徳永健吾: *H. pylori* と胃癌. 第23回Digestive Disease Conference, 武蔵野, 2015年7月1日.
55. 久松理一: 炎症性腸疾患の診断と治療—基本からup to dateな情報まで—. 第23回Digestive Disease Conference, 武蔵野, 2015年7月1日.
56. 高橋信一: 高齢者消化器疾患の特徴. 第18回日本高齢消化器病学会総会, 出雲, 2015年7月10日.
57. 關里和, 西川かおり, 塚田幾太郎, 森秀明, 高橋信一: 当院における高齢者と非高齢者における経皮的ラジオ波焼灼療法についての検討. 第18回日本高齢消化器病学会総会, 出雲, 2015年7月11日.
58. 久松理一: 潰瘍性大腸炎におけるチオプリン製剤の位置づけと使い方. Clinical Practice Seminar on UC, 東京, 2015年7月11日.
59. 渡辺俊介, 土岐真朗, 楠原光謹, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 新井健介, 神保陽子, 大野亜希子, 倉田勇, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 徳永健吾, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 当院における90歳以上の超高齢者における総胆管結石症の治療成績. 第18回日本高齢消化器病学会総会, 出雲, 2015年7月11日.
60. 關里和, 西川かおり, 塚田幾太郎, 森秀明, 高橋信一: 当院における高齢者と非高齢者における経皮的ラジオ波焼灼療法についての検討. 第18回日本高齢消化器病学会総会, 出雲, 2015年7月11日.
61. 田中昭文, 徳永健吾, 高橋信一: 高齢者における *H. pylori* 一次除菌療法—clarithromycin耐性率と除菌率による検討—. 第18回日本高齢消化器病学会総会, 出雲, 2015年7月11日.
62. 土岐真朗, 山口康晴, 高橋信一: 後期高齢者におけるERCP関連手技の抗蠕動薬投与法の工夫. 第18回日本高齢消化器病学会総会, 出雲, 2015年7月11日.
63. 高橋信一: ヘリコバクター胃炎と除菌. 第30回日本消化器内視鏡学会関東セミナー, 東京, 2015年7月12日.
64. 高橋信一: 酸関連疾患と *H. pylori* 除菌の最新の話について. 第7回鹿沼新しい医療を学ぶ会, 鹿沼, 2015年7月14日.
65. 北田修一, 倉田勇, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 新井健介, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 畑英行, 土岐真朗, 山口康晴, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 脾腫瘍との鑑別に苦慮した出血性十二指腸GISTの稀な1例. 第335回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2015年7月18日.
66. 久松理一, 平井郁仁, 松本主之, 小林清典, 長堀正和, 松下光伸, 小林健二, 小金井一隆, 国崎玲子, 岳野光洋, 岸本暢将, 上野文昭, 田中正則: 腸管ペーチェット診療コンセンサスステートメント改訂案の検証. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第1回総会, 東京, 2015年7月23-24日.
67. 久松理一, 仲瀬裕志, 江崎幹宏, 深田憲将, 岡崎和一, 松本主之: 腸管ペーチェットとtrisomy8の関連性の実態査. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第1回総会, 東京, 2015年7月23-24日.
68. 久松理一, 松本主之, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 渡辺守, 日比紀文: Diamond2試験参加施設多施設共同医師主導型臨床研究「アダリムマブと免疫調節剤併用中の寛解クローン病患者における免疫調節剤休薬の検討—Diamond2—. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第1回総会, 東京, 2015年7月23-24日.
69. 久松理一, 中村志郎, 長堀正和, 横山薫, 国崎玲子, 辻川知之, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 渡辺守, 日比紀文: Ceriser試験参加施設インフリキシマブによる寛解維持治療における効果不十分なクローン病患者を対象とした栄養療法併用効果確認試験 (CERISIER Trial). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第1回総会, 東京, 2015年7月23-24日.
70. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとし, 福島若葉, 稲場勇平, 櫻庭裕丈, 遠藤克哉, 勝野達郎, 飯塚文瑛, 福田勝之, 秋山純一, 本田稔, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 安藤朗, 内藤裕二, 岡崎和一, 鎌田紀子, 山上博一, 中村志郎, 上野義隆, 河内修司, 石田哲也, 沼田政嗣, 金城福則, 金城徹, 鈴木康夫, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為比較試験,

Castle Study国内多施設共同試験. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第1回総会, 東京, 2015年7月23-24日.

71. 小林拓, 久松理一, 仲瀬裕志, 平井都仁, 松本主之, 本谷聡, 渡辺憲治, 田中正則, 日比紀文: 多施設共同医師主導型臨床試験「インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究-HAYABUSA」進捗報告. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第1回総会, 東京, 2015年7月23-24日.
72. 緒方晴彦, 細江直樹, 長沼誠, 金井隆典, 久松理一, 梁井俊一, 松本主之: 非特異性多発性小腸潰瘍症の内視鏡像とアトラス作成の試み. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成27年度第1回総会, 東京, 2015年7月24日.
73. 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 久松理一, 河内修司, 青柳邦彦, 渡辺憲治, 松井敏幸, 八尾恒, 松本主之: 非特異性多発性小腸潰瘍症の尿中プロスタグランジン代謝産物濃度について. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成27年度第1回総会, 東京, 2015年7月24日.
74. 久松理一, 島村克好, 金井隆典, 杉浦悠毅: 質量分析法を用いた組織内代謝解析による小腸潰瘍症病態解明. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成27年度第1回総会, 東京, 2015年7月24日.
75. 高橋信一: *H. pylori*除菌療法の最新知見. 第218回栃木県消化器病研究会, 宇都宮, 2015年7月30日.
76. 久松理一: IBDの病態における炎症性サイトカインの働きと抗TNF $\alpha$ 抗体製剤の果たす役割. 第52回日本消化器免疫学会総会, 東京, 2015年7月30-31日.
77. 久松理一, 鈴木宏明, 千葉明子, 徳武美奈, 島村克好, 森清人, 水野慎大, 中本伸宏, 長沼誠, 金井隆典: 解糖系によるIL-10産生型抑制性マクロファージの分化制御. 第52回日本消化器免疫学会総会, 東京, 2015年7月30-31日.
78. 久松理一: 腸管ベーチエットの病態と治療. Influximab Advisory Board Meeting, 東京, 2015年8月4日.
79. 高橋信一: 酸分泌疾患におけるイノベーション- *H. pylori*関連疾患と除菌の過去・現在・未来-. 第75回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会, 甲府, 2015年8月29日.
80. 久松理一: 抗TNF- $\alpha$ 抗体によってIBD治療はどうか変わったか ~適応と安全な使い方~. 第2回多摩Biological Forum, 調布, 2015年9月4日.
81. 西川かおり: 腹部エコーマスター講座 アドバンスドセミナー 胆道・膵臓. アスリード, 東京, 2015年9月6日.
82. 森秀明: 腹部エコーマスター講座 アドバンスドセミナー ドブラ検査・肝臓・脾臓. アスリード, 東京, 2015年9月6日.
83. Hisamatsu T: Nutrition therapy in IBD - basic and clinical studies -. The 3rd academic meeting 2015, Taiwan Association for the Study of Small Intestinal Diseases, Taiwan, September 5th, 2015.
84. 高橋信一: ピロリ菌と胃がんリスク検診. 三鷹市市民公開講座, 三鷹, 2015年9月12日.
85. 徳永健吾, 伊藤慎芳, 田中昭文, 新井健介, 三浦みき, 大野亜希子, 畑英行, 齋藤大祐, 土岐真朗, 林田真理, 久松理一, 高橋信一: ボノプラザンを用いた *H. pylori* 一次~三次除菌療法の検討. 第24回消化器疾患病態治療研究会, 東京, 2015年9月12日.
86. 森秀明: 知っておきたい腹部超音波診断2015. 藤沢医師会消化器病医学会学術講演会. 藤沢, 2015年9月14日.
87. 徳永健吾: 実践! ピロリ除菌~保険適用拡大で何が変わる?. 入間地区・狭山市医師会学術講演会, 狭山, 2015年9月16日.
88. 池崎修, 三浦みき, 齋藤大祐, 八谷隆二, 宮本尚彦, 三井達也, 桜庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 徳永健吾, 小山元一, 森秀明, 久松理一, 正木忠彦, 大倉康男, 高橋信一: 回腸に認めたHIV関連Plasmablastic lymphomaの稀な1例. 第336回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2015年9月26日.
89. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の診断と治療 -基本からトピックスまで-. 下部消化管カンファレンス, 立川, 2015年9月30日.
90. 久松理一: IBD治療において抗TNF- $\alpha$ 抗体製剤がもたらしたものと解決されるべき課題. IBD Influximab Meeting, 富山, 2015年10月1日.
91. 久松理一: 腸管ベーチエットの診療, up-to-date. 第88回IBDミニカンファレンス, 東京, 2015年10月2日.
92. 高橋信一: *H. pylori*と胃がん予防~除菌療法を中心に~. 第9回日本緩和医療薬学会年会, 横浜, 2015年10月4日.
93. 久松理一, 小野信和, 金井隆典: 血漿アミノ酸プロファイル解析による寛解期潰瘍性大腸炎患者の再燃リスク予測. 第57回日本消化器学会 (JDDW 2015), 東京, 2015年10月8-10日.
94. 久松理一: 潰瘍性大腸炎における早期粘膜治癒を達成するために ~タクロリムスを中心に~. 第57回日本消化器学会 (JDDW 2015), 東京, 2015年10月8-10日.
95. 林田真理, 齋藤大祐, 三浦みき, 高橋信一: 低用量アスピリン起因性小腸粘膜障害に対する腸溶性カプセルに充填したエカベトナトリウムの効果についての検討. 健康人を対象とし, カプセル内視鏡を用いた二重盲検, クロスオーバーパイロット試験. 第90回日本消化器内視鏡学会 JDDW 2015, 東京, 2015年10月9日.
96. 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: 過去20年間900株からみた *H. pylori* に対する薬剤感受性試験の変遷と総除菌時代における sitafloxacin の有用性. 第57回日本消化器病学会大会 (JDDW2015), 東京, 2015年10月10日.
97. 徳永健吾: ピロリ感染症と酸関連疾患の薬物療法~NSAIDs潰瘍の薬物療法も含めて-. 第21回東京都整形外科勤務医会, 東京, 2015年10月13日.
98. Hisamatsu T, Ono N, Imaizumi A, Mori M, Suzuki H, Uo M, Hashimoto M, Naganuma M, Matsuoka M, Mizuno S, Kitazume MT, Yajima T, Ogata H, Iwao Y, Hibi T, Kanai T: Decreased Plasma Histidine Level Predicts Risk of Relapse in Ulcerative Colitis. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 16th-19th, 2015.
99. Watanabe S, Toki M, Ota H, Ochiai K, Gondo K, Jimbo Y, Ono A, Kurata I, Hata H, Arai K, Tokunaga K, Yamaguchi Y, Hisamatsu T, Takahashi S: Therapeutic strategy for elderly patients with common bile duct stones who are considered to be high-risk cases for endoscopic lithotripsy. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 18th, 2015.
100. Toki M, Yamaguchi Y, Ota H, Ochiai K, Gondo K, Arai K, Watanabe S, Jimbo Y, Ono A, Kurata I, Hata H, Tokunaga K, Hisamatsu T, Takahashi S: The effectiveness and strategy of glucagon for the

- pre-treatment of ERCP-related procedures. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 19th, 2015.
101. Sakuraba A, Hisamatsu T, Takahashi S: Clinical presentation of gastrointestinal Anisakiasis: A comparison between gastric and small intestinal Anisakiasis. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 19th, 2015.
  102. Tokunaga K, Tanaka A, Matsui H, Fujiwara M, Hisamatsu T, Kawai T, Ohkura Y, Nakamura M, Takahashi S: Two cases of gastric mucosa-associated lymphoid tissue Lymphoma with *Helicobacter heilmannii* infection. Annual Scientific Meeting of the American College of Gastroenterology, USA, October 19th, 2015.
  103. 久松理一: 腸内細菌と炎症性腸疾患 (IBD) . 第43回日本臨床免疫学会総会, 神戸, 2015年10月22-24日.
  104. Ono A, Hata H, Toki M, Mori H, Hisamatsu T, Takahashi S: Usefulness of the nasogastric lavage before emergency endoscopy in the patients with non-variceal upper GI bleeding. United European Gastroenterology Week, Spain, October 26th, 2015.
  105. Hisamatsu T: Anti-TNF agents for intestinal Behçet's disease. - Current situation and future direction in Japan - The 16th Annual Meeting of the Korean Society for Behçet's Disease. Korea, October 30th, 2015.
  106. 久松理一: トランスレーショナルな研究より～病態から治療の有効性を考える～. JSIBD教育セミナー, 東京, 2015年11月3日.
  107. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka A, Nozaki E, Zaman C, Hojo F, Takahashi S, Kamiya S: Managemic analysis for gastric microbiota helicobacters of the patients with chronic gastritis. 2015 CHRO, New Zealand, November 3rd, 2015.
  108. 高橋信一: 薬剤性胃粘膜障害の現状と対策. 第2回三鷹外科・整形外科医療連携ゼミナール, 武蔵野, 2015年11月4日.
  109. 高橋信一: 酸関連疾患におけるイノベーションと新たな治療戦略. Takeda GI Conference in 多摩, 武蔵野, 2015年11月5日.
  110. 久松理一: 潰瘍性大腸炎の診断と治療-基本からピットホールまで. アサコール学術講演会, 長野, 2015年11月6日.
  111. 林田真理, 三浦みき, 池崎修, 三井達也, 齋藤大祐, 桜庭彰人, 小山元一, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 当科における消化管ポリポーシス5例に対する小腸カプセル内視鏡の有用性について. 第53回小腸研究会, 盛岡, 2015年11月7日.
  112. 久松理一, 島村克好, 金井隆典, 高橋信一, 杉浦悠毅: 質量分析法を用いたNSAIDs起因性小腸潰瘍の小腸粘膜PG代謝物の網羅的解析による病態解明と今後の展望. 第53回小腸研究会. 盛岡, 2015年11月7日.
  113. 久松理一: IBDにおける抗TNFα抗体製剤の適応と安全な使い方. 南埼玉IBDセミナー, 新座, 2015年11月11日.
  114. 高橋信一: ピロリ菌除菌療法の現状と今後の展望. 第19回連携登録医全体会議, 久留米, 2015年11月11日.
  115. 奥山秀平: 腎障害を合併したC型慢性肝炎治療. 三鷹市肝炎関連セミナー～今度腎機能障害におけるC型肝炎治療について～, 三鷹, 2016年11月24日
  116. 高橋信一: ヘリコバクター胃炎のA to Z. 射水市医師会学術講演会, 射水, 2015年11月26日.
  117. 久松理一: 炎症性腸疾患とアミノ酸代謝 ～その2～. 第14回多摩炎症性腸疾患研究会, 立川, 2015年11月27日.
  118. 高橋信一: ピロリ菌を除菌してきれいな胃を取り戻そう!. 杏林大学公開講座, 三鷹, 2015年11月28日.
  119. 久松理一: 腸管型ベーチェット病ガイドライン案について. 厚生労働科学研究難治性疾患等政策研究事業ベーチェット病に関する調査研究班 平成27年度第2回会議. 横浜, 2015年12月4日.
  120. 八谷隆二, 奥山秀平, 菊地翁輝, 關里和, 塚田幾太郎, 佐藤悦久, 川村直弘, 西川かおり, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 原発性胆汁性肝硬変と診断後早期に自己免疫性肝炎様の病態を合併し, その後成人型Still病を合併した1例. 第337回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2015年12月5日.
  121. 久松理一: IBDのUP to DATE モニタリングと治療の最新情報. 第106回日本消化器病学会, 第100回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 福岡, 2015年12月5日.
  122. Saito D, Hayashida M, Hisamatsu T, Takahashi S: A comparative study between cold snare polypectomy and hot snare polypectomy for colorectal polyp resection. Asian Pacific Digestive Week 2015, Taiwan, December 5th, 2015.
  123. Ikezaki O, Hayashida M, Hisamatsu T, Takahashi S: Ecabert sodium hydrate can protect small intestinal mucosal damage induced by low dose enteric-coated aspirin A randomized, double blind, crossover study. Asian Pacific Digestive Week 2015, Taiwan, December 5th, 2015.
  124. 菊地翁輝, 齋藤大祐, 池崎修, 三井達也, 三浦みき, 桜庭彰人, 山田雄二, 林田真理, 徳永健吾, 小山元一, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 卵巣癌に対する化学療法中に発症した虚血性大腸炎の1例. 第101回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2015年12月12日.
  125. 倉田勇, 土岐真朗, 楠原光謹, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 新井健介, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: PTGBDルートからのランデブー法で経乳頭的な処置を完遂できた2症例. 第101回日本消化器内視鏡学会関東支部例会, 東京, 2015年12月12日.
  126. 久松理一: 本邦における腸管ベーチェット病診療の課題と今後の展望. IFX最新情報報告会, 東京, 2016年1月20日.
  127. 飯塚文瑛, 新井勝大, 大森鉄平, 鎌田紀子, 国崎玲子, 長堀正和, 長沼誠, 久松理一, 樋田信幸, 鈴木康夫: クロウン病 (CD) 手帳 厚労省班新規作成. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月21-22日.
  128. 久松理一, 井上詠, 渡辺憲治, 谷田諭史, 国崎玲子, 小林清典, 長堀正和, 新井勝大, 内野基, 小金井一隆, 岳野光洋, 上野文昭, 松本主之, 鈴木康夫: 腸管型ベーチェット診療ガイドライン作成プロジェクト (鈴木班・水木班共同プロジェクト). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月21-22日.
  129. 渡辺憲治, 松本主之, 仲瀬裕志, 久松理一, 平井郁仁, 小林清典, 国崎玲子, 長堀正和, 竹内健, 大藤さとし, 福島若葉, 梁井俊一, 稲場勇平, 藤谷幹浩, 櫻庭裕丈, 遠藤克哉, 勝野達郎, 大森鉄平, 飯塚文瑛, 小林拓, 秋山純一, 本田稜, 佐藤公, 佐々木誠人, 谷田諭史, 加賀谷尚史, 馬場重樹, 安藤朗, 内藤裕二, 深田憲将, 岡崎和一, 細見周平, 湯川知洋, 鎌田紀子, 山上博一,



- 飯室正樹, 中村志郎, 長末智寛, 石田哲也, 松本吏弘, 金城福則, 金城徹, 上野義隆, 田中信治, 渡辺知佳子, 穂苺量太, 高橋素真, 進士明宏, 北村和哉, 辻川知之, 鈴木康夫, 日比紀文, 渡辺守: 特殊型炎症性腸疾患におけるアダリムマブとステロイドの前向き無作為化比較試験, Castle Study: 国内多施設共同試験. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月21-22日.
130. 松本主之, 本谷聡, 渡辺憲治, 久松理一, 仲瀬裕志, 吉村直樹, 石田哲也, 加藤真吾, 中川倫夫, 江崎幹宏, 長堀正和, 松井敏幸, 内藤裕二, 金井隆典, 鈴木康夫, 野島正寛, 渡辺守, 日比紀文: クローン病に対するアダリムマブと免疫調節剤併用治療の検討: 解析結果の報告. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月21-22日.
131. 久松理一, 松本主之, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 渡辺守, 日比紀文: Diamond2試験参加施設多施設共同医師主導臨床研究「アダリムマブと免疫調節剤併用中の寛解クローン病患者における免疫調節剤休薬の検討-Diamond2」. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月21-22日.
132. 小林拓, 久松理一, 松本主之, 本谷聡, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 平井都仁, 田中正則, 渡辺守, 日比紀文: 「インフリキシマブ治療によって寛解維持された潰瘍性大腸炎患者に対するインフリキシマブ治療の中止および継続群の寛解維持率比較研究—HAYABUSA study—」進捗状況報告. 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月21-22日.
133. 久松理一, 中村志郎, 長堀正和, 横山薫, 国崎玲子, 辻川知之, 仲瀬裕志, 渡辺憲治, 渡辺守, 日比紀文: Ceriser試験参加施設インフリキシマブによる寛解維持治療における効果不十分なクローン病患者を対象とした栄養療法併用効果確認試験 (CERISIER Trial). 厚生労働科学研究 難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成27年度第2回総会, 東京, 28年1月21-22日.
134. 緒方晴彦, 細江直樹, 長沼誠, 金井隆典, 久松理一, 梁井俊一, 大塚和朗, 松本主之: 非特異性多発性小腸潰瘍症の内視鏡像とアトラス作成の試み(進捗報告). 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月22日.
135. 梅野淳嗣, 江崎幹宏, 久松理一, 河内修司, 青柳邦彦, 渡辺憲治, 松井敏幸, 八尾恒良, 松本主之: 非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候について. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月22日.
136. 久松理一, 島村克好, 金井隆典: SLC02A1免疫染色からみた“CEAS”診断の問題点. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月22日.
137. 久松理一, 島村克好, 金井隆典, 杉浦悠毅: 質量分析法を用いた組織内代謝解析による小腸潰瘍症病態解明(進捗報告). 日本医療研究開発機構委託研究開発費 難治性疾患実用化研究事業「難治性小腸潰瘍の診断法確立と病態解明に基づいた治療法探索」平成27年度第2回総会, 東京, 2016年1月22日.
138. 高橋信一: *H. pylori*陰性のGold standardは?. 第33回 EGMR研究会, 東京, 2016年1月22日.
139. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療の現状について. UCワークショップ2016, 三鷹, 2016年1月27日.
140. 久松理一: 「腸管ペーチェット病の診断と治療」～抗TNF $\alpha$ 抗体製剤の有効性～. 第27回大阪クローン病治療研究会, 大阪, 2016年1月29日.
141. 久松理一: 潰瘍性大腸炎のマネージメント-モニタリングの重要性と最新治療に関するトピックス-. 第18回関西消化器内視鏡懇話会, 大阪, 2016年1月30日.
142. 久松理一: 潰瘍性大腸炎治療における抗TNF $\alpha$ 抗体製剤の位置づけ. Influximab UC効能追加5周年記念講演会 in Kitakyushu, 小倉, 2016年2月4日.
143. 清水孝夫, 奥山秀平, 關里和, 塚田幾太郎, 佐藤悦久, 川村直弘, 西川かおり, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: A型急性肝炎治療期に腹水貯留を来した1例. 第56回三多摩肝臓談話会, 東京, 2016年2月5日.
144. 嶋田隆介, 権藤興一, 倉田勇, 太田博崇, 落合一成, 新井健介, 渡辺俊介, 神保陽子, 大野亜希子, 畑英行, 土岐真朗, 山口康晴, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 急性膵炎を契機に発見された十二指腸乳頭部腺腫の1例. 日本消化器病学会関東支部第338回例会, 東京, 2016年2月6日.
145. 新井健介, 大野亜希子, 尾崎良, 太田博崇, 落合一成, 権藤興一, 渡辺俊介, 神保陽子, 倉田勇, 畑英行, 土岐真朗, 林田真理, 山口康晴, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 十二指腸潰瘍による総胆管十二指腸瘻が自然閉鎖した1例. 日本消化器病学会関東支部第338回例会, 東京, 2016年2月6日.
146. 久松理一: 炎症性腸疾患の病態研究をヒトサンプルを用いて行うことの重要性. 第23回兵庫IBDカンファレンス, 神戸, 2016年2月12日.
147. 久松理一: 潰瘍性大腸炎におけるチオプリン製剤の位置づけと使い方. Clinical Practice Seminar on UC, 東京, 2016年2月13日.
148. 大野亜希子, 新井健介, 畑英行, 土岐真朗, 徳永健吾, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 当院における大腸ESD導入後の治療成績. 第35回多摩消化器シンポジウム, 武蔵野, 2016年2月13日.
149. 久松理一: 日常診療におけるIBDマネージメント-何を指して治療するのか?-. IBD YOUNG SEMINAR, 東京, 2016年2月18日.
150. 塚田美裕, 片元遥香, 種山小栗, 千野貴子, 丹波光子, 小嶋幸一郎, 奥山秀平, 保坂利男, 大浦紀彦: 心臓血管外科手術後患者の栄養管理の検討. 第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 福岡, 2016年2月25日.
151. 久松理一, 島村克好, 細江直樹, 杉浦悠毅, 高橋信一, 金井隆: SLC02A1発現解析を用いた非特異性多発性小腸潰瘍症の診断と病態解明へ. 第12回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2016年2月26-27日.
152. 三井達也, 林田真理, 齋藤大祐, 紅谷鮎美, 三浦みき, 小嶋幸一郎, 桜庭彰人, 山田雄二, 徳永健吾, 小山元一, 正木忠彦, 大倉康男, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: カプセル内視鏡検査が診断の契機となった異所性膵を伴う空腸憩室の1例. 第12回日本消化管学会学術集会, 東京, 2016年2月27日.
153. Tanaka A, Tokunaga K, Mori H, Hisamatsu T, Takahashi S: The status of drug resistant *H. pylori* in past 20 years (1995-2014) and the usefulness of sitafloxacin for *H. pylori* eradication therapy in Japan. The 9<sup>th</sup> International Gastrointestinal Consensus Symposium (IGICS), Tokyo, February 27th, 2016.

154. 林田真理, 三浦みき, 三井達也, 池崎修, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 徳永健吾, 小山元一, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 当院におけるCTで描出されなかった小腸腫瘍についての検討. 第9回日本カプセル内視鏡学会学術集会, 東京, 2016年2月28日.
155. 三浦みき, 林田真理, 三井達也, 池崎修, 齋藤大祐, 櫻庭彰人, 徳永健吾, 小山元一, 森秀明, 久松理一, 高橋信一: 当院におけるパテンシーカプセルの有用性. 第9回日本カプセル内視鏡学会学術集会, 東京, 2016年2月28日.
156. 徳永健吾, 田中昭文, 久松理一, 高橋信一: *H. pylori* 三次除菌療法の検討. 第48回胃病態機能研究会, 東京, 2015年2月28日.
157. 高橋信一: ピロリ菌と格闘の28年. 高橋信一教授退任記念講演会, 武蔵野, 2016年3月1日.
158. 高橋信一: ピロリ菌と胃の病気. セッション健康講演会, 東京, 2016年3月7日.
- 論文**
- 高橋信一: 酸関連疾患と*H. pylori*除菌の最新の話について. 三鷹医人往来 279:29-30, 2015.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: *Helicobacter pylori*感染胃炎総除菌時代に向けて. 日本臨床腸内微生物学会誌 17:44-46, 2015.
  - 森秀明: 最新超音波装置の実力を検証する. 新医療 485:92-95, 2015.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: *H. pylori*除菌療法(一次~三次以降)の実際と課題. 消化器の臨床18: 181-185, 2015.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 久松理一, 高橋信一: *H. pylori*除菌による胃癌予防効果. 腫瘍内科16: 247-253, 2015.
  - 田中昭文, 徳永健吾, 土岐真朗, 森秀明, 久松理一, 大倉康男, 高橋信一: 放射線治療が奏功した*H. pylori*陰性胃MALTリンパ腫の3例. Progress of Digestive Endoscopy 87: 110-111, 2015.
  - 久松理一, 金井隆典: 今後の炎症性腸疾患の新規治療. 特集 炎症性腸疾患診療の最前線. 日本医師会雑誌 144(1): 67-71, 2015.
  - Hisamatsu T, Ono N, Imaizumi A, Mori M, Suzuki H, Uo M, Hashimoto M, Naganuma M, Matsuoka K, Mizuno S, Kitazume MT, Yajima T, Ogata H, Iwao Y, Hibi T, Takanori Kanai T: Decreased Plasma Histidine Level Predicts Risk of Relapse in Patients with Ulcerative Colitis in Remission. PLoS One 10(10): e0140716, 2015.
  - Umeno J<sup>1</sup>, Hisamatsu T<sup>2</sup>, Esaki M, Hirano A, Kubokura N, Asano K, Kochi S, Yanai S, Fuyuno Y, Shimamura K, Hosoe N, Ogata H, Watanabe T, Aoyagi K, Ooi H, Watanabe K, Yasukawa S, Hirai F, Matsui T, Iida M, Yao T, Hibi T, Kosaki K, Kanai T, Kitazono T, Matsumoto T<sup>1</sup>(Kyushu University, <sup>2</sup>Keio University): A Hereditary Enteropathy Caused by Mutations in the SLC02A1 Gene, Encoding a Prostaglandin Transporter. PLoS Genetics 11(11):e1005581, 2015.
  - Kiyohara H, Hisamatsu T, Matsuoka K, Naganuma M, Kameda H, Seta N, Takeuchi T, Kanai T: Crohn's Disease in which the Patient Developed Aortitis during Treatment with Adalimumab. Intern Med 54(14):1725-1732, 2015.
  - Mizuno S, Nakazawa A, Ogawa A, Hisamatsu T, Hirose S, Tsukada N. Periappendicitis during adalimumab treatment for ileocecal Crohn's disease in a 29-year-old male. Clin J Gastroentero 18(3):134-137, 2015.
  - Hiejima E, Kawai T, Nakase H, Tsuruyama T, Morimoto T, Yasumi T, Taga T, Kanegane H, Hori M, Ohmori K, Higuchi T, Matsuura M, Yoshino T, Ikeuchi H, Kawada K, Sakai Y, Kitazume MT, Hisamatsu T, Chiba T, Nishikomori R, Heike T: Reduced Numbers and Proapoptotic Features of Mucosal-associated Invariant T Cells as a Characteristic Finding in Patients with IBD. Inflamm Bowel Dis 21(7):1529-1540, 2015.
  - 久松理一: ベーチェット病の最近の知見 ベーチェット病の腸管病変. リウマチ科 53(6):565-570, 2015.
  - 久松理一: 生物学的製剤が拓くIBD診療の新時代 腸管ベーチェット病に対する抗TNF $\alpha$ 抗体治療. Mebio 32(8):71-77, 2015.
  - 久松理一: Q&A 専門医に聞くIBD 生物学的製剤に免疫調節薬を併用するべきでしょうか? (Q&A). IBD Research 9(3): 225-227, 2015.
  - 久松理一: 消化器疾患と骨・カルシウム代謝 炎症性腸疾患と骨密度減少. Clinical Calcium 25(11): 1639-1644, 2015.
  - 久松理一: 炎症性腸疾患-ファーストタッチから長期マネジメントまで 各種治療薬について知っておくべきこと 免疫調節薬. 内科 116(4):623-627, 2015.
  - 久松理一: 炎症性腸疾患 (IBD) の最新治療抗TNF・抗体と新規Biologics. BIO Clinica 30(14): 1379-1383, 2015.
  - 大友崇, 春原ゆかり, 岡村尚子, 奥田恵子, 杉田真理子, 山下ひとみ, 深澤幸子, 石川祐一, 川村直弘, 鈴木孝知: 肝臓病治療を考える栄養士の会: ウイルス慢性肝炎に対する栄養指導のアルゴリズム作成を目指した管理栄養士に対するアンケート調査. 日本栄養士会雑誌 58:661-670, 2015
  - 塚田美裕(杏林大学医学部附属病院 NST), 種山小栗, 塚田芳枝, 千野貴子, 丹波光子, 小嶋幸一郎, 奥山秀平, 保坂利男, 大浦紀彦: あなたならどう考える? NSTの現場から 肺癌術後, 人工呼吸管理を要した患者に対して栄養介入により経腸栄養から経口摂取へ移行できた一例. 臨床栄養127:123-127, 2015.
  - 三浦みき, 齋藤大祐, 徳永創太郎, 林田真理, 徳永健吾, 大倉康男, 高橋信一: 発熱を契機に診断された小腸内分泌細胞癌の1例. Progress of Digestive Endoscopy 86(1):74-175, 2015.
  - Yang L, Yamamoto K, Nishiumi S, Nakamura M, Matsui H, Takahashi S, Dohi T, Okada T, Kakimoto K, Hoshi N, Yoshida M, Azuma T: Interferon- $\gamma$ -producing B cells induce the formation of gastric lymphoid follicles after *Helicobacter suis* infection. Mucosal Immunol. 8(2):279-295, 2015.
  - 森秀明: 肝. 肝疾患の診断に有用な技術の動向. インナービジョン31(3): 8-10, 2016.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: *Helicobacter pylori* 感染症. 糖尿病診療マスター14:224-225, 2016.
  - 徳永健吾, 田中昭文, 高橋信一: 保険による除菌判定での留意点. *Helicobacter Research* 20:35-38, 2016.
  - 齋藤大祐, 林田真理, 三浦みき, 櫻庭彰人, 徳永健吾, 小山元一, 久松理一, 大倉康男, 高橋信一: 大腸ポリリープ摘除におけるcold snare polypectomyと内視鏡的粘膜切除術の比較検討. Gastroenterological Endoscopy 58(1):32-37, 2016.
  - Fujimori S<sup>1</sup>, Hanada R<sup>2</sup>, Hayashida M, Sakurai T<sup>3</sup>, Ikushima I<sup>2</sup>, Sakamoto C<sup>1</sup>. (<sup>1</sup> Nippon Medical School, <sup>2</sup> Sumida Hospital, <sup>3</sup> National Center for Global Health and Medicine): Celecoxib Monotherapy Maintained Small Intestinal Mucosa Better Compared With Loxoprofen Plus Lansoprazole Treatment. A

Double-blind, Randomized, Controlled Trial. J Clin Gastroenterol 50(3):218-26. 2016.

28. 久松理一：免疫疾患Update 炎症性腸疾患 クロウン病における生物学的製剤治療の最適化. クリニシアン 646(63):133-140, 2016.
29. Naganuma M, Hisamatsu T, Matsuoka K, Kiyohara H, Arai M, Sugimoto S, Mori K, Nanki K, Ono K, Mutaguchi M, Mizuno S, Bessho R, Nakazato Y, Hosoe N, Inoue N, Iwao Y, Ogata H, Kanai T: Endoscopic Severity Predicts Long-Term Prognosis in Crohn's Disease Patients with Clinical Remission. Digestion 93(1):66-71, 2016.
30. 久松理一：炎症性腸疾患のいま 抗TNF $\alpha$ 抗体製剤全盛時代における栄養療法の意義. 医学のあゆみ 256(10):1071-1074, 2016.
31. Sugimoto S, Naganuma M, Kiyohara H, Arai M, Ono K, Mori K, Saigusa K, Nanki K, Takeshita K, Takeshita T, Mutaguchi M, Mizuno S, Bessho R, Nakazato Y, Hisamatsu T, Inoue N, Ogata H, Iwao Y, Kanai T: Clinical Efficacy and Safety of Oral Qing-Dai in Patients with Ulcerative Colitis. A Single-Center Open-Label Prospective Study. Digestion 93(3):193-201, 2016.
32. 倉田勇, 土岐真朗, 楠原光謹, 太田博崇, 権藤興一, 新井健介, 神保陽子, 大野亜希子, 畑英行, 蓮江智彦, 中村健二, 山口康晴, 両角克朗, 森秀明, 久松理一, 高橋信一：PTGBDルートからのランデブー法で経乳頭的な処置を完遂できた2症例. Progress of Digestive Endoscopy 88:168-169, 2016.
33. 田中昭文, 高橋信一：保険診療における胃炎患者の *Helicobacter pylori* 感染診断, 除菌治療の流れ. *Helicobacter Research* 20(1):92-93, 2016.

## 著書

1. 土岐真朗, 高橋信一：疫学とリスクファクター③胃. 食道・胃腫瘍診断. 田尻久雄, 小山恒男編, 東京, 羊土社, 2015. p. 34-37.
2. 土岐真朗, 山口康晴, 高橋信一：急性膵炎. 内科疾患の診断基準病型分類重症度 内科Vol.115 NO.6. 東京, 南江堂, 2015. p. 978-980.
3. 土岐真朗, 森秀明：胆嚢疾患 コレステローシス. これ得納得画像で見ぬく消化器疾患vol.4胆道・膵臓. 糸井隆夫編. 東京, 医学出版, 2015. p.112-113.
4. 久松理一：IBDのモニタリングにおける内視鏡の位置づけ. 実臨床に役立つIBD内視鏡 -診断・モニタリング・サーベイランス-. 日比紀文, 山本博徳監修, 久松理一, 矢野智則編. 東京, 日本メディカルセンター, 2015. p. 56-89.
5. 久松理一：粘膜治癒という概念の重要性と課題. 実臨床に役立つIBD内視鏡 -診断・モニタリング・サーベイランス-. 日比紀文, 山本博徳監修, 久松理一, 矢野智則編. 東京, 日本メディカルセンター, 2015. p. 90-95.
6. 高橋信一：保険診療の実際. ピロリ除菌治療パーフェクトガイド. 榊信廣編著, 東京, 日本医事新報社, 2015. p. 34-38.
7. 徳永健吾：一次・二次除菌治療に失敗したら, 三次除菌. ピロリ除菌治療パーフェクトガイド. 榊信廣編著, 東京, 日本医事新報社, 2015. p. 108-111.
8. 高橋信一：ムカムカ(悪心)・嘔吐. 消化管疾患診療のギモン・シツモン・アンコモン. 高橋信一編. 東京, 日本医事新報社, 2015. p. 1-3.
9. 高橋信一：Mallory-Weiss症候群. 消化管疾患診療のギモン・シツモン・アンコモン. 高橋信一編. 東京, 日本医事新報社, 2015. p. 58-60.
10. 徳永健吾, 高橋信一：食道アカラシア. 消化管疾患診療のギモン・シツモン・アンコモン. 高橋信一編. 東京, 日本医事新報社, 2015. p. 61-63.
11. 高橋信一：胃癌. 今日の診断指針 第7版. 金澤一郎, 永井良三編. 東京, 医学書院, 2015. p. 740-743.
12. 久松理一, 池崎修, 林田真理：好酸球性胃腸炎(含新生児食物蛋白誘発胃腸炎). 日本臨牀 別冊 免疫症候群(第2版) II-その他の免疫疾患を含めて-. 東京, 日本臨牀社, 2016. p. 208-212.

## その他

1. 高橋信一(ラジオ)：ラジオ人間ドック, ニッポン放送, 2015年4月6-10日.
2. 高橋信一(座長)：プレナリーセッション, 第101回日本消化器病学会総会, 仙台, 2015年4月25日.
3. 高橋信一：巻頭言. 臨床消化器内科. 30(4):405-406, 2015.
4. 高橋信一(インタビュー)：胃がん予防とプロバイオティクス. CLINIC BAMB00 410:30-31, 2015.
5. 大野亜希子(座長)：一般演題, 日本消化器病学会関東支部第334回例会, 東京, 2015年5月23日.
6. 高橋信一(座長)：パネルディスカッション, 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月30日.
7. 畑英行(座長)：ポスター, 第89回日本内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月31日.
8. 高橋信一(座長)：シンポジウム, 第43回日本潰瘍学会, 恩納, 2015年6月19日.
9. 高橋信一(インタビュー)：ピロリ菌. クロワッサン 39(12):113, 2015.
10. 川村直弘(コメンテーター)：管理栄養士における分岐鎖アミノ酸製剤の調査. 第17回肝臓治療を考える栄養士の会, 東京, 2015年7月11日.
11. 川村直弘(座談会)：肝硬変治療のパラダイムシフトー肝硬変患者の予後・QOL改善を目指した積極的な肝硬変治療を考えるー. 立川, 2015年7月16日.
12. 高橋信一(インタビュー)：ピロリ菌 検査と除菌, 受けたほうがよいですか?. NHKきょうの健康330:105-109, 2015.
13. 高橋信一(インタビュー)：胃がん「最新攻略法」. 間文春 57(35):34, 2015.
14. 高橋信一(インタビュー)：ピロリ菌の除菌は胃がん予防の第一歩. 毎日が発見 141:36-37, 2015.
15. 高橋信一(司会)：ランチョンセミナー, JDDW 2015, 東京, 2015年10月8日.
16. 高橋信一(司会)：サテライトシンポジウム, JDDW 2015, 東京, 2015年10月8日.
17. 高橋信一(司会)：ブレックファーストセミナー, JDDW 2015, 東京, 2015年10月10日.
18. 川村直弘：肝硬変治療のパラダイムシフトー肝硬変患者の予後・QOL改善を目指した積極的な肝硬変治療を考えるー. Medical Tribune ウェブ版特別企画. 2015年10月29日.
19. 高橋信一(司会)：ランチョンセミナー, 第33回日本大腸検査学会総会, 東京, 2015年11月7日.
20. 高橋信一(司会)：スポンサーードシンポジウム, 第17回日本神経消化器病学会, 恩納, 2015年11月13日.
21. 高橋信一(ラジオ)：腸から始まる健康ライフ, TBSラジオ, 2015年12月7, 14, 18, 25日放送.
22. 高橋信一(インタビュー)：ピロリ菌除菌で胃がん発生を抑制. Clinic magazine 559:28-29, 2016.
23. 高橋信一(特別発言)：ランチョンセミナー, 第31回日本消化器内視鏡学会関東セミナー, 東京, 2016年1月24日.

24. 高橋信一(インタビュー): 菌による病気の最新対策, ピロリ菌. 日経ヘルス 19(3):51, 2016.
25. 高橋信一(インタビュー): 胃の健康. 中央公論 130(3): 210-211, 2016.
26. 川村直弘(座長): 第56回三多摩肝臓談話会. 三鷹, 2016年2月5日.
27. 高橋信一(座長): ワークショップ, 第12回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2016年2月27日.
28. 高橋信一(座長): ランチョンセミナー, 第12回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2016年2月27日.
29. 高橋信一(インタビュー): がんとうイルス・菌. 日経ヘルス 19(4):77, 2016.
30. 久松理一: 免疫調節薬. IBDニュースvol 57, IBD ニュース編集委員会, 東京, NPO 法人 日本炎症性腸疾患協会, 2016.
31. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 570. 95-96, 2015
32. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 574. 93-94, 2015
33. 森秀明: 日経メディクイズ. Nikkei medical 578. 85-86, 2015
15. 近藤琢磨: 糖尿病治療にまつわる, いろいろ ~その対策について~. 第6回小平市医薬連携の会, 小平, 2015年4月22日.
16. 石本麻衣, 炭谷由計, 比佐有紀, 長瀬惟, 盛田久美, 近藤健, 高橋聡, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 勝田秀紀, 田中利明, 保坂利男, 板垣英二, 犬飼浩一, 石田均: 再燃したと考えられたバセドウ病と尿路感染症を契機に診断に至ったACTH単独欠損症の一例. 第88回日本内分泌学会学術集会, 東京, 2015年4月23-25日.
17. 田中利明, 村嶋俊隆, 長瀬惟, 盛田久美, 石本麻衣, 高橋聡, 森田奈瑠, 近藤健, 貞苺利彦, 炭谷由計, 小沼裕寿, 森谷理恵, 五林可織, 高橋和人, 西田進, 保坂利男, 板垣英二, 犬飼浩一, 石田均: 内分泌学的評価を行った周期性ACTH-ADH放出症候群の1例. 第88回日本内分泌学会学術集会. 2015年4月23-25日.
18. Hosaka T, Le CTK, Inukai K, Ishida H: Oral administration of Bifidobacterium spp. improves insulin resistance, induces adiponectin and prevents inflammatory adipokine expressions. Asia congress of Nutrition, Yokohama, May 14th-18th, 2015.
19. Hosaka T: Nutritional Approach for Diabetes and New Era in Diabetes Therapy. Asia congress of Nutrition, Yokohama, May 14th-18th, 2015.
20. 近藤琢磨: インスリン療法へのDPP4阻害薬併用の有用性. Diabetes Academy ~DPP4阻害薬とインスリン併用の意義は?~, 東京, 2015年5月17日.
21. 犬飼浩一, 伊藤大輔, 石田均: 実症例からみたSGLT2阻害薬の有用性. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
22. 岩村元気, 山田祐一郎, 荒木栄一, 石田均, 貴田岡正史, 佐藤謙, 寺内康夫, 矢部大介, 志原伸幸, 清野裕: 混合型インスリン1日2回投与または持効型インスリン1日1回投与におけるインスリン導入の検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
23. 西田進, 鈴木清, 盛田久美, 比佐有紀, 石本麻衣, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 森谷理恵, 炭谷由計, 勝田秀紀, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均: 男性2型糖尿病患者の手中骨では, 骨吸収の亢進に伴い骨量が減少する. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
24. 森谷理恵, 高橋和人, 北原敦子, 炭谷由計, 小沼裕寿, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均: パルミチン酸負荷による骨芽細胞からのVEGF120分泌増大にはPI3K依存性の経路が関与している可能性がある. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
25. 小沼裕寿, 犬飼浩一, 北原敦子, 森谷理恵, 石本麻衣, 高橋聡, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 保坂利男, 石田均: GLP-1受容体アゴニストによるPPAR $\gamma$ 活性化代謝経路の検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
26. 北原敦子, 近藤琢磨, 高橋和人, 村嶋俊隆, 森田奈瑠, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均: 膵 $\beta$ 細胞の酸化ストレス下におけるオートファジー機構の意義とアスタキサンチンの保護作用の検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
27. 高橋和人, 森谷理恵, 北原敦子, 半田桂子, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均: 2型糖尿病における骨代謝異常の増悪・進展機構の解明とそれに対する温熱処理の影響の解析. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.

**第三内科学教室  
(糖尿病・内分泌・代謝内科)**

**講演**

1. 保坂利男: 新規経口血糖降下薬のポジショニングと使い分け. Diabetes Web講演会, WEB m3.com, 2015年4月1日.
2. 保坂利男: 高齢者糖尿病患者におけるDPP4阻害薬のポジショニングと使い分け. 徳島糖尿病治療セミナー2015, 徳島, 2015年4月2日.
3. 保坂利男: 選択的SGLT2阻害薬のポジショニングと安全性. 出雲地区糖尿病治療学術講演会, 出雲, 2015年4月7日.
4. 保坂利男: 選択的SGLT2阻害薬のポジショニングと安全性. 室蘭市医師会学術講演会, 室蘭, 2015年4月9日.
5. 近藤琢磨: 西東京地域CSII普及に関するアンケート結果と当施設の現状. 西東京CSII研究会, 国分寺, 2015年4月9日.
6. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法. 第12回日本内科学会総会, 京都, 2015年4月10-12日.
7. 保坂利男: 新規経口血糖降下薬のポジショニングと使い分け. 飯田, 2015年4月14日.
8. 保坂利男: 照らし出されるSGLT2阻害薬の可能性とポジショニング. 福島Diabetes Meeting, 福島, 2015年4月14日.
9. 石田均: 日本人のための最適な糖尿病食事療法~食品交換表「活用編」を活かした糖尿病食事指導~. 静岡糖尿病治療セミナー, 静岡, 2015年4月15日.
10. 石田均: 日本人にふさわしい糖尿病食事療法を考える. 2型糖尿病の新しい治療を考える会, 富山, 2015年4月16日.
11. 石田均: 日本人の体質に適した糖尿病食事療法. 第19回糖尿病教育者アカデミー (Diabetes Educators Academy), 名古屋, 2015年4月17日.
12. 保坂利男: 照らし出されるSGLT2阻害薬の可能性とポジショニング. 第3回岩見沢糖尿病治療セミナー, 岩見沢, 2015年4月17日.
13. 石田均: 日本人の健康寿命を保つための食事療法を考える. 第13回糖尿病薬・薬連携セミナー, 金沢, 2015年4月19日.
14. 近藤琢磨: 膵 $\beta$ 細胞に優しい糖尿病治療とは?. 北多摩地区糖尿病学術講演会, 武蔵野, 2015年4月21日.

28. 志原伸幸, 山田祐一郎, 荒木栄一, 石田均, 貴岡正史, 佐藤謙, 寺内康夫, 矢部大介, 清野裕: DPP-4阻害薬に関する大規模実態調査-UNITE Study-. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
29. 栗山絹世, 炭谷由計, 須崎由香, 田中耕史, 水石裕, 横山敏彦, 中村未生, 小田浩之, 塚田芳枝, 石本麻衣, 西田進, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均: 携帯型脈拍計を活用した運動指導を2型糖尿病患者に対して実施した際の外来での栄養指導の効果について. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
30. 勝田秀紀, 近藤琢磨, 石本麻衣, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 森谷理恵, 高橋和人, 田中利明, 鈴木清, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均: 2型糖尿病治療別みるプロインスリンプロセシング機構の回復. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
31. 田中耕史, 炭谷由計, 水石裕, 須崎由香, 横山敏彦, 小笠原準悦, 保坂利男, 犬飼浩一, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病患者と対象とした運動療法の処方における心拍数と自覚的強度の関係について. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
32. 須崎由香, 炭谷由計, 田中耕史, 水石裕, 横山敏彦, 小笠原準悦, 保坂利男, 犬飼浩一, 岡島康友, 石田均: 運動療法の継続時間と血糖コントロールの関係についてー携帯型脈拍計を活用した検討ー. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
33. 炭谷由計, 犬飼浩一, 比佐有紀, 盛田久美, 永瀬惟, 石本麻衣, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 田中利明, 勝田秀紀, 西田進, 保坂利男, 石田均: BOTによって治療中の2型糖尿病患者におけるグルルギン投与時とデグルデク投与時の血糖変動の比較. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
34. 石本麻衣, 炭谷由計, 比佐有紀, 盛田久美, 永瀬惟, 近藤健, 高橋聡, 森田奈瑠, 貞莉利彦, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 西田進, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均: 糖尿病患者における血糖コントロールと睡眠時間ならびにその質との関連性について. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
35. 水石裕, 炭谷由計, 須崎由香, 田中耕史, 横山敏彦, 小笠原準悦, 保坂利男, 犬飼浩一, 岡島康友, 石田均: 腕時計型脈拍計を用いた2型糖尿病患者の運動療法導入時強度設定への応用. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
36. 小林庸子, 浅間泉, 高橋久子, 栗山絹世, 永瀬惟, 盛田久美, 村嶋俊隆, 炭谷由計, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均: DPP-4阻害薬の服用症例における血清アミラーゼ値の2年間における変化の検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
37. 保坂利男, Thi Kim Chung Le, 高橋和人, 北原敦子, 小沼裕寿, 炭谷由計, 近藤琢磨, 犬飼浩一, 石田均: 腸内細胞の制御を介するプロバイオティクスの応用による血糖改善効果との機序に関する検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
38. 下田ゆかり, 今野里美, 高橋久子, 矢野悦子, 大沼美穂, 長島香織, 栗山絹世, 塚田美裕, 小林庸子, 炭谷由計, 高橋和人, 勝田秀紀, 田中利明, 西田進, 保坂利男, 犬飼浩一, 石田均: 糖尿病透析予防管理対象者への看護師の療養指導の実践. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
39. 住田崇, 安田重光, 井内卓次郎, 酒井豪太, 保川信行, 保坂利男, 片山茂裕, 栗田卓也: 皮下インスリン抵抗性の一例. 第58回日本糖尿病学会学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
40. 近藤琢磨, 吉田敦行, 盛田路子, 近藤弘子: SGLT2阻害薬投与による体組成の変化と骨代謝への影響. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
41. 石田美樹, 米山恵理, 大沼明里, 三宅志織, 近藤幸子, 近藤弘子, 堀口ハル子, 盛田路子, 近藤琢磨, 斎藤トシ子: 糖尿病患者の食事療法に対する負担感軽減に向けての栄養教育の検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
42. 大沼明里, 三宅志織, 石田美樹, 米山恵理, 近藤幸子, 近藤弘子, 堀口ハル子, 渡辺育代, 盛田路子, 近藤琢磨, 斎藤トシ子: 主食及び野菜重量の目測に基づく糖尿病患者への栄養教育の検討. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-23日.
43. 近藤琢磨: 日常診療におけるSGLT2阻害薬の使い方. 稲城市医師会・多摩市医師会学術講演会〜糖尿病治療 up to date〜, 稲城, 2015年5月27日.
44. 石田均: 日本人の体質に合った糖尿病食事療法. Diabetes Symposium 1st Anniversary〜より良い糖尿病診療の扉を開く〜, 印旛, 2015年5月29日.
45. 保坂利男: 照らし出されるSGLT2阻害薬の可能性とポジショニング. 長野市糖尿病合併症予防研究会2015, 長野, 2015年5月29日.
46. 石田均: 糖尿病食品交換表第7版に準拠した活用編第2版の活かし方. 第1回東京都栄養士大会, 東京, 2015年5月30日.
47. Kuroda M, Okitsu R, Kondo M Nakagawa K Hosaka T Harada N, Sakaue H: ATBP, Adipocyte-specific Tubulin-binding Protein, Can Control Cytoskeletal Structure and Insulin Stimulated Glucose Uptake. American Diabetes Association 75<sup>rd</sup> scientific sessions, USA, June 5th-9th 2015.
48. Sumitani Y, Hosaka T, Susaki Y, Fujisawa Y, Kuriyama K, Tsukada Y, Yokoyama Y, Hasegawa J, Takeuchi J, Ogasawara J, Nishida S, Kondo T, Inukai K, Okajima Y, Ohno H, Ishida H: Clinical Effect of Real-Time Pulse Rate Monitoring with Portable Pulsimeter on Physical Exercise Therapy for Patients with Type 2 Diabetes. American Diabetes Association 75<sup>rd</sup> scientific sessions, USA, June 5th-9th 2015.
49. 保坂利男: SGLT2阻害薬時代の2型糖尿病治療. 第138回八戸糖尿病談話会, 八戸, 2015年6月12日.
50. 保坂利男: 糖尿病療養指導と薬物療法のUP TO DATE. 朝霞地区糖尿病治療懇話会, 朝霞, 2015年6月17日.
51. 保坂利男: 新規経口血糖降下薬のポジショニングと使い分け. 第4回新居浜インクレンチンセミナー, 新居浜, 2015年6月18日.
52. 保坂利男: 照らし出されるSGLT2阻害薬の可能性とポジショニング. 2015年度藤枝地区学術講演会, 藤枝, 2015年6月19日.
53. 石田均: 日本人に相応しい糖尿病食事療法を考える. 真壁医師会学術講演会, 筑西, 2015年6月26日.
54. 石田均: 眼科と内科の新たな連携を考えるーチーム医療の重要性も含めてー. Ophthalmic Diabetology Conference in HIROSHIMA (OD Conference), 広島, 2015年6月27日.
55. 保坂利男: 一年たった今考えるSGLT2阻害薬の可能性とポジショニング. 第4回府中臨床懇話会, 府中, 2015年6月30日.
56. 近藤琢磨: 膵β細胞内で機能する転写因子からみた糖尿病の病態とその治療戦略. 14<sup>th</sup> Gakugei Round Table Meeting, 東京, 2015年6月30日.
57. 保坂利男: 照らし出されるSGLT2阻害薬の可能性とポジショニング. 木更津Diabetes Symposium2016, 木更津, 2015年7月1日.

58. 近藤琢磨:体系的な血糖測定と日常診療への活用法. 三鷹DMWS ロシユ研究会〜糖尿病治療 up to date〜, 三鷹, 2015年7月2日.
59. 石田均:日本人にふさわしい糖尿病食事療法—糖尿病食品交換表(第7版)および活用編(第2版)の活かし方—. 第14回日本Glycemic Index研究会, 東京, 2015年7月5日.
60. 小沼裕寿:ドーパミン産生性paragangliomaの1例. 第72回多摩内分泌代謝研究会, 武蔵野, 2015年7月8日.
61. 石田均:日本人の体質に合った糖尿病食事療法. 第2回北多摩糖尿病ネットワーク, 清瀬, 2015年7月14日.
62. 近藤琢磨:2型糖尿病における経口血糖降下薬の効果的な使い方. 町田市医師会学術講演会, 町田, 2015年7月24日.
63. 石田均:日本人のための最適な糖尿病食事療法〜食品交換表「活用編第2版」を活かした食事療法〜. 第4回CST研究会, 武蔵野, 2015年7月25日.
64. 近藤琢磨:DPP4阻害薬を含めた2型糖尿病治療の再考. 第5回三鷹DPP4阻害剤研究会, 三鷹, 2015年7月28日.
65. 保坂利男:ピグアナイド剤(メトフォルミン)とDPP4併用の有用性について. The Diabetes Forum 2015, 東京, 2015年8月2日.
66. 保坂利男:SGLT2阻害薬を活かした糖尿病治療と食事療法. 西多摩糖尿病FORUM, 羽村, 2015年8月5日.
67. 石田均:日本人に最適な糖尿病食事療法とは?. 中東遠糖尿病療養指導研究会特別講演会, 掛川, 2015年8月22日.
68. 保坂利男:SGLT2阻害薬を活かした糖尿病治療と食事療法. 芳賀郡市医師会学術講演会, 芳賀, 2015年8月27日.
69. 近藤琢磨:日常診療におけるSGLT2阻害薬の使い方. 糖尿病治療を考える会 in 滝野川, 東京, 2015年8月27日.
70. 石田均:食事の中の炭水化物の意義を考える. 38<sup>th</sup> Diabetes Forum, 岡山, 2015年9月9日.
71. 近藤琢磨:2型糖尿病治療におけるSGLT2阻害薬の役割. TAMA Mets 2015, 小平, 2015年9月10日.
72. Sumita T, Hosaka T, Iuchi T, Sakai G, Yasuda S, Katayama S, Inoue I: The rapid subcutaneous injection of insulin lispro mixed with heparin improves dramatically the blood glucose levels of a patient with subcutaneous insulin resistance. 2015 European Association for the Study of Diabetes, Sweden, September 14th-18th 2015.
73. 保坂利男:糖尿病療養指導と薬物絵療法のUP TO DATE. これからの糖尿病治療を考える会in十和田, 十和田, 2015年9月17日.
74. 保坂利男:糖尿病療養指導と薬物絵療法のUP TO DATE. 高齢者の糖尿病治療を考える会, 松本, 2015年9月18日.
75. 石田均:日本人の健康長寿を保つ秘訣とは—食事からのアプローチ—. 第16回糖尿病予防講演会, 府中, 2015年9月26日.
76. 近藤琢磨:DPP4阻害薬を含めた2型糖尿病治療の再考. 西多摩医師会学術講演会, 青梅, 2015年10月1日.
77. 保坂利男:高齢2型糖尿病患者における療養指導とDPP-4阻害薬のポジショニング. Diabetes Web講演会, WEB m3.com, 2015年10月2日.
78. 近藤琢磨:日常診療におけるSGLT2阻害薬の使い方. 第2回糖尿病治療セミナー, 調布, 2015年10月2日.
79. 石田均:食事のなかの炭水化物の意義を考える. 第89回日本糖尿病学会中部地方会, 静岡, 2015年10月4日.
80. 石田均:食事のなかの炭水化物の意義を考える. 糖尿病治療を考える会, 千葉, 2015年10月6日.
81. 近藤琢磨:日常診療におけるSGLT2阻害薬の使い方. 世田谷糖尿病医療連携セミナー, 東京, 2015年10月13日.
82. 近藤琢磨:糖尿病治療薬の使い方と活かし方. 第3回糖尿病三位一体セミナー, 武蔵野, 2015年10月16日.
83. 近藤琢磨:MaF転写因子群を介した膵β細胞の機能調節. 第159回内分泌セミナー, 東京, 2015年10月17日.
84. 近藤健, 炭谷由計, 鶴久大介, 佐々木有紀, 七条裕孝, 澤井梓, 箕輪久美, 永瀬惟, 石本麻衣, 石飛実紀, 高橋聡, 小沼裕寿, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均:エボプロステノール使用中に甲状腺機能亢進症を合併した特発性肺高血圧症の一例. 第43回内分泌代謝研究会, 東京, 2015年10月17日.
85. 保坂利男:SGLT2阻害薬を活かした糖尿病治療と食事療法. 千葉市糖尿病治療セミナー2015, 千葉, 2015年10月22日.
86. 石田均:日本人のための糖尿病食事療法を考える—食事のなかの炭水化物の意義—. 松山内科会講演会, 松山, 2015年10月24日.
87. 保坂利男:高齢糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬ポジショニング. 第9回日本腎臓病薬物療法学会, 仙台, 2015年10月24日.
88. 石田均:日本人の健康寿命を保つための食事療法. 第30回倉敷糖尿病合併症研究会, 倉敷, 2015年10月27日.
89. 近藤琢磨:SGLT2阻害薬の処方経験から見えてきたこと. SGLT2 Conference in 多摩, 武蔵野, 2015年10月27日.
90. 近藤琢磨:日常診療におけるSGLT2阻害薬の使い方. むつ下北医師会学術講演会, むつ, 2015年10月30日.
91. 石田均:日本人のための糖尿病食事療法とその将来への展望. 糖尿病市民公開講座, 沼津, 2015年10月31日.
92. 鶴久大介, 炭谷由計, 近藤健, 箕輪久美, 佐々木有紀, 七条裕孝, 澤井梓, 永瀬唯, 石本麻衣, 石飛実紀, 高橋聡, 小沼裕寿, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 渡辺俊介, 倉田勇, 小松原弘一郎, 丸山啓介, 石田均:過剰なコルチゾールと多発脊椎骨折のため使用したNSAIDが原因と考えられる出血性胃潰瘍を繰り返したクッシング病の一例. 第13回多摩視床下部研究会, 武蔵野, 2015年11月6日.
93. 保坂利男:SGLT2阻害薬を活かした糖尿病治療と食事療法. 第3回SANTA CONFERENCE, 神戸, 2015年11月7日.
94. 保坂利男:栄養量における糖に関する深い話. 第17回多摩NST研究会, 武蔵野, 2015年11月10日.
95. 近藤琢磨:日常診療におけるSGLT2阻害薬の使い方. 西多摩地区糖尿病と合併症予防の為の講演会, 昭島, 2015年11月18日.
96. 近藤琢磨:将来への展望. 第29回多摩糖尿病チーム医療研究会, 小平, 2015年11月19日.
97. 高橋久子, 下田ゆかり, 栗山絹世, 塚田美裕, 小林庸子, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 西田進, 保坂利男, 石田均:妊娠糖尿病診断時における妊婦と家族への助産支援の一考察. 第31回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会, 東京, 2015年11月20-21日.
98. 鶴久大介, 炭谷由計, 近藤健, 箕輪久美, 佐々木有紀, 七条裕孝, 澤井梓, 永瀬惟, 石本麻衣, 石飛実紀, 高橋聡, 小沼裕寿, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 渡辺俊介, 倉田勇, 小松原弘一郎, 丸山啓介, 石田均:過剰なコルチゾールと多発脊椎骨折のため使用したNSAIDが原因と考えられる出血性胃潰瘍を繰り返したクッシング病の一例. 第44回杏林医学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
99. 石田均:糖尿病食事療法における炭水化物の意義. 生活習慣病フォーラム—病態栄養学から考える糖尿病治療—, 札幌, 2015年11月25日.
100. 石田均:食事のなかの炭水化物の意義を考える. 第53回日本糖尿病学会九州地方会, 福岡, 2015年11月27日.

101. 高橋和人, 北原敦子, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 2型糖尿病における骨代謝異常増悪・進展に關する分子機構の解明ならびにそれに対する温熱処理の影響の検討. 第30回日本糖尿病合併症学会総会・第21回日本糖尿病眼学会総会, 名古屋, 2015年11月27-28日.
102. 西田進, 鈴木清, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 北原敦子, 小沼裕寿, 炭谷由計, 高橋和人, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 男性2型糖尿病の皮質骨骨量減少とその機序に關する臨床的検討-ポリオール経路の亢進と高LDL-C血症が骨代謝機構に及ぼす影響-. 第30回日本糖尿病合併症学会総会・第21回日本糖尿病眼学会総会, 名古屋, 2015年11月27-28日.
103. 尾形真樹, 新井千賀子, 鶴澤亮, 井上真, 平形明人, 石田均: 重篤な視力予後が予測される増殖糖尿病網膜症手術例のロービジョンケア. 第30回日本糖尿病合併症学会総会・第21回日本糖尿病眼学会総会, 名古屋, 2015年11月27-28日.
104. 保坂利男: 進展する糖尿病療養指導と治療. 第30回日本合併症学会総会・第21回日本糖尿病眼学会総会, 名古屋, 2015年11月27-28日.
105. 保坂利男: SGLT2阻害薬のポジショニング. 第2回糖尿病治療を考える会 in 西東京, 西東京, 2015年12月1日.
106. 近藤琢磨: 糖尿病薬物療法におけるSGLT2阻害薬の役割. 多摩地区学術講演会 進化する糖尿病治療を考える会, 調布, 2015年12月2日.
107. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法. 久留米糖尿病の集い, 久留米, 2015年12月3日.
108. 近藤琢磨: 日常診療におけるSGLT2阻害薬の使い方. 糖尿病カンファレンス in 池袋, 東京, 2015年12月4日.
109. 石田均: 日本人の体質にあった糖尿病食事療法. 食事を通して糖尿病治療を考える会, 京都, 2015年12月11日.
110. 保坂利男: 定石の1剤メトホルミン〜新知見による有効性, 容量依存性効果と安全性〜. メトホルミンファーマシーセミナー in 小金井, 小金井, 2015年12月15日.
111. 栗山網世, 炭谷由計, 菊地俊暁, 森千夏, 須崎由香, 塚田芳枝, 石田均: 肥満糖尿病患者の講堂変容に対して多職種によるチームアプローチを実施した1症例について. 第19回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2016年1月9-10日.
112. 保坂利男, Chung Le Thi Kim, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 高橋和人, 北原敦子, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 石田均: プロバイオティクスとしてのビフィズス菌投与後の血糖改善効果とその機序に關する検討. 第19回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2016年1月9-10日.
113. 北原敦子, 近藤琢磨, 高橋和人, 森田奈瑠, 村嶋俊隆, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 西田進, 保坂利男, 石田均: 膵β細胞の酸化ストレスにおけるオートファジー機構の意義とアスタキサンチンの保護作用の検討. 第19回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2016年1月9-10日.
114. 志原伸幸, 山田祐一郎, 荒木栄一, 石田均, 貴岡正史, 佐藤謙, 寺内康夫, 矢部大介, 清野裕: DPP-4阻害薬の効果維持における体重管理の重要性-UNITE Study-. 第19回日本病態栄養学会年次学術集会, 横浜, 2016年1月9-10日.
115. 石田均: 糖尿病食事療法での炭水化物の意義を考える. 第76回さがみ糖尿病カンファレンス, 相模原, 2016年1月15日.
116. 保坂利男: 進展する2型糖尿病治療. 三鷹市薬剤師会学術講演会, 三鷹, 2016年1月20日.
117. 澤井梓, 近藤琢磨, 高橋和人, 石本麻衣, 箕輪久美, 七条裕孝, 鶴久大介, 炭谷由計, 小沼裕寿, 保坂利男, 石田均: リラグルチドでNAFLDが改善したPrader-Willi症候群 (PWS) の1例. 第53回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2016年1月23日.
118. 鶴久大介, 炭谷由計, 箕輪久美, 近藤健, 七条裕孝, 澤井梓, 小沼裕寿, 田中利明, 近藤琢磨, 保坂利男, 石田均: 先端巨大症の術後に治療を中断し, 18年後に緊急CABG施行となった二次性糖尿病の一例. 第53回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2016年1月23日.
119. 永瀬惟, 保坂利男, 澤井梓, 石飛実紀, 小沼裕寿, 炭谷由計, 田中利明, 西田進, 近藤琢磨, 石田均: 血糖コントロール高値に比してHbA1c低値から診断に至った異常ヘモグロビン症の1例. 第53回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2016年1月23日.
120. 高橋奈央, 東海俊史, 三橋順子, 池田和穂, 田中直見, 田中利明, 西田進, 石田均: 当院における初診時から1年間の糖尿病栄養指導における臨床的效果(2). 第53回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2016年1月23日.
121. 近藤琢磨: Maf転写因子群を介した膵β細胞の機能調節. 分泌セミナー in 千葉, 千葉, 2016年2月5日.
122. 近藤琢磨: 糖尿病診療に必要な知識・短期強化インスリン療法は是非. 第50回日本糖尿病学の進歩, 東京, 2016年2月19-20日.
123. 田中利明, 板垣英二, 小沼裕寿, 森谷理恵, 石飛実紀, 石本麻衣, 近藤健, 炭谷由計, 西田進, 近藤琢磨, 保坂利男, 森井健司, 菅間博, 石田均: 腫瘍切除後に再発と両側肺転移を来した腫瘍性骨軟化症の1例. 第73回多摩内分泌代謝研究会, 立川, 2016年2月24日.
124. 保坂利男: 高齢2型糖尿病患者におけるDPP-4阻害薬のポジショニングと使い分け. Diabetes WEB講演会, WEB, 2016年2月24日.
125. 塚田美裕, 片元遥香, 種山小栗, 千野貴子, 丹波光子, 小嶋幸一郎, 奥山秀平, 保坂利男, 大浦紀彦: 心臓血管外科手術後患者の栄養管理の検討. 第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 福岡, 2016年2月25-26日.
126. 石田均: 眼科と内科の新たな連携-糖尿病療養指導チームの役割も含めて-. 第1回糖尿病眼合併症内科眼科連携研究会, 武蔵野, 2016年2月26日.
127. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法を考える. 平成27年度愛知県糖尿病対策推進会議学術講演会, 名古屋, 2016年2月27日.
128. 石田均: 食事から日本人の健康長寿を保つための秘訣を考える. 平成27年度北多摩北部保健医療圏糖尿病ネットワーク都民公開講座, 西東京, 2016年3月6日.
129. 近藤琢磨: インクレチン関連薬と膵β細胞〜基礎から臨床まで〜. 第7回最新プライマリ医療研究会, 立川, 2016年3月8日.
130. 近藤琢磨: 2型糖尿病の新しい治療戦略. 糖尿病治療懇話会, 三鷹, 2016年3月16日.
131. 保坂利男: SGLT2阻害薬を活かした糖尿病治療と食事療法. 第3回赤穂糖尿病と肝臓UP to Date, 赤穂, 2016年3月18日.
132. 石田均: 日本人の健康寿命を保つために一食事療法からのアプローチ. 第21回三重糖尿病を考える会, 津, 2016年3月26日.
133. 保坂利男: 2型糖尿病治療でSGLT2阻害薬をどう使えばいいのか!?. 坂戸市医師会学術講演会, 坂戸, 2016年3月29日.

## 論文

1. Hirota K, Keino H, Inoue M, Ishida H, Hirakata A: Comparisons of microRNA expression profiles in vitreous humor between eyes with macular hole and eyes with proliferative diabetic retinopathy.

- Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 253:335-342, 2015.
2. Katsuta H, Ozawa S, Suzuki K, Takahashi K, Tanaka T, Sumitani Y, Nishida S, Kondo T, Hosaka T, Ishida H: The association between impaired proinsulin processing and type 2 diabetes mellitus in non-obese Japanese individuals. *Endocr J* 62(6):485-492, 2015.
  3. Ogasawara J, Izawa T, Sakurai T, Shirota K, Ishibashi Y, Ohira Y, Ishida H, Ohno H, Kizaki T: Habitual exercise training acts as a physiological stimulator for constant activation of lipolytic enzymes in primary white adipocytes. *Biochem Biophys Res Commun* 464:348-353, 2015.
  4. Iuchi T<sup>1</sup>, Hosaka T, Shiroishi M<sup>2</sup>, Ono H<sup>1</sup>, Inukai K, Sumita T<sup>1</sup>, Sakai G<sup>1</sup>, Katayama S<sup>1</sup>, Awata T<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Saitama Medical University Hospital, <sup>2</sup>AgriculturalTechnology Institute of Nagano Farmers' Federation). Influence of treatment with extracts of *Hypsizygus marmoreus* mushroom on body composition during obesity development in KK-Ay mice. *J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo)* 61(1):96-100, 2015.
  5. Sumitani Y, Hosaka T, Susaki Y<sup>1</sup>, Fujisawa Y<sup>2</sup>, Kuriyama K<sup>3</sup>, Tsukada Y<sup>3</sup>, Yokoyama T<sup>4</sup>, Ogasawara J<sup>5</sup>, Nishida S, Inukai K, Okajima Y<sup>6</sup>, Ohno H<sup>7</sup>, Ishida H (<sup>1</sup> Kyorin University Hospital, Department of Rehabilitation, <sup>2</sup>Kyorin University, Department of Physical Therapy, <sup>3</sup>Kyorin University Hospital, Department of Clinical Nutrition, <sup>4</sup>Seiko Epson, Planning & Design Department, <sup>5</sup>Kyorin University, Department of Molecular Predictive Medicine and Sport Science, <sup>6</sup>Kyorin University, Department of Rehabilitation Medicine, <sup>7</sup>Higashiyama Hospital): Clinical effect of real time pulse rate monitoring with portable pulsimeter on physical exercise therapy for male patients with type 2 diabetes. *Diabetology International* 7(3):228-234, 2016.
  6. Nomoto H, Kondo T, Miyoshi H, Nakamura A, Hida Y, Yamashita KI, Sharma AJ, Atsumi T: Inhibition of small Maf function in pancreatic beta cells improves glucose tolerance through the enhancement of insulin gene transcription and insulin secretion. *Endocrinology* 156:3570-3580, 2015.
  7. Nomoto H, Miyoshi H, Furumoto T, Oba K, Tsutsui H, Miyoshi A, Kondo T, Tsuchida K, Atsumi T, Manda N, Kurihara Y, Aoki S: A Comparison of the Effects of the GLP-1 Analogue Liraglutide and Insulin Glargine on Endothelial Function and Metabolic Parameters: A Randomized, Controlled Trial Sapporo Athero-Incretin Study 2 (SAIS2). *PLoS One* 10: e0135854, 2015.
  8. 石田均: 日本人のための糖尿病食事療法. 日本内科学会雑誌104(9):1993-2000, 2015.
  9. 石田均: 眼科と内科の新たな連携—糖尿病療養指導チームの役割とその重要性も含めて—. 日本糖尿病眼学会雑誌20:1-7, 2015.
  10. 石田均: 日本人の体質に合った糖尿病食事療法. 東京都医師会雑誌 68(4):313-319, 2015.
  11. 勝田秀紀, 石田均: 2型糖尿病の指標としてのプロインスリン. 微研ジャーナル38(4):9-15, 2015.
  12. 石田均: 食品交換表第7版の変更点とその意義—その活用編第2版の活かし方も含めて—. 日本臨床(増刊1):457-461, 2016.
  13. 石田均: 眼科と内科の新たな連携—糖尿病療養指導チームの役割とその重要性も含めて—. あたらしい眼科 33(2):251-257, 2016.
  14. 石田均: 「食品交換表」第7版への改訂から眺めた正しい糖質調整食. 内分泌・糖尿病・代謝内科42(2):97-103, 2016.
  15. 塚田美裕<sup>1</sup>, 種山小栗<sup>1</sup>, 塚田芳枝<sup>1</sup>, 千野貴子<sup>1</sup>, 丹波光子<sup>1</sup>, 小嶋幸一郎<sup>1</sup>, 奥山秀平<sup>1</sup>, 保坂利男, 大浦紀彦<sup>1</sup>(<sup>1</sup>杏林大・NST): 肺癌術後, 人工呼吸管理を要した患者に対して栄養介入により経腸栄養から経口摂取へ移行できた一例, 臨床栄養, 127(1):123-127, 2015.
- 著書**
1. 石田均, 福井道明: 3. 食事療法. 糖尿病学. 門脇孝, 荒木栄一, 稲垣暢也, 植木浩二郎, 羽田勝計, 綿田裕孝編集. 東京, 西村書店, 2015. p. 331-338.
  2. 西田進, 石田均: 1型糖尿病と骨折リスク. ファルマナビゲーター糖尿病と骨代謝編. 松本俊夫, 杉本利嗣編集. 東京, メディカルレビュー社, 2015. p. 86-94.
  3. 近藤琢磨, 石田均: Carney症候群 小児科診療 79巻増刊号241. 東京, 診断と治療社, 2016.
  4. 板垣英二: Simple Step 内分泌・代謝. 東京, 海馬書房, 2016.
  5. 石田均: III. 食事療法2. 「食品交換表」の活用. 糖尿病最新の治療2016-2018. 羽田勝計, 門脇孝, 荒木栄一編集. 東京, 南江堂, 2016. p. 88-91.
  6. 石田均: チーム医療・ケアに携わる関連専門職の一員としての責務—糖尿病チームで管理栄養士が果たす役割とは. 導入教育第2版: 信頼される専門職となるために. 日本栄養改善学会監修. 伊達ちぐさ, 木戸康博編. 東京, 医歯薬出版, 2016. p. 111-116.
  7. 石田均: 健康長寿を目指した食生活の基本—食事のなかの炭水化物の意義. 第22回講演会記録「食と健康」. 東京, 食生活研究会, 2015. p. 31-52.
  8. 保坂利男: どうする? 糖尿病患者さんの栄養療法と経腸栄養. 経腸栄養の基礎シリーズ6 パンフレット. 東京, ジェフコーポレーション, 2015.
- 腫瘍内科学教室**
- 講演**
1. 古瀬純司: 膀胱化学療法の新時代へ. 第4回鹿児島パンクレアセミナー, 鹿児島, 2015年4月10日.
  2. 長島文夫: 高齢者がんに対する総合的機能評価. 第18回オンコロジーセミナー, 東京, 2015年4月11日.
  3. 古瀬純司: 膀胱化学療法の新時代へ. 第15回新潟DIF研究会, 新潟, 2015年5月8日.
  4. 古瀬純司: 膀胱化学療法の新時代へ. 第51回香川膀胱疾患研究会, 高松, 2015年5月9日.
  5. 長島文夫: 高齢者がん研究の考え方と診療におけるGeriatric Assessment. 第2回京滋がん薬物療法懇話会, 京都, 2015年5月22日.
  6. Ikeda M, Shimizu S, Sato T, Morimoto M, Inaba Y, Kojima Y, Hagihara A, Kudo M, Nakamori S, Kaneko S, Sugimoto R, Tahara T, Ohmura T, Yasui K, Sato K, Ishii H, Furuse J, Okusaka T: Sorafenib plus intra-arterial cisplatin versus sorafenib alone in patients with advanced hepatocellular carcinoma: A randomized phase II trial. *American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2015, USA, May 29th, -June 2nd, 2015.*
  7. Fukutomi A, Mizusawa J, Katayama H, Nakamura S, Ito Y, Hiraoka N, Ioka I, Ueno M, Ikeda M, Sugimori K, Shimizu K, Okusaka T, Ozaka M, Yanagimoto H, Nakamori S, Azuma T, Hosokawa A, Sata N, Mine T,



- Furuse J: Randomized phase II study of S-1 and concurrent radiotherapy with versus without induction chemotherapy of gemcitabine for locally advanced pancreatic cancer (JCOG1106). American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2015, USA, May 29th, -June 2nd, 2015.
8. Morizane C, Machida N, Honma Y, Okusaka T, Boku N, Kato K, Mizusawa J, Katayama H, Hiraoka N, Taniguchi H, Ikeda M, Shibuya Y, Hosokawa A, Mizuno N, Sano T, Tsuda M, Yokosuka O, Kitagawa Y, Sasako M, Furuse J: Randomized phase III study of etoposide plus cisplatin versus irinotecan plus cisplatin in advanced neuroendocrine carcinoma of the digestive system: A Japan Clinical Oncology Group study (JCOG1213). American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2015, USA, May 29th, -June 2nd, 2015.
  9. Unno M, Motoi F, Kosuge T, Ueno H, Yamaue H, Satoi S, Sho M, Honda G, Matsumoto I, Wada K, Furuse J, Furukawa T, Ishida K, Takase K, Matsuyama Y, Nakagawa K, Katayose Y: Randomized phase II/III trial of neoadjuvant chemotherapy with gemcitabine and S-1 versus surgery-first for resectable pancreatic cancer (Prep-02/JSAP05). American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2015, USA, May 29th, -June 2nd, 2015.
  10. Kunieda K, Makiyama A, Noguchi M, Kajiwara T, Tamura T, Takeda K, Tsuji Y, Minashi K, Moriwaki T, Sugimoto N, Nagase M, Negoro Y, Tsuda T, Shimodaira H, Okano N, Sakai D, Yanagihara K, Boku N, Hyodo I, Esaki T: Multicenter retrospective analysis for elderly patients with advanced gastric cancer (AGC) received first-line chemotherapy in clinical practice. American Society of Clinical Oncology Annual Meeting 2015, USA, May 29th, -June 2nd, 2015.
  11. 古瀬純司: 肝胆膵癌の化学療法up-date: 進行中のRCT解説: 化学療法・臨床試験・IVR・画像診断のup-date. 第27回日本肝胆膵外科学会, 東京, 2015年6月12日.
  12. 吳屋朝幸, 田中良典, 井上俊之, 藤澤節子, 菊谷武, 佐野広美, 長島文夫: 大都市近郊での地域連携: 東京地域の在宅医療・緩和ケアカンファレンス活動報告. 日本医療マネジメント学会, 大阪, 2015年6月12日.
  13. 岡野尚弘, 成毛大輔, 春日章良, 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司: FOLFIRINOX保険承認前後での治療法の変遷と実地診療でのFOLFIRINOXの使用状況. 第46回日本膵臓学会大会, 名古屋, 2015年6月19日.
  14. 井岡達也, 上野秀樹, 池田公史, 上野誠, 水野伸匡, 古瀬純司: 切除不能進行・再発膵癌患者に対する nab-paclitaxel+ Gemcitabine療法第I/II相試験. 第46回日本膵臓学会大会, 名古屋, 2015年6月19日.
  15. 小川朝生, 長島文夫, 濱口哲弥: 認知症をもつがん患者の治療に関する治療医・緩和ケアチームの意向調査. 日本緩和医療学会学術大会, 横浜. 2015年6月20日.
  16. 古瀬純司: 肝癌の薬物療法. 第4回香川肝がん分子標的治療研究会, 高松, 2015年6月23日.
  17. 古瀬純司: がん治療の最前線. 三鷹市市民大学事業総合コース「科学」, 三鷹, 2015年6月27日.
  18. 長島文夫, 成毛大輔, 岡野尚弘, 北村浩, 春日章良, 河合桐男, 古瀬純司: 高齢者の外科代謝 - 高齢者に対する外科的治療は本当に適切か?. 日本外科代謝栄養学会第52回学術集会, 東京, 2015年7月3日.
  19. Furuse J: Current status and future perspectives in treatment for pancreatic cancer. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, Sapporo, 2015年7月16日.
  20. 小室泰司, 上野秀樹, 池田公史, 上野誠, 水野伸匡, 井岡達也, 中島貴子, 古瀬純司: 切除不能進行・再発膵癌患者に対する nab-Paclitaxel+ Gemcitabine療法第I/II相試験: 追加解析. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 札幌, 2015年7月16日.
  21. Hamamoto Y, Nagase M, Egawa S, Ueno H, Ohkawa S, Funakoshi A, Nakamori S, Kanai M, Ohashi Y, Furuse J: Prognostic index model for overall survival in advanced unresectable pancreatic cancer from GEST study. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, Sapporo, 2015年7月16日.
  22. 長島文夫, 水谷友紀, 中村健一, 濱口哲弥, 小川朝生, 古瀬純司: Chemotherapy in Older Patients with Cancer (Geriatric Oncology) 高齢者と化学療法. 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 札幌, 2015年7月16日.
  23. 長島文夫: 抗がん薬の止め時(消化器がん)を機能評価の視点で支援する. 第13回日本臨床腫瘍内科学会学術集会, 札幌, 2015年7月18日.
  24. 岡野尚弘: 知るは力なり! 最新のがん化学療法. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン がんと共にすこやかに生きる講演会シリーズ, 三鷹, 2015年7月18日.
  25. 古瀬純司: 膵癌化学療法の新時代へ. 第4回青森臨床腫瘍研究会, 青森, 2015年7月24日.
  26. 古瀬純司: 膵癌化学療法: 新しい新時代に向けた取り組み. 第2回南関東消化管フォーラム, 東京, 2015年8月1日.
  27. 古瀬純司: すい臓がん. AKIBA Cancer Forum 2015, 東京, 2015年8月8日.
  28. 古瀬純司: 胆道がん. AKIBA Cancer Forum 2015, 東京, 2015年8月8日.
  29. Furuse J: Chemotherapy and clinical trials for advanced pancreatic cancer. Comprehensive Treatment for Pancreatic Disease II. Combined PCCA & IAP Meeting 2015, China, August 28th-29th, 2015.
  30. 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 河合桐男, 長島文夫: NEC/NEN G3の臨床的違い. 第3回日本神経内分泌腫瘍研究会学術集会, 仙台, 2015年9月12日.
  31. 古瀬純司: 膵・胆道癌化学療法の最近の進歩. 日本消化器病学会関東支部第336回例会, 東京, 2015年9月26日.
  32. 岡野尚弘: 化学療法の最前線. パープルリボンセミナー in 東京 2015, 三鷹, 2015年10月3日.
  33. 長島文夫: 高齢者に対する抗がん剤治療の現状と課題. 第9回日本医療薬学会年会, 横浜, 2015年10月4日.
  34. 古瀬純司: 胆管癌・膵癌に対する集学的治療 Up-to-date. 第13回日本消化器外科学会大会 JDDW2015, 東京, 2015年10月9日.
  35. 北村浩, 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: ヒトパピローマウイルスに起因する肛門管上皮内病変の拡大肛門鏡検査を用いた検討. 第90回日本消化器内視鏡学会総会 JDDW2015, 東京, 2015年10月9日.
  36. 本告成淳, 坪井優, 安積貴年, 税所宏光, 古瀬純司: 進行再発大腸癌一次化学療法においてRECIST PD後も一次治療を継続した症例の特徴. 第57回日本消化器病学会大会 JDDW 2015, 東京, 2015年10月9日.
  37. Shibasaki-Hirano H, Ohomori Y, Fukawa N, Yokokawa A, Nagashima F, Kasuga A, Naruge D, Kitamura H, Okano N, Furuse J, Furuta T: Clinical pharmacokinetics of 3-weekly docetaxel in cancer patients. The 14<sup>th</sup> of International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology, Netherland, October 11th-15th, 2015.
  38. 古瀬純司: 膵がん化学療法の新時代へ. 富山膵癌化学療法カンファレンス, 富山, 2015年10月19日.

39. 古瀬純司: 膵がん化学療法の新時代へ. 第18回多摩外科がんフォーラム, 東京, 2015年10月24日.
40. 成毛大輔, 長島文夫, 河合桐男, 岡野尚弘, 北村浩, 古瀬純司: 当施設における後期高齢者食道癌に対する治療選択の後方視的検討. 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015年10月29日.
41. 水谷友紀, 中村健一, 小川朝生, 濱口哲弥, 福田治彦, 長島文夫: 高齢がん患者を対象とする臨床試験に関する取り組み—JCOG高齢者研究小委員会. 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015年10月30日.
42. 古瀬純司: 肝細胞癌および肝内胆管癌の化学療法—最近の動向. 第52回肝癌症例検討会, 東京, 2015年11月7日.
43. Kitamura H, Nagashima F, Ando M, Naruge D, Okano N, Kawai K, Okuyama T, Ogawa A, Akechi T, Furuse J: A prospective of continuous geriatric assessments (GA) in elderly advanced pancreatic cancer with gemcitabine-based chemotherapy. International Society of Geriatric Oncology, Czech Republic, November 12th-14th, 2015.
44. 古瀬純司: 膵臓がんに対する最新治療. 多摩地区オンコロジー研究会, 三鷹, 2015年11月18日.
45. 古瀬純司: 膵がん化学療法の新時代へ. Pancreatic Cancer Expert Meeting, 佐賀, 2015年11月19日.
46. 古瀬純司: 消化器癌治療の最新の知見について. 第13回消化器内科疾患研究会, 東京, 2015年11月27日.
47. 古瀬純司: 膵がん化学療法の新時代へ. 第2回高知膵癌治療講演会, 高知, 2015年12月2日.
48. 長島文夫: がん患者におけるリスク評価としての高齢者機能評価. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 2015年12月10日.
49. 古瀬純司: 膵がん化学療法の新時代へ. 北陸消化器癌治療研究会, 金沢, 2015年12月17日.
50. 古瀬純司: 膵がん化学療法の新時代へ. Kobe Pancreatic Cancer Forum, 神戸, 2015年12月18日.
51. 古瀬純司: 「がんの実態を知る」薬で治す. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 連携4大学合同市民公開シンポジウム, 東京, 2015年12月20日.
52. 古瀬純司: 膵がん薬物療法の最前線—FOLFIRINOX, ゲムシタピン/アブラキサシ, そして・・・. パンキャンジヤパン すい臓がん勉強会, 東京, 2015年12月23日.
53. Van Cutsem E, Lenz HJ, Furuse J, Tabernero J, Heinemann V, Ioka T, Bazin I, Ueno M, Csöszs T, Wasan H, Melichar B, Karasek P, Macarulla T, Ponce CG, Kalinka-Warzocha E, Horvath Z, Prenen H, Schlichting M, Mehdi F, Bendell JC: Evofosfamide (TH-302) in combination with gemcitabine in previously untreated patients with metastatic or locally advanced unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma: Primary analysis of the randomized, double-blind phase III MAESTRO study. 2016 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 21st-23rd, 2016.
54. Kudo M, Okusaka T, Kaneko S, Furuse J, Takeuchi M, Fang X, Date Y, Takeuchi M: Identification of a high-response patient population to S-1 via predictive enrichment strategy analysis of the S-CUBE phase III trial. 2016 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 21st-23rd, 2016.
55. Hijioka S, Hosoda W, Matsuo K, Ueno M, Furukawa M, Yoshitomi H, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Nakamori S, Ishii H, Kodama Y, Morizane C, Yanagimoto H, Yane K, Notohara K, Furuse J, Yatabe Y, Mizuno N, Japan pNEC Study Group: Clinicopathological features and response to platinum-based chemotherapy in pancreatic neuroendocrine carcinoma: A retrospective multicenter study of 70 patients. 2016 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 21st-23rd, 2016.
56. Ozaka M, Todaka A, Mori K, Boku N, Mizuno N, Ueno H, Kobayashi S, Uesugi K, Kobayashi N, Hayashi H, Sudo K, Okano N, Horita Y, Kamei K, Yukisawa S, Nakamori S, Yachi Y, Henmi T, Kobayashi M, Fukutomi A: JASPAC 06: Observational study of FOLFIRINOX therapy for unresectable and recurrent pancreatic cancer—Preliminary report on serious adverse events. 2016 Gastrointestinal Cancers Symposium, USA, January 21st-23rd, 2016.
57. 長島文夫: 高齢者のがん医療の現状と実地診療の工夫. 平成27年度山形大学大学院医学系研究科医学専攻「緩和・在宅医療コース」, 山形, 2016年1月22日.
58. 古瀬純司: 膵がん化学療法の現状と課題—エビデンスからプラクティスへ. Pancreatic Cancer Expert Meeting in Nagasaki, 長崎, 2016年3月3日.
59. 長島文夫: 高齢者のがん医療. 第27回日本臨床腫瘍学会教育セミナー, 横浜, 2016年3月5日.
60. 古瀬純司: 膵がん化学療法の現状と課題—エビデンスからプラクティスへ. East Tokyo 2016 消化器癌フォーラム, 東京, 2016年3月11日.
61. 長島文夫: 高齢者のがん—「化学療法」. 平成27年度公開セミナー公益財団法人がん研究振興財団, 東京, 2016年3月13日.
62. 古瀬純司: 切除不能膵癌に対する化学療法—現状と今後の展望. 第49回制癌剤適応研究会, 会津若松, 2016年3月25日.

## 論文 和文

- 岡野尚弘, 成毛大輔, 春日章良, 田原純子, 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司: 切除不能進行再発膵癌の化学・放射線療法. 消化器外科 38(5):839-843, 2015.
- 古瀬純司: Borderline resectable 膵癌の術後補助療法をどうするか? 切除不能膵癌との違いは?. 胆と膵 36(5):491-495, 2015.
- 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 河合桐男, 北村浩, 長島文夫: 遠隔転移を伴う膵がんに対する治療選択. 腫瘍内科15(6):554-558, 2015.
- 長島文夫, 成毛大輔, 岡野尚弘, 北村浩, 春日章良, 河合桐男, 古瀬純司: 高齢がん患者における高齢者機能評価の応用. 外科と代謝・栄養 49(3):133, 2015.
- 長島文夫, 成毛大輔, 岡野尚弘, 河合桐男, 北村浩, 古瀬純司: 高齢がん患者治療における geriatric assessmentの重要性. 血液内科 71(1):156-160, 2015.
- 古瀬純司: 腫瘍内科医の立場から neoadjuvant therapyに期待すること. 臨床外科70(7):804-806, 2015.
- 古瀬純司: 消化器癌の分子標的治療. 総論 消化器癌の分子標的治療: 現状と今後への期待. 細胞47(9):426-429, 2015.
- 古瀬純司, 岡野尚弘, 成毛大輔, 河合桐男, 長島文夫: 切除不能膵癌に対する化学療法. 胆と膵36(9):859-864, 2015.
- 北村浩, 岡野尚弘, 長島文夫, 古瀬純司: High Resolution Anoscopyを用いた肛門管上皮内病変の検討. Gastroenterological Endoscopy 57:2147, 2015.
- 岡野尚弘, 河合桐男, 成毛大輔, 北村浩, 長島文夫, 古瀬純司: 局所進行膵癌に対する化学放射線療法. 癌と化学療法 42(10):1152-1155, 2015.
- 長島文夫, 水谷友紀<sup>1</sup>, 中村健一<sup>1</sup>, 濱口哲弥<sup>2</sup>, 小川朝生

- <sup>3</sup>, 古瀬純司 (国立がん研究センター 多施設臨床試験支援センター, <sup>2</sup>国立がん研究センター中央病院, <sup>3</sup>国立がん研究センター東病院): 高齢者の薬物療法に対する新しい考え方 geriatric oncologyについて. 腫瘍内科 16(4):372-377, 2015.
12. 長島文夫, 成毛大輔, 岡野尚弘, 河合桐男, 北村浩, 古瀬純司: 超高齢者に対するがん治療 老年腫瘍学の観点から. 泌尿器外科 28(11):1739-1744, 2015.
  13. 木原康之<sup>1</sup>, 奥坂拓志<sup>2</sup>, 福富晃<sup>3</sup>, 古瀬純司, 伊藤芳紀<sup>2</sup>, 澁谷景子<sup>4</sup>, 山口幸二<sup>5</sup> (<sup>1</sup>北九州総合病院, <sup>2</sup>国立がん研究センター中央病院, <sup>3</sup>静岡県立静岡がんセンター, <sup>4</sup>山口大学, <sup>5</sup>藤元総合病院). 膝癌診療の最前線 切除不能進行膝癌に対する化学放射線療法. 消化器外科 38(10):1453-1459, 2015.
  14. 水谷友紀<sup>1</sup>, 中村健一<sup>1</sup>, 福田治彦<sup>1</sup>, 小川朝生<sup>2</sup>, 濱口哲弥<sup>3</sup>, 長島文夫 (国立がん研究センター 多施設臨床試験支援センター, <sup>2</sup>国立がん研究センター東病院, <sup>3</sup>国立がん研究センター中央病院): 高齢者に対するがん診療 臨床試験と実臨床. 腫瘍内科 17(2):230-236, 2016.
  15. 長島文夫, 小川朝生<sup>1</sup>, 戸國真佐子<sup>2</sup> (国立がん研究センター東病院. <sup>2</sup>東本町訪問看護ステーション): 高齢がん患者に対する客観的指標の臨床応用の現状と課題 CSGA 日本語版を中心に. がん看護 21(2):120-124, 2016.
- 英文**
1. Miyazaki M<sup>1</sup>, Yoshitomi H<sup>1</sup>, Miyakawa S<sup>2</sup>, Uesaka K<sup>3</sup>, Unno M<sup>4</sup>, Endo I<sup>5</sup>, Ota T<sup>6</sup>, Ohtsuka M<sup>1</sup>, Kinoshita H<sup>7</sup>, Shimada K<sup>8</sup>, Shimizu H<sup>1</sup>, Tabata M<sup>9</sup>, Chijiwa K<sup>10</sup>, Nagino M<sup>11</sup>, Hirano S<sup>12</sup>, Wakai T<sup>13</sup>, Wada K<sup>14</sup>, Isayama H<sup>15</sup>, Okusaka T<sup>16</sup>, Tsuyuguchi T<sup>1</sup>, Fujita N<sup>17</sup>, Furuse J, Yamao K<sup>18</sup>, Murakami K<sup>19</sup>, Yamazaki H<sup>20</sup>, Kijima H<sup>21</sup>, Nakanuma Y<sup>22</sup>, Yoshida M<sup>23</sup>, Takayashiki T<sup>1</sup>, Takada T<sup>14</sup> (Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>2</sup>Toyota Regional Medical Center, <sup>3</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>4</sup>Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>5</sup>Yokohama City University, <sup>6</sup>Tokyo Metropolitan Health and Medical Treatment Corporation Ebara Hospital, <sup>7</sup>Kurume University School of Medicine, <sup>8</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>9</sup>Matsusaka Central General Hospital, <sup>10</sup>Miyazaki University School of Medicine, <sup>11</sup>Nagoya University Graduate School of Medicine, <sup>12</sup>Hokkaido University Graduate School of Medicine, <sup>13</sup>Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, <sup>14</sup>Teikyo University School of Medicine, <sup>15</sup>The University of Tokyo, <sup>16</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>17</sup>Miyagi Medical Check-up Plaza, <sup>18</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>19</sup>Keio University School of Medicine, <sup>20</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>21</sup>Hirosaki University Graduate School of Medicine, <sup>22</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>23</sup>International University of Health and Welfare.): Clinical practice guidelines for the management of biliary tract cancers 2015: the 2nd English edition. J Hepatobiliary Pancreat Sci 22(4):249-273, 2015.
  2. Okusaka T<sup>1</sup>, Aramaki T<sup>2</sup>, Inaba Y<sup>3</sup>, Nakamura S<sup>4</sup>, Morimoto M<sup>5</sup>, Moriguchi M<sup>2</sup>, Sato T<sup>6</sup>, Ikawa Y<sup>6</sup>, Ikeda M<sup>7</sup>, Furuse J (National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>3</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>4</sup>Okayama University Graduate School of Medicine, <sup>5</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>6</sup>Kyowa Hakko Kirin, <sup>7</sup>National Cancer Center Hospital East): Phase I study of tivantinib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma: Distinctive pharmacokinetic profiles from other solid tumors. Cancer Sci 106(5):611-617, 2015.
  3. Ioka T<sup>1</sup>, Okusaka T<sup>2</sup>, Ohkawa S<sup>3</sup>, Boku N<sup>4</sup>, Sawaki A<sup>5</sup>, Fujii Y<sup>6</sup>, Kamei Y<sup>6</sup>, Takahashi S<sup>6</sup>, Namazu K<sup>6</sup>, Umeyama Y<sup>6</sup>, Bycott P<sup>7</sup>, Furuse J (<sup>1</sup>Osaka Medical Center, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>3</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>4</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>5</sup>Kawasaki Medical School, <sup>6</sup>Pfizer Japan, <sup>7</sup>Pfizer Oncology): Efficacy and safety of axitinib in combination with gemcitabine in advanced pancreatic cancer: subgroup analyses by region, including Japan, from the global randomized Phase III trial. Jpn J Clin Oncol 45(5):439-448, 2015.
  4. Miura T<sup>1</sup>, Mitsunaga S<sup>1</sup>, Ikeda M<sup>1</sup>, Shimizu S<sup>1</sup>, Ohno I<sup>1</sup>, Takahashi H<sup>1</sup>, Furuse J, Inagaki M<sup>2</sup>, Higashi S<sup>3</sup>, Kato H<sup>3</sup>, Terao K<sup>3</sup>, Ochiai A<sup>1</sup>: (National Cancer Center Hospital East, <sup>2</sup>National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>3</sup>Chugai Pharmaceutical Co.Ltd): Characterization of patients with advanced pancreatic cancer and high serum interleukin-6 levels. Pancreas 44(5):756-763, 2015.
  5. Okusaka T<sup>1</sup>, Ikeda M<sup>2</sup>, Fukutomi A<sup>3</sup>, Ioka T<sup>4</sup>, Furuse J, Ohkawa S<sup>5</sup>, Isayama H<sup>6</sup>, Boku N<sup>7</sup>: (National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>3</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>4</sup>Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, <sup>5</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>6</sup>Graduate School of Medicine, the University of Tokyo, <sup>7</sup>St. Marianna University School of Medicine): Response to Y. Sasaki et al.: Is repeating FOLFIRINOX in the original dosage and treatment schedule tolerable in Japanese patients with pancreatic cancer? Cancer Sci 106(8):1101-1102, 2015.
  6. Grenader T<sup>1</sup>, Nash S<sup>2</sup>, Plotkin Y<sup>3</sup>, Furuse J, Mizuno N<sup>4</sup>, Okusaka T<sup>5</sup>, Wasan H<sup>6</sup>, Valle J<sup>7</sup>, Bridgewater J<sup>1</sup>: (Shaare Zedek Medical Center, <sup>2</sup>Cancer Research UK and UCL Clinical Trials Centre, <sup>3</sup>Soroka Medical Center, <sup>4</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>5</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>6</sup>Imperial Healthcare, <sup>7</sup>University of Manchester) Derived neutrophil lymphocyte ratio may predict benefit from cisplatin in the advanced biliary cancer: the ABC-02 and BT-22 studies. Ann Oncol 26(9):1910-1916, 2015.
  7. Kasuga A, Nakagawa K<sup>1</sup>, Nagashima F, Shimizu T<sup>1</sup>, Naruge D, Nishina S<sup>1</sup>, Kitamura H, Kurata T<sup>1</sup>, Takasu A, Fujisaka Y<sup>1</sup>, Okamoto W<sup>1</sup>, Nishimura Y<sup>2</sup>, Mukaiyama A<sup>2</sup>, Matsushita H<sup>2</sup>, Furuse J (Kinki University Hospital, <sup>2</sup>GlaxoSmithKline) A phase I/Ib study of trametinib (GSK1120212) alone and in combination with gemcitabine in Japanese patients with advanced solid tumors. Invest New Drugs 33(5):1058-1067, 2015.
  8. Shitara K<sup>1</sup>, Muro K<sup>2</sup>, Shimada Y<sup>3</sup>, Hironaka S<sup>4</sup>, Sugimoto N<sup>5</sup>, Komatsu Y<sup>6</sup>, Nishina T<sup>7</sup>, Yamaguchi K<sup>8</sup>, Segawa Y<sup>9</sup>, Omuro Y<sup>10</sup>, Tamura T<sup>11</sup>, Doi T<sup>12</sup>, Yukisawa S<sup>13</sup>, Yasui H<sup>14</sup>, Nagashima F, Gotoh M<sup>15</sup>, Esaki T<sup>16</sup>, Emig M<sup>17</sup>, Chandrawansa K<sup>17</sup>, Liepa AM<sup>17</sup>, Wilke H<sup>18</sup>, Ichimiya Y<sup>19</sup>, Ohtsu A<sup>20</sup> (National Cancer Center Hospital East, <sup>2</sup>Aichi Cancer Center, <sup>3</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>4</sup>Chiba Cancer Center, <sup>5</sup>Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, <sup>6</sup>Hokkaido University Hospital, <sup>7</sup>Shikoku Cancer Center, <sup>8</sup>Saitama Cancer Center, <sup>9</sup>Saitama Medical University International Medical Center, <sup>10</sup>Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, <sup>11</sup>Kinki University Faculty of Medicine, <sup>12</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>13</sup>Tochigi Cancer

- Center, <sup>14</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>15</sup>Osaka Medical College Hospital, <sup>16</sup>National Kyushu Cancer Center, <sup>17</sup>Eli Lilly and Company, <sup>18</sup>Kliniken Essen- Mitte Center of Palliative Care, <sup>19</sup>Eli Lilly Japan K. K, <sup>20</sup>National Cancer Center) : Subgroup analyses of the safety and efficacy of ramucirumab in Japanese and Western patients in RAINBOW: a randomized clinical trial in second-line treatment of gastric cancer. *Gastric Cancer*. DOI 10.1007/s10120-015-0559-z (in press).
9. Okano N, Kawai K, Naruge D, Kitamura H, Nagashima F, Furuse J : Chemoradiotherapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer. *Gan To Kagaku Ryoho* : 42(10) : 1152-1155, 2015.
  10. Takahashi H<sup>1</sup>, Ikeda M<sup>1</sup>, Kumada T<sup>2</sup>, Osaki Y<sup>3</sup>, Kondo S<sup>4</sup>, Kusumoto S<sup>5</sup>, Ohkawa K<sup>6</sup>, Nadano S<sup>7</sup>, Furuse J, Kudo M<sup>8</sup>, Ito K<sup>9</sup>, Yokoyama M<sup>10</sup>, Okusaka T<sup>4</sup>, Shimoyama<sup>4</sup>, Mizokami M<sup>11</sup> (<sup>1</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>2</sup>Ogaki Municipal Hospital, <sup>3</sup>Osaka Red Cross Hospital, <sup>4</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>5</sup>Nagoya City University, <sup>6</sup>Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, <sup>7</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>8</sup>Kinki University, <sup>9</sup>Aichi Medical University, <sup>10</sup>Cancer Institute Hospital, <sup>11</sup>National Center for Global Health and Medicine Ichikawa) : Multicenter cooperative case survey of hepatitis B virus reactivation by chemotherapeutic agents. *Hepatol Res*. 45(12):1220- 1227, 2015.
  11. Kobayashi T<sup>1</sup>, Masaki T<sup>1</sup>, Nozaki E<sup>1</sup>, Sugiyama M<sup>1</sup>, Nagashima F, Furuse J, Onishi H<sup>2</sup>, Watanabe T<sup>2</sup>, Ohkura Y<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Department of Surgery, Kyorin University Hospital, <sup>2</sup>Department of Laboratory Medicine, Kyorin University Hospital, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University Hospital): Microarray Analysis of Gene Expression at the Tumor Front of Colon Cancer. *Anticancer Res*. 35(12):6577-6581, 2015.
  12. Kudo M<sup>1</sup>, Ueshima K<sup>1</sup>, Kubo S<sup>1</sup>, Sakamoto M<sup>1</sup>, Tanaka M<sup>1</sup>, Ikai I<sup>1</sup>, Furuse J<sup>1</sup>, Murakami T<sup>1</sup>, Kadoya M<sup>1</sup>, Kokudo N<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Committee for Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver) : Liver Cancer Study Group of Japan. Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver (RECICL) (2015 Revised version). *Hepatol Res* 46(1):3-9, 2016.
  13. Geschwind JF<sup>1</sup>, Kudo M<sup>2</sup>, Marrero JA<sup>3</sup>, Venook AP<sup>4</sup>, Chen XP<sup>5</sup>, Bronowicki JP<sup>6</sup>, Dagher L<sup>7</sup>, Furuse J, Ladrón de Guevara L<sup>8</sup>, Papandreou C<sup>9</sup>, Sanyal AJ<sup>10</sup>, Takayama T<sup>11</sup>, Ye SL<sup>12</sup>, Yoon SK<sup>13</sup>, Nakajima K<sup>14</sup>, Lehr R<sup>14</sup>, Heldner S<sup>15</sup>, Lencioni R<sup>16</sup> : (<sup>1</sup>Johns Hopkins University School of Medicine, <sup>2</sup>Kinki University School of Medicine, <sup>3</sup>University of Texas Southwestern Medical Center, <sup>4</sup>University of California-San Francisco, <sup>5</sup>Tongji Hospital, Tongji Medical College, Huazhong University of Science and Technology, <sup>6</sup>University Hospital, University of Lorraine, <sup>7</sup> Policlínica Metropolitana, <sup>8</sup>Hospital Angeles Clínica Londres, <sup>9</sup>University Hospital of Larissa, <sup>10</sup>Virginia Commonwealth University Medical Center, <sup>11</sup>Nihon University School of Medicine, <sup>12</sup>Liver Cancer Institute and Zhongshan Hospital, Fudan University, <sup>13</sup>The Catholic University of Korea, The Catholic University of Korea, <sup>14</sup>Bayer Healthcare Pharmaceuticals, <sup>15</sup>Bayer Pharma AG, <sup>16</sup>Pisa University Hospital and School of Medicine) : TACE Treatment in Patients with Sorafenib-treated Unresectable Hepatocellular Carcinoma in Clinical Practice : Final Analysis of GIDEON. *Radiology* 279(2):630-640, 2016. (in press)
  14. Takaori K<sup>1</sup>, Bassi C<sup>2</sup>, Biankin A<sup>3</sup>, Brunner TB<sup>4</sup>, Cataldo I<sup>5</sup>, Campbell F<sup>6</sup>, Cunningham D<sup>7</sup>, Falconi M<sup>8</sup>, Frampton AE<sup>9</sup>, Furuse J, Giovannini M<sup>10</sup>, Jackson R<sup>11</sup>, Nakamura A<sup>12</sup>, Nealon W<sup>13</sup>, Neoptolemos JP<sup>11</sup>, Real FX<sup>14</sup>, Scarpa A<sup>5</sup>, Sclafani F<sup>7</sup>, Windsor JA<sup>15</sup>, Yamaguchi K<sup>16</sup>, Wolfgang C<sup>17</sup>, Johnson CD<sup>18</sup> (<sup>1</sup>Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>2</sup>University of Verona, <sup>3</sup>University of Glasgow, <sup>4</sup>University Hospitals Freiburg, <sup>5</sup>University of Verona, <sup>6</sup>Royal Liverpool University Hospital, <sup>7</sup>The Royal Marsden NHS Foundation Trust, <sup>8</sup>Università Vita e Salute, <sup>9</sup>Imperial College, Hammersmith Hospital, <sup>10</sup>Paoli-Calmettes Institute, <sup>11</sup>University of Liverpool, <sup>12</sup>Kyoto University Hospital, <sup>13</sup>Yale University, <sup>14</sup>CNIO-Spanish National Cancer Research Centre, <sup>15</sup>Auckland City Hospital, <sup>16</sup>University of Occupational and Environmental Health, <sup>17</sup>The Johns Hopkins University, <sup>18</sup> Southampton General Hospital) : IAP/EPC study group on the clinical managements of pancreatic cancer. International Association of Pancreatology (IAP)/ European Pancreatic Club (EPC) consensus review of guidelines for the treatment of pancreatic cancer. *Pancreatology* 16(1):14-27, 2016.
  15. Hamamoto Y<sup>1</sup>, Akutsu Y<sup>2</sup>, Nagashima F, Hironaka S<sup>3</sup>, Ito Y<sup>4</sup>, Kato K<sup>4</sup>, Hara H<sup>5</sup>, Tsubosa Y<sup>6</sup>, Nakagawa S<sup>7</sup>, Daiko H<sup>8</sup>, Ozawa S<sup>9</sup>, Kitagawa Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University Hospital, School of Medicine, <sup>2</sup>Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>3</sup>Chiba Cancer Center, <sup>4</sup> National Cancer Center Hospital, <sup>5</sup> Saitama Cancer Center Hospital <sup>6</sup> Shizuoka Cancer Center, <sup>7</sup> Niigata Cancer Center Hospital, <sup>8</sup> National Cancer Center Hospital East, <sup>9</sup> Tokai University School of Medicine) : Multicenter questionnaire survey on patterns of care for elderly patients with esophageal squamous cell carcinoma by the Japan Esophageal Oncology Group. *Jpn J Clin Oncol* 46(2):111-115, 2016.
  16. Kudo M<sup>1</sup>, Lencioni R<sup>2</sup>, Marrero JA<sup>3</sup>, Venook AP<sup>4</sup>, Bronowicki JP<sup>5</sup>, Chen XP<sup>6</sup>, Dagher L<sup>7</sup>, Furuse J, Geschwind JH<sup>8</sup>, Ladrón de Guevara L<sup>9</sup>, Papandreou C<sup>10</sup>, Sanyal AJ<sup>11</sup>, Takayama T<sup>12</sup>, Yoon SK<sup>13</sup>, Nakajima K<sup>14</sup>, Lehr R<sup>14</sup>, Heldner S<sup>15</sup>, Ye SL<sup>16</sup> (<sup>1</sup>Kinki University School of Medicine, <sup>2</sup>Pisa University Hospital and School of Medicine, <sup>3</sup>University of Texas Southwestern Medical Center, <sup>4</sup>University of California, <sup>5</sup> University Hospital, University of Lorraine, Nancy, <sup>6</sup>Tongji Hospital, Tongji Medical College, Huazhong University of Science and Technology, <sup>7</sup>Policlínica Metropolitana, <sup>8</sup>Johns Hopkins University School of Medicine, <sup>9</sup>Hospital Angeles Clínica Londres, <sup>10</sup>University Hospital of Larissa, <sup>11</sup>Virginia Commonwealth University Medical Center, <sup>12</sup>Nihon University School of Medicine, <sup>13</sup>The Catholic University of Korea, <sup>14</sup>Bayer HealthCare Pharmaceuticals, <sup>15</sup>Bayer Pharma AG, <sup>16</sup>Liver Cancer Institute and Zhongshan Hospital, Fudan University): Regional differences in sorafenib- treated patients with hepatocellular carcinoma : GIDEON observational study. *Liver Int*. doi:10.1111/liv.13096, 2016. (in press).
  17. Kaneko S<sup>1</sup>, Ikeda K<sup>2</sup>, Matsuzaki Y<sup>3</sup>, Furuse J, Minami H<sup>4</sup>, Okayama Y<sup>5</sup>, Sunaya T<sup>6</sup>, Ito Y<sup>5</sup>, Inuyama L<sup>5</sup>, Okita K<sup>6</sup> (<sup>1</sup>Kanazawa University Graduate School of Medical Science, <sup>2</sup>Toranomon Hospital, <sup>3</sup>Tokyo Medical

University Ibaraki Medical Center, <sup>4</sup> Kobe University Graduate School of Medicine, <sup>5</sup>Bayer Yakuhin, <sup>6</sup>Shimonoseki Kosei Hospital) : Safety and effectiveness of sorafenib in Japanese patients with hepatocellular carcinoma in daily medical practice: interim analysis of a prospective postmarketing all-patient surveillance study. J Gastroenterol. DOI:10.1007/s00535-016-173, 2016. (in press).

18. Ueno H<sup>1</sup>, Ikeda M<sup>2</sup>, Ueno M<sup>3</sup>, Mizuno N<sup>4</sup>, Ioka T<sup>5</sup>, Omuro Y<sup>6</sup>, Nakajima TE<sup>7</sup>, Furuse J. (<sup>1</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>3</sup>Kanagawa Cancer Center, Yokohama, <sup>4</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>5</sup>Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, <sup>6</sup>Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital, <sup>7</sup>St. Marianna University School of Medicine Hospital) : Phase I/II study of nab-paclitaxel plus gemcitabine for chemotherapy-naïve Japanese patients with metastatic pancreatic cancer. Cancer Chemother Pharmacol 77(3):595-603, 2016. (in press).
19. Ueno M<sup>1</sup>, Okusaka T<sup>2</sup>, Omuro Y<sup>3</sup>, Isayama H<sup>4</sup>, Fukutomi A<sup>5</sup>, Ikeda M<sup>6</sup>, Mizuno N<sup>7</sup>, Fukuzawa K<sup>8</sup>, Furukawa M<sup>9</sup>, Iguchi H<sup>10</sup>, Sugimori K<sup>11</sup>, Furuse J, Shimada K<sup>12</sup>, Ioka T<sup>13</sup>, Nakamori S<sup>14</sup>, Baba H<sup>15</sup>, Komatsu Y<sup>16</sup>, Takeuchi M<sup>17</sup>, Hyodo I<sup>18</sup>, Boku N<sup>19</sup>(<sup>1</sup>Kanagawa Cancer Center, <sup>2</sup>National Cancer Center Hospital, <sup>3</sup>Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center, Komagome Hospital, <sup>4</sup>The University of Tokyo, Graduate School of Medicine, <sup>5</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>6</sup>National Cancer Center Hospital East, <sup>7</sup>Aichi Cancer Center Hospital, <sup>8</sup>Oita Red Cross Hospital, <sup>9</sup>National Kyushu Cancer Center, <sup>10</sup>National Hospital Organization Shikoku Cancer Center, <sup>11</sup>Yokohama City University Medical Center, <sup>12</sup>Saitama Medical University International Medical Center, <sup>13</sup>Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, <sup>14</sup>National Hospital Organization Osaka National Hospital, <sup>15</sup>Kumamoto University, <sup>16</sup>Hokkaido University Hospital Cancer Center, <sup>17</sup>Kitasato University School of Pharmacy, <sup>18</sup>University of Tsukuba, <sup>19</sup>St Marianna University School of Medicine) : A randomized phase II study of S-1 plus oral leucovorin versus S-1 monotherapy in patients with gemcitabine-refractory advanced pancreatic cancer. Ann Oncol 27(3): 502-508, 2016.
20. Kaibori M<sup>1</sup>, Ishizaki M<sup>1</sup>, Matsui K<sup>1</sup>, Iida H<sup>1</sup>, Inoue K<sup>1</sup>, Nagashima F, Kon M<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Hirakata Hospital, Kansai Medical University) : Geriatric assessment as a predictor of postoperative complications in elderly patients with hepatocellular carcinoma. Langenbecks Arch Surg 401(2):205-214, 2016.

## 著書

1. 古瀬純司:エビデンスの乏しい肝胆膵がん治療の考え方. ガイドラインには載っていない肝胆膵がん Practical Treatment. 古瀬純司, 石井浩, 奥坂拓志, 山口武人, 山下竜也編. 東京, メジカルビュー社, 2015. p.16-17.
2. 岡野尚弘, 古瀬純司:ゲムシタピン (GEM) 単剤療法. オンコロジストはこう治療している 膵がん・胆道がん診療と化学療法. 坂田優監修, 古瀬純司編. 東京, ヴァンメディカル, 2015. p.44-46.
3. 岡野尚弘, 古瀬純司:切除不能胆道がんの化学療法. オンコロジストはこう治療している 膵がん・胆道がん診療と化学療法. 坂田優監修, 古瀬純司編. 東京, ヴァンメディカル, 2015. p.92-94.

4. 古瀬純司:胆道がん化学療法の今後. オンコロジストはこう治療している 膵がん・胆道がん診療と化学療法. 坂田優監修, 古瀬純司編. 東京, ヴァンメディカル, 2015. p.97-100.
5. 古瀬純司:膵がん・胆道がん診療に関するQ&A. 個別化治療を的確に進めるためのポイントは?. オンコロジストはこう治療している 膵がん・胆道がん診療と化学療法. 坂田優監修, 古瀬純司編. 東京, ヴァンメディカル, 2015. p.152-156.
6. 古瀬純司:肝胆膵. 原発性肝がん. 日本臨床腫瘍学会監修. 入門腫瘍内科学改訂第2版編集委員会編. 東京, 篠原出版新社, 2015. p.161-164.
7. 田原純子, 古瀬純司:膵癌の化学療法-overview-. 膵癌化学療法キードラッグエビデンスブック. 古瀬純司編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2015. p.27-32.
8. 岡野尚弘, 古瀬純司:ゲムシタピン単剤治療のエビデンス. 膵癌化学療法キードラッグエビデンスブック. 古瀬純司編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2015. p.40-46.
9. 成毛大輔, 古瀬純司:ゲムシタピン+エルロチニブ併用療法のエビデンス. 膵癌化学療法キードラッグエビデンスブック. 古瀬純司編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2015. p.47-52.
10. 古瀬純司:S-1単剤治療, ゲムシタピン+S-1併用療法のエビデンス-ゲムシタピン, S-1, ゲムシタピン+S-1併用療法による第Ⅲ相試験 (GEST試験) -. 膵癌化学療法キードラッグエビデンスブック. 古瀬純司編. 大阪, 医薬ジャーナル, 2015. p.53-60.
11. 成毛大輔, 長島文夫, 古瀬純司:おもな標準治療 肝がん. 隣接医学シリーズ がんと歯科治療. 白濁公敏編著. 東京, デンタルダイヤモンド社, 2015. p.79-83.
12. 古瀬純司:切除不能・再発胆道がんの標準的1次化学療法は?. EBMがん化学療法・分子標的治療法2016-2017. 西條長宏監修, 朴成和, 大江裕一郎, 南博信, 直江知樹編. 東京, 中外医薬社, 2015. p.156-161.

## 特許等知的財産関係, 報告書

1. 古瀬純司:切除不能膵癌に対する標準治療の確立に関する研究. 日本医療研究開発機構(革新的がん医療実用化研究事業)平成28年度 委託研究開発成果報告書.
2. 長島文夫:高齢がんを対象とした臨床研究の標準化とその普及に関する研究. 日本医療研究開発機構(革新的がん医療実用化研究事業)平成28年度 委託研究開発成果報告書.

## 高齢医学教室

### 講演

1. 神崎恒一:糖尿病と認知機能障害. ワークショップ-糖尿病療養指導の為に-, 東京, 2015年4月4日.
2. 神崎恒一:地域の中での杏林大学病院 高齢診療科. 抗凝固療法適正使用セミナー~超高齢社会における抗凝固療法を考える~, 武蔵野, 2015年4月8日.
3. Kozaki K: Introduction of iPad to collect CGA information including fall risk assessment and Japanese version of frail check list. Advisory conference for index development to assess active aging for the apartment dwelling elderly, Korea, April 17th, 2015.
4. 長谷川浩:認知症とその予防について. PSK研究会, 小金井, 2015年4月18日.
5. 神崎恒一:認知症高齢者における虚弱(フレイル)と身体機能障害. 第17回日本在宅医学会もりおか大会, 盛岡, 2015年4月25日.
6. 長谷川浩:地域でみる認知症. 千葉県精神神経科診療

- 所協会学術講演会, 千葉, 2015年4月26.
7. 神崎恒一: 加齢に伴う認知機能の低下と認知症. 第419回国際治療談話会, 東京, 2015年5月14日.
  8. Ohni M: Is the composition of fatty acids in dietary fat relevant to Metabolic Syndrome caused by the inflammatory process. 12<sup>th</sup> Asian Conference of Nutrition -Luncheon Seminar, Yokohama, May 16th, 2015.
  9. 大荷満生: 介護のある暮らしを考える-高齢者の介護予防. 獨協大学市民講座, 埼玉, 2015年5月29日.
  10. 神崎恒一: 認知症と骨折・転倒. 恵那医師会認知症相談に研修会, 中津川, 2015年6月6日.
  11. 神崎恒一: 高齢者総合機能評価. 第57回日本老年医学会学術集会高齢者医療研修会, 横浜, 2015年6月12日.
  12. 永井久美子, 小柴ひとみ, 田中政道, 柴田茂貴, 松井敏史, 神崎恒一: 高齢通院患者のフレイルの進行に影響する歩行関連因子の検討. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12-14日.
  13. 宮澤太機, 柴田茂貴, 永井久美子, 小林義雄, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一: 収縮期および拡張期脳血流量と認知症の関連性. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12-14日.
  14. 里村元, 田中政道, 長田正史, 竹下実希, 井上慎一郎, 松井敏史, 長谷川浩, 神崎恒一: 介護施設入所者の高齢診療科入院前後の服薬状況の検討. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12-14日.
  15. 小島太郎, 鈴木祐介, 竹屋泰, 松井敏史, 富田尚希, 葛谷雅文, 神崎恒一, 薬木宏実, 新井啓行, 秋下雅弘: 高齢入院患者における薬物有害事象の危険因子と包括的検討. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12-14日.
  16. 小原聡将, 長谷川浩, 小林義雄, 小柴ひとみ, 永井久美子, 山田如子, 松井敏史, 神崎恒一: 脳血管性病変を有するMCIの認知症移行症例における総合機能評価の特徴. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12-14日.
  17. 長田正史, 長谷川浩, 宅美貴子, 松井敏史, 神崎恒一: 失語症を呈する前頭側頭葉変性症における総合機能評価の特徴. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12-14日.
  18. 三ツ間小百合, 松井敏史, 山田如子, 小林義雄, 長谷川浩, 神崎恒一: MCIの早期診断補助のため後期高齢者用ECD-SPECTデータベース作成とその有効性の検討. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12-14日.
  19. 永井久美子, 小柴ひとみ, 田中政道, 柴田茂貴, 松井敏史, 神崎恒一: 高齢通院患者におけるフレイルと老年症候群との関連. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12-14日.
  20. 小柴ひとみ, 永井久美子, 田中政道, 松井敏史, 神崎恒一: フレイル研究被験者における3年間の追跡調査. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月14日.
  21. 田中政道, 松井敏史, 小柴ひとみ, 永井久美子, 神崎恒一: もの忘れ外来通院患者におけるサルコペニアの診断3項目と転倒との関連. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月12日-14日.
  22. 神崎恒一: 認知症診療の実際と医療連携. 神明台ハートセミナー, 東京, 2015年6月22日.
  23. 長谷川浩: 認知症に関する知識: 認知症とは. 東京都看護師認知症対応力向上研修, 三鷹, 2015年7月4日.
  24. 永井久美子, 宮澤太機, 柴田茂貴, 小柴ひとみ, 神崎恒一: もの忘れ外来初診患者における脳血流動態と認知症機能低下および認知症病型との関連. 第47回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 仙台, 2015年7月9-10日.
  25. 柴田茂貴, 宮澤太機, 永井久美子, 小柴ひとみ, 神崎恒一: もの忘れ外来初診患者における大脳白質病変と脳血流動態の関係. 第47回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 仙台, 2015年7月9-10日.
  26. 神崎恒一: 認知症と上手につきあうために. 地域医療セミナー, 三鷹, 2015年7月25日.
  27. 神崎恒一: 認知症と転倒・骨折. 第66回長野県医学会, 上田, 2015年7月26日.
  28. 神崎恒一: 認知症と上手につきあうために. 地域医療セミナー, 国分寺, 2015年8月23日.
  29. 神崎恒一: 認知症の薬物療法(特にBPSDへの対応, 向精神薬の適切な使用方法). 第2回老人保健施設管理医師研修会, 東京, 2015年9月12日.
  30. 長谷川浩: 地域でみよう認知症. NPO法人武蔵野すこやか講演会, 武蔵野, 2015年9月16日.
  31. 長谷川浩: 知って得する! 認知症の話. 小金井市民講演会, 小金井, 2015年9月19日.
  32. 佐藤俊, 宮城島慶, 船曳茜, 大野一将, 小原聡将, 松井敏史, 長谷川浩, 神崎恒一, 小沼裕寿: 治療抵抗性の低カリウム血症から異所性ACTH産生腫瘍の診断に至った1例. 第62回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2015年9月26日.
  33. 大野一将, 小原聡将, 宮城島慶, 井上慎一郎, 長谷川浩, 神崎恒一, 土岐真朗: 体位変換による保存的加療で良好な経過を辿ったupside down stomach の1例. 第62回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2015年9月26日.
  34. 神崎恒一: 認知症疾患医療センターの役割〜三鷹市・武蔵野市の地域連携〜. 認知症WEBセミナー, 東京, 2015年9月30日.
  35. 平澤愛, 柴田茂貴, 宮澤太機, 永井久美子, 小柴ひとみ, 松井敏史, 神崎恒一: もの忘れ初診患者におけるアルツハイマー型認知症の指標と脳血流動態の関係. 第34回日本認知症学会学術集会, 青森, 2015年10月2-4日.
  36. 名古屋恵美子, 杉町香, 浦川直美, 赤座麗華, 山田如子, 神崎恒一, 松井敏史, 長谷川浩: 杏林大学病院もの忘れセンターにおける認知症アウトリーチ(訪問支援)の症例報告. 第34回日本認知症学会学術集会, 青森, 2015年10月2-4日.
  37. 中居龍平, 園原和樹, 山田如子, 小林義雄, 長谷川浩, 神崎恒一: 認知症患者に認めたfNIRS上の脳血流量累減現象と転倒予測としてのハンカチテスト. 第34回日本認知症学会学術集会, 青森, 2015年10月2-4日.
  38. 山田如子, 松井敏史, 竹下実希, 佐藤道子, 小柴ひとみ, 長谷川浩, 神崎恒一: もの忘れ外来患者の外来通院継続(健存率)に係わる因子の検討. 第34回日本認知症学会学術集会, 青森, 2015年10月2-4日.
  39. 小原聡将, 長谷川浩, 小林義雄, 小原史絵, 小柴ひとみ, 永井久美子, 山田如子, 松井敏史, 神崎恒一: 大脳白質病変を有するMCIの認知症移行症例における総合機能評価の特徴. 第34回日本認知症学会学術集会, 青森, 2015年10月2-4日.
  40. 保田直美, 寺島直樹, 望月豊, 中島久実子, 大荷満生, 秦霞哉: 栄養アセスメントにおけるHalfspanによる身長推定の意義. 第36回日本臨床栄養学会総会, 東京, 2015年10月4日.
  41. 神崎恒一: 三鷹市武蔵野市における認知症連携の取り組みについて. 第4回認知症の地域医療連携を考える会, 東京, 2015年10月9日.
  42. 大荷満生: 健康管理概論・介護予防概論. 健康・体力づくり事業財団平成27年度健康運動指導士養成講習会, 東京, 2015年10月9日.
  43. 長谷川浩: 認知症はこわくない. PSK研究会公開講座, 小金井, 2015年10月10日.

44. 神崎恒一:アルツハイマー型認知症治療の新たなる知見. アルツハイマー型認知症フォーラム, 岐阜, 2015年10月14日.
45. Kozaki K: COMMUNITY CARE TO SUPPORT OLDER ADULTS WITH COGNITIVE IMPAIRMENT. The 10th IAGG Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics 2015, Thailand, October 19th, 2015.
46. Kozaki K: FRAILTY ASSOCIATES WITH GERIATRIC SYNDROMES AND PROGRESSES WITH WALKING UNSTEADINESS. The 10th IAGG Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics 2015, Thailand, October 21st, 2015.
47. 大荷満生: 骨格筋評価の考え方 健康長寿からみた骨格筋評価. 第11回日本加圧トレーニング学会, 東京, 2015年10月24日.
48. 神崎恒一: 認知症高齢者のフレイル度の評価. 高齢者医療 Up To DATE フォーラム, 東京, 2015年11月10日.
49. 神崎恒一: 認知症について考えてみましょう～症状, 治療, 予防. 平成27年度杏林大学公開講演会, 羽村, 2015年11月11日.
50. 神崎恒一: フレイルと介護予防. 第3回日本介護福祉・健康づくり学会大会, 東京, 2015年11月15日.
51. 神崎恒一: 高齢者の肺炎の特徴と予防法. 自宅でできる高齢者の肺炎予防-第2回講演会-, 三鷹, 2015年11月15日.
52. 神崎恒一: 認知症疾患医療センターとしての取り組み. 認知症サミットin北多摩南部, 調布, 2015年11月16日.
53. 長谷川浩: 認知症の地域連携について. 流山市医師会・流山市講演会, 流山, 2015年11月20日.
54. 長谷川浩: 認知機能低下と排尿障害について. 三鷹市武蔵野市小金井市排尿障害研究会, 武蔵野, 2015年11月28日.
55. 長谷川浩: 認知症の方々が地域で安心してくらせるために. 桐和会川口さくら病院勉強会, 川口, 2015年12月11日.
56. 神崎恒一: 連携業務としての紹介医への返信. 認知症疾患カンファレンス2016, 三鷹, 2016年1月14日.
57. 神崎恒一: 杏林大学病院もの忘れセンターにおけるフレイル評価 (Edmonton Frail Scale). 老年医学イノベーションフォーラム, 名古屋, 2016年1月23日.
58. 長谷川浩: 認知症多職種協働の重要性. 東京都認知症多職種協働研修, 小金井, 2016年1月25日.
59. 長谷川浩: 高齢者虐待について. 認知症虐待防止講演会, 三鷹, 2016年2月5日.
60. 長谷川浩: 認知症および地域連携について. 武蔵野市・三鷹市・小金井市・西東京市合同講演会及びワークショップ, 西東京, 2016年2月13日.
61. 長谷川浩: 認知症および地域の資源・市民協力について. 東大和市上北台公民館及び市民企画講演会, 東大和, 2016年2月18日.
62. 神崎恒一: 認知症における医療連携と薬物治療. 杏林近隣地区 薬薬連携講演会, 三鷹, 2016年2月24日.
63. 長谷川浩: みんなでささえる認知症. ベネッセスタイルケア講演会, 調布, 2016年3月5日.
64. 新井さおり, 井上慎一郎, 大野一将, 長田正史, 竹下実希, 長谷川浩, 神崎恒一: 胃全摘31年後に発症したWernicke脳症の1例. 第63回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年3月12日.
65. 大野一将, 竹下実希, 高附里江, 船曳茜, 宮城島慶, 田中政道, 長谷川浩, 神崎恒一, 石黒みどり, 増田裕: 肝内門脈静脈シャントによる肝性脳症をきたした遺伝性出血性毛細血管拡張症の1例. 第63回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年3月12日.
66. 宮本孝英, 長田正史, 三ツ間小百合, 長谷川浩, 神崎恒一: 凝固以上を来したCrowned dens syndromeの一例. 第63回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2016年3月12日.
67. 長谷川浩: 認知症と地域連携・多職種連携. 東京都認知症疾患医療センター東京さくら病院講演会, 東京, 2016年3月25日.

## 論文

1. 松井敏史, 輪千督高, 神崎恒一: アルコール摂取と認知症. 認知症の最新医療5(2): 78-83, 2015.
2. 守屋佑貴子, 神崎恒一: 高齢者の脱水症, 電解質異常, 熱中症. レジデント8(6): 6-11, 2015.
3. 神崎恒一: 認知症と骨・運動器の障害. 医学のあゆみ253(9): 843-849, 2015.
4. Shibasaki K<sup>1</sup>, Ogawa S<sup>1</sup>, Yamada S<sup>2</sup>, Iijima K<sup>3</sup>, Eto M<sup>4</sup>, Kozaki K<sup>5</sup>, Toba K<sup>6</sup>, Ouchi Y<sup>7</sup>, Akishita M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, <sup>2</sup>Komagane-kogen Ladies Clinic, <sup>3</sup>Institute of Gerontology, The University of Tokyo, <sup>4</sup>General Educational Center, The University of Tokyo Hospital, <sup>5</sup>Department of Geriatric Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>6</sup>National Center for Geriatrics and Gerontology, <sup>7</sup>Federation of National Public Service Personnel Mutual Aid Associations, Toranomon Hospital,): Favorable effect of sympathetic nervous activity on rehabilitation outcomes in frail elderly. JAMDA 16(9): 799.e7- 799.e12, 2015.
5. 長谷川浩, 田中政道, 神崎恒一: 老年症候群とフレイルとの関連を考える. Modern Physician 35(7): 857-861, 2015.
6. 宮城島慶, 松井敏史, 小原聡将, 三ツ間小百合, 田中政道, 輪千督高, 小林義雄, 長谷川浩, 神崎恒一: 高齢者肺炎入院患者における予後規定因子の検討-入院治療による介護度の変化を中心に-. 日本老年医学会雑誌52(3): 260-268, 2015.
7. 松井敏史, 神崎恒一: アルコール関連脳神経障害. 医学のあゆみ254(10): 913-918, 2015.
8. 小原聡将, 長谷川浩, 輪千督高, 田中政道, 佐藤道子, 小林義雄, 小柴ひとみ, 永井久美子, 松井敏史, 神崎恒一: 大脳皮質病変を伴う軽度認知機能障害患者の高齢者総合機能評価における特徴. 日本老年医学会雑誌52(4): 399-410, 2015.
9. 神崎恒一: 認知症高齢者の転倒と骨折. Dementia Japan 29(4): 560-570, 2015.
10. 松井敏史, 長田正史, 名古屋恵美子, 長谷川浩, 神崎恒一: 認知症機能の低下に応じた薬物管理の実際. 内分泌・糖尿病・代謝内科41(4): 322-329, 2015.
11. Nagai K, Koshiba H, Shibata S, Matsui T, Kozaki K: Correlation between the serum eicosapentanoic acid-to-arachidonic acid ratio and the severity of cerebral white matter hyperintensities in older adults with memory disorder. Geriatr Gerontol Int 15 (Suppl. 1): 48-52, 2015.
12. 神崎恒一: 運動と認知症予防. 神経治療学32(6): 923-926, 2015.
13. 大野一将, 平昭衣梨, 矢内真人, 永田紘子, 山地統, 浦牛原幸治, 小野圭一, 小島茂, 野内俊彦, 太田博崇, 武田雄一, 川口淳, 白田剛, 長谷川浩, 神崎恒一: 消化管出血を呈した胆嚢十二指腸瘻の一例. 多摩消化器シンポジウム誌 29: 17-23, 2015.

## 著書

1. 神崎恒一: 総合機能評価. 入院高齢者診療マニュアル. 神崎恒一編. 東京, 文光堂, 2015. P.11-20.

2. 神崎恒一:サルコペニアの診断. 日本医師会雑誌 ロコモティブシンドロームのすべて. 中村耕三, 田中栄監修. 大江隆史, 葛谷雅文, 星野雄一編. 東京, 日本医師会, 2015. p. S193-S195.
  3. 神崎恒一:加齢と転倒・骨折. 医療・介護スタッフのための高齢者の転倒・骨折予防～転ばぬ先の生活指導～. 萩野浩編. 大阪, 医業ジャーナル社, 2015. p. 25-33.
  4. 田中政道, 神崎恒一:認知症とフレイル. サルコペニアとフレイル. 荒井秀典編. 大阪, 医業ジャーナル社, 2015. P. 121-132.
  5. 松井敏史, 神崎恒一:病態生理(コラム) 高齢者の治療における薬剤管理の原則. 骨粗鬆症 診断と治療のABC110(別冊). 竹内靖博編. 大阪, 最新医学社, 2016. P. 39-40.
  6. 神崎恒一:老年症候群. サルコペニア診療マニュアル. 原田敦監修. 東京, メジカルビュー社, 2016. p. 46-51.
  7. 神崎恒一:認知症とフレイル. フレイルハンドブック ポケット版. 荒井秀典編. 東京, ライフサイエンス, 2016. p. 54-56.
  8. 大荷満生:運動器(筋・骨格)系. 人体の構造と機能および疾病の成り立ち(II). 東京, 第一出版, 2015. p. 205-215.
  9. 大荷満生:生殖器系. 人体の構造と機能および疾病の成り立ち(II). 東京, 第一出版, 2015. p. 217-226.
  10. 大荷満生:感染症. 人体の構造と機能および疾病の成り立ち(II). 東京, 第一出版, 2015. p. 251-261.
  11. 長谷川浩:認知機能の低下. 入院高齢者診療マニュアル. 神崎恒一編. 東京, 文光堂, 2015. p. 123-132.
  12. 長谷川浩: 持続する腰痛と微熱への対処法につき教えてください. かかりつけ医のための100の解決法. 東京, メディカルレビュー社, 2015. p. 86-87.
  13. 長谷川浩: 高齢者の原因のはっきりしない頭痛について教えてください. かかりつけ医のための100の解決法. 東京, メディカルレビュー社, 2015. p. 88-89.
  14. 長谷川浩: 認知症ガイドブック 調布市で安心して暮らすために(第2版). 調布, 調布市福祉健康部高齢者支援室, 2015.
  15. 柴田茂貴: [内科:老年科] 高齢者の抗凝固療法. 週刊日本医事新報No. 4752. 東京, 日本医事新報社, 2015. p. 47.
- 特許等知的財産関係, 報告書**
1. 神崎恒一:大脳皮質下病変に関連する認知障害および機能障害とアミノ酸トランスポーターの関与. 科学研究費補助金(基盤研究(C))実績報告書.
  2. 神崎恒一:認知症非薬物療法の普及促進による介護負担の軽減を目指した地域包括的ケア研究. 厚生労働科学研究費補助金(認知症対策総合研究事業)分担研究報告書.
  3. 神崎恒一:地域要因に基づいた在宅医療・介護連携推進に関する研究—汎用性の高い在宅医療・介護連携推進・ガイドラインの作成. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業)分担研究報告書.
  4. 神崎恒一:地域包括ケアにおける摂食嚥下および栄養支援のための評価ツールの開発とその有効性に関する検討. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 成果報告書.
  5. 神崎恒一:加齢による運動器への影響に関する研究—サルコペニアに関する包括的検討—. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 成果報告書.
  6. 神崎恒一:日本人における大脳白質病変の老年症候群に及ぼす作用と危険因子の解明に関する研究. 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
  7. 神崎恒一:フレイルの進行に関わる要因に関する研究. 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
  8. 神崎恒一: MCI全国有病率調査と認知症診断補助ツールの開発. 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
  9. 神崎恒一:要介護高齢者, フレイル高齢者, 認知症高齢者に対する栄養療法, 運動療法, 薬物療法に関するガイドライン作成に向けた調査研究. 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
  10. 神崎恒一:高齢者の薬物治療の安全性に関する研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 成果報告書.
  11. 神崎恒一:時間軸を念頭に適切な医療・ケアを目指した, 認知症の人等の全国的な情報登録・連携システムに関する研究. 日本医療研究開発機構委託研究開発費 成果報告書.
  12. 長谷川浩:高齢者の認知機能低下に対する, 心機能の向上を介した新規治療概念の構築(副題:PDEIII阻害薬であるプレタールのもつ心拍数増加と強心作用に着目した, 高齢者の認知機能低下に対する新規予防法・治療法の開発). 長寿医療研究開発費 分担研究報告書.
- その他**
1. 神崎恒一:名医の最新情報 筋力の低下(サルコペニア), 週刊朝日, 2015年10月2日号.
  2. 長谷川浩:「病院救急車, 高齢者の搬送 広がる活用, 消防出動減へ」, 毎日新聞, 2016年3月5日号.
- 精神神経科学教室**
- 講演**
1. 渡邊衡一郎:抗うつ薬の妊娠や授乳に与える影響. 第1回臨床精神薬理教育セミナー, 東京, 2015年4月26日.
  2. Kondo S, Takahashi A, Takeda Y, Tanaka S, Terai J, Aoki N, Kitahara S: Long-term work continuation rates in patients on depression-related sick leave following completion of a farm-based return-to-work program. 168th Annual Meeting of American Psychiatric Association (APA), Canada, May 16th-20th, 2015.
  3. 今村弥生, 木村勝智, 宮崎仁: PIPC Revolution デキる内科医のための認知行動療法. アメリカ内科学会日本支部学術総会, 京都, 2015年5月30日.
  4. 渡邊衡一郎: 当事者との共同意思決定法 Shared Decision Making (SDM) の実現可能性. 第111回日本精神神経学会学術総会, 大阪, 2015年6月4日.
  5. 渡邊衡一郎: 抗うつ薬を処方する際に考えるべきこと, 説明するべきこと. 第111回日本精神神経学会学術総会, 大阪, 2015年6月5日.
  6. 今村弥生: 医学教育の中のアンチスティグマ. 第111回日本精神神経学会学術総会, 大阪, 2015年6月3-5日.
  7. 田中伸一郎: 統合失調症様うつ病 (schizophrenia-like depression) の女性例についての精神病理学的検討. 第111回日本精神神経学会学術総会, 大阪, 2015年6月4-6日.
  8. 青木裕見, 渡邊衡一郎, 古野毅彦, 小林靖, 千葉裕美, 垣田康秀: 大人になって事例化した注意欠如・多動症への初めの対応—Shared Decision Makingの導入. 第111回精神神経学会学術総会, 大阪, 2015年6月6日.
  9. 渡邊衡一郎: 抗うつ薬・抗不安薬における多剤併用の問題点及びその整理の仕方. 第111回日本精神神経学会学術総会, 大阪, 2015年6月6日.
  10. Kikuchi T, Terasawa Y, Umeda S, Nishikata S, Watanabe K, OPTIMA-D study group, Kato M: Resting-State Functional Connectivity and Cognitive Behavioral Therapy for Major Depressive Disorders. 21st Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (OHBM2015), USA, June 14th-18th,



- 2015.
11. 今村弥生, 田中伸一郎: ブラックジャックの精神病理学. 第62回日本病跡学会学術総会, 新座, 2015年6月27日.
  12. 渡邊衡一郎: SDMの要点 - 薬物治療の立場から -. PPSST研究会セミナー, 東京, 2015年7月3日.
  13. 神田優太, 坪井貴嗣, 松本由美, 野崎和博, 千野貴子, 菊地俊暁, 田中伸一郎, 渡邊衡一郎: 好酸球増多症によりクロザピンの投与を中止した症例に対する再投与の報告. 第104回東京精神医学会, 東京, 2015年7月4日.
  14. 今村弥生: 漫画と精神医学. 平成27年度第1回杏林大学精神神経科公開セミナー, 東京, 2015年7月8日.
  15. 今村弥生, 影山綾子: 統合失調症をよく知ろう. 統合失調症家族サポート教室, 東京, 2015年7月14日.
  16. 渡邊衡一郎: 薬物療法と精神療法の融合の可能性 - 薬物療法を行う上での精神療法的アプローチ. 第12回日本うつ病学会総会・第15回日本認知療法学会, 東京, 2015年7月17日.
  17. 渡邊衡一郎: 「うつ」がなかなか治らない時に我々は何を考え, どう対処すべきなのか. 第12回日本うつ病学会総会・第15回日本認知療法学会, 東京, 2015年7月17日.
  18. 渡邊衡一郎: レジリエンスの観点から見たうつ病の薬物療法. 第12回日本うつ病学会総会・第15回日本認知療法学会, 東京, 2015年7月18日.
  19. 菊地俊暁: うつはなぜ「治る」のか〜症例の概念化と一般システム理論〜. 第12回日本うつ病学会総会・第15回日本認知療法学会, 東京, 2015年7月18日.
  20. 菊地俊暁: うつ病の認知行動療法トラブルシューティング: 治療がうまくいかない時に. 第12回日本うつ病学会総会・第15回日本認知療法学会, 東京, 2015年7月19日.
  21. 渡邊衡一郎: 「うつ」がなかなか治らない時に我々は何を考え, どう対処すべきなのか. 第35回日本精神科診断学会, 札幌, 2015年8月6日.
  22. 菊地俊暁, 田中伸一郎, 澤田久美子, 小林万葉, 森千夏, 早坂友成, 蜂須浩嗣, 今村弥生, 渡邊衡一郎: 難治性うつの実態調査: 診断や症状, 性格傾向の特徴. 第35回日本精神科診断学会, 札幌, 2015年8月7日.
  23. 田中伸一郎, 菊地俊暁, 澤田久美子, 小林万葉, 三浦佑和, 森千夏, 早坂友成, 蜂須浩嗣, 今村弥生, 渡邊衡一郎: 難治性うつ (TRD) の実態調査 (2): 方法論とその限界について. 第35回日本精神科診断学会, 札幌, 2015年8月7日.
  24. 今村弥生, 影山綾子: 統合失調症の理解とかかわり方のコツ. 世田谷区玉川地区平成27年度精神保健講演会, 東京, 2015年8月12日.
  25. 今村弥生: 高齢者のうつと認知症. 民間医局アカデミーシリーズ4, 東京, 2015年8月23日.
  26. Kikuchi T, Watanabe K, Tsuboi T, Asami Y, Siu C, Pappadopulos E, Kornstein S, Thase M: Long-term outcomes in treatment of depression with venlafaxine ER 75-225mg/d in the acute and continuation phases (PREVENT study). 28TH ECNP CONGRESS, The Netherlands, August 29th, - September 1st, 2015.
  27. 菊地俊暁: 感情制御の神経メカニズムを探る: 脳画像研究からのアプローチ. 日本心理学会第79回大会, 名古屋, 2015年9月24日.
  28. 菊地俊暁, 寺澤悠理, 梅田聡, 渡邊衡一郎, 加藤元一郎: うつ病性障害における安静時fMRIを用いた認知行動療法による脳機能の変化. 第45回日本神経精神薬理学会・第37回日本生物学的精神医学会, 東京, 2015年9月25日.
  29. 菊地俊暁: 精神科領域における副作用モニタリング・システムについて. 第45回日本神経精神薬理学会・第37回日本生物学的精神医学会, 東京, 2015年9月25日.
  30. 渡邊衡一郎: Personalized Medicine - 患者一人一人で好みは異なるという観点から -. 第45回日本神経精神薬理学会・第37回日本生物学的精神医学会, 東京, 2015年9月26日.
  31. 渡邊衡一郎: 「うつ」がなかなか治らない時に我々は何を考え, どう対処すべきなのか. 第4回日本精神科医学会学術大会, 宜野湾, 2015年10月9日.
  32. 田中伸一郎, 戸部有希子: 統合失調症様うつ病 (schizophrenia-like depression) 患者の「受苦と能動」について. 第38回日本精神病理学会, 名古屋, 2015年10月9 - 10日.
  33. 戸部有希子, 田中伸一郎: 「生きにくさ」の精神病理 - 現代における多様な現れについて -. 第38回日本精神病理学会, 名古屋, 2015年10月9 - 10日.
  34. 渡邊衡一郎: 薬物療法と精神療法の融合の可能性 - 薬物療法を行う上での精神療法的アプローチ -. 第33回日本森田療法学会, 倉敷, 2015年10月16日.
  35. 渡邊衡一郎: うつがなかなかよくなる時にどのように考えればよいのか. 日経健康セミナー21「あなたに知ってほしい. 『うつ』という病気について」, 東京, 2015年10月27日.
  36. 今村弥生: 発達障害の理解と支援方法について〜腑に落ちる発達症とSST〜. 練馬障害福祉人材育成・研修センター研修会, 東京, 2015年10月28日, 2016年1月26日.
  37. 渡邊衡一郎, Thase M, 菊地俊暁, 坪井貴嗣, 浅見優子, Pappadopulos E, Wajsbrot D, Zhang M, Boucher M, Kornstein S: 反復性大うつ病性障害患者におけるベンラファキシン徐放性製剤75-225 mg/日の長期治療が心理社会的機能に及ぼす影響. PREVENT試験の事後解析. 第25回日本臨床精神神経薬理学会, 東京, 2015年10月29日.
  38. 渡邊衡一郎: 精神科医から見た薬剤師とのコミュニケーション. 第25回臨床精神神経薬理学会, 東京, 2015年10月30日.
  39. 渡邊衡一郎: リカバリーのために薬物療法が出来ること. 第25回臨床精神神経薬理学会, 東京, 2015年10月30日.
  40. 渡邊衡一郎: 当事者と協働して治療アプローチを決めていく新しい方策Shared Decision Making (SDM) について. 第58回日本病院・地域精神医学会総会, 多摩, 2015年11月6日.
  41. 渡邊衡一郎: ストレスに伴うメンタル不調者に対するレジリエンスを意識したアプローチの重要性. 第31回日本ストレス学会学術総会, 三鷹, 2015年11月7日.
  42. Fujii K, Tani H, Nagai N, Ikai S, Ueno F, Tarumi R, Kikuchi T, Kishimoto T, Nagaoka M, Nozaki K, Kanda Y, Kitahata R, Watanabe K, Mimura M, Uchida H: Psychological Dependence on Antidepressants in Patients with Panic Disorder: A Cross-Sectional Study. 4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology, Taiwan, November 18th-22th, 2015.
  43. Tsuboi T, Suzuki T, Bies RR, Graff-Guerrero A, Tada M, Pollock BG, Mamo DC, Mimura M, Uchida H: Prediction of Dopamine D2 Receptor Occupancy Levels At A Given Time Point from Randomly Collected Blood Concentrations of Ziprasidone. 4th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology, Taiwan, November 20th, 2015.
  44. 今村弥生: 精神症状の観察と評価. 第13回心理領域理学療法セミナー, 東京, 2015年11月28日.
  45. 渡邊衡一郎: 新しい当事者との治療方針決定法Shared Decision Making (SDM) の精神科領域における実現可能性. 第19回日本精神保健・予防学会学術集會, 仙台, 2015

年12月13日.

46. 今村弥生, 影山綾子: 「らしく」生きる 普通の暮らしのためのソーシャル・スキルズ・トレーニング. 山梨県精神科病院協会精神科リハビリテーション講演会, 山梨, 2015年12月15日.
47. 今村弥生: プライマリケア医のためのミニマム精神医学. 東京民医連みちのく民医連講演会, 宮城, 2015年12月28日.
48. 渡邊衡一郎: うつ病について知っていただきたいこと. 東京都精神科医療地域連携事業主催講演会, あきる野, 2016年1月16日.
49. 青木裕見, 古野毅彦, 渡邊衡一郎, 萱間真美: 精神疾患を有する当事者がShared Decision-Makingの手法で治療方針を決定するプロセス. 第35回日本社会精神医学会, 岡山, 2016年1月19日.
50. 今村弥生: 家族の接し方2 本人と家族が元気になるために. 新宿区保健所主催家族教室講演, 東京, 2016年1月22日.
51. 今村弥生: メンタルヘルス講演会. 海上技術安全研究所総務課福祉係主催講演会, 東京, 2016年2月17日.
52. 渡邊衡一郎: 当事者との双方向性の治療方針決定法 Shared Decision Making(SDM)の概念と実現可能性. 第19回心理教育・家族教室ネットワーク研究集会, 東京, 2016年3月20日.
53. 今村弥生, 田中伸一郎: 漫画から言葉を超え「感じる」精神医学へ. 第17回日本サイコセラピー学会学術総会, 福岡, 2016年3月26日.

## 論文

1. 渡邊衡一郎: 第1世代と第2世代抗精神病薬の立ち位置と使い分け. 精神科 26(4): 300-308, 2015.
2. 渡邊衡一郎: 若手医師に薬物療法を行う上で考えてほしいこと. 臨床精神医学 44(6): 829-836, 2015.
3. 青木裕見, 渡邊衡一郎: 精神医療における Shared Decision Making と意思決定支援. リハビリテーション研究 No.163: 10-15, 2015.
4. 渡邊衡一郎: 米国精神医学会 (APA) ガイドラインについて. 精神科 28(3): 196-200, 2016.
5. 渡邊衡一郎: Venlafaxineの海外での試験から見る本剤の立ち位置は. 臨床精神薬理 19(4): 423-434, 2016.
6. 岡本泰昌<sup>1</sup>, 神人蘭<sup>1</sup>, 吉野敦雄<sup>1</sup>, 菊地俊暁, 中野有美<sup>2</sup>, 堀越勝<sup>3</sup>, 大野裕<sup>3</sup> (<sup>1</sup>広島大学, <sup>2</sup>相山女学園, <sup>3</sup>認知行動療法研修開発センター): 精神療法・カウンセリングの副作用-認知行動療法の有害事象と実践に際しての留意点. 精神神経学雑誌 117(6): 445-451, 2015.
7. 菊地俊暁: 多様なうつ病の治療における薬物療法の役割と今後の可能性. 臨床精神薬理 第18(11): 37-43, 2015.
8. 菊地俊暁: 抑うつ障害群 持続性抑うつ障害 (気分変調症). 精神科治療学 30: 112-114, 2015.
9. 菊地俊暁: 多様なうつ病の治療における薬物療法の役割と今後の可能性. 臨床精神薬理 18(11): 37-43, 2015.
10. 菊地俊暁: 認知行動療法の副作用と予防-基礎的スキルの重要性とスーパービジョンの有益性-. 精神科治療学 31(2): 203-209, 2016.
11. 菊地俊暁: うつ病の薬物療法 抗うつ薬と服薬アドヒアランス. CLINIC magazine 561: 29-33, 2016.
12. 田中伸一郎: 統合失調症 (DSM) の診断基準を満たさないが, それでも統合失調症であるような一群について. 臨床精神病理 36: 76-83, 2015.
13. 田中伸一郎: 診断. 臨床精神医学 44: 643-649, 2015.
14. 田中伸一郎: 「統合失調症性の」または「統合失調症様の」異質性について. 精神医学 57: 628-630, 2015.

15. Tsuboi T, Suzuki T<sup>1</sup>, Bies RR<sup>2</sup>, Remington G<sup>3</sup>, Pollock BG<sup>4</sup>, Mimura M<sup>1</sup>, Uchida H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Indiana University, <sup>3</sup>University of Toronto, <sup>4</sup>Centre for Addiction and Mental Health): Challenging the need for sustained blockade of dopamine D<sub>2</sub> receptor estimated from antipsychotic plasma levels in the maintenance treatment of schizophrenia: A single-blind, randomized, controlled study. Schizophr Res 164(1-3):149-54, 2015.
  16. Tsuboi T, Bies RR<sup>1</sup>, Suzuki T<sup>2</sup>, Takeuchi H<sup>2</sup>, Nakajima S<sup>2</sup>, Graff-Guerrero A<sup>3</sup>, Mamo DC<sup>3</sup>, Caravaggio F<sup>4</sup>, Plitman E<sup>4</sup>, Mimura M<sup>2</sup>, Pollock BG<sup>3</sup>, Uchida H<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Indiana University, <sup>2</sup>Keio University, <sup>3</sup>Centre for Addiction and Mental Health, <sup>4</sup>University of Toronto): Predicting Plasma Olanzapine Concentration Following a Change in Dosage: A Population Pharmacokinetic Study. Pharmacopsychiatry 48(7):286-91, 2015.
  17. 坪井貴嗣: 国家的大規模研究から分かること, 分からないこと 台湾の国家的データベースを用いた研究. 臨床精神薬理 8(8): 987-991, 2015.
  18. 今村弥生: 生きる「力」のナラティブ. 治療 97(6): 829-830, 2015.
  19. 今村弥生: 総合診療医でもできる非薬物療法~心理療法のコツ. Gノート特集プライマリケアで一歩踏み出すうつ病診療 2:539-546, 2015.
  20. 今村弥生: 大都市のメンタルヘルス 心療の省察. 省察: 大都市の総合診療 8: 160-163, 2015.
  21. 今村弥生: リカバリーと病識についての当事者と医師の当事者研究. 精神科治療学 30 (10): 1353-1358, 2015
  22. 今村弥生: 精神疾患 (うつ病および統合失調症) と併存疾患精神疾患に併存しやすい身体疾患, および向精神薬が身体疾患に与える影響について. 総合診療 25(12): 1123-1126, 2015.
- ## 著書
1. 渡邊衡一郎, 菊地俊暁, 鈴木映二: 薬物相互作用. 精神科薬物療法グッドプラクティス-ワンランク上の処方を目指して-. 東京, 新興医学出版社, 2015. p.24-33.
  2. 菊地俊暁, 仁王進太郎, 杉山暢宏, 渡邊衡一郎, 鈴木映二, 加藤正樹: 抗うつ薬. 精神科薬物療法グッドプラクティス-ワンランク上の処方を目指して-. 東京, 新興医学出版社, 2015. p.78-100.
  3. 渡邊衡一郎: 陽性・陰性症状評価尺度 (PANSS). 精神・心理機能評価ハンドブック. 山内俊雄, 鹿島晴雄総編. 東京, 中山書店, 2015. p.378-380.
  4. 渡邊衡一郎: AAS. 精神・心理機能評価ハンドブック. 山内俊雄, 鹿島晴雄総編. 東京, 中山書店, 2015. p.493.
  5. Watanabe Koichiro, Suzuki Takefumi: Medication Adherence. Encyclopedia of Psychopharmacology Second Edition. Stolerman IP, Price LH editors. Berlin, Springer Reference, 2015. p.944-948.
  6. 渡邊衡一郎: 抗精神病薬, 抗うつ薬, 気分安定薬, 精神刺激薬/抗不安薬, 睡眠薬. 今日の治療薬2016 解説と便覧. 浦部晶夫, 島田和幸, 川合眞一編. 東京, 南江堂, 2016. p.799-837, /p.838-857.
  7. 渡邊衡一郎: 抗うつ薬の副作用. 今日の治療方針2016年度版(58巻). 山口徹, 北原光夫監修. 東京, 医学書院, 2016. p.1044-1045.
  8. 渡邊衡一郎: うつ病の治療はこのように行われます/薬以外の治療法について知っておきましょう. よくわかるうつ病 診断と治療, 周囲の接し方・支え方 別冊NHK今日の健康. 尾崎紀夫総監修. 東京, NHK出版, 2016. p.46-61, p.68-70/p.86-88.

- 菊地俊暁：処方決定のプロセスと実例 スムーズな減薬と中止のコツ。外来精神科診療シリーズ メンタルクリニックでの薬物療法・身体療法の進め方。石井一平編。東京，中山書店，2015。p.131-137。
- 坪井貴嗣：看護師・看護学生のためのなぜ？ どうして？ 9精神看護第6版。東京，メディックメディア，2015。
- 今村弥生：治療 生きると向き合う わたしたちの自殺対策。東京，南山堂，2015。
- 今村弥生：精神科病院・クリニックでのデイケア。精神科領域のチーム医療実践マニュアル。山本賢司編。東京，新興医学出版社，2015。p.47-57。

#### 特許等知的財産関係，報告書

- 今村弥生，渡邊衡一郎：非加熱血液凝固因子製剤によるHIV感染血友病等患者の長期療養体制の構築に関する患者参加型研究。厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業（エイズ対策政策研究事業）2016年度分担研究報告書。（中根秀之（長崎大学）研究協力）。

#### その他

- 菊地俊暁：不安を伴ううつ病について。第23回日本精神科救急学会学術総会，名古屋，2015年12月12日。
- 坪井貴嗣，鈴木健文，Robert R. Bies，Gary Remington，Bruce G. Pollock，三村將，内田裕之：学会奨励賞，第25回日本臨床精神神経薬理学会，東京，2015年10月29-30日。
- Tsuboi T：Poster Award，4th Asian College of Neuropsychopharmacology，Taiwan，November 22nd，2015。
- 今村弥生，菅野哲也，遠井敬大，久我弘典，田中増郎：対談 生きると向き合う 雑誌「治療」の巻頭に掲載された対談。治療 97(6)，2015。
- 今村弥生：精神医学で読み解く漫画の世界 自治医大医学部1年生「思考の整理と表現の講義」 栃木，2015年9月17日。
- 今村弥生：「メンタルヘルス」相模女子大学人間心理学科 社会マネジメント学科2～4年生講義 2015年9月-2016年2月，全15講+特別公開講義1講実施。
- 今村弥生：医療モデルによる対象理解 精神科診断治療学5 精神疾患論F5～F9。日本精神科看護師協会 認定看護師研修会講師，2015年6月1日。
- 今村弥生：認知行動療法の基本。府中刑務所矯正研究所研修会，2015年5月26日。
- 今村弥生：「生きるに向き合う プライマリケア領域の自殺対策」，「眠くならない睡眠の話」，「その人を不定愁訴という前に」。札幌医科大学地域医療総合医学講座 Web講義 プライマリケア・レクチャーシリーズ講義，平成27年度3講担当，2015年8月21日，12月5日，2016年2月16日。

#### 小児科学教室

#### 講演

- 鴫田雅俊，細井健一郎，楊國昌：当院におけるLaw Preterm Infant。第118回日本小児科学会学術集会，大阪，2015年4月18日。
- 杉本雅子，山本明日香，大越陽一，楊國昌：全身の多形滲出性紅斑を呈した川崎病の11歳女児例。第118回日本小児科学会学術集会，大阪，2015年4月18日。
- 大泉亜由美，那須ゆかり，安藤理恵，高木永，楊國昌：内科的治療のみで治癒した扁桃周囲膿瘍の一乳児例。第118回日本小児科学会学術集会，大阪，2015年4月18日。
- 小谷昌史，伊藤紀子，土屋正己，奴田原紀久雄，楊國昌：夜尿で受診し尿潜血弱陽性から発見されたシスチン尿症

の1例。第118回日本小児科学会学術集会，大阪，2015年4月18日。

- 田中佐門：TMEM67に変異を認めたJoubert症候群関連疾患の1例。第118回日本小児科学会学術集会，大阪，2015年4月18日。
- 倉山亮太：小児の検尿異常と腎疾患～検尿異常にどう対応するか。中野区医師会小児科分科部講演会，東京，2015年5月26日。
- 小松祐美子，宮田世羽，中川美和，島崎真希子，中村由紀子，岡明，楊國昌：ADHDの児の薬物治療中の身体発育についての検討。第52回日本小児神経学会学術集会，大阪，2015年5月28日。
- 島崎真希子，小松祐美子，宮田世羽，松岡雄一郎，中野瑛子，池上弓子，中村由紀子，岡明，楊國昌：ケトン食療法により脳波改善を認めた非ケトース型高グリシン血症の1例。第52回日本小児神経学会学術集会，大阪，2015年5月28日。
- 宮田世羽：母乳のダイオキシン類汚染による中学生の学業成績への影響。第52回日本小児神経学会学術集会，大阪，2015年5月28日。
- 大泉亜由美，大越陽一，那須ゆかり，弦間友紀，吉野浩，楊國昌：ワクチン接種で発症した血友病Aの1例。第113回多摩小児科臨床懇話会，三鷹，2015年6月12日。
- 中野瑛子，松岡雄一郎，田中佐門，那須ゆかり，並本弓子，堀秀之，長谷川廉：周期性発熱・アフタ性口内炎・咽頭炎・頸部リンパ節炎(PFAPA)症候群の1例～抗菌剤無効の発熱に対する鑑別。第113回多摩小児科臨床懇話会，三鷹，2015年6月12日。
- 尾戸真由，鴫田雅俊，大越陽一，小林智恵，保崎明：当院での心原性ショックを呈する心筋炎，心筋症の初期対応について。第29回日本小児救急医学会，大宮，2015年6月12日。
- 西堀由紀野，高橋昌兵，福富俊之，秋元義弘，楊國昌：プロテオーム解析による糸球体硬化の病態解明。第50回日本小児腎臓病学会学術集会，神戸，2015年6月18-20日。
- 伊藤紀子，木内善太郎，西堀由紀野，伊藤秀一，亀井宏一，幡谷浩史，石倉健司，服部元史，秋岡祐子，平本龍吾，松本真輔，高橋昌里，齋藤宏，藤永周一朗，山田哲史，楊國昌：特発性ネフローゼ症候群の糖質ステロイド感受性におけるGLCC11遺伝子多型の関与。第50回日本小児腎臓病学会学術集会，神戸，2015年6月18-20日。
- 高木永，杉本雅子，松岡雄一郎，伊藤雄伍，楊國昌：C3 glomerulonephritisと考えられた小児の1例。第50回日本小児腎臓病学会学術集会，神戸，2015年6月18-20日。
- 高橋昌兵，西堀由紀野，濱野翔，高木永，秋元義弘，宮東明彦，福富俊之，楊國昌：Ubiquitin specific protease-40(USP40)knockout(KO)mouse は糸球体内皮異常によるタンパク尿をしめす。第50回日本小児腎臓病学会学術集会，神戸，2015年6月18-20日。
- 濱野翔，西堀由紀野，伊藤紀子，高橋昌兵，福原大介，高木永，宮東明彦，楊國昌：ポドサイトの発生に関わるCrumbs homolog2(Crb2)の分子基盤。第50回日本小児腎臓病学会学術集会，神戸，2015年6月18-20日。
- 木内善太郎，高橋匡輝，布山正貴，佐藤舞，小椋雅夫，亀井宏一，伊藤秀一：当院におけるWT-1遺伝子異常症の遺伝子変異と臨床症状の検討。第50回日本小児腎臓病学会学術集会，神戸，2015年6月18-20日。
- 安藤理恵，倉山亮太：先天性副腎皮質過形成様の色素沈着を認めた新生児の1例。第14回三鷹小児内分泌臨床セミナー，三鷹，2015年7月14日。
- 北見菜々恵，鴫田雅俊，大越陽一，尾戸真由，小林智恵，保崎明：早産，低出生体重で出生したASD，VSDの男児例。第20回東京循環器小児科治療Agora，東京，2015年9月12

日.

21. 上里忠光, 宮田世羽, 楊國昌: 体表所見から診断に至った脊髄係留症候群の二例. 第114回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2015年10月9日.
22. 木内善太郎, 福原大介, 楊國昌: 長期間の慢性蕁麻疹の後に発症したシェーグレン症候群の一例. 第25回日本小児リウマチ学会総会, 金沢, 2015年10月9-11日.
23. 木内善太郎, 佐藤舞, 小椋雅夫, 亀井宏一, 石倉健司, 伊藤秀一: インフリキシマブが投与されたマクロファージ活性化症候群合併の全身型若年性特発性関節炎の一例. 第25回日本小児リウマチ学会総会, 金沢, 2015年10月9-11日.
24. 木内善太郎, 佐藤舞, 小椋雅夫, 亀井宏一, 石倉健司, 伊藤秀一: 寛解導入にエトボシドを必要とした難治性マクロファージ活性化症候群を併発した全身型若年性特発性関節炎の一例. 第25回日本小児リウマチ学会総会, 金沢, 2015年10月9-11日.
25. 安藤理恵, 倉山亮太: 当院で経験した乳児好中球減少症2例の検討. 第33回城西ブロック勉強会, 東京, 2015年10月20日.
26. 鴫田雅俊, 朝倉誉子, 荒井清美, 麓聖子, 細井健一郎, 山下裕子, 楊國昌: 新生児室における血糖管理の試み. 第60回日本新生児成育医学会, 盛岡, 2015年10月23-25日.
27. 北見菜々恵, 小林智恵, 保科弘明, 野村優子, 楊國昌: 当院における過去5年間の新生児気胸の臨床的検討. 第60回日本新生児成育医学会, 盛岡, 2015年10月23-25日.
28. 倉山亮太: 新米パパ・ママへ～小児科医からのメッセージ～. 杉並区小児救急講座, 東京, 2015年10月26日.
29. 朽名悟, 杉本雅子, 楊國昌: 当院における小児臨床検体由来Haemophilus influenzaeの検出状況. 第47回日本小児感染症学会学術集会, 福島, 2015年10月31日-11月1日.
30. Hamano S, Nsihibori Y, Yan K: Functional cross talk between tyrosin phosphlilation of Crumbs Homolog 2 and mechanistic target of rapamycin complex1 in developing podocyte. American Society of Nephrology Kidney Week 2015, USA, November 3rd-8th, 2015.
31. 山本明日香, 牧野篤司, 小峰素子, 上里忠光, 杉本雅子, 野村優子, 石垣信男, 楊國昌, 折原芳波, 正田哲雄, 野村伊知郎: 同時期に発症した新生児-乳児消化管アレルギーが疑われた双生児例. 第52回日本小児アレルギー学会, 奈良, 2015年11月21-22日.
32. 楊國昌: 糖質ステロイド作用の新規実行分子GLCCI1の機能解析. 第108回東京腎生理集談会, 東京, 2015年11月21日.
33. 大泉亜友美, 那須ゆかり, 大越陽一, 弦間友紀, 吉野浩, 楊國昌, 土屋正己: ワクチン接種を契機に診断された血友病Aの一例. 第624回日本小児科学会東京都地方会講演会, 東京, 2016年1月9日.
34. 吉野浩: 小児の貧血について. 三鷹市医師会小児科医会学術講演会, 三鷹, 2016年2月2日.
35. 北見菜々恵, 大越陽一, 保崎明, 楊國昌: 意識喪失の精査で発見された不整脈の2例. 第115回多摩小児科臨床懇話会, 三鷹, 2016年2月5日.
36. 弦間友紀, 小谷昌史, 鈴木由美, 小林啓一, 吉野浩, 永根英雄: NF1症例のoptic glioma BVL療法. 第10回関東小児脳腫瘍カンファレンス, 東京, 2016年2月13日.
37. 小谷昌史, 神尾朋洋, 杉本雅子, 木内善太郎, 福原大介, 楊國昌: リウマチ性疾患との鑑別を要したバルボウイルスB19感染症の1女児例. 第23回多摩小児感染・免疫研究会, 武蔵野, 2016年2月27日.

論文

1. 小松祐美子: 早期治療にもかかわらず重度の神経学的後遺症を残した新生児単純ヘルペス脳炎の1例. 小児科臨床 68(8): 1521-1526, 2015.
2. Komatsu Y, Suzuki T, Tsurusaki Y, Miyake N, Matsumoto N, Yan K: *TMEM67* mutations found in a case of Joubert syndrome with renal hypodysplasia. *Cen Case Rep.* (in Press).
3. 田中佐門, 福原大介, 大泉亜友美, 松岡雄一郎, 高木永, 楊國昌: 抗菌薬による保存的治療が奏効したgroup A *Streptococcus*による深頸部膿瘍の2乳児例. 小児科臨床 69(3): 365-372, 2016.

著書

1. Yan K: Energy and Mammalian Target of Rapamycin Complex 1 (mTORC1) in Minimal Change Nephrotic Syndrome. Molecular Mechanisms in the Pathogenesis of Idiopathic Nephrotic Syndrome. Kazunari Kaneko editor. Tokyo, Springer, 2015. p.63-80.
2. 楊國昌: ステロイドの使い方・小児に投与するときの注意. 一冊できわめるステロイド診療ガイド. 田中廣壽, 宮地良樹, 上田裕一, 郡義明, 服部隆一編集. 東京, 文光堂, 2015. p.41-43.
3. 楊國昌: 小児の慢性腎不全. 今日の治療指針. 山口徹, 北原光夫監修. 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編集. 東京, 医学書院, 2016. p.1442-1444.

その他

1. 小松祐美子: 監修 (連載) 放課後カルテ. 月刊 BeLove, 講談社.
2. 大泉亜友美: 取材記事 キラリ仕事人. 進研ゼミ平成28年4月号.
3. 楊國昌: 第113回多摩小児科臨床懇話会主催, 三鷹, 2015年6月12日.
4. 楊國昌: 第14回三鷹小児内分泌セミナー主催, 三鷹, 2015年7月24日.
5. 楊國昌: 第114回多摩小児科臨床懇話会主催, 三鷹, 2015年10月9日.
6. 楊國昌: 第115回多摩小児科臨床懇話会主催, 三鷹, 2016年2月5日.
7. 楊國昌: 第23回多摩小児感染・免疫研究会代表幹事, 武蔵野, 2016年2月27日.
8. 楊國昌: 第15回三鷹小児内分泌セミナー主催, 三鷹, 2016年3月11日.

外科学教室  
(消化器・一般外科)

講演

1. 鈴木裕, 横山政明, 中里徹矢, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 高齢者急性胆管炎に対する内視鏡的胆道ドレナージの有用性について. 第49回日本成人病学会, 東京, 2015年1月10日.
2. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 渡邊武志, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 当科における進行結腸癌における腹腔鏡手術の意義. 第82回大腸癌研究会, 東京, 2015年1月23日.
3. 吉敷智和, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 渡邊武志, 松岡弘芳, 杉山政則: CurBが得られたStage4症例の期間別の再発, 予後に関する検討. 大腸癌術後フォローアップ研究会, 東京, 2015年1月30日.
4. Kojima K, Masaki T, Matsuoka H, Takayasu K, Kishiki T, Watanabe T, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Transanal drainage tube insertion following low anterior resection in recatal cancer patients; is it worthwhile?. 26<sup>th</sup> Jagelman/ 36<sup>th</sup> Turnbull

- International Colorectal Disease Symposium, U.S.A., February 10th-15th, 2015.
- Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Kobayashi T, Takayasu K, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: LAR syndrome following rectal surgery. Why do some patients suffered from severe evacuatory disorder?. 26<sup>th</sup> Jagelman/36<sup>th</sup> Turnbull International Colorectal Disease Symposium, U.S.A., February 11th-16th, 2015.
  - 吉岡卓, 橋本佳和, 阿部展次, 吉本恵理, 麻生喜祥, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 分節性動脈中膜融解(segmental arterial mediolysis: SAM)が原因として考えられた腹腔内出血の1例. 第333回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2015年2月28日.
  - Hashimoto Y, Abe N, Ooki A, Takeuchi H, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Usefulness of bipolar ultrasound combined device in the laparoscopy-assisted distal gastrectomy. 第87回日本胃癌学会総会, 広島, 2015年3月4-6日.
  - 阿部展次: Beyond ESD-胃十二指腸腫瘍に対する新しい治療戦略-. 第1回ESD研究会, 広島, 2015年3月5日.
  - 小島洋平, 鈴木裕, 若松喬, 小暮正晴, 高安甲平, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 絞扼性イレウスとの鑑別が困難であったSegmental arterial mediolysis (SAM) の1例. 第51回日本腹部救急医学会総会, 京都, 2015年3月5-6日.
  - 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 橋本佳和, 長尾玄, 森俊幸, 杉山政則: 非治癒切除に終わったESD後の対応-80歳以上の高齢者ならどうする?- 第87回日本胃癌学会総会, 広島, 2015年3月6日.
  - 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 杉山政則: 深達度m-sm1早期胃癌に対する検討(内視鏡的切除の適応拡大について). 第87回日本胃癌学会総会, 広島, 2015年3月6日.
  - 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 大腸穿孔による限局性腹膜炎に対する保存的治療の有効性. 第51回日本腹部救急医学会総会, 京都, 2015年3月5-6日.
  - 鈴木裕, 長尾玄, 中里徹矢, 横山政明, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 土岐真朗, 高橋信一: 急性膵炎重症化と合併症発生における内臓脂肪の影響. 第51回日本腹部救急医学会総会, 京都, 2015年3月6日.
  - 高木泰介, 横山政明, 近藤恵里, 中里徹矢, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 肝嚢胞内に壁在結節の出現・増大を認めた1切除例. 第836回外科集談会, 東京, 2015年3月28日.
  - Abe N: Combination of ESD and stomach-preserving laparoscopic lymph node dissection for early gastric cancer patients with potential risk of lymph node metastasis: a single institutional experience. NOTES symposium, Korea, April 3rd, 2015.
  - 小暮正晴, 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 肝内結石症に合併する肝内胆管癌の危険因子に関する検討. 第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015年4月16-18日.
  - 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 吉敷智和, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 直腸癌術後縫合不全に対する経肛門ドレーンの効果. 第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015年4月16-18日.
  - 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 十二指腸非乳頭部表在性腫瘍に対する縮小手術(内視鏡的切除, LECS, 縮小手術). 第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015年4月17日.
  - 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: R0を目指したmesopancreasの切除-腸回転解除を応用して. 第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015年4月17日.
  - 杉山政則, 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸: Technical refinement of pancreatoduodenectomy. 第115回日本外科学会, 名古屋, 2015年4月17日.
  - 橋本佳和, 森俊幸, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 当院における腹腔鏡下噴門形成術の短長期成績. 第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015年4月16-18日.
  - 松木亮太, 井上陽介, 武田良祝, 寺澤無我, 田中真之, 松村優, 市田洋文, 畑太悟, 三瀬祥弘, 石沢武彰, 高橋祐, 斎浦明夫: 術中Air Cholangiographyの肝切除術後胆汁漏予防に対する有用性の検討. 第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015年4月16-18日.
  - 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 森俊幸, 正木忠彦, 杉山政則: 分枝膵管型IPMNにおけるガイドラインの検証-手術適応決定にEUSは必須か?. 第101回日本消化器病学会総会, 仙台, 2015年4月23日.
  - 阿部展次: Beyond ESD-胃十二指腸腫瘍に対する新しい低侵襲治療-. Takeda GI Conference in 多摩, 東京, 2015年5月11日.
  - 竹内弘久, 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 堀合真一, 水野英彰, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 十二指腸非乳頭部表在性上皮腫瘍に対する内視鏡観察を併用した腹腔鏡補助下経十二指腸の粘膜切除術. 第69回手術手技研究会, 高崎, 2015年5月15日.
  - Masaki T: National Registration and Treatment Guidelines in Japan. 2<sup>nd</sup> Asia-Pacific Colorectal Cancer Congress, Korea, May 15th-16th, 2015.
  - Masaki T: 3D laparoscopic colorectal surgery-Where are we?. 2<sup>nd</sup> Asia-Pacific Colorectal Cancer Congress, Korea, May 15th-16th, 2015.
  - Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Kobayashi T, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Way to improve functional outcomes of rectal cancer patients. 2<sup>nd</sup> Asia-Pacific Colorectal Cancer Congress, Korea, May 16th, 2015.
  - 大木亜津子, 阿部展次, 吉本恵理, 橋本佳和, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 超高齢者における胃ESDの有用性. 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月29日.
  - 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: IVRにて止血困難であった小腸潰瘍出血を術中内視鏡を施行し救命し得た1例. 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月29-31日.
  - 橋本佳和, 阿部展次, 吉本恵理, 麻生喜祥, 小島洋平, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: ESD後の腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の臨床病理学的検討. 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月29-31日.
  - 阿部展次, 橋本佳和, 杉山政則: 胃十二指腸病変に対する各種LECS亜型の成績. 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月30日.
  - 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 平野和彦, 大倉康男, 杉山政則: 早期胃癌に対する内視鏡的切除治療の適応拡大について(組織混在型を含めた検討から). 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月31日.

34. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 今西順久, 甲能直幸: 中・下咽頭表在癌に対する経口的内視鏡切除の有用性について. 第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015年5月31日.
35. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小河晃士, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 小林敬明, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 若年直腸癌手術症例における肛門括約筋温存術後排便機能の検討. 第21回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015年6月5-6日.
36. 鈴木裕, 横山政明, 中里徹矢, 松木亮太, 小暮正晴, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 肝内結石症における肝内胆管癌の危険因子. 第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 東京, 2015年6月11日.
37. 小暮正晴, 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 側腭切除時のドレーン逸脱防止の工夫. 第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 東京, 2015年6月11-13日.
38. 中里徹矢, 小暮正晴, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 古瀬純司, 杉山政則: FOLFIRONOX療法後にAdjuvant surgeryを施行した局所進行腭頭部癌の1例. 第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 東京, 2015年6月11-13日.
39. 松木亮太, 三瀬祥弘, 市田洋文, 武田良祝, 田中真之, 寺澤無我, 畑太悟, 松村優, 井上陽介, 石沢武彰, 高橋祐, 斎浦明夫: 深部大腸癌肝転移に対するParenchymal-Sparing-Hepatectomyの安全性の検討. 第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 東京, 2015年6月11-13日.
40. 杉山政則, 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸: 安全で確実な腭頭十二指腸切除術をめざした合理的な手術手技の開発. 第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会, 東京, 2015年6月12日.
41. 松田恭平, 竹内弘久, 近藤恵里, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 堀合真一, 水野英彰, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胃癌腹膜播種再発による輸入脚症候群に対して内視鏡的金属ステント留置が奏功した1例. 第837回外科集談会, 東京, 2015年6月13日.
42. 横山政明, 鈴木裕, 中里徹矢, 小暮正晴, 杉山政則: 胆道癌における閉塞性黄疸例の術前ドレナージ法の検討. 第32回日本胆膵病態・生理研究会, 東京, 2015年6月14日.
43. 正木忠彦: わたしの研究～癌浸潤先進部からみえるもの. 第2回GI Cancer Forum 金沢大学, 金沢, 2015年6月15日.
44. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 渡邊武志, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: Thin-Slice MDCTによる直腸癌リンパ節転移診断能の検討. 第40回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2015年6月18日.
45. 橋本佳和, 森俊幸, 近藤恵里, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: Reduced Port Surgeryによる腹腔鏡下噴門形成術の臨床検討. 第40回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2015年6月18-19日.
46. 中里徹矢, 小島洋平, 松木亮太, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 退形成性膵管癌の臨床像. 第46回日本膵臓学会大会, 名古屋, 2015年6月19-20日.
47. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 十二指腸表在性腫瘍に対する内視鏡を併用した新しい術式: 腹腔鏡補助下経十二指腸的粘膜切除術. 第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015年7月15日.
48. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 早期胃癌における, 未分化型癌混在比率の病理学的測定法の確立. 第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015年7月15日.
49. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 腹腔鏡下腹壁瘻痕ヘルニア修復術の短期的治療成績. 第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015年7月15-17日.
50. 長尾玄, 阿部展次, 近藤恵理, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 高梨秀一郎, 杉山政則: 大動脈人工血管置換術後の縦隔食道瘻-適切な治療法は?-. 第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015年7月15-17日.
51. 中里徹矢, 小暮正晴, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 膵管空腸粘膜吻合手技の定型化. 第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015年7月15-17日.
52. 橋本佳和, 森俊幸, 鈴木裕, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則, 富田康彦, 赤木美智雄: 院内鏡視下手術認定制度と研修医教育. 第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015年7月15-17日.
53. 横山政明, 杉山政則, 中里徹矢, 小暮正晴, 鈴木裕: 腸回転解除術を用いた腭頭十二指腸切除術. 第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015年7月16日.
54. 鈴木裕, 横山政明, 中里徹矢, 松木亮太, 小暮正晴, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 分子膵管型IPMNにおける国際ガイドラインの検証-手術適応決定にEUSは必須か?-. 第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015年7月17日.
55. 大木亜津子, 阿部展次, 吉本恵理, 橋本佳和, 竹内弘久, 海野みちる, 正木忠彦, 森俊幸, 大倉康男, 杉山政則: 胃癌における胃内洗浄細胞診-洗浄液によって遊離癌細胞検出率と細胞形態に差異が生じるのか?-. 第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015年7月17日.
56. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 大腸癌治療における手術と抗がん剤療法. 第25回社会保険医療研究会, 東京, 2015年7月21日.
57. 阿部展次: 胃十二指腸腫瘍に対する新しい展開-LECSとその関連手技. 第3回消化器癌セミナー, 名古屋, 2015年7月31日.
58. Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Takayasu K, Watanabe T, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Low anterior resection for advanced aged patients. Is it justifiable for the octogenarians?. The 20<sup>th</sup>. Annual Conference on Functional Disorder in Anorectal Disease, Tokyo, August 8th. 2015.
59. 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: Stage IVb 膵癌長期生存例の臨床像, 第42回日本膵切研究会, 大阪, 2015年8月28-29日.
60. 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 小暮正晴, 松木亮太, 中里徹矢, 田妻進, 滝川一, 杉山政則: 肝内結石コホート調査の解析. 第51回日本胆道学会, 宇都宮, 2015年9月17日.
61. 渡邊武志: 一般外科医師の立場から. 第21回大学病院の緩和ケアを考える会総会, 三鷹, 2015年9月19日.
62. Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Takayasu K, Watanabe T, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: How do you teach young surgeons? : Our experiences. The 32<sup>nd</sup> Pan-pacific Surgical Association Japan Chapter (PPSA-JC), U.S.A., September 19th-21st, 2015.
63. 藤巻圭介, 近藤恵里, 中里徹也, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: Mickel憩室が嵌頓した男性大腿ヘルニアの1例. 第838回外科集談会, 東京, 2015年9月21日.

64. 橋本佳和:技術認定の取得のためのビデオクリニック(推奨されること, してはいけないこと) ①No.6郭清. 第28回関東腹腔鏡下胃切除研究会, 東京, 2015年9月26日.
65. 正木忠彦:腹腔鏡下大腸手術の新展開-3D内視鏡システムの導入. 第143回神奈川県臨床外科医学会集談会, 横浜, 2015年9月26日.
66. 川口翔平, 近藤恵理, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:術前診断に難渋し, 膵内副脾に発生したepithelial cystの1例. 第336回日本消化器病学会関東支部例会, 東京, 2015年9月27日.
67. 松岡弘芳, 相澤卓, 工藤礼子, 藤井京子:術前ストーマケアについて. 第26回東京ストーマリハビリテーション講習会, 東京, 2015年10月3日.
68. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:緊急消化管手術に対するV.A.C.療法の有効性. 第7回Acute Care Surgery学会学術集会, 福岡, 2015年10月3-4日.
69. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:術後出血を繰り返した潰瘍性大腸炎の1例. 第7回多摩大腸疾患懇話会, 三鷹, 2015年10月24日.
70. 大木亜津子, 阿部展次, 吉本恵理, 橋本佳和, 竹内弘久, 海野みちる, 正木忠彦, 森俊幸, 大倉康男, 杉山政則:胃癌における胃内洗浄細胞診-洗浄液によって遊離癌細胞検出率と細胞形態に差異が生じるのか?- 第23回JDDW, 東京, 2015年10月8日.
71. 鈴木裕, 森俊幸, 横山政明, 小暮正晴, 中里徹矢, 松木亮太, 田妻進, 滝川一, 杉山政則:肝内結石症合併肝内胆管癌におけるUDCAの影響. 第57回日本消化器病学会大会(JDDW2015), 東京, 2015年10月9日.
72. 竹内弘久, 阿部展次, 大木亜津子, 今西順久, 正木忠彦, 森俊幸, 甲能直幸, 杉山政則:中・下咽頭表在癌に対する経口的内視鏡切除の成績. JDDW2015, 東京, 2015年10月9日.
73. 竹内弘久, 阿部展次, 吉本恵理, 近藤恵理, 大木亜津子, 橋本佳和, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:ESD技術を応用した胃粘膜腫瘍に対する低侵襲治療. 第9回J-CASE研究会, 東京, 2015年10月10日.
74. 田口怜, 正木忠彦, 高安甲平, 麻生喜祥, 小嶋幸一郎, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:エイズ関連疾患と考えられる腸疾患の一例. 第10回多摩腸疾患カンファレンス, 東京, 2015年10月30日.
75. 正木忠彦:腹腔鏡下大腸手術の新展開-3D内視鏡システムの導入. 第8回北埼玉消化器癌カンファレンス, 深谷, 2015年11月5日.
76. 松岡弘芳, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 渡邊武志, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:大腸癌治療における最新の知見. 第2回湾岸外科カンファレンス, 東京, 2015年11月8日.
77. 竹内弘久:摂食嚥下障害に対する胃瘻造設の適応と管理について. 2015年関東嚥下訓練技術者講習会, 東京, 2015年11月8日.
78. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 高安甲平, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:クローン病の経過中に腫瘍マーカー上昇を契機にみつかった横行結腸癌の1例. 第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015年11月13-14日.
79. 川口翔平, 橋本佳和, 近藤恵理, 長尾玄, 竹内弘久, 大木亜津子, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:十二指腸第2,3部全周性腺腫に対して腹腔鏡補助下膵温存遠位十二指腸切除術を施行した1例. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月26-28日.
80. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:消化器術後創に対する予防的V.A.C.療法の使用経験. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月26-28日.
81. 田口怜, 小暮正晴, 中里徹矢, 橋本佳和, 竹内弘久, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:肝臓に発生した悪性黒色腫の一例. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月26-28日.
82. 阿部展次, 橋本佳和, 中里徹矢, 大木亜津子, 竹内弘久, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:腹腔鏡(補助)下尾側膵切除術の手法と成績. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月27日.
83. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:非乳頭部十二指腸腫瘍に対する機能温存を目指した新しい術式:腹腔鏡補助下アプローチ. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月28日.
84. 近藤恵理, 阿部展次, 吉本恵理, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:外科医が行う早期胃癌に対するESDの治療成績. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月28日.
85. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 小暮正晴, 松木亮太, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:スコア式による膵IPMNの手術適応と術式, 至適郭清範囲. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月28日.
86. 竹内弘久, 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:胃癌腹膜播種再発による輸入脚狭窄症に対する緩和医療-内視鏡的金属ステント留置が奏功した1例から-. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月28日.
87. 高木泰介, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:再発後に切除し得た直腸悪性黒色腫の一例. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月26-28日.
88. 長尾玄, 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:有茎肋間筋弁充填術が有用であった食道切除後の胃管盲端部壊死の1例. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月26-28日.
89. 中里徹矢, 小暮正晴, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:手技の定型化による安全な膵管空腸粘膜吻合. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月26-28日.
90. 橋本佳和, 森俊幸, 小嶋幸一郎, 高安甲平, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:内視鏡下手術のクオリティアシュアランスと医療安全. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月26-28日.
91. 本多五奉, 橋本佳和, 近藤恵理, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則:腹腔鏡補助下幽門側胃切除術(LADG)施行後にpStageIB以上と診断された症例についての検討. 第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015年11月26-28日.
92. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則:消化器術後創に対するV.A.C療法の使用経験. 第28回日本外科感染症学会総会, 名古屋, 2015年12月2-3日.
93. Matsuoka H, Masaki T, Kojima K, Kishiki T, Takayasu K, Watanabe T, Suzuki Y, Abe N, Mori T, Sugiyama M: Low anterior resection syndrome. 2<sup>nd</sup>. Annual Meeting of Colorectal Disease Meeting, Thailand, December 5th-7th, 2015.
94. 渡邊武志, 森俊幸, 横山政明, 小暮正晴, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則:繰り返す胆嚢炎に対する胆嚢ステント留置を行い, 胆嚢摘出術後胆汁漏を来した1例. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 2015年12月8-10日.

95. 川口翔平, 橋本佳和, 下山勇人, 近藤恵理, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: これが私のラパコレー外科入局3ヶ月で経験した6例の手術成績. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 2015年12月9-12日.
96. 小嶋幸一郎, 正木忠彦, 高安甲平, 渡邊武志, 橋本佳和, 松岡弘芳, 阿部展次, 森俊幸, 杉山政則: 新しい治療指針により腹腔鏡手術にて治療し得た再発穿孔性S状結腸憩室炎の1例. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 2015年12月10-12日.
97. 橋本佳和, 森俊幸, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: 内視鏡外科手術における研修医教育とリスクマネージメント. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 2015年12月10-12日.
98. 松岡弘芳, 森俊幸, 正木忠彦, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 高安甲平, 阿部展次, 杉山政則: 高齢者大腸癌症例における腹腔鏡手術. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 2015年12月10-12日.
99. 阿部展次, 竹内弘久, 大木亜津子, 橋本佳和, 森俊幸, 杉山政則: 管腔内処置を優先させる胃粘膜下腫瘍に対する治療戦略. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 2015年12月12日.

## 論文

1. 阿部展次, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 胃癌に対する腹腔鏡下手術. 臨床消化器内科 30:141-146, 2015.
2. 阿部展次, 吉本恵理, 小島洋平, 近藤恵里, 橋本佳和, 大木亜津子, 竹内弘久, 長尾玄, 鈴木裕, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則: 原発性十二指腸癌に対する外科治療. 消化器内視鏡 27:1125-1131, 2015.
3. Abe N, Takeuchi H, Hashimoto Y, Yoshimoto E, Kojima Y, Ohki A, Nagao G, Suzuki Y, Horiuchi H, Mizuno H, Masaki T, Mori T, Sugiyama M: Laparoscopy-assisted transduodenal excision of superficial non-ampullary duodenal epithelial tumors. Asian J Endosc Surg 8:310-315, 2015.
4. 大木亜津子, 阿部展次, 杉山政則: 消化管腫瘍に対するLECSの注意点—胃癌患者における胃内洗浄細胞新の結果から. 消化器内視鏡 27(9): 1541-1543, 2015.
5. Kishiki T, Mori T, Hashimoto Y, Matsuoka H, Abe N, Masaki T, Sugiyama M: Laparoscopic Repair of Internal Transmesocolic Hernia of Transverse Colon. Case Rep Surg. 2015:853297, 2015.
6. 小暮正晴, 中里徹矢, 横山政明, 鈴木裕, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸, 杉山政則, 望月眞<sup>1</sup>, 大倉康男<sup>1</sup> (<sup>1</sup>杏林大学病理部): 非特異的胆管炎. 肝胆膵 71: 495-500, 2015.
7. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 森俊幸, 杉山政則: 膵癌上皮性腫瘍 嚢胞性膵腫瘍 膵管内乳頭粘液性腫瘍 (IPMN) IPMNの疫学. 日本臨床 73(増刊3): 203-205, 2015.
8. 鈴木裕, 中里徹矢, 横山政明, 森俊幸, 杉山政則: 膵癌上皮性腫瘍 嚢胞性膵腫瘍 Solid-pseudopapillary neoplasm (SPN). 日本臨床 73(増刊3): 305-310, 2015.
9. Sakamoto H, Kuboki Y, Hatori T, Yamamoto M, Sugiyama M, Shibata N, Shimizu K, Shiratori K, Furukawa T: Clinicopathological significance of somatic RNF43 mutation and aberrant expression of ring finger protein 43 in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas. Mod Pathol 28:261-267, 2015.
10. Obara K, Haruma K, Irisawa A, Kaise M, Gotoda T, Sugiyama M, Tanabe S, Horiuchi A, Fujita N, Ozaki M, Yoshida M, Matsui T, Ichinose M, Kaminishi M: Guidelines for sedation in gastroenterological endoscopy. Dig Endosc 27:435-249, 2015.
11. Miyazaki M, Ohtsuka M, Miyakawa S, Nagino M, Yamamoto M, Kokudo N, Sano K, Endo I, Unno M, Chijiwa K, Horiguchi A, Kinoshita H, Oka M, Kubota K, Sugiyama M, Uemoto S, Shimada M, Suzuki Y, Inui K, Tazuma S, Furuse J, Yanagisawa A, Nakanuma Y, Kijima H, Takada T: Classification of biliary tract cancers established by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery: 3(rd) English edition. J Hepatobiliary Pancreat Sci 22:181-196, 2015.
12. Furukawa T, Sakamoto H, Takeuchi S, Ameri M, Kuboki Y, Yamamoto T, Hatori T, Yamamoto M, Sugiyama M, Ohike N, Yamaguchi H, Shimizu M, Shibata N, Shimizu K, Shiratori K: Whole exome sequencing reveals recurrent mutations in BRCA2 and FAT genes in acinar cell carcinomas of the pancreas. Sci Rep 5:8829, 2015.
13. Inui K, Igarashi Y, Irisawa A, Ohara H, Tazuma S, Hirooka Y, Fujita N, Miyakawa H, Sata N, Shimosegawa T, Tanaka M, Shiratori K, Sugiyama M, Takeyama Y: Japanese Clinical Guidelines for Endoscopic Treatment of Pancreatolithiasis. Pancreas 44: 1053-1064, 2015.
14. 杉山政則, 鈴木裕, 中里徹矢, 小暮正晴, 横山政明, 阿部展次, 正木忠彦, 森俊幸: 副膵管開存膵頭部癌. 胆と膵 36: 1249-51, 2015.
15. 水野英彰, 竹内弘久, 土屋雅人, 堀合真市, 鈴木裕, 阿部展次: 胃瘻患者に対するとろみ調整流動食を使用した新たな経腸栄養投与方法 (自然落下法) 71例の臨床経験. 日本静脈経腸栄養学会雑誌 30(3):817-819, 2015.
16. 橋本佳和, 森俊幸, 小嶋幸一郎, 吉敷智和, 山口高史<sup>1</sup>, 白山才人<sup>1</sup>, 長尾玄, 渡邊武志, 鈴木裕, 松岡弘芳, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則 (<sup>1</sup>佼成病院): 手術の基本手技. 内視鏡手術編. 縫合・結紮. 消化器外科 38: 455-467, 2015.
17. 橋本佳和, 正木忠彦, 杉山政則: 虚血性心疾患合併患者の消化器癌オペ時の注意点. 循環器内科医に求めること. 日本医事新報 4765: 33-38, 2015.
18. 橋本佳和, 森俊幸, 長尾玄, 阿部展次, 正木忠彦, 杉山政則: Reduced port surgeryの最新手技, Nissen噴門形成術におけるReduced port surgery. 手術 69: 1649-1657, 2015.
19. 森俊幸, 杉山政則: 新アトラスで学ぶ達人の手術 腹腔鏡下胆嚢摘出術. 消化器外科 39(5):790-798, 2016
20. 森俊幸, 谷岡健吉, 千葉敏雄: 内視鏡外科手術と高精細画像 8Kビデオシステムの将来性. メディカル&イメージング Mook 4:52-56, 2016.
21. 森俊幸: 食道裂孔ヘルニアに対する外科治療. 成人病と生活習慣病 46(5):592-596, 2016.
22. 森俊幸, 谷岡健吉, 千葉敏雄: 世界初, 8K腹腔鏡システムの臨床応用—8Kビデオシステムの将来性. 8Kから∞へ 超高精細画像のゆくえ: 14-17, 2016.
23. 横山政明, 中里徹矢, 鈴木裕, 杉山政則: 胆膵 エビデンスに基づいた胆道癌診療ガイドライン. 消化器内視鏡 27(3): 541-545, 2015.
24. 横山政明, 小暮正晴, 中里徹矢, 鈴木裕, 杉山政則: 胆・膵内視鏡 EST・EPBD・結石除去・碎石 胆管結石除去・碎石に用いる処置具を使いこなすコツ. 消化器内視鏡 27(8):1426-1428, 2015.

## 著書

1. 大木亜津子, 阿部展次, 杉山政則: 胃癌における胃内洗浄細胞診—LECSと遊離癌細胞—. イラストと写真で見る



内視鏡医と外科医のコラボレーション手術. 腹腔鏡・内視鏡合同手術研究会編. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 166-167.

2. 橋本佳和: 術後クリニカルパス. がん研スタイル癌の標準手術 胃癌. 山口俊晴監修, 佐野武編. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 16-21.
3. 森俊幸: 定義・用語. 内視鏡下縫合結紮手技トレーニング. 黒川良望編. 東京, 南江堂, 2016. p. 2-6.

#### 特許等知的財産関係, 報告書

1. 正木忠彦: 班会議報告書, 革新的がん医療実用化研究事業: 志田班「直腸癌側方リンパ節転移の術前診断能の妥当性に関する観察研究: JCOG1410-A」: 2015年度 分担研究報告書.

#### その他

1. 鈴木裕: 座長, 一般演題(口演) 栄養. 第49回日本成人病学会, 東京, 2015年1月11日.
2. 吉岡卓: 第333回日本消化器病学会関東支部例会, 研修医奨励賞, 東京, 2015年2月28日.
3. 竹内弘久 取材協力: 整腸薬・胃腸薬GUIDE. Tarzan, 668号, 38-41, 2015年3月26日.
4. 阿部展次: 座長, 一般演題「その他」. 第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015年4月18日.
5. 阿部展次: 座長, LECS関連. 第9回J-CASE (NOTES)研究会, 東京, 2015年10月10日.
6. 竹内弘久: 当番世話人&座長 特別講演第17回多摩NST研究会, 東京, 2015年11月10日.
7. 阿部展次: 座長, 十二指腸良性疾患2. 第77回日本臨床外科学会定総会, 福岡, 2015年11月27日.
8. 鈴木裕: 座長, 一般演題(口演) 胆嚢良性4. 第77回日本臨床外科学会, 福岡, 2015年11月28日.
9. 川口翔平: 第28回日本内視鏡外科学会総会, 優秀Young Video賞, 大阪, 2015年12月11日.

#### 外科学教室 (呼吸器・甲状腺外科)

#### 講演 国際学会

1. Tanaka R, Vigneswaran Y, Linn J, Carbray J, Denham W, Haggerty S, Ujiki M: Videotape Review Program To Enhance Resident Training in Laparoscopic Inguinal Hernia Repairs. Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons Annual Meeting (SAGES2015), USA, April 16th-17th, 2015.
2. Tanaka R, Vigneswaran Y, DeAsis FJ, Carbray J, Derevianko AY, Ujiki M: Goal Setting Program in Surgical Training Curriculum to Improve Laparoscopic Skills. Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons Annual Meeting (SAGES2015), USA, April 16th-17th, 2015.
3. Dorian E, DeAsis FJ, Tanaka R, Lapin B, Amesbury R, Carbray J, Ujiki M: A Comparative Assessment of Novel Mini Laparoscopic Tools. Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons Annual Meeting (SAGES2015), USA, April 16th-17th, 2015.
4. Derevianko AY, Tanaka R, DeAsis FJ, Lapin B, Zhao JC, Talamonti M, Velasco J, Baker M, Ujiki M: New Approach to Skills Continuum in Laparoscopic Ultrasound (LUS) Teaching and Assessment. Pilot Study. 2015 SURGICAL EDUCATION WEEK, USA, April 21st-25th, 2015.
5. Yoshida T, Nakagawa T, Shimoda K, Hiramatsu M, Shiraishi Y: The chronic respiratory infection as a background of the lung cancers. 16th World Conference on Lung Cancer, USA, September 6th-9th,

2015.

6. Sakao Y, Kuroda H, Okumura T, Boku N, Hishida T, Ohde Y, Yoshiya K, Higashiyama M, Adachi H, Satoh Y, Kameyama K, Kanzaki M, Yoshimura M, Hata Y, Matsuura M, Chen F, Yoshida K, Sasaki H, Horio H, Takenoyama M, Yamashita M, Hashimoto T, Fujita A, Okumura M, Funai K, Shiono S, Asano H, Suzuki M, Hoshi E, Shiraishi Y, Nakayama M, Yamazaki N, Matsuo T, Miyazawa H, Sato Y, Takao M, Nakayama H, Yamada S, Shimizu K, Kataoka M, Nakamura H, Watanabe T, Suzuki H, Akamine S, Tsunozuka Y, Nakata M, Kadokura M, Hyodo I, Mori K, Kondo H: Investigation for the optimum resectable pathological size of small solitary pulmonary metastases from colorectal cancers. IASLC 16th World Conference on Lung Cancer, USA, September 6th-9th, 2015.
7. Okumura T, Boku N, Hishida T, Ohde Y, Sakao Y, Yoshiya K, Higashiyama M, Kameyama K, Adachi H, Shiomi K, Kanzaki M, Yoshimura M, Matsuura M, Hata Y, Chen F, Yoshida K, Sasaki H, Hyodo I, Mori K, Kondo H: Prognostic index predicting the surgical outcome of pulmonary metastasis from colorectal cancer: Results of a retrospective Japanese multicenter study. ESMO/ECC (European Cancer Congress 2015), Austria, September 25th, 2015.
8. Kawachi R, Tachibana K, Karita S, Nakazato Y, Tanaka R, Nagashima Y, Takei H, Kondo H: Thoracoscopic pleural tent for spontaneous pneumothorax. The 29<sup>th</sup> annual meeting of European Association for Cardio-Thoracic Surgery, Netherlands, October 3rd-7th, 2015.
9. Kondo H: Reliability of lobe-specific systematic nodal dissection as a staging procedure. The Third International Joint Meeting on Thoracic Surgery, Spain, November 18th, 2015.
10. Kondo H: Positive pleural lavage cytology: to upstage or not to upstage. The Third International Joint Meeting on Thoracic Surgery, Spain, November 18th, 2015.
11. Kondo H: Contraindications of systematic nodal dissection. The Third International Joint Meeting on Thoracic Surgery, Spain, November 20th, 2015.
12. Hishida T, Tsuboi M, Okumura T, Boku N, Ode Y, Sakao Y, Yoshiya K, Higashiyama M, Kameyama K, Adachi H, Shiomi K, Kanzaki M, Yoshimura M, Matsuura M, Hata Y, Chen F, Yoshida K, Sasaki H, Horio H, Takenoyama M, Yamashita M, Hashimoto T, Fujita A, Okumura M, Funai K, Shiono S, Asano H, Suzuki M, Shiraishi Y, Nakayama M, Yamada S, Hoshi E, Yamazaki N, Matsuo T, Miyazawa H, Sato Y, Takao M, Nakamura H, Nakayama H, Shimizu K, Watanabe T, Suzuki H, Kataoka M, Tsunozuka Y, Akamine S, Kadokura M, Nakata M, Hyodo I, Mori K, Kondo H: Does repeat lung resection provide a chance of cure for recurrent pulmonary metastases of colorectal cancer?: Results of a retrospective Japanese multicenter study. 2016 STS (Society of Thoracic Surgery) Annual meeting. USA, January 23rd, 2016.

#### 国内学会

1. 須田一晴, 古屋敷剛, 喜多秀文, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 当院における完全鏡視下肺全摘術の検討. 第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015年4月16日.
2. 荻田真: 症例提示. 第159回城西胸部画像研究会, 武蔵野, 2015年4月21日.

3. 武井秀史: 悪性胸膜中皮腫の治療. 第159回城西胸部画像研究会, 武蔵野, 2015年4月21日.
4. 須田一晴, 古屋敷剛: 胸腔鏡下中葉切除術における肺門リンパ節郭清. 第22回新潟心臓血管肺手術手技研究会, 新潟, 2015年4月25日.
5. 西海昇, 近藤晴彦, 岩崎昭憲: 総合診療対策委員会報告, [総合診療対策] 呼吸器外科手術の適切な点数に向けて. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月14-15日.
6. 大出泰久, 奥村武弘, 朴成和, 菱田智之, 坂尾幸則, 吉谷克雄, 東山聖彦, 亀山耕太郎, 安達大史, 塩見和, 神崎正人, 内野和哉, 松浦求樹, 秦美暢, 陳豊史, 吉田和夫, 佐々木秀文, 兵頭一之介, 盛啓太, 近藤晴彦: Oxaliplatinが本邦に導入された後の大腸癌肺転移切除成績と周術期化学療法の意義: 多施設後ろ向き臨床研究. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月14-15日.
7. 遠藤俊輔, 近藤晴彦, 佐藤雅美, 千田雅之, 豊岡伸一, 横井香平, 吉田浩一, 中島淳, 池田徳彦: NCD関連作業部会報告. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月14-15日.
8. 馬庭知弘, 盛啓太, 大出泰久, 奥村武弘, 朴成和, 菱田智之, 坂尾幸則, 吉谷克雄, 東山聖彦, 亀山耕太郎, 安達大史, 塩見和, 神崎正人, 内野和哉, 松浦求樹, 秦美暢, 陳豊史, 吉田和夫, 兵頭一之介, 近藤晴彦: 大腸癌多発肺転移における腫瘍径の検討—多施設共同後ろ向き臨床研究—. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月14-15日.
9. 井坂光宏, 清水麗子, 茅田洋之, 児嶋秀晃, 宮田奈央子, 馬庭知弘, 高橋祥司, 近藤晴彦, 大出泰久: 左側肺癌における肺門リンパ節#10の細分類と転移頻度, 予後に関する検討. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月14-15日.
10. 松脇りえ, 武井秀史, 新井信晃, 三ツ間智也, 平田佳史, 橘啓盛, 荻田真, 河内利賢, 中里陽子, 長島鎮, 近藤晴彦: 成人における肺分画症の診断・治療の実際. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月14-15日.
11. 小澤秀浩, 河内利賢, 新井信晃, 三ツ間智也, 平田佳史, 松脇りえ, 橘啓盛, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 左上葉切除後に左上肺静脈内に血栓を形成した一例. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月14-15日.
12. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: B6中枢型扁平上皮癌に対する胸腔鏡下左下葉楔状切除術flap bronchoplasty. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月15日.
13. 古屋敷剛, 須田一晴, 喜多秀文, 藤田敦, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 肺原発滑膜肉腫の完全胸腔鏡下切除例, 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月14-15日.
14. 喜多秀文, 藤田敦, 中里宜正, 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦: 大腸癌術後の異時性多発性肺転移に対して胸腔鏡下右S1区域切除術を施行した1例. 第32回日本呼吸器外科学会総会, 高松, 2015年5月14日.
15. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 完全鏡視下による拡大手術とその工夫. 第38回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2015年6月11日.
16. 石坂欣大, 橘啓盛, 神尾幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 松脇りえ, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 平野浩一, 近藤晴彦: 食道癌による気道狭窄に対し気管支鏡下治療により窒息を回避した1例. 第837回外科集談会, 東京, 2015年6月13日.
17. 三ツ間智也, 河内利賢, 渋谷幸見, 新井信晃, 松脇りえ, 橘啓盛, 荻田真, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 心房細動に対し, カテーテルアブレーション後に肺静脈狭窄と肺門部腫瘍形成を来し, 肺癌と鑑別を要した一症例. 第173回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2015年7月4日.
18. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 胸腔鏡下中葉切除術における肺門リンパ節郭清. 第6回上甲信越呼吸器外科懇談会, 山梨, 2015年7月4日.
19. 荻田真: 症例提示. 第160回城西胸部画像研究会, 武蔵野, 2015年7月14日.
20. 橘啓盛, 渋谷幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 松脇りえ, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 藤原正親, 近藤晴彦: 気管支鏡下切除による気管狭窄解除後に気管管状切除を施行した気管腫瘍の1例. 第21回SKAT研究会, 東京, 2015年7月18日.
21. 須田一晴, 古屋敷剛, 近藤晴彦: 術後難治性肺癰に対するEWSを用いた治療戦略. 第3回新潟呼吸器外科手術手技研究会, 上越, 2015年10月10日.
22. 武井秀史: 小型肺癌の手術選択 標準手術. 第68回日本胸部外科学会定期学術集会, 神戸, 2015年10月18日.
23. 河内利賢: 自然気胸の治療, ガイドラインを見直してみよう. 第160回城西画像研究会, 東京2015年10月27日.
24. 呉屋朝幸, 遠藤瑞木: ストーマケアおよびその他の関連話題. 公益社団法人日本オストミー協会茨城県支部会. 鹿嶋, 2015年11月1日.
25. 荻田真: 症例提示. 第161回城西胸部画像研究会, 武蔵野, 2015年10月27日.
26. 新井信晃, 武井秀史, 渋谷幸見, 三ツ間智也, 松脇りえ, 橘啓盛, 田中良太, 近藤晴彦, 遠藤英仁, 窪田博: 特異な経過を示した縦隔内成熟奇形腫の1例. 第169回胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2015年11月7日.
27. 田中良太, 坂本憲彦, 橘啓盛, 中里陽子, 武井秀史, 加藤拓, 藤原正親, 大倉康男, 菅間博, 近藤晴彦: 迅速細胞診において肺癌の組織型推定は可能か? 気管支鏡下での生検材料を用いた検討. 第54回日本臨床細胞学会秋期大会, 名古屋, 2015年11月21日.
28. 須田一晴, 古屋敷剛, 北村直也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 完全鏡視下に行う気管支形成術の手法と工夫. 第56回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2015年11月26日.
29. 森元能仁, 武井秀史, 新井信晃, 三ツ間智也, 松脇りえ, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 近藤晴彦, 肥留川一郎, 小川ゆかり, 高田佐織, 横山琢磨, 石井晴之, 滝澤始, 関礼輔, 篠原高雄: タルクとOK-432による胸膜癒着療法はどちらが有効か?. 第56回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2015年11月28日.
30. 藤田敦, 喜多秀文, 近藤晴彦, 呉屋朝幸: 胸腔鏡手術の様々な場面におけるCO2送気による人工気胸手技の有用性. 第56回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2015年11月27日.
31. 橘啓盛, 渋谷幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 松脇りえ, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 藤原正親, 近藤晴彦: 気管支鏡下切除による気管狭窄解除後に気管管状切除を施行した気管原発多形腺腫の1例. 第56回日本肺癌学会学術集会, 横浜, 2015年11月26日.
32. 荻田真: 症例提示. 第162回城西胸部画像研究会, 武蔵野, 2016年1月19日.
33. 橘啓盛, 渋谷幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 松脇りえ, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 田中良太, 長島鎮, 武井秀史, 藤原正親, 近藤晴彦: 悪性胸膜中皮腫に対する胸膜切除/剥皮術. 第22回SKAT研究会, 横浜, 2016年1月23日.
34. 武井秀史: 悪性胸膜中皮腫に対する外科療法 EPPかP/Dか?. 多摩呼吸器外科研究会, 立川, 2016年1月30日.
35. 須田一晴, 古屋敷剛, 北村直也, 近藤晴彦, 呉屋朝幸:

SST(superior sulcus tumor)に対する胸腔鏡アプローチ. 第25回長岡肺癌研究会, 長岡, 2016年2月26日

36. 田中良太, 渋谷幸見, 新井信晃, 三ツ間智也, 松脇りえ, 橘啓盛, 河内利賢, 荻田真, 中里陽子, 長島鎮, 武井秀史, 近藤晴彦: 生体豚モデルを用いた超音波凝固切開装置のVessel Sealingにおける比較実験. 第25回日本呼吸器外科医会冬期学術集会, 新得, 2016年2月27日.
37. 渋谷幸見, 河内利賢, 長島鎮, 武井秀史, 藤原正親, 近藤晴彦: 肺原発リンパ上皮腫様癌と鑑別を要した非角化型扁平上皮癌の1例. 第175回日本肺癌学会関東支部学術集会, 東京, 2016年3月5日.
38. 中里陽子, 田中良太, 平野浩一: 当科におけるLenvatinibの使用経験. Thyroid Cancer Seminar, 東京, 2016年3月9日.

## 論文

1. Maniwa T<sup>1</sup>, Kondo H, Mori K<sup>1</sup>, Sato T<sup>2</sup>, Teramukai S<sup>3</sup>, Ebina M<sup>4</sup>, Kishi K<sup>5</sup>, Watanabe A<sup>6</sup>, Sugiyama Y<sup>7</sup>, Date H<sup>2</sup>(<sup>1</sup>Shizuoka Cancer Center, <sup>2</sup>Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>3</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>4</sup>Tohoku Pharmaceutical University Hospital, <sup>5</sup>Toranomon Hospital, <sup>6</sup>Sapporo Medical University School of Medicine and Hospital, <sup>7</sup>Jichi Medical University): Outcomes in surgically managed non-small-cell lung cancer patients with evidence of interstitial pneumonia identified on preoperative radiology or incidentally on postoperative histology. *Interact Cardiovasc Thorac Surg* 20 (5):641-646, 2015.
2. Eberhardt WE<sup>1</sup>, Mitchell A<sup>2</sup>, Crowley J<sup>2</sup>, Kondo H, Kim YT<sup>3</sup>, Turrisi A 3rd<sup>4</sup>, Goldstraw P<sup>5</sup>, Rami-Porta R<sup>6,7</sup>(<sup>1</sup>West German Cancer Centre, University Hospital, University Duisburg-Essen, <sup>2</sup>Cancer Research And Biostatistics, Seattle, <sup>3</sup>Seoul National University Hospital, <sup>4</sup>Sinai Grace Hospital, <sup>5</sup>Royal Brompton Hospital and Imperial College, <sup>6</sup>Hospital Universitari Mutua Terrassa, <sup>7</sup>CIBERES Lung Cancer Group): International Association for Study of Lung Cancer Staging and Prognostic Factors Committee, Advisory Board Members, and Participating Institutions: The IASLC Lung Cancer Staging Project: Proposals for the Revision of the M Descriptors in the Forthcoming Eighth Edition of the TNM Classification of Lung Cancer. *J Thorac Oncol* 10 (11): 1515-1522, 2015.
3. Tanaka R<sup>1,2</sup>, Gitelis M<sup>1,2</sup>, Meiselman D<sup>1,2</sup>, Abar B<sup>1,2</sup>, Zapf M<sup>1,2</sup>, Carbray J<sup>1,2</sup>, Vigneswaran Y<sup>1,2</sup>, Zhao J<sup>1,2</sup>, Ujiki M<sup>1,2</sup>(<sup>1</sup>NorthShore University HealthSystem, <sup>2</sup>University of Chicago Pritzker School of Medicine): Evaluation of Vessel Sealing Performance Among Ultrasonic Devices in a Porcine Model. *Surgical Innovation* 22:338-343, 2015.
4. Vigneswaran Y<sup>1,2</sup>, Tanaka R<sup>1</sup>, Gitelis M<sup>1</sup>, Carbray J<sup>1</sup>, Ujiki M<sup>1,2</sup>(<sup>1</sup>NorthShore University HealthSystem, <sup>2</sup>University of Chicago): Quality of life assessment after peroral endoscopic myotomy. *Surg Endosc* 29:1198-1202, 2015.
5. Ujiki MB<sup>1</sup>, Gitelis ME, Carbray J, Lapin B, Linn J, Haggerty S, Wang C, Tanaka R, Barrera E, Butt Z, Denham W (NorthShore University HealthSystem) Patient-centered outcomes following laparoscopic inguinal hernia repair. *Surg Endosc* 29:2512-2519, 2015.
6. 田中良太, 近藤晴彦: 最新臨床大腸癌学-基礎医学から臨床応用で-大腸癌肺転移に対する手術治療(手術適応). 日本臨床 73 (増刊4) : 431-435, 2015.
7. 佐藤雅美<sup>1</sup>, 柴光年<sup>1</sup>, 齋藤泰紀<sup>1</sup>, 佐藤之俊<sup>1</sup>, 渋谷潔<sup>1</sup>, 土田敬明<sup>1</sup>, 中山富雄<sup>1</sup>, 宝来威<sup>1</sup>, 池田徳彦<sup>2</sup>, 河原栄<sup>2</sup>, 三浦弘之<sup>2</sup>, 中嶋隆太郎<sup>2</sup>, 田口明美<sup>2</sup>, 矢羽田一信<sup>2</sup>, 島垣二佳子<sup>2</sup>, 神尾淳子<sup>2</sup>, 長尾緑<sup>2</sup>, 三宅真司<sup>2</sup>, 下川幸弘<sup>2</sup>, 田中良太, 遠藤千頭<sup>1</sup>(<sup>1</sup>鹿児島大学, <sup>2</sup>日本臨床細胞学会肺癌検診ワーキンググループ): 日本肺癌学会・日本臨床細胞学会2 学会合同委員会報告: 肺がん検診における喀痰細胞診の診断一致性と標準化. *肺癌* 55:859-865, 2015.
8. 伊達洋至<sup>1</sup>, 佐藤寿彦<sup>1</sup>, 渡辺 敦<sup>2</sup>, 近藤晴彦(<sup>1</sup>京都大学, <sup>2</sup>札幌医科大学): 肺癌の背景に見られる間質性肺炎をどう診断しマネージするか-外科的立場から-. *肺癌* 55(6) : 900-904, 2015.
9. 近藤晴彦: Pro⇌Pro 原発性肺癌におけるリンパ節郭清の意義. *日本医事新報* 4774 : 57-58, 2015.

## 著書

1. Ohde Y, Kondo H: Open segmentectomy. *ESTS Textbook*. Lucyna Lipowska (Ed.), Poland, Medycyna Praktyczna Klakow, 2015. p. 879-889.
2. 橘啓盛, 田中清美, 近藤晴彦: PART2部位別ドレナージュの実際と看護・呼吸器. ドレーン・カテーテル・チューブ管理 完全ガイド. 窪田敬一編. 東京, 照林社, 2015. p. 67-70.
3. 近藤晴彦: cN2症例の手術適応をどう考えるか?. *EBM 呼吸器疾患の治療 2016-2017*. 永井厚志監修, 一ノ瀬正和, 井上義一, 舘田一博, 弦間昭彦編. 東京, 中外医学社, 2016. p. 381-384.
4. 松脇りえ, 近藤晴彦: 肺分画症. *呼吸器疾患最新の治療 2016-2018*. 杉山幸比古, 門田淳一, 弦間昭彦編. 東京, 南江堂, 2016. p. 413-415.
5. 河内利賢: 横隔膜損傷. *今日の治療指針2016年版*. 山口徹, 北原光夫監修, 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編. 東京, 医学書院, 2016. p. 54-55.

## その他

1. 近藤晴彦: 第1回多摩呼吸器外科医会主催. 立川, 2016年1月30日.

## 外科学教室 (乳腺外科)

## 講演

1. 井本滋, 上野貴之, 伊東大樹, 伊美建太郎, 宮本快介, 北村真奈美, 長嶺信治, 位藤俊一: 早期乳癌に対するラジオ波焼灼治療の第II相試験. 第115回日本外科学会総会学術集会, 名古屋, 2015年4月18日.
2. 上野貴之: 薬剤特性から考えるハラヴェンの可能性. 群馬乳癌カンファレンス, 群馬, 2015年4月30日.
3. 井本滋: 日本病理精度保証機構に期待すること. 第104回日本病理学会総会, 名古屋, 2015年5月2日.
4. 上野貴之: 臨床の壁基礎の壁. 第3回Breast Surgical Oncology Meeting, 東京, 2015年5月15日.
5. 上野貴之: NSAI抵抗性再発乳癌に対するアフィニトールの有用性. 第4回Advanced Breast Cancer Web Forum, 東京, 2015年5月26日.
6. 上野貴之: HER2陽性乳癌を解きほぐす. 抗HER2療法 Symposium, さいたま, 2015年6月22日.
7. 北村真奈美, 岡田尚子, 金内一, 清水誠一郎, 照屋正則, 上西紀夫: 病理組織学的診断に難渋した巨大嚢胞性乳腺腫瘍の一例. 第837回外科集談会, 東京, 2015年6月13日.
8. 上野貴之: pCR再考. 第23回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2015年7月2-4日.
9. 上野貴之, 伊東大樹, 伊美建太郎, 宮本快介, 北村真奈

- 美, 井本滋: ER陽性乳癌組織におけるER発現とKi67発現の腫瘍内heterogeneityの解析. 第23回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2015年7月2-4日.
10. 上野貴之: HER2陽性MBC治療における今後の展望. 第23回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2015年7月2-4日.
  11. 伊東大樹, 井本滋, 上野貴之, 伊坂泰嗣, 宮本快介: HER2陽性乳癌におけるHER3, HER4, PTEN, IGF1Rの発現とtrastuzumab/vinorelbine療法の効果予測に関する検討. 第23回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2015年7月4日.
  12. 井本滋, 上野貴之, 伊東大樹, 伊美建太郎, 宮本快介, 北村真奈美: ラジオ波焼灼治療後の乳癌患者のQOLと予後. 第23回日本乳癌学会学術総会. 東京, 2015年7月3日.
  13. 井本滋: センチネルリンパ節転移陽性乳癌患者の腋窩治療の個別化. 第23回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2015年7月3日.
  14. 上野貴之: HER2陽性MBC治療の新戦力を理解する. 第12回日本乳癌学会中部地方会, 福井, 2015年9月5-6日.
  15. 上野貴之: St. Gallen 2015 最新の指針は臨床にどのような変化をもたらすか. 第11回東北Breast Cancer Workshop, 仙台, 2015年10月17日.
  16. 上野貴之: HER2陽性転移性乳癌治療の最大化のために. 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015年10月29-31日.
  17. Ueno T, Isaka H, Itoh H, Imi K, Miyamoto K, Kitamura M, Imoto S: Analysis of in situ expression of hormone receptors and proliferation marker at a single cell level in breast cancer tissues. 3rd International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology, Kyoto, October 29th-31st, 2015.
  18. Imoto S, Nagamine S, Ito T, Tsuda H, Yoshida M, Tozaki M, Morita S, Ueno T: Ongoing phase II study on radiofrequency ablation in stage 0 and I breast cancer without extensive intraductal components. 3rd International Conference of Federation of Asian Clinical Oncology, Kyoto, October 29th, 2015.
  19. 上野貴之: TRを臨床試験とあわせて行う意義. 第6回JBCRG学術集会, 京都, 2015年11月1日.
  20. Itoh H, Imoto S, Ueno T, Isaka H, Miyamoto K: Clinical utility of the expression of HER3, HER4, PTEN and IGF1R in HER2-positive advanced or metastatic breast cancer. ABC3-Advanced Breast Cancer Third International Consensus Conference, Portugal, November 5th-7th, 2015.
  21. 上野貴之: 日本人データから読み解くアバスチンの有用性. Chugai Breast Cancer Webiner 2015, 東京, 2015年11月13日.
  22. 上野貴之: Single Cell Analysisで何が見えるか. 神奈川乳癌カンファレンス第13回学術集会, 横浜, 2016年2月9日.
  23. 宮本快介: 当院におけるHBOC診療の経験. 第13回武蔵野乳癌研究会, 東京, 2016年2月27日.
  24. Ueno T: Monitoring biomarkers of non-cytotoxic therapy in the neoadjuvant setting. Kyoto Breast Cancer Consensus Conference 2016, Kyoto, 2016年3月3-6日.
  25. Tanaka S, Ueno T, Ishiguro H, Toi M: The alteration of circulating endothelial progenitor cell counts could be an independent predictive factor for pathological response to neoadjuvant chemotherapy in breast cancer patients. 8<sup>th</sup> Asian Oncology Summit, Kyoto, 2016年3月3-6日.
  26. 上野貴之: ホルモン剤と経口分子標的治療薬の新時代. Advanced Breast Cancer Web Forum, 東京, 2016年3月24日.
- 論文**
1. Ueno T, Saji S, Sugimoto M, Masuda N, Kuroi K, Sato N, Takei H, Yamamoto Y, Ohno S, Yamashita H, Hisamatsu K, Aogi K, Iwata H, Imoto S, Sasano H, Toi M: Clinical significance of the expression of autophagy-associated marker, beclin 1, in breast cancer patients who received neoadjuvant endocrine therapy. BMC Cancer. 16(1):230, 2016
  2. Ueno T, Utsumi J, Toi M, Shimizu K: Characteristic gene expression profiles of human fibroblasts and breast cancer cells in a newly developed bilateral coculture system. Biomed Res Int. 2015: 960840, 2015. (Epub).
  3. 上野貴之: HER2陽性乳がんに対する術後補助化学療法. 腫瘍内科 15: 427-432, 2015.
  4. 上野貴之: 術前ホルモン療法後の腫瘍特性に基づくエストロゲン受容体陽性乳がんの予後予測-PEPIモデル. がん分子標的治療 13: 84-86, 2015.
  5. 上野貴之: エリプリンの新規作用機序. クリニシアン 63: 98-103, 2016.
  6. Mukai H, Noguchi S, Akiyama F, Inaji H, Iwase H, Horiguchi J, Kurebayashi J, Hirata K, Toi M, Kurosumi M, Kohno N, Nishimura R, Nakamura S, Imoto S, Iwase T, Endo T, Saeki T, Ogawa Y, Ito Y, Tokuda Y, Ikeda T: 2013 clinical practice guidelines (The Japanese Breast Cancer Society): history, policy and mission. Breast Cancer 22(1): 1-4, 2015.
  7. Takashima T, Mukai H, Hara F, Matsubara N, Saito T, Takano T, Park Y, Toyama T, Hozumi Y, Tsurutani J, Imoto S, Watanabe T, Sagara Y, Nishimura R, Shimozuma K, Ohashi Y; SELECT BC Study Group: Taxanes versus S-1 as the first-line chemotherapy for metastatic breast cancer (SELECT BC): an open-label, non-inferiority, randomised phase 3 trial. Lancet Oncol. 17(1):90-98, 2016.
  8. Kubota M, Komoike Y, Hamada M, Shinzaki W, Azumi T, Hashimoto Y, Imoto S, Takeyama Y, Okuno K: One-step nucleic acid amplification assay for intraoperative prediction of advanced axillary lymph node metastases in breast cancer patients with sentinel lymph node metastasis. Mol Clin Oncol. 4(2):173-178, 2016.
- 著書**
1. 上野貴之: 骨転移の治療と有害事象の管理. がん治療エッセンシャルガイド 改訂3版. 佐藤隆美, 藤原康弘, 古瀬純司, 大山優編. 東京, 南山堂, 2015. p. 148-156.
- 小児外科学教室**
- 講演**
1. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 佐藤順一朗: 先天性小腸閉鎖症と胎便性腹膜炎. 第52回小児外科学会総会, 神戸, 2015年5月28日.
  2. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一朗: 当科におけるトランジション症例の検討. 第52回日本小児外科学会学術集会, 神戸, 2015年5月29日.
  3. 浮山越史, 葦澤融司, 渡邊佳子, 鮫島由友, 佐藤順一朗: XPにて確認された消化管異物. 第52回小児外科学会総会, 神戸, 2015年5月30日.
  4. 佐藤順一朗, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友: 低出生体重児の鼠径ヘルニア手術時期に関する検討. 第

52回小児外科学会総会, 神戸, 2015年5月30日.

5. 浮山越史:「小児腸重積症の診療ガイドライン」公表後アンケート調査報告.第29回日本小児救急医学会学術集会,さいたま,2015年6月13日.
6. 浮山越史:第5回井の頭セミナー:教育・研修委員会報告.第29回日本小児救急医学会学術集会,さいたま,2015年6月13日.
7. 佐藤順一朗, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友:当科で経験した異物誤飲症例に関する検討.第113回東京小児外科学研究会,東京,2015年6月16日.
8. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一朗:新生児消化管手術後に発症したミルクアレルギー症例の検討.第51回日本周産期・新生児医学会総会,福岡,2015年7月10日.
9. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 佐藤順一朗:臍ヘルニア手術の当院における工夫(誰でも出来る「切り株法」).第4回日本小児診療多職種研究会,北九州,2015年7月19日.
10. 葦澤融司:低出生体重児における消化管穿孔症例の検討.第27回新潟周産期母子研究会学術講演会,新潟,2015年7月25日.
11. 佐藤順一朗, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友:PTPシートを誤飲した2例.第50回日本小児外科学会関東甲信越地方会,さいたま,2015年10月10日.
12. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 佐藤順一朗, 望月眞, 大倉康男:比較的まれな精巣類表皮嚢胞の1例.第50回日本小児外科学会関東甲信越地方会,さいたま,2015年10月10日.
13. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一朗:慢性特発性偽性腸閉塞症の1例.第26回日本小児外科QOL研究会,山梨,2015年10月17日.
14. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一朗:Peutz-Jeghers症候群の2例.第31回日本小児外科学会秋季シンポジウム,熊本,2015年10月31日.
15. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 佐藤順一朗:器質性病変を認めた腸重積症例の検討.第77回日本臨床外科学会総会,福岡,2015年11月27日.

## 論文

1. 浮山越史:【疾患からみる画像診断の進め方・読み方】消化器疾患 腸重積.小児科診療 78(Suppl.):183-186,2015.
2. 渡邊佳子, 葦澤融司:胃食道逆流症—診断と治療のポイント—.小児科臨床 68:681-685,2015.
3. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一朗, 廣部誠一<sup>1</sup>, 小森広嗣<sup>1</sup>, 下島直樹<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東京都立小児医療センター):当院で経験したボタン電池誤飲症例の検討.日腹部救急医会誌 35:537-542,2015.
4. 渡辺稔彦<sup>1,2</sup>, 遠藤昌夫<sup>2</sup>, 大野通暢<sup>2</sup>, 吉田史子<sup>2</sup>, 森昌玄<sup>2</sup>, 富田紘史<sup>2</sup>, 浮山越史, 中野美和子<sup>2</sup>(<sup>1</sup>国立成育医療研究センター,<sup>2</sup>さいたま市立病院):【LPEC】術式と成績.小児外科 47:594-597,2015.
5. 鮫島由友, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 望月智弘, 佐藤順一朗:早期にVater乳頭部癌を生じた家族性大腸腺腫症の1例.日小外会誌 51:932-936,2015.
6. 佐藤順一朗, 葦澤融司, 浮山越史, 渡邊佳子, 鮫島由友:右頬粘膜部の先天性骨外性歯牙腫の1例.日小外会誌 51:1177-1180,2015.
7. 渡邊佳子, 葦澤融司, 浮山越史, 鮫島由友, 佐藤順一朗:小児精巣類表皮嚢胞の1例.日小外会誌 51:1225-1229,2015.
8. 浮山越史<sup>1</sup>, 長村敏生<sup>1</sup>, 草川功<sup>1</sup>, 岩中督<sup>1</sup>, 黒田達夫<sup>1</sup>(<sup>1</sup>日本小児救急医学会ガイドライン作成委員会):「小児

腸重積症のガイドライン」公表後アンケート調査報告—あなたの診療は変わりましたか?—.日本小児救急医学会雑誌 14:414-422,2015.

9. 浮山越史, 葦澤融司, 渡邊佳子, 鮫島由友, 佐藤順一朗:超音波検査:FASTの実際とpitfall.小児外科 48:130-133,2016.

## 著書

1. 葦澤融司:境界・事故関連の傷病 誤飲・誤嚥.小児救急治療ガイドライン改訂第3版.市川光太郎編集.東京,診断と治療社,2015.p.381-383.
2. 浮山越史:消化器疾患 急性腹症.小児救急治療ガイドライン改訂第3版.市川光太郎編集.東京,診断と治療社,2015.p.274-280.
3. 葦澤融司:肛門周囲膿瘍,便秘,亀頭包皮灸,恥垢,包茎,停留精巣,陰囊水腫,外陰腫炎,陰唇癒合.よくみる小児疾患100.五十風隆監修,東京,総合医学社,2015.p.196-207.

## その他

1. 浮山越史(講演,セミナー):小児救急における超音波検査.第6回日本小児救急医学会あおによし奈良教育セミナー,奈良,2015年12月5日.

## 救急医学教室

### 講演

1. 山口芳裕:東京オリンピックを踏まえたテロ対策.NPO法人国際緊急医療・衛生支援機構(IEMS-Japan)特別講演会,東京,2015年5月16日.
2. 山口芳裕:生命を守る～災害医療派遣チームDMAT～.東京都臨床工学会併設都民公開講座,東京,2015年5月17日.
3. 山口芳裕:東京オリンピックにおけるCBRNE対策～救命・救急医等が知っておくべきこと～.東京オリンピックに備えてのCBRNE災害対策医療講習会,東京,2015年5月17日.
4. 山口芳裕:放射線・テロ災害時の医療対策.平成27年度放射線テロ・放射線災害対策担当者養成講習会,東京,2015年5月24日.
5. 松田岳人, 樽井武彦, 加藤聡一郎, 守永広征, 大畑徹也, 福島秀起, 山田賢治, 山口芳裕:予防的バルーンカテーテル留置により術直後大量出血を制御し救命できた骨盤骨折の1例.第29回日本外傷学会,札幌,2015年6月11-12日.
6. 海田賢彦, 加藤聡一郎, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕:重症熱傷患者における真菌症の最近の傾向と治療戦略.第41回日本熱傷学会総会・学術集会,名古屋,2015年6月18-19日.
7. 副島一孝, 山田賢治, 柴田大, 堀圭二朗, 佐々木淳一, 松村一:日本スキンバンクネットワーク同種皮膚提供症例に関する統計的解析.第41回日本熱傷学会総会・学術集会,名古屋,2015年6月18-19日.
8. 鈴木準, 小野寺亮, 庄司高裕, 海田賢彦, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕:重症熱傷の亜急性期にNOMIおよびACSを合併し救命し得なかった1例.第41回日本熱傷学会総会・学術集会,名古屋,2015年6月18-19日.
9. 大畑徹也, 丸野秀人, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一:ガス壊疽に対する救命と機能における予後予測因子の検討.第38回日本骨・関節感染症学会,高松,2015年7月3-4日.
10. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 星亨, 稲田成作, 山口芳裕, 市村正一:外傷性股関節後方脱臼に同側大腿骨骨幹部骨折を合併した1例.第41回日本骨折治療学会,奈良,2015年6月26-27日.

11. 大畑徹也, 稲田成作, 丸野秀人, 星亨, 山口芳裕, 市村正一: 当院における寛骨臼骨折の治療成績. 第41回日本骨折治療学会, 奈良, 2015年6月26-27日.
  12. 松隈卓徳, 大畑徹也, 丸野秀人, 稲田成作, 山口芳裕, 市村正一: 距骨骨折に同側に踵骨骨折を伴った3例. 第41回日本骨折治療学会, 奈良, 2015年6月26-27日.
  13. 樽井武彦, 宮内洋, 山田賢治, 山口芳裕: 薬物過量服用患者における重症化予測因子の有用性の検証. 第37回日本中毒学会総会・学術集会, 和歌山, 2015年7月17-18日.
  14. 山口芳裕, 樽井武彦, 山田賢治, 宮内洋, 福島秀起, 海田賢彦, 庄司高裕, 大田原正幸, 加藤聡一郎, 小野寺亮, 官方基行: 非臨床・臨床試験結果は, ヒト急性中毒をどこまで担保できるか～ヒトの急性中毒でみられる症状と非臨床・臨床試験結果との整合性～. 第37回日本中毒学会総会・学術集会, 和歌山, 2015年7月17-18日.
  15. 山口芳裕: 緊急被ばく医療支援チーム. 第3回日本放射線事故・災害医学会, 福島, 2015年8月29日.
  16. 海田賢彦: 重症熱傷と真菌～知っておきたい3つのこと～. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  17. 大畑徹也, 加藤聡一郎, 樽井武彦, 山口芳裕: 生きて歩いて帰る～重症骨盤外傷に対する私の治療戦略～. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  18. 海田賢彦, 持田勇希, 加藤聡一郎, 庄司高裕, 大畑徹也, 玉田尚, 福島秀起, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 総合力戦略と低侵襲への挑戦. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  19. 樽井武彦, 宮内洋, 山田賢治, 山口芳裕: フルコースからアラカルトへ～重症敗血症の重症度・病態を考慮したガイドラインの整備が必要である～. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  20. 西沢良平, 小野寺亮, 落合剛二, 守永広征, 大田原正幸, 庄司高裕, 福島秀起, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: III型外傷性肝損傷に対して初期非手術的治療 (Non-operative management: NOM) を試み可及的低侵襲に治療し得た2例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  21. 山口芳裕: 福島第一原発三号機注水作業の教訓を踏まえた突入撤退判断システムの開発～消防防災科学技術研究推進制度対象研究～. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  22. 加藤聡一郎, 樽井武彦, 山口芳裕: トリアージの段階で行う全被災傷患者へのID付与～重複しない確実な標準化手法の確立～. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  23. 樽井武彦, 官方基行, 大田原正幸, 庄司高裕, 玉田尚, 宮内洋, 山田賢治, 山口芳裕: Overdose患者診療のアウトカムを問う. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  24. 笹沢俊吉, 玉田尚, 西沢良平, 小野寺亮, 大田原正幸, 海田賢彦, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: ドライアイスを入れたラムネ瓶の浴室内爆発による鋭的外傷の2例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  25. 小泉健雄, 和田貴子, 千田晋治, 神山麻由子, 久保祐美子, 井田喜明, 山口芳裕: BLS指導に携わった救急救命士学科学生の意識変容調査. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  26. 伊東杏里, 樽井武彦, 山口芳裕: 危険行動予測スコアを用いた精神疾患合併患者に対する救急医のアプローチ～救急領域における有用性の検討～. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  27. 小野寺亮, 山田賢治, 樽井武彦, 海田賢彦, 庄司高裕, 大田原正幸, 加藤聡一郎, 官方基行, 山口芳裕: 当院で経験した偶発性低体温症12症例の検討. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
  28. 山口芳裕: 企業コンプライアンスと原発作業員の健康管理. 第63回日本職業・災害医療学会, 東京, 2015年11月22-23日.
  29. 山口芳裕: 多数負傷者事故への対応. 第24回全国救急隊員シンポジウム, 札幌, 2015年12月3日.
  30. 山田賢治: 稀な長母指伸筋腱の走行異常がみられた2症例. 第30回東日本手外科研究会, 横浜, 2016年1月30日.
  31. 須田秀太郎, 庄司高裕, 海田賢彦, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 著しい腸管損傷を来した低所墜落外傷の一例. 第66回日本救急医学会関東地方会, 東京, 2016年2月6日.
  32. 吉田知礼, 官方基行, 山田賢治, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 墜落多発外傷に合併した右腎動脈閉塞に対し血管内治療を行い腎機能温存が得られた1例. 第66回日本救急医学会関東地方会, 東京, 2016年2月6日.
  33. 岩下幸平, 持田勇希, 山田賢治, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 食道内圧モニタリング下に人工呼吸管理を行った多剤耐性肺炎球菌性肺炎の一救命例. 第66回日本救急医学会関東地方会, 東京, 2016年2月6日.
  34. 山口芳裕: オリンピックを見すえた災害医療に関する課題. 第53回救急隊員学術研究会, 東京, 2016年2月12日.
  35. 海田賢彦, 加藤聡一郎, 庄司高裕, 宮内洋, 樽井武彦, 山口芳裕: 救命救急センターにおける早期離床に向けた取り組みと今後の課題. 第43回日本集中治療医学会学術集会, 神戸, 2016年2月11-14日.
  36. 山口芳裕: 有事医療体制の整備. 日本安全保障・危機管理学会 淡江大学国際共同シンポジウム, 台湾, 2016年3月4日.
- 論文**
1. 荻野義大<sup>1</sup>, 中野和司<sup>1</sup>, 大屋英稔<sup>2</sup>, 船戸徹郎<sup>1</sup>, 山口芳裕, 宮内洋 (<sup>1</sup>電気通信大学, <sup>2</sup>徳島大学): スペクトルの特徴量を用いた電氣的除細動の効果の予測. 電気学会論文誌 135: 1-7, 2015.
  2. Yamada K, Tarui T, Matsuda T, Matsuda T, Yamaguchi Y: Two adult cases of sepsis-associated purpura fulminans. 杏林医学会誌 46: 145-148, 2015.
  3. Horibuchi S, Yasuda T<sup>1</sup>, Sakaguchi N<sup>1</sup>, Yamaguchi Y, Akashi M<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Research Center for Radiation Emergency Medicine, <sup>2</sup>National Institute of Radiological Sciences): Cell-permeable intrinsic cellular inhibitors of apoptosis protect and rescue intestinal epithelial cells from radiation-induced cell death. Journal of Radiation Research 56: 100-113, 2015.
  4. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 山口芳裕, 山下紗季<sup>1</sup>, 市村正一<sup>1</sup>, 星亨<sup>2</sup> (<sup>1</sup>杏林大・医・整形外科, <sup>2</sup>東大和病院): 同側鎖骨近位端骨折を伴った肩甲帯部重複損傷の治療経験から得た一考察. 骨折 37: 320-323, 2015.
  5. Tarui T, Yoshikawa K, Miyakuni Y, Kaita Y, Tamada N, Matsuda T, Miyauchi H, Yamada K, Matsuda T, Yamaguchi Y: Independent risk factors for a complicated hospital course in intensive care unit overdose patients. Acute Medicine & Surgery 2: 98-104, 2015.
  6. 伊東杏里, 守永広征, 鈴木準, 西沢良平, 笹沢俊吉, 大田原正幸, 加藤聡一郎, 松田岳人, 宮内洋, 樽井武彦, 山田賢治, 山口芳裕: 腎動脈瘤破裂による出血性ショックに対しバルーンカテーテルによるflow control 下にコイル塞栓術を行い救命し得た1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 36: 241-244, 2015.
  7. 加藤聡一郎, 海田賢彦, 山口芳裕: 新たな重症熱傷患者

広域連携システムの構築: Burn Injury Transportation Team System. 熱傷 41: 221-230, 2015.

8. 大畑徹也, 星亨<sup>2</sup>, 丸野秀人<sup>1</sup>, 山口芳裕, 市村正一<sup>1</sup> (杏林大・医・整形外科,<sup>2</sup>東大和病院): 精神疾患患者における骨盤輪骨折の検討. 骨折 37: 646-649, 2015.
9. 加藤聡一郎, 山口芳裕: 新たな災害医療の展開と病院船. 日本臨牀 74: 298-302, 2016.
10. 加藤聡一郎: 災害時の傷病者搬送. 杏林医学会誌 47: 67-71, 2016.
11. 伊東杏里: PTSDについて. 杏林医学会誌 47: 73-76, 2016.
12. Okamoto H<sup>1,2</sup>, Teruya K<sup>1,2</sup>, Nakata A<sup>3</sup>, Yamaguchi Y, Matsuda T, Tsunoda T<sup>2</sup> (1Department of Public Health, Faculty of Health Sciences, Kyorin University, 2Department of Preventive Medicine and Public Health, School of Medicine, Kyorin University, 3University of Occupational and Environmental Health): Number of Patients Examined May Affect Natural Killer Cell Activity in Japanese Emergency Physicians: A Preliminary Study. Jpn J Health & Human Ecology 83: 73-83, 2016.

## 著書

1. 山田賢治, 山口芳裕: むち打ち症(むち打ち損傷). Medical Practice 32巻8号. 東京, 文光堂, 2015. p. 1351-1353.

## その他

1. 山口芳裕: 指導救命士のプロフェッショナルリズム. Prehospital Care 28巻2号, 2015.
2. 山口芳裕: 誰がやるのか～原子力発電所事故対応～. 東京消防 95巻3号, 2016.

## 脳神経外科学教室

### 講演

1. 岡田啓, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: iPadを用いた頭蓋底手術の術前シミュレーションの有用性. 第51回多摩脳神経外科懇話会, 三鷹, 2015年4月9日.
2. 鳥居正剛, 平野照之, 佐藤栄志, 脊山英徳, 岡村耕一, 傳法倫久, 塩川芳昭: 当施設の症候性内頸動脈狭窄症に対する治療成績と治療戦略. 第28回日本老年脳神経外科学会, 米子, 2015年4月17日.
3. 佐々木重嘉, 小林啓一, 齊藤邦昭, 岡田啓, 山岸夢希, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 75歳以上での初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するR-MPV療法の治療成績 Combined immunochemotherapy, R-MPV, for patients with primary central nervous system lymphoma over 75 years old. 第28回日本老年脳神経外科学会, 米子, 2015年4月17日.
4. Nagane M, Fukumura K, Ueno T, Lee J, Shishido-Hara Y, Shirahata M, Mishima K, Ichimura K, Mukasa A, Narita Y, Nishikawa R, Mano H: Whole-exome sequencing analysis of primary central nervous system lymphoma reveals recurrent *MYD88* and *PIM1* mutations. American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2015, USA, April 21st, 2015.
5. 塩川芳昭: 神経内科/神経外科領域. 第2回日中医学交流フォーラム, 東京, 2015年5月13日.
6. 仁科彩子, 山田深, 正木遥子, 岡島康友, 平野照之, 塩川芳昭: rt-PA点滴静注療法を施行した急性期脳卒中症例におけるリハビリテーションの帰結. 第52回日本リハビリテーション医学会学術集会, 新潟, 2015年5月29日.
7. 久米賢, 丸山啓介, 小林啓一, 田中雅樹, 宍戸-原由紀子, 野口明男, 阿部泰明, 菅間博, 塩川芳昭, 永根基雄: 顎関節に浸潤し, めまいにて発症した中頭蓋底巨細胞腫の1例. 第33回日本脳腫瘍病理学会, 高松, 2015年5月29日.
8. 佐々木重嘉, 小林啓一, 齊藤邦昭, 宍戸原由紀子, 岡田啓, 山岸夢希, 菅間博, 塩川芳昭, 永根基雄: 急速進行性に切迫脳ヘルニアを引き起こした診断に難渋している頭頂葉腫瘍の1例. 第33回日本脳腫瘍病理学会, 高松, 2015年5月30日.
9. 本田有子, 野口明男, 牛場克明, 田村晃, 櫻井孝, 塩川芳昭: 日本人におけるMRI皮質下病変の実態調査. 第24回日本脳ドック学会総会, 横浜, 2015年6月7日.
10. Nagane M: Chemotherapy for treatment of high-grade glioma: Any roles to potentiate stereotactic radiotherapy?. 12<sup>th</sup> International Stereotactic Radiosurgery Society Congress, Yokohama, June 8th, 2015.
11. 鳥居正剛, 平野照之, 笹森寛生, 佐藤研隆, 佐藤栄志, 小松原弘一郎, 傳法倫久, 谷合誠一, 遠藤英仁, 窪田博, 萬知子, 吉野秀朗, 塩川芳昭: 当院における頸動脈方針決定する上での心疾患スクリーニングの位置付け. 第2回心血管脳卒中学会, 徳島, 2015年6月13日.
12. 塩川芳昭, 佐藤栄志, 平野照之: 本邦における脳梗塞急性期治療の新展開. 第40回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2015年6月18日.
13. 齊藤邦昭, 小林啓一, 清水早紀, 鈴木香, 佐々木重嘉, 久米賢, 塩川芳昭, 永根基雄: 低悪性度神経膠腫再発時におけるMGMTメチル化/ミスマッチ修復タンパク発現の変化. 第29回東京脳腫瘍治療懇話会, 東京, 2015年6月19日.
14. 小松原弘一郎, 佐藤栄志, 傳法倫久, 笹森寛生, 鳥居正剛, 平野照之, 塩川芳昭: 脳主幹動脈急性期血行再建術における当施設での現状と課題 時短へ向けての取り組み. 第12回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会・学術集会, 東京, 2015年6月20日.
15. 笹森寛生, 小松原弘一郎, 傳法倫久, 佐藤栄志, 塩川芳昭: Trousseau症候群による急性期脳梗塞に対してstent retrieverを用いて血行再建術を行った1例. 第12回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会・学術集会, 東京, 2015年6月20日.
16. 岡田啓, 丸山啓介, 野口明男, 金太一, 塩川芳昭: Eloquent AVMに対するiPadでの術前シミュレーション. 第15回日本術中画像情報学会, 東京, 2015年6月20日.
17. 塩川芳昭: 脳血管内治療が切り開く脳卒中診療. 佐々総合病院講演会, 西東京, 2015年6月23日.
18. 鳥居正剛: 全身脈管病としての頸動脈病変治療 脳卒中全般も含め. 調布市医療総合研究会, 東京, 2015年7月8日.
19. 丸山啓介, 野口明男, 小松原弘一郎, 川井田善太郎, 今井大也, 永根基雄, 塩川芳昭: 鞍結節部髄膜腫の初発症状としての中心暗点とその予後. 第27回日本頭蓋底外科学会, 名古屋, 2015年7月9日.
20. 永根基雄: 神経膠腫. 小野薬品勉強会, 東京, 2015年8月7日.
21. 川井田善太郎, 小松原弘一郎, 熊切敦, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 外傷性頸動脈海綿静脈瘻の2例. 第8回NeuroSurgery HotRodMeeting, 東京, 2015年8月8日.
22. 永根基雄, 小林啓一, 齊藤邦昭, 久米賢, 川井田善太郎, 清水早紀, 鈴木香, 塩川芳昭: 再発悪性神経膠腫に対するベバシズマブ併用ACNU療法(BEVAC療法). 第49回ニューロオンコロジーの会, 東京, 2015年8月9日.
23. 塩川芳昭: 東京都脳卒中救急体制の現状と課題-脳血管内治療の進歩を受けて. 平成27年度第一回東京都脳卒中医療連携協議会, 東京, 2015年8月19日.

24. 鳥居正剛: 全身脈管病としての頸動脈病変治療—血圧, 脂質, 血糖管理をふまえて—. 大日本住友薬品社外講師勉強会, 東京, 2015年8月28日.
25. 永根基雄: RANOスケールの評価法. ONO-4538 第II相試験治験説明会, 東京, 2015年8月30日.
26. 佐藤栄志: 椎骨脳底動脈閉塞症の1例—解離性? 動脈硬化性? 塞栓性?—. 第9回東京脳卒中の血管内治療セミナー, 東京, 2015年9月12日.
27. 末松慎也, 高井敬介, 石田渉, 岩室宏一, 谷口真: 胸椎部脊髄症: 軽微な脊髄圧迫症例の画像所見の特徴と手術転帰. 杏林大学脳神経外科夏季セミナー, 多摩, 2015年9月12日.
28. 佐々木重嘉, 森野道晴, 入江亮, 藤本蒼: 難治性側頭葉てんかんを伴う側頭葉内側部神経腫に対する手術戦略. 第127回日本脳神経外科学会関東支部会, 東京, 2015年9月12日.
29. 久米賢, 佐々木重嘉, 齊藤邦昭, 小林啓一, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: Craniofix absorbableにて骨片固定後に骨片偏位を認め, 頭蓋形成術を要した1例. 第127回脳神経外科学会関東支部会, 東京, 2015年9月12日.
30. 永根基雄: 当院における脳腫瘍の診断・治療について—主として神経腫瘍に関して—. 大塚製薬勉強会, 東京, 2015年9月15日.
31. Komatsubara K, Kobayashi K, Sato E, Nagane M, Shiokawa Y: Symptomatic cerebral vasospasm after resection of a lobar oligodendroglioma: a case report. 第13回国際くも膜下出血シンポジウム (Vasospasm 2015), 長野, 2015年9月19日.
32. 齊藤邦昭, 小林啓一, 岡田啓, 佐々木重嘉, 久米賢, 川井田善太郎, 野口明男, 塩川芳昭, 永根基雄: 海馬傍回後方～視床後方の神経腫瘍に対する手術戦略. 第20回脳腫瘍の外科学会, 名古屋, 2015年9月25日.
33. 塩川芳昭: 医療の行方との卒中診療. 十勝脳神経外科フォーラム2015, 帯広, 2015年9月26日.
34. Nagane M, Fukumura K, Ueno T, Mishima K, Ichimura K, Mukasa A, Narita Y, Aburatani H, Ryo Nishikawa R, Mano H: 中枢神経系原発悪性リンパ腫に対する包括的遺伝子解析. 第74回日本癌学会学術総会, 名古屋, 2015年10月10日.
35. 永根基雄: ASCO2015でのNeuro-Oncologyの話題—ASCO DIRECTより抜粋—. BIOMARK Boost-up Meeting, 札幌, 2015年10月14日.
36. 有田英之, 山崎夏維, 松下裕子, 中村大志, 田村郁, 白畑充章, 武笠晃丈, 金村米博, 小森隆司, 永根基雄, 植木敬介, 吉峰俊樹, 西川亮, 成田孝, 市村幸一, グリオーマ分子診断 共同研究グループ: 成人神経腫瘍の新たな分子分類～国内大規模コホートの解析より～. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月14日.
37. 佐藤栄志, 島田篤, 小松原弘一郎, 笹森寛生, 林基高, 小西善史, 塩川芳昭: 破裂嚢状脳動脈瘤に対するステント支援下脳動脈瘤塞栓術. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月14日.
38. 山口竜一, 野口明男, 丸山啓介, 塩川芳昭: 脳出血脳室内穿破例にする治療成績. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月14日.
39. 齊藤邦昭, 小林啓一, 清水早紀, 鈴木香, 佐々木重嘉, 久米賢, 塩川芳昭, 永根基雄: MGMTメチル化とDNAミスマッチ修復酵素の異常に応じた膠芽腫治療の展望. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月14日.
40. 山岸夢希, 小林啓一, 久米賢, 佐々木重嘉, 横矢重臣, 斎藤邦昭, 塩川芳昭, 永根基雄: 悪性脳腫瘍化学療法に伴う黒状舌のリスク. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
41. 永根基雄, 小林啓一, 水澤純基, 片山宏, 成田善孝, 田部井勇助, 齊藤邦昭, 福田治彦, 西川亮, JCOG脳腫瘍グループ: 再発膠芽腫に対する用量強化テモゾロミド-ベバシズマブ逐次併用療法: 新規多施設共同ランダム化第III相試験JCOG1308. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
42. 野口明男, 山口竜一, 小松原弘一郎, 丸山啓介, 佐藤栄志, 栗田浩樹, 塩川芳昭: 再治療を要した脳動静脈奇形の外科治療. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
43. 小松原弘一郎, 傳法倫久, 鳥居正剛, 笹森寛生, 佐藤栄志, 塩川芳昭, 平野照之: 高齢化社会における脳主幹動脈急性期再開通療法当施設での現状と課題—時間短縮への取り組み—. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
44. 川井田善太郎, 熊切敦, 小松原弘一郎, 丸山啓介, 塩川芳昭: 当院における側頭動脈生検の検討. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
45. 丸山啓介, 宮脇哲, 富永悌二, SMART Japan Group (仮称): 日本における未破裂脳動脈瘤の治療成績に関する前向き観察研究—参加のお願い—. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月16日.
46. 鳥居正剛, 平野照之, 佐藤研隆, 笹森寛生, 小松原弘一郎, 傳法倫久, 佐藤栄志, 塩川芳昭: 当施設の症候性内頸動脈狭窄症の治療成績および積極的内科治療の有用性—高齢者症例への治療選択を中心に—. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
47. 宮田裕章, 齊藤延人, 丸山啓介, 宮脇哲, 平原憲道, 後藤満一, 森正樹, 岩中督: NCDを活用したJapan Neurosurgical Registryの現状と今後の可能性. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
48. 笹森寛生, 小松原弘一郎, 傳法倫久, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭: Trousseau 症候群による超急性期脳主幹動脈閉塞に対して機械的血栓回収を行った3例. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
49. 岡田啓, 丸山啓介, 鳥居正剛, 岡村耕一, 脊山英徳, 山田深, 傳法倫久, 平野照之, 塩川芳昭: CEA時のINVOSにおけるW型パターンとA1の関連性. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
50. 今井大也, 丸山啓介, 野口明男, 小松原弘一郎, 川井田善太郎, 永根基雄, 塩川芳昭: 鞍結節部髄膜腫の初発症状としての中心暗点とその予後. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
51. 小林啓一, 佐々木重嘉, 齊藤邦昭, 塩川芳昭, 永根基雄: 初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するR-MPV-A療法による完全寛解率向上と予後改善. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月16日.
52. 井上智弘, 吉田裕毅, 本郷博貴, 小原健太, 三谷 知広, 伊藤雄毅, 田村晃, 斎藤勇: 脳卒中外科治療における深部吻合技術の役割と可能性. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
53. 阿部泰明, 森野道晴, 小林裕介, 高見澤幸子: キャリーオーバー難治性全般性てんかん患者に対する外科的治療. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月15日.
54. 熊切敦, 塩川芳昭, 小林祥泰: MRI FLAIR画像におけるIntraarterial signalと脳循環予備能の関係. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月16日.
55. 佐藤研隆, 熊切敦, 山口竜一, 丸山啓介, 野口明男, 塩川芳昭: 脳内出血を伴う破裂脳動脈瘤の予後. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月16日.
56. 佐々木重嘉, 小林啓一, 齊藤邦昭, 久米賢, 岡田啓, 山岸夢希, 野口明男, 野村竜太郎, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫におけるbevacizumab療法後再々発に対する



- 治療成績と展望. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月16日.
57. 久米賢, 五明美穂, 小林啓一, 齋藤邦昭, 土屋一洋, 塩川芳昭, 永根基雄: 悪性神経膠腫と画期的類似疾患におけるMRI/H-MRSとLCModelを用いた2-HG検出とその定量的解析. 第74回日本脳神経外科学会学術総会, 札幌, 2015年10月16日.
  58. 佐藤栄志: カテーテル治療最前線②脳血管疾患における血管内治療. 第12回日本循環器看護学会学術集会, 東京, 2015年10月18日.
  59. 鳥居正剛, 石井光, 高橋雄, 笹森寛生, 窪田博, 塩川芳昭, 平野照之: 大動脈弓ステント留置術後に発生した総頸動脈血栓症の一例. 第36回多摩地区脳卒中研究会, 東京, 2015年10月23日.
  60. 鳥居正剛: 全身脈管病としての頸動脈病変治療—血圧, 脂質, 血糖管理をふまえて—. 大日本住友製薬社外講師勉強会, 多摩, 2015年10月30日.
  61. 佐々木重嘉, 小林啓一, 齋藤邦昭, 塩川芳昭, 永根基雄: 初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するR-MPVによる完全寛解導入療法. 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015年10月31日.
  62. 佐々木重嘉, 小林啓一, 齋藤邦昭, 塩川芳昭, 永根基雄: 初発中枢神経系原発悪性リンパ腫に対するR-MPVによる完全寛解導入療法 Combined immunochemotherapy, R-MPV regimen, achieves a high complete response rate in patients with newly-diagnosed primary central nervous system lymphoma. 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015年10月31日.
  63. 丸山啓介, 岡田啓, 島田篤, 李政勲, 山口竜一, 野口明男, 塩川芳昭: LOVAに対する内視鏡下第三脳室底開窓術. 第22回日本神経内視鏡学会, 宮城, 2015年11月6日.
  64. 鳥居正剛, 平野照之, 佐藤栄志, 佐藤研隆, 笹森寛生, 小松原弘一郎, 傳法倫久, 塩川芳昭: 当施設の頸動脈狭窄症に対する治療成績と治療戦略—高齢者への治療選択を中心に—. 第52回多摩脳神経外科懇話会, 武蔵野, 2015年11月12日.
  65. 小松原弘一郎, 傳法倫久, 鳥居正剛, 笹森寛生, 佐藤栄志, 塩川芳昭, 平野照之: 頭部CTのみで急性期再開通療法をおこなった脳主幹動脈閉塞症例の検討. 第31回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015年11月19日.
  66. 小松原弘一郎, 傳法倫久, 笹森寛生, 川井田善太郎, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭: 外傷性内頸動脈海綿静脈洞瘻に対するカテーテル治療後に造影剤脳症を生じた1例. 第31回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015年11月19日.
  67. 笹森寛生, 小松原弘一郎, 傳法倫久, 佐藤栄志, 平野照之, 塩川芳昭: Trousseau 症候群による超急性期脳主幹動脈閉塞に対して機械的血栓回収を行った3例. 第31回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015年11月19日.
  68. 佐藤栄志, 島田篤, 林基高, 清水淑恵, 小松原弘一郎, 笹森寛生, 脊山英徳, 前村栄治, 小西善史: ステント支援下脳動脈瘤塞栓術の中期治療成績?特に虚血性合併症について. 第31回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015年11月20日.
  69. Saito K, Shimizu S, Suzuki K, Kobayashi K, Sasaki N, Kume S, Shiokawa Y, Nagane M: Mismatch Repair defects predict clinical outcome of primary and recurrent malignant gliomas. 20<sup>th</sup> Annual Scientific Meeting of the Society for Neuro-Oncology, USA, November 20th, 2015.
  70. 塩川芳昭: 医療機器の許認可はどのような論理で行われているか. 第31回日本脳血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015年11月21日.
  71. 丸山啓介, 齋藤延人, 宮脇哲, 日本脳神経外科学会手術症例登録準備委員会: Japan Neurosurgery Registry on National Clinical Databaseの現状. 第31回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015年11月21日.
  72. Nagane M, Fukumura K, Ueno T, Lee J, Shishido-Hara Y, Mishima K, Ichimura K, Mukasa A, Narita Y, Aburatani H, Nishikawa R, Mano H: Genomic characterization of primary central nervous system lymphoma reveals predominant nonsynonymous somatic mutations of MYD88 and PIM1 genes. 20<sup>th</sup> Scientific Meeting of the Society for Neuro-Oncology, USA, November 21st, 2015.
  73. 久米賢, 五明美穂, 小林啓一, 齋藤邦昭, 土屋一洋, 塩川芳昭, 似鳥俊明, 永根基雄: 神経膠腫における<sup>1</sup>H-MRSとLCModelを用いた2-HG検出及びその定量的解析. 杏林医学会総会, 多摩, 2015年11月21日.
  74. 山岸夢希, 齋藤邦昭, 笹森寛生, 千葉知宏, 小林啓一, 山口竜一, 菅間博, 平野照之, 塩川芳昭, 永根基雄: 原因不明の脳出血で発見された膠芽腫の一症例. 杏林医学会総会, 多摩, 2015年11月21日.
  75. 齋藤邦昭, 小林啓一, 清水早紀, 鈴木香, 川井田善太郎, 今井大也, 塩川芳昭, 永根基雄: ミスマッチ修復酵素異常が初発膠芽腫の予後に与える影響. 第24回多摩脳腫瘍研究会, 多摩, 2015年11月28日.
  76. 佐々木重嘉, 藤本蒼, 吉村知香, 入江亮, 曾田剛史, 渋谷誠, 小森隆司, 森野道晴: 画像上 cavernous malformation が疑われたてんかん発症の側頭葉腫瘍: 第24回多摩脳腫瘍研究会, 多摩, 2015年11月28日.
  77. 佐々木重嘉, 森野道晴, 藤本蒼, 吉村知香, 入江亮, 曾田剛史: 難治性部分てんかんに対する覚醒下手術—7症例の検討 Awake craniotomy for intractable focal epilepsy: an analysis of 7 cases. 第128回日本脳神経外科学会関東支部会, 東京, 2015年12月5日.
  78. 佐々木重嘉, 小林啓一, 齋藤邦昭, 久米賢, 岡田啓, 山岸夢希, 野口明男, 野村竜太郎, 塩川芳昭, 永根基雄: 再発膠芽腫におけるbevacizumab療法後再々発に対する治療成績 Therapeutic options and outcome for patients with recurrent glioblastoma after bevacizumab failure. 第33回日本脳腫瘍学会学術集会, 京都, 2015年12月7日.
  79. 永根基雄: SNO Meeting 2015 Report. 第33回日本脳腫瘍学会学術集会, 京都, 2015年12月6日.
  80. 齋藤邦昭, 小林啓一, 清水早紀, 鈴木香, 佐々木重嘉, 久米賢, 川井田善太郎, 塩川芳昭, 永根基雄: 神経膠腫におけるMGMTメチル化とDNAミスマッチ修復酵素の統合解析. 第33回日本脳腫瘍学会学術集会, 京都, 2015年12月7日.
  81. 久米賢, 五明美穂, 小林啓一, 齋藤邦昭, 土屋一洋, 塩川芳昭, 似鳥俊明, 永根基雄: 神経膠腫における<sup>1</sup>H-MRSとLCModelを用いた2-HG検出及びその定量的解析. 第33回日本脳腫瘍学会学術集会, 京都, 2015年12月7日.
  82. 永根基雄, 福村知隆, 上野敏秀, 李政勲, 原由紀子, 三島一彦, 市村幸一, 武笠晃丈, 成田善孝, 油谷浩幸, 西川亮, 間野博行: 中枢神経系悪性リンパ腫に対する全エクソン及びRNAシーケンスによる遺伝子異常解析. 第33回日本脳腫瘍学会学術集会, 京都, 2015年12月8日.
  83. 穂村美津子, 山田深, 鳥居正剛, 鈴木理恵子, 平野照之, 塩川芳昭, 岡島康友: 交叉性失語を呈し, 機能局在の左右逆転が示唆された一例. 第39回日本高次脳機能障害学会学術総会, 2015年12月10-11日.
  84. 永根基雄: 悪性神経膠腫の標準治療と分子病理分類: Update. 静岡県総合画像診断研究会総会平成28年特別講演会, 静岡, 2016年1月9日.

85. 佐藤研隆, 井上智弘, 鳥居正剛, 野口明男, 塩川芳昭: 安全かつ確実にCEAを行うための工夫とこだわり-特に術野展開について-. 第3回手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファレンス, 東京, 2016年1月23日.
  86. 久米賢, 五明美穂, 小林啓一, 齋藤邦昭, 土屋一洋, 塩川芳昭, 似鳥俊明, 永根基雄: 神経膠腫における<sup>1</sup>H-MRSとLCModelを用いた2-HG検出及びその定量的解析. 第39回日本脳神経CI学会総会, 東京, 2016年1月29日.
  87. 佐藤研隆, 井上智弘, 熊切敦, 鳥居正剛, 野口明男, 塩川芳昭: Dry laboにおける徹底したmicrosurgical trainingとその実践-STA-MCA Bypass術を中心に-. 第5回武蔵脳神経外科手術手技研究会, 武蔵野, 2016年2月5日.
  88. 塩川芳昭: 包括的脳卒中センターと地域連携について. 第34回かざら脳血管障害談話会, 一宮, 2016年2月12日.
  89. 永井健太郎, 岡野晴子, 海野佳子, 鈴木理恵子, 鳥居正剛, 千葉厚郎, 塩川芳昭, 平野照之: LSA領域に虚血を生じたmigrainous infarctionの一例. 第16回首都圏脳卒中フォーラム, 東京, 2016年3月18日.
  90. 佐藤研隆, 井上智弘, 熊切敦, 鳥居正剛, 野口明男, 塩川芳昭: Dry laboにおける徹底したmicrosurgical trainingとその実践-STA-MCA Bypass術を中心に-. 第25回脳神経外科手術と機器学会(CNTT), 新潟, 2016年3月26日.
- 論文**
1. 塩川芳昭: 患者支援センター: 設立の経緯と今後. 杏林医学会雑誌 46(別1):73-76, 2015.
  2. Toyoda K<sup>1</sup>, Arihiro S, Todo K, Yamagami H, Kimura K, Furui E, Terasaki T, Shiokawa Y, Kamiyama K, Takizawa S, Okuda S, Okada Y, Kameda T, Nagakane Y, Hasegawa Y, Mochizuki H, Ito Y, Nakashima T, Takamatsu K, Nishiyama K, Kario K, Sato S, Koga M<sup>1</sup>(National Cerebral and CardiovascularCenter): SAMURAI Study Investigators: Trends in oral anticoagulant choice for acute stroke patients with nonvalvular atrial fibrillation in Japan: The SAMURAI-NVAF Study. *Int J Stroke*. 12:836-842, 2015.
  3. Tominari S, Morita A, Ishibashi T, Yamazaki T, Takao H, Murayama Y, Sonobe M, Yonekura M, Saito N, Shiokawa Y, Date I, Tominaga T, Nozaki K, Houkin K, Miyamoto S, Kirino T, Hashi K, Nakayama T: Prediction Model for 3-Year Rupture Risk of Unruptured Cerebral Aneurysms in Japanese Patients. *Annals of Neurology*. 77(6): 1050-1059, 2015.
  4. Hishikawa T, Date I, Tokunaga K, Nozaki K, Shiokawa Y, Houkin K, Murayama Y, Ishibashi T, Takao H, Nakayama T, Morita A: Risk of rupture of unruptured cerebral aneurysms in elderly patients. *Neurology* 85(21): 1879-1885, 2015.
  5. Osaki M, Koga M, Maeda K, Hasegawa Y, Nakagawara J, Furui E, Todo K, Kimura K, Shiokawa Y, Okada Y, Okuda S, Kario K, Yamagami H, Minematsu K, Kitazono T, Toyoda K: Stroke Acute Management with Urgent Risk-factor Assessment and Improvement (SAMURAI) Study Investigators: A multicenter, prospective, observational study of warfarin-associated intracerebral hemorrhage: The SAMURAI-WAICH study. *Journal of the neurological sciences* 359(1-2): 72-77, 2015.
  6. 河本圭司, 島克司, 栗栖薫, 奥寺敬, 片山容一, 加藤庸子, 黒岩敏彦, 塩川芳昭, 田宮隆, 松前光紀, 平山晃康, 岩瀬正顕, 浅井昭雄: 日本脳神経外科救急学会-20周年のあゆみ. *Neurosurg Emerg* 20: 141-148, 2015.
  7. 塩川芳昭: 序 脳梗塞急性期治療のブレイクスルー. 分子脳血管病 15(1):37, 2016.
  8. Keino H, Okada AA, Watanabe T, Echizen N, Inoue M, Takayama N, Nagane M: Spectral-domain optical coherence tomography patterns in intraocular lymphoma. *Ocul Immunol Inflamm*. 11:1-6, 2015. (Epub ahead of print)
  9. 永根基雄: 悪性脳腫瘍の治療効果判定の画像診断. *CI研究* 36(3,4):103-112, 2015
  10. Furuse M, Nonoguchi N, Kuroiwa T, Miyamoto S, Arakawa Y, Shinoda J, Miwa K, Iuchi T, Tsuboi K, Houkin K, Terasaka S, Tabei Y, Nakamura H, Nagane M, Sugiyama K, Terasaki M, Abe T, Narita Y, Saito N, Mukasa A, Ogasawara K, Beppu T, Kumabe T, Nariai T, Tsuyuguchi N, Nakatani E, Kurisu S, Nakagawa Y, Miyatake S: A prospective multicenter single-arm clinical trial of bevacizumab for patients with surgically untreatable symptomatic brain radiation necrosis. *Neuro-Oncol Practice* 2015. (in press).
  11. 永根基雄: 星細胞腫系神経膠腫の標準治療(Standard of care for astrocytic gliomas). *Neuro-Oncologyの進歩* 22(3): 8-20, 2015
  12. 永根基雄: Astrocytic tumors (星細胞腫系腫瘍)-脳腫瘍Update (Update Knowledge for Brain Tumors). *脳神経外科* 44(1): 71-89, 2016
  13. 永根基雄: 脳腫瘍に対するimmune checkpoint阻害薬の開発状況. *腫瘍内科* 17(1):20-27, 2016.
  14. 丸山啓介: クラウドサービスを有効活用しよう, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 25(3):318-322, 2015.
  15. 丸山啓介: データバックアップは必須です, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 25(1):94-97, 2015
  16. 丸山啓介: LinuxでWindows Xpパソコンを有効活用しよう, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 25(5):529-533, 2015
  17. 丸山啓介: とても便利なGmail, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 25(7):754-758, 2015
  18. 丸山啓介: 必要な情報をいつでも取り出せるようにしておこう, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 25(9):990-993, 2015
  19. 丸山啓介: スマホで参照する薬の本, 日常診療に役立つIT. *脳神経外科速報* 25(11):1216-1219, 2015
  20. 平原憲道<sup>1,2</sup>, 宮田裕章<sup>1,2</sup>, 岩中督<sup>2,3</sup>, 斎藤延人<sup>4</sup>, 丸山啓介, 宮脇哲<sup>4</sup> ( <sup>1</sup>慶應義塾大学医療政策・管理学教室, <sup>2</sup>一般社団法人National Clinical Database, <sup>3</sup>埼玉県小児医療センター, <sup>4</sup>東京大学脳神経外科 ): 説明責任を果たす医療ビッグデータ-National Clinical Database (NCD)とは何か-. *No Shinkei Geka*43(10): 945-953, 2015.
  21. 小林啓一, 永根基雄: グリオーマの手術と後療法の実況. *臨床画像* 31(10):1180-1190, 2015.
  22. Takami H, Fukushima S, Fukuoka K, Suzuki T, Yanagisawa T, Matsushita Y, Nakamura T, Arita H, Mukasa A, Saito N, Kanamori M, Kumabe T, Tominaga T, Kobayashi K, Nagane M, Iuchi T, Tamura K, Maehara T, Sugiyama K, Nakada M, Kanemura Y, Nonaka M, Yokogami K, Takeshima H, Narita Y, Shibui S, Nakazato Y, Nishikawa R, Ichimura K, Matsutani M: Human chorionic gonadotropin is expressed virtually in all intracranial germ cell tumors. *J Neurooncol* 124(1): 23-32, 2015. (Epub ahead of print).
  23. Honda Y, Noguchi A, Maruyama K, Tamura A, Saito I, Sei K, Soga T, Ushiba K, Sakurai T, Shiokawa Y: Volumetric analyses of cerebral white matter

hyperintensity lesions on magnetic resonance imaging in a Japanese population undergoing medical check-up. Geriatr Gerontol Int 15(1):43-47, 2015

## 著書

1. 有賀徹, 奥寺敬, 片山容一, 加藤庸子, 栗栖薫, 黒岩敏彦, 塩川芳昭, 平山晃康, 松前光紀: すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック改訂2版. 日本脳神経外科救急学会編, 東京, メディカ出版, 2015.
  2. 塩川芳昭: 脳卒中(脳出血・脳梗塞・クモ膜下出血・もやもや病). year noteTOPICS 2015-2016内科・外科疾患5th edition 研修医・非専門医でも知っておくべき近年と今後の主な動向. 東京, メディックメディア, 2015. p. 339-344.
  3. 塩川芳昭: 未破裂脳動脈瘤. 日本脳ドック学会報創刊号, 札幌, 日本脳ドック学会, 2015. p. 32.
  4. 塩川芳昭: 患者支援センター: 設立の経緯と今後. 杏林医学会雑誌 特集 杏林大学と地域医療. 杏林医学会, 2015. p. 69-72.
  5. 塩川芳昭: 脳血管外科の視点から取り組む脳腫瘍手術. NS NOW 脳・脊髄腫瘍摘出のための引き出し 腫瘍摘出のためのコツとピットフォール. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 50-56.
  6. 塩川芳昭: 徹底討論 症例呈示とエキスパートのディベートから学ぶ. 脳血管内治療の進歩2016 治療困難な脳動脈瘤-どう治療するか? 脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2015. 東京, 診断と治療社, 2015. p. 183-197.
  7. 内山真一郎, 阿部康二, 松本昌泰, 鈴木倫保, 北川一夫, 塩川芳昭: 脳卒中研究・臨床におけるトピックス2016. 分子脳血管病vol. 15 No. 1. 東京, 先端医学社, 2016. p. 1-7.
  8. 永根基雄: 中枢神経系腫瘍. 新臨床腫瘍学 -がん薬物療法専門医のために- 改訂第4版. 日本臨床腫瘍学会編, 東京, 南光堂, 2015. p. 492-497.
  9. 永根基雄: 悪性リンパ腫. EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針 第4版. 東京, メジカルビュー社, 2016. p. 126-136.
  10. 永根基雄: 星細胞腫系腫瘍. 脳神経外科学II 改訂12版. 太田富雄総編. 京都, 金芳堂, 2016. p. 1463-1532.
  11. 丸山啓介, 塩川芳昭: 内頸動脈の画像診断とシミュレーション. 内頸動脈瘤(ICA Aneurysm)のすべて 遠位部(supraclinoid)-シミュレーションで経験する手術-IVR. 井川房夫, 宮地茂編. 大阪, メディカ出版, 2015. p. 5-9.
  12. 丸山啓介: 私の論文が「NEJM」に載ったときの話. 東京, 南光堂, 2015. p. 35-38.
  13. 小林啓一, 永根基雄: グリオーマ摘出計画法. 新NS NOW 4 脳・脊髄腫瘍摘出のための引き出し 腫瘍摘出のコツとピットホール. 森田明夫, 伊達勲, 菊田健一郎編, 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 58-65.
1. 塩川芳昭: 掲載記事 第20回日本脳神経外科救急学会 スポーツ関連頭部外傷は全頭部外傷の0.3~0.6%. メディカルトリビューンvol. 48 No. 7: 9, (株)メディカルトリビューン, 2015年2月12日.
  2. 塩川芳昭: 掲載記事 第20回日本脳神経外科救急学会 強い体幹失調を伴うめまいに脳梗塞の疑い. メディカルトリビューン vol. 48 No. 8: 17, (株)メディカルトリビューン, 2015年2月19日.
  3. 塩川芳昭: 掲載記事 第20回日本脳神経外科救急学会 てんかん患者の心肺停止の7割が外因性窒息. T&Dは受傷後3時間以内に多発. 高齢頭部外傷患者の予後不良因子にT&Dが影響する可能性. メディカルトリビューンvol. 48, No. 10: 17, (株)メディカルトリビューン, 2015年3月5日.

## 心臓血管外科学教室

### 講演

1. 土屋博司, 西野純史, 稲葉雄亮, 高橋雄, 遠藤英仁, 窪田博: 遠位弓部のtearに対し上行大動脈置換およびdirect tear repairを施行し完治し得た2症例. 第43回日本血管外科学会学術総会, 横浜, 2015年6月4日.
2. 根本卓, 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 術式の異なるpopliteal venous aneurysmの3例. 第43回日本血管外科学会学術総会, 横浜, 2015年6月4日.
3. 池添亨, 布川雅雄, 根本卓, 細井温, 窪田博: 鎖骨下動脈瘤の2治験例. 第43回日本血管外科学会学術総会, 横浜, 2015年6月5日.
4. 石井光, 青見茂之, 富岡秀行, 梅田悦嗣, 東理人, 津久井宏行, 西中知博, 斎藤聡, 山崎健二: 新生児Jatene手術後の大動脈基部再建術の1例. 第43回日本血管外科学会学術総会, 横浜, 2015年6月5日.
5. 中島昌典, 岡野晴子, 傳法倫久, 平野照之, 千葉厚郎, 遠藤英仁, 窪田博, 磯村杏耶, 下山田博明, 大倉康男, 塩川芳昭: 大動脈原性脳塞栓症を発症し向上大動脈置換術を施行した80歳男性例. 第2回日本心臓血管脳卒中学術集会, 徳島, 2015年6月12日.
6. 遠藤英仁, 土屋博司, 高橋雄, 西野純史, 窪田博: 上行大動脈可動性血栓に対し向上置換術を施行した1例. 第168回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2015年6月27日.
7. 高橋雄, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 窪田博: 胸部大動脈に対するステンドグラフト内挿術後. エンドリークにより瘤破裂を来した症例. 第35回東京胸部外科懇話会, 東京, 2015年7月18日.
8. 細井温, 根本卓, 池添亨, 布川雅雄, 窪田博: 当院における深部静脈血栓症のスクリーニングと治療の現状-下肢極限型を中心に-. 第35回日本静脈学会総会, 奈良, 2015年7月10日.
9. Endo H, Tsuchiya H, Inaba Y, Takahashi Y, Kubota H: Observation of retinal vessels during intermittent pressure augmented-retrograde cerebral perfusion in clinical cases. 29th European Association for Cardio Thoracic Sugery Annual Meeting, The Netherlands, July 10th, 2015.
10. 窪田博, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 高橋雄, 稲葉雄亮, 西野純史: Shaggy aortaに対する中枢人工血管挿入法を用いた下行. 腹胸部大動脈置換術. 第68回日本胸部外科学会定期学術集会, 神戸, 2015年10月19日.
11. 窪田博, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 高橋雄, 稲葉雄亮, 西野純史: 広範囲大動脈弁輪膿瘍, 僧帽弁輪膿瘍に対する赤外線照射凝固を併用した弁輪形成, 弁置換術. 第68回日本胸部外科学会定期学術集会, 神戸, 2015年10月20日.

## 平成26年度追加分

12. 高橋雄, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司: 食道瘻を有する感染性胸部大層脈瘤に対する牛心膜ロールグラフトを用いた治療. 第68回日本胸部外科学会定期学術集会, 神戸, 2015年10月20日.
13. 池添亨, 福原菜摘, 西野純史, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 肝動脈バイパス術を施行した内臓動脈瘤の3治験例. 第56回日本脈管学会総会, 東京, 2015年10月29日.
14. 西野純史, 池添亨, 福原菜摘, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: von Recklinghausen病に伴う上腕動脈瘤により正中神経麻痺を来した1例. 第56回日本脈管学会総会, 東京, 2015年10月29日.
15. 石井光, 遠藤英仁, 土屋博司, 高橋雄, 池添亨, 西野純史, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 脳梗塞を初期症状として発見された, 弓部大動脈瘤における若年性大動脈血栓症に対し弓部全置換術を施行した一例. 第44回杏林医学総会, 三鷹, 2015年11月21日.
16. 西野純史, 高橋雄, 土屋博司, 石井光, 遠藤英仁, 窪田博: *Listeria monocytogenes* を起因菌とした mural endocarditis により仮性左心室収縮を呈した1手術例. 第169回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 東京, 2015年11月7日.
17. 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 高橋雄, 窪田博, 二宮幹雄, 九木基至, 野中隆広, 大塚俊哉: 胸腔鏡下心外膜からの赤外線照射を併用した心房細動治療. 第34回多摩不整脈研究会, 三鷹, 2016年1月16日.
18. 高橋雄, 遠藤英仁, 石井光, 土屋博司, 川口聡, 窪田博: 超高齢者の胸部大動脈瘤に対して腹腔動脈入口部を閉鎖しステントグラフト内挿術 (TEVAR) を施行した1例. 第13回多摩心臓外科学会, 立川, 2016年2月13日.
19. 土屋博司, 遠藤英仁, 石井光, 高橋雄, 窪田博, 二宮幹雄, 九木基至, 野中隆広, 大塚俊哉: 胸腔鏡下心外膜からの赤外線照射を併用した心房細動治療. 第46回日本心臓血管外科学会総会, 名古屋, 2016年2月15日.
20. 石井光, 青見茂之, 富岡秀行, 東隆, 梅田悦嗣, 笹生正樹, 東理人, 早川美奈子, 斎藤聡, 山崎健二: ベントール手術の年齢による適応限界の検討. 第46回日本心臓血管外科学会総会, 名古屋, 2016年2月16日.
21. 布川雅雄, 西野純史, 福原菜摘, 池添亨, 細井温, 窪田博: 当院における感染性腹部動脈瘤の手術成績. 第46回日本心臓血管外科学会総会, 名古屋, 2016年2月17日.
22. Kubota H: Infrared Coagulator to Treat Atrial Fibrillation, Infectious Endocarditis, and Cardiac Tumors. STS/AATS TECH-CON 2016, USA, January 24th, 2016.

## 論文

1. 土屋博司, 野間美緒, 西野純史, 稲葉雄亮, 遠藤英仁, 窪田博: アスペル性感染性心内膜炎に対し三尖弁置換術及び長期抗真菌薬投与を行い救命し得た1例. 日本心臓血管外科学会雑誌 44(3):151-154, 2015.
2. 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 再発性肺塞栓症を契機に発見された popliteal venous aneurysm の1治験例. 日本血管外科学会雑誌 24(4):790-793, 2015.
3. Kubota H: Remote ischemic preconditioning: simple method but unknown mechanisms. *Journal of Cardiology* 67(1):34-35, 2016.
4. Kubota H, Endo H, Noma M, Ishii I, Tsuchiya H, Yoshimoto A, Takahashi Y, Inaba Y, Nishino Y, Nunokawa M, Hosoi Y, Ikezoe T, Nemoto M, Makino Y, Nemoto Y, Matsukura M, Sugiyama M, Abe N, Takeuchi H, Nagao G, Kondo E, Yanagida O, Yoshino H, Sudo K: Xenopericardial roll graft replacement for infectious pseudoaneurysms and graft infections of the aorta. *J Cardiothorac Surg.* 10:133, 2015.
5. Tani S, Takemoto K, Nagai W, Inaba Y, Endo H,

Noma M, Kubota H, Sudo K, Sakata K, Satoh T, Yoshino H: Two adult cases of Bland-White-Garland syndrome with lethal arrhythmia due to coronary steal phenomenon during physical or mental stress. *Journal of Cardiology Cases* 14(1):1-3, 2016.

## 著書

1. 布川雅雄: 腹部大動脈瘤のステントグラフト治療. 杏林医学雑誌 46巻2号. 杏林医学編. 三鷹, 2015. p. 173-180.

## その他

1. 布川雅雄: 座長, 糖尿病患者におけるPADの診断と内科的治療について. 第3回KPAC: Kitatama PAD Conference. 2015年4月3日.
2. 細井温: 座長, 重傷下肢虚血に対する局所陰圧閉鎖療法の危険因子の検討. 第3回KPAC: Kitatama PAD Conference. 2015年4月3日.
3. 布川雅雄: 座長, 教育セッション(3) 外科医のためのEVTテクニック血管外科医によるEVTの実際. 43回日本血管外科学会学術総会. 横浜. 2015年6月3日.
4. 窪田博: 座長, 第2回東京心臓外科クリニックカンファレンス. 東京. 2015年6月26日.
5. 窪田博: 第16回Where to GO? 留学はどこへ?. 公益財団法人日米医学医療交流財団主催. 2015年医学医療交流セミナー. 順天堂大学. 東京. 2015年10月3日.
6. 窪田博: 座長, ポスター(成人心臓19). 第68回日本胸部外科学会定期学術集会, 神戸, 2015年10月19日.
7. 細井温: 座長, 下肢静脈瘤②(P-37). 第56回日本脈管学会総会. 東京. 2015年10月29日.
8. 窪田博: 座長, 一般口演6. 胸部大動脈1. 第46回日本心臓血管外科学会学術総会. 名古屋. 2016年2月15日.

## 平成26年度追加分

### 講演

1. 根本卓, 池添亨, 細井温, 布川雅雄, 窪田博: 低心機能を合併した左室内血栓による上腸間膜動脈塞栓症に対する血管内治療の一例. 第24回東京血管外科画像診断治療研究会. 東京. 2015年3月13日.

### その他

1. 布川雅雄: 座長, 重傷虚血肢に対する外科治療の実際. 6回多摩フットセミナー. 東京, 2015年3月6日.

## 整形外科学教室

### 講演

#### 口演

1. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 市村正一: 頭蓋刺激-複合筋活動電位による術中脊髄モニタリングの疾患別有効性. 第44回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015年4月16-18日.
2. 小林祥, 松山幸弘, 川端茂徳, 安藤宗治, 寒竹司, 高橋雅人, 伊藤全哉, 藤原靖, 山田圭, 和田簡一郎, 木田和伸, 山本直也, 谷俊一, 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリング・ワーキンググループ: 高リスク脊椎手術におけるBr(E)-MsEP解析, 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリング・ワーキンググループ多施設研究. 第44回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015年4月16-18日.
3. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 市村正一: 当院での胸腰椎移行部の骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方脊椎インストゥメンテーション手術の臨床成績. 第44回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015年4月16-18日.
4. 長谷川淳, 高橋雅人, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 里見和彦, 市村正一: 頸椎後縦靭帯骨化症の障害高位と術後成績, 障害高位診断を用いた検討. 第44回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015年4月16-18日.

5. 大柰英昭, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける前肢運動機能代償-神経解剖学的検査. 第44回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015年4月16-18日.
6. 竹内拓海, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 大柰英昭, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける前肢運動機能代償-電気生理学的検証-. 第44回日本脊椎脊髄病学会, 福岡, 2015年4月16-18日.
7. 井上功三朗, 長谷川雅一, 市村正一, 井上智雄, 宮坂芳郎, 森脇孝博: ラロキシフェン塩酸塩とエルデカルシトールの併用効果の検討 ~アルファカルシドールからエルデカルシトールへの切り替え~. 第9回SERM学術研究会学術集会, 東京, 2015年5月9日.
8. 森井健司, 吉山晶, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一: 血清d-dimer値の高悪性度骨・軟部腫瘍に対する化学療法効果判定における有用性. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日.
9. 森井健司, 吉山晶, 田島崇, 青柳貴之, 市村正一: 肉腫に対する手術加療. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日.
10. 森井健司, 須佐美知郎, 吉山晶, 青柳貴之, 小林英介, 竹内克仁, 穴澤卯圭, 渡部逸央, 森岡秀夫, 市村正一: 腎癌骨転移手術例の生命予後予測因子の探求. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日.
11. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 大柰英昭, 大野公宏, 五十嵐一峰, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一: 頭蓋刺激-複合筋活動電位による術中脊髄モニタリングの疾患別有効性. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日.
12. 坂倉健吾, 佐々木茂, 家田良樹, 小谷明弘, 市村正一: 腱板断裂に対してのmini-open法と鏡視下腱板修復術の比較. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日.
13. 長谷川淳, 高橋雅人, 里見和彦, 佐野秀仁, 大柰英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸椎後縦靭帯骨化症の障害高位と術後成績, 障害高位診断を用いた検討. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日.
14. 長谷川淳, 高橋雅人, 里見和彦, 大柰英昭, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける運動機能代償機構, 幼若ラットと成熟ラットの比較. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日.
15. 青柳貴之, 森井健司, 吉山晶, 田島崇, 市村正一: 骨・軟部悪性腫瘍の化学療法における発熱性好中球減少症の実態調査. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日.
16. 吉山晶, 須佐美知郎, 森井健司, 青柳貴之, 小林英介, 竹内克仁, 渡部逸央, 穴澤卯圭, 森岡秀夫, 市村正一: 腎癌骨転移の周術期管理の実態調査. 第88回日本整形外科学会学術総会, 神戸, 2015年5月21-24日.
17. 長谷川淳, 高橋雅人, 長谷川雅一, 佐野秀仁, 市村正一: リウマチ頸椎に対する治療経験. 第55回多摩リウマチ研究会, 東京, 2015年5月30日.
18. 大畑徹也: 症例報告TKA後大腿骨骨幹部骨折後偽関節の1例. Stryker Distal Femoral Fracure Seminarの症例検討, 東京, 2015年5月31日.
19. 佐藤行紀, 小谷明弘, 鈴木啓司, 坂倉健吾, 上村民子, 市村正一: 関節鏡視下膝前十字靭帯再建術後に無症候性肺塞栓症を生じた1例. 第7回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 札幌, 2015年6月18-20日.
20. 濱田尚一郎, 佐藤行紀, 坂倉健吾, 鈴木啓司, 小谷明弘, 市村正一: 膝前十字靭帯, 内側側副靭帯, 膝蓋腱の同時損傷の1例. 第7回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 札幌, 2015年6月18-20日.
21. 丸野秀人, 大畑徹也, 稲田成作, 松隈卓徳, 市村正一: 小児上腕骨顆上骨折阿部4型の術後成績. 第41回日本骨折治療学会, 奈良, 2015年6月26-27日.
22. 大畑徹也, 加藤聡一郎, 稲田成作, 星亨, 丸野秀人, 山口芳裕, 市村正一: 当院における寛骨臼骨折の治療成績. 第41回日本骨折治療学会, 奈良, 2015年6月26-27日.
23. 稲田成作, 丸野秀人, 大畑徹也, 市村正一: 小児Monteggia骨折に橈尺骨遠位骨端線損傷を併発した1例. 第41回日本骨折治療学会, 奈良, 2015年6月26-27日.
24. 加藤聡一郎, 大畑徹也, 星亨, 稲田成作: 外傷性股関節後方脱臼に同側大腿骨骨幹部骨折を併発した1例. 第41回日本骨折治療学会, 奈良, 2015年6月26-27日.
25. 大畑徹也, 丸野秀人, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一: ガス壊疽に対する救命と機能における予後予測因子の検討. 第38回日本骨関節感染症学会, 高松, 2015年7月3-4日.
26. 青柳貴之, 森井健司, 吉山晶, 田島崇, 市村正一: 骨軟部腫瘍に対する化学療法における発熱性好中球減少症の危険因子の解析. 第38回日本骨関節感染症学会, 高松, 2015年7月3-4日.
27. 青柳貴之, 森井健司, 吉山晶, 田島崇, 市村正一: 骨軟部腫瘍に対する化学療法における発熱性好中球減少症の危険因子の解析. 第48回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 高松, 2015年7月10-11日.
28. 吉山晶, 須佐美知郎, 森井健司, 青柳貴之, 小林英介, 竹内克仁, 穴澤卯圭, 渡邊逸央, 森岡秀夫, 市村正一: 腎細胞癌骨転移例における生命予後予測因子. 第48回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 高松, 2015年7月10-11日.
29. 森井健司, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一, 嶋森直子, 本橋美津江: 軟部腫瘍の診断における超音波カラードプラ法の有用性. 第64回東日本整形災害外科学会, 福島, 2015年9月11-12日.
30. 長谷川雅一, 井上功三朗, 宮坂芳郎, 黒崎祥一, 家田良樹, 市村正一: イバンドロネート静注製剤の骨粗鬆症治療における使用経験. 第64回東日本整形災害外科学会, 福島, 2015年9月11-12日.
31. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳, 五十嵐一峰, 里見和彦, 市村正一: 胸腰椎移行部での骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方インストゥルメンテーション手術の臨床成績. 第64回東日本整形災害外科学会, 福島, 2015年9月11-12日.
32. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 鈴木啓司, 坂倉健吾, 市村正一: 当院における人工膝関節置換術後感染に対する治療成績. 第64回東日本整形災害外科学会, 福島, 2015年9月11-12日.
33. 青柳貴之, 森井健司, 市村正一: 中手骨に発生したランゲルハンス細胞組織球症の1例. 第64回東日本整形災害外科学会, 福島, 2015年9月11-12日.
34. 長谷川雅一, 井上功三朗, 宮坂芳郎, 市村正一: 骨粗鬆症治療におけるイバンドロネート静注製剤の使用経験. 第17回日本骨粗鬆症学会, 広島, 2015年9月17-19日.
35. 井上功三朗, 市村正一, 長谷川雅一: ラロキシフェン塩酸塩とエルデカルシトールの併用効果の検討~アルファカルシドールからエルデカルシトールへの切り替え~. 第17回日本骨粗鬆症学会, 広島, 2015年9月17-19日.
36. 坂倉健吾, 佐々木茂, 家田良樹, 小谷明弘, 市村正一: Mini-open直視下腱板修復術と鏡視下腱板修復術の比較. 第42回日本肩関節学会, 仙台, 2015年10月9-10日.
37. 大畑徹也, 丸野秀人, 樽井武彦, 山口芳裕, 市村正一: 重症骨盤外傷に対する私の治療方法~生きて歩いて帰るを目的とした攻めの治療. 第43回日本救急医学会総会,

- 東京, 2015年10月21日.
38. 森井健司, 大塚弘毅, 大西宏明, 田島崇, 青柳貴之, 吉山晶, 市村正一:ゾレドロン酸の抗腫瘍効果に対する薬剤耐性獲得分子機構. 第30回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015年10月22-23日.
  39. 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 大柵英昭, 大野公宏, 五十嵐一峰, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一:頭蓋刺激, 複合筋活動電位による術中脊髄モニタリングの疾患別有効性. 第30回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015年10月22-23日.
  40. 稲田成作, 大畑徹也, 丸野秀人, 松隈卓徳, 市村正一:家兎骨延長モデルにおけるPTH至適投与時期の検討. 第30回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015年10月22-23日.
  41. 田島崇, 廣田浩介, 塩谷文章, 森井健司, 川井章, 近藤格:Calreticulinの発現上昇は粘液型脂肪肉腫の転移のリスクを反映する. 第30回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015年10月22-23日.
  42. 竹内拓海, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 大柵英昭, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一:頸髄半截ラットにおける前肢運動機能代償, 電気生理学的検証. 第30回日本整形外科学会基礎学術集会, 富山, 2015年10月22-23日.
  43. 井上功三朗, 小寺正純, 森脇孝博, 市村正一:当院における人工股関節置換術に伴う輸血の現状. 第42回日本股関節学会学術集会, 大阪, 2015年10月30-31日.
  44. Tajima T, Hirota K, Shiotani B, Morii T, Kawai A, Kondo T: Calreticulin as a potential metastasis-associated protein in myxoid liposarcoma revealed by proteomics. The 20th annual meeting of the Connective Tissue Oncology Society, USA, November 4th-7th, 2015.
  45. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 鈴木啓司, 坂倉健吾, 市村正一, 上村民子:関節鏡視下膝前十字靭帯再建術後に無症候性肺塞栓症を生じた1例. 第43回日本関節病学会, 札幌, 2015年11月5-6日.
  46. 長谷川淳, 高橋雅人, 里見和彦, 竹内拓海, 大柵英昭, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 五十嵐一峰, 市村正一:頸椎後縦靭帯骨化症の画像所見と電気生理学的障害高位の比較. 第45回日本臨床神経生理学会学術大会, 大阪, 2015年11月5-7日.
  47. 大森雅夫, 五十嵐一峰, 佐野秀仁, 市村正一, 中島剛, 渋谷賢, 大木紫, 遠藤隆志:頸髄症患者における巧緻運動障害の客観的評価法の開発. 第45回日本臨床神経生理学会学術大会, 大阪, 2015年11月5-7日.
  48. 竹内拓海, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 大柵英昭, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一:頸髄半截ラットにおける前肢運動機能代償, 電気生理学的検証. 第45回日本臨床神経生理学会学術大会, 大阪, 2015年11月5-7日.
  49. 佐野秀仁, 長谷川雅一, 高橋雅人, 五十嵐一峰, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 市村正一, 里見和彦:胸腰椎移行部での骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方固定術の臨床成績. 第23回日本腰痛学会, 東京, 2015年11月14-15日.
  50. 竹内拓海, 河野仁, 片岡嗣和, 中道清広, 橘安津子, 斎藤正史:頸椎前方固定術後血腫を繰り返した1例. 第50回日本脊髄障害医学会, 東京, 2015年11月19-20日.
  51. 藤井肇, 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 長谷川淳, 市村正一:片麻痺を呈した特発性頸椎硬膜外血腫の1例. 第50回日本脊髄障害医学会, 東京, 2015年11月19-20日.
  52. 田島祐基, 青柳貴之, 吉山晶, 森井健司, 市村正一:手舟状骨内ガングリオンの1例. 第44回杏林医学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
  53. 藤井肇, 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 市村正一:左片麻痺を呈した特発性頸椎硬膜外血腫の1例. 第44回杏林医学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
  54. 佐野秀仁, 佐藤俊輔, 長谷川淳, 高橋雅人, 長谷川雅一, 市村正一:胸腰椎黄色靭帯骨化切除後に胸椎椎間板ヘルニアを合併した手術症例. 第17回圧迫性脊髄症研究会, 東京, 2016年1月23日.
  55. 長谷川淳, 高橋雅人, 里見和彦, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 佐藤俊輔, 大柵英昭, 竹内拓海, 市村正一:術後一過性の筋力低下をきたした頸椎後縦靭帯骨化症の術中脊髄モニタリングにより救済しえた1例. 第37回脊髄機能診断研究会, 東京, 2016年2月6日.
  56. 佐藤俊輔, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 大柵英昭, 長谷川雅一, 市村正一:転移性頸椎腫瘍モデルの作製と頸髄麻痺の検証. 第37回脊髄機能診断研究会, 東京, 2016年2月6日.
  57. 大森雅夫, 渋谷賢, 佐野秀仁, 五十嵐一峰, 市村正一, 中島剛, 渋谷賢, 大木紫, 遠藤隆志:頸髄症患者における巧緻運動障害の客観的評価法の開発. 第37回脊髄機能診断研究会, 東京, 2016年2月6日.
  58. 佐藤行紀, 小谷明弘, 佐々木茂, 鈴木啓司, 坂倉健吾, 市村正一:当院における人工膝関節置換術後感染に対する治療成績. 第46回日本人工関節学会, 大阪, 2016年2月26-27日.
  59. 佐々木茂, 相川大介, 諸井威彦, 坂倉健吾:当院における鏡視下腱板修復術の術後短期成績, ARCRと修復困難例に対するASCRの臨床短期成績. 第42回山梨総合医学会, 甲府, 2016年3月6日.
  60. 佐々木茂, 相川大介, 諸井威彦, 小谷明弘, 鈴木啓司, 佐藤行紀, 市村正一:吸収性interference screwを使用した膝前十字靭帯再建術-骨付き膝蓋腱を用いた再建術の治療成績とその画像所見. 第42回山梨総合医学会, 甲府, 2016年3月6日.
  61. 森井健司, 青柳貴之, 田島崇, 市村正一:骨軟部腫瘍に関連する苦痛(つらさ)の初期評価スクリーニング-当院の取り組み-. 第56回関東整形災害外科学会, 東京, 2016年3月25-26日.
  62. 高橋雅人, 長谷川淳, 佐藤俊輔, 佐野秀仁, 長谷川雅一, 市村正一:成人脊柱変形に対するOLIF (Oblique lateral interbody fusion)を用いたshort fusionの効果. 第56回関東整形災害外科学会, 東京, 2016年3月25-26日.
  63. 田島祐基, 青柳貴之, 森井健司, 市村正一:手舟状骨内ガングリオンの1例. 第56回関東整形災害外科学会, 東京, 2016年3月25-26日.
- 講演**
1. 市村正一:骨粗鬆症関連領域におけるテリパラチドの臨床応用. 鹿兒島骨粗鬆症講演会, 鹿兒島, 2015年4月13日.
  2. 市村正一:骨粗鬆症性脆弱性骨折の治療戦略-ビスホスホネート静注剤を中心に-. 第44回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 福岡, 2015年4月17日.
  3. 市村正一:骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの活用. 高齢者医療Up to Date, 西宮, 2015年4月23日.
  4. 市村正一:骨粗鬆症診療における骨形成促進剤の位置づけ-将来の新薬も見据えて-. 高知県整形外科医会学術講演会, 高知, 2015年4月30日.
  5. 市村正一:骨粗鬆症性骨折に対する薬物療法の実際と注意点. 第82回京都運動器疾患フォーラム, 京都, 2015年5月11日.
  6. 市村正一:腰部脊柱管狭窄症の診断と治療-鑑別診断も含めて-. 第8回多摩腎臓病カンファレンス, 東京, 2015年5月15日.
  7. 長谷川雅一:実臨床における骨粗鬆症薬物治療の新たな知見-ビスホスホネート月1静注製剤及びエルデカルシ

- トールの有用性～. 白河地区骨粗鬆症勉強会, 白河, 2015年5月15日.
8. 市村正一: 骨粗鬆症薬剤選択の実際. 2015年関西医科大学整形外科学教室春期セミナー, 大阪, 2015年5月16日.
  9. 佐々木茂: 山梨病院における関節鏡視下手術, ACL再建術から腱板修復術まで. KYO講演会, 甲府, 2015年5月28日.
  10. 市村正一: 最近の骨粗鬆症治療における知見. あじさい骨粗鬆症Webセミナー, 東京, 2015年6月3日.
  11. 市村正一: ロコモティブシンドロームとその運動療法. 調布医師会学術講演会, 東京, 2015年6月10日.
  12. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法の最近の知見—ビスホスホネート静注を中心に—. 新潟骨粗鬆症学術講演会, 新潟, 2015年6月18日.
  13. 市村正一: 骨粗鬆症薬物治療の新たな展開—実臨床におけるビスホスホネート月1回製剤及びエルデカルシトールの有用性—. 第7回城南骨粗鬆症学術講演会, 東京, 2015年6月24日.
  14. 市村正一: 骨粗鬆症治療におけるテリパラチドの役割. Bone Masters Course IV-Spine-, 札幌, 2015年6月27日.
  15. 市村正一: 高齢者腰痛疾患の鑑別診断と治療. 西多摩骨・関節シンポジウム, 立川, 2015年7月11日.
  16. 森井健司: 骨軟部腫瘍の手術における感染症—現状と展望—. 第48回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 高松, 2016年7月11日.
  17. 市村正一: 骨粗鬆症薬物の実際～ビスホスホネート静注製剤を中心に—. 小田原骨粗鬆症学術講演会, 小田原, 2015年7月29日.
  18. 市村正一: 骨粗鬆症薬物療法におけるテリパラチドの有用性. 福井県臨床整形外科医会, 福井, 2015年7月30日.
  19. 星亨: 鎖骨骨折「プレート固定法」. 第58回JABO研修会(日本整形外科学会教育研修講演), 東京, 2015年8月2日.
  20. 市村正一: 実臨床における骨粗鬆症薬物治療の新たな知見～ビスホスホネート月1回製剤及びエルデカルシトールの有用性～. 長野県臨床整形外科医会講演会, 長野, 2015年8月21日.
  21. 市村正一: 脊椎圧迫骨折の診断と治療—寝たきりにならないために知っておきたいポイント—. ベネッセ地域医療セミナー, 三鷹, 2015年8月30日.
  22. 林光俊: スポーツによるアキレス腱断裂とリハビリテーション, 保存療法を主として. 第41回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会, 京都, 2015年9月11-12日.
  23. 市村正一: 多様化する骨粗鬆症薬物療法の現状. 運動器疾患/骨・関節フォーラム, 福岡, 2015年9月12日.
  24. 市村正一: 骨代謝マーカーを用いた骨粗鬆症診療の実際. 第17回日本骨粗鬆症学会, 広島, 2015年9月17日.
  25. 高橋雅人: 術中脊髄モニタリングと障害高位診断. 第22回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (Spine Leader's Lecture) 日整会教育研修講演, 東京, 2015年9月18-19日.
  26. 星亨: 広範囲骨欠損の治療: イリザロフ法. 日本骨折治療学会研修会第7回アドバンスコース (日本整形外科学会教育研修講演), 横浜, 2015年10月11日.
  27. 林光俊: アキレス腱断裂の保存療法とリハビリテーション. 大阪府臨床整形外科医会講演会, 大阪, 2015年10月17日.
  28. 市村正一: 日常診療における骨粗鬆症薬物療法のup to date—ビスホスホネート静注製剤を中心に—. 第4回埼玉東部骨折治療研究会, 越谷, 2015年10月20日.
  29. 大畑徹也: 足関節の解剖と骨折に対する診断と治療. Private Cadaver Training Course, タイ, 2015年11月1日.
  30. 佐々木茂: ACL再建術から腱板修復術まで & 外来における肩腱板断裂を見逃さないポイント. 第5回杏スポーツセミナー, 東京, 2015年11月3日.
  31. 市村正一: ビスホスホネート製剤の適応と注意点. 第34回日本関節病学会, 札幌, 2015年11月5日.
  32. 市村正一: 骨粗鬆症薬物治療の新たな展開—実臨床におけるビスホスホネート月1回製剤及びエルデカルシトールの有用性—. 第30回函館骨粗鬆症研究会学術講演会, 函館, 2015年11月6日.
  33. 市村正一: 多様化する骨粗鬆症薬物治療の適応と実際. 第4回長崎整形外科疾患研究会, 長崎, 2015年11月9日.
  34. 市村正一: 健康寿命延伸のための骨粗鬆症診療の取り組み. 山梨県大腿骨頸部骨折地域連携パス研究会, 甲府, 2015年11月26日.
  35. 大畑徹也: 高度救命救急センターにおける精神疾患を伴った重症外傷治療の現状と問題点. 第14回精神心理領域理学療法部門セミナー, 東京, 2015年11月29日.
  36. 市村正一: 運動器におけるテリパラチドの活用. Bone Master Course IV-pain-, 東京, 2015年12月12日.
  37. 市村正一: 腰部脊柱管狭窄症の病態と治療. ベネッセの地域医療セミナー, 三鷹, 2015年12月19日.
  38. 大畑徹也: 両大腿骨に生じた複合骨折の治療経験. Zimmer Biomet Trauma Symposium, 東京, 2016年1月23-24日.
  39. 市村正一: 骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの活用. 世田谷区外科整形外科医会新年特別研修講演, 東京, 2016年1月26日.
  40. 市村正一: 正しく知ろうロコモと骨粗鬆症—介護を受けないために—. 国立市市民公開講座, 国立, 2016年1月30日.
  41. 市村正一: 骨粗鬆症診療におけるデノスマブの有用性. 第3回多摩地区の整形外科疾患を語る会, 三鷹, 2016年2月17日.
  42. 大畑徹也: 整形外科診療に潜む予後不良となる外傷疾患の診断と治療戦略. 第31回白河地区整形外科医会, 白河, 2016年2月18日.
  43. 長谷川雅一: 骨粗鬆症治療のup to date～日常診療の経験より～. 西多摩・北多摩・立川整形外科医会合同セミナー, 立川, 2016年2月20日.
  44. 市村正一: ロコモティブシンドロームとその運動療法. 三鷹市老人クラブ連合会と杏林大学病院の合同講演会, 三鷹, 2016年2月24日.
  45. 市村正一: 症例に学ぶ骨粗鬆症治療薬の使い方. Ehime Osteoporosis Seminar, 松山, 2016年3月17日.
  46. 佐々木茂: 膝後外側支持機構損傷の診断と治療法, 保存療法から手術療法まで. KYO講演会, 甲府, 2016年3月31日.
- ## 論文
1. 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐野秀仁: 骨粗鬆症の診断と治療update—骨粗鬆症の診断—骨代謝マーカーを用いた骨粗鬆症診療. Bone Joint Nerve 6(1):55-60, 2016.
  2. 市村正一: 外科治療① 椎体骨折. 日本医師会誌144 (特別号1): 104-106, 2015.
  3. 山田浩司<sup>1</sup>, 松下和彦<sup>1</sup>, 阿部哲士<sup>1</sup>, 石井朝夫<sup>1</sup>, 梶山史郎<sup>1</sup>, 小谷明弘, 斉藤政克<sup>1</sup>, 正岡利紀<sup>1</sup>, 勝呂徹<sup>1</sup> (骨・関節術後感染予防ガイドライン策定委員会): 整形外科領域における手術部位感染予防・整形外科SSIサーベイランス. 整・災外58(10):1345-1354, 2015.
  4. 阿部哲士<sup>1</sup>, 松下和彦<sup>1</sup>, 石井朝夫<sup>1</sup>, 梶山史郎<sup>1</sup>, 小谷明弘, 斉藤政克<sup>1</sup>, 正岡利紀<sup>1</sup>, 山田浩司<sup>1</sup>, 舘田一博<sup>1</sup> (骨・

- 関節術後感染予防ガイドライン策定委員会): 整形外科領域における手術部位感染予防・術後感染予防のための抗菌薬の適正使用. 整・災外58(10):1339-1344, 2015.
5. 小谷明弘, 松下和彦<sup>1</sup>, 石井朝夫<sup>1</sup>, 梶山史郎<sup>1</sup>, 阿部哲士<sup>1</sup>, 斎藤政克<sup>1</sup>, 正岡利紀<sup>1</sup>, 山田浩司<sup>1</sup>, 勝呂徹<sup>1</sup> (骨・関節術後感染予防ガイドライン策定委員会): 整形外科領域における手術部位感染予防・術後SSIを予防するためには創閉鎖にどのような縫合糸を使用すべきか. 整・災外58(10):1333-1337, 2015.
  6. 石井朝夫<sup>1</sup>, 山田浩司<sup>1</sup>, 阿部哲士<sup>1</sup>, 梶山史郎<sup>1</sup>, 小谷明弘, 斎藤政克<sup>1</sup>, 正岡利紀<sup>1</sup>, 松下和彦<sup>1</sup>, 勝呂徹<sup>1</sup> (骨・関節術後感染予防ガイドライン策定委員会): 整形外科領域における手術部位感染予防・手洗い, 全身排気スーツ, パイオクリンルームとSSI. 整・災外58(10):1327-1331, 2015.
  7. 梶山史郎<sup>1</sup>, 松下和彦<sup>1</sup>, 阿部哲士<sup>1</sup>, 石井朝夫<sup>1</sup>, 小谷明弘, 正岡利紀<sup>1</sup>, 斎藤政克<sup>1</sup>, 山田浩司<sup>1</sup>, 勝呂徹<sup>1</sup> (骨・関節術後感染予防ガイドライン策定委員会): 整形外科領域における手術部位感染予防・週周期血糖コントロール, 手術室における履物の変更とSSI. 整・災外58(10):1321-1326, 2015.
  8. 斎藤政克<sup>1</sup>, 松下和彦<sup>1</sup>, 阿部哲士<sup>1</sup>, 石井朝夫<sup>1</sup>, 梶山史郎<sup>1</sup>, 小谷明弘, 正岡利紀<sup>1</sup>, 山田浩司<sup>1</sup>, 勝呂徹<sup>1</sup> (骨・関節術後感染予防ガイドライン策定委員会): 整形外科領域における手術部位感染予防・鼻腔などの除菌, 生物学的製剤の使用とSSI. 整・災外58(10):1313-1320, 2015.
  9. 正岡利紀<sup>1</sup>, 松下和彦<sup>1</sup>, 阿部哲士<sup>1</sup>, 石井朝夫<sup>1</sup>, 梶山史郎<sup>1</sup>, 小谷明弘, 斎藤政克<sup>1</sup>, 山田浩司<sup>1</sup>, 勝呂徹<sup>1</sup> (骨・関節術後感染予防ガイドライン策定委員会): 整形外科領域における手術部位感染予防・骨・関節術後感染予防のための疫学. 整・災外58(10):1307-1312, 2015.
  10. Morii T, Tajima T, Aoyagi T, Ichimura S: D-dimer Level Changes During Systemic Chemotherapy Can Predict Prognosis of High-grade Musculoskeletal Sarcoma Patients. *Anticancer Res.* 35(12):6781-6786, 2015.
  11. 森井健司: 腫瘍用人工関節の手術部位感染. 臨整外51:275-282, 2016.
  12. Yamada K<sup>1</sup>, Matsuyama Y<sup>1</sup>, Kobayashi S<sup>1</sup>, Nagahama K<sup>1</sup>, Tadokoro N<sup>1</sup>, Wada K, <sup>1</sup> Muramoto A<sup>1</sup>, Iwasaki H<sup>1</sup>, Kanchiku T<sup>1</sup>, Seki S<sup>1</sup>, Hirao Y<sup>1</sup>, Mizoto A<sup>1</sup>, Ando M<sup>1</sup>, Yamamoto N<sup>1</sup>, Kawabata S<sup>1</sup>, Takahashi M, Ito Z<sup>1</sup>, Fujiwara Y<sup>1</sup>, Kida K<sup>1</sup>, Tani T<sup>1</sup>, Ohta R<sup>1</sup>, Saito T<sup>1</sup>, Satomi K, Shinomiya K<sup>1</sup> (Spinal cord Monitoring Committee of JSSR): Evaluation of the Alarm Criteria for Transcranial Electrical Stimulation Muscle Evoked Potential in Spinal Deformity Surgery: Multi-institution Survey by the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research. *J Spine Res* 6 : 1354-1362, 2015.
  13. 藤原靖<sup>1</sup>, 松山幸弘<sup>1</sup>, 小林祥<sup>1</sup>, 伊藤全哉<sup>1</sup>, 山田圭<sup>1</sup>, 齋藤貴徳<sup>1</sup>, 川端茂徳<sup>1</sup>, 木田和伸<sup>1</sup>, 寒竹司<sup>1</sup>, 和田簡一郎<sup>1</sup>, 安藤宗治<sup>1</sup>, 山本直也<sup>1</sup>, 高橋雅人, 四宮謙一<sup>1</sup>, 里見和彦, 谷俊一<sup>1</sup> (JSSRモニタリングWG): 経頭蓋刺激誘発電位術中脊髄モニタリングを用いた脊髄内腫瘍摘出術の手術戦略, 日本脊椎脊髄病学会多施設共同前向き研究. 脊髄機能診断 36:164-171, 2015.
  14. 小林祥<sup>1</sup>, 松山幸弘<sup>1</sup>, 川端茂徳<sup>2</sup>, 安藤宗治<sup>3</sup>, 寒竹司<sup>4</sup>, 高橋雅人, 伊藤全哉<sup>5</sup>, 藤原靖<sup>6</sup>, 田所伸朗<sup>7</sup>, 和田簡一郎<sup>8</sup>, 山田圭<sup>9</sup>, 山本直也<sup>10</sup>, 木田和伸<sup>11</sup>, 谷俊一<sup>11</sup> (浜松医大, <sup>2</sup>東京医歯大, <sup>3</sup>和歌山ろうさい病院, <sup>4</sup>山口大, <sup>5</sup>名古屋大, <sup>6</sup>安佐市民病院, <sup>7</sup>高知大, <sup>8</sup>弘前大, <sup>9</sup>久留米大, <sup>10</sup>東京女医大, <sup>11</sup>くぼかわ病院): 高リスク脊椎手術におけるBr(E)-MsEP解析 脊椎脊髄病学会モニタリング委員会による多施設研究. 脊髄機能診断 36:172-176, 2015.
  15. 山田圭<sup>1</sup>, 松山幸弘<sup>2</sup>, 小林祥<sup>2</sup>, 長濱賢<sup>3</sup>, 田所伸朗<sup>4</sup>, 和田簡一郎<sup>5</sup>, 村本明生<sup>6</sup>, 岩崎博<sup>7</sup>, 寒竹司<sup>8</sup>, 関庄二<sup>9</sup>, 平尾雄二郎<sup>10</sup>, 溝田敦子<sup>1</sup>, 安藤宗治<sup>11</sup>, 大田亮<sup>12</sup>, 山本直也<sup>13</sup>, 川端茂徳<sup>14</sup>, 高橋雅人, 伊藤全哉<sup>6</sup>, 藤原靖<sup>15</sup>, 木田和伸<sup>16</sup>, 齋藤貴徳<sup>17</sup>, 谷俊一<sup>16</sup>, 里見和彦<sup>18</sup>, 四宮謙一<sup>19</sup> (久留米大, <sup>2</sup>浜松医大, <sup>3</sup>北大, <sup>4</sup>高知大, <sup>5</sup>弘前大, <sup>6</sup>名古屋大, <sup>7</sup>和歌山県立医大, <sup>8</sup>山口大, <sup>9</sup>富山大, <sup>10</sup>日赤医療センター, <sup>11</sup>和歌山ろうさい病院, <sup>12</sup>松山赤十字病院, <sup>13</sup>東京女医大, <sup>14</sup>東京医歯大, <sup>15</sup>安佐市民病院, <sup>16</sup>くぼかわ病院, <sup>17</sup>関西医大, <sup>18</sup>久我山病院, <sup>19</sup>横浜市立みなと赤十字病院): 側彎症手術の脊髄モニタリングのアラームポイント, 日本脊椎脊髄病学会脊髄モニタリング委員会多施設前向き研究. 臨整外 50(6):523-530, 2015.
  16. 大畑徹也, 星亨<sup>2</sup>, 丸野秀人, 山口芳裕<sup>1</sup>, 市村正一 (杏林大・医・救急医学, <sup>2</sup>東大和病院): 精神疾患患者における骨盤輪骨折の検討. 骨折 37(3):646-649, 2015.
  17. 佐野秀仁, 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人, 長谷川淳: 当院でのBKPの術後新規椎体骨折の評価. *J Spine Res.* 6(6):1076-1082, 2015.
  18. 佐野秀仁, 高橋雅人, 長谷川雅一, 長谷川淳, 市村正一: 脊椎手術を施行した透析患者の検討. 東日整災外誌27(4):389-395, 2015.
  19. 稲田成作, 宝亀登, 丸野秀人, 大畑徹也, 市村正一: 橈骨遠位端関節内骨折の発症因子. 骨折 38(1):26-28, 2016.
  20. Hasegawa A, Yagi M<sup>1</sup>, Takemitsu M<sup>1</sup>, Machida M<sup>1</sup>, Asazuma T<sup>1</sup>, Ichimura S (Murayama Medical center): Atlantoaxial Subluxation after Pyogenic Spondylitis around the Odontoid Process. *Case Rep Orthop.* 2015:861403, 2015. doi: 10.1155/2015/861403.
  21. Nagoshi N<sup>1</sup>, Kaneko S<sup>1</sup>, Fujiyoshi K<sup>1</sup>, Takemitsu M<sup>1</sup>, Yagi M<sup>1</sup>, Iizuka S<sup>1</sup>, Miyake A<sup>1</sup>, Hasegawa A<sup>1</sup>, Machida M<sup>1</sup>, Konomi T<sup>1</sup>, Machida M<sup>1</sup>, Asazuma T<sup>1</sup>, Nakamura M<sup>2</sup> (Murayama Medical center, <sup>2</sup>Keio University): Characteristics of neuropathic pain and its relationship with quality of life in 72 patients with spinal cord injury. *Spinal Cord.* 2015. (Epub). doi: 10.1038/sc.2015.210.
  22. Hasegawa A, Takahashi M, Satomi K, Ohne H, Takeuchi T, Sato S, Ichimura S: Mechanism of forelimb motor function restoration after cervical spinal cord hemisection in rats: A comparison of juveniles and adults. *Behavior Neurology* 2016:1-8, 2015.
  23. Aoyagi T, Morii T, Tajima T, Yoshiyama A, Ichimura S: Analysis of the risk factors for febrile neutropenia in patients with bone and soft tissue sarcoma. *Anticancer Res.* 35(4):2375-2383, 2015.
  24. Sato S, Yagi M, Machida M, Yasuda A, Konomi T, Miyake A, Fujiyoshi K, Takemitsu M, Machida M, Yato Y, Asazuma T: Reoperation rate and risk factors of elective spinal surgery for degenerative spondylolisthesis: minimum 5-year follow up. *Spine J.* 15(7):1536-1544, 2015.
  25. Tajima T, Kito F<sup>1</sup>, Ohta T<sup>1</sup>, Shiozawa K<sup>1</sup>, Kawai A<sup>2</sup>, Kondo T<sup>1</sup> (Division of Rare Cancer Research, National Cancer Center Research Institute, <sup>2</sup>Division of Musculoskeletal Oncology, National Cancer Center Hospital): Interactome analysis reveals molecular mechanisms underlying the association between selenium binding protein 1 expression and the malignant features of tumor cells. *J Electrophoresis* 59:1, 2015.
  26. 大柵英昭, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸髄半裁ラットにお



ける前肢運動機能代償, 神経解剖学的検証. 脊髄機能診断学 36: 33-39, 2015.

27. 高柳正俊, 小林裕明, 山本重吉, 市村正一: 右小指近位指節間関節に関節破壊を生じた痛風結節の1例. 臨床雑誌整形外科 66: 223-225, 2015.
28. 加藤聡一郎<sup>1</sup>, 大畑徹也, 山口芳裕<sup>1</sup>, 山下紗季, 市村正一, 星亨<sup>2</sup> (<sup>1</sup>杏林大・医・救急医学, <sup>2</sup>東大和病院): 同側鎖骨近位端骨折を伴った肩甲帯部重複損傷の治療経験から得た一考察. 骨折 37: 320-323, 2015.
29. 星亨<sup>1</sup>, 工藤文孝<sup>1</sup>, 山岸賢一郎<sup>1</sup>, 道廣岳 (<sup>1</sup>東大和病院): Ilizarov創外固定による偽関節の治療成績. 骨折 37: 847-851, 2015.
30. 佐々木茂, 佐藤行紀, 小谷明弘: 脛骨近位内側顆部に生じたinsufficiency fracture後の膝内反変形に対して高位脛骨骨切り術を施行した1例. 骨折 37(3): 864-867, 2015.
31. 丸野秀人, 大畑徹也, 稲田成作. 橈骨頭骨折に対するDTJスクリューの使用経験. 骨折 37(3): 590-593, 2015.
32. 松隈卓徳, 大畑徹也, 丸野秀人: 多発外傷に伴う踵骨骨折の治療成績. 骨折 37(4): 1079-1082, 2015.
33. 丸野秀人, 大畑徹也, 田島崇: Jeffery型骨折2例の治療経. 骨折 37(4): 1095-1098, 2015
34. 丸野秀人, 大畑徹也, 稲田成作, 松隈卓徳, 市村正一. 小児上腕骨顆上骨折阿部4型の術後成績. 骨折 38(1): 49-52, 2016.
35. 高山拓人<sup>1</sup>, 片桐佳樹<sup>1</sup>, 真島敬介<sup>1</sup>, 佐々木茂, 相川大介, 稲永紗季, 井上智雄<sup>2</sup> (<sup>1</sup>笛吹中央病院, <sup>2</sup>いのうえ整形外科クリニック): 裂手症の1例. 山梨医学 43: 79-83, 2015.
36. 高山拓人<sup>1</sup>, 片桐佳樹<sup>1</sup>, 真島敬介<sup>1</sup>, 佐々木茂, 相川大介, 稲永紗季, 井上智雄<sup>2</sup>, 宝亀登, 田島崇 (<sup>1</sup>笛吹中央病院, <sup>2</sup>いのうえ整形外科クリニック): 手指挫滅切断に対する再接着術の治療成績と問題点. 山梨医学 43: 90-96, 2015.
37. 林光俊: 2016リオ/2020東京オリンピックに向けて, 整形外科医が知っておくべきこと, 日本バレーボール協会の取り組み. Journal of Joint Surgery 関節外科 34(8): 752-758, 2015.
38. 竹内拓海, 斎藤正史<sup>1</sup>, 河野仁<sup>1</sup>, 片岡嗣和<sup>1</sup>, 渡邊泰伸<sup>1</sup>, 中道清広<sup>1</sup>, 橋安津子<sup>1</sup>, 細金直文<sup>2</sup>, 町田正文<sup>3</sup>, 市村正一 (<sup>1</sup>慶友整形外科病院, <sup>2</sup>防衛医大整形, <sup>3</sup>村山医療センター): 硬膜内脱出ヘルニアの1例. 関東整災誌46(4): 165-170, 2015.
39. 竹内拓海, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 大柵英昭, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける前肢運動機能代償機構, 電気生理学的検証. 脊髄機能診断学 35(1): 72-76, 2015.
40. 大柵英昭, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける前肢運動機能代償, 神経解剖学的検証. 脊髄機能診断学 35(1): 77-83, 2015.
41. 小西一斉, 丸野秀人, 市村正一: Kienböck病に合併した手指伸筋腱断裂の1例. 関東整災誌 46(5): 201-205, 2015.
42. 濱田尚一郎, 佐藤行紀, 鈴木啓司, 坂倉健吾, 小谷明弘, 市村正一: 前十字靭帯, 内側側副靭帯, 膝蓋腱の同時損傷の1例. JOSKAS 41: 170-171, 2016.
43. 大柵英昭, 高橋雅人, 里見和彦, 長谷川淳, 竹内拓海, 佐藤俊輔, 長谷川雅一, 市村正一: 頸髄半截ラットにおける前肢運動機能代償, 神経解剖学的検証. 脊髄機能診断学 36(1): 33-39, 2016.
44. Yoshiyama A, Morii T, Ohtsuka K<sup>1</sup>, Ohnishi H<sup>1</sup>, Tajima T, Aoyagi T, Mochizuki K, Satomi K, Ichimura S (<sup>1</sup>Department of Clinical Laboratory Medicine.

Kyorin University. School of Medicine): Development of Stemness in Cancer Cell Lines Resistant to the Anticancer Effects of Zoledronic Acid. Anticancer Res. 36(2): 625-31. 2016.

45. 稲永紗季, 森井健司, 丸野秀人, 本谷啓太<sup>1</sup>, 平野和彦<sup>2</sup>, 市村正一 (<sup>1</sup>杏林大学保健学部診療放射線技術学科, <sup>2</sup>杏林大学医学部病理学): 手根骨に発生した骨巨細胞腫の1例. 整形外科 67: 633-637, 2016.

#### 平成26年度追加分

1. 安部一平, 丸野秀人, 市村正一: 重症筋無力症に対するステロイド治療中に生じたアキレス腱断裂の1例. 第55回関東整形災害外科学会, さいたま, 2015年3月27-28日.

#### 著書

1. 市村正一, 長谷川雅一, 高橋雅人, 佐野秀仁: 骨粗鬆症の外科的治療. 最新医学別冊 診断と治療のABC 110 骨粗鬆症. 竹内靖博編. 大阪, 最新医学社, 2016. p. 179-189.
2. 森井健司: 骨腫瘍 悪性骨腫瘍. 骨・関節・軟骨治療のための新製品開発と臨床ニーズ. 東京, 技術情報協会, 2015. p. 325-328.
3. 森井健司: AI (ADR+IFO). 肉腫化学療法マスタークラス. 川井章編, 東京, 南山堂, 2015. p. 106-111.
4. Morii T: Chapter 12 Management of Postoperative Infection after Limb Salvage Surgery in Osteosarcoma Patients. Osteosarcoma: A Multidisciplinary Approach to Treatment. Takafumi Ueda, Akira Kawai eds. Tokyo, Springer Japan, 2016. p. 149-167.
5. 大畑徹也: 大腿骨骨幹部骨折に対する手術治療. 手術のバリエーションとその応用. 手術法解説. 重症多発外傷における大腿骨骨幹部骨折の治療方法と戦略. 整形外科Surgical Technique 5(2), 大阪, メディカ出版, 2015. p. 159-165.
6. 今給黎直明, 林光俊: バレーボール. ジュニアアスリートをサポートするスポーツ医学ガイドブック. 金岡恒治, 赤坂清和編. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 272-283.

#### 特許等知的財産関係, 報告書

1. 森井健司: 厚生労働科学研究委託費 革新的がん医療実用化研究事業 高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究 2015年度 委託業務成果報告書.

#### 皮膚科学教室

#### 講演

1. 外園千恵, 松山琴音, 中谷英仁, 狩野葉子, 塩原哲夫, 上田真由美, 木下茂, 重症薬疹研究班: Stevens-Johnson症候群および中毒性表皮壊死融解症における急性期眼障害のリスク因子. 第119回日本眼科学会総会, 札幌, 2015年4月17日.
2. 小松由莉江, 早川順, 塩原哲夫: A群とG群連菌による蜂窩織炎の臨床的比較-5年間の当教室例の比較. 日本皮膚科学会第860回東京地方会, 東京, 2015年4月18日.
3. 五味方樹, 倉田麻衣子, 早川順, 塩原哲夫: 唾液中のHSV DNAが高値となり, 治療に難渋した尋常性天疱瘡の1例. 日本皮膚科学会第860回東京地方会, 東京, 2015年4月18日.
4. 塩原哲夫: 変貌する難病診療の最前線, 重症多形滲出性紅斑における現状と未来. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月29日.
5. 塩原哲夫: 重症多形滲出性紅斑における現状と未来. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月29日.
6. 水川良子: 湿疹皮膚炎群におけるステロイド内服療法の

- 難しさ. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月30日.
7. 水川良子: 入院か外来か? ステロイドを使うか, 使わないでこらえるか?. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月30日.
  8. 狩野葉子: 薬剤性過敏症症候群 (DIHS) の続発症について: 予後調査結果を含めて. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月30日.
  9. 倉田麻衣子, 水川良子, 佐藤洋平, 狩野葉子, 塩原哲夫: 好酸球性多発血管性肉芽腫症一教室例の解析. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月30日.
  10. 塩原哲夫: ステロイドの内服・全身投与の使い方; 総括. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月30日.
  11. 塩原哲夫: 重症薬疹におけるIVIgの有用性. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月30日.
  12. 塩原哲夫: 発汗異常を伴う皮膚アレルギー疾患の診断治療のコツ. 第114回日本皮膚科学会総会, 横浜, 2015年5月31日.
  13. Shiohara T: DRESS/DIHS-Pathogenesis-What's new? and What's next?. International Severe Cutaneous Adverse Reaction 2015, Canada, June 8th, 2015.
  14. Shiohara T: Newly described drug eruptions. 23rd World Congress of Dermatology, Canada, June 11th, 2015.
  15. Mizukawa Y, Shiohara T: Lichenoid spectrum - from GVHD to lichenoid drug eruptions. 23rd World Congress of Dermatology, Canada, June 11th, 2015.
  16. Shiohara T: Pathophysiology of fixed drug eruption. 23rd World Congress of Dermatology, Canada, June 12th, 2015.
  17. Shiohara T: Common drug reactions-from morbilliform to FDE. 23rd World Congress of Dermatology, Canada, June 12th, 2015.
  18. 福山雅大, 五味方樹, 早川順, 大山路: MRSA感染を合併し特異な臨床像を呈した落葉状天疱瘡の1例. 日本皮膚科学会第861回東京地方会, 東京, 2015年7月11日.
  19. Shiohara T: Meet the Expert. Cutaneous drug eruptions. International Summer Academy, Germany, July 31st, 2015.
  20. 吉池沙保里, 加藤峰幸, 大山路: 臨床的に偽リンパ腫を考えた1例. 第862回日本皮膚科学会東京地方会, 東京, 2015年9月12日.
  21. 塩原哲夫: 薬疹の常識の罨. さいたま皮膚免疫アレルギー研究会, さいたま, 2015年9月17日.
  22. 塩原哲夫: 抗てんかん薬による薬疹について. 東京Epilepsyカンファレンス2015, 東京, 2015年9月19日.
  23. Shiohara T: Severe Adverse Drug Reactions Drug-induced hypersensitivity syndrome. 24th World Allergy Organization, Korea, October 14th, 2015.
  24. 新田桐子, 佐藤洋平, 吉池沙保里, 早川順, 大山路: EM majorの臨床を呈し毛包周囲に密な好酸球浸潤を認めた37才女性例. 第66回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 神戸, 2015年10月31日.
  25. Endo Y, Takahashi M, Obayashi Y, Aisawa N, Serizawa T, Murakoshi M, Ohyama M: The Ovariectomized mouse model mimics the pathophysiology of human female pattern hair loss. 9th World Congress of Hair Research, USA, November 18th-21st, 2015.
  26. Ise M, Kubo A, Umegaki N, Amagai M, Ohyama M: Clinical, histological and genetic insights into the pathophysiology underlying phenotypic variation of autosomal recessive hypotrichosis / wooly hair caused by c.736T>A LIPH mutation. 9th World Congress for Hair Research, USA, November 19th, 2015.
  27. 倉田麻衣子, 狩野葉子, 塩原哲夫: 粘膜疹を伴い単純ヘルペスウイルス (HSV) の再活性化を認めたアロプリノールによる薬剤性過敏症症候群 (DIHS) の1例. 第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 松江, 2015年11月20日.
  28. 狩野葉子: SJS/TENの臨床と治療. 第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 松江, 2015年11月22日.
  29. 塩原哲夫: 薬疹 DIHSの病態と臨床. 第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会, 松江, 2015年11月22日.
  30. Ohta E, Nihira T, Uchino A, Imaizumi Y, Okada Y, Akamatsu W, Takahashi K, Nagai M, Ohyama M, Ryo M, Ogino M, Murayama S, Takashima A, Nishiyama K, Mizuno Y, Mochizuki H, Obata F, Okano H: I2020T LRRK2 iPSC-derived neurons in the Sagami-hara family exhibit increased Tau phosphorylation through the AKT/GSK-3beta signaling pathway. XXI World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders, Italy, December 6th-9th, 2015.
  31. Takahashi R, Ushigome U, Shiohara T: An unfavorable shift from Treg to Th17 development can be preventable by selective depletion of IL-6-producing proinflammatory monocytes. The 40th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Okayama, December 11th, 2015.
  32. Ise M, Kubo A, Sasaki T, Umegaki-Arao N, Amagai M, Ohyama M: Clinicopathological insights into the phenotypic variation of autosomal recessive hypotrichosis / wooly hair by c.736T>A LIPH mutation. The 40th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Okayama, December 11th, 2015.
  33. Atsugi T, Yokouchi M, Hirabayashi A, Ohyama M, Amagai M, Kubo A: Functional tight junction barriers in sebaceous glands: detects in holocrine secretion in claudin-1 deficient mice. The 40th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Okayama, December 12th 2015.
  34. 下田由莉江, 倉田麻衣子, 塩原哲夫: 発汗障害を認めた慢性色素性紫斑の1例. 日本皮膚科学会第865回東京地方会, 東京, 2016年1月16日.
  35. 塩原哲夫: 重症薬疹 発症メカニズムから治療まで 薬剤性過敏症症候群 (DIHS) の発症機序と治療. 第79回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2016年2月20日.
  36. 大山路: 再生医療の最前線としての毛髪科学 ヒトiPS細胞を用いた毛包再生の試み. 第79回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2016年2月20日.
  37. 牛込悠紀子, 塩原哲夫: 消化管症状を伴うIgA血管炎における水痘帯状疱疹ウイルスの関与一当教室例の検討. 第79回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2016年2月20日.
  38. 太田悦朗, 仁平友子, 内野彰子, 今泉陽一, 岡田洋平, 赤松和土, 高橋加代子, 永井真貴子, 大山路, 梁正淵, 荻野美恵子, 村山繁雄, 高島昭彦, 西山和利, 水野美邦, 望月秀樹, 小幡文弥, 岡野栄之: I2020T mutant LRRK2 iPSC-derived neurons exhibit increased Tau phosphorylation. 第15回日本再生医療学会総会, 大阪,

2016年3月17日.

39. 黄地健仁, 森川暁, 芝田晋介, 奥野博庸, 大山大, 赤松和土, 岡野栄之, 中川種昭: ヒトES/iPS細胞由来LNGFR+THY-1+神経堤細胞は間葉系幹細胞の性質をもつ. 第15回日本再生医療学会総会, 大阪, 2016年3月18日.

## 論文

1. 塩原哲夫, 小松由莉江: 日常皮膚診療に役立つアレルギー一百科 汗と皮膚アレルギー. *Derma*. 229: 105-111, 2015.
2. 勝岡洋治, 山口脩, 塩原哲夫, 横山光彦: 過活動膀胱治療に経皮吸収型製剤を導入するために オキシブチニンテープ剤の臨床効果と安全性, 皮膚症状への対応と対策. *泌外* 28: 449-456, 2015.
3. 水川良子: 重症薬疹に対する治療のテクニック. *Visual Dermatol* 14: 442-444, 2015.
4. 狩野葉子: 診療の秘訣 疾患背景の聴取と確認. *Mod Physician* 35: 553, 2015.
5. Ise M, Funakoshi T<sup>1</sup>, Furuichi Y<sup>1</sup>, Honda H<sup>1</sup>, Fujio Y<sup>1</sup>, Amagai M<sup>1</sup>, Ohyama M<sup>1</sup> (Keio University): A case of angiosarcoma on the abdominal wall, an extremely rare variant, putatively shared the pathogenesis with Stewart-Traves syndrome. *J Dermatol* 42: 426-427, 2015.
6. 大山大: 横断(水平断)切片による脱毛症診断. *臨皮* 69(5): 75-78, 2015.
7. Kano Y, Tohyama M<sup>1</sup>, Aihara M<sup>2</sup>, Shiohara T, et al (Ehime Medical Univ, Yokohama City Univ): Sequelae in 145 patients with drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms: survey conducted by the Asian Research Committee on Severe Cutaneous Adverse Reactions (ASCAR). *J Dermatol* 42: 276-282, 2015.
8. Andoh-Noda T<sup>1,2</sup>, Akamatsu W<sup>2,3</sup>, Miyake K<sup>1</sup>, Matsumoto T<sup>2</sup>, Yamaguchi R<sup>2,4</sup>, Sanosaka T<sup>2</sup>, Okada Y<sup>2,5</sup>, Kobayashi T<sup>2</sup>, Ohyama M, Nakashima K<sup>6</sup>, Kurosawa H<sup>1</sup>, Kubota T<sup>1</sup>, Okano H<sup>2</sup> (University of Yamanashi, Keio University, Juntendo University, Sumitomo Dainipponn Pharma Co. Ltd, Aichi Medical University, Kyushu University): Differentiation of multipotent neural stem cells derived from Rett syndrome patients is biased toward the astrocytic lineage. *Molecular Brain* 27: 31, 2015.
9. 塩原哲夫: 新・皮膚科セミナーウム 難治性の蕁麻疹をいかに克服するか 蕁麻疹に対する内服ステロイドの適否. *日皮会誌* 125: 1221-1224, 2015.
10. 加藤峰幸: 薬剤性過敏症候群の全身性ステロイド治療の注意点. *Derma*. 232: 8-12, 2015.
11. 倉田麻衣子, 平原和久, 五味方樹, 狩野葉子, 塩原哲夫: 粘膜症状を強く認めたMycoplasma感染によるStevens-Johnson症候群の2例. *臨皮* 69: 777-781, 2015.
12. 塩原哲夫: 皮膚疾患 薬疹. 調剤と情報 21(7): 847-852, 2015.
13. 岡崎亜希: ペットから感染する皮膚疾患の対応 パスツレラ皮膚感染症を中心に. *Derma*. 232: 35-39, 2015.
14. 大山大: iPS細胞の毛包への誘導. *日臨* 73(増刊5): 193-198, 2015.
15. 堀江千穂, 塩原哲夫: 皮膚のサイトメガロウイルス感染症. *Visual Dermatol* 14(8): 960-962, 2015.
16. 塩原哲夫: 薬疹とウイルスupdate. *Derma*. 233: 29-34, 2015.
17. 塩原哲夫: SGLT2阻害薬と皮膚症状 皮膚疾患は増えるのか. *月刊糖尿病* 7(7): 43-48, 2015.
18. 塩原哲夫: 乾燥性皮膚疾患(ドライスキン)の最近の話題と治療 見逃されがちな汗の役割. *高崎医* 65: 101-106, 2015.
19. 塩原哲夫: 薬疹とウイルスupdate. *Derma*. 233: 29-34, 2015.
20. 大山大: 脱毛症の上手な生検方法を教えてください スキルアップのためのQ&A. *皮アレフロンテ* 13(2): 46, 2015.
21. Ohyama M: Pump up the hair follicle. *Br J Dermatol* 172: 1479-1480, 2015.
22. Sotozono C<sup>1</sup>, Ueta M<sup>1</sup>, Nakatani E<sup>2</sup>, Kitami A<sup>3</sup>, Watanabe H<sup>3</sup>, Sueki H<sup>3</sup>, Iijima M<sup>3</sup>, Aihara M<sup>4</sup>, Ikezawa Z<sup>4</sup>, Aihara Y<sup>4</sup>, Kano Y, Shiohara T, Tohyama M<sup>5</sup>, Shirakata Y<sup>5</sup>, Kaneda H<sup>2</sup>, Fukushima M<sup>2</sup>, Kinoshita S<sup>1</sup>, Hashimoto K<sup>5</sup> (Kyoto Prefectural University<sup>1</sup>, Translational Research Informatics Center<sup>3</sup>, Showa University<sup>4</sup>, Yokohama City University<sup>5</sup>, Ehime University): Japanese Research Committee on Severe Cutaneous Adverse Reaction. Predictive Factors Associated With Acute Ocular Involvement in Stevens-Johnson Syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis. *Am J Ophthalmol* 160: 228-237, 2015.
23. Aihara M<sup>1</sup>, Kano Y, Fujita H<sup>1</sup>, Shiohara T, et al (Yokohama City Univ): Efficacy of additional i.v. immunoglobulin to steroid therapy in Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis. *J Dermatol* 42: 768-777, 2015.
24. Shiohara T, Mizukawa Y, Aoyama Y<sup>1</sup> (Kawasaki Medical Univ): Monitoring the acute response in severe hypersensitivity reactions to drugs. *Curr Opin Allergy Clin Immunol* 15: 294-299, 2015.
25. 北垣英樹, 塩原哲夫: マウスのアトピー性皮膚炎モデル *Visual Dermatol* 14(9): 1032-1037, 2015.
26. Saito M<sup>1</sup>, Ohyama M, Amagai M<sup>1</sup> (Keio University): Exploring the biology of the nail: An intriguing but less-investigated skin appendage. *J Dermatol Sci* 79: 187-193, 2015.
27. Funakoshi T<sup>1</sup>, Sato T<sup>1</sup>, Hosokawa R<sup>1</sup>, Saito M<sup>1</sup>, Amagai M<sup>1</sup>, Ishiko A<sup>1</sup>, Ohyama M (Keio University): Application of electron microscopic analysis and fluorescent in situ hybridization technique for the successful diagnosis of extraskelatal Ewing's sarcoma. *J Dermatol* 42: 893-896, 2015.
28. Ohta E<sup>1</sup>, Nihira T<sup>1</sup>, Uchino A<sup>1</sup>, Okada Y<sup>2</sup>, Akamatsu W<sup>3</sup>, Takahashi K<sup>1</sup>, Hayakawa H<sup>3</sup>, Nagai M<sup>1</sup>, Ohyama M, Masafuchi R<sup>1</sup>, Ogino M<sup>1</sup>, Murayama S<sup>5</sup>, Takashima A<sup>6</sup>, Nishiyama K<sup>1</sup>, Mizuno Y<sup>3</sup>, Mochizuki H<sup>7</sup>, Obata F<sup>1</sup>, Okano H<sup>4</sup> (Kitasato University, Aichi Medical University, Juntendo University, Keio University, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, National Center for Geriatrics and Gerontology, Osaka University): I2020T mutant LRRK2 iPSC-derived neurons in the Sagami-hara family exhibit increased Tau phosphorylation through the AKT/GSK-3 $\beta$  signaling pathway. *Hum Mol Genet* 24: 4879-4900, 2015.
29. 倉田麻衣子, 平原和久, 五味方樹, 狩野葉子, 塩原哲夫: 粘膜症状を強く認めたMycoplasma感染によるStevens-Johnson症候群の2例. *臨皮* 69: 777-781, 2015.
30. 大山大: エリテマトーデスにみられる脱毛とその鑑別. *Derma*. 235: 27-32, 2015.
31. 狩野葉子: 皮膚 スティーブンス・ジョンソン症候群(SJS)を中心に. *ファルマシア* 51(9): 871-873, 2015.
32. 三友貴代, 堀江千穂, 倉田麻衣子, 福田知雄, 平田彩,

- 蘇原慧伶, 皿谷健, 石井晴之, 滝澤始: Intravascular large B-cell lymphomaの2例 皮膚所見と生検のポイント. 臨皮 69: 761-766, 2015.
33. 福山雅大, 早川順, 五味方樹, 大山学: MRSA感染を合併し特異な臨床像を呈した落葉状天疱瘡の1例. 臨皮125: 1930-1931, 2015.
34. Shiohara T, Ushigome Y, Kano Y, Takahashi R: Crucial role of viral reactivation in the development of severe drug eruptions: a comprehensive review. Clin Rev Allergy Immunol 49: 192-202, 2015.
35. 塩原哲夫: アレルギー疾患の治療薬 皮膚科領域 保湿剤. アレルギー免疫 22(11): 1640-1647, 2015.
36. Iwabuchi T<sup>1</sup>, Ideta T<sup>1</sup>, Ehama R<sup>1</sup>, Yamanishi H<sup>1</sup>, Iino M<sup>1</sup>, Nakazawa Y<sup>1</sup>, Kobayashi T<sup>2</sup>, Ohyama M, Kishimoto J<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Shiseido Research Center, <sup>2</sup>Teikyo University): Topical adenosine increases the proportion of thick hair on Caucasian men with androgenetic alopecia. J Dermatol 2015. (Epub ahead of print).
37. 伊勢美咲: 脱毛症診療におけるダーモスコピーの活用法 脱毛症の病態を見極めるためのテクニック. Visual Dermatol 14(11): 1280-1283, 2015.
38. 佐藤典子, 勝田倫江, 平原和久, 加藤峰幸, 塩原哲夫: マイコプラズマと溶連菌感染後にアナフィラクトイド紫斑と結節性紅斑を生じた1例. 皮膚臨床 57:1705-1709, 2015.
39. 大山学: 脱毛症診療は新しいステージへ 脱毛症診療最前線 Visual Dermatol 14: 1230-1235, 2015.
40. 塩原哲夫: 発汗障害と皮膚アレルギー. 臨免疫・アレルギー科 64: 506-511, 2015.
41. 加藤峰幸: 乳頭・乳輪のDarier病. Visual Dermatol 14(12): 1346-1347, 2015.
42. 牛込悠紀子: 乳輪周囲にみられた固定薬疹. Visual Dermatol 14(12): 1350-1351, 2015.
43. 佐藤典子: Kaposi水痘様発疹症. Visual Dermatol 14(12): 1356-1357, 2015.
44. 加藤峰幸: adenoma of the nipple. Visual Dermatol 14(12): 1366-1367, 2015.
45. 成田陽子: 乳頭部の軟性線維腫および皮膚線維腫. Visual Dermatol 14(12): 1368-1369, 2015.
46. 牛込悠紀子: 乳房Paget病. Visual Dermatol 14(12): 1384-1385, 2015.
47. Ise M, Tanese K<sup>1</sup>, Adachi T<sup>1</sup>, Du W<sup>1</sup>, Amagai M<sup>1</sup>, Ohyama M (<sup>1</sup>Keio University): Postherpetic Wolf's isotopic response: Possible contribution of resident memory T cells to the pathogenesis of lichenoid reaction. Br J Dermatol 173: 1331-1334, 2015.
48. 新田桐子, 牛込悠紀子, 早川順, 塩原哲夫: ソラフェニブ投与後急速に出現したケラトアカントーマ様有棘細胞癌と思われた1例. 臨皮 69: 929-933, 2015.
49. 加藤峰幸: アルブチン含有化粧水とハイドロキノン軟膏によるPigmented Contact Dermatitisの1例. 皮膚臨床 57: 2013-2017, 2015.
50. 川野貴代, 福田知雄, 牛込悠紀子, 狩野葉子: 皮膚サルコイドーシスが疑われたchromomycosisの症例. 皮膚診療 37: 1183-1186, 2015.
51. Horie C, Kano Y, Mitomo T, Shiohara T: Possible Involvement of Mycoplasma fermentans in the Development of Nonsexually Acquired Genital Ulceration (Lipschütz Ulcers) in 3 Young Female Patients. JAMA Dermatol 151: 1388-1389, 2015.
52. Shimojo D<sup>1,2</sup>, Onodera K<sup>1,3</sup>, Doi-Torii Y<sup>1</sup>, Ishihara Y<sup>2</sup>, Hattori C<sup>2</sup>, Miwa Y<sup>2</sup>, Tanaka S<sup>1,3</sup>, Okada R<sup>1,4</sup>, Ohyama M, Shoji M<sup>5</sup>, Nakanishi A<sup>5</sup>, Doyu M<sup>1</sup>, Okano H<sup>2</sup>, Okada Y<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>Aichi Medical University, <sup>2</sup>Keio University, <sup>3</sup>Nagoya University, <sup>4</sup>Jikei University, <sup>5</sup>Takeda Pharmaceutical Co. Ltd): Rapid, efficient, and simple motor neuron differentiation from human pluripotent stem cells. Mol Brain 8: 79, 2015.
53. 大山学: 脱毛症. 思春期学 33(4): 380-383, 2015.
54. 塩原哲夫: NSAIDsにより生ずる薬疹の対処法. リウマチ科 55: 47-52, 2016.
55. 狩野葉子: 急性汎発性発疹性膿疱症 (AGEP). 別冊日臨 35: 501-504, 2016.
56. Kurata M, Kano Y, Sato Y, Hirahara K, Shiohara T: Synergistic Effects of Mycoplasma pneumoniae Infection and Drug Reaction on the Development of Atypical Stevens-Johnson Syndrome in Adults. Acta Derm Venereol 96: 111-113, 2016.
57. 龍神操<sup>1</sup>, 佐藤美聡<sup>1</sup>, 大方詩子<sup>1</sup>, 藤尾裕美<sup>1</sup>, 鈴木洋介<sup>2</sup>, 横内麻里子<sup>2</sup>, 舩越建<sup>1</sup>, 齋藤昌孝<sup>1</sup>, 大山学 (<sup>1</sup>慶應義塾大学, <sup>2</sup>東京電力病院): MRI検査が診断に有用であった好酸球性筋膜炎. 皮膚診療 38: 33-36, 2016.
58. Kurata M, Horie C, Kano Y, Shiohara T: Pompholyx as a clinical manifestation suggesting increased serum IgG levels in a patient with drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms. Br J Dermatol 174:681-683, 2016.
59. Matsumoto T<sup>1</sup>, Fujimori K<sup>1</sup>, Andoh-Noda T<sup>1</sup>, Ando T<sup>1</sup>, Kuzumaki N<sup>1</sup>, Toyoshima M<sup>2</sup>, Tada H<sup>3</sup>, Imaizumi K<sup>1</sup>, Ishikawa M<sup>1</sup>, Yamaguchi R<sup>1</sup>, Isoda M<sup>1</sup>, Zhou Z<sup>1</sup>, Sato S<sup>4</sup>, Kobayashi T<sup>1</sup>, Ohtaka M<sup>5</sup>, Nishimura K<sup>5</sup>, Kurosawa H<sup>6</sup>, Yoshikawa T<sup>2</sup>, Takahashi T<sup>3</sup>, Nakanishi M<sup>5</sup>, Ohyama M, Hattori N<sup>4</sup>, Akamatsu W<sup>1</sup>, and Okano H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University <sup>2</sup>RIKEN Brain Science Institute <sup>3</sup>Yokohama City University <sup>4</sup>Juntendo University <sup>5</sup>National Institute of Advanced Industrial Science and Technology <sup>6</sup>University of Yamanashi): Functional neurons generated from T cell-derived iPSCs for neurological disease modeling. Stem Cell Reports 6: 422-435, 2016.

## 著書

- 塩原哲夫: 皮膚疾患一薬疹. 調剤と情報 21: 7 臨時増刊 極める副作用モニタリング. 飯島正文監修. 東京, じほう, 2015. p.61-67.
- 塩原哲夫: 皮膚症状の特徴, 予防と対応. 糖尿病治療のニューパラダイム別巻 SGLT2阻害薬の使用指針〜市販後の実臨床から適正使用を考える〜. 加来浩平編. 大阪, 医薬ジャーナル社, 2015. p.66-80.
- 塩原哲夫: Stevens-Johnson症候群. 小児疾患診療のための病態生理2 小児内科 47巻増刊号. 東京, 東京医学社, 2015. p.886-890.
- 塩原哲夫: 薬疹. 今日の診断指針第7版. 金澤一郎, 永井良三総編. 東京, 医学書院, 2015. p.1599-1602.
- 大山学, 中村元信: 脱毛症および関連病態-見えてきたメカニズムDerma Derm. 第114回日本皮膚科学会総会記念誌. 古川福美総監. 東京, メディカル・プロフェッショナル・リレーションズ, 2016. p.188-191.
- 大山学: 脱毛症-特に円形脱毛症. 今日の治療方針2016 私はこう治療している. 山口徹, 北原光夫監修. 福井次矢, 高木誠, 小室一成編. 東京, 医学書院, 2016. p.1279-1280.
- 塩原哲夫: 薬剤アレルギー. 重症薬疹. 薬剤性過敏症症候群. 別冊日本臨床 免疫症候群(第2版) II その他の

免疫疾患を含めて.大阪,日本臨床社,2016.p.497-500.

- 水川良子:角質水分量が接触皮膚炎の強さを決めている～「乾燥するとかぶれやすいは本当か」?～.What's new in 皮膚科学2016-2017.宮地良樹,鶴田大輔編.大阪,メディカルビュー社,2016.p.22-23.
- Ohyama M, Nagao K: Hair follicle. Component of skin immune cells. Immunology of the skin. Kabashima K ed. Tokyo, Springer, 2016. p.203-211.

#### 特許等知的財産関係, 報告書

- 塩原哲夫:厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)重症多形滲出性紅斑に関する調査研究.平成27年度分担研究報告書.
- 狩野葉子:科学研究費助成事業 重症薬疹の治療効果予測のためのバイオマーカーの確立.平成27年度研究成果報告書.

#### その他

- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について.西多摩Diabetes Expert Meeting,羽村,2015年4月1日.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について.Diabetes Expert Seminar,東京,2015年4月4日.
- 塩原哲夫:フォシーガの安全性について～市販直後調査安全性定期報告から～.Diabetes Workshop,東京,2015年4月5日.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について.SGLT2治療フォーラム,仙台,2015年4月8日.
- 大山学:脱毛症の病態理解とそれを活かした治療戦略.第16回遠州皮膚科医会,浜松,2015年4月8日.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について.糖尿病治療をより深く考える会,大阪,2015年4月16日.
- 大山学:脱毛症診断・研究のあたらしい知見と今後の課題.第6回TAMS(多摩地区アレルギー・免疫学セミナー),東京,2015年4月18日.
- 大山学:脱毛症診断・治療アップデート.皮膚アレルギーUpdate in 北海道,札幌,2015年5月16日.
- 石田正:痒疹様の外観を呈したacquired perforating dermatosis～後に水疱性類天疱瘡を発症した1例～.多摩皮膚科専門医会,武蔵野,2015年5月16日.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について.さいたま東部糖尿病講演会,越谷,2015年5月26日.
- Ohyama M: Current strategies for human hair follicle regeneration using stem or progenitor cells. World Congress of Dermatology 2015, Canada, June 9th, 2015.
- Ohyama M: Recent progress on hair bioengineering. World Congress of Dermatology 2015, Canada, June 10th, 2015.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について.多摩市・稲城市医師会学術講演会～使用経験から考察するSGLT2阻害薬の適正使用～,多摩,2015年6月17日.
- Ohyama M: Hair Disorders in children. Annual Scientific Meeting 2015, The Hong Kong Society of Dermatology and Venereology, Hong Kong, June 27th, 2015.
- Ohyama M: Management of hair loss disorders in Japan -introduction of our guideline and new insights-. The Hong Kong Society of Dermatology

and Venereology, Hong Kong, June 28th, 2015.

- 塩原哲夫:ラモトリギンによる皮膚障害のマネジメントー薬疹を「起こさない・見逃さない」ために.安全Live Seminar,グラクソ・スミスクライン社,東京,2015年6月30日.
- 大山学:ヒト幹細胞を用いた毛包再生へのアプローチ.東京大学皮膚科第9回皮膚科研究懇話会,東京,2015年7月3日.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について.1st SGLT2 research Seminar,岡山,2015年7月4日.
- 大山学:明日から活かす脱毛症診療のコツとヒント.東京都皮膚科医会学術講演会,東京,2015年7月29日.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について.静岡県病院薬剤師会,静岡,2015年8月22日.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害を防ぐために.Taishotoyama Medical Symposium糖尿病フォーラムin Osaka,大阪,2015年8月29日.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害の特徴と対応について.HARUKA-Study特別講演会,大阪,2015年9月3日.
- 三友貴代:陰部潰瘍の鑑別ー急性陰門潰瘍を中心にー.第16回皮膚合同カンファレンス,武蔵野,2015年9月19日.
- 新田桐子:帯状疱疹ー当科で経験した髄膜炎合併例の特徴ー.第16回皮膚合同カンファレンス,武蔵野,2015年9月19日.
- 小松由梨江:蜂窩織炎ー臨床所見による原因菌の推測ー.第16回皮膚合同カンファレンス,武蔵野,2015年9月19日.
- 早川順:ファブリー病とは?.第16回皮膚合同カンファレンス,武蔵野,2015年9月19日.
- 大山学:幹細胞を用いたヒト毛包再生における課題克服のためのストラテジー.第8回哲学の径カンファレンス,京都,2015年9月30日.
- 大山学:脱毛症の病態と再生医療の必要性について.未来へのバイオ技術勉強会 脱毛症の病態とバイオ技術の試み,東京,2015年11月6日.
- 大山学:羅針盤 脱毛症の今,そしてこれからー私的キャリアとのクロスオーバーー. Visual Dermatol 14: 1227, 2015.
- 大山学:これって病気? 抜け毛の仕組みとその異常.杏林大学公開講演会,東京,2015年11月12日.
- 塩原哲夫:高齢者の薬疹.第199回愛知県皮膚科医会,名古屋,2015年11月7日.
- 加藤峰幸:治療に難渋した尖圭コンジローマ.皮膚疾患フォーラム,調布,2016年1月22日.
- 塩原哲夫:皮膚症状の予防と対応. Diabetes Special Meeting, 東京, 2015年12月20日.
- 早川順:日常診療に潜在するファブリー病について.多摩皮膚遺伝性疾患セミナー,三鷹,2016年2月3日.
- 塩原哲夫:SGLT2阻害薬投与下にみられる皮膚障害を防ぐために.糖尿病治療セミナーin Akashi 2016, 明石, 2016年2月4日.
- 大山学:脱毛症診療アップデートー専門外来からのメッセージ.第16回蒲田皮膚科医会学術講演会,東京,2016年2月13日.
- 大山学:病態から考える脱毛症の治療ー診断のプロセスから治療法の決定までー.第21回茨城皮膚・アレルギー懇話会,つくば,2016年2月24日.

38. 大山学: 脱毛症の病態と治療-アトピー素因と円形脱毛症の関連も含めて-. 町田市皮膚科部会学術講演会, 東京, 2016年3月2日.
39. 塩原哲夫: 糖尿病患者における皮膚の乾燥と, それに基づく皮膚病変. 第15回東部糖尿病連携の会, 三島, 2016年3月10日.

### 形成外科学教室

#### 講演

1. 佐藤卓士, 江藤ひとみ, 小林よう, 中山玲玲, 井原玲, 尾崎峰, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 老人性色素斑のレーザー治療に伴う炎症後色素沈着の発症~QスイッチルビーレーザーとNd:YAGレーザーの比較. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 京都, 2015年4月8日.
2. 菅浩隆: Tracking the elusive fibrocytes: Identification and characterization of collagen producing hematopoietic lineage cells during murine wound healing. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 京都, 2015年4月9日.
3. 菅浩隆, 尾崎峰, 成田圭吾, 栗田昌和, 白石知大, 大浦紀彦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 下眼瞼全層欠損に対する再建材料の検討; 鼻中隔軟骨と耳介軟骨の比較. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 京都, 2015年4月9日.
4. 中務秀一, 大浦紀彦, 江藤ひとみ, 清家志円, 岩科裕己, 景山大輔, 大島直也, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重症下肢虚血に対する局所陰圧閉鎖療法の危険因子の検討. 第58回日本形成外科学会学術総会・学術集会, 京都, 2015年4月9日.
5. 尾崎峰, 栗田昌和, 井原玲, 岩科裕己, 加地展之, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 手指の静脈奇形に対する治療法の検討. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 京都, 2015年4月10日.
6. 江藤ひとみ, 小林よう, 佐藤卓士, 中山玲玲, 井原玲, 今村三希子, 芝崎由佳, 尾崎峰, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 扁平母斑のレーザー治療効果に影響する因子の検討. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 京都, 2015年4月8-10日.
7. 白石知大, 菅浩隆, 芝崎由佳, 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: インプラントでも動きのある乳房を再建する. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 京都, 2015年4月8-10日.
8. 河内司, 塩川一郎, 大西文夫, 山川知巳, 濱田茉莉子, 武内大, 三鍋俊春: 糖尿病未治療患者の足部から鼠径部に及ぶ下肢ガス壊疽を救肢した1例. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 京都, 2015年4月8-10日.
9. 芝崎由佳, 白石知大, 菅浩隆, 辻直子, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 乳癌進行度と再建の適応拡大について (stageIII以上の再建患者に対するアンケートから). 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 京都, 2015年4月8-10日.
10. 景山大輔, 菅浩隆, 尾崎峰, 成田圭吾, 栗田昌和, 白石知大, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 当科における10年間の頭部脂腺母斑症例の検討. 第58回日本形成外科学会総会・学術集会, 京都, 2015年4月8-10日.
11. 河内司: 透析患者の足の診方. 第4回八王子地区創傷ケアセミナー, 立川, 2015年5月14日.
12. Narita K, Takushima A, Shiraishi T, Kurita M, Suga H, Harii K: Free muscle transfer for treatment of facial palsy after ablative surgery of head and neck cancer. The Joint Meeting of 4th Congress of Asian Society of Head and Neck Oncology & 39th Annual Meeting of Japan Society for Head and Neck Cancer, Kobe, June 3rd-6th, 2015.
13. 河内司: 透析患者の足の診方. 第4回八王子地区創傷ケアセミナー, 立川, 2015年5月14日.
14. 大浦紀彦: テアの状態と管理の実態 Skin tears の治療. 第24回日本創傷オストミー・失禁・管理学会, 幕張, 2015年5月28日.
15. 大浦紀彦, 加賀谷優: 重症下肢虚血の評価法と治療適応. 創傷からの血流評価の重要性. 第43回日本血管外科学術総会, 横浜, 2015年6月4日.
16. 大浦紀彦: 創傷治癒の基礎から応用まで一傷はどのように治癒するのか-. 第43回日本血管外科学術総会, 横浜, 2015年6月4日.
17. 大浦紀彦: エキスパートが伝えたい足の診断と治療 透析患者の重症下肢虚血を救うために. 第60回日本透析医学会学術集会, 横浜, 2015年6月28日.
18. 大浦紀彦: AAA: Act Against Amputationの立ち上げと展望. 第7回日本下肢救済・病学会学術集会, 横浜, 2015年7月11日.
19. 関山琢也, 大浦紀彦, 井原玲, 若林圭介, 森重侑樹, 河内司, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重症下肢虚血に対するLDL-アフェレーシスの効果と適応についての検討. 第7回日本下肢救済・足病学会学術集会, 横浜, 2015年7月11日.
20. 丹波光子, 庭山由香, ニツ橋未来, 大浦紀彦: 当院足病変入院患者の栄養状態. 第7回日本下肢救済・足病学会学術集会, 横浜, 2015年7月11日.
21. 庭山由香, 丹波光子, ニツ橋未来, 山本洋子, 村石裕子, 大浦紀彦: 多摩地区における看護師による下肢創傷・褥瘡の連携-Tama Limb Salvage and Wound Care Nursing Networkの活動-. 第7回日本下肢救済・足病学会学術集会, 横浜, 2015年7月11日.
22. 中西延光, 北澤直美, 笠原仁, 塩田潤, 東川晋語, 多川斉, 大浦紀彦: 下肢大切断術後義足歩行における血液透析患者3症例の検討. 第7回日本下肢救済・足病学会学術集会, 横浜, 2015年7月11日.
23. 大浦紀彦: 下肢救済足病重症化予防の必要性 形成外科の立場から. 第7回日本下肢救済・足病学会学術集会, 横浜, 2015年7月12日.
24. 井原玲, 大浦紀彦, 若林圭介, 関山拓也, 森重侑樹, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 重傷下肢虚血に対する創縁牽引法と陰圧閉鎖療法の併用療法. 第7回日本下肢救済・足病学会学術集会, 横浜, 2015年7月11-12日.
25. 大浦紀彦, 河内司, 井原玲, 若林圭介, 関山琢也, 森重侑樹, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 形成外科手技をいかに創傷治癒に活用するか 胸骨骨髄炎に対する皮弁・筋皮弁の創傷治癒への活用. 第8回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 2015年7月24日.
26. 菅浩隆, 白石知大, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 乳房再建のためのエキスパンダー挿入術後に発症したtoxic shock syndromeの経験. 第8回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 2015年7月24日.
27. 清家志円, 大浦紀彦, 大峯啓志, 河内司, 井原玲, 若林圭介, 関山琢也, 森重侑樹, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 足部難治性潰瘍に対する血管柄付き遊離組織移植術40症例の検討. 第8回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 2015年7月24日.
28. 森重侑樹, 大浦紀彦, 井原玲, 若林圭介, 関山琢也, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 両側鎖骨半切術および再建術を施行した胸鎖関節部感染・胸骨骨髓炎の1例. 第8回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京, 2015年7月24日.

29. 大浦紀彦：糖尿病性足病変の治療戦略。第8回日本創傷外科学会総会・学術集会，東京，2015年7月24日。
30. 河内司，武内大，山川知巳，塩川一郎，大西文夫，三鍋俊春：先天性上下眼瞼癒着の1例。第8回日本創傷外科学会総会・学術集会，東京，2015年7月24-25日。
31. 大浦紀彦：ドレッシング材が切り開く未来 褥瘡予防への戦略的アプローチ 国際ガイドライン2014から。日本創傷・オストミー・失禁管理学会第11回ブラッシュアップセミナー，大阪，2015年7月25日。
32. 大浦紀彦：創傷からみた最適な血行再建術 - 現在の循環器内科と形成外科の連携の問題点。CVIT2015，福岡，2015年7月30日。
33. 大浦紀彦：CLIにEVTで挑むBeyond the Angiosome。CVIT2015，福岡，2015年7月31日。
34. 木村中，後藤孝浩，大浦紀彦，島田賢一，柳英之，寺師浩人，橋本一郎，田中克己，岡部勝行：大転子(STANDARDS-T)手術適応基準案。第17回日本褥瘡学会学術集会，仙台，2015年8月2日。
35. 大浦紀彦：栄養学における消化吸収と代謝と褥瘡の病態生理。第17回日本褥瘡学会学術集会。仙台，2015年8月2日。
36. 大浦紀彦：創傷被覆材の使い方。第17回日本褥瘡学会学術集会，仙台，2015年8月29日。
37. 菅浩隆，白石知大，多久嶋亮彦，波利井清紀：エキスパンダーを用いた乳房再建における持続吸引ドレーンの排液量および留置期間の予測因子の解析。第3回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会，札幌，2015年9月3日。
38. 白石知大，菅浩隆，辻直子，多久嶋亮彦，波利井清紀：NSM後のmalpositionの原因と対策。第3回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会総会，札幌，2015年9月3-4日。
39. 河内司：大学病院で診る静脈鬱滞性潰瘍。第2回TOWNミーティング，武蔵野，2015年9月10日。
40. Ohura N: Intraoperatively acquired pressure ulcers prevention during the spine surgery by using the dressings trial. WUWHS2016 Consensus meeting The role of dressings in pressure ulcer prevention, Belgium, September 14th, 2015.
41. Ohura N: Japanese status of pressure ulcer 2015. WUWHS2016 Consensus meeting The role of dressings in pressure ulcer prevention, Belgium, September 14th-15th, 2015.
42. Ozaki M, Narita K, Kita Y, Sato T, Eto H, Takushima A, Harii K: Secondary skull bone reconstruction using thickened artificial bone designed to reduce the dead space. 16<sup>th</sup> Congress of the International Society of Craniofacial Surgery. Urayasu, September 17th, 2015.
43. 大浦紀彦，河内司，中務秀一，関山琢也，大島直也，海野早織，多久嶋亮彦，波利井清紀：最新の重症下肢虚血のエビデンス - CLI臨床研究における形成外科医の役割 -。第24回日本形成外科学会基礎学術集会，盛岡，2015年10月9日。
44. 菅浩隆，栗田恵里奈，栗田昌和，江藤ひとみ，多久嶋亮彦，波利井清紀：末梢血から採取した単球・マクロファージ系細胞の効率的培養法。第24回日本形成外科学会基礎学術集会，盛岡，2015年10月9日。
45. 今村三希子，菅浩隆，栗田昌和，多久嶋亮彦，波利井清紀，松林薫美，大河内仁志：周期的伸展刺激による癒痕形成動物モデルの考案。第24回日本形成外科学会基礎学術集会，盛岡，2015年10月8-9日。
46. 清家志円，栗田昌和，菅浩隆，白石知大，大島直也，多久嶋亮彦，波利井清紀：移植筋肉に対する神経二重支配に関する基礎的研究：ラットモデルの開発。第24回日本形成外科学会基礎学術集会，盛岡，2015年10月8-9日。
47. 大浦紀彦：Act Against Amputation -新しいムーブメントとその展望-。第56回日本脈管学会総会，東京，2015年10月30日。
48. 倉地彩奈，尾崎峰，井原玲，多久嶋亮彦，波利井清紀：超低出生体重児に生じた開瞼障害を伴う右上眼瞼乳児血管腫の治療経験。第33回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，宝塚，2015年11月12日。
49. 中務秀一，尾崎峰，井原玲，白石知大，多久嶋亮彦，波利井清紀：耳介部動静脈奇形切除後の外耳道形成術の検討。第33回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，宝塚，2015年11月12日。
50. 大峯啓志，菅浩隆，尾崎峰，多久嶋亮彦，波利井清紀：頬骨骨折症例の統計的検討：社会状況に応じた変化に着目して。第33回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，宝塚，2015年11月12-13日。
51. 尾崎峰，佐藤卓士，江藤ひとみ，多久嶋亮彦，波利井清紀：顎強直症に対する偽関節形成を活用した新しい治療法。第33回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，宝塚，2015年11月13日。
52. 清家志円，大浦紀彦，大島直也，多久嶋亮彦，波利井清紀：血管柄付き遊離皮弁移植術を行った重症下肢虚血の不生着3肢および生着後切断2肢についての検討。第42回日本マイクロサージャリー学会学術集会，さいたま，2015年11月26日。
53. 大浦紀彦，清家志円：足部創傷に対する血管柄付き遊離組織移植術を使用した治療戦略 NPWTをどう組み合わせるか。第42回日本マイクロサージャリー学会学術集会，さいたま，2015年11月26日。
54. 成田圭吾，多久嶋亮彦，清家志円，白石知大，菅浩隆，波利井清紀：肋間神経移植による顔面神経再建の臨床成績 - vascularized と non-vascularized の比較。第42回日本マイクロサージャリー学会学術集会，さいたま，2015年11月26-27日。
55. 岩科裕己，尾崎峰，井原玲，栗田昌和，白石知大，成田圭吾，多久嶋亮彦，波利井清紀：遊離皮弁を用いて再建を行った動静脈奇形切除症例の再発に関する検討。第42回日本マイクロサージャリー学会学術集会，さいたま，2015年11月26-27日。
56. Ohura N: Prevention of Chronic Wounds at hospital and community in Japan. The Japanese perspective of Pressure Ulcer and Critical Limb Ischemia. Sweden Life science summit 2015, Tokyo, November 27th, 2015.
57. 日下邊直樹，成田圭吾，大峯啓志，清家志円，多久嶋亮彦，波利井清紀：頸部，上腕に生じた神経鞘腫の1例。関東形成外科学会第283回東京地方会，東京，2015年12月5日。
58. 大浦武彦，秋田定伯，東信良，安部正敏，安藤亮一，市岡滋，上村哲司，大浦紀彦，菊地勘，小林修三，田中純子，田中康仁，谷口雅彦，中村正人：糖尿病及び慢性腎不全による合併症 足潰瘍・壊疽等の重症下肢虚血に関する実態調査。厚生労働科学研究 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究 平成27年度 研究成果発表会，東京，2016年1月29日。
59. 大浦紀彦：下肢軟部組織感染症・骨髄炎に対する治療戦略。第14回日本フットケア学会年次学術集会，神戸，2016年2月6日。
60. 塚田美裕，片元遥香，種山小栗，千野貴子，丹波光子，小嶋幸一郎，奥山秀平，保坂利男，大浦紀彦：心臓血管外科手術後患者の栄養管理の検討。第31回日本静脈腸胃栄養学会学術集会，福岡，2016年2月18日。

61. 大浦紀彦: 軟部組織感染症に対する創傷治療戦略. 第31回日本環境感染学会総会, 京都, 2016年2月20日.
62. 菅浩隆: 脂肪由来幹細胞の基礎知識と細胞治療における作用機序. 第4回杏林大学再生医療フォーラム, 東京, 2015年2月23日.
63. 大浦紀彦: 糖尿病性足病変の治療. 区中央部糖尿病医療連携検討会研修会, 東京, 2016年2月27日.

## 論 文

1. 多久嶋亮彦, 多久嶋美紀: ボツリヌストキシン療法→[しわとり]. 形成外科 58(増刊): S93-S99, 2015.
2. 多久嶋亮彦: 顔面神経麻痺に対する形成外科の治療の現状と問題点. 医学のあゆみ 255(4): 277-280, 2015.
3. Shiota J, Ohura N, Higashikawa S, Yamato T, Kasahara H, Itatani K, Tagawa H: Presepsin as a predictor of critical colonization in CLI hemodialysis patients. *Wound Repair Regen.* 24(1): 189-194, 2016.
4. Iida O, Nakamura M, Yamauchi Y, Fukunaga M, Yokoi Y, Yokoi H, Soga Y, Zen K, Suematsu N, Inoue N, Suzuki K, Hirano K, Shintani Y, Miyashita Y, Urasawa K, Kitano I, Tsuchiya T, Kawamoto K, Yamaoka T, Uesugi M, Shinke T, Oba Y, Ohura N, Uematsu M, Takahara M, Hamasaki T, Nanto S; OLIVE Investigators: 3-Year Outcomes of the OLIVE Registry, a Prospective Multicenter Study of Patients With Critical Limb Ischemia: A Prospective, Multi-Center, Three-Year Follow-Up Study on Endovascular Treatment for Infra-Inguinal Vessel in Patients With Critical Limb Ischemia. *JACC Cardiovasc Interv.* 8(11): 1493-1502, 2015.
5. Okamoto S, Iida O, Nakamura M, Yamauchi Y, Fukunaga M, Yokoi Y, Soga Y, Zen K, Hirano K, Suematsu N, Suzuki K, Shintani Y, Miyashita Y, Urasawa K, Kitano I, Yamaoka T, Ohura N, Hamasaki T, Uematsu M, Nanto S, ; OLIVE Investigators: Postprocedural Skin Perfusion Pressure Correlates With Clinical Outcomes 1 Year After Endovascular Therapy for Patients With Critical Limb Ischemia. *Angiology.* 66(9):862-866, 2015.
6. Kagaya Y, Ohura N, Kurita M, Takushima A, Harii K: Examination of tissue oxygen saturation (StO2) changes associated with vascular pedicle occlusion in a rat Island flap model using near-Infrared spectroscopy. *Microsurgery.* 35(5):393-398, 2015.
7. 中西延光<sup>1</sup>, 塩田潤<sup>2</sup>, 多川齊<sup>1</sup>, 大平吉夫<sup>3</sup>, 大浦紀彦<sup>1</sup>(吉祥寺あさひ病院・リハビリテーション部, <sup>2</sup>綱島腎クリニック, <sup>3</sup>日本フットケアサービス株式会社): 義足歩行が得られた大腿切断後の透析患者の一例. 善仁会研究年報 36: 81-83, 2015.
8. 塚田美裕<sup>1</sup>, 種山小栗<sup>2</sup>, 塚田芳枝<sup>2</sup>, 千野貴子, 丹波光子<sup>1</sup>, 小嶋幸一郎<sup>3</sup>, 奥山秀平<sup>4</sup>, 保坂利男<sup>4</sup>, 大浦紀彦<sup>1</sup>(杏林大学医学部附属病院・NST, <sup>2</sup>杏林大学医学部・栄養部, <sup>3</sup>杏林大学医学部・消化器外科学教室, <sup>4</sup>杏林大学医学部・第三内科学教室): あなたならどう考える? NSTの現場から 肺癌術後, 人工呼吸管理を要した患者に対して栄養介入により経腸栄養から経口摂取へ移行できた一例. 臨床栄養 127(1): 123-127, 2015.
9. 大浦武彦<sup>1</sup>, 大浦紀彦, 松井傑<sup>2</sup>, 内山英祐<sup>3</sup>(<sup>1</sup>褥瘡・創傷治療研究所, <sup>2</sup>桑園中央病院, <sup>3</sup>時計台記念病院・時計台クリニック・形成外科・創傷治療センター): 操作が簡単なレーザースペックルフローグラフィ(LSFG, 下肢血流測定器)の使用経験. 日本下肢救済・足病学会誌 7(3):173-184, 2015.
10. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術教育委員会, 紺家千津子<sup>1</sup>, 溝上祐子<sup>2</sup>, 上出良一<sup>3</sup>, 大浦紀彦, 徳永恵子<sup>4</sup>, 真田弘美<sup>5</sup>, 仲上豪二朗<sup>5</sup>, 安部正敏<sup>6</sup>, 大桑麻由美<sup>7</sup>, 野口博史<sup>5</sup>, 飯坂真司<sup>8</sup>, 加瀬昌子<sup>9</sup>, 小柳礼恵<sup>10</sup>, 祖父江正代<sup>11</sup>, 高橋麻由美, 丹波光子<sup>12</sup>, 折折綾香<sup>13</sup>, 内藤 亜由美<sup>14</sup>, 中村徳子, 間宮直子<sup>15</sup>, 宮永友美<sup>16</sup>, 山田清美<sup>1</sup>(金沢医科大学・看護学部, <sup>2</sup>日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程長, <sup>3</sup>ひふのクリニック・院長, <sup>4</sup>宮城大学・看護学部教授, <sup>5</sup>東京大学・医学部健康総合科学科, <sup>6</sup>豊水総合メディカルクリニック・内科, <sup>7</sup>金沢大学・医薬保健学域保健学類, <sup>8</sup>淑徳大学・看護栄養学部, <sup>9</sup>国保旭中央病院・看護師, <sup>10</sup>東京大学・看護部, <sup>11</sup>江南厚生病院・がん看護専門看護師, <sup>12</sup>杏林大学・看護部, <sup>13</sup>金沢大学医薬保健研究域保健学科系・看護科, <sup>14</sup>藤沢市民病院・WOC相談室看護師, <sup>15</sup>大阪府済生会吹田病院・看護部, <sup>16</sup>福井大学医学部附属病院・看護部): ET/WOCの所属施設におけるスキン・ケアの実態調査. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌 19(3): 351-363, 2015.
11. 塩川一郎<sup>1</sup>, 大浦紀彦, 三鍋俊春<sup>1</sup>, 市岡滋<sup>2</sup>, 波利井清紀(<sup>1</sup>埼玉医科大学総合医療センター 形成外科, <sup>2</sup>埼玉医科大学病院・形成外科): マウス背部皮弁チャンパーモデルの開発と皮弁内血管再構築の観察. 日本形成外科学会誌 35(4):191-196, 2015.
12. 大浦紀彦, 清家志円, 井原玲, 森重侑樹, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 糖尿病性足病変に対する創傷治療と靴装具の重要性. 靴の医学 28(2):186-191, 2015.
13. Suga H, Shiraishi T, Takushima A, Harii K: Toxic shock syndrome caused by methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) after expander-based breast reconstruction. *Eplasty.* 16: 7-12, 2016.
14. Suga H, Ozaki M, Narita K, Kurita M, Shiraishi T, Ohura N, Takushima A, Harii K: Comparison of nasal septum and ear cartilage as a graft for lower eyelid reconstruction. *J Craniofac Surg.* 27: 305-307, 2016.
15. 成田圭吾, 多久嶋亮彦: 陳旧性顔面神経麻痺に対する笑いの再建 一期的遊離広背筋移植術. *JOHNS* 31:743-746, 2015.
16. 芝崎由佳, 尾崎峰, 成田圭吾, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 一過性顔面神経側頭枝麻痺に伴う眉毛下垂に対する簡便な眉毛挙上術の一方法. 形成外科 59: 322-327, 2016.
17. 若林桂介, 尾崎峰, 江藤ひとみ, 成田圭吾, 井原玲, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 組織拡張器を用いたリストカット後癒痕の治療. 形成外科 59:76-82, 2016.
18. 多田朋子, 白石知大, 尾崎峰, 岡崎睦, 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 第I・II趾がユニットとして重複したと考えられる, VII趾を有する足根骨型多趾症の1例. 形成外科 58: 1035-1041, 2015.
19. 北幸紘<sup>1</sup>, 栗田昌和, 成田圭吾, 白石知大, 多久嶋亮彦, 波利井清紀(<sup>1</sup>東京西徳洲会病院・形成外科): メビウス症候群による両側顔面神経麻痺に対して神経血管柄付き遊離薄筋移植術を行った成人例の1例. 形成外科 59:304-309, 2016.
20. 佐藤卓士, 江藤ひとみ, 小林よう, 中山玲玲, 井原玲, 尾崎峰, 多久嶋亮彦: 老人性色素斑に対するレーザー治療に伴う炎症後色素沈着の発症についての後ろ向き研究: Qスイッチレーザーと半波長QスイッチNd:YAGレーザーの比較. 日本レーザー医学会誌. (印刷中).
21. 河内司, 三鍋俊春<sup>1</sup>(<sup>1</sup>埼玉医科大学総合医療センター・形成外科): 下腿脂肪吸引術後に激痛と皮膚潰瘍を生じた1例. 形成外科 58:1111-1114, 2015.
22. Sakisaka M, Kurita M, Okazaki M<sup>1</sup>, Takushima A, Harii K(<sup>1</sup>Tokyo Medical and Dental University): Drug-Induced Atrial Fibrillation Complicates the Results of Flap Surgery in a Rat Model. *Ann Plast Surg* 76(2): 244-248, 2016.



## 著書

1. 波利井清紀:マイクロサージャリーの基本手技. 東京, 克誠堂, 2015.
2. 波利井清紀:形成外科治療手技全書Ⅲ創傷外科, 東京, 克誠堂, 2015.
3. 多久嶋亮彦:第1・第2総弓症候群における口唇偏位の治療方針. 日本医事新報No. 4765. 東京, 医事新報社, 2015. p. 55-56.
4. 多久嶋亮彦:インプラントを用いた放射線治療後の乳房再建. 日本医事新報No. 4767. 東京, 医事新報社, 2015. p. 62.
5. 河内司:NPWT実施のポイントー合併症と対応ー. 看護技術. 東京, メヂカルフレンド社, 2015. p. 43-46.
6. 大浦紀彦, 河内司, 井原玲, 関山琢也:陰圧閉鎖療法と感染管理. WOC Nursing. 館正弘編集. 東京, 医学出版, 2015. p. 75-79.
7. 大浦紀彦, 井原玲:下肢動脈 形成外科の視点から. EVTの基本とコツ. 横井宏佳編集, 東京, 羊土社, 2015. p. 238-240.
8. 井原玲:糖尿病性足壊疽に対する陰圧閉鎖療法. 症例でみるよくわかる創傷の陰圧閉鎖療法. 水原章浩, 大浦紀彦編集. 東京, 医学と看護社, 2015. p. 16-28.
9. 井原玲:NPWTシステムの構造と装着方法. 看護技術. 柴田一郎編集. 東京, メヂカルフレンド社, 2015. p. 35-42.

## その他

1. 大浦紀彦:市民公開講座 こんなに怖い糖尿病性足病変一生じぶんの足で歩こう 地の拠点. 杏林大学・三鷹ネットワーク大学共催, 三鷹, 2015年5月16日.
2. 大浦紀彦:研究会主催 TOWN meeting. 2015年9月10日. 2016年2月25日.
3. 大浦紀彦:研究会主催 Lswan meeting. 2015年7月18日. 2015年10月3日. 2016年3月5日.
4. 大浦紀彦:研究会主催 東京CLI検討会. 新宿, 2015年6月18日. 2015年11月5日.
5. 尾崎峰:第12回日本血管腫血管奇形学会学術集会主催, 中野, 2015年7月17-18日.
6. 尾崎峰:第8回血管腫・血管奇形講習会主催, 東京, 2015年7月17日.
7. 成田圭吾:日本マイクロサージャリー学会技術講習会講師, さいたま, 2015年11月28日.
8. 成田圭吾:関東形成外科学会第283回東京地方会主催, 東京, 2015年12月5日.

## 泌尿器科学教室

## 講演

1. 北村盾二, 鮫島未央, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄:エンザルタミドの当科における初期治療の検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月19日.
2. 原秀彦, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄:転移性腎細胞癌におけるfirst line治療の検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月19日.
3. 二宮直紀, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄:去勢抵抗性前立腺癌に対する化学療法後のエンザルタミド治療におけるCTC(Circulating Tumor Cell)の意義. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月19日.

4. 森川泰如, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄:テガレリスクの治療導入に対する臨床的検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月19日.
5. 野間康央, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 堀江重郎:p2PSAおよびphiの前立腺癌検出に関する当施設での検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月21日.
6. 桶川隆嗣, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄:去勢抵抗性前立腺癌におけるドセタキセル療法におけるCTC(circulating tumor cell)の意義. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月21日.
7. 舛田一樹, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄:骨転移性前立腺癌患者におけるゾレドロン酸とデノスマブの臨床的比較検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月21日.
8. 板谷直, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄:体外衝撃波碎石術後の $\alpha$ 1遮断薬による排石効果の比較検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月21日.
9. 多武保光宏, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄:結石性腎盂腎炎におけるプロカルシトニン測定の有用性. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月21日.
10. 山口剛, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄:腹腔鏡下腎部分切除後の腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月21日.
11. 金城真実, 嘉村康邦, 関口由紀, 奴田原紀久雄:女性過活動膀胱患者における $\beta$ 3刺激薬と抗ムスカリン薬の服薬動向に関する検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月21日.
12. Kinjo M, Fujisaki A, Yoshimura Y, Okegawa T, Nutahara K: Does sexual inactivity affect mesh related complication in trans-vaginal mesh surgery?. 40th International Urogynecological association annual meeting, France, June 9th-13th, 2015.
13. 鮫島未央:後腹膜に発生したhemangiopericytomaの1例. 第129回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2015年6月12日.
14. 鮫島未央, 長嶺陽平, 松本龍貴, 北村盾二, 榎本香織, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 金城真実, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄, 寺戸雄一, 平野和彦, 望月眞:前立腺平滑筋肉腫の1例. 第618回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2015年6月13日.
15. 奴田原紀久雄:尿管鏡による上部尿路結石の治療. 第28回うつくしま泌尿器科研究会・第7回福島県泌尿器手術手技研究会, 郡山, 2015年6月13日.
16. 桶川隆嗣:転移性腎細胞癌の最適な薬物治療. 第4回東京RCC分子標的薬治療セミナー, 東京, 2015年7月8日.
17. 原秀彦, 奴田原紀久雄:デュタステリド投与中におけるPSAマネージメントと新規前立腺がんマーカーについて. 第9回多摩前立腺がん医療連携研究会, 武蔵野, 2015年7月17日.
18. 原秀彦, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄:分子標的薬使用における腎機能の

- 推移についての検討. 第46回腎癌研究会, 東京, 2015年7月20日.
19. 金城真実, 榎本香織, 藤崎章子, 嘉村康邦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: TVM手術における性生活と合併症の検討. 第17回日本女性骨盤底医学会, 東京, 2015年8月1日.
  20. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌治療における個別化治療の展望. CRPC Forum in Shimotsuke, 栃木, 2015年8月26日.
  21. 奴田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 多武保光宏, 原秀彦, 山口剛, 二宮直紀, 舛田一樹, 要伸也, 宮崎功, 似鳥俊明, 小林邦典: 常染色体優性多発性嚢胞腎の尿希釈能について. 第23回嚢胞性腎疾患研究会, 川崎, 2015年9月5日.
  22. 山口剛, 東原英二, 二宮直紀, 舛田一樹, 鮫島未央, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: ADPKD患者においてMDRDと日本人用の計算式が他に比べてよりよく腎機能を反映する. 第23回嚢胞性腎疾患研究会, 川崎, 2015年9月5日.
  23. 多武保光宏: 前立腺肥大症の診断と治療. 第2回新川BPHミーティング, 東京, 2015年9月9日.
  24. 金城真実, 榎本香織, 嘉村康邦, 関口由紀, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 女性過活動膀胱患者における $\beta$ 3刺激薬と抗ムスカリン薬の服用動向に関する検討(第二報). 第22回日本排尿機能学会, 札幌, 2015年9月9日.
  25. 舛田一樹, 長嶺陽平, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当科における前立腺肥大症に対するHoLEPの手術成績及び排尿状態の変化についての検討. 第22回日本排尿機能学会, 札幌, 2015年9月11日.
  26. 金城真実, 榎本香織, 藤崎章子, 嘉村康邦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: TVM手術における性機能と合併症の検討. 日本性機能学会第26回学術総会, 福岡, 2015年9月19-20日.
  27. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌治療における個別化治療の展望. Prostate Cancer Seminar, 京都, 2015年9月25日.
  28. 舛田一樹, 長嶺陽平, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 術前推定前立腺容積80ml以上の前立腺肥大症に対するHoLEPの手術成績~前立腺容積80ml未満との比較検討~. 第80回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2015年9月26日.
  29. 山口剛, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 東原英二, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 泌尿器腫瘍での化学療法におけるベグフィルグラスチム投与の検討. 第80回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2015年9月26日.
  30. 森川泰如, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 分子標的薬に長期生存が得られた転移性腎癌症例の検討. 第80回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2015年9月26日.
  31. 鮫島未央, 松本龍貴, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎細胞癌に対する分子標的薬投与における腎機能障害の検討. 第80回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2015年9月26日.
  32. 北村盾二, 長嶺陽平, 松本龍貴, 鮫島未央, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: アジュバント化学療法を行った腎盂尿管癌における予後予測因子. 第80回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2015年9月27日.
  33. Kinjo M, Enomoto K, Yoshimura Y, Sekiguchi Y, Okegawa T, Nutahara K: Comparison of Long Term Compliance with Mirabegron and Solifenacin in Treatment-naive Female Overactive Bladder Patients. International continence society 2015, Canada, October 7th, 2015.
  34. 奴田原紀久雄: かかりつけ医のための尿路結石. 第5回東京セントラルUROカンファレンス, 東京, 2015年10月14日.
  35. 桶川隆嗣: CTCの遺伝子解析による個別化治療. Prostate Cancer Seminar第22回東京前立腺癌フォーラム, 東京, 2015年10月17日.
  36. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌治療における個別化治療の展望. 大分県ザイティガ錠発売1周年記念講演会, 大分, 2015年10月22日.
  37. 桶川隆嗣, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌治療における末梢循環癌細胞クラスターと遺伝子解析の意義. 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015年10月29日.
  38. 桶川隆嗣: 血中循環癌細胞の遺伝子解析による個別化治療の展望. 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015年10月30日.
  39. 奴田原紀久雄: 低侵襲という観点からの経皮的, 経尿道的上部尿路結石治療. 第22回滋賀内視鏡手術研究会, 草津, 2015年11月7日.
  40. 森川泰如, 鮫島未央, 松本龍貴, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 榎本香織, 原秀彦, 多武保光宏, 金城真実, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: BCG膀胱内注入療法 of 杏林大学泌尿器科における臨床的検討. 第8回BCG注入療法研究会, 東京, 2015年11月13日.
  41. 舛田一樹, 北村盾二, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当科における前立腺肥大症に対するHoLEP後の排尿状態および失禁の経過の検討. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月19日.
  42. 多武保光宏, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: TULの周術期管理. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月19日.
  43. 多武保光宏, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 尿路結石スコアリングシステムによるPNL合併症(Clavien分類)の評価. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月20日.
  44. 多武保光宏, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 珊瑚状結石における感染性合併症. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月20日.
  45. 山口剛, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 東原英二, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下腎部分切除後の腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月20日.
  46. 原秀彦, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における腹腔鏡下腎盂形成術の治療成績. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月20日.
  47. 板谷直, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 尿路上皮癌に対する開腹および鏡視下腎尿管全摘術の臨床的検討. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月20日.
  48. 森川泰如, 原秀彦, 鮫島未央, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 褐色細胞腫に対する腹腔鏡下副腎摘除術の検討. 第29回

日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月20日.

49. 桶川隆嗣, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術と腹腔鏡下腹腔鏡下前立腺全摘術の比較検討—尿禁性の工夫について—. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月21日.
50. 北村盾二, 鮫島未央, 舛田一樹, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下前立腺全摘術とロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術における尿失禁の比較. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月21日.
51. 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当科における珊瑚状結石の治療成績. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月21日.
52. 宮川昌悟, 多武保光宏, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 板谷直, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当科における膀胱結石の臨床的検討. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月21日.
53. 金城真実, 嘉村康邦, 榎本香織, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腹圧性尿失禁への対策—理想と現実—. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月21日.
54. 奴田原紀久雄: かかりつけ医のための尿路結石. 第8回荒川リバーサイドカンファレンス, 東京, 2015年11月26日.
55. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌治療における個別化治療の展望. 静岡県東部CRPC講演会, 沼津, 2015年11月27日.
56. 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎血管筋脂肪腫の1例. 第619回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2015年12月3日.
57. 山口剛, 北村盾二, 板谷直, 原秀彦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 当科における腹腔鏡下前立腺全摘術とロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術の治療成績. 第28回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 2015年12月11日.
58. 桶川隆嗣, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 二宮直紀, 中村雄, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌治療における末梢循環癌細胞クラスターとandrogen receptor splice variant 7の意義. 第31回前立腺シンポジウム, 東京, 2015年12月13日.
59. 多武保光宏: fTULによる尿路結石治療. 第11回奈良県手術手技研究会, 奈良, 2016年1月23日.
60. 長嶺陽平, 千葉知宏, 寺戸雄一, 菅間博, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 榎本香織, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 金城真実, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: リンパ脈管筋腫症を合併した類上皮性腎血管筋脂肪腫の一例. 第131回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2016年1月29日.
61. 二宮直紀, 野田治久, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 副腎myelolipomaを合併する奇形腫の一例. 第131回多摩泌尿器科医会, 武蔵野, 2016年1月29日.
62. 原秀彦, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 長期生存可能であったスニチニブ症例. 第11回Tokyo Metropolitan Kidney Cancer Meeting, 東京, 2016年2月12日.
63. 金城真実, 榎本香織, 嘉村康邦, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: TVM手術における腹圧性尿失禁とQOLに関する臨床的検討. 第10回日本骨盤臓器脱手術学会, 東京, 2016年2月13日.
64. 長嶺陽平, 松本龍貴, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹,

森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄, 千葉知宏, 寺戸雄一, 菅間博: リンパ脈管筋腫症を合併した類上皮性腎血管筋脂肪腫の1例. 第620回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2016年2月18日.

65. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌におけるCTCとARV-7の意義. ジェブタナ発売1周年記念CRPC講演会, 東京, 2016年2月19日.
66. 桶川隆嗣: 前立腺癌治療の最前線. 群馬診連携講演会, 高崎, 2016年2月27日.
67. 原秀彦, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 単孔式腹腔鏡下尿膜管摘除術の経験. 第5回泌尿器単孔式・Reduced port腹腔鏡手術ワークショップ, 東京, 2016年3月26日.

## 論文

1. Higashihara E<sup>1</sup>, Nutahara K, Okegawa T, Tanbo M, Hara H, Miyazaki I<sup>2</sup>, Kobayashi K<sup>3</sup>, Nitatori T<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Dept. of ADPKD Research, Kyorin Univ., <sup>2</sup>Dept. of Radiology, Kyorin Univ., <sup>3</sup>Faculty of Health Sciences, Kyorin Univ.): Kidney volume estimations with ellipsoid equations by magnetic resonance imaging in autosomal dominant polycystic kidney disease. *Nephron* 129(4):253-62, 2015.
2. Higashihara E<sup>1</sup>, Nutahara K, Okegawa T, Tanbo M, Mori H<sup>2</sup>, Miyazaki I<sup>3</sup>, Nitatori T<sup>4</sup>, Kobayashi K<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Dept. of ADPKD Research, Kyorin Univ., <sup>2</sup>Dept. of Gastroenterology, Kyorin Univ., <sup>3</sup>Dept. of Radiology, Kyorin Univ., <sup>4</sup>Faculty of Health Sciences, Kyorin Univ.): Safety study of somatostatin analogue octreotide for autosomal dominant polycystic kidney disease in Japan. *Clin Exp Nephrol* 19(4):746-52, 2015.
3. 桶川隆嗣: 去勢抵抗性前立腺癌治療における末梢循環癌細胞検出と遺伝子解析の意義. *Prostate J* 2(2): 225-240, 2015.
4. 桶川隆嗣, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 奴田原紀久雄: ハイリスク前立腺癌における末梢循環癌細胞検出と遺伝子解析の意義. *泌外* 28(8): 1415-1420, 2015.
5. 多武保光宏: かかりつけ医のための尿路結石—尿路結石の画像診断—. *成人病と生活習慣病* 45:973-977, 2015.
6. 多武保光宏: 検査から予防まで—尿路結石症治療の最前線—尿路結石症にはどんな検査をしますか?—. *泌ケア* 20: 66-71, 2015.
7. 林建二郎, 宍戸俊英, 菅田明子, 中村雄, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: HoLEP (ホルミウムレーザー前立腺核出術) は高齢者にとって安全・有効な治療法か?—. *Jpn J Endourol* 28: 137-141, 2015.
8. 宍戸俊英<sup>1</sup>, 林建二郎<sup>1</sup>, 相澤卓<sup>1</sup>, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄, 尾山博則<sup>2</sup> (<sup>1</sup>東京医科大学八王子医療センター, <sup>2</sup>おやまクリニック): 前立腺肥大症の内服療法と外科的治療の注意点. *泌外* 28(臨増):731-733, 2015.
9. 山口秋人<sup>1</sup>, 東義人<sup>2</sup>, 麦谷莊一<sup>3</sup>, 宮澤克人<sup>4</sup>, 荒川孝<sup>5</sup>, 奴田原紀久雄 (<sup>1</sup>原三信病院, <sup>2</sup>武田病院グループ, <sup>3</sup>すずかけセントラル病院, <sup>4</sup>金沢医科大学, <sup>5</sup>国際福祉大学三田病院): 我々が提案する新たな尿路結石治療の評価基準. *Jpn J Endourol* 28(1): 137-141, 2015.
10. 野間康央, 多武保光宏, 北村盾二, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 結石分析にて診断されたアタザナビル尿路結石の1例. *泌紀* 62: 29-32, 2016.
11. 谷口珠実<sup>1</sup>, 奴田原紀久雄 (<sup>1</sup>山梨大学・生活支援看護学): 平成27年度 三鷹・武蔵野・小金井排尿障害勉強会開催

報告. 多摩泌尿器科医会雑誌 19: 37-47, 2015.

**著書**

1. 原秀彦: よく見る腎・泌尿器疾患の知識(腎がん). 見てわかる腎・泌尿器ケア一看護手順と疾患ガイド. 道又元裕監修, 奴田原紀久雄, 山田明, 坂口真紀子, 則竹敬子編. 東京, 照林社, 2015. p. 114-116.
2. 森川泰如: よく見る腎・泌尿器疾患の知識(膀胱がん, 腎盂尿管がん). 見てわかる腎・泌尿器ケア一看護手順と疾患ガイド. 道又元裕監修, 奴田原紀久雄, 山田明, 坂口真紀子, 則竹敬子編. 東京, 照林社, 2015. p. 117-120.
3. 奴田原紀久雄: よく見る腎・泌尿器疾患の知識(前立腺がん, 副腎腫瘍, 尿路感染症, 尿路結石, 排尿機能障害: 神経因性膀胱, 多発性嚢胞腎(ADPKD), 先天性水腎症). 見てわかる腎・泌尿器ケア一看護手順と疾患ガイド. 道又元裕監修, 奴田原紀久雄, 山田明, 坂口真紀子, 則竹敬子編. 東京, 照林社, 2015. p. 121-126, p. 130-151, p. 162-164.
4. 山口剛: よく見る腎・泌尿器疾患の知識(精巣腫瘍). 見てわかる腎・泌尿器ケア一看護手順と疾患ガイド. 道又元裕監修, 奴田原紀久雄, 山田明, 坂口真紀子, 則竹敬子編. 東京, 照林社, 2015. p. 127-129.
5. 多武保光宏: よく見る腎・泌尿器疾患の知識(骨盤臓器脱(POP), 尿道カルクラ). 見てわかる腎・泌尿器ケア一看護手順と疾患ガイド. 道又元裕監修, 奴田原紀久雄, 山田明, 坂口真紀子, 則竹敬子編. 東京, 照林社, 2015. p. 154-158.
6. 板谷直: よく見る腎・泌尿器疾患の知識(精巣捻転). 見てわかる腎・泌尿器ケア一看護手順と疾患ガイド. 道又元裕監修, 奴田原紀久雄, 山田明, 坂口真紀子, 則竹敬子編. 東京, 照林社, 2015. p. 166-167.
7. 奴田原紀久雄: ナースが知っておきたい手術(経皮的腎砕石術(PNL), 経尿道的尿管砕石術(TUL), 経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt), 根治的膀胱全摘除術, 根治的前立腺全摘術). 見てわかる腎・泌尿器ケア一看護手順と疾患ガイド. 道又元裕監修, 奴田原紀久雄, 山田明, 坂口真紀子, 則竹敬子編. 東京, 照林社, 2015. p. 190-194, p. 200-203, p. 209-211.
8. 原秀彦: ナースが知っておきたい手術(根治的腎摘除術, 根治的尿管摘除術). 見てわかる腎・泌尿器ケア一看護手順と疾患ガイド. 道又元裕監修, 奴田原紀久雄, 山田明, 坂口真紀子, 則竹敬子編. 東京, 照林社, 2015. p. 195-199.
9. 山口剛: ナースが知っておきたい手術(根治的精巣摘除術). 見てわかる腎・泌尿器ケア一看護手順と疾患ガイド. 道又元裕監修, 奴田原紀久雄, 山田明, 坂口真紀子, 則竹敬子編. 東京, 照林社, 2015. p. 212-215.
10. 奴田原紀久雄: 腎・尿路結石. 今日の診断指針第7版. 金澤一郎, 永井良三総編. 東京, 医学書院, 2015. p. 1741-1743.
11. 奴田原紀久雄: 嚢胞性腎疾患. 今日の治療指針 2016年版 私はこう治療している. 山口徹, 北原光夫監修, 福井次矢, 高木誠, 小室一成総編. 東京, 医学書院, 2016. p. 1168-1170.

**その他**

1. 桶川隆嗣: 杏林大学医学部付属病院 前立腺がん再発転移阻止 CTC解析研究で挑む. タ刊フジ (<http://www.zakzak.co.jp/health/doctor/news/20150617/dct1506170830002-n1.htm>), 産経デジタル ([http://sonae.sankei.co.jp/life/article/150617/1\\_health0001-n1.html](http://sonae.sankei.co.jp/life/article/150617/1_health0001-n1.html)), 2015年6月17日.
2. 山田尚<sup>1</sup>, 諸角誠人<sup>2</sup>, 奴田原紀久雄<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東京慈恵会医科大学分子遺伝学, <sup>2</sup>埼玉医科大学医療センター): 今月の問題点「鼎談: リフレッシュ尿路結石」. 成人病と生活

習慣病 45(8): 915-925, 2015.

3. 奴田原紀久雄: 第29回日本泌尿器内視鏡学会総会主催, 東京, 2015年11月19-21日.
4. 桶川隆嗣: 第5回泌尿器単孔式・Reduced port腹腔鏡手術ワークショップ主催, 東京, 2016年3月26日.

**多発性嚢胞腎研究講座**

**講演**

**国内学会・講演**

1. 森川泰如, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: デガレリクス治療導入に対する臨床的検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月19日.
2. 二宮直紀, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 去勢抵抗性前立腺癌に対する化学療法後のエンザルタミド治療におけるCTC(Circulating Tumor Cell)の意義. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月19日.
3. 北村盾二, 鮫島未央, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: エンザルタミドの当科における初期経験の検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月19日.
4. 山口剛, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 舛田一樹, 野間康央, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下腎部分切除後の腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月21日.
5. 舛田一樹, 鮫島未央, 北村盾二, 二宮直紀, 野間康央, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 骨転移性前立腺癌患者におけるゾレドロン酸とデノスマブの臨床的比較検討. 第103回日本泌尿器科学会総会, 金沢, 2015年4月21日.
6. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. 第2回横浜ADPKDセミナー 多発性嚢胞腎の最新治療, 横浜, 2015年6月25日.
7. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. 岡山ADPKDセミナー, 岡山, 2015年7月8日.
8. 東原英二, 奴田原紀久雄, 桶川隆嗣, 多武保光宏, 原秀彦, 山口剛, 二宮直紀, 舛田一樹, 要伸也, 宮崎功, 似鳥俊明, 小林邦典: 異なったCKD病期における常染色体優性多発性嚢胞腎患者の初回トルパブタンに対する利尿反応. 第23回嚢胞性腎疾患研究会, 川崎, 2015年9月5日.
9. 奴田原紀久雄, 東原英二, 桶川隆嗣, 多武保光宏, 原秀彦, 山口剛, 二宮直紀, 舛田一樹, 要伸也, 宮崎功, 似鳥俊明, 小林邦典: 常染色体優性多発性嚢胞腎の尿希釈能について. 第23回嚢胞性腎疾患研究会, 川崎, 2015年9月5日.
10. 山口剛, 東原英二, 二宮直紀, 舛田一樹, 鮫島未央, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: ADPKD患者においてMDRDと日本人用の計算式が外に比べてよりよく腎機能を反映する. 第23回嚢胞性腎疾患研究会, 川崎, 2015年9月5日.
11. 東原英二: 多発性嚢胞腎の治療経験. 第23回嚢胞性腎疾患研究会, 川崎, 2015年9月5日.
12. 山口剛, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 東原英二, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 泌尿器腫瘍での化学療法におけるペグフィルグラスチム投与の検討. 第80回日本泌尿器科学会東部総

会, 東京, 2015年9月26日.

13. 森川泰如, 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 分子標的薬に長期生存が得られた転移性腎癌症例の検討. 第80回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2015年9月26日.
14. 鮫島未央, 松本龍貴, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 転移性腎細胞癌に対する分子標的薬投与における腎機能障害の検討. 第80回日本泌尿器科学会東部総会, 東京, 2015年9月26日.
15. 東原英二: 多発性嚢胞腎の最新治療. 平成27年度第5回北九州市泌尿器科医会第5回研修会, 北九州, 2015年10月22日.
16. 森川泰如, 鮫島未央, 松本龍貴, 長嶺陽平, 北村盾二, 舛田一樹, 山口剛, 板谷直, 榎本香織, 原秀彦, 多武保光宏, 金城真実, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: BCG膀胱内注入療法の杏林大学泌尿器科における臨床的検討. 第8回BCG注入療法研究会, 東京, 2015年11月13日.
17. 舛田一樹, 北村盾二, 山口剛, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当科における前立腺肥大症に対するHoLEP後の排尿状態および失禁の経過の検討. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2005年11月19日.
18. 山口剛, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 東原英二, 桶川隆嗣, 奴田原紀久雄: 腹腔鏡下腎部分切除後の腎機能の推移, 制癌効果とそれに影響する因子についての検討. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月20日.
19. 原秀彦, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 板谷直, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 当院における腹腔鏡下腎盂形成術の治療成績. 第29回日本泌尿器内視鏡学会, 東京, 2015年11月20日.
20. 東原英二: 多発性嚢胞腎の新しい治療戦略. 学術講演会, 東京, 2015年11月24日.
21. 松本龍貴, 長嶺陽平, 鮫島未央, 北村盾二, 舛田一樹, 森川泰如, 山口剛, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: 下大静脈腫瘍塞栓を伴う腎血管筋脂肪腫の1例. 第619回日本泌尿器科学会東京地方会, 東京, 2015年12月3日.

#### 国際学会・米国会

1. Casteleijnl NF, Messchendorpl AL, Bae KT, Higashihara E, Kappert P, Meijer E, Torres VE, Leliveld AM, Gansevoort RT: Vasopressin V2 receptor antagonism induced polyuria in ADPKD patients does not result in an increase in ureter width. European Renal Association EDTA 2015, United Kingdom, May 29th, 2015.
2. Higashihara E, Horie S, Ubara Y, Muto S, Nutahara K, Narita I, Okada T: Long-term safety profile of tolvaptan in Japanese ADPKD patients. American Society of Nephrology Kidney Week 2015, U.S.A, November 7th, 2015.
3. Torres VE, Gansevoort RT, Perrone RD, Devuyt O, Chapman AB, Higashihara E, Zhou W, Ouyang J, Blais J, Czerwiec FS: Statins, ADPKD severity and progression in the TEMPO 3:4 ADPKD clinical trial. American Society of Nephrology Kidney Week 2015, U.S.A, November 7th, 2015.
4. Irazabal MV, Blais J, Perrone RD, Gansevoort RT, Chapman AB, Devuyt O, Higashihara E, Zhou W, Ouyang J, Czerwiec FS, Torres VE: Prognostic enrichment strategies in the TEMPO 3:4 ADPKD clinical trial. American Society of Nephrology Kidney Week 2015,

U.S.A, November 7th, 2015.

#### 論文

1. Gansevoort RT<sup>1</sup>, Meijer E<sup>1</sup>, Chapman AB<sup>2</sup>, Czerwiec FS<sup>3</sup>, Devuyt O<sup>4</sup>, Grantham JJ<sup>5</sup>, Higashihara E, Krasa HB<sup>3</sup>, Ouyang J<sup>3</sup>, Perrone RD<sup>6</sup>, Torres VE<sup>7</sup>; TEMPO 3:4 Investigators. (<sup>1</sup>Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Univ. Medical Center Groningen, Univ. of Groningen, <sup>2</sup>Division of Nephrology, Emory Univ., <sup>3</sup>Otsuka Pharmaceutical Development and Commercialization, Inc., <sup>4</sup>Division of Nephrology, Cliniques Univ., Univ. Catholique de Louvain Medical School, <sup>5</sup>Kidney Institute and the Department of Internal Medicine, Kansas Univ. Medical Center, <sup>6</sup>Department of Medicine, Division of Nephrology, Tufts Medical Center, Tufts Univ., <sup>7</sup>Division of Nephrology and Hypertension, Department of Internal Medicine): Albuminuria and tolvaptan in autosomal-dominant polycystic kidney disease: results of the TEMPO 3:4 Trial. *Nephrol Dial Transplant.* pii: gfv422, (Epub 2015).
2. Higashihara E, Nutahara K<sup>1</sup>, Okegawa T<sup>1</sup>, Tanbo M<sup>1</sup>, Hara H<sup>1</sup>, Miyazaki I<sup>2</sup>, Kobayasi K<sup>3</sup>, Nitatori T<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Department of Urology, Kyorin Univ., <sup>2</sup>Department of Radiology, Kyorin Univ., <sup>3</sup>Department of Medical Radiological Technology, Kyorin Univ., <sup>4</sup>Faculty of Health Sciences, Kyorin Univ.): Kidney volume estimations with ellipsoid equations by magnetic resonance imaging in autosomal dominant polycystic kidney disease. *Nephron.* 129(4): 253-262, 2015.
3. Muto S<sup>1</sup>, Kawano H<sup>2</sup>, Higashihara E, Narita I<sup>3</sup>, Ubara Y<sup>4</sup>, Matsuzaki T<sup>5</sup>, Ouyang J<sup>6</sup>, Torres VE<sup>7</sup>, Horie S<sup>8</sup> (<sup>1</sup>Department of Urology, Teikyo University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Urology, Juntendo University Graduate School of Medicine, <sup>3</sup>Division of Clinical Nephrology and Rheumatology, Niigata Univ. Graduate School of Medical and Dental Sciences, <sup>4</sup>Nephrology Center and Okinaka Memorial Institute for Medical Research, <sup>5</sup>Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., <sup>6</sup>Otsuka Pharmaceutical Development & Commercialization, Inc., <sup>7</sup>Division of Nephrology and Hypertension, Department of Internal Medicine, Mayo Clinic, <sup>8</sup>Department of Urology, Juntendo Univ.): The effect of tolvaptan on autosomal dominant polycystic kidney disease patients: a subgroup analysis of the Japanese patient subset from TEMPO 3:4 trial. *Clin Exp Nephrol.* 19(5): 867-877, 2015.
4. Higashihara E, Nutahara K<sup>1</sup>, Okegawa T<sup>1</sup>, Tanbo M<sup>1</sup>, Mori H<sup>3</sup>, Miyazaki I<sup>2</sup>, Nitatori T<sup>5</sup>, Kobayashi K<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Department of Urology, Kyorin Univ., <sup>2</sup>Department of Radiology, Kyorin Univ., <sup>3</sup>Dept. of Gastroenterology <sup>4</sup>Department of Medical Radiological Technology, Kyorin Univ., <sup>5</sup>Faculty of Health Sciences, Kyorin Univ.): Safety study of somatostatin analogue octreotide for autosomal dominant polycystic kidney disease in Japan. *Clin Exp Nephrol.* 19(4): 746-752, 2015.
5. Torres VE<sup>1</sup>, Higashihara E, Devuyt O<sup>2</sup>, Chapman AB<sup>3</sup>, Gansevoort RT<sup>4</sup>, Grantham JJ<sup>5</sup>, Perrone RD<sup>6</sup>, Ouyang J<sup>7</sup>, Blais JD<sup>7</sup>, Czerwiec FS<sup>7</sup>; TEMPO 3:4 Trial Investigators (<sup>1</sup>Division of Nephrology and Hypertension, Department of Internal Medicine, <sup>2</sup>Division of Nephrology, Cliniques Univ., Univ. Catholique de Louvain Medical School, <sup>3</sup>Division of Nephrology, Emory Univ., <sup>4</sup>Division of Nephrology, Department of Internal Medicine, Univ. Medical Center Groningen, Univ. of Groningen, <sup>5</sup>Kidney

Institute and the Department of Internal Medicine, Kansas Univ. Medical Center, <sup>6</sup>Department of Medicine, Division of Nephrology, Tufts Medical Center, Tufts Univ., <sup>7</sup>Otsuka Pharmaceutical Development & Commercialization, Inc.): Effect of tolvaptan in autosomal dominant polycystic kidney disease by CKD stage: results from the TEMPO 3:4 trial. Clin J Am Soc Nephrol. 11: 803-811, doi: 10.2215/CJN.06300615. (Epub 2016).

6. 東原英二: 常染色体優性多発性嚢胞腎の新たな治療. 日本透析医学会雑誌 30:248-256, 2015.
7. 宍戸俊英<sup>1</sup>, 林建二郎<sup>1</sup>, 相澤卓<sup>1</sup>, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄, 尾山博則<sup>2</sup> (<sup>1</sup>東京医科大学八王子医療センター, <sup>2</sup>おやまクリニック): 前立腺肥大症の内服療法と外科的治療の注意点. 泌尿 28(臨増):731-733, 2015.
8. 林建二郎, 宍戸俊英, 菅田明子, 中村雄, 板谷直, 原秀彦, 多武保光宏, 桶川隆嗣, 東原英二, 奴田原紀久雄: HoLEP (ホルミウムレーザー前立腺核出術) は高齢者にとって安全・有効な治療法か?. Jpn J Endourol 28: 137-141, 2015.

### 眼科学教室

#### 講演

1. 五月女典久, 北善幸, 堀江大介, 稲見達也, 平形明人: スペクトラルドメインOCTを用いた黄斑部網膜外層厚測定における白内障の影響. 第119回日本眼科学会総会, 札幌, 2015年4月16-19日.
2. 安藤良将, 渡辺敏樹, 慶野博, 富田茜, 平形明人: レーザースペックル法にて視神経乳頭部血流を観察できた抗AQP4抗体陽性視神経炎の1例. 第119回日本眼科学会総会, 札幌, 2015年4月16-19日.
3. 慶野博, 渡辺交世, 中山真紀子, 岡田アナベルあやめ: 罹病期間別でみたインフリキシマブ導入後のベージェット病ぶどう膜炎の活動性評価. 第119回日本眼科学会総会, 札幌, 2015年4月16-19日.
4. 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 中山真紀子, 小林宏明, 松本杏奈, 久須美有美, 佐野公彦, 北善幸: 治療歴のない滲出型AMDに対するafibercept treat and extend療法の治療反応. 札幌, 2015年4月16-19日.
5. 小笠原雅, 山本亜希子, 古泉英貴, 板垣可奈子, 斎藤昌晃, 丸子一朗, 飯田知弘, 岡田アナベルあやめ, 石龍鉄樹: Afliberceptによる滲出型加齢黄斑変性治療の予後予測因子. 第119回日本眼科学会総会, 札幌, 2015年4月16-19日.
6. 慶野博: サブスペシャリティーサンデー ぶどう膜炎診療アップデート. ぶどう膜炎の眼底画像検査. 第119回日本眼科学会総会, 札幌, 2015年4月16-19日.
7. 山田昌和: 病態に基づく涙液関連疾患の治療. 第119回日本眼科学会総会, 札幌, 2015年4月17日.
8. 井上真: 網膜の後ろの天の川. 第45回RETINAの会, 札幌, 2015年4月18日.
9. 山田昌和: 成人眼科検診の医学的効果と費用対効果. 第119回日本眼科学会総会, 札幌, 2015年4月19日.
10. 北善幸, 北律子, 安楽礼子: 緑内障に対するスペクトラルドメインOCTを用いた網膜外層厚測定の有用性. 第119回日本眼科学会総会, 札幌, 2015年4月16-19日.
11. Inoue M: Reconsider core vitrectomy to enhance safety. 2015 Duke Advanced Vitrectomy Surgery Course, USA, April 24th, 2015.
12. Inoue M: Vitrectomy for myopic traction maculopathy. 2015 Duke Advanced Vitrectomy Surgery Course, USA, April 25th, 2015.
13. Inoue M: How to handle flexible instruments. 2015 Duke Advanced Vitrectomy Surgery Course, USA, April 25th, 2015.
14. 津田麻祐子, 富田茜, 佐野公彦, 柳沼重晴, 平形明人: 網膜血管腫の治療中に小脳病変を併発したvon Hippel Lindau病の一例. 第6回東京多摩眼科連携セミナー, 三鷹, 2015年4月25日.
15. Itoh Y, Levison LA, Kaiser PK, Singh RP, Srivastava SK, Ehlers JP: Characteristics of epiretinal proliferation: A distinguishing feature of lamellar macular holes. Association for Research in Vision and Ophthalmology, USA, May 3rd-7th, 2015.
16. Inoue M, Matsuki N, Itoh Y, Nagamoto T, Hirakata A: Higher-order aberrations of intraocular lens with intrascleral fixation. Association for Research in Vision and Ophthalmology, USA, May 3rd, 2015.
17. Ohzeki T, Hashizume K, Kiryu J, Yamada H, Inoue M, Kurosaka D: Evaluation of toric contact lenses for vitreous surgery in model eye inserted with a toric intraocular lens. Association for Research in Vision and Ophthalmology, USA, May 3rd, 2015.
18. Keino H, Watanabe T, Okada AA: Capability of vitreous fluid to enhance TGF-beta-induced Foxp3+ regulatory T cell conversion. Association for Research in Vision and Ophthalmology, USA, May 3rd-7th, 2015.
19. Keino K: EDI-OCT of chronic and recurrent phases of VKH. Philippines, May 15th-17th, 2015.
20. 岡田アナベルあやめ: 眼炎症疾患. 最近のトピックより. 第69回栃木県眼科集談会, 下野, 2015年5月10日.
21. 山田昌和: ドライアイが労働生産性に与える影響. 第88回日本産業衛生学会, 大阪, 2015年5月14日.
22. 山田昌和: ドライアイQOLを重視した治療戦略. 第55回神戸眼科臨床懇話会, 神戸, 2015年5月16日.
23. 厚東隆志: 硝子体術後に消退しない糖尿病黄斑浮腫. 第20回東京黄斑疾患研究会, 東京, 2015年5月23日.
24. 山本亜希子: Treat and extend はじめの一步. 加齢黄斑変性治療の最前線, 札幌, 2015年5月23日.
25. 岡田アナベルあやめ: 眼炎症のトピックス. 第72回富山眼科集談会, 富山, 2015年5月24日.
26. 山田昌和: クリニックベースのドライアイ実態調査. 第9回箱根ドライアイクラブ, 軽井沢, 2015年6月5日.
27. 井上真: インドの眼科事情. 第16回信濃町網膜研究会, 東京, 2015年6月5日.
28. 厚東隆志: Duke Advanced Vitreous Surgery Course 2015報告記 plus1. 第16回信濃町網膜研究会, 東京, 2015年6月5日.
29. 中山真紀子, 山本亜希子, 慶野博, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ: 49歳女性 右眼のゆがみ. 第7回Eye Center Summit, 東京, 2015年6月6日.
30. 松木奈央子: 難症例の白内障手術. 第7回Eye Center Summit, 東京, 2015年6月6日.
31. 平形明人: 網膜分離様所見の鑑別. 第4回OCT眼底読影勉強会, 東京, 2015年6月11日.
32. Inoue M: Inverted ILM technique or scleral shortening for TRD or MHRD in highly myopic eyes. 2<sup>nd</sup> International Conference of Pathologic Myopia, Kyoto, June 19th-20th, 2015.
33. 柳沼重晴, 松木奈央子, 渡辺交世, 永本敏之: 角膜内皮細胞密度1500個/mm<sup>2</sup>以下の症例における白内障手術成

- 績. 第30回JSCRS学術総会, 東京, 2015年6月19-21日.
34. 山田昌和: 角結膜疾患の診断と治療. 東京都眼科医会卒後研修会, 東京, 2015年6月20日.
  35. 山田昌和: ドライアイQOLを重視した治療戦略. 多摩南部眼科講演会, 東京, 2015年6月20日.
  36. Hirakata A: Treatment for retinal angioma associated with von Hippel-Lindau. 2015 Tianjin International Ophthalmology Forum, 中国, June 26th-28th, 2015.
  37. Inoue M: Strategy to treat submacular hemorrhage. 2015天津眼科国際学会第4回中日眼科学交流会, 中国, June 26th-27th, 2015.
  38. 井上真: 黄斑疾患. 硝子体ビデオセミナー, 東京, 2015年6月28日.
  39. 朝井知佳子, 小川佳子, 川島素子, 平塚義宗, 山田昌和: 片眼視覚障害の疾病負担についての検討. 第71回日本弱視斜視学会, 神戸, 2015年7月3日.
  40. 井上裕子, 小川佳子, 勝田智子, 松屋清栄, 山田昌和: 成人の外斜視再手術例の手術成績. 第71回日本弱視斜視学会, 神戸, 2015年7月3日.
  41. 富田茜, 鈴木由美, 満川忠宏, 吉川泉, 浜由起子, 富田香, 山田昌和: 周期性外上斜視の成人例. 第71回日本弱視斜視学会, 神戸, 2015年7月3日.
  42. 井上真: OCTによる黄斑疾患への治療戦略. 第105回香川県眼科集談会, 高松, 2015年7月5日.
  43. 満川忠宏, 重安千花, 中島史絵, 藤井かんな, 山田昌和: 初期治療が奏功しなかった感染性角膜炎の検討. 第52回日本眼感染症学会, 大阪, 2015年7月10日.
  44. 中村友子, 慶野博, 眞鍋歩, 中山真紀子, 渡辺交世, 林篤志, 岡田アナベルあやめ: 妊娠16週に発症しトリアムシノロンアセトニドテノン嚢下注射で治療した原田病の1例. 第49回日本眼炎症学会, 大阪, 2015年7月10日.
  45. 中山真紀子, 慶野博, 渡辺交世, 井上真, 岡田アナベルあやめ: 硝子体手術後に発症したANCA陽性強膜炎の1例. 第49回日本眼炎症学会, 大阪, 2015年7月10日.
  46. 山田昌和: CL装用ドライアイに対する治療法. 第52回日本眼感染症学会, 大阪, 2015年7月11日.
  47. 山田昌和: CL装用による涙液・眼表面の変化. 第58回日本コンタクトレンズ学会, 大阪, 2015年7月11日.
  48. Hirakata A: Optic disc pit maculopathy: What Would Machemer Do? 40 Years of Evolution. American Society of Retina Specialists 33rd Annual Meeting, Duke Vitreoretinal Surgery Course at ASRS Vienna, Austria, July 11th-14th, 2015.
  49. Inoue M, Orihara T, Hiraoka T, Koto T, Hirakata A: Comparison of retinal detachment associated with atopic dermatitis with that with a blunt trauma. ASRS meeting Vienna, Austria, July 11<sup>th</sup>-14<sup>th</sup>, 2015.
  50. Inoue M: Massive subretinal hemorrhage is one of major severe complication after age-related macular degeneration. ASRS Film festival Vienna, Austria, July 11th-14th, 2015.
  51. Inoue M: Bimanual technique for severe proliferative diabetic retinopathy. ASRS 3D videos. Austria, July 11th-14th, 2015.
  52. 平形明人: 糖尿病網膜症の病診連携. 城西臨床眼科シンポジウム, 東京, 2015年7月23日.
  53. Inoue M, Hirakata A: Retinal detachment associated with peripapillary staphyloma. The 9th Congress of Asia Pacific Vitreo-retina Society, Australia, July 31st, -August 2nd, 2015.
  54. Kita Y, Inoue M, Kita R, Sano M, Hirakata A: 2 cases of intrachoroidal cavitation located beneath papillomacular bundle with full retinal layer defect. The 9th Congress of Asia Pacific Vitreo-retina Society, Australia, July 31st, -August 2nd, 2015.
  55. Sano M, Inoue M, Kita Y, Hirota K, Koto T, Hirakata A: Peripheral vascular anomaly in eyes with retinal detachment and morning glory syndrome. The 9th Congress of Asia Pacific Vitreo-retina Society, Australia, July 31st, -August 2nd, 2015.
  56. Inoue M: APVRS Symposium 2015. Latest advances in macular surgery. Intravitreal dyds for membrane peeling. The 9th Congress of Asia Pacific Vitreo-retina Society, Australia, July 31st, -August 2nd, 2015.
  57. 北善幸: 緑内障に対するOCT検査の有用性とその注意点. 千寿製薬社外講師勉強会, 2015年7月.
  58. 平形明人: 症例から学ぶ眼底疾患アップデート2015. 第87回筑後眼科研究会, 久留米, 2015年8月1日.
  59. 井上真: 27G手術 実践と適応. 第1回埼玉網膜硝子体研究会, 埼玉, 2015年8月7日.
  60. 平形明人: von Hippel-Lindau病に合併する血管腫の治療. 第17回Japan Macula Club, 蒲郡, 2015年8月22-23日.
  61. 厚東隆志: 網膜静脈閉塞症の診断と治療. 参天製薬社内勉強会, 東京, 2015年8月27日.
  62. 井上真: RV0治療アップデート. 日本視覚電気生理学会, 名古屋, 2015年8月29日.
  63. 平形明人: シナリオを作ろう. 網膜硝子体手術. Ochanomizu Ophthalmic Surgery Seminar, 東京, 2015年9月4日.
  64. 厚東隆志: 重さとin/outで考える硝子体手術. Ochanomizu Ophthalmic Surgery Seminar, 東京, 2015年9月4日.
  65. 井上真: Vitrectomy for DME. DME Sumitt meeting, 神戸, 2015年9月12日.
  66. 山田昌和: コンタクトレンズ 合併症や問題点のトピックス. 東京都眼科医会コンタクトレンズ管理者講習会, 東京, 2015年9月12日.
  67. 内田裕規, 堀江大介, 五月女典久, 稲見達也, 北善幸, 山口靖子, 吉野啓, 平形明人: ぶどう膜炎による続発緑内障に対するトラベクトミーの成績. 第26回日本緑内障学会, 名古屋, 2015年9月11-13日.
  68. 山田昌和: 成人眼科検診における自治体の試み 現状と課題. 第26回日本緑内障学会, 名古屋, 2015年9月13日.
  69. 厚東隆志: 眼科手術のartとscience~手術教育と手術理念~. 2015年麻布高校教養総合講座, 東京, 2015年9月14日.
  70. Okada AA: Utility of OCT in Posterior Inflammatory Disease. Congress of the International Ocular Inflammation Society, Third International Assembly of Ocular Inflammation Societies, USA, September 27th, 2015.
  71. Watanabe T, Keino H, Taki W, Nakayama M, Nakamura T, Okada AA: Clinical features of uveitis in children and adolescents at a tertiary center in Tokyo. Congress of the International Ocular Inflammation Society, Third International Assembly of Ocular Inflammation Societies, USA, September 25th-27th, 2015.
  72. Keino H, Watanabe T, Nakayama M, Nakamura T, Okada AA: Efficacy of infliximab for early remission induction in refractory uveoretinitis associated

- with Behcet's disease. Third International Assembly of Ocular Inflammation Societies, USA, September 25th-27th, 2015.
73. 井上真: 眼科手術と眼光学 網膜硝子体手術. 第51回日本眼科学会総会, 岡山, 2015年9月26-27日.
  74. 平形明人: Treatment for retinal hemangiomas with von Hippel-Lindau disease. 硝子体手術講習会, 東京, 2015年10月3-4日.
  75. 井上真: 27-gauge vitrectomy for diabetic retinopathy. Advanced Vitrectomy Surgery Course, 東京, 2015年10月3-4日.
  76. 井上真: MIVS for myopic traction maculopathy. Advanced Vitrectomy Surgery Course, 東京, 2015年10月3-4日.
  77. 山田昌和: コンタクトレンズとオキュラーサーフェス. 第25回青森眼科セミナー, 青森, 2015年10月3日.
  78. 松木奈央子: 飛蚊症, 網膜剥離. 目の愛護デーTokyo Eye Festival, 東京, 2015年10月3日.
  79. 厚東隆志: Duke Advanced Vitreous Surgery Course 2015報告記. ビト研, 東京, 2015年10月9日.
  80. 厚東隆志: 網膜静脈閉塞症の診断と治療. バイエル製薬社内勉強会, 東京, 2015年10月10日.
  81. 井上真: 第24回硝子体手術講習会の報告. 第17回信濃町網膜研究会, 東京, 2015年10月15日.
  82. 平形明人: 網膜分離様所見を呈する病変の手術. 瀬戸内眼科コロシアム2015, 岡山, 2015年10月17-18日.
  83. 津田麻祐子, 中山真紀子, 慶野博, 渡辺交世, 岡田アナベルあやめ, 平形明人: サイトメガロウイルス網膜炎の発症を機にHIV陽性と診断された2症例. 第58回東京多摩地区眼科集談会, 三鷹, 2015年10月17日.
  84. 井上真: 小切開硝子体手術の適応. 第13回県眼科臨床フォーラム, 尼崎, 2015年10月17日.
  85. 平形明人: 網膜硝子体疾患で経験する硝子体腔とクモ膜腔との交流. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22-25日.
  86. 井上真: レチナー-ナイトメア. 溢れ出す怨霊. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22-25日.
  87. 井上真: 硝子体手術. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22-25日.
  88. 井上真: 基本設定と黄斑疾患. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22-25日.
  89. 厚東隆志: Nd: YAGレーザーの硝子体内照射が眼内へ与える影響. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22-25日.
  90. 北善幸, 井上真, 北律子, 堀江大介, 佐野公彦, 平形明人: 視神経乳頭周囲の網膜神経繊維層厚と網膜全層厚測定の新規性の比較. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22-25日.
  91. 佐野公彦, 平形明人, 野村陽子, 北善幸, 井上真: 乳頭ビットに伴う黄斑剥離の再手術例の検討. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22-25日.
  92. 満川忠宏, 佐野公彦, 横田怜二, 国田大輔, 井上真, 平形明人: 網膜血管腫と栄養血管の凝固を併用する硝子体手術が奏効したVHLの一例. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22-25日.
  93. 重安千花, 山田昌和, 阿久根陽子: TS-1多施設スタディワーキンググループ. 抗腫瘍薬TS-1内服時の涙液中薬物濃度測定. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22日.
  94. 山田昌和: 研究デザインとエビデンスレベル. インストラクションコース: 眼科医のための臨床疫学研究デザイン塾. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22日.
  95. 中山真紀子, 山本亜希子, 慶野博, 渡辺交世, 中村友子, 眞鍋歩, 岡田アナベルあやめ: 点状脈絡膜内層症の臨床的特徴および予後. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月22日.
  96. 慶野博, 中山真紀子, 渡辺交世, 中村友子, 岡田アナベルあやめ: 原田病初発例における中心窩下脈絡膜厚の長期経過. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月23日.
  97. 山田昌和, 阿久根陽子, 平塚義宗: 成人眼科検診の予算影響分析. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月23日.
  98. 山田昌和: 介護予防としての眼科医療の可能性. 医療提供システムの大転換: 地域包括ケアにける眼科の役割. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月23日.
  99. 山田昌和: 弱視の疫学とスクリーニング. 弱視診療のアップデート. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月23日.
  100. 古泉英貴, 山本亜希子, 小笠原雅, 板垣可奈子, 丸子一朗, 荒川久弥, 岡田アナベルあやめ, 石龍鉄樹, 飯田知弘: 滲出型加齢黄斑変性に対するアフリベルセプト硝子体内注射の2年成績. 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月24日.
  101. 川島素子, 重安千花, 山田昌和, 横井則彦, 坪田一男: DECS-J研究グループ. 眼科クリニックにおけるドライアイ受療患者の実態調査(DECS-J). 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月25日.
  102. Yamada M: DECS-J Preliminary Results. Asia Dry Eye Society Annual Meeting, Tokyo, October 31th, 2015.
  103. Kita Y: Mystery case 4. 3th Fluorescein Conference in Tokyo, Nagoya, October, 2015.
  104. 北善幸: 緑内障診療におけるOCTの活用法. 第11回多摩南部地域病院勉強会, 多摩, 2015年10月.
  105. Yamada M: Current trends in dry eye treatment in Japan. 114th Annual Meeting of Korean Ophthalmological Society, Korea, November 7th, 2015.
  106. Okada AA: Keynote Lecture. Differential Diagnosis of Posterior Uveitis. Meeting with the Uveitis Expert. Taiwan, November 11th, 2015.
  107. Hirakata A: Optic Pit Maculopathy Management. American Academy of Ophthalmology 2015, USA, November 14th-17th, 2015.
  108. Abouammoh MA, Alsulaiman SM, Gupta V, Hirakata A, Berrocal MH, Chenworth MK, Chhablani JK, Oshima Y, Al-Zamil W, Casella AM, Papa G, Banker AS, Arevalo JF: Pars plana vitrectomy with juxtapapillary laser photocoagulation (JLP) vs. vitrectomy without JLP for the treatment of optic disc pit maculopathy. American Academy of Ophthalmology 2015, USA, November 14th-17th, 2015.
  109. Inoue M, Koto T, Kita Y, Hirota K, Hirakata A: Fundus autofluorescence images in gas-filled eyes immediately after macular hole surgery. American Academy of Ophthalmology 2015, USA, November 14th-17th, 2015.
  110. 厚東隆志: 糖尿病網膜症の診断・治療 Up Date. 国分寺市医師会学術研修会・小金井市北多摩南部保健医療圏糖尿病医療連携講演会, 東京, 2015年11月17日.
  111. Inoue M: Strategy to treat submacular hemorrhage. PCV summit, China, November 21st-22nd, 2015.
  112. Okada AA: Medical Education Systems in the US and Japan. Meeting with the Uveitis Expert, Taiwan,



- November 27th, 2015.
113. 井上真:増殖糖尿病網膜症への低侵襲小切開硝子体手術. 第21回日本糖尿病眼学会総会, 名古屋, 2015年11月27日.
  114. Okada AA: Influximab for vision-threatening Behcet's disease. 56<sup>th</sup> Annual Meeting of the Taiwan Ophthalmological Society, Taiwan, November 28th, 2015.
  115. 山田昌和, 阿久根陽子, 平塚義宗:成人を対象とした眼疾患スクリーニングの予算影響分析. 第22回ヘルスリサーチフォーラム, 東京, 2015年11月28日.
  116. Itoh Y, Kaiser PK, Singh RP, Srivastava SK, Ehlers JP: Quantitative characterization of ellipsoid zone alterations following intravitreal ocriplasmin. American Academy of Ophthalmology, USA, November 14th-17th, 2015.
  117. 伊東裕二:米国留学体験記～網膜画像診断～. 西東京眼科フォーラム, 東京, 2015年11月25日.
  118. 山本亜希子, 岡田アナベルあやめ, 中山真紀子, 野村陽子, 小林宏明, 吉田ゆみ子:近視性脈絡膜新生血管に対するラニビズマブ投与後1年後経過. 第54回日本網膜硝子体学会総会, 第32回日本眼循環学会総会合同学会, 東京, 2015年12月4-6日.
  119. 江本宜暢, 厚東隆志, 廣田和成, 伊東裕二, 井上真, 平形明人:27ゲージと25ゲージ7500回転システムを用いた硝子体手術の比較. 第54回日本網膜硝子体学会総会, 東京, 2015年12月4-6日.
  120. 佐野公彦, 井上真, 北善幸, 伊東裕二, 廣田和成, 厚東隆志, 平形明人:黄斑円孔に対するInverted ILM flap法併用硝子体手術後の円孔閉鎖過程の検討. 第54回日本網膜硝子体学会, 東京, 2015年12月4-6日.
  121. 北善幸, 吉見拓人, 佐野公彦, 伊東裕二, 井上真, 平形明人:眼内タンポナーデ物質の違いによる眼球変形能の検討. 第54回日本網膜硝子体学会, 東京, 2015年12月4-6日.
  122. 井上真:Medical vs Surgical Round 2. 第54回日本網膜硝子体学会, 東京, 2015年12月4日-6日.
  123. 井上真:プレミアIOLと硝子体手術. AMO webカンファレンス, Web, 2015年12月10日.
  124. Inoue M: VIVID/VISTA clinical trials and current practices in DME treatment. Busan/Kyungnam POWER forum Busan, South Korea, December 11th-12th, 2015.
  125. 伊東裕二:術中OCT付顕微鏡の有用性. 第1回OCT手術顕微鏡RESCAN 700フォーカスミーティング, 東京, 2015年12月.
  126. 平形明人:網膜分離様所見を呈する病変と対応. 福島眼科集談会, 福島, 2016年1月11日.
  127. Inoue M: Surgical treatment for myopic traction maculopathy. 6th Cairo Retina meeting, Egypt, January 14th-16th, 2016.
  128. Inoue M: Treatment for massive subretinal hemorrhage. 6th Cairo Retina meeting, Egypt, January 14th-16th, 2016.
  129. Inoue M: RETINAWS. 6th Cairo Retina meeting, Egypt, January 14th-16th, 2016.
  130. 平形明人:眼球外傷. 平成26年度東京都眼科医会卒後研修会, 東京, 2016年1月16日.
  131. 厚東隆志:慢性期CRVOに対し硝子体手術が著効した一例. RVO expert seminar, 東京, 2016年1月16日.
  132. 厚東隆志:27ゲージ硝子体手術, 現在と展望. 第11回西東京市医師会眼科医会学術講演会, 東京, 2016年1月19日.
  133. 井上真:iOCT guided MIVS. MIOSの会, 福岡, 2016年1月30日.
  134. 北善幸:術中OCT (RESCAN 700) の使用経験. 第12回Tokyo Glaucoma Retina joint conference, 東京, 2016年1月15日.
  135. Iida T, Koizumi H, Yamamoto A, Ogasawara M, Itagaki K, Maruko I, Arakawa H, Sekiryu T, Okada AA: Two-year outcomes of aflibecept therapy for neovascular AMD in Japan. World Ophthalmology Congress 2016, Mexico, February 5th-9th, 2016.
  136. 井上真:RVO治療アップデート. 第2回アイリーア黄斑疾患セミナー, 岡山, 2016年2月6日.
  137. プホアンビエトチ, 川島素子, 山田昌和, 重安千花, 横井則彦, 洲脇和久, 坪田一男:DECS-J研究グループ:マイボーム腺機能不全がドライアイの重症度に及ぼす影響:DECS-J. 第40回日本角膜学会, 軽井沢, 2016年2月19日.
  138. 津田麻祐子, 重安千花, 二宮夕子, 藤井かんな, 山田昌和:抗悪性腫瘍剤カドサイラが原因と考えられた角膜上皮障害の1例. 第40回日本角膜学会, 軽井沢, 2016年2月19日.
  139. 安藤良将, 重安千花, 二宮夕子, 藤井かんな, 山田昌和:角膜内皮障害例に対する0.4%リパスジル塩酸塩水和物点眼液の短期成績. 第40回日本角膜学会, 軽井沢, 2016年2月19日.
  140. 重安千花, 山田昌和, 川島素子, 洲脇和久, 横井則彦, 坪田一男:DECS-J研究グループ:眼科クリニックにおけるドライアイ受療患者のQOLと効用値 (DECS-J). 第40回日本角膜学会, 軽井沢, 2016年2月20日.
  141. 山田昌和:ドライアイ診療パターンのトレンド, 受療患者サーベイ (DECS-J) から. ドライアイ研究会講習会, 2016年2月21日.
  142. 井上真:小切開硝子体手術アップデート. 第10回東北眼科フォーラム, 仙台, 2016年2月20-21日.
  143. 井上真:小切開硝子体手術の展望. 第58回愛媛県眼科フォーラム, 松山, 2016年2月27日.
  144. 山田昌和:コンタクトレンズとドライアイ. 第27回霧島眼科研鑽会, 都城, 2016年2月28日.
  145. 北善幸:術中および外来診療におけるOCTの有用性. 興和創薬株式会社社内ゼミ, 東京, 2016年2月.
  146. 厚東隆志:糖尿病網膜症の診断・治療 Up Date. 第2回多摩市医師会眼科部会学術講演会, 東京, 2016年3月2日.
  147. 厚東隆志:27ゲージ硝子体手術の現在と可能性. 第2回城西武蔵野眼科講演会, 東京, 2016年3月9日.
  148. 山田昌和:緑内障とオキュラーサーフェス. 第49回東京緑内障談話会, 東京, 2016年3月12日.
  149. 井上真:MIVSを使いこなそう - Trouble shooting and cutting edge -. 第5回 State of Art 眼科研究会, 東京, 2016年3月14日.
  150. 井上真:術中OCTを使ってみました!. 第18回信濃町網膜研究会, 東京, 2016年3月18日.
  151. Inoue M, Koto T, Hirakata A: Ultra-widefield fundus imaging in gas-filled eyes after vitrectomy. APAO, Taiwan, March 25th-27th, 2016.
  152. Sano M, Inoue M, Itoh Y, Kita Y, Hirota K, Koto T, Hirakata A: Efficacy of optical tomography-based face-down positioning for the macular hole surgery. APAO, Taiwan, March 25th-27th, 2016.
  153. Orihara T, Inoue M, Itoh Y, Koto T, Hirota K, Hirakata A: Clinical characteristics of rhegmatogenous retinal detachment in highly myopic eyes. APAO, Taiwan, March 25th-27th, 2016.
  154. Itoh Y, Kaiser PK, Singh RP, Srivastava SK, Ehlers

JP: Intraoperative optical coherence tomographic factors associated with macular hole closure following vitrectomy. APAO, Taiwan, March 25th-27th, 2016.

155. 北善幸: 緑内障診療におけるOCTの活用法. 日本アルコン社内講演会, 東京, 2016年3月.

## 論文

- Hirota K, Keino H, Inoue M, Ishida H, Hirakata A: Comparisons of microRNA expression profiles in vitreous humor between eyes with macular hole and eyes with proliferative diabetic retinopathy. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 253: 335-42, 2015.
- Yokota R, Koto T, Inoue M, Hirakata A: Ultra-wide-field retinal images in an eye with a small-aperture corneal inlay. *J Cataract Refract Surg* 41:234-6, 2015.
- Inoue M, Shiraga F, Shirakata Y, Morizane Y, Kimura S, Hirakata A: Subretinal injection of recombinant tissue plasminogen activator for submacular hemorrhage associated with ruptured retinal arterial macroaneurysm. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 253:1663-1669, 2015.
- Hirota K, Itoh Y, Rii T, Inoue M, Hirakata A: Correlation between foveal interdigitation zone band defect and visual acuity after surgery for macular pseudohole. *Retina*. 35:908-914, 2015.
- Matsumoto-Otake A, Hirota K, Koto T, Inoue M, Hirakata A: Thickened retinal ganglion cell complex in patient with severe Takayasu retinopathy at early stage. *Retin Cases Brief Rep* 9:41-44, 2015.
- Suzuki T, Ohashi Y, Oshika T, Goto H, Hirakata A, Fukushima K, Miyata K; Japanese Ophthalmological Society HOYA Intraocular Lens-Related Endophthalmitis Investigation Commission: Outbreak of Late-onset Toxic Anterior Segment Syndrome After Implantation of One-piece Intraocular Lenses. *Am J Ophthalmol* 159:934-939. e2, 2015.
- Ando Y, Inoue M, Ohno-Matsui K, Kusumi Y, Iida T, Hirakata A: Macular detachment associated with intrachoroidal cavitation in nonpathological myopic eyes. *Retina* 35:1943-1950, 2015.
- Inoue M, Itoh Y, Rii T, Kita Y, Hirota K, Kunita D, Hirakata A: Macular retinoschisis associated with glaucomatous optic neuropathy in eyes with normal intraocular pressure. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 253:1447-1456, 2015.
- Yokota R, Inoue M, Itoh Y, Rii T<sup>1</sup>, Hirota K, Hirakata A (<sup>1</sup>Shin Long Wu Ho-Su Memorial Hospital): Comparison of microincision vitrectomy and conventional 20-gauge vitrectomy for severe proliferative diabetic retinopathy. *Jpn J Ophthalmol* 59: 288-294, 2015.
- 長堀克哉, 内田翔子, 井上真, 廣田和成, 平形明人: 医学部眼科臨床実習で無症候性網膜剥離が発見された2症例. *眼科* 57: 1159-1162, 2015.
- Uchida A<sup>1</sup>, Inoue M, Bissen-Miyajima H<sup>2</sup>, Hirakata A (<sup>1</sup>Department of Ophthalmology, Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Ophthalmology, Tokyo Dental College Suidobashi Hospital): Dynamic changes of optical aberrations during restoration of optical properties of hydrophobic acrylic intraocular lens ejected through cartridge. *Br J Ophthalmol* 99:1143-1148, 2015.
- 肥留川京子, 慶野博, 渡邊交世, 瀧和歌子, 平形明人, 岡田アナベルあやめ: 網膜動静脈閉塞症に対してステロイドパルス療法が奏効したSLE網膜症の1例. *あたらしい眼科* 32:904-908, 2015.
- Yokota R, Inoue M, Itoh Y, Rii T, Hirota K, Hirakata A: Erratum to: Comparison of microincision vitrectomy and conventional 20-gauge vitrectomy for severe proliferative diabetic retinopathy. *Jpn J Ophthalmol* 59:436, 2015.
- Matsuki N, Inoue M, Itoh Y, Nagamoto T<sup>1</sup>, Hirakata A (<sup>1</sup>Nagamoto Eye Clinic): Changes in higher-order aberrations of intraocular lenses with intrascleral fixation. *Br J Ophthalmol* 99:1732-1738, 2015.
- Kita Y, Holló G<sup>1</sup>, Kita R, Horie D, Inoue M, Hirakata A (<sup>1</sup>Department of Ophthalmology, Semmelweis University): Differences of Intrasession Reproducibility of Circumpapillary Total Retinal Thickness and Circumpapillary Retinal Nerve Fiber Layer Thickness Measurements Made with the RS-3000 Optical Coherence Tomograph. *PLoS One* 10: e0144721, 2015.
- 折原唯史, 廣田和成, 横田怜二, 国田大輔, 伊東裕二, 利井東昇, 厚東隆志, 平岡智之, 井上真, 平形明人: アトピー性皮膚炎と鈍的外傷に伴う網膜剥離の比較検討. *日眼会誌* 119: 457-463, 2015.
- 慶野博, 渡邊交世, 首藤紘一, 北岡康史, 原田高幸, 岡田アナベルあやめ: 学会トピックス 第52回日本神経眼科学会総会 レチノイン酸による実験的自己免疫性視神経炎の軽症化. *日本眼科学会雑誌* 119:304-3-5, 2015.
- Sano M, Inoue M, Itoh Y, Hirota K, Koto T, Hirakata A: Efficacy of higher cutting rates during microincision vitrectomy for proliferative diabetic retinopathy. *Eur J Ophthalmol*. 2015. doi: 10.5301/ejo.5000721. (Epub ahead of print).
- Inokawa S, Watanabe T, Keino H, Sato Y, Hirakata A, Okada AA, Fukuda K, Fukushima A, Umezawa K: Dehydroxymethylepoxyquinomicin, a novel nuclear factor- $\kappa$ B inhibitor, reduces chemokines and adhesion molecular expression induced by IL-1 $\beta$  in human corneal fibroblasts. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 253:557-583, 2015.
- Koizumi H, Kano M, Yamamoto A, Saito M, Maruko I, Kawasaki R, Sekiryu T, Okada AA, Iida T: Short-term changes in choroidal thickness after aflibercept therapy for neovascular age-related macular degeneration. *Am J Ophthalmol* 159:627-633, 2015.
- Keino H, Okada AA, Watanabe T, Echizen N, Inoue M, Takayama N, Nagane M: Spectral-domain optical coherence tomography pattern in eyes with intraocular lymphoma. *Ocular Immunol Inflamm* 24:1-6, 2015.
- Koizumi H, Kano M, Yamamoto A, Saito M, Maruko I, Sekiryu T, Okada AA, Iida H: Aflibercept therapy for polypoidal choroidal vasculopathy: short-term results of a multicenter study. *Br J Ophthalmol* 99:1284-1288, 2015.
- Yamamoto A, Okada AA, Kano M, Koizumi H, Saito M, Maruko I, Sekiryu T, Iida T: One-year results of intravitreal aflibercept for polypoidal choroidal vasculopathy. *Ophthalmology* 122:1866-1872, 2015.
- Denniston AK, Holland GN, Kidess A, Nussenblatt RB, Okada AA, Rosenbaum JT, Dick AD: Heterogeneity of primary outcome measures used in clinical trials of treatment for intermediate,

- posterior and panuveitis. *Orphanet J Rare Dis* 10:97, 2015.
25. Otake-Matsumoto A, Keino H, Koto T, Okada AA: Spectral domain and swept source optical coherence tomography in acute retinal necrosis. *Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol* 253:2049-2051, 2015.
  26. Keino H, Watanabe T, Sato Y, Shudo K, Kitaoka Y, Harada T, Okada AA: Retinoic acid receptor stimulation ameliorates experimental autoimmune optic neuritis. *Clin Experiment Ophthalmol* 43:558-567, 2015.
  27. 岡田アナベルあやめ, 石橋達朗: 抗VEGF薬による治療. あたらしい眼科 32(8): 1067-1068, 2015.
  28. Watanabe T, Okada AA: Uveitis Bunshi Ryumachi Chiryō. *Molecular Rheumatology and Therapy* 8:32-35, 2015.
  29. 岸章治, 岡田アナベルあやめ, 横山利幸, 山田昌和, 前田利根: 抗VEGF剤を取り巻く最近の情勢. 日本の眼科 86(8): 1137-1151, 2015.
  30. Shigeyasu C, Hirano S, Akune Y, Yamada M: Diquafosol tetrasodium increases the concentration of mucin-like substances in tears of healthy human subjects. *Curr Eye Res.* 40:878-883, 2015.
  31. 平塚義宗, 小野浩一, 中野匡, 田村寛, 後藤励, 川崎良, 川島素子, 山田昌和: 「成人を対象とした眼検診」研究班中間報告書. 日本の眼科 86:984-1007, 2015.
  32. Tamura H, Goto R, Akune Y, Hiratsuka Y, Hiragi S, Yamada M: The Clinical Effectiveness and Cost-Effectiveness of Screening for Age-Related Macular Degeneration in Japan: A Markov Modeling Study. *PLoS One.* 10:e0133628, 2015.
  33. Shigeyasu C, Yamada M, Akune Y, Tsubota K: Diquafosol sodium ophthalmic solution for the treatment of dry eye: clinical evaluation and biochemical analysis of tear composition. *Jpn J Ophthalmol.* 59:415-420, 2015.
  34. Nakamura N, Akiyama K, Shigeyasu C, Yamada M: Surgical repair of orbital fat prolapse by conjunctival fixation to the sclera. *Clin Ophthalmol.* 9:1741-1744, 2015.
  35. 横井則彦, 堀裕一, 山田昌和, 田聖花, 山口昌彦: 非観血的治療に抵抗する挙筋短縮術後の上輪部角結膜炎類似病変に対する治療. *眼科手術* 28:397-402, 2015.
  36. 山田昌和: 炎症性疾患としてのドライアイ. *別冊BIO Clinica* 4:20-25, 2015.
  37. 山田昌和: 涙液から考えるドライアイ. *Oculista* 31:15-19, 2015.
  38. 秋山陽一, 鈴木由美, 吉川泉, 浜由紀子, 富田香, 成田圭吾, 尾崎峰. 山田昌和: 巨大眼瞼部乳児血管腫を伴い不同視弱視治療を要した乳児例. *眼科臨床紀要* 2015. (in press).
  39. 渡邊交世: 虹彩毛様体炎の臨床, 糖尿病虹彩炎. *眼科* 57: 809-813, 2015.
  40. Abouammoh MA<sup>1</sup>, Alsulaiman SM<sup>2</sup>, Gupta VS<sup>3</sup>, Mousa A<sup>1</sup>, Hirakata A, Berrocal MH<sup>4</sup>, Chenworth M<sup>4</sup>, Chhablani J<sup>5</sup>, Oshima Y<sup>6</sup>, AlZamil WM<sup>7</sup>, Casella AM<sup>8</sup>, Papa-Oliva G<sup>9</sup>, Banker AS<sup>10</sup>, Arevalo JF<sup>11</sup>; King Khaled Eye Specialist Hospital International Collaborative Retina Study Group: (<sup>1</sup>Department of Ophthalmology, College of Medicine, King Saud University, Riyadh, <sup>2</sup>Vitreoretinal Division, King Khaled Eye Specialist Hospital, <sup>3</sup>Vitreoretinal Division, King Khaled Eye Specialist Hospital, <sup>4</sup>Department of Ophthalmology, University of Puerto Rico, <sup>5</sup>Smt. Kanuri Santhamma Retina Vitreous Centre, L.V. Prasad Eye Institute, Hyderabad, <sup>6</sup>Vitreoretina & Cataract Surgery Center, Oshima Eye Clinic, <sup>7</sup>King Fahad Hospital of the University, <sup>8</sup>Ophthalmology Department, Universidade Estadual de Londrina, <sup>9</sup>Centro Oftalmologico IUMO, Caracas, Venezuela Department of Ophthalmology, Hospital Miguel Perez Carreno- IVSS, <sup>10</sup>Banker's Retina Clinic and Laser Centre, <sup>11</sup>Vitreoretinal Division, King Khaled Eye Specialist Hospital, Johns Hopkins University School of Medicine.): Pars plana vitrectomy with juxtapapillary laser photocoagulation versus vitrectomy without juxtapapillary laser photocoagulation for the treatment of optic disc pit maculopathy: the results of the KKESH International Collaborative Retina Study Group. *Br J Ophthalmol* 100:478-483, 2016.
  41. 久須見有美, 佐野公彦, 中山真紀子, 厚東隆志, 井上真, 山本実, 平形明人: 非散瞳下超広角眼底撮影を用いた人間ドック健診の有用性. *日眼会誌* 120: 35-40, 2016.
  42. Nakanishi A, Ueno S, Hayashi T, Katagiri S, Kominami T, Ito Y, Gekka T, Masuda Y, Tsuneoka H, Shinoda K, Hirakata A, Inoue M, Fujinami K, Tsunoda K, Iwata T, Terasaki H: Clinical and genetic findings of autosomal recessive bestrophinopathy in Japanese cohort. *Am J Ophthalmol.* 2016. (Epub ahead of print).
  43. Endo H, Ishii H, Tsuchiya H, Takahashi Y, Inaba Y, Nishino Y, Hirakata A, Kubota H: Observations of retinal vessels during intermittent pressure-augmented retrograde cerebral perfusion in clinical cases. *Interact Cardiovasc Thorac Surg.* 2016. (Epub ahead of print).
  44. Watanabe T, Keino H, Sato Y, Kudo A, Okada AA: MicroRNAs in retina during development of experimental autoimmune uveoretinitis in rats. *Br J Ophthalmol* 100:425-431, 2016.
  45. Koizumi H, Kano M, Yamamoto A, Saito M, Maruko I, Sekiryu T, Okada AA, Iida T: Subfoveal choroidal thickness during aflibercept therapy for neovascular age-related macular degeneration: 12-month results. *Ophthalmology* 123:617-624, 2016.
  46. Fukui M, Yamada M, Akune Y, Shigeyasu C, Tsubota K: Fluorophotometric Analysis of the Ocular Surface Glycocalyx in Soft Contact Lens Wearers. *Curr Eye Res* 41:9-14, 2016.
  47. Kawashima M, Hiratsuka Y, Nakano T, Tamura H, Ono K, Murakami A, Inoue S, Tsubota K, Yamada M: The association between legal Japanese visual impairment grades and vision related quality of life. *Jpn J Ophthalmol.* 60:219-225, 2016.
  48. Tano T, Ono K, Hiratsuka Y, Otani K, Sekiguchi M, Konno S, Kikuchi S, Onishi Y, Takegami M, Yamada M, Fukuhara S, Murakami A: Retinal vessel diameters in a Japanese population: the Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study (LOHAS). *Acta Ophthalmol.* 2016. (Epub ahead of print).
  49. 山田昌和: 眼瞼下垂・眼球運動障害. *medicina* 53(増刊): 170-173, 2016.
  50. Inoue M: Retinal complications associated with congenital optic disc anomalies determined by swept source optical coherence tomography. *Taiwan Journal of Ophthalmology* 6(1): 8-14, 2016.

51. Itoh Y, VasANJI A, Ehlers JP: Volumetric ellipsoid zone mapping for enhanced visualisation of outer retinal integrity with optical coherence tomography. *Br J Ophthalmol.* 100(3):295-9, 2016.
  52. Itoh Y, Levison AL, Kaiser PK, Srivastava SK, Singh RP, Ehlers JP: Prevalence and characteristics of hyporeflexive preretinal tissue in vitreomacular interface disorders. *Br J Ophthalmol.* 100(3):399-404, 2016.
  53. Itoh Y, Srivastava SK, Ehlers JP: Spectral domain optical coherence tomography analysis with visualization of ellipsoid zone and volumetric assessment. *RETINA.* 2016. (In Press).
  54. Kita Y, Holló G, Kita R: Can diagnostic accuracy for early glaucoma be improved in Japanese? A trial with a potential new parameter of the RTVue OCT. *Journal for Modeling in Ophthalmology.* 1: 21-36, 2016.
  55. Kita Y, Anraku A, Kita R, Goldberg I: The clinical utility of measuring the macular outer retinal thickness in patients with glaucoma. *European Journal of Ophthalmology.* 26(2): 118-123, 2016.
  56. 渡邊交世, 慶野博: 眼の細菌感染, 結核性眼炎症疾患. *眼科*58: 143-150, 2016.
  57. 江本宜暢, 堀田一樹: アマンタジンの服用中断後にも角膜内皮細胞減少が持続した1例. *眼臨紀*9(3): 225-229, 2016.
- 著書**
1. 平形明人: Reticular Pseudodrusen. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編. 東京, メジカルビュー, 2015. p. 82-83.
  2. 平形明人: 外傷性黄斑円孔. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編. 東京, メジカルビュー, 2015. p. 82-83
  3. 平形明人: 視神経乳頭ピットに伴う網膜剥離. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編. 東京, メジカルビュー, 2015. p. 166-169.
  4. 平形明人: 朝顔症候群に伴う網膜剥離. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編. 東京, メジカルビュー, 2015. p. 170-173.
  5. 平形明人: 眼科健康診断(眼底検査)での超広角眼底撮影の利用. 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編. 東京, メジカルビュー, 2015. p. 206-207.
  6. 廣田和成, 平形明人: 視神経乳頭異常. 眼科臨床エキスパート 網膜剥離と極小切開硝子体手術. 寺崎浩子, 吉村長久編. 東京, 医学書院, 2015. p. 207-210.
  7. 厚東隆志, 平形明人: 近視性牽引黄斑症 治療/硝子体手術(総論). 専門医のための眼科診療クオリファイ 28 近視の病態とマネジメント. 大野京子編. 東京, 中山書店, 2015. p. 225-230.
  8. 山田昌和: 再発性上皮びらん. 眼科開業医のための診療・連携ポイント30. 松元俊, 吉川啓司編. 東京, 診断と治療社, 2015. p. 60-63.
  9. 山田昌和: 角結膜デルモイド. 知っておきたい眼腫瘍診療. 大島浩一, 後藤浩編. 東京, 医学書院, 2015. p. 423-426.
  10. 平形明人: 画像検査と網膜剥離. どう診てどう治す? 網膜剥離. 平形明人, 井上真編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 2-17.
  11. 平形明人: 強膜バックリング手術. どう診てどう治す? 網膜剥離. 平形明人, 井上真編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 31-44.
  12. 平形明人: Coats病に合併する滲出性網膜剥離. どう診てどう治す? 網膜剥離. 平形明人, 井上真編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 236-241.
  13. 井上真: 治療戦略のパターン. どう診てどう治す? 網膜剥離網膜剥離. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 25-30.
  14. 井上真: 小切開硝子体手術(MIVS). どう診てどう治す? 網膜剥離. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 52-66.
  15. 厚東隆志: 眼内タンポナーデ物質の選択. どう診てどう治す? 網膜剥離. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 72-77.
  16. 江本宜暢: 上方弁状裂孔による網膜剥離(その2). どう診てどう治す? 網膜剥離. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 134-136.
  17. 厚東隆志, 野村陽子: 下方弁状裂孔による網膜剥離. どう診てどう治す? 網膜剥離. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 137-143.
  18. 江本宜暢: 高度近視眼に合併する遊離網膜弁を伴った裂孔による網膜剥離. どう診てどう治す? 網膜剥離. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 144-146.
  19. 井上真: 黄斑裂孔による網膜剥離. どう診てどう治す? 網膜剥離. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 173-176.
  20. 厚東隆志: 後極裂孔による網膜剥離(その2). どう診てどう治す? 網膜剥離. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 179-183.
  21. 厚東隆志: 巨大裂孔網膜剥離(LASIK眼). どう診てどう治す? 網膜剥離. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 191-194.
  22. Okada AA: Posterior Uveitis. In: Uveitis. M Zierhut, C Pavesio, S Ohno, F Orefice, N Rao (eds.). Germany Springer, 2016.
  23. 山田昌和: 薬剤毒性角膜炎. 眼科疾患最新の治療2016-2018. 大橋裕一, 白神史雄, 村上晶編. 東京, 南江堂, 2016. p. 121.
  24. 渡邊交世: 梅毒, 結核. 眼科疾患最新の治療2016-2018. 大橋裕一, 白神史雄, 村上晶編. 東京, 南江堂, 2016. p. 253-254.
  25. 山田昌和: 角膜ジストロフィ, 角膜変性. 角結膜疾患の治療戦略. 島崎潤編. 東京, 医学書院, 2016. p. 297-308.
  26. 山田昌和: 先天性角膜混濁. 一目でわかる眼疾患の見分け方 上巻 角結膜疾患, 緑内障. 井上幸次, 山本哲也, 大路正人, 門之園一明編. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 2-4.
  27. 平形明人: 乳頭ピット黄斑症候群. 一目でわかる眼疾患の見分け方 下巻 ぶどう膜炎疾患, 網膜・硝子体疾患. 井上幸次, 山本哲也, 大路正人, 門之園一明編. 東京, メジカルビュー, 2015. p. 146-147.
  28. 井上真: 網膜震盪症(Berlin混濁). 一目でわかる眼疾患の見分け方 下巻. ぶどう膜炎疾患, 網膜硝子体疾患. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 149-150.
  29. 井上真: 硝子体出血. 一目でわかる眼疾患の見分け方 下巻. ぶどう膜炎疾患, 網膜硝子体疾患. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 151-152.
  30. 井上真: 脈絡膜破裂による続発性血管新生黄斑症. 一目でわかる眼疾患の見分け方 下巻. ぶどう膜炎疾患, 網膜硝子体疾患. 東京, メジカルビュー, 2016. p. 153-154.
  31. 厚東隆志: 黄斑円孔網膜剥離, 超広角でみる眼底病変診断. 平形明人, 大路正人, 井上真, 瓶井資弘編. 東京, メジカルビュー, 2015. p. 160-165.
  32. 井上真: 糖尿病眼合併症に対する低侵襲眼科手術. 日本糖尿病眼科学会誌. 2016. p. 126.
  33. 井上真: わかりやすい臨床講座. 強度近視に伴う近視性牽引性黄斑症と黄斑円孔網膜剥離の病態と治療. 日本の

眼科87(1) : 2016. p. 35-38.

34. 井上真: 糖尿病網膜症の硝子体手術. 眼科ケア18(2). 大阪, メディカ出版, 2016. p. 68-69.
35. 井上真: 裂孔原性網膜剥離 バックリングvs. ビトレクトミー. 眼科 58(1). 東京, 金原出版, 2016. p. 25-30.

#### 特許等知的財産関係, 報告書

1. 山田昌和: 平成26年度厚生労働省科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業), 希少難治性角膜疾患の疫学調査 (H26-難治等(難)一般-072) 分担研究報告書, 2015年5月.

#### その他

1. 井上真: 第3回Pfizerビデオアワードシルバー受賞, 第69回日本臨床眼科学会, 名古屋, 2015年10月23日.
2. 山田昌和: 公的眼科検診導入への動きが活発化. Medical Tribune 2015年5月14日号.
3. 山田昌和: 眼科検査の完全ガイド. 週刊朝日MOOK, 眼のいい病院, 老眼&眼の病気完全ガイド pp18-23, 2016年3月.
4. 山田昌和: 若いから白内障にならないは大きな勘違い. 日刊ゲンダイ 2015年3月31日号.
5. Rii T, Itoh Y, Inoue M, Hirota K, Hirakata A: Authors' reply. Can J Ophthalmol 50: 180, 2015.
6. Suzuki T<sup>1</sup>, Ohashi Y<sup>1</sup>, Oshika T<sup>2</sup>, Goto H<sup>3</sup>, Hirakata A, Fukushita K<sup>4</sup>, Miyata K<sup>5</sup> (<sup>1</sup>Ehime University, <sup>2</sup>University of Tsukuba, <sup>3</sup>Tokyo Medical University, <sup>4</sup>Karasuyama Eye Clinic, <sup>5</sup>Miyata Eye Hospital): Reply: To PMID 25637181. Am J Ophthalmol 160:209, 2015.
7. Koizumi H, Yamamoto A, Maruko I, Okada AA, Iida T, Kano M, Saito M, Sekiryu T, Kawasaki R: Reply regarding "Short-term changes in choroidal thickness after aflibercept therapy for neovascular age-related macular degeneration" Am J Ophthalmol 160:207-208, 2015.
8. Okada AA, Yamamoto A, Koizumi H, Kano M, Saito M, Maruko I, Sekiryu T, Iida T: Author Reply regarding "One-year results of intravitreal aflibercept for polypoidal choroidal vasculopathy." Ophthalmology 123:e13-e14, 2016.

#### 耳鼻咽喉科学教室

#### 講演

1. 茂呂順久: 診断治療に難渋したSedospirium apiospermumによる喉頭真菌症1例. 第27回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 東京, 2015年4月9-10日.
2. Kono T, Saito K, Uno K, Yabe H, Yamauchi A, Nito T, Ogawa K: Clinical trends and vocal function of presbylarynx; Status of the most advanced aging country, Japan. Combined Otolaryngology Spring Meetings, USA, April 22nd-26th, 2015.
3. 久保村郁子: 頭蓋内腫瘍を合併した難聴症例. 第23回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2015年4月25日.
4. 川原敬祐: くしゃみにより頸部血腫を生じた1例. 第23回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2015年4月25日.
5. 茂呂順久: 診断治療に難渋した Sedospirium apiospermum による喉頭真菌症の1例. 第23回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2015年4月25日.
6. 池田哲也, 他: ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対する新しい対応方法について. 第69回NPO法人日本口腔科学会学術集会, 大阪, 2015年5月13-15日.

7. 齋藤康一郎: 音声外科のすべてー過去から未来へー. 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 東京, 2015年5月20-23日.
8. 齋藤康一郎: 喉頭微細手術(ラリngoマイクロサージェリー). 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 東京, 2015年5月20-23日.
9. 佐藤大, 茂呂順久, 阿部千草, 甲能直幸: 術後の機能温存が可能であった頸部交感神経鞘腫の1例. 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 東京, 2015年5月20-23日.
10. 笠倉奈津子, 増田正次, 増田佐和子, 阪本浩一, 小河原昇, 三澤逸人, 甲能直幸, 松永達雄: 低音障害型感音難聴症例のオーディオグラムの詳細な特徴と難聴遺伝子変異の検討. 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 東京, 2015年5月20-23日.
11. 唐帆健浩, 川原敬祐, 佐藤哲也, 甲能直幸: 嚥下内視鏡・圧検査は嚥下造影検査の代替検査となり得るか?. 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 東京, 2015年5月20-23日.
12. 増田正次, 小川郁, 甲能直幸, Allen Ryan: deletion解析を用いたPou4f3の有毛細胞における発現調節機構の分析. 第116回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 東京, 2015年5月20-23日.
13. Saito K, Uno K, Kono T, Yabe H, Asano K: Laryngeal Disorders May Represent the First Symptoms of Serious Systemic Diseases. THE VOICE FOUNDATION 44TH SYMPOSIUM CARE OF THE PROFESSIONAL VOICE 2015 JOINT MEETING INTERNATIONAL ASSOCIATION OF PHONOSURGERY 12TH SYMPOSIUM, USA, May 26th-31st, 2015.
14. 宇野光祐, 齋藤康一郎, 甲能武幸, 鈴木武志, 森崎浩: ICU患者の待機的気管切開術に関する院内連携システムの運用経験. 第62回日本麻酔科学会, 神戸, 2015年5月28-30日.
15. Kono T, Saito K, Uno K, Yabe H, Ogawa K: Medialization Laryngoplasty Improves the Swallowing Function of the Patients with Unilateral Vocal Fold Paralysis. 3rd Congress of European ORL-HNS, Czech Republic, June 7th-11th, 2015.
16. 濱之上泰裕, 増田正次, 甲能直幸: 内耳道狭窄症の1例. 第77回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 浜松, 2015年6月25-26日.
17. 間藤翔悟, 山田深, 島崎真希子, 林良幸, 唐帆健浩, 岡島康友: 非ケトーシス型高グリシン血症児に対する哺乳及び摂食嚥下訓練の経験. 第16回日本言語聴覚学会, 仙台, 2015年6月26-27日.
18. 飯野由恵, 齋藤康一郎, 辻哲也, 宇野光祐, 甲能武幸, 矢部はる奈, 林隆一: 早期声門癌に対する(化学)放射線治療後の音声に関するQOLの検討. 第16回日本言語聴覚学会, 仙台, 2015年6月26-27日.
19. 甲能直幸: 耳鼻咽喉科領域のトピックス. 杉並区耳鼻咽喉科講演会, 東京, 2015年7月24日.
20. 齋藤康一郎: 正確な診断を目指した繊細な喉頭内視鏡検査ーストロボコピーの有効性ー. 第6回多摩杏林耳鼻科会, 武蔵野, 2015年7月25日.
21. 横井秀格, 山中英敬, 川原敬祐, 川田往嗣, 松本祐磨, 齋藤康一郎: 鼻腔内に生じた劇症型溶血性連鎖球菌感染症が示唆された1例. 第3回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会, 札幌, 2015年9月3-4日.
22. Masuda M, Li Y, Pak K, Chavez E, Mullen L, Ryan A: THE PROMOTER AND MULTIPLE ENHANCERS OF THE POU4F3 GENE REGULATE GENE EXPRESSION IN HAIR CELLS. The 52nd Inner Ear Biology Workshop and Symposium, Italy, September 12th-15th, 2015.

23. 齋藤康一郎: 実習指導. 第8回京大音声外科ワークショップ, 京都, 2015年9月12-14日.
24. Uno K, Saito K, Yabe H, Kono T, Ogawa K: CBCT Clarifies 3D Cervical Morphology for Advanced Airway Management. AA0-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO, USA, September 27th-30th, 2015.
25. 池田哲也, 横井秀格, 松本祐磨, 川田往嗣, 山中英敬, 齋藤康一郎: 副鼻腔真菌症と歯性上顎洞炎との関連についての検討. 第54回日本鼻科学会総会・学術講演会, 広島, 2015年10月1-3日.
26. 横井秀格, 秋元哲夫, 松本祐磨, 川田往嗣, 山中英敬, 川原敬祐, 齋藤康一郎: 内視鏡下経鼻的手術と眼瞼結膜外切開を施行した涙嚢, 鼻涙管が主座で, 下鼻道に進展した腺様嚢胞癌の一例. 第54回日本鼻科学会総会・学術講演会, 広島, 2015年10月1-3日.
27. 山中英敬, 横井秀格, 川原敬祐, 川田往嗣, 松本祐磨, 齋藤康一郎: 鼻中隔外傷が劇症型溶血性連鎖球菌感染症に進展したと示唆された1例. 第54回日本鼻科学会総会・学術講演会, 広島, 2015年10月1-3日.
28. 川田往嗣, 横井秀格, 松本祐磨, 山中英敬, 齋藤康一郎: 内視鏡下副鼻腔手術を施行した眼症状を併発する鼻副鼻腔疾患に関する臨床的検討. 第54回日本鼻科学会総会・学術講演会, 広島, 2015年10月1-3日.
29. 唐帆健浩: 摂食嚥下機能療法(嚥下訓練, 口腔ケアを含む). 第6回日本嚥下医学会主催嚥下機能評価研修会, 東京, 2015年10月4日.
30. 飯野由恵, 齋藤康一郎, 辻哲也, 宇野光祐, 甲能武幸, 矢部はる奈, 林隆一, 小川郁: 声門癌患者の(化学)放射線治療経過中における音声機能の変化. 第60回音声言語医学会, 名古屋, 2016年10月15-16日.
31. 唐帆健浩: 摂食嚥下機能療法(嚥下訓練, 口腔ケア・気道管理を含む). 第7回日本嚥下医学会主催嚥下機能評価研修会, 名古屋, 2015年10月17日.
32. 池田哲也, 他: ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対する新しい対応方法について. 第60回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015年10月16-18日.
33. 渡邊純, 他: 副鼻腔真菌症と歯性上顎洞炎との関連についての検討. 第60回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会, 名古屋, 2015年10月16-18日.
34. 甲能直幸: 舌癌に対する治療戦略—センチネルリンパ節ナビゲーション手術の可能性—. 第21回北日本頭頸部癌治療研究会, 仙台, 2015年10月24日.
35. 齋藤康一郎: 喉頭乳頭腫への関わり方. 第3回Airway Club Tama(多摩地区鼻疾患研究会), 調布, 2015年10月31日.
36. 尾川昌孝: 外歯瘻の一例. 第24回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2015年11月7日.
37. 濱之上泰裕: きぬた骨形態異常症例の術後の聴力. 第24回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2015年11月7日.
38. 茂木翼: 鼻腔内に生じた劇症型溶血性連鎖球菌感染症が示唆された一例. 第24回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2015年11月7日.
39. 小野修平: 内視鏡下副鼻腔手術を施行した眼症状を併発する副鼻腔疾患に関する臨床的検討. 第24回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2015年11月7日.
40. 池田哲也: 耳鼻咽喉科領域と歯性感染症. 第24回杏林大学耳鼻咽喉科病診連携カンファレンス, 三鷹, 2015年11月7日.
41. Saito K, Uno K: CBCT Clarifies 3D Cervical Morphology for Advanced Airway Management. Tracheostomy Key Opinion Leader Physician Panel, Ireland, November 12th-13th, 2015.
42. 齋藤康一郎, 矢部はる奈: コーンビームCTを用いた喉頭気管領域の診療. 第67回日本気管食道科学会ならびに学術講演会, 福島, 2015年11月19-20日.
43. 齋藤康一郎: 経皮的気管切開術. 第67回日本気管食道科学会ならびに学術講演会, 福島, 2015年11月19-20日.
44. 松本吉史, 松本祐磨, 齋藤康一郎: Cetuximab による下咽頭癌の遊走・浸潤・上皮間葉転換抑制効果. 第67回日本気管食道科学会ならびに学術講演会, 福島, 2015年11月19-20日.
45. 増田正次: 微生物学的検査等(インフルエンザ等)における検体採取に必要な知識・技能・態度. 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会, 東京, 2015年11月22日.
46. 増田正次, 五島史行, 鬼頭伸輔, 長谷川崇, 笠倉奈津子, 松本文武, 齋藤康一郎: 前庭代償不全に対する深部経頭蓋磁気刺激(TMS)を用いた治療. 第74回日本めまい平衡医学会総会・学術講演会, 岐阜, 2015年11月25-27日.
47. 齋藤康一郎: 喉頭疾患の診断, 治療に関するup-to-date. 杉並区耳鼻咽喉科専門医会学術講演会, 東京, 2015年11月27日.
48. 齋藤康一郎: 喉頭乳頭腫の取り扱い. 東京都耳鼻咽喉科医会学術講演会, 東京, 2015年12月5日.
49. 増田正次, 水足邦雄, 南修司郎, 大石直樹: パネルディスカッション「真珠腫を理解する」術式の変遷. 第13回慶應耳鼻咽喉科臨床懇話会, 東京, 2016年1月16日.
50. 甲能直幸: 耳鼻咽喉科診療のトピック—アレルギー性鼻炎の治療と手術療法—. 中野区・杉並区医師会耳鼻咽喉科分科部会講演会, 東京, 2016年1月19日.
51. 齋藤康一郎: 喉頭・気管領域におけるコーンビームCTの応用. 第21回多摩耳鼻咽喉科医会学術講演会, 東京, 2016年1月21日.
52. 横井秀格, 秋元哲夫, 松本祐磨, 川田往嗣, 山中英敬, 川原敬祐, 齋藤康一郎: 内視鏡下経鼻的手術と眼瞼結膜切開を施行した涙嚢, 鼻涙管が主座で, 下鼻道に進展した腺様嚢胞癌の一例. 第26回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 2016年1月28-29日.
53. 濱之上泰裕, 佐藤大, 茂呂順久, 川原敬祐, 唐帆健浩, 齋藤康一郎: 副甲状腺が原因となった深頭部血腫の2症例. 第26回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 2016年1月28-29日.
54. 佐藤大, 笠倉奈津子, 濱之上泰裕, 齋藤康一郎: 耳下腺転移をきたした腎細胞癌の2症例. 第26回日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会, 名古屋, 2016年1月28-29日.
55. 松本祐磨, 横井秀格, 齋藤康一郎: アレルギー性鼻炎における Gastrin Releasing Peptide (GRP) の関与について. 第34回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 鳥羽, 2016年2月4-6日.
56. 濱之上泰裕: 中咽頭癌に対する放射線治療後の開口障害および頬粘膜潰瘍に咬合拳上副子が奏効した1例. 第39回日本嚥下医学会総会ならびに学術講演会, 大阪, 2016年2月12-13日.
57. 川原敬祐, 唐帆健浩, 林良幸, 石井翼, 笠倉奈津子, 濱之上泰裕, 茂呂順久, 佐藤大, 齋藤康一郎: 頭頸部癌術後の嚥下障害に対する治療戦略. 第39回日本嚥下医学会ならびに学術集会, 大阪, 2016年2月12-13日.
58. 飯野由恵, 齋藤康一郎, 辻哲也, 宇野光祐, 矢部はる奈, 林隆一, 小川郁: 頭頸部癌患者における(化学)放射線治療前後の経時的な嚥下機能の変化. 第39回日本嚥下医学会総会・学術講演会, 大阪, 2016年2月12-13日.
59. Sato M, Nin F, Higuchi T, Uetsuka S, Yoshida T, Masuda M, Watabe T, Kanzaki S, Ogawa K, Doi K,

Takebayashi H, Tanaka K, Hibino H : Transient Induction of Deafness by Optogenesis Targeting the Endocochlear Potential in the Inner Ear. THE 39TH ANNUAL MIDWINTER MEETING OF THE ARO, USA, February 19th-24th, 2016.

60. 齋藤康一郎:喉頭気管領域におけるコーンビームCTの応用. 第26回日本気管食道科学会認定気管食道科専門医大会, 東京, 2016年2月20-21日.
61. 齋藤康一郎:咽頭乳頭腫の臨床的取扱い. 日本耳鼻咽喉科学会広島県地方部会研修会 第35回花粉アレルギー研究会, 広島, 2016年2月25日.
62. 久保村郁子, 中川秀樹, 渡邊格, 松田雄大, 齋藤康一郎: ストロボ機能内蔵オールインワン内視鏡システムの使用経験. 第28回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 大阪, 2016年3月3-4日.
63. 齋藤康一郎, 宇野光祐: Cone Beam CTの喉頭気管領域における臨床応用の可能性. 第28回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 大阪, 2016年3月3-4日.
64. 渡邊格, 中川秀樹, 久保村郁子, 松田雄大, 甲能武幸, 齋藤康一郎: 声帯内脂肪過注入に対して脂肪除去術を行った2症例. 第28回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 大阪, 2016年3月3-4日.
65. 富岡拓矢, 松延毅, 奥雄介, 平井絢子, 金信秀, 木下尚之, 笠倉奈津子, 齋藤康一郎: 喉頭直達鏡操作時に心停止をきたした一例. 第28回日本喉頭科学会総会・学術講演会, 大阪, 2016年3月3-4日.
66. 池田哲也, 宮本重樹, 渡邊純, 近津大地: 頭頸部放射線治療に伴う口腔乾燥症に対するピロカルピン塩酸塩(サラジェン®)の効果についての検討. 第25回日本有病者歯科医療学会・学術大会, 東京, 2016年3月4-6日.
67. 甲能直幸: 耳鼻科のがんとアレルギー. セシオン健康講演会, 東京, 2016年3月7日.
68. Saito K, Yabe H, Uno K: Clinical applications of cone beam CT for laryngo-tracheal lesions. JKJM2016 16th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Tokyo, March 28th-30th, 2016.
69. Yokoi H: Thyroid-like low-grade nasopharyngeal papillary adenocarcinoma: A case report and review of literature. JKJM2016 16th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Tokyo, March 28th-30th, 2016.
70. Masuda M, Goto F, Hasegawa T, Matsumoto J, Kasakura N, Miyama Yo, Saito K, Kito S : Deep repetitive transcranial magnetic stimulation of the vestibular cerebellum for the treatment of chronic dynamic vestibular decompensation. JKJM2016 16th Japan-Korea Joint Meeting of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Tokyo, March 28th-30th, 2016.

## 論 文

1. 齋藤康一郎, 矢部はる奈<sup>1</sup>(<sup>1</sup>川崎市立井田病院): 声帯萎縮に対する手術. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 87(5): 168-172, 2015.
2. 齋藤康一郎: 経皮的気道確保手技. 日本気管食道科学会会報 66(2): 175-178, 2015.
3. 小柏靖直<sup>1</sup>, 横井秀格, 甲能直幸(<sup>1</sup>埼玉医科大学国際医療センター): 耳鼻咽喉科における救急医療体制の現状と問題点. 日本耳鼻咽喉科学会会報 118(5): 668-674, 2015.
4. 齋藤康一郎: 喉頭良性疾患の診断と治療. 日本耳鼻咽喉科学会会報 118(7): 894-897, 2015.
5. 宮本重樹, 小川隆<sup>1</sup>, 金子忠良<sup>1</sup>, 今井健一<sup>2</sup>, 落合邦康<sup>2</sup>, 藤井毅<sup>3</sup>, 近津大地<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東京医科大学, <sup>2</sup>日本大学, <sup>3</sup>恵比寿デンタルクリニック): 口腔症状によりHIV感染症が判明した2例. 有病者歯科医療 24(2): 74-79, 2015.
6. 小川郁<sup>1</sup>, 増田正次(<sup>1</sup>慶応義塾大学): 病態・疾患と自律神経 耳鳴発症に自律神経はどう関与するか?. JOHNS 31(8): 991-994, 2015.
7. 齋藤康一郎: 疾患別 咳の診かた 喉頭疾患による咳. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 87(10): 798-801, 2015.
8. 齋藤康一郎: 耳鼻咽喉科の疾患・症候別薬物療法 喉頭乳頭腫. JOHNS 31(9): 1346-1348, 2015.
9. 齋藤康一郎: 耳鼻咽喉科からみた頸部リンパ節腫脹の鑑別診断. 血液内科 71(3): 325-329, 2015.
10. 唐帆健浩, 川原敬祐: 耳鼻咽喉科の疾患・症候別薬物療法-嚥下障害. JOHNS 31(9): 1321-1323, 2015.
11. 横井秀格: アレルギー性鼻炎 COPD重症化因子としての役割. ENTONI 184: 41-50, 2015.
12. 大久保啓介<sup>1</sup>, 齋藤康一郎(<sup>1</sup>佐野厚生総合病院): 喉頭乳頭腫はどのように治療するか? 手術的治療の立場から. JOHNS 31(12): 1783-1786, 2015.
13. 齋藤康一郎: 音声治療の実際と適応. 日本耳鼻咽喉科学会会報 119(1): 68-69, 2016.
14. 原浩貴<sup>1</sup>, 二藤隆春<sup>2</sup>, 齋藤康一郎, 鹿野真人<sup>3</sup>(<sup>1</sup>山口大学, <sup>2</sup>東京大学, <sup>3</sup>大原総合病院): 嚥下手術 私の術式(series09) 気管切開術. 嚥下医学 5(1): 20-33, 2016.
15. Kogashiwa Y<sup>1</sup>, Yokoi H, Kohno N(<sup>1</sup>Saitama Medical University International Medical Center): Emergency Care System in Otolaryngology. Nihon Jibiinkoka Gakkai Kaiho 118(5):668-74, 2015.
16. Yokoi H, Yazawa T<sup>1</sup>, Matsumoto Y, Ikeda T, Fujiwara M<sup>1</sup>, Ohkura Y<sup>1</sup>, Kohno N(<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): An Inflammatory Pseudotumor Arising from Pterygopalatine Fossa with Invasion to the Maxillary Sinus and Orbital Cavity. Case Rep Otolaryngol 2015:950823, 2015.
17. Kogashiwa Y<sup>1</sup>, Sakurai H<sup>2</sup>, Akimoto Y<sup>3</sup>, Sato D, Ikeda T, Matsumoto Y, Moro Y, Kimura T<sup>2</sup>, Hamanoue Y, Nakamura T, Yamauchi K, Saito K, Sugawara M<sup>1</sup>, Kohno N(<sup>1</sup>Saitama Medical University International Medical Center, <sup>2</sup>Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine): Sentinel Node Biopsy for the Head and Neck Using Contrast-Enhanced Ultrasonography Combined with Indocyanine Green Fluorescence in Animal Models: A Feasibility Study. PLoS One 10(7):e0132511, 2015.
18. Matsumoto Y, Yokoi H, Ikeda T, Fujiwara M<sup>1</sup>, Kamma H<sup>1</sup>, Kohno N (<sup>1</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Intra-Adenoid Cyst: A Case Report with an Immunohistochemical Study and Review of Literature. Clin Med Insights Case Rep 8:41-45, 2015.
19. Yokoi H, Kodama S<sup>1</sup>, Kogashiwa Y<sup>2</sup>, Matsumoto Y, Ohkura Y<sup>3</sup>, Nakagawa T<sup>4</sup>, Kohno N (<sup>1</sup>Oita University, <sup>2</sup>Saitama Medical University International Medical Center, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine, <sup>4</sup>Kyoto University): An endoscopic endonasal approach for early-stage olfactory neuroblastoma: an evaluation of 2 cases with minireview of literature. Case Rep Otolaryngol 2015:541026, 2015.
20. Matsumoto Y, Ikeda T, Yokoi H, Kohno N: Association between odontogenic infections and unilateral sinus opacification. Auris Nasus Larynx 42(4): 288-293, 2015.

21. Ikeda T, Kuraguchi J, Kogashiwa Y, Yokoi H, Satomi T, Kohno N: Successful treatment of bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw (BRONJ) patients with sitafloxacin: new strategies for the treatment of BRONJ. *Bone* 73:17-22, 2015.
22. Saito K : Diagnosis and treatment of laryngeal disease. *Nihon Jibiinkoka Gakkai Kaiho* 118(7): 894-897, 2015.
23. Kono T<sup>1</sup>, Saito K, Yabe H<sup>1</sup>, Uno K<sup>1</sup>, Ogawa K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University School of Medicine): Comparative multidimensional assessment of laryngeal function and quality of life after radiotherapy and laser surgery for early glottic cancer. *Head Neck* 38(7):1085-1090, 2016. (WEB)
24. Masuda M, Mutai H<sup>1</sup>, Arimoto Y<sup>2</sup>, Nakano A<sup>2</sup>, Matsunaga T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Hospital Organization Tokyo Medical Center, <sup>2</sup>Chiba Children's Hospital) : A novel frameshift variant of COCH supports the hypothesis that haploinsufficiency is not a cause of autosomal dominant nonsyndromic deafness 9. *Biochem Biophys Res Commun* 469(2):270-274, 2016.
25. Ryan AP<sup>1</sup>, Ikeda R<sup>1</sup>, Masuda M (<sup>1</sup>University of California, San Diego-School of Medicine): The regulation of gene expression in hair cells. *Hear Res* 329:33-40, 2015.
26. Pichler U<sup>1</sup>, Hauser M<sup>1</sup>, Wolf M<sup>1</sup>, Bernardi ML<sup>2</sup>, Gadermaier G<sup>1</sup>, Weiss R<sup>1</sup>, Ebner C<sup>3</sup>, Yokoi H, Takai T<sup>4</sup>, Didierlaurent A<sup>5</sup>, Rafaiani C<sup>2</sup>, Briza P<sup>1</sup>, Mari A<sup>2</sup>, Behrendt H<sup>6</sup>, Wallner M<sup>1</sup>, Ferreira F<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Salzburg, <sup>2</sup>Centro di Allergologia Molecolare, <sup>3</sup>Allergieambulatorium am Reumanplatz, <sup>4</sup>Juntendo University, Graduate School of Medicine, <sup>5</sup>Stallergenes S.A., <sup>6</sup>ZAUM, Center for Allergy and Environment): Pectate lyase pollen allergens: sensitization profiles and cross-reactivity pattern. *PLoS One* 10(5):e0120038, 2015.

**著書**

1. 齋藤康一郎: IV. 喉頭領域 A. 音声 3. 音声機能検査と音響分析の適切な解釈は? . EBM耳鼻咽喉科・頭頸部外科の治療2015-2016 第1版. 池田勝久, 武田憲昭, 香取幸夫, 原淵保明, 丹生健一編集. 東京, 中外医学社, 2015. p. 428-436.
2. 齋藤康一郎: 食道異物の診断. 気道食道異物摘出マニュアル. 日本気管食道科学会編集. 東京, 金原出版, 2015. p. 54-57.
3. 唐帆健浩: 嚥下障害に対する筋電図検査と嚥下圧検査のエビデンスは? . EBM耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の治療2015-2016 第1版. 池田勝久, 武田憲昭, 香取幸夫, 原淵保明, 丹生健一編集. 東京, 中外医学社, 2015. p. 496-500.
4. 唐帆健浩: 嚥下障害. 今日の治療指針 第1版. 山口徹, 北原光夫監修. 東京, 医学書院, 2016. p. 1551-1552.

**その他**

1. 甲能直幸: 耳を大事にすれば, 集中力もからだのバランスもキープできる【目指せエージシューター 80GOLFのススメ】. 週刊パワーゴルフ. 10/6号: p. 72-74, 2015.
2. 甲能直幸: 【書評】内視鏡下鼻内副鼻腔手術—副鼻腔疾患から頭蓋底疾患まで—. 週刊医学会新聞 3149:p. 7, 2015.
3. 甲能直幸: 【書評】内視鏡下鼻内副鼻腔手術—副鼻腔疾患から頭蓋底疾患まで—. 耳喉頭頸 87(13): p. 1140, 2015.
4. 甲能直幸: 【発刊によせて】66年間英知の結集. 気管食道異物摘出マニュアル (動画DVD付). 日本気管食道科

学会. 東京, 金原出版, 2015.

5. 甲能直幸: 上気道疾患とCOPD (慢性閉塞性肺疾患). ENTONI No.184. 東京, 全日本病院出版社, 2015.
6. 齋藤康一郎: 「ドクターズサロン」咽喉頭異常感症と逆流性食道炎. ラジオNIKKEI, 2016年1月29日.

**産科婦人科学教室**

**講演**

1. 長内喜代乃, 小林陽一, 堂園溪, 西ヶ谷順子, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 橋場雅道, 三田静香, 岩下光利: 子宮内膜症由来培養細胞における卵巣内膜症性嚢胞内容液のreactive oxygen species (ROS) 産生能と臨床的意義. 公益社団法人日本産科婦人科学会第67回学術講演会, 横浜, 2015年4月9-12日.
2. 田中啓, 松島実穂, 和地祐一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: リアルタイムPCR法を用いた分娩時B群レンサ球菌スクリーニング法. 第67回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015年4月9-12日.
3. 西ヶ谷順子, 小林陽一, 堂園溪, 長内喜代乃, 松澤由記子, 大槻愛, 徳永英樹, 渡部洋, 八重樫伸生, 長谷川清志, 深澤一雄, 岩下光利: 子宮平滑筋肉腫の術前診断におけるDダイマー値およびCRP値の有用性. 第67回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015年4月9-12日.
4. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 下肢深部静脈血栓症合併症例における周術期治療的フォンダパリヌクスナトリウム投与に関する検討. 第67回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015年4月9-12日.
5. 橋場剛士, 清本千景, 松澤由記子, 和地祐一, 岩下光利: Asherman症候群に対する総合的治療戦略. 第67回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015年4月9-12日.
6. 中島千絵, 井澤朋子, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 産科危機的出血に対する子宮動脈塞栓術において使用する塞栓物質についての検討. 第67回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015年4月9-12日.
7. 長谷川潤一, 中井章人, 川端伊久乃, 竹田善治, 青木宏明, 深見武彦, 田嶋敦, 宮越敬, 大槻克文, 篠塚憲男, 松田義雄, 岩下光利, 岡井崇, 大井理恵, 牧野真太郎, 松島実穂, 多田和美, 桑田和之: 妊娠中期の前置胎盤の超音波診断率の向上をめざした前方視的多施設観察研究. 第67回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 2015年4月9-12日.
8. 小林陽一: 婦人科がんにおける遺伝性腫瘍の意義. 第27年度南多摩産婦人科医会講演会, 八王子, 2015年4月21日.
9. 松澤由記子, 酒井啓治, 岩下光利: 脱落膜における異型プロラクチンの動態について. 第88回日本内分泌学会学術総会, 東京, 2015年4月23-25日.
10. 佐藤泰紀, 松澤由記子, 渡部耕平, 松島実穂, 井澤朋子, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: 母体を救命しえた劇症A群連鎖球菌感染症「分娩型」の1例. 第374回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2015年5月23日.
11. 百村麻衣, 小林陽一, 鳥海玲奈, 齋藤将也, 坂本憲彦, 平野和彦, 望月眞, 寺戸雄一, 岩下光利: 子宮頸部大細胞神経内分泌癌の1例. 第56回日本臨床細胞学会総会春期大会, 松江, 2015年6月12-14日.
12. 深川裕一郎, 松澤由記子, 渡部耕平, 松島実穂, 井澤朋子, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: 子宮内容除去手術の子宮内仮性動脈瘤に対して内服加療が可能であった1症例. 第129回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京, 2015年6月20-21日.
13. 本田理貢, 長内喜代乃, 堂園溪, 西ヶ谷順子, 澁谷裕美,



- 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 肺高血圧症合併患者における婦人科手術周術期管理の検討. 第129回関東連合産科婦人科学会学術集会, 東京, 2015年6月20-21日.
14. 岩下光利: 産婦人科領域での最近の話題. 広島県南産婦人科医学会学術講演会, 呉, 2015年6月24日.
  15. 岩下光利: 不妊治療ならびに最近の産婦人科学会のトピックス. 東京産婦人科医学会城北ブロック合同勉強会, 東京, 2015年6月30日.
  16. 北村亜也, 井澤朋子, 松島実穂, 松澤由記子, 長島隆, 古川誠志, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: スーパー母体搬送時の連絡体制. 第373回四水会, 東京, 2015年7月1日.
  17. 田中啓, 宮崎典子, 松島実穂, 山田研二, 井澤朋子, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: 子宮頸管粘液中顆粒球エラストラーゼの単回測定による双胎妊娠の早産予測. 第51回日本周産期・新生児医学会学術集会, 福岡, 2015年7月10-12日.
  18. 田中啓, 宮崎典子, 松島実穂, 山田研二, 井澤朋子, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: 子宮頸管粘液中顆粒球エラストラーゼの連続測定による双胎妊娠の早産予測. 第51回日本周産期・新生児医学会学術集会, 福岡, 2015年7月10-12日.
  19. 井澤朋子, 田中啓, 渡部耕平, 黒田恵子, 井上慶子, 宮崎典子, 松島実穂, 和地祐一, 酒井啓治, 岩下光利: 産後過多出血に対する子宮動脈塞栓術の合併症. 第51回日本周産期・新生児医学会学術集会, 福岡, 2015年7月10-12日.
  20. 松澤由記子, 渡部耕平, 松島実穂, 井澤朋子, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: 子宮内容除去術後の子宮内仮性動脈瘤に対する中用量ビルの使用経験. 第51回日本周産期・新生児医学会学術集会, 福岡, 2015年7月10-12日.
  21. 松島実穂, 酒井啓治, 渡部耕平, 田中啓, 松澤由記子, 岩下光利: 妊娠中期に重度の一過性羊水過少を伴った胎児発育不全の一例. 第51回日本周産期・新生児医学会学術集会, 福岡, 2015年7月10-12日.
  22. 澁谷裕美, 小林陽一, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 岩下光利: 腔壁コンジローマ切除後に発生した扁平上皮癌により多発リンパ節転移を来し急速な転帰をたどった例. 第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 盛岡, 2015年8月7-9日.
  23. 渡邊百恵, 田中啓, 杉山重里, 山崎龍王, 堂園溪, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 梅澤聡, 高松潔, 小林陽一, 岩下光利: Type1子宮体癌(類内膜腺癌G1およびG2)の予後因子に関する後方視的研究. 第57回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 盛岡, 2015年8月7-9日.
  24. 長内喜代乃, 小林陽一, 井澤朋子, 酒井啓治, 岩下光利: ラメルテオンはエストロゲンレセプター(ER)陽性子宮内膜癌培養細胞の増殖、浸潤を抑制する. 第33回日本ヒト細胞学会, 宮崎, 2015年8月22日.
  25. 古川誠志: 産科出血と母体死亡. 三重県生涯教育特別研修セミナー, 津, 2015年8月27日.
  26. 岩下光利: 産婦人科をめぐる最近のトピックス. 東北大学総合周産期医療センター周産期医療セミナー, 仙台, 2015年9月9日.
  27. 渡邊百恵, 澁谷裕美, 深川裕一郎, 齋藤将也, 黒田恵子, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 当院で早期子宮体癌に対し腹腔鏡下子宮全摘術を施行した症例についての検討. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 東京, 2015年9月10日.
  28. 深川裕一郎, 澁谷裕美, 齋藤将也, 渡邊百恵, 黒田恵子, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: MRIにて正常大卵巣腫瘍が疑われ、腹腔鏡下手術摘出検体にて診断した2症例. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 東京, 2015年9月10日.
  29. 齋藤将也, 澁谷裕美, 深川裕一郎, 渡邊百恵, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 対応に難渋した腹腔鏡下手術後創部膿瘍の1例. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 東京, 2015年9月10日.
  30. 黒田恵子, 澁谷裕美, 深川裕一郎, 齋藤将也, 渡邊百恵, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 腹腔鏡下子宮筋腫核出術後に急性汎発性腹膜炎による麻痺性イレウスを発症した1例. 第55回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会, 東京, 2015年9月10日.
  31. 岩下光利: 産科医と助産師の連携. 第71回熊本大学医学部産科婦人科学教室同窓会学術講演会, 熊本, 2015年9月13日.
  32. Nishigaya Y, Kobayashi Y, Shibuya H, Momomura M, Matsumoto H, Iwashita M: The incidence of preoperative deep venous thrombosis (DVT) in pelvic organ prolapse (POP). XXI FIGO World Congress of Obstetrics and Gynecology, Canada, October 5th, 2015.
  33. 古川誠志: 妊娠と糖尿病. 北多摩西部保健医療圏周産期医療ネットワークグループ研修会, 立川, 2015年10月23日.
  34. 堂園溪, 東眞, 渡部耕平, 酒井謙, 小山典宏: 分娩後に子宮頸部円錐切除術を施行し頸管閉塞を来した1例. 第130回関東連合産科婦人科学会学術集会, 千葉, 2015年10月24-25日.
  35. 春名佑美, 田中啓, 松島実穂, 松澤由記子, 井澤朋子, 古川誠志, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: 妊娠中に左側urinomaを発症した一例. 第130回関東連合産科婦人科学会学術集会, 千葉, 2015年10月24-25日.
  36. 村岡由真, 澁谷裕美, 渡邊百恵, 黒田恵子, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 単純型子宮内膜増殖症の経過観察中に子宮腺肉腫と診断された一例. 第130回関東連合産科婦人科学会学術集会, 千葉, 2015年10月24-25日.
  37. Watanabe M, Shibuya H, Kobayashi Y, Iwashita M: Study of total laparoscopic hysterectomy for early-stage endometrial cancer in our department. The 19th International Meeting of the European Society of Gynecological Oncology (ESGO 2015), France, October 24th-27th, 2015.
  38. 百村麻衣, 野田清香, 中島千絵, 鳥海玲奈, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 婦人科悪性腫瘍の照射野内再発に対するサイバーナイフ治療の検討. 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015年10月29-31日.
  39. 西ヶ谷順子, 小林陽一, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 岩下光利, 白井浩明, 川上英泰, 篠原高雄: 中等度催吐性レジメンにおける嘔吐症状のリスク因子について. 第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015年10月29-31日.
  40. 西ヶ谷順子, 中山真恵, 渋谷英里子, 長内喜代乃, 澁谷裕美, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 若年子宮頸がん患者における卵巣摘出術施行症例の臨床的検討. 第30回日本女性医学学会, 名古屋, 2015年11月8日.
  41. 古川誠志: 妊娠合併症と潜在性甲状腺機能低下症. 東京産婦人科医学会多摩ブロック総会学術講演会, 立川, 2015年11月16日.
  42. 小林陽一: 女性の医学～子宮と卵巣のがんから身を守るには. 第44回杏林医学会総会市民公開講演会, 三鷹, 2015年11月21日.
  43. 古川誠志: 高齢妊娠に伴う諸問題. 第44回杏林医学会総会市民公開講演会, 三鷹, 2015年11月21日.

44. 百村麻衣, 小林陽一, 望月眞, 坂本憲彦, 長内喜代乃, 西ヶ谷順子, 松本浩範: 子宮頸部 Condylomatous carcinomaの1例. 第54回日本臨床細胞学会秋期大会, 名古屋, 2015年11月21-22日.
45. 村岡由真, 長内喜代乃, 渋谷英里子, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 肺高血圧症患者における手術管理. 第374回四水会, 東京, 2015年12月2日.
46. 中山真恵, 松島美穂, 深川裕一郎, 金田由香子, 井澤朋子, 古川誠志, 小林陽一, 岩下光利: 胎児水腫を伴った一過性骨髄異常増殖症の1例. 第376回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2015年12月19日.
47. 長内喜代乃, 小林陽一, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 岩下光利: 卵巣内膜症性嚢胞患者における尿中メラトニン代謝産物の検討. 第37回日本エンドメトリオーシス学会, 熊本, 2016年1月28日.
48. 岩下光利: 産科医と助産師の連携. 石川県医師会第3回周産期・母子保健研修会, 金沢, 2016年2月5日.
49. 小林陽一: 遺伝性腫瘍の臨床とその管理. 国分寺市・小金井市医師会合同学術講演会, 国分寺, 2016年2月16日.
50. 村岡由真, 長内喜代乃, 渋谷英里子, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 成熟嚢胞性奇形腫の悪性転化との鑑別に苦慮した悪性リンパ腫再発の1例. 第377回東京産科婦人科学会例会, 東京, 2016年2月20日.
51. 古川誠志: 糖尿病の管理と妊娠中のスクリーニング. 杏林セミオープン連絡会, 武蔵野, 2016年2月22日.
- 論文**
1. Tanaka K, Miyazaki N, Matsushima M, Yagishita R, Izawa T, Tanigaki S, Sakai K, Iwashita M: Prenatal diagnosis of Klippel-Trenaunay-Weber syndrome with Kasabach-Merritt syndrome in utero. *J Med Ultrasonic* 42: 109-112, 2015.
2. 岡愛子, 百村麻衣, 鳥海玲奈, 齋藤将也, 堂園溪, 田中啓, 澁谷裕美, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 子宮肉腫と鑑別を要した嚢胞性子宮腺筋症の1例. *東京産婦会誌* 64:47-51, 2015.
3. 岩下光利: 杏林大学医学部付属病院, 総合周産期母子医療センターの現状. *杏林医会誌* 46:37-40, 2015.
4. Maki Y<sup>1</sup>, Furukawa S, Kodama Y<sup>1</sup>, Sameshima H<sup>1</sup>, Ikenoue T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Miyazaki University): Amniocentesis for threatened preterm labor with intact membranes and the impact on adverse outcome in infants born at 22 to 28 weeks of gestation. *Early Hum Dev* 91:333-337, 2015.
5. 松澤由記子, 清本千景, 和地祐一, 井澤朋子, 橋場剛士, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: Asherman症候群術後に妊娠に至った3例. *東京産婦会誌* 64: 314-320, 2015.
6. 富岡紀子, 井澤朋子, 岡愛子, 中島千絵, 田中啓, 松島美穂, 和地祐一, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利: 出生前に診断に苦慮した腸回転異常を伴わない小腸捻転症の1例. *東京産婦会誌* 64:334-337, 2015.
7. 藤崎碧, 村岡純輔, 明野慶子, 牧洋平, 古川誠志, 鮫島浩: ダンピング症候群合併妊婦の血糖管理に持続血糖測定と食物繊維が有効であった1例. *日周産期・新生児会誌* 51:381-386, 2015.
8. 本田理真, 百村麻衣, 鳥海玲奈, 齋藤将也, 西ヶ谷順子, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 細胞診が診断に有用であった骨盤内放線菌症の1例. *東京産婦会誌* 64:354-358, 2015.
9. Furukawa S, Sameshima H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Miyazaki University): The Importance of the Monitoring of Resuscitation with Blood Transfusion for Uterine Inversion in Obstetrical Hemorrhage. *Obstet and Gynecol Int* 2015: 269156, 2015.
10. 小林陽一: 家族性卵巣がんの頻度・診断と治療. *腫瘍内科* 16:219-224, 2015.
11. Tanaka K, Matsushima M, Matsuzawa Y, Izawa T, Sakai K, Kobayashi Y, Iwashita M: Antepartum reversible cerebral vasoconstriction syndrome with preeclampsia and reversible posterior leukoencephalopathy. *J Obstet Gynecol Res* 41: 1843-1847, 2015.
12. Furukawa S, Nakajima A<sup>1</sup>, Sameshima H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Miyazaki University): The longitudinal change of extracellular antioxidant status during pregnancy using an electron spin resonance method. *J Matern Fetal Neonatal Med* 23:1-6, 2015.
13. Tanaka K, Iwashita M, Matsushima M, Wachi Y, Izawa T, Sakai K and Kobayashi Y: Intrapartum group B Streptococcus screening using real-time polymerase chain reaction in Japanese population. *J Matern Fetal Neonatal Med* 29:130-134, 2016.
14. Maki Y<sup>1</sup>, Furukawa S, Kodama Y<sup>1</sup>, Sumiyoshi K<sup>1</sup>, Kino E<sup>1</sup>, Sameshima H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Miyazaki University): Preterm labor and neonatal sepsis caused by intrauterine Helicobacter cinaedi infection. *J Infect Chemother*: 1-3, 2016.
15. 佐藤泰紀, 松澤由記子, 渡部耕平, 松島美穂, 井澤朋子, 酒井啓治, 小林陽一, 岩下光利, 酒井謙: 母体を救命しえた劇症分娩型A群レンサ球菌感染症の1例. *東京産婦会誌* 65:21-28, 2016.
16. 片山沙弥, 百村麻衣, 野田清香, 中島千絵, 堂園溪, 齋藤将也, 松本浩範, 小林陽一, 岩下光利: 後腹膜神経鞘腫の1例. *東京産科婦人科学会誌* 65:158-162, 2016.
17. Otsuki K<sup>1</sup>, Nakai A<sup>2</sup>, Matsuda Y<sup>3</sup>, Shinozuka N<sup>4</sup>, Kawabata I<sup>5</sup>, Makino Y<sup>6</sup>, Kamei Y<sup>7</sup>, Iwashita M, Okai T<sup>8</sup> (<sup>1</sup>Showa University Koto Toyosu Hospital, <sup>2</sup>Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital, <sup>3</sup>International University of Health and Welfare, <sup>4</sup>Fetal Medicine Research Unit, <sup>5</sup>Nippon Medical School, Musashi-Kosugi Hospital, <sup>6</sup>Tokyo Women's University, <sup>7</sup>Tokyo University, <sup>8</sup>Showa University School of Medicine): Randomized trial of ultrasound-indicated cerclage in singleton women without lower genital tract inflammation. *J Obstet Gynaecol Res* 42:148-157, 2016.
18. Tanaka K, Sakai K, Matsushima M, Matsuzawa Y, Izawa T, Nagashima T, Furukawa S, Kobayashi Y, Iwashita M: Branched-chain amino acids regulate insulin-like growth factor-binding protein 1 (IGFBP1) production by decidua and influence trophoblast migration through IGFBP1. *Mol Hum Reprod*. (epub 2016).
19. 小林陽一: 子宮と卵巣のがんから身を守るには. *杏林医学雑誌* 47:81-83, 2016.
20. 尾坂真<sup>1</sup>, 秋田貴之<sup>1</sup>, 寺戸雄一<sup>2</sup>, 矢澤卓也<sup>2</sup>, 菅間博<sup>2</sup>, 大倉康男<sup>2</sup>, 西ヶ谷順子, 百村麻衣, 小林陽一, 望月眞<sup>2</sup> (<sup>1</sup>杏林大・医・医学科, <sup>2</sup>杏林大・病理): 子宮内腔, 腹膜に転移を示した卵管原発明細胞腺癌の1例. *病理診断* 33:106-110, 2016.
21. 紀愛美<sup>1</sup>, 牧洋平<sup>1</sup>, 藤崎碧<sup>1</sup>, 古川誠志, 鮫島浩<sup>1</sup> (<sup>1</sup>宮崎大): 1型糖尿病合併妊娠に対するcontinuous glucose monitoringを用いた血糖管理の有用性の検討. *糖尿病と妊娠* 16(1):33-37, 2016.
22. 紀愛美<sup>1</sup>, 児玉由紀<sup>1</sup>, 大橋昌尚<sup>1</sup>, 河野典子<sup>1</sup>, 古川誠志, 鮫島浩<sup>1</sup>, 池ノ上克<sup>1</sup>, 卜部浩俊<sup>1</sup>, 道方香織<sup>1</sup>, 蓮田淳<sup>1</sup> (<sup>1</sup>

宮崎大) : 劇症1型糖尿病の診断基準を満たした妊娠中の急性1型糖尿病. 糖尿病と妊娠 16(1) : 57-62, 2016.

23. 古川誠志 : 高齢妊娠に伴う諸問題. 杏林医学会誌 47 : 77-79, 2016.

## 著書

1. 岩下光利 : 産褥異常の管理と処置「子宮復古不全」. MFICUマニュアル第3版. MFICU連絡協議会編. 大阪, メディカ出版, 2015. p. 515-518.
2. 小林陽一 : 婦人科腫瘍分野, 子宮体癌(中リスク). 産婦人科処方実践マニュアル. 「産科と婦人科」編集委員会編. 東京, 診断と治療社, 2016. p. 131-133.

## 放射線医学教室

### 講演

1. Ohara A, Tsuchiya K, Gomyo M, Tateishi H, Katase S, Nitatori T: Changes in CBF on ASL Perfusion Imaging at Different Labeling Delay Times in Intracranial Tumors. The 74th Annual Meeting of the Japan Radiological Society, Yokohama, April 16th-19th, 2015.
2. Kariyasu T, Yokoyama K, Imai M, Ishimura R, Nitatori T, Yoshioka T, Hamada K, Miyazaki I, Kuhara S: Initial clinical experience with cardiac MRI for patients with MRI-conditional cardiac implantable electronic devices. The 74th Annual Meeting of the Japan Radiological society, Yokohama, April 16th-19th, 2015.
3. 立石秀勝, 増田裕, 黒木一典, 荏安俊哉, 似鳥俊明 : ゼラチンスポンジ破片とマイクロコイルによる産褥期出血UAEの初期成績. 第44回日本IVR学会総会, 宮崎, 2015年5月28-30日.
4. Ishimura R, Yokoyama K, Kariyasu T, Kuhara S, Nitatori T: Comparison of right ventricular volume measurements obtained using transaxial and short-axis slices acquired by cardiac MRI in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension. International society for magnetic resonance in medicine 2015, Canada, May 30th, -June 5th, 2015.
5. 塚原弥生, 山下詠子, 似鳥俊明, 岩元香保里, 横山政明, 近藤恵里, 大森嘉彦, 大蔵康男 : 腎細胞癌に胆嚢転移を伴った一例. 腹部放射線研究会, 静岡, 2015年6月19-20日.
6. 大原有紗, 土屋一洋 : 水痘帯状疱疹髄膜脳炎. 第35回神経放射線ワークショップ, 福岡, 2015年6月25-27日.
7. 片瀬七朗 : 症候から考える頭部MRI撮像法の使い分け - ルーチン検査にひと手間加えて -. 第32回SAITAMA MRI conference 特別講演会, さいたま, 2015年6月27日.
8. 似鳥俊明 : 私版 胸部画像解剖講義. 第20回多摩デジタル画像研究会, 立川, 2015年7月7日.
9. 横山健一 : 胸部単純写真における肺血管影の読み方. 第160回城西胸部画像研究会, 三鷹, 2015年7月14日.
10. 横山健一 : MR conditional deviceの現状. SCMR Japan WG Seminar 2015. 東京, 2015年8月1日.
11. 生田修三, 山下詠子, 平田麻実, 高木康伸, 元井亨, 八杉利治, 船田信頭, 唐澤克之 : 急性腹症を契機とし非典型的な画像所見を呈した卵巣類内膜腺癌の一例. JSAWI, 兵庫, 2015年9月4-5日.
12. 横山健一 : Vantage Titan 3T Saturnによる臨床最前線 駆幹部での臨床応用. 第43回日本磁気共鳴医学会大会, 東京, 2015年9月10-12日.
13. 五明美穂 : 32chコイルを用いた頭蓋内3D vessel wall imagingの臨床経験. 第43回日本磁気共鳴医学会大会, 東京, 2015年9月10-12日.
14. Masuda Y, Kuroki K, Tateishi H, Kariyasu T, Nitatori T: Successful management for duodenal varices by balloon-occluded retrograde transvenous obliteration via right gonadal vein. Cardiovascular and interventional radiological society of Europe, Portugal, September 26th-30th, 2015.
15. Tateishi H, Masuda Y, Kuroki K, Kariyasu T, Nitatori T: Portal vein stenosis caused by postoperative pseudoaneurysm in hepatic artery that was treated by transcatheter arterial embolization and portal stent placement. Cardiovascular and interventional radiological society of Europe, Portugal, September 26th-30th, 2015.
16. 横山健一 : 大血管の画像診断とカテーテル治療 大型血管炎の画像診断. 第51回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 盛岡, 2015年10月2-4日.
17. 木下雄介, 増田裕, 荏安俊哉, 塚原弥生, 本谷啓太, 片瀬七朗, 黒木一典, 横山健一, 似鳥俊明 : 奇静脈への還流を認めた乳児肺葉内分画症. 第51回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 盛岡, 2015年10月2-4日.
18. 五明美穂 : Intracranial Vessel Wall Imaging Using Flow-spoiled Fresh Blood Imaging (FS-FBI). 10<sup>th</sup> Asian Oceanian Congress of Neuroradiology, 福岡, 2015年11月5-7日.
19. 横山健一 : 心臓MRIの最新知見. Biotronik Autumn Seminar, 那覇, 2015年11月7日.
20. Kariyasu T, Yokoyama K, Imai M, Tsukahara Y, Nishikawa M, Shiga H, Watanabe M, Nitatori T: Early clinical evaluation of lung perfusion images using lung subtraction in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension (CTEPH): comparison with lung perfusion scintigraphy. Radiological Society of North America (RSNA) 2015, USA, November 29th, -December 4th, 2015.
21. 西川真木子, 石川牧子, 大原有紗, 柳沼重晴, 下山田博昭, 藤原正親, 菅間博, 大倉康男, 似鳥俊明 : 眼窩涙嚢部に発生した悪性腫瘍の3例. 第44回日本医学放射線学会関東地方会定期大会, 東京, 2015年12月12日.
22. 片瀬七朗, 五明美穂, 渡邊正中, 大原有紗, 土屋一洋, 似鳥俊明 : 高分解能MPV法によるトルコ鞍近傍の視神経描出能の検討. 第39回脳神経CI学会総会, 東京, 2016年1月29-30日.
23. 五明美穂 : Vascular imaging “非造影2D&3D MRDSAと high-resolution vessel wall imaging”の臨床応用と今後の展望. 第39回日本脳神経CI学会総会, 東京, 2016年1月29-30日.
24. Ohara A, Tsuchiya K, Gomyo M, Tateishi H, Katase S, Nitatori T: Changes in CBF on ASL Perfusion Imaging at Different Labeling Delay Times in Intracranial Tumors. The 39th Annual Meeting of the Japan Society for CNS Computed Imaging, Tokyo, January 29th-30th, 2016.
25. 大原有紗 : 中枢神経-感染症. 第35回日本画像医学会, 東京, 2016年2月26-27日.
26. Yamashita E, Ishikawa M, Iwamoto K<sup>1</sup>, Nitatori T: CT spectrum of primary neoplasms of the appendix mimicking acute appendicitis. ECR 2016 (European congress of radiology), Austria, March 2nd-6th, 2016.
27. Kariyasu T, Yokoyama K, Nishikawa M, Watanabe M, Nitatori T: CT lung subtraction for assessment of regional pulmonary perfusion in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension.

ECR 2016 (European congress of radiology), Austria, March 2nd-6th, 2016.

28. Kariyasu T, Kuroki K, Masuda Y, Katase S, Soejima K, Tateishi H, Kinoshita Y, Shiga H, Nitatori T: Initial experience of Sensor-Based Electromagnetic navigation system for guidewire cannulation in human trunk arteries, based on phantom examination. ECR 2016 (European congress of radiology), Austria, March 2nd-6th, 2016.

論文

1. Yokoyama K, Ishimura R, Imai M, Kariyasu T, Nitatori T, Kuhara S<sup>1</sup>, Nitta S<sup>2</sup>, Takeguchi T<sup>2</sup>, Matsumoto N<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Clinical Application Research Center, Toshiba Medical Systems Corporation, <sup>2</sup>Multimedia Laboratory, Corporate Research & Development Center, Toshiba Corporation): New automatic slice-alignment method for cardiac magnetic resonance imaging-Clinical evaluation with a 1.5T scanner. *Jacobs journal of medical diagnosis and medical imaging* 1(1): 007(1-6), 2015.
2. 横山健一, 荻安俊哉, 田所導子, 似鳥俊明: 心筋ブリッジ. *画像診断* 35(8): 914-915, 2015.
3. 横山健一, 石村理英子, 荻安俊哉, 田所導子, 似鳥俊明: 心臓植込み型電気的デバイス. *画像診断* 35(8): 988-989, 2015.
4. Yokoyama K, Nitta S<sup>1</sup>, Kuhara S<sup>2</sup>, Ishimura R, Kariyasu T, Imai M, Nitatori T, Takeguchi T<sup>1</sup>, Shiodera T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Multimedia Laboratory, Corporate Research & Development Center, Toshiba Corporation, <sup>2</sup>Application Research Group, Clinical Application Research and Development Department Center for Medical Research and Development, Toshiba Medical Systems Corporation): Automatic slice-alignment method in cardiac magnetic resonance imaging for evaluation of the right ventricle in patients with pulmonary hypertension. *AIP Advances* 5:097182, 2015. doi: 10.1063/1.4932210.
5. 荻安俊哉, 横山健一, 似鳥俊明: 条件付きMRI対応ペースメーカー. *画像診断* 35(8): 990-991, 2015.
6. 荻安俊哉, 横山健一, 似鳥俊明: 透析シャント不全. *画像診断* 35(9): 1140-1142, 2015.

著書

1. 片瀬七朗, 土屋一洋: 正常破格. 新版 頭部画像診断の勘どころ. 高橋雅士, 前田正幸監修, 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 320-324.
2. 片瀬七朗, 土屋一洋: 神経線維腫症1型(NF1). *臨床画像* 31. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 55-58.
3. 片瀬七朗, 土屋一洋: 神経線維腫症2型(NF2). *臨床画像* 31. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 62-64.
4. 片瀬七朗, 土屋一洋: 結節性硬化症(TSC). *臨床画像* 31. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 69-72.
5. 片瀬七朗, 土屋一洋: Sturge-Weber症候群(SWS). *臨床画像* 31. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 76-79.
6. 片瀬七朗, 土屋一洋: 基底細胞母斑症候群. *臨床画像* 31. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 84-85.
7. 片瀬七朗, 土屋一洋: 色素失調症. *臨床画像* 31. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 89-90.
8. 片瀬七朗, 土屋一洋: 家族性悪性黒色腫(FAMMM症候群). *臨床画像* 31. 東京, メジカルビュー社, 2015. p. 95-96.
9. 石川牧子, 塚本浩: 鼻腔・副鼻腔の正常変異. 頭頸部画像診断に必要な不可欠な臨床・画像解剖. 尾尻博也編. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 40-53.
10. 大原有紗: 側頭骨巨細胞腫 giant cell tumor of the

- temporal bone. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 141-142.
11. 大原有紗, 土屋一洋: 多形腺腫 pleomorphic adenoma. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 152-153.
  12. 大原有紗, 土屋一洋: 腺様嚢胞癌 adenoid cystic carcinoma. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 154-155.
  13. 大原有紗, 土屋一洋: 視神経髄膜腫 optic nerve sheath meningioma. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 156-157.
  14. 大原有紗, 土屋一洋: 海綿状血管腫 cavernous hemangioma. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 158-159.
  15. 大原有紗, 土屋一洋: 悪性リンパ腫 malignant lymphoma. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 160-161.
  16. 大原有紗, 土屋一洋: 炎症性偽腫瘍, 特発性眼窩炎症 orbital idiopathic inflammatory pseudotumor, idiopathic orbital inflammation. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 162-165.
  17. 大原有紗, 土屋一洋: IgG4関連疾患 (Mikulicz病) IgG4 related disease (Mikulicz disease). まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 166-167.
  18. 大原有紗, 土屋一洋: 脈絡膜悪性黒色腫 choroidal malignant melanoma. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 262-263.
  19. 大原有紗, 土屋一洋: 転移性脈絡膜腫瘍 choroidal metastasis. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 264-265.
  20. 大原有紗, 土屋一洋: 悪性腫瘍の視神経・視神経鞘への転移 metastasis in optic nerve and sheath/from malignant tumor. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 266-267.
  21. 大原有紗, 土屋一洋: 眼球の石灰化いろいろ ocular calcification. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 268-269.
  22. 大原有紗: 慢性硬化性唾液腺炎, IgG4関連疾患 (Küttner腫瘍) chronic sclerosing sialadenitis, IgG4 related disease (Küttner tumor). まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 398-399.
  23. 大原有紗, 豊田圭子: 喉頭瘤 laryngocoele. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 446-447.
  24. 大原有紗, 豊田圭子: 急性扁桃炎 acute tonsillitis. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 518-519.
  25. 大原有紗: 上顎体 epignathus. まるわかり頭頸部の画像診断. 豊田圭子編著. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2015. p. 812-813.
  26. 荻安俊哉: 当直 救急外来での異物画像診断. そこが知りたかった! 当直・救急外来で役立つ画像診断のコツ. 中島康雄, 松本純一編. 東京, 文光堂, 2015. p. 212-220.
  27. 仁科善雄, 伊波巧, 荻安俊哉: PTPA治療前後の右室機能の変化-心臓MRI-. 肺動脈形成術PTPA/BPA実践ガイド. 片岡雅晴編. 東京, 南山堂, 2015. p. 138-141.

その他

1. 似鳥俊明: 編集・序文, 知っておきたい循環器疾患のCT・

MRI (1) 心臓・頸部血管疾患Case Review, 画像診断35, No8, 2015.

2. 似鳥俊明: 編集・序文, 知っておきたい循環器疾患のCT・MRI (2) 胸部・腹部・末梢血管Case Review, 画像診断35, No9, 2015.
3. 似鳥俊明: 談話, 医療被曝低減に挑む, 日経新聞, 2015年9月6日.
4. 似鳥俊明: 談話, 閉塞性動脈硬化症, 夕刊フジ, 2015年11月5日.
5. 大原有紗, 吉岡達也: 耳下腺腫瘍 (多形腺腫) (MRDSAと造影dynamic study). 造影剤と画像診断情報サイト Bayer-Radiology プロトコル設定のコンパス 造影MRI編 ガドピスト, 2016年3月22日.
6. 苅安俊哉: 話題の医学「異物の画像診断」2016年3月20日 (日) 05:00~05:15, テレビ東京 (日本医師会生涯教育講座).

#### 平成25年度追加分

##### 講演

1. 西川真木子, 五明美穂, 土屋一洋, 小林啓一, 永根基雄, 塩川芳昭, 似鳥俊明: 外方性発育をきたした退形成性乏突起腫瘍の2例. 第444回日本医学放射線学会関東地方会定期大会, 東京, 2013年12月21日.

#### 平成24年度追加分

##### 講演

1. 西川真木子, 平岡祥幸, 横山健一, 武井秀史, 藤原正親, 菅間博, 似鳥俊明: Multiple calcifying fibrous tumor of the pleuraの一例. 第41回頭頸部・胸部画像研究会, 東京, 2012年5月26日.

#### 平成23年度追加分

##### 講演

1. 西川真木子, 平岡祥幸, 横山健一, 武井秀史, 呉屋朝幸, 藤野節, 寺戸雄一, 似鳥俊明: 後縦隔に発生した骨髄脂肪腫の一例. 第40回頭頸部・胸部画像研究会, 東京, 2011年5月21日.

#### 放射線腫瘍学教室

##### 講演

1. 永山和樹, 丸山啓介, 小林啓一, 中村正直, 戸成綾子, 楠田順子, 永根基雄, 高山誠, 塩川芳昭: 転移性脳腫瘍病変に対するLINAC定位放射線治療-杏林大学における16年間の経験- Linear accelerator based stereotactic radiosurgery for metastatic brain tumors: 16 years of experience at Kyorin University. 第24回定位放射線治療学会, 長崎, 2015年5月14日.
2. 戸成綾子: がん患者の相談者になる 放射線治療編. 平成27年度がん看護研修会公開講演会, 三鷹, 2015年9月5日.

#### 麻酔科学教室

##### 講演

1. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 中心静脈カテーテル エコーガイド下穿刺ハンズオンセミナー, 横浜, 2015年4月10日.
2. 渡辺邦太郎, 坂本英明, 井上鉄夫, 森山久美, 萬知子: 肩関節鏡手術におけるベタメタゾン添加ロピバカイン腕神経叢ブロックの術後鎮痛効果. 日本区域麻酔学会第2回学術集会, 高崎, 2015年4月25日.
3. 森山久美: リスク評価重視の周術期管理外来 麻酔のリスクをどのように, どこまで説明するか?. 日本麻酔科学会第62回学術集会, 神戸, 2015年5月28日.
4. 鶴澤康二, 山田達也, 萬知子, 牛山明, 飯島毅彦, 宮尾

秀樹: マウス重症病態モデルにおける第3世代HES (ヒドロキシエチルスターチ) (6%HES 130/0.4/9) の投与効果 Effect of third generation HES (hydroxyethyl starch) (6% HES 130/0.4/9) in clinically ill model mouse. 日本麻酔科学会第62回学術集会, 神戸, 2015年5月29日.

5. 澤田龍治, 本保晃, 森山潔, 森山久美, 糟谷洋平, 萬知子: 適正な周術期予防抗菌薬使用状況の調査. 日本麻酔科学会第62回学術集会, 神戸, 2015年5月29日.
6. 神山智幾, 森山潔, 鮫島圭, 片山あつ子, 山田達也, 萬知子: 低酸素血症を回避するために必要なパルスオキシメーターの信頼性. 日本麻酔科学会第62回学術集会, 神戸, 2015年5月30日.
7. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 相模原, 2015年6月5日.
8. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 湘南CVC実践セミナー, 鎌倉, 2015年6月20日.
9. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第74回CVC指導者養成コース, 東京, 2015年6月27日.
10. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第102回CVC実践セミナー, 東京, 2015年6月27日.
11. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 超音波ガイド下中心静脈穿刺 ハンズオンセミナー, 東京, 2015年7月10日.
12. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第75回CVC指導者養成コース, 新潟, 2015年7月11日.
13. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第103回CVC実践セミナー, 新潟, 2015年7月11日.
14. 渡辺邦太郎, 森山久美, 井上鉄夫, 坂本英明: ベタメタゾン添加腕神経叢ブロックは, 関節鏡下腱板修復術後7日目の肩部痛を軽減する. 日本ペインクリニック学会第49回大会, 大阪, 2015年7月24日.
15. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 平成27年度第1回CVC研修会, 東京, 2015年7月24日.
16. 鶴澤康二, 萬知子, 牛山明, 宮尾秀樹: マウス重症病態モデルにおける第3世代HES (6%HES130/0.4/9) の投与効果. 第1回輸液管理研究会, 東京, 2015年8月1日.
17. 鶴澤康二: マウス重症病態モデルにおける第3世代HES (6%HES130/0.4/9) の投与効果. 第2回麻酔管理セミナー, 川越, 2015年8月8日.
18. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. CVC講習会, 水戸, 2015年8月15日.
19. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 昭和大学江東豊洲病院, 東京, 2015年9月11日.
20. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 平成27年度第2回CVC研修会, 東京, 2015年9月18日.
21. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第80回CVC指導者養成コース, 福島, 2015年9月23日.
22. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第111回CVC実践セミナー, 福島, 2015年9月23日.
23. 徳嶺譲芳: エコー下中心静脈穿刺手技, エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー. うるま, 2015年9月25日.
24. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. エコーガイド下中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 内灘, 2015年10月3-4日.
25. 徳嶺譲芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 中心静脈カテーテル エコーガイド下穿刺ハンズオンセミナー, 長崎, 2015年10月17日.

26. 萬知子, 森山潔, 神山智幾, 金井理一郎, 徳嶺讓芳, 森山久美, 山田達也: 杏林大学医学部付属病院集中治療室における中心静脈カテーテル関連血流感染症に関連する因子. 日本臨床麻酔学会第35回大会, 横浜, 2015年10月21日.
27. 森山久美, 本保晃, 森山潔, 満田真吾, 山田達也, 萬知子: 家電で作るシミュレーション教育ビデオシステム. 日本臨床麻酔学会第35回大会, 横浜, 2015年10月22日.
28. 井上望, 山田達也, 金井理一郎, 森山久美, 森山潔, 萬知子: 心房細動に対する肺静脈隔離術により術中肺出血をきたした1例. 日本臨床麻酔学会第35回大会, 横浜, 2015年10月22日.
29. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第77回CVC指導者養成コース, 日本臨床麻酔学会第35回大会, 横浜, 2015年10月23日.
30. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第107回CVC実践セミナー, 日本臨床麻酔学会第35回大会, 横浜, 2015年10月23日.
31. 徳嶺讓芳: 危険手技への対応. エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 南風原, 2015年10月30日.
32. 徳嶺讓芳: ニードルガイドを用いた長軸+短軸アプローチ. エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 豊見城, 2015年10月31日.
33. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 東京, 2015年11月7日.
34. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 平成27年度第3回CVC研修会, 東京, 2015年11月13日.
35. 鶴澤康二: 術後を見据えた術中管理を考える. 長時間手術の輸液戦略 (何を指標に輸液をしていますか!?). 沖縄周術期管理セミナー, 西原, 2015年11月7日.
36. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第110回CVC実践セミナー, 伊豆の国, 2015年11月21日.
37. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 東京, 2015年12月18日.
38. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 甲府, 2015年12月19日.
39. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 中心静脈カテーテルエコーガイド下穿刺研修, 横浜, 2016年1月15日.
40. 松下紀子, 上田明子, 長岡身佳, 百瀬裕一, 樋口聡, 星田京子, 宮越睦, 三輪陽介, 富樫郁子, 佐藤俊明, 副島京子, 吉野秀朗, 森山久美, 萬知子: 硬膜外麻酔でVF stormを脱し星状神経節レーザー照射でICD作動抑制に至ったTOP根治術後の1例. 第17回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会, 東京, 2015年1月18日.
41. 鶴澤康二: 輸液療法の考え方 (micro & macro circulation approach). 体液代謝研究会, 東京, 2016年1月23日.
42. 徳嶺讓芳: 中心静脈カテーテル抜去の実際. エコーガイド下穿刺中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 清瀬, 2016年1月27日.
43. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 平成27年度第4回CVC研修会, 東京, 2016年1月29日.
44. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第82回CVC指導者養成コース, 第11回日本医学シミュレーション学会学術集会, 東京, 2016年1月30日.
45. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第113回CVC実践セミナー, 第11回日本医学シミュレーション学会学術集会, 東京, 2016年1月30日.
46. 神山智幾, 本保晃, 森山潔, 小谷真理子, 山田達也, 萬知子: 高機能患者シミュレータを用いた経鼻高流量酸素療法による呼吸軽減効果の評価. 第43回日本集中治療医学会学術集会, 神戸, 2016年2月13日.
47. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. エコーガイド下中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 壬生, 2016年2月13日.
48. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第83回CVC指導者養成コース, 新潟, 2016年2月14日.
49. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第114回CVC実践セミナー, 新潟, 2016年2月14日.
50. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. エコーガイド下中心静脈カテーテル ハンズオンセミナー, 熊本, 2016年2月19日.
51. 森山久美: 杏林大学におけるフェントステープの使用状況. 多摩緩和ケア講演会, 三鷹, 2016年2月20日.
52. Uzawa K, Yorozu T, Ushiyama A, Miyao H: Tetrastarch Suppresses Vascular Permeability in an Acute Hemorrhage Mouse Model. 45th Critical Care Congress (Society of Critical Care Medicine), USA, February 23th, 2016.
53. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 超音波ガイド下中心静脈穿刺 ハンズオンセミナー, 東京, 2016年2月26日.
54. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第89回CVC指導者養成コース, 会津若松, 2016年2月27日.
55. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第117回CVC実践セミナー, 会津若松, 2016年2月27日.
56. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第118回CVC実践セミナー, 清水, 2016年2月28日.
57. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第79回CVC指導者養成コース, 前橋, 2016年3月5日.
58. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第109回CVC実践セミナー, 前橋, 2016年3月5日.
59. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第115回CVC実践セミナー, 諏訪, 2016年3月6日.
60. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第84回CVC指導者養成コース, 千葉, 2016年3月12日.
61. 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下中心静脈穿刺法. 第119回CVC実践セミナー, 千葉, 2016年3月12日.
62. 鶴澤康二: 輸液療法の考え方 (micro & macro circulation approach). 福島県周術期管理セミナー, 福島, 2016年3月5日.

## 論文

- 渡辺邦太郎, 坂本英明, 井上鉄也, 森山久美, 萬知子: 超音波ガイド下斜角筋間ブロックを施行し良好な術後痛管理を行うことができた頸部腫瘍合併患者の肩関節鏡下手術. 臨床麻酔 39(1): 39-42, 2015.
- Kohyama T, Moriyama K, Kanai R, Kotani M, Uzawa K, Satoh T, Yorozu T: Accuracy of pulse oximeters in detecting hypoxemia in patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension. PLoS One. 10(5): e0126979, 2015.
- 森山潔: 消化管穿孔術後患者における緑膿菌抗PcrV療法の可能性. 杏林医学会雑誌 46: s27-29, 2015.
- 木下尚之, 森山久美, 窪田靖志, 山田達也, 萬知子: デュロキセチンとプレガバリンの併用が術後慢性疼痛に著効した1例. 臨床麻酔39(5): 727-730, 2015.
- Tokumine J, Lefor AK, Yasutani T, Sekiguchi T, Motoyasu A, Yorozu T: Abduction of the ipsilateral

upper arm straightens the axillary vein. Int Arch Clin Anesth Res 1:23-24, 2015.

- Morimoto Y, Tanaka E, Shimamoto Y, Tokumine J: Dissection of the posterior wall by guide-wire during internal jugular vein catheterization. J Anesth 29(2):289-291, 2015.
- Tokumine J, Matsushima H, Lefor AK, Igarashi H, Ono K: Ultrasound-guided subclavian venipuncture is more rapidly learned than the anatomic landmark technique in simulation training. J Vasc Access. 16(2):144-147, 2015.
- Morimoto Y, Shimamoto Y, Tanaka E, Tokumine J: Images in Anesthesiology: Detection of large inferior thyroid Artery by ultrasound prescan before internal jugular vein catheterization. Anesthesiology 123(4):927, 2015.
- Hirai E, Tokumine J, Lefor AK, Ogura S, Kawamata M: Bladder explosion during transurethral resection of the prostate with nitrous oxide inhalation. Case Rep Anesthesiol. 2015:464562, 2015.
- Kawagishi K, Tokumine J, Lefor AK: The relationship of the subclavius muscle with relevance to venous cannulation below the clavicle. Anesthesiol Res Pract. 2016:6249483, 2016.
- 徳嶺讓芳: 中心静脈穿刺のシミュレーション教育 最適な教育とは何か? . 日臨麻会誌 36:257-263, 2016.

## 著書

- 萬知子: ヘパリン, アルテプラザーゼ. 麻酔科医のための周術期の薬物使用法. 川真田樹人編. 東京, 中山書店. 2015. p. 370-372, p. 391-393.
- 森山潔, 高崎眞弓, 河本昌志, 木内恵子, 白神豪太郎, 萩平哲: 結核・非結核性抗酸菌症. まれな疾患の麻酔AtoZ. 高崎眞弓, 河本昌志, 木内恵子, 白神豪太郎, 萩平哲編. 東京, 文光堂, 2015. p. 481-483.
- 徳嶺讓芳, 藤盛啓成, ほか: 危険手技の安全な実施—中心静脈カテーテル穿刺挿入手技に関する安全指針の遵守. 医療安全実践ハンドブック. 医療安全全国共同行動支援部会編. 東京, 医療安全全国共同行動, 2015. p. 81-100.
- 森山久美, 萬知子: はじめのはじめからまるっとわかる整形外科ナースのための麻酔看護のQ&A34 脊髄くも膜下麻酔(腰椎麻酔)のQ&A. 整形外科看護20巻. 大阪, メディカ出版, 2015. p. 646-652.
- 森山久美, 萬知子: チームワークによる虚血性心疾患マネジメント 術前・術中・術後の管理要点—虚血性心疾患において麻酔科の立場から. 日本医事新報4765号. 東京, 日本医事新報社, 2015. p. 27-32.
- 松田光正, 徳嶺讓芳: 超音波ガイド下の中心静脈穿刺. 血管エコーハンドブック. 竹中克, 戸出浩之編, 東京, 金芳堂, 2015. p. 145-156.
- 徳嶺讓芳, 萬知子: 安全な中心静脈穿刺のための基本手技DVD (製作: 杏林大学医学部附属病院医療安全対策室, Medtronic日本コヴィディエン株式会社), 東京, Ray Motion, 2016.

## 特許等知的財産関係, 報告書

- 鶴澤康二: 重症病態における内皮細胞機能の解明. 2014. 4. 1-2017. 3. 31科学研究費: 若手研究(B) 研究者番号: 30530703, 2014年度報告書.

## 臨床検査医学教室

### 講演

- 石井隆浩, 小島直美, 関口久美子, 岡崎ゆり子, 沼野井

恵, 高城靖志, 渡邊卓: IgMの著増とABO血液型ウラ検査の減弱を認めた原発性マクログロブリン血症の1例. 第64回日本医学検査学会, 福岡, 2015年5月16-17日.

- 沼野井恵, 大西宏明, 関口久美子, 小島直美, 岡崎ゆり子, 石井隆浩, 加藤麻衣子: 輸血を必要とした小児発作性寒冷色素尿症(PCH)の1症例. 第63回日本輸血・細胞治療学会総会, 東京, 2015年5月28-30日.
- 米谷正太, 荒木光二, 牧野博, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: MALDI-TOF MSを用いた血液培養陽性ボトルからの直接菌種同定の検討. 第33回私立医科大学臨床検査技師会学術研修会, 名古屋, 2015年10月24日.
- 原島敬一郎, 青戸依子, 住吉彩, 石本翔, 司茂幸英, 岸野智則: 下肢のASI (arterial stiffness index) に関する検討. 第52回日本臨床生理学会総会, さいたま, 2015年10月31日-11月1日.
- 森山遥, 千葉直子, 坂本大典, 松浦幸子, 杉浦満喜, 関口久美子, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 赤血球凝集によるMCV偽高知値を示した寒冷凝集素症の1症例. 東京都医学検査学会, 立川, 2015年11月1日.
- 小倉航, 大塚弘毅, 横山琢磨, 滝澤始, 高城靖志, 大西宏明, 渡邊卓: 肺癌患者の癌性髄膜炎における髄液EGFR遺伝子変異検査の有用性の検討. 第62回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015年11月19-22日.
- 宮脇晴子, 岸野智則, 渡辺敬子, 大塚弘毅, 関口久美子, 高城靖志, 伊東大樹, 寺戸雄一, 原由紀子, 菅間博, 井本滋, 大西宏明, 渡邊卓: 肺癌乳転移の一例—その超音波画像所見の考察—. 第62回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015年11月19-22日.
- 宮沢絵梨奈, 佐藤英樹, 高城靖志, 関口久美子, 佐藤徹, 岸野智則, 大西宏明, 渡邊卓: 慢性血栓塞栓性肺高血圧に対する経皮的肺動脈バルーン拡張術の心電図変化について. 第62回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015年11月19-22日.
- 藤野あえか, 渡辺敬子, 岸野智則: 心エコーで評価した心膜外脂肪厚と心機能障害の関連性について. 第62回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015年11月19-22日.
- 大西宏明, 大塚弘毅, 松島早月, 野崎江里子, 米山正太, 荒木光二, 高城靖志, 岸野智則, 渡邊卓: *Mycobacterium kyorinense*の全ゲノム解析. 第62回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015年11月19-22日.
- 大塚弘毅, 大西宏明, 小倉航, 松島早月, 岸野智則, 藤原正親, 近藤晴彦, 横山琢磨, 渡邊卓: 混合型肺腺癌例における分子異常のheterogeneityの検討. 第62回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015年11月19-22日.
- 篤森直子, 岸野智則, 大西宏明, 大塚弘毅, 菅間博, 森井健司, 高城靖志, 渡邊卓: Ewing肉腫の一例—超音波画像の特徴—. 第62回日本臨床検査医学会学術集会, 岐阜, 2015年11月19-22日.
- 青戸依子, 原島敬一郎, 住吉彩, 石本翔, 小林千夏, 村瀬かすみ, 津田智也, 司茂幸英, 岸野智則: 新たなソフトウェアで解析した arterial stiffness index (ASI) に関する検討—第二報 血圧およびPWVとの関係—. 第2回日本血管血流学会学術集会, 東京, 2015年11月22日.
- 米谷正太, 荒木光二, 牧野博, 井田陽子, 奥山貴洋, 広井愛美, 本間慎太郎, 平尾千尋, 西圭史, 大西宏明, 渡邊卓: 血液培養より *Actinotignum schaalii* (旧 *Actinobaculum schaalii*) が検出された3例. 第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会, 仙台, 2016年1月29-31日.

## 論文

- Kobayashi T<sup>1</sup>, Masaki T<sup>1</sup>, Nozaki E<sup>1</sup>, Sugiyama M<sup>1</sup>, Nagashima F<sup>2</sup>, Furuse J<sup>2</sup>, Onishi H, Watanabe T, Ohkura Y<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Dept Surg Kyorin Univ Hosp, <sup>2</sup>Dept Med Oncol Kyorin Univ Hosp, <sup>3</sup>Dept Pathol, Kyorin Univ

- Sch Med) : Microarray analysis of gene Expression at the tumor front of colon cancer. *Anticancer Res* 35:6577-6582, 2015.
- Yoshiyama A<sup>1</sup>, Morii T<sup>1</sup>, Ohtsuka K, Ohnishi H, Tajima T<sup>1,2</sup>, Aoyagi T<sup>1</sup>, Mochizuki K<sup>1</sup>, Satomi K<sup>1</sup>, Ichimura S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Dept Orthopaedic Surg, Kyorin Univ Sch Med, <sup>2</sup> Dept of Drug Design Proteome Area of Res, Natl Cancer Res Cent Res Inst) : Development of stemness in cancer cell lines resistant to the anticancer effects of zoledronic acid. *Anticancer Res* 36: 625-631, 2016.
  - Ida Y<sup>1,2</sup>, Ohnishi H, Araki K<sup>1</sup>, Saito R<sup>2</sup>, Kawai S<sup>3</sup>, Watanabe T (<sup>1</sup>Clin Lab, Kyorin Univ Hosp, <sup>2</sup>Dept of Microbiol and Immunol, Grad Sch of Health Care Sci, <sup>3</sup>Dept of Gen Med) : Efficient management and maintenance of ultrasonic nebulizers to prevent microbial contamination. *World Methodol* 6:126-132, 2016.
  - Watanabe K<sup>1</sup>, Kishino T, Sano J<sup>1</sup>, Ariga T<sup>1</sup>, Okuyama S<sup>2</sup>, Mori H<sup>2</sup>, Matsushima S, Ohtsuka K, Ohnishi H, Watanabe T (<sup>1</sup>Clin Lab, Kyorin Univ Hosp, <sup>2</sup>The Third Dept of Int Med) :Relationship between epicardial adipose tissue thickness and early impairment of left ventricular systolic function in patients with preserved ejection fraction. *Heart Vessels* (in press, DOI 10. 1007/s00380-015-0650-8)
  - 渡邊卓 : 髄液検査. *medicina* 52 : 42-44, 2015.
  - 相磯聡子<sup>1</sup>, 関根名里子<sup>1</sup>, 高城靖志<sup>2</sup>, 大西宏明 (<sup>1</sup>保・臨床検査技術学科, <sup>2</sup>杏林大・医・付属病院臨床検査部) : Spike-in controlを用いた血中マイクロRNAの測定における検体保存温度および時間についての検討. *臨床病理* 63 : 688-693, 2015.
  - 大西宏明, 渡邊卓 : 「標準採血法ガイドライン」ができたわけ. *検査と技術* 43 : 674-678, 2015.
  - 大西宏明: 採血の解剖学. *検査と技術* 43:764-767, 2015.
  - 大西宏明, 渡邊卓 : 採血を科学するーエビデンスに基づく神経損傷の予防法. *医学のあゆみ* 253 : 1111-112, 2015.
  - 大西宏明: 血管が見えにくい方での採血のコツを教えてください. *Medical Technology* 44:318-319, 2016.
  - 米谷正太<sup>1</sup>, 荒木光二<sup>1</sup>, 牧野博<sup>1</sup>, 高城靖志<sup>1</sup>, 大西宏明, 渡邊卓 (<sup>1</sup>杏林大・医・付属病院臨床検査部) : MALDI-TOF MSを用いた血液培養陽性ボトルからの直接菌種同定の検討. *私立医科大学臨床検査技師会誌 (Kameraden)* 62: 18-22, 2016.
- 著書**
- 大西宏明: 好酸球増加. 考える臨床検査. 松尾収二編集. 東京, 文光堂, 2015. p.27-29.
  - 大西宏明: 採血部位. JAMT技術教本シリーズ 検体採取者のためのハンドブック. 東京, じほう, 2016. p.110-115.
- 総合医療学教室**
- 講演**
- Kobayashi T, Masaki T, Nozaki E, Matsuoka H, Sugiyama M: The expression of specific genes and Epithelial Mesenchymal Transition related molecules at the tumor front of colon cancer. APCRC 2015, Korea, May 15th-16th, 2015.
  - 佐野彰彦: 治療に難渋した化膿性脊椎炎の一例. 東京難治性感染症研究会, 東京, 2015年5月16日.
  - 河合伸: CKD患者の感染対策について. 多摩CKD病院連携懇話会, 東京, 2015年5月28日.
  - 西圭史, 河合弘子, 佐野彰彦, 河合伸: 高濃度のテイコプラニン (TEIC) が関与したと思われる肝障害をきたした耳下腺炎の1例. 第63回日本化学療法学会総会, 東京, 2015年6月4-6日.
  - 畑典孝, 植地貴弘, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 感冒様症状を主訴に来院し甲状腺クリーゼと診断し得た1例. 第18回日本臨床救急医学会, 富山, 2015年6月4-6日.
  - 佐野勇貴, 小林敬明, 畑典孝, 新井舞, 植地貴弘, 宮内弘子, 柴田茂貴, 松田剛明: 背部痛を主訴に来院した硬化性壊死性縦隔炎の一例. 第18回日本臨床救急医学会, 富山, 2015年6月4-6日.
  - 石黒睦子, 岡本晋, 吉田正雄, 山本実: 当院人間ドック受診者のnon-HDLコレステロールの検討. 第56回日本人間ドック学会学術大会, 横浜, 2015年7月30-31日.
  - Uechi T, Shibata S, Tsukada T, Kobayashi T, Miyauchi H, Tokutsu T, Sano Y, Arai M, Tsunoda T, Matsuda T: Well-trained emergency life-saving technicians improve rates of return of spontaneous circulation and neurologic survival after out-of-hospital cardiac arrest. ESC CONGRESS LONDON 2015, UK, August 29th, -September 2nd, 2015.
  - 河合伸: HIV感染症 最近の話題. 杏林近隣地区医薬連携講演会, 東京, 2015年9月4日.
  - 菅野恵, 島田正亮, 波多洋介, 坪井裕子, 柴田一匡, 村松健司: 児童養護施設における心理的な実践研究をめぐって (4) -研究の実施による職員の意識の変化-. 日本心理臨床学会第34回秋季大会, 神戸, 2015年9月18-20日.
  - 菅野恵, 島田正亮: 児童養護施設に入所した児童の親の課題に関する追跡調査ー児童の心理的变化に着目してー. 日本心理臨床学会第34回秋季大会, 神戸, 2015年9月18-20日.
  - Uechi T, Shibata S, Tsunoda T, Hata N, Sano Y, Miyauchi H, Tokutsu T, Kobayashi T, Matsuda T, Kyorin University Hospital, Advanced Triage Team Tokyo Fire Department: Advanced Trained Emergency Life-Saving Technicians Improve Rates of Return of Spontaneous Circulation and Neurologic Survival after Out-of-Hospital Cardiac Arrest. The 32th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, USA, September 19th-21st, 2015.
  - 下島裕美, 石川智: 死にゆく過程の疑似体験と時間的展望の変化ー五色カード法とZimbaro Time Perspective Inventoryを用いてー. 日本心理学会第79回大会, 名古屋, 2015年9月22-24日.
  - 村部妙美: 来談者の健康さ・回復力に着目する必要性とテストバッテリーの活用. 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第17回大会, 東京, 2015年9月26-27日.
  - 石川智: ブログ (ウェブログ) による内省作業の心理的意味についてー女子学生との面接過程からの考察ー. 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第17回大会, 東京, 2015年9月26-27日.
  - 島田正亮: 児童養護施設における措置変更要因と職員の心理的負担について. 日本ヒューマン・ケア心理学会学術集会第17回大会, 東京, 2015年9月26-27日.
  - 佐野彰彦, 西圭史, 河合弘子, 米谷正太, 牧野博, 荒木光二, 倉井大輔, 河合伸: 当院における非*albicans* による *Candida* 菌血症についてのサーベイランス. 第64回日本感染症学会地方会, 札幌, 2015年10月21-23日.
  - 西圭史, 河合弘子, 米谷正太, 牧野博, 荒木光二, 佐野彰彦, 河合伸: 当院における非*albicans*菌血症における抗真菌薬の使用状況サーベイランス. 第64回日本感染症学会地方会, 札幌, 2015年10月21-23日.



19. 田中佑也, 畑典孝, 菊地真祈, 佐野勇貴, 新井舞, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 腹痛を主訴に来院した尿管膿瘍の一例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
20. 菅野秀美, 柴田茂貴, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: 高齢者の清涼飲料水ケトシースの一例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
21. 新名良広, 植地貴弘, 畑典孝, 菊地真祈, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: アタザナビル内服患者におけるX線陰性結石の1例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
22. 村松有亜, 柴田茂貴, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: 胆嚢捻転症に伴う急性胆嚢の一例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
23. 藤戸智夏, 植地貴弘, 畑典孝, 菊地真祈, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 初回髄液検査で細胞数が正常であった無菌性髄膜炎の1例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
24. 坂入佐知子, 柴田茂貴, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: 頸部リンパ節腫脹と発熱を主訴に来院した急性白血病の一例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
25. 李恵怜, 植地貴弘, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: Meckel憩室による成人の腸重積症の一例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
26. 畑典孝, 植地貴弘, 菊地真祈, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 歩行困難と眼球運動障害を主訴に来院した非アルコール性Wernicke脳症の一例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
27. 菊地真祈, 柴田茂貴, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: 小脳梗塞に伴う嘔吐からMallory-Weiss症候群を合併し超急性性期血栓溶解療法に適応外となった一例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
28. 佐野勇貴, 植地貴弘, 畑典孝, 菊地真祈, 新井舞, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 高カリウム血症により高度房室ブロックに至った慢性腎臓病患者の1例. 第43回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2015年10月21-23日.
29. 河合伸: 高齢者肺炎の特徴と対処法. 西東京市医師会講演会, 東京, 2015年10月27日.
30. 石川智, 吉野りえ, 吉田玲奈, 星野崇啓: 社会的養護の施設における性暴力ネットワークへの取り組みVI 一施設で起きる性的問題に対する包括的ケアに向けた取り組み一. 第21回日本子ども虐待防止学会, 新潟, 2015年11月20-21日.
31. 佐野彰彦, 西圭史, 河合弘子, 米谷正太, 牧野博, 荒木光二, 倉井大輔, 河合伸: 当院における非*albicans*による*Candida*菌血症についてのサーベイランス. 関東深在性真菌症研究会, 東京, 2015年11月21日.
32. 河合伸, 佐野彰彦, 佐野麻里子, 佐藤範英, 高山信之: 臍帯血移植により良好な経過が得られたHIV関連非ホジキンリンパ腫の1例. 第29回日本エイズ学会学術集会, 東京, 2015年11月29日-12月1日.
33. 北村浩, 井戸田一朗, 岡山香里, 大河戸光章, 佐野彰彦, 佐野麻里子, 小林治: 拡大肛門鏡を用いたHIV陽性者の肛門管上皮病変の診断と治療. 第29回日本エイズ学会学術集会, 東京, 2015年11月29日-12月1日.
34. 佐野彰彦: 杏林大学病院の真菌血症の実態 non-*Albicans*について. Fungal Infection Area Forum in Tokyo, 東京, 2015年12月10日.
35. 佐野彰彦: 市中肺炎におけるニューキノロンの役割と*Candida*血症. アステラス社内講演, 東京, 2016年1月28日.
36. 島田正亮, 菅野恵: 児童養護施設における措置変更プロセスに関する研究. 日本学校メンタルヘルス学会第19回大会, 東京, 2016年1月30-31日.
37. 菅野恵, 島田正亮: 家庭での養育困難から施設入所に至った子どもの調査研究(2)ー社会的スキルの未熟さに着目してー. 日本学校メンタルヘルス学会第19回大会, 東京, 2016年1月30-31日.
38. 高橋里枝子, 植地貴弘, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: Fitz-Hugh-Curtis syndrome症例5例の臨床的検討. 第66回日本救急医学会関東地方会・学術集会, 東京, 2016年2月6日.
39. 小栗典明, 畑典孝, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 大腿ヘルニア嵌頓から大腿ヘルニアヘルニア内壊疽性虫垂炎に至った一症例. 第66回日本救急医学会関東地方会・学術集会, 東京, 2016年2月6日.
40. 神林孔明, 畑典孝, 菊地真祈, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 椎骨脳底動脈解離に伴う海馬梗塞により一過性逆行性健忘を来した1例. 第66回日本救急医学会関東地方会・学術集会, 東京, 2016年2月6日.
41. 服部健人, 植地貴弘, 菊地真祈, 畑典孝, 佐野勇貴, 新井舞, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 全大腸炎型潰瘍性大腸炎に索状物形成による絞扼性イレウスを合併した一例. 第66回日本救急医学会関東地方会・学術集会, 東京, 2016年2月6日.
42. 本郷瑛子, 畑典孝, 菊地真祈, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 産褥期に可逆性脳血管攣縮症候群(RCVS)と診断された一例. 第66回日本救急医学会関東地方会・学術集会, 東京, 2016年2月6日.
43. 江本かおり, 植地貴弘, 菊地真祈, 畑典孝, 佐野勇貴, 新井舞, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: たこつぼ型心筋症に3度房室ブロックを合併した一症例. 第66回日本救急医学会関東地方会・学術集会, 東京, 2016年2月6日.
44. 佐野彰彦: 当院におけるICTの活動. MSD社内講演, 東京, 2016年3月11日.

## 論文

1. Takayama T<sup>1</sup>, Okamoto S, Hisamatsu T<sup>2</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>1</sup>, Mizuno S<sup>1</sup>, Bessho R<sup>1</sup>, Hibi T<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup> (1Keio University, 2Kyorin University Department of Gastrointestinal medicine): Computer-Aided Prediction of Long-Term Prognosis of Patients with Ulcerative Colitis after Cytoapheresis Therapy. PLoS One 10(6):e0131197, 2015.
2. Sakuraba A<sup>1</sup>, Okamoto S, Matsuoka K<sup>1</sup>, Sato T<sup>1</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Hisamatsu T<sup>2</sup>, Iwao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup>, Hibi T<sup>1</sup> (1Keio University, 2Kyorin University Department of Gastrointestinal medicine): Combination therapy with infliximab and thiopurine compared to infliximab monotherapy in maintaining remission of postoperative Crohn's disease. Digestion 91(3): 233-238, 2015.
3. Wada Y<sup>1</sup>, Hisamatsu T<sup>2</sup>, Naganuma M<sup>1</sup>, Matsuoka K<sup>1</sup>,

- Okamoto S, Inoue N<sup>1</sup>, Yajima T<sup>1</sup>, Kouyama K<sup>1</sup>, Iwao Y<sup>1</sup>, Ogata H<sup>1</sup>, Hibi T<sup>1</sup>, Abe T<sup>1</sup>, Kanai T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Keio University, <sup>2</sup>Kyorin University Department of Gastrointestinal medicine): Risk factors for decreased bone mineral density in inflammatory bowel disease: A cross-sectional study. *Clin Nutr.* 34(6):1202-1209, 2015.
4. Kobayashi T, Masaki T<sup>1</sup>, Nozaki E<sup>1</sup>, Sugiyama M<sup>1</sup>, Nagashima F<sup>2</sup>, Furuse J<sup>2</sup>, Onishi H<sup>3</sup>, Watanabe T<sup>3</sup>, Ohkura Y<sup>4</sup> (Department of Surgery, Kyorin University Hospital, <sup>2</sup>Department of Medical Oncology, Kyorin University Hospital, <sup>3</sup>Department of Laboratory Medicine, Kyorin University Hospital, <sup>4</sup>Department of Pathology, Kyorin University Hospital): Microarray Analysis of Gene Expression at the Tumor Front of Colon Cancer. *Anticancer Res.* 35(12):6577-6581, 2015.
  5. Kobayashi T, Masaki T<sup>1</sup>, Kogawa K<sup>2</sup>, Matsuoka H<sup>1</sup>, Sugiyama M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Surgery, Kyorin University Hospital, <sup>2</sup>Kanto Central Hospital): Efficacy of Gum Chewing on Bowel Movement After Open Colectomy for Left-Sided Colorectal Cancer: A Randomized Clinical Trial. *Dis Colon Rectum.* 58(11): 1058-1063, 2015.
  6. 佐野彰彦, 中村貴枝子<sup>1</sup>, 高橋陽子<sup>1</sup>, 種岡貴子<sup>1</sup>, 西圭史<sup>2</sup>, 荒木光二<sup>3</sup>, 河合伸 (<sup>1</sup>杏林大・医・医療安全管理室, <sup>2</sup>同薬剤部, <sup>3</sup>同検査部): 病棟の移転に伴うmethicillin-resistant *Staphylococcus aureus*と*Clostridium difficile*の検出状況の変化に関する報告. *杏林学会雑誌* 46:213-221, 2015.
  7. 秋田孝之, 尾坂真, 大森嘉彦, 菅間博, 大蔵康男, 松本吉史, 高山信之, 河合伸, 片野晴隆, 望月真: 腺炎を伴った顎下腺原発Diffuse large B-cell lymphomaの1例 Human immunodeficiency virusリンパ節炎とHuman immunodeficiency virus顎下. *診断病理* 33:111-115, 2015.
  8. 田中佑也, 畑典孝, 菊地真祈, 佐野勇貴, 新井舞, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 腹痛を主訴に来院した尿管膿瘍の一例. *日本救急医学会雑誌*26(8):338, 2015.
  9. 菅野秀美, 柴田茂貴, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: 高齢者の清涼飲料水ケトシースの一例. *日本救急医学会雑誌*26(8):328, 2015.
  10. 新名良広, 植地貴弘, 畑典孝, 菊地真祈, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: アタザナビル内服患者におけるX線陰性結石の1例. *日本救急医学会雑誌*26(8):333, 2015.
  11. 村松有亜, 柴田茂貴, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: 胆嚢捻転症に伴う急性胆嚢の一例. *日本救急医学会雑誌*26(8):333, 2015.
  12. 藤戸智夏, 植地貴弘, 畑典孝, 菊地真祈, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 初回髄液検査で細胞数が正常であった無菌性髄膜炎の1例. *日本救急医学会雑誌*26(8):335, 2015.
  13. 坂入佐知子, 柴田茂貴, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: 頸部リンパ節腫脹と発熱を主訴に来院した急性白血病の一例. *日本救急医学会雑誌*26(8):335, 2015.
  14. 李恵鈴, 植地貴弘, 菊地真祈, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: Meckel憩室による成人の腸重積症の一例. *日本救急医学会雑誌*26(8):339, 2015.
  15. 畑典孝, 植地貴弘, 菊地真祈, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 歩行困難と眼球運動障害を主訴に来院した非アルコール性Wernicke脳症の一例. *日本救急医学会雑誌*26(8):367, 2015.
  16. 畑典孝, 植地貴弘, 新井舞, 佐野勇貴, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 感冒様症状を主訴に来院し甲状腺クリーゼと診断し得た1例. *日本臨床救急医学会雑誌*18(2):390, 2015.
  17. 佐野勇貴, 小林敬明, 畑典孝, 新井舞, 植地貴弘, 宮内弘子, 柴田茂貴, 松田剛明: 背部痛を主訴に来院した硬化性壊死性縦隔炎の一例. *日本臨床救急医学会雑誌*18(2):436, 2015.
  18. 菊地真祈, 柴田茂貴, 畑典孝, 新井舞, 佐野勇貴, 植地貴弘, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 松田剛明: 小脳梗塞に伴う嘔吐からMallory-Weiss症候群を合併し超急性期血栓溶解療法の適応外となった一例. *日本救急医学会雑誌*26(8):477, 2015.
  19. 佐野勇貴, 植地貴弘, 畑典孝, 菊地真祈, 新井舞, 得津敬之, 宮内弘子, 小林敬明, 柴田茂貴, 松田剛明: 高カリウム血症により高度房室ブロックに至った慢性腎臓病患者の1例. *日本救急医学会雑誌*26(8):477, 2015.
  20. 下島裕美<sup>1</sup>, 島田正亮 (<sup>1</sup>杏林大・保): 授業外と授業内における課題実施の比較. *杏林教職課程年報* 2:25-33, 2016.
  21. 亀崎路子<sup>1</sup>, 島田正亮 (<sup>1</sup>杏林大・保): 養護教諭とスクールカウンセラーの連携に関する文献検討一年代順による特徴. *学校健康相談研究* 12(2):132-144, 2016.
  22. 島田正亮: 児童養護施設における措置変更に関する要因の検討ー若手職員への面接調査からー. *杏林大学研究報告教養部門* 33:33-39, 2016.

## リハビリテーション医学教室

## 講演

1. 志波直人, 松瀬博夫, 高野吉朗, 大島博, 山田深: 宇宙飛行士の運動器健康管理を参考に運動器リハビリテーションについて考える. 第29回日本医学会総会, 東京, 2015年4月11-13日.
2. 山田深: 脳卒中のリハビリテーション. 第2回杏林医学会市民公開フォーラム, 東京, 2015年5月9日.
3. 仁科彩子, 山田深, 正木瑠子, 岡島康友, 平野照之, 塩川芳昭: rt-PA点滴静注療法を施行した急性期脳卒中症例におけるリハビリテーションの帰結. 第52回日本リハビリテーション医学会学術大会, 新潟, 2015年5月28-30日.
4. 西川順治, 山田深, 岡島康友: 約半年の経過で急速に進行した痙性四肢麻痺に, 全般的知能低下をきたした白質脳症HDL5の一例. 第52回日本リハビリテーション医学会学術大会, 新潟, 2015年5月28-30日.
5. 高橋秀寿: 脳卒中急性期リハビリテーション. 第52回日本リハビリテーション医学会学術会議, 新潟, 2015年5月29-30日.
6. 山田深: 宇宙医学とリハビリテーション医学. JAXA宇宙医学研究シンポジウム, 新潟, 2015年5月30日.
7. Yamada S, Okajima Y, Nagata M, Hirano T, Shiokawa Y: Use of an ICF Core Set in Acute Rehabilitation for Stroke Patients with Higher Order Brain Dysfunction. *International Society Physical Medicine, Germany, June 19th, 2015.*
8. 山田深: 高次脳機能障害と地域におけるリハビリテーション. 世田谷区医師会講演会, 東京, 2015年6月30日.
9. 山田深: 大切なのは心技体! 宇宙飛行士のように心身を鍛えよう. はまぎんキッズサイエンス, 横浜, 2015年7月4日.
10. 岡島康友: 機能的自立度評価法の歴史的背景. 第15回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】, 三

鷹, 2015年7月19日.

11. 高橋宣成: 脳卒中の後遺症とリハビリテーション. 公社多摩北部医療センター市民公開講座, 東村山, 2015年9月25日.
12. 岡島康友: 2025年問題とリハビリテーション脳卒中リハビリテーションの問題に焦点をあてて. 三鷹ネットワーク大学開設10周年記念シンポジウム, 三鷹, 2015年10月3日.
13. 高橋秀寿: 歩行における中枢神経の役割について. 第4回日本ノルディック・ウォーク学会学術会議. 札幌, 2015年10月24日.
14. 高橋宣成, 高橋修, 牛島良介, 西川順治: 運動神経伝導検査における正中神経の手掌刺激 刺激強度の検討. 第45回日本臨床神経生理学会学術大会, 大阪, 2015年10月27-29日.
15. 高橋秀寿: 脳血管障害の急性期リハビリテーション. 平成27年度国立病院機構主催リハビリテーション研修会, 清瀬, 2015年11月12日.
16. 岡島康友: 巧緻運動障害評価の考え方. 第10回日本リハビリテーション医学会専門医学術集会, 東京, 2015年11月29日.
17. 岡島康友: 急性期脳卒中リハビリテーションの最近の動向. 首都圏脳卒中ネットワーク講演会2015, 相模原, 2015年12月1日.
18. 岡島康友: 機能的自立度評価法の歴史的背景. 第16回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】, 三鷹, 2015年12月13日.
19. 山田深: 宇宙医学とサルコペニア. 兵庫県整形外科医会学術講演会, 神戸, 2016年1月23日.
20. 山田深: ミッションX 特別授業. 東郷町立高嶺小学校, 東郷, 2016年2月8日.
21. 山田深: ミッションX 特別授業. 横浜市立長谷小学校, 横浜, 2016年2月29日.
22. 山田深: 重力と骨粗鬆症—宇宙医学の視点から在宅を考える—. 世田谷区在宅医療講演会, 東京, 2016年3月8日.
23. 岡島康友: 脳血管障害リハビリテーション. 第4回医師のための総合リハビリテーション講座, 東京, 2016年3月20日.

## 論文

1. 正木瑤子, 山田深: 超高齢脳卒中患者における急性期リハビリテーション. 臨床リハ 24:247-254, 2015.
2. 山田深: 宇宙医学とリハビリテーション医学. 総合リハ 43:601-606, 2015.
3. 神山慶人<sup>1</sup>, 金子祐樹<sup>2</sup>, 川島紫乃<sup>3</sup>, 山田深, 大島博<sup>2</sup> (<sup>1</sup>JAMSS, <sup>2</sup>JAXA, <sup>3</sup>AES): 宇宙飛行士の生理的対策. 総合リハ 43:607-613, 2015.
4. 山田深: 受験者のためのリハビリテーション科専門医・認定臨床医試験対策 運動学. 臨床リハ 24:372-376, 2015.
5. Shiba N<sup>1</sup>, Matsuse H<sup>1</sup>, Takano Y<sup>2</sup>, Yoshimitsu K<sup>1</sup>, Omoto M<sup>1</sup>, Hashida R<sup>1</sup>, Tagawa Y<sup>3</sup>, Inada T<sup>3</sup>, Yamada S, Ohshima H<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Kurume University, <sup>2</sup>Fukuoka International University of Health and Welfare, <sup>3</sup>Kyushu Institute of Technology, <sup>4</sup>JAXA): Electrically Stimulated Antagonist Muscle Contraction Increased Muscle Mass and Bone Mineral Density of One Astronaut—Initial Verification on the International Space Station. PLoS One 10:e0134736, 2015.
6. Sugita T<sup>1</sup>, Yamazaki T<sup>2</sup>, Makimura K<sup>2</sup>, Cho O<sup>1</sup>, Yamada S, Ohshima H<sup>3</sup>, Mukai C<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Meiji Pharmaceutical University, <sup>2</sup>Teikyo University, <sup>3</sup>JAXA): Temporal changes in the skin Malassezia microbiota of members of the Japanese Antarctic Research Expedition (JARE): A case study in Antarctica as a pseudo-space environment. Med Mycol 53:717-24, 2015.
7. Omoto M<sup>1</sup>, Matsuse H<sup>1</sup>, Hashida R<sup>1</sup>, Takano Y<sup>2</sup>, Yamada S, Ohshima H<sup>3</sup>, Tagawa Y<sup>4</sup>, Shiba N<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kurume University, <sup>2</sup>Fukuoka International University of Health and Welfare, <sup>3</sup>JAXA, <sup>4</sup>Kyushu Institute of Technology): Cycling Exercise with Electrical Stimulation of Antagonist Muscles Increases Plasma Growth Hormone and IL-6. Tohoku J Exp Med 237:209-217, 2015.
8. Fujisawa Y, Okajima Y: Characteristics of handwriting of people with cerebellar ataxia: Three-dimensional movement analysis of the pen tip, finger, and wrist. Phys Ther 95(11):1547-1558, 2015.
9. 高橋秀寿, 中里康子<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>東京都リハビリテーション病院, <sup>2</sup>埼玉医大): 脳卒中・脊髄損傷後の神経因性膀胱と排尿管理. 臨床リハ 24(9):904-913, 2015.
10. 高橋修<sup>1</sup>, 高橋宣成 (<sup>1</sup>市川市リハビリテーション病院): 浮腫があるときは, 神経伝導検査のデータに影響があるのでしょうか?. 検と技 43:718-773, 2015.
11. 山田深: 脳卒中のリハビリテーション. Medicina 53(2):318-321, 2016.
12. 山田深: 脳卒中のリハビリテーション. 杏林医学会雑誌 46:305-306, 2016.
13. 高橋秀寿: 急性期における早期より取り組む歩行再建—脳卒中患者について. リハ医学 53(1):6-11, 2016.
14. Terada M<sup>1,2,3</sup>, Seki M<sup>4</sup>, Takahashi R<sup>4</sup>, Yamada S, Higashibata A<sup>2,5</sup>, Majima H<sup>5</sup>, Sudoh M<sup>1,2</sup>, Mukai C<sup>2</sup>, Ishioka N<sup>2,5,6,7</sup>. (<sup>1</sup>Jikei University, <sup>2</sup>JAXA, <sup>3</sup>NASA, <sup>4</sup>AES, <sup>5</sup>Kagoshima University, <sup>6</sup>ISAS, <sup>7</sup>SOKEINAI): Effects of a Closed Space Environment on Gene Expression in Hair Follicles of Astronauts in the International Space Station. PLoS One 11:e0150801, 2016.
15. Sugita T<sup>1</sup>, Yamazaki T<sup>2</sup>, Makimura K<sup>2</sup>, Cho O<sup>1</sup>, Yamada S, Ohshima H<sup>3</sup>, Mukai C<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Meiji Pharmaceutical University, <sup>2</sup>Teikyo University, <sup>3</sup>JAXA): Comprehensive analysis of the skin fungal microbiota of astronauts during a half-year stay at the International Space Station. Med Mycol 54:232-239, 2016.

## 著書

1. 岡島康友: 脳卒中のリハビリテーション. 脳卒中ビジュアルテキスト第4版. 荒木信夫・高木誠・厚東篤生. 東京, 医学書院, 2015. p.238-250.
2. 岡島康友: すぐ始めよう 脳卒中のリハビリテーション. きょうの健康11月号, 東京, NHK出版, 2015. p.94-99.
3. 山田深: 脳・神経系のアセスメント. フィジカルアセスメントがみえる. 東京, メディックメディア, 2015.
4. 山田深: 筋・骨格系のアセスメント. フィジカルアセスメントがみえる. 東京, メディックメディア, 2015.
5. 高橋秀寿: 小児リハビリテーション評価マニュアル. 問川博之編. 東京, 診断と治療社, 2015.
6. 岡島康友: 神経筋の電気診断学. 最新リハビリテーション医学第3版. 江藤文夫・里宇明元監修. 東京, 医歯薬出版, 2016. p.55-64.

## 特許等知的財産関係, 報告書

1. 山田深: ICF評価点における有用性の検討～ICFコアセットを用いて～. 厚生労働科学研究費補助金 政策科学総合研究事業(政策亜額推進研究事業)国際生活機能分類児童版(ICF-CY)の妥当性に関する研究 平成27年度報告書, 2016. p.18-41.

「リハビリテーション室」

講演

1. 田中耕史, 炭谷由計, 須崎由香, 水石裕, 横山敏彦, 小笠原準悦, 保坂利男, 犬飼浩一, 岡島康友, 石田均: 2型糖尿病患者を対象とした運動療法の処方における心拍数と自覚的強度の関係について. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-24日.
2. 水石裕, 炭谷由計, 須崎由香, 田中耕史, 横山敏彦, 小笠原準悦, 保坂利男, 犬飼浩一, 岡島康友, 石田均: リスト型脈拍計を用いた2型糖尿病患者の運動療法導入強度設定への応用. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-24日.
3. 若林俊夫: 杏林大学硬式野球部メディカルサポートについて. 第8回三鷹武蔵野リハビリテーション連絡会合同研修会, 東京, 2015年6月13日.
4. 間藤翔悟, 山田深, 島崎真希子, 林良幸, 唐帆健浩, 岡島康友: 非ケトosis型高グリシン血症児に対する哺乳及び摂食嚥下訓練の経験. 第16回日本言語聴覚学会, 仙台, 2015年6月26-27日.
5. 鈴木和基, 合田あゆみ, 西田悠一郎, 横山さち, 佐藤徹, 吉野秀朗, 岡島康友: 肺高血圧症患者におけるPeakVO<sub>2</sub>と膝伸展筋力の関係性. 第21回心臓リハビリテーション学会学術集会, 福岡, 2015年7月18-19日.
6. 西田悠一郎, 合田あゆみ, 相原さより, 横山さち, 佐藤徹, 岡島康友, 吉野秀朗: 肺高血圧患者の6分間歩行距離の変化に関する因子の検討. 第21回心臓リハビリテーション学会学術集会, 福岡, 2015年7月18-19日.
7. 石田幸平: 第15回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】, 三鷹, 2015年7月19日.
8. 池田光代: 第6回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【応用編】, 三鷹, 2015年7月19日.
9. 境哲生, 久米泉美, 間藤翔悟, 岡島康友: 新生児集中治療室における障害児の母親の心理. 第23回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会in横浜, 横浜, 2015年8月29-30日.
10. 林良幸, 山田深, 唐帆健浩, 藤澤祐基, 間藤翔悟, 岡島康友: 脳卒中急性期患者の重症度と嚥下障害: MASAを用いたアセスメントとNIHSSの関係. 第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 京都, 2015年9月11-12日.
11. 石井翼, 山田深: 当院における療法士の喀痰吸引実施への取り組み. 第57回全日本病院学会, 札幌, 2015年9月12-13日.
12. 永堀啓: 今より少し上手にできる療養生活のコツ. 第16回糖尿病予防講演会, 東京, 2015年9月26日.
13. 境哲生: NICUにおける障害児のリハビリテーション—母親の心理に配慮して—. 第2回日本周産期精神保健研究会, さいたま, 2015年11月14-15日.
14. 樺村美津子, 山田深, 鳥居正剛, 鈴木理恵子, 平野照之, 塩川芳昭, 岡島康友: 交叉性失語を呈し, 機能局在の左右逆転が示唆された一例. 第39回日本高次脳機能障害学会学術総会, 東京, 2015年12月10-11日.
15. 石田幸平: 第16回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【基礎編】, 三鷹, 2015年12月13日.
16. 池田光代: 第7回看護師・コメディカルのためのFIM講習会【応用編】, 三鷹, 2015年12月13日.
17. 児玉優太, 須崎由香, 田中耕史, 水石裕, 境哲生, 岡島康友: 運動療法の継続時間と血糖コントロールの関係について—腕時計型脈拍計を活用した検討—. 第5回杏林メディカルフォーラム, 東京, 2016年3月5日.

論文

1. 鈴木和基, 合田あゆみ<sup>1</sup>, 西田悠一郎, 田中耕史, 横山さち, 吉野秀朗<sup>1</sup>, 佐藤徹<sup>1</sup>, 山田深, 岡島康友 (<sup>1</sup>杏林大・

医・第2内科学): 経皮的肺動脈拡張術後の慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者における運動中の呼吸循環反応の検討—肺高血圧症の至適運動強度はATレベルか?. 心臓リハビリテーション 21: 93-98, 2016.

2. 西田悠一郎: 理学療法士の視点からみた早期リハビリテーションの実践. 杏林医会誌 47: 55-60, 2016.

著書

1. 池田光代: 急性期/能動的なADLを目標として介入した脳出血の80代女性. 自信がもてる! リハビリテーション臨床実習. 里宇明元監修. 東京, 医歯薬出版, 2015. p. 130-137.

脳卒中医学教室

講演

学会・研究会

1. 平野照之: 脳卒中専門医のNOAC選び. Neurosurgery Kinki 2015 Spring Meeting, 豊中, 2015年4月18日.
2. 平野照之: Acute Revascularization Therapy for Cardioembolic Stroke. 第79回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2015年4月26日.
3. 平野照之: CT first. All you need is a NCCT within the 4.5 hours' time window. 第56回日本神経学会学術集会, 新潟, 2015年5月21日.
4. 平野照之: 超高齢社会ニッポンにおける抗凝固療法—攻めと守りのバランスをどう考えるか—. 第56回日本神経学会学術大会, 新潟, 2015年5月23日.
5. 平野照之: 脳循環予備能と脳血管反応性: その意義と評価法. 第34回日本脳神経超音波学会, 京都, 2015年6月4日.
6. 平野照之: 脳ドックのMRIで見つかる所見: 脳小血管病に注目して. 第24回日本脳ドック学会総会, 横浜, 2015年6月7日.
7. 平野照之: DTIを活かした心原性脳塞栓症の治療戦略. 第24回日本脳ドック学会総会, 横浜, 2015年6月7日.
8. 平野照之: 脳梗塞予防への共闘 脳卒中医の立場から. 第2回日本心血管脳卒中学会学術集会, 徳島, 2015年6月12日.
9. 平野照之: 安全かつ最短の再開通のため, 何をどう使うか?. 第34回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 神戸, 2015年8月29日.
10. 平野照之: 脳梗塞急性期画像診断. 第9回東京脳卒中の血管内治療セミナー (TSNETS 2015), 東京, 2015年9月12日.
11. 平野照之: 脳卒中専門医のNOAC選び. 第18回日本栓子検出と治療学会, 宇都宮, 2015年9月26日.
12. 海野佳子: 頭痛外来のコツ—みんなが満足する頭痛診療を考えよう—. Migraine Clinical Speaker's Seminar (MCSS) 2015, 東京, 2015年10月3日.
13. 平野照之: ATIS 2015. 第27回日本脳循環代謝学会総会, 富山, 2015年10月30日.
14. 平野照之: ニッポンの実力: ENGAGE試験を読み解く. 第43回日本頭痛学会総会, 東京, 2015年11月13日.
15. 海野佳子: TACsの概念, 病態, 治療. 第43回日本頭痛学会総会, 東京, 2015年11月13-14日.
16. 平野照之: NOAC/DOACとガイドライン2015. 第31回NP0法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 岡山, 2015年11月20日.
17. 平野照之: 煙に巻かずに脳を守る話. 第9回日本禁煙学会総会, 熊本, 2015年11月22日.
18. 平野照之: 画像診断の最適化 世界の潮流と本邦の課題.

第39回日本脳神経CI学会総会，東京，2016年1月29日。

19. 平野照之：ここまでの脳梗塞治療：2015 update. 平成27年度日本神経学会九州地区生涯教育講演会，福岡，2016年3月13日。
20. 平野照之：2015年とはどんな年であったか？. 第2回Frontier in Acute Treatment -FAST Conference-，東京，2016年3月19日。

#### 国際学会

1. Suzuki R, Toyoda K, Minematsu K, Yasaka M, Hosomi N, Nagai Y, Kitagawa K, Uchiyama S, Matsumoto M: Contributing factors for the baseline intima-media thickness of the carotid artery in Japanese stroke patients: J-STARS Echo Study. The European Stroke Organisation Conference, UK, April 17th-19th, 2015.
2. Hirano T: Vascular events in patients with lifestyle-related diseases. The 3rd Asian Clinical Congress (ACC3), Tokyo, September 5th, 2015.

#### 地域の講演会

1. 平野照之：NOAC時代の脳梗塞連携医療. Stroke Care Conference in TAMA, 武蔵野，2015年4月1日。
2. 平野照之：実臨床に役立つ心房細動のみかたー2次予防の立場からー. エリキュースインターネット講演会，東京，2015年4月3日。
3. 平野照之：脳梗塞再発予防におけるDTIの意義. 多摩地区抗凝固療法Stroke Expert Meeting，東京，2015年4月6日。
4. 平野照之：脳梗塞再発予防におけるDTIの意義. 西東京地区抗凝固療法Network Meeting，三鷹，2015年4月8日。
5. 平野照之：心原性脳塞栓症の予防で意識すべき3つの視点～アピキサバンは，抗凝固療法の主役になれるか？～. エリキュース発売2周年記念講演会in大分，大分，2015年4月9日。
6. 平野照之：心原性脳塞栓症：予防と治療の最新動向. 三重県Care AF講演会，津，2015年4月23日。
7. 平野照之：Neuroimagingに基づく脳梗塞治療戦略. 第15回首都圏脳卒中フォーラム，東京，2015年4月24日。
8. 平野照之：心原性脳塞栓症の最新治療：アンメットニューズに依って. Expert Meeting，柏，2015年5月11日。
9. 平野照之：新時代を迎えた脳卒中連携～診療の均てん化を目指して～. 北多摩ストロークセミナー，武蔵野，2015年5月25日。
10. 平野照之：脳卒中専門医のNOAC選び. 城西地区Stroke Network Meeting，東京，2015年5月26日。
11. 平野照之：全身疾患としての脳卒中. 第18回横浜南部脳卒中ネットワーク，横浜，2015年5月28日。
12. 平野照之：脳梗塞の診断と治療 2015 update. Stroke in Gunma, 高崎，2015年6月5日。
13. 平野照之：心原性脳塞栓症のリスク回避. 脳卒中学術講演会（沖縄県北部地区医師会），名護，2015年6月18日。
14. 平野照之：DTIを活かした心原性脳塞栓症の治療戦略. 板橋区医師会学術講演会，東京，2015年6月19日。
15. 平野照之：脳卒中専門医から見たエドキサバンの位置付け. たつの市・揖保郡医師会学術講演会，たつの，2015年6月25日。
16. 平野照之：脳梗塞に対する抗血小板療法：ガイドライン2015を見据えて. 平成27年度第2回山梨県薬剤師会学術研修会，甲府，2015年6月30日。
17. 平野照之：脳卒中専門医のNOAC選び. 大館抗凝固療法講演会，大館，2015年7月8日。
18. 平野照之：脳卒中ガイドライン2015を踏まえた実践治療. Koganei Kokubunji Kunitachi Regression Conference，国分寺，2015年7月14日。
19. 平野照之：脳梗塞再発予防とDTI. 三好地区医師会学術講演会，三次，2015年7月16日。
20. 平野照之：DTIを活かした心原性脳塞栓症の治療戦略. 鹿行地区Network Meeting，神栖，2015年7月23日。
21. 平野照之：脳梗塞急性期治療の最新動向. 第2回Tama-FAST，立川，2015年7月24日。
22. 平野照之：脳卒中専門医から見たエドキサバンの位置付け. 第18回兵庫神経セミナー，姫路，2015年7月25日。
23. 鈴木理恵子：子官筋腫に伴う鉄欠乏生貧血と，大動脈可動性血栓を認めた1例. 第1回Tokyo Stroke Expert Meeting，東京，2015年8月7日。
24. 平野照之：脳卒中初期診療～Time is Brain～，ここが知りたい！画像の見方. 第1回杏林大学医学部附属病院脳卒中センター脳卒中看護公開講座2015，三鷹，2015年8月8日。
25. 平野照之：間違いだらけのNOAC選び. 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社本社社内講演会，大崎，2015年8月20日。
26. 平野照之：実臨床に役立つ心房細動のみかたー2次予防の立場からー. 熊本市内科医会学術講演会，熊本，2015年8月21日。
27. 平野照之：脳卒中専門医からみたエドキサバンの位置付け. 抗凝固療法フォーラム，豊岡，2015年8月26日。
28. 平野照之：間違いだらけのNOAC選び. 第3回K.U.S.C. (Kobe University Stroke Conference)，神戸，2015年8月27日。
29. 平野照之：脳梗塞の血压管理～The lower “really” the better?～. アイミクス発売3周年期年講演会in弘前，弘前，2015年9月7日。
30. 平野照之：脳卒中専門医からみたエドキサバンの位置付け. 第383回熊本心臓病カンファレンス特別講演会，熊本，2015年9月10日。
31. 鈴木理恵子：杏林大学脳卒中センターについて. Stroke Seminar 2015，三鷹，2015年9月18日。
32. 平野照之：脳卒中治療ガイドライン2015：どこが変わった？. 第2回鹿本医師会脳卒中セミナー，山鹿，2015年9月24日。
33. 平野照之：知っておきたい脳卒中治療のTips～ナッシュビル・ホープから歩いて受診する脳卒中まで～. 武蔵野市医師会学術講演会，武蔵野，2015年9月30日。
34. 平野照之：明日から使える抗凝固療法の選択と注意点～治療と医療連携～. エリキュースインターネット講演会，渋谷，2015年10月2日。
35. 平野照之：脳卒中専門医のNOAC選び. STROKE EXPERT MEETING，東京，2015年10月9日。
36. 平野照之：脳卒中専門医が考えるNOACとは？. プラザキサ®Web講演会，東京，2015年10月14日。
37. 平野照之：急性期からの抗血小板療法2015update. 第8回文京脳卒中マネジメントフォーラム，東京，2015年10月23日。
38. 平野照之：脳卒中専門医のNOAC選び. 渋谷区心房細動Network Meeting，東京，2015年10月26日。
39. 平野照之：脳卒中専門医から見たエドキサバンの位置づけ. リクシアナ効能追加1周年講演会，甲府，2015年10月27日。
40. 平野照之：脳卒中専門医のNOAC選び. Hirosaki Brain Protection Seminar，弘前，2015年11月4日。
41. 平野照之：脳卒中治療ガイドライン2015に則った抗血栓療法の均てん化. 2015ストップ！NO卒中プロジェクト全国一斉エリア会議，高知，2015年11月5日。

42. 平野照之:脳卒中治療ガイドライン2015に則った抗血栓療法の均てん化. 2015ストップ! NO卒中プロジェクトエリア会議in札幌, 札幌, 2015年11月7日.
  43. 平野照之:ガイドライン改定にみる6年の変遷. 脳梗塞治療セミナー~脳卒中治療ガイドライン2015改定記念~, 柏, 2015年11月9日.
  44. 平野照之:脳卒中治療ガイドライン2015:どこが変わったか?. 第24回山梨脳卒中研究会(予防・治療・リハ・ケアを考える), 甲府, 2015年11月10日.
  45. 平野照之:Best Medical Treatmentと外科治療の共闘. 第52回多摩脳神経外科懇話会, 武蔵野, 2015年11月12日.
  46. 平野照之:間違いだらけのNOAC選び. 第2回新潟脳神経血管超音波研究会, 新潟, 2015年11月14日.
  47. 平野照之:脳卒中専門医のNOAC選び. Brain Protection Forum in Honjo, 由利本荘, 2015年11月18日.
  48. 平野照之:ガイドライン2015から考えるDOAC時代の連携医療. 第2回脳卒中地域連携パスを考える会(浦安・市川地区), 浦安, 2015年11月19日.
  49. 平野照之:脳卒中治療ガイドライン2015に則った抗血栓療法の均てん化. 2015ストップ! NO卒中プロジェクト全国一斉エリア会議in信州, 松本, 2015年11月25日.
  50. 平野照之:間違いだらけのNOAC選び. 小江戸脳卒中セミナー, 川越, 2015年12月2日.
  51. 平野照之:間違いだらけのNOAC選び. BYL医療連携カンファレンス, 京都, 2015年12月5日.
  52. 平野照之:心原性脳塞栓症の治療と予防:2015update. 神経内科学術講演会, 鴨川, 2015年12月8日.
  53. 平野照之:凝固カスケードから見たDOAC作用機序の違い. Expert Opinion Exchange Meeting in Shinjuku, 東京, 2015年12月10日.
  54. 平野照之:脳卒中治療ガイドライン2015:どこが変わったか?. Fighting Polyvascular Disease in TOKACHI, 帯広, 2016年2月5日.
  55. 平野照之:脳卒中治療ガイドライン2015:どこが変わったか?. 第12回多摩Stroke研究会, 立川, 2016年2月25日.
  56. 平野照之:間違いだらけのNOAC選び. 第3回Circulation Conference in Fukuoka, 福岡, 2016年2月26日.
  57. 平野照之:脳卒中医が抗凝固療法に求めること. 福岡県内科医会北九州ブロック学術講演会, 小倉, 2016年3月1日.
  58. 平野照之:脳卒中専門医のNOAC選び. 北多摩地区抗凝固療法Expert Meeting, 東京, 2016年3月2日.
  59. 平野照之:脳卒中の包括的管理と急性期治療. 学術講演会~脳卒中治療のUp to date~, 仙台, 2016年3月3日.
  60. 平野照之:脳梗塞に対する抗血小板療法:ガイドライン2015を踏まえて. Metropolitan Stroke Workshop 2016, 東京, 2016年3月4日.
  61. 平野照之:DTIによる抗凝固関連出血のリスク回避. 城東地区抗凝固療法Expert Meeting, 東京, 2016年3月7日.
  62. 平野照之:脳梗塞の治療:2015エビデンスの先へ. エリキュース脳卒中プリベンションセミナー~脳卒中total management~, 東京, 2016年3月8日.
  63. 鈴木理恵子:女性と脳卒中. 第9回脳卒中エキスパートミーティング, 岡山, 2016年3月9日.
  64. 平野照之:何が脳血管を塞ぎ,そこをどう通すか?. エリキュースインターネット講演会, 東京, 2016年3月11日.
- Matsushima H<sup>1</sup>, Tanaka K<sup>1</sup>, Miyagi T<sup>1</sup>, Toyoda K<sup>1</sup>, Minematsu K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center): Transient ischemic attack clinic in an urban area of Japan. *Int J Stroke* 10(5):E43, 2015.
  2. Ohara T<sup>1</sup>, Uehara T<sup>1</sup>, Toyoda K<sup>1</sup>, Suzuki R<sup>1</sup>, Sato S<sup>1</sup>, Nagatsuka K<sup>1</sup>, Minematsu K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center): Early stroke risk after transient ischemic attack in patients without large-artery disease or atrial fibrillation. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 24(7):1656-1661, 2015.
  3. Tokunaga K<sup>1</sup>, Koga M<sup>1</sup>, Yoshimura S<sup>1</sup>, Arihiro S<sup>1</sup>, Suzuki R<sup>1</sup>, Nagatsuka K<sup>1</sup>, Toyoda K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Cerebral and Cardiovascular Center): Optimal peak systolic velocity thresholds for predicting internal carotid artery stenosis greater than or equal to 50%, 60%, 70%, and 80%. *J Stroke Cerebrovasc Dis.* (in press).
  4. 鈴木理恵子<sup>1</sup>, 古賀政利<sup>1</sup>, 山本晴子<sup>1</sup>, 大山賢<sup>1</sup>, 徳永敬介<sup>1</sup>, 松木孝之<sup>1</sup>, 長束一行<sup>1</sup>, 豊田一則<sup>1</sup>, 峰松一夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>国立循環器病研究センター): rt-PA静注による閉塞血管早期再開通率の検討:虚血性脳卒中に対する新規超音波血栓溶解装置開発の対照データ. *Neurosonology* 28(1):12-16, 2015.
  5. Amano Y<sup>1</sup>, Kimura N<sup>1</sup>, Hanaoka T<sup>1</sup>, Aso Y<sup>1</sup>, Hirano T, Murai H<sup>2</sup>, Satoh K<sup>1</sup>, Matsubara E<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Oita University, <sup>2</sup>Kyusyu University): Creutzfeldt-Jakob Disease with a prion protein gene codon 180 mutation presenting asymmetric cortical high-intensity on magnetic resonance imaging. *Prion* 9(1):29-33, 2015.
  6. Haji M<sup>1</sup>, Kimura N<sup>1</sup>, Hanaoka T<sup>1</sup>, Aso Y<sup>1</sup>, Takemaru M<sup>1</sup>, Hirano T, Matsubara E<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Oita University): Evaluation of regional cerebral blood flow in Alzheimer's disease patients with subclinical hypothyroidism. *Dement Geriatr Cogn Disord* 39 (5-6):360-367, 2015.
  7. Ueda A<sup>1</sup>, Ueda M<sup>1</sup>, Nagatoshi A<sup>1</sup>, Hirano T, Ito T<sup>1</sup>, Arai N<sup>1</sup>, Uyama E<sup>2</sup>, Mori K<sup>1</sup>, Nakamura M<sup>3</sup>, Shinriki S<sup>1</sup>, Ikeda K<sup>1</sup>, Ando Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kumamoto University, <sup>2</sup>Takumadai Hospital, <sup>3</sup>National Minamata Disease Center): Genotypic and phenotypic spectrum of CADASIL in Japan: the experience at a referral center in Kumamoto University from 1997 to 2014. *J Neurol* 262(8): 1828-1836, 2015.

#### 総説・依頼総説

1. Hirano T: Evaluation of Cerebral Perfusion in Patients Undergoing Intravenous Recombinant Tissue Plasminogen Activator Thrombolysis. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 55(10):789-795, 2015.
2. 平田幸一<sup>1</sup>, 福武敏夫<sup>2</sup>, 五十嵐久佳<sup>3</sup>, 海野佳子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>獨協医大, <sup>2</sup>亀田メディカルセンター, <sup>3</sup>富士通クリニック):片頭痛の前兆についてトリプタン内服のタイミングも含めて. *Headache Clinical & Science* 6(2):5-13, 2015.
3. 平野照之:外来で遭遇することの多い神経症候 しびれ. *臨牀と研究* 92(6):709-714, 2015.
4. 平野照之:雷鳴頭痛:RCVSとは何か?. *medicina* 52(8):1286-1289, 2015.
5. 平野照之:中枢神経血管炎. *日本臨牀* 73(Suppl 7): 701-705, 2015.
6. 平野照之:高齢者への血栓溶解療法. *Geriatric Medicine* 53(6):599-604, 2015.
7. 平野照之:rt-PA静注療法と脳循環代謝画像-これからの適応拡大に向けて-. *Proceedings of the Mt. Fuji Workshop on CVD* 33:69-74, 2015.
8. 平野照之:脳梗塞急性期の血栓溶解療法 (tPA). 季刊

#### 論文

##### 原著

1. Suzuki R<sup>1</sup>, Uehara T<sup>1</sup>, Ohara T<sup>1</sup>, Hama Y<sup>1</sup>, Shimomu R<sup>1</sup>,

誌「脳21」18(3):172-178, 2015.

9. 平野照之:脳卒中関連のガイドライン rt-PA(アルテプラゼ) 静注療法適正治療指針第二版. BRAIN NURSING 31(11):35-37, 2015.
10. 平野照之:脳神経疾患で注意を要する薬剤:脳塞栓症. 脳の看護実践1(3):12-18, 2015.
11. 平野照之:急性期血行再建療法と画像診断. 脳循環代謝 26(2):213-223, 2015.
12. 平野照之:脳卒中の基礎知識 全身病としての脳卒中. Neurosurg Emerg 20(2):149-153, 2015.
13. 平野照之:救急医療における脳卒中診療の位置づけ 内科医の立場から. Neurosurg Emerg 20(2):154-159, 2015.
14. 平野照之:脳循環予備能と脳血管反応性:その意義と評価法. Neurosonology 28(3):151-153, 2015.
15. 平野照之:ここまで来た脳梗塞急性期治療:Nashville Hopeの時代. 分子脳血管病 15(1):38-42, 2016.
16. 平野照之:脳梗塞の画像診断. medicina 53(2):250-254, 2016.
17. 平野照之:血栓回収療法導入後のrt-PA療法の考え方. 脳と循環 21(1):21-26, 2016.

## 著書

### 分担執筆

1. 平野照之:総論-無症候性脳血管障害のイメージングの選定. 脳神経外科診療プラクティス無症候性脳血管障害を解く. 橋本信夫監修, 飯原弘二編集. 東京, 文光堂, 2015. p. 58-63.
2. 海野佳子:薬剤の使用過多による頭痛(薬物乱用頭痛, MOH) はどのように診断し, 治療するのでしょうか?. 神経内科Clinical Questions & Pearls頭痛. 鈴木則宏シリーズ監修, 清水利彦編集. 東京, 中外医学社, 2016. p. 264-270.
3. 海野佳子:case approach 薬剤の使用過多による頭痛症例. 神経内科Clinical Questions & Pearls頭痛. 鈴木則宏シリーズ監修, 清水利彦編集. 東京, 中外医学社, 2016. p. 296-299.

### その他

1. 平野照之, 宮内靖史, 新田順一, 奥田聡:脳卒中治療ガイドライン/心房細動治療(薬物)ガイドラインを読み解く~実臨床のご経験から~. エリキュース座談会, 東京, 2015年10月13日.
2. 山口武典, 永廣信治, 中山博文, 平野照之:今後の脳卒中医療を語る. 動脈硬化予防 Prevention of Arteriosclerosis座談会, 大阪, 2015年11月15日.
3. 清水渉, 井口保之, 平野照之, 林明聡, 谷本耕司郎:リクシアナWeb座談会~日本人に最適なNOACとは?~. AF・VTE edo-net座談会, 東京, 2015年12月7日.
4. 橋本洋一郎, 平野照之, 長谷川泰弘, 佐多政隆, 藤城光弘:大出血ハイリスク例に対する抗凝固療法. Cardio-Coagulation座談会, 東京, 2015年12月23日.
5. 三田村秀雄, Connolly SJ, 平野照之, 山田典一:ARISTOTLE試験とAMPLIFY試験で示されたエリキュースの有効性と安全性. メディカルトリビューン座談会, 東京, 2016年3月12日.
6. 海野佳子:脳梗塞コラム第2回 高血圧に注意して, 脳梗塞を予防しよう!. NO!梗塞.net (Web掲載), 2016年.

## 医学教育学教室

### 講演

1. 赤木美智男:ダウン症候群に合併する先天性心疾患の性差. 第62回日本小児保健協会学術集会, 長崎, 2015年6月19日.

2. 富田泰彦:臨床研修指導医養成講習会の研修内容に関する現状と課題. 第47回日本医学教育学会総会, 新潟, 2015年7月25日.
3. 赤木美智男:実習生とのコミュニケーション-フィードバックとふり返りの技法. 第9回東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ, 東京, 2015年8月30日.
4. 赤木美智男:実習生とのコミュニケーション-フィードバックとふり返りの技法. 第10回東京薬科大学 長期実務実習のためのワークショップ, 東京, 2016年2月14日.

### その他

1. 赤木美智男:杏林大学医学部付属病院 第21回指導医養成ワークショップ, 2015年5月29-30日, ディレクター.
2. 富田泰彦:杏林大学医学部付属病院 第21回指導医養成ワークショップ, 2015年5月29-30日, チーフタスクフォース.
3. 矢島知治:杏林大学医学部付属病院 第21回指導医養成ワークショップ, 2015年5月29-30日, タスクフォース.
4. 赤木美智男:杏林大学医学部付属病院 第22回指導医養成ワークショップ, 2015年10月16-17日, ディレクター.
5. 富田泰彦:杏林大学医学部付属病院 第22回指導医養成ワークショップ, 2015年10月16-17日, チーフタスクフォース.
6. 矢島知治:杏林大学医学部付属病院 第22回指導医養成ワークショップ, 2015年10月16-17日, タスクフォース.
7. 富田泰彦:全国自治体病院協議会主催, 第128回臨床研修指導医養成講習会, 2016年1月22-24日, タスクフォース.
8. 赤木美智男:全国自治体病院協議会主催, 第128回臨床研修指導医養成講習会, 2016年1月22-24日, ディレクター.
9. 富田泰彦:全国自治体病院協議会主催, 第130回臨床研修指導医養成講習会, 2016年2月26-28日, タスクフォース.

## 解剖学教室 (肉眼解剖学)

### 講演

1. 松村讓児:献体に対する自問:私たちの理解・意識は正当なのか. 第29回日本医学会総会2015関西, 京都, 2015年4月11日.
2. 松村讓児:解剖学におけるデフォルメ:メディカルイラストレーション. 第22回美術解剖学会, 東京, 2015年7月18日.
3. 三川信之, 天野カオリ, 岩波正陽, 内田悠記, 秋田新介, 窪田吉孝, 松村讓児, 佐藤兼重:ヒト胎児の上眼瞼の局所解剖と組織学的研究. 一人ひとりの比較. 第24回日本形成外科学会基礎学術集会, 盛岡, 2015年10月8-9日.
4. 松村讓児:サージカルトレーニングと献体. 平成27年度 徳島大学クリニカルアナトミー・研究センター報告会, 徳島, 2015年12月2日.
5. 内藤美智子, 天野カオリ, 林省吾, 島田和幸:Superficial musculoaponeurotic system(SMAS)について. 第121回日本解剖学会・全国学術集会, 郡山, 2016年3月28-30日.
6. 天野カオリ, 島田和幸, 松村讓児:胎児顎下腺管における形態構造について. 第121回日本解剖学会・全国学術集会, 郡山, 2016年3月28-30日.

### 論文

1. Amano K, Yokose S<sup>1</sup>, Matsumura G, Ohno N<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Dept of Operative Dent, Meikai Univ Med of Dent, <sup>2</sup>Dept of Orai Anat Aich-Gakuenn Univ Med Dent): Nerve innervations in the human adult and fetal parotid duct. Eur J Anat 19:1-7, 2015.

2. Moriyama H<sup>1</sup>, Amano K, Itoh M<sup>2</sup>, Matsumura G, Otsuka N<sup>1</sup> (1Dept of Anat Showa Univ Med, 2Dept of Anat Tokyo Med Univ): Morphometric aspects of the facial and skeletal muscles in fetuses. Ital J Pediatr Otorhinolaryngol 79: 998-1002, 2015.
3. 島田和幸<sup>1</sup>, 天野カオリ, 内藤美智子<sup>2</sup> (1鹿児島大・東京医科大, 2日本大・医・機能形態生体構造): 大正初期より昭和初期に出版された中村不析の『藝術解剖学』について. 形態科学19: 5-8, 2016.
4. 島田和幸<sup>1</sup>, 天野カオリ, 内藤美智子<sup>2</sup> (1鹿児島大・東京医科大, 2日本大・医・機能形態生体構造): 西田正秋著の『美術解剖学論攷』について. 形態科学19: 9-12, 2016.
5. 高篠智<sup>1,5</sup>, 宮木孝昌<sup>2,3</sup>, 池崎隆三郎<sup>4</sup>, 小川晃汰<sup>4</sup>, 原田巽矢<sup>4</sup>, 灰塚嘉典, 天野カオリ, 北村修<sup>5</sup>, 松村讓児 (1杏林大・医・解剖, 2東京医科大・人体構造, 3愛知医科大・解剖, 4杏林大・医・学生, 5杏林大・医・法医): 馬蹄腎の1例. 形態科学19: 23-27, 2016.
6. Takami S<sup>1,2,3</sup>, Yukimatsu M<sup>1</sup>, Matsumura G, Horie S<sup>1,4</sup>, Nishiyama F<sup>1</sup> (1Dept of Anat Faculty of Health Sciences, Kyorin Univ, 2Sakai Electron Microscopy Application Lab, 3Dept of Physiology, Iwate Med Univ Dent, 4Dept of Anat, Kawasaki Med): Morphological Analysis for Neuron-Like Cells in the Vomeronasal Organ of Human Fetus at the Middle of Gestation. Anat Rec 299:88-97, 2016.

**著書**

1. 松村讓児: 南山堂医学大辞典 第20版. 東京, 南山堂, 2015.
2. 松村讓児: いらすと! はじめての解剖学. 東京, 医学評論社, 2015.
3. 松村讓児: 平成28年度中学校 新編 新しい科学1・2・3年生. 岡村定矩・藤嶋昭代表. 東京, 東京書籍, 2015.
4. 松村讓児: 看護国試シリーズ みるみるナース解剖生理 第4版. 東京, 医学評論社, 2016.
5. 松村讓児: 末梢系疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 2-11.
6. 松村讓児: 中枢系疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 18-30.
7. 松村讓児: 免疫・炎症・アレルギー疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 190-200.
8. 松村讓児: 骨・関節・カルシウム代謝疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 190-200.
9. 松村讓児: 循環器系疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 338-351.
10. 松村讓児: 血液・造血器系疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 448-459.
11. 松村讓児: 泌尿器系・生殖器系疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 520-535.
12. 松村讓児: 呼吸器系疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 624-631.
13. 松村讓児: 消化器系疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 673-681.
14. 松村讓児: 代謝系疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 810-819.

15. 松村讓児: 内分泌系疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 877-889.
16. 松村讓児: 眼疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 948-953.
17. 松村讓児: 耳鼻咽喉疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 981-989.
18. 松村讓児: 皮膚疾患. 病気とくすり2016 薬局増刊号. 基礎と実践 Expert's Guide. 東京, 南山堂, 2016. p. 1030-1037.
19. 松村讓児: 病気がみえるVol.1 消化器 第5版. 東京, メディックメディア, 2016.

**その他**

1. 松村讓児: しんぶんであそぼう 3回目 「見える」ってなあに?. 毎日小学生新聞: B-C別刷り, 毎日新聞, 2015.
2. 松村讓児: 私の一冊 自然として人を詠う. 週刊日本医事新報 No. 4757: 77, 日本医事新報社, 2015.
3. 松村讓児: 全身にある「筋肉」のつくりと働き. 少年写真新聞9月18日号: 小学保健ニュース No. 1081, 東京, 少年写真新聞社, 2015.
4. 松村讓児: 筋肉のつくりと働き. 少年写真新聞9月18日: 小学保健ニュース No. 1081付録, 東京, 少年写真新聞社, 2015.
5. 松村讓児: 全身にある「筋肉」のつくりと働き. 少年写真新聞9月18日: ほけん通信 小学保健ニュース No. 1081付録, 東京, 少年写真新聞社, 2015.
6. 松村讓児: しってる? みんなのほねじてん. 小学一年生12月号: 53-61, 東京, 小学館, 2015.
7. 松村讓児(監修): 聞く バランスほかの機能 耳の役割. 読売KoDoMo新聞11月12日, 第244号: 10-11, 東京, 読売新聞東京本社, 2015.

**解剖学教室  
(顕微解剖学)**

**講演**

1. 秋元義弘, 帯刀章子, 宮地まり, 鎌田理代, 松原幸枝, 川上速人: レチノイン酸によるラット胎仔表皮の粘膜上皮への分化転換. 日本顕微鏡学会第71回学術講演会, 京都, 2015年5月13-15日.
2. 青柳共太, 今泉美佳, 板倉誠, 鳥居征司, 岸本拓磨, 秋元義弘, 原田彰宏, 高橋正身, 永松信哉: VAMP7による第2相インスリン分泌の制御機構. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-24日.
3. 石川崇広, 竹本稔, 秋元義弘, 楊國昌, 石橋亮一, 賀鵬, 坂本憲一, 正司真弓, 服部暁子, 山賀政弥, 北本匠, 井出真太郎, 井出佳奈, 前澤善朗, 小林一貴, 河村治清, 徳山宏丈, 横手幸太郎: 新規TGF-βシグナル抑制因子R3hdm1のポドサイトに対する機能解析. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-24日.
4. 塩尻信義, 川上速人: 肉鱗類シラカンスの肝臓の組織構築. 第22回肝細胞研究会, 米子, 2015年6月4-5日.
5. 高橋昌兵, 西堀由紀野, 濱野翔, 高木永, 秋元義弘, 宮東昭彦, 福富俊之, 楊國昌: Ubiquitin specific protease-40 (USP40) knockout (KO) mouseは糸球体内皮異常によるタンパク尿を示す. 日本小児腎臓病学会学術集会第50回記念大会, 神戸, 2015年6月18-20日.
6. 濱野翔, 西堀由紀野, 伊藤紀子, 高橋昌兵, 宮東昭彦, 楊國昌: ポドサイトの発生にかかわるCrumbs homolog2 (Crb2)の分子基盤. 日本小児腎臓病学会学術集会第50回記念大会, 神戸, 2015年6月18-20日.



7. 西堀由紀野, 高橋昌兵, 福富俊之, 秋元義弘, 楊國昌: プロテオーム解析による糸球体硬化の病態解明. 日本小児腎臓病学会学術集会第50回記念大会, 神戸, 2015年6月18-20日.
8. 津元裕樹, 小笠原大介, 鈴木孝禎, 秋元義弘, 遠藤玉夫, 三浦ゆり: チオール-ジスルフィド交換を利用した $\alpha$ -GlcNAc化ペプチド濃縮法の定量解析への応用. 日本プロテオーム学会2015年会, 熊本, 2015年7月23-24日.
9. 菅原大介, 福富俊之, 秋元義弘, 川上速人: マウス腸管上皮恒常性維持におけるフコシル化糖タンパク質の機能探索. 第34回日本糖質学会年会, 東京, 2015年7月31日-8月2日.
10. 秋元義弘, 榊田創, 池原早苗, 山口高志, 金載浩, 堀勝, 池原讓: プラズマ照射による組織細胞への分子レベルでの影響の超微形態学的解析. 第4回プラズマ医療の創成公開シンポジウム, 名古屋, 2015年8月5日.
11. 宮東昭彦: 画像解析による画像データ定量化の基礎. 第40回組織細胞化学講習会, 東京, 2015年8月5-6日.
12. 石川崇広, 竹本稔, 秋元義弘, 楊國昌, 坂本憲一, 正司真弓, 服部暁子, 山賀政弥, 井出真太郎, 井出佳奈, 林愛子, 前澤善朗, 小林一貴, 横手幸太郎: 新規ボドサイト特異的遺伝子R3hdm1はTGF- $\beta$ シグナルに対する内因性の抑制因子である. 第19回日本適応医学会学術集会, 東京, 2015年9月12-13日.
13. Akimoto Y, Sakakita H, Ikehara S, Yamaguchi T, Kim J, Ikehara Y: Effect of low temperature plasma on the expression of galectins in wound healing skin. 23rd International Symposium on Glycoconjugates, Croatia, September 15th-20th, 2015.
14. 光永敬子, 秋元義弘, 安井金也, 山下一郎, 川上速人, 安増茂樹: メダカ脳におけるアリアルスルファターゼB (ArsB)の発現領域とその構造. 日本動物学会第86回大会, 新潟, 2015年9月17-19日.
15. 塩尻信義, 亀谷治頌, 福地智一, 安保友香, 関口純理, 松原幸枝, 川上速人: 条鱗類における肝臓構築の多様性. 日本動物学会第86回大会, 新潟, 2015年9月17-19日.
16. Nakanishi K, Kurohane K, Matsubara S, Akimoto Y, Kawakami H, Niwa Y, Kobayashi H, Imai Y: Hybrid IgA expressed in Arabidopsis is localized in the protein body-like structure in the leaves. 第6回植物電子顕微鏡若手ワークショップ, 横浜, 2015年9月25日.
17. Kataoka H, Ushiyama A, Kawakami H, Akimoto Y, Matsubara S, Ochi H, Iijima T: The effects on the endothelial glycocalyx layer and the microcirculatory parameters under septic condition in mice. The 10th World Congress for Microcirculation, Kyoto, September 25th-27th, 2015.
18. 秋元義弘, 菅原大介, 宮東昭彦, 川上速人: 蛍光 *in situ* PLA法と可視光 *in situ* PLA法の比較検討. 第56回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 枚方, 2015年10月3-4日.
19. 宮東昭彦, 川上速人: 画像解析によるデータ定量化のポイント. 第56回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 枚方, 2015年10月3-4日.
20. 菅原大介, 福富俊之, 秋元義弘, 川上速人: コアタンパク質の多様性に着目した糖タンパク質の免疫組織化学的検出. 第56回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 枚方, 2015年10月3-4日.
21. Hanawa T, Kamachi K, Yonezawa H, Kawakami H, Kamiya S: Characterization of pellicle formed by *Bordetella pertussis*. 7th ASM Conference on Biofilms, USA, October 24th-29th, 2015.
22. 秋元義弘: プラズマ照射による細胞, 組織への影響の分子形態学的解析. 第4回プラズマ医療科学の創成研究会, 神戸, 2015年10月30日-11月1日.
23. 石川崇広, 竹本稔, 秋元義弘, 楊國昌, 坂本憲一, 正司真弓, 服部暁子, 山賀政弥, 井出真太郎, 井出佳奈, 林愛子, 前澤善朗, 小林一貴, 横手幸太郎: 糖尿病腎症新規TGF- $\beta$ シグナル抑制因子であるR3hdm1のボドサイトに対する機能解析. 第30回日本糖尿病合併症学会, 名古屋, 2015年11月27-28日.
24. 桑田奈宝子, 小川裕子, 小倉葵, 谷口由真, 米川綾, 秋元義弘, 川上速人, 矢ノ下良平: ヒト唾液由来エキソソームの消化管内環境における安定性の検討. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
25. 藤平陽彦, 根岸-正原由紀, 秋元義弘, 川上速人, 船越陽子, 鈴木匡: 組織特異的ノックアウトマウスを用いたNgly1の生理機能解明. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
26. 青柳共太, 今泉美佳, 板倉誠, 鳥居征司, 秋元義弘, 西脇知世乃, 中道洋子, 岸本拓磨, 原田彰宏, 高橋正身, 永松信哉: VAMP7はオートファジーを制御してミトコンドリアの恒常性維持と第2相インスリン分泌を調節する. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
27. 中村益夫, 和田裕雄, 佐田充, 乾俊哉, 中本啓太郎, 檜垣学, 宮東昭彦, 井上信一, 花輪智子, 小林富美恵, 菅間博, 滝澤始: IL-17A/F遺伝子欠損マウスは長期喫煙曝露による気管開大が抑制される. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
28. 能村卓慈, 竹本記章, 宮川さとみ, 渡部聡朗, 城本悠助, 宮東昭彦, 金井正美, 田代文, 宮崎早月, 刃谷在美, 中馬新一郎, 仲野徹, 宮崎純一: Mouse GTSF1 is essential for secondary piRNA processing in gonocytes. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
29. 光永敬子, 秋元義弘, 安井金也, 山下一郎, 川上速人, 安増茂樹: アリアルスルファターゼB (ArsB)を産生するメダカ第三脳室脈絡叢の超微細構造. 日本動物学会中国四国支部広島県例会, 東広島, 2016年3月2日.
30. 小林尚樹, 磯田勝広, 長谷川知也, 秋元義弘, 平裕一郎, 平郁子, 石田功: 粒子径10nm銀ナノ粒子の安全性評価に関する検討. 日本薬学会第136年会, 横浜, 2016年3月26-29日.
31. 中西勝宏, 黒羽子孝太, 丹羽康夫, 松原幸枝, 秋元義弘, 川上速人, 小林裕和, 今井康之: ベロ毒素に対する分泌型ハイブリッドIgAの植物での産生と細胞内局在の解析. 日本薬学会第136年会, 横浜, 2016年3月26-29日.
32. 津元裕樹, 小笠原大介, 鈴木孝禎, 秋元義弘, 遠藤玉夫, 三浦ゆり: 定量的 $\alpha$ -GlcNAc化プロテオーム解析法の開発. 日本薬学会第136年会, 横浜, 2016年3月26-29日.
33. 秋元義弘, 三浦ゆり, 戸田年総, 福富俊之, 菅原大介, Hart GW, 楊國昌, 遠藤玉夫, 川上速人: 糖尿病性腎症に伴う糖修飾アクチンの局在の変化. 第121回日本解剖学会総会・全国学術集会, 郡山, 2016年3月28-30日.

## 論文

1. Kaneko T<sup>1</sup>, Tsubakihara Y<sup>2</sup>, Fushimi H<sup>3</sup>, Yamaguchi S<sup>3</sup>, Takabatake Y<sup>2</sup>, Rakugi H<sup>2</sup>, Kawakami H, Isaka Y<sup>2</sup> (NTT West Japan Osaka Hospital, <sup>2</sup>Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>3</sup>Osaka General Medical Center): Histochemical and immunoelectron microscopic analysis of ganglioside GM3 in human kidney. Clin Exp Nephrol 19: 403-410, 2015.
2. Nonaka MI<sup>1</sup>, Zsigmond E<sup>2</sup>, Kudo A, Kawakami H,

Yoshida K<sup>3</sup>, Yoshida M<sup>1</sup>, Kawano N<sup>4</sup>, Miyado K<sup>4</sup>, Nonaka M<sup>1</sup>, Wetsel RA<sup>2</sup> (<sup>1</sup>The University of Tokyo, <sup>2</sup>University of Texas Health Science Center at Houston, <sup>3</sup>Toin University of Yokohama, <sup>4</sup>National Center for Child Health and Development): Epididymal C4b-binding protein is processed and degraded during transit through the duct and is not essential for fertility. *Immunobiology* 220: 467-475, 2015.

- Hanawa T<sup>1</sup>, Kamachi K<sup>2</sup>, Yonezawa H<sup>1</sup>, Fukutomi T<sup>3</sup>, Kawakami H, Kamiya S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Infectious Diseases, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>3</sup>Department of Pharmacology, Kyorin University School of Medicine): Glutamate limitation, BvgAS activation, and (p)ppGpp regulate the expression of the *Bordetella pertussis* type 3 secretion system. *J Bacteriol* 198: 343-351, 2015.
- Ikehara S<sup>1</sup>, Sakakita H<sup>1</sup>, Ishikawa K<sup>1</sup>, Akimoto Y, Yamaguchi T<sup>1</sup>, Yamagishi M<sup>1</sup>, Kim J<sup>1</sup>, Ueda M<sup>3</sup>, Ikeda J<sup>4</sup>, Nakanishi H<sup>5</sup>, Shimizu N<sup>6</sup>, Hori M<sup>2</sup>, Ikehara Y<sup>1,5</sup> (<sup>1</sup>The National Institutes of Advanced Industrial Science and Technology, <sup>2</sup>Nagoya University, <sup>3</sup>Okayama University, <sup>4</sup>Osaka University, <sup>5</sup>Aichi Cancer Center Research Institute, <sup>6</sup>SANNO Hospital): Plasma blood coagulation without involving the activation of platelets and coagulation factors. *Plasma Process Polym* 12: 1348-1353, 2015.
- Tsumoto H<sup>1</sup>, Ogasawara D<sup>2</sup>, Hashii N<sup>3</sup>, Suzuki T<sup>2</sup>, Akimoto Y, Endo T<sup>1</sup>, Miura Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>2</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>3</sup>National Institute of Health Sciences): Enrichment of O-GlcNAc-modified peptides using novel thiol-alkyne and thiol-disulfide exchange. *Bioorg Med Chem Lett* 25: 2645-2649, 2015.
- Kogashiwa Y<sup>1,2</sup>, Sakurai H<sup>3</sup>, Akimoto Y, Sato D<sup>2</sup>, Ikeda T<sup>2</sup>, Matsumoto Y<sup>2</sup>, Moro Y<sup>2</sup>, Kimura T<sup>3</sup>, Hamanoue Y<sup>2</sup>, Nakamura T<sup>2</sup>, Yamauchi K<sup>2</sup>, Saito K<sup>2</sup>, Sugasawa M<sup>1</sup>, Kohno N<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Saitama Medical University International Medical Center, <sup>2</sup>Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup>Department of Pharmacology and Toxicology, Kyorin University School of Medicine): Sentinel node biopsy for the head and neck using contrast-enhanced ultrasonography combined with indocyanine green fluorescence in animal models: a feasibility study. *PLoS ONE* 10(7): e0132511, 2015.
- Sugahara D<sup>1</sup>, Tomioka A<sup>1</sup>, Sato T<sup>1</sup>, Narimatsu H<sup>1</sup>, Kaji H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>National Institute of Advanced Industrial Science and Technology): Large-scale identification of secretome glycoproteins recognized by *Wisteria floribunda* agglutinin: A glycoproteomic approach to biomarker discovery. *Proteomics* 15:2921-2933, 2015.
- Kataoka H<sup>1</sup>, Ushiyama A<sup>2</sup>, Kawakami H, Akimoto Y, Matsubara S<sup>3</sup>, Iijima T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Showa University, School of Dentistry, <sup>2</sup>National Institute of Public Health, <sup>3</sup>Laboratory for Electron Microscopy, Kyorin University School of Medicine): Fluorescent imaging of endothelial glycocalyx layer with wheat germ agglutinin using intravital microscopy. *Microsc Res Tech* 79: 31-37, 2016.
- Watanabe T<sup>1</sup>, Keino H<sup>1</sup>, Kudo A, Sato Y<sup>2</sup>, Okada AA<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Ophthalmology, <sup>2</sup>Division of Radioisotope Research, Kyorin University School of Medicine): MicroRNAs in retina during development

of experimental autoimmune uveoretinitis in rats. *Br J Ophthalmol* 100: 425-431, 2016.

**著書**

- Akimoto Y, Miura Y, Endo T, Kawakami H, Hart GW: Diabetes and O-GlcNAcylation. In *Glycoscience: Biology and Medicine*. Taniguchi N, Endo T, Hart GW, Seeberger PH, Wong C-H, Eds. Tokyo, Springer, 2015. p.1207-1212.
- 川上速人: 医学大辞典 第20版. 東京, 南山堂, 2015.
- 秋元義弘, 川上速人: O-GlcNAc. 糖鎖の新機能開発・応用ハンドブック~創薬・医療から食品開発まで. 秋吉一成監修, 東京, エヌ・ティイー・エス, 2015. p.27-30.
- 宮東昭彦, 川上速人: 画像解析による画像データ定量化の基礎. 組織細胞化学2015. 日本組織細胞化学会編, 東京, 学際企画, 2015. p.177-187.

**統合生理学教室**

**講演**

- 鈴木伸弥, 中島剛, 二橋元紀, 大塚裕之, 小宮山伴与志: 足部皮膚神経刺激によるヒラメ筋H反射に対する交叉性反射効果の歩行位相依存性. 第50回日本理学療法学会大会, 東京, 2015年6月7日.
- 大木紫: 脳科学から見た身体性システム科学. 国立情報学研究所オープンハウス2015一ツ橋, 東京, 2015年6月12日.
- Ohki Y, Shibuya S, Unenaka S: Effects of manipulation of virtual body on body representations and bodily self-consciousness. The 9th ICME International Conference on Complex Medical Engineering, Okayama, June 19th, 2015.
- Nakajima T, Suzuki S, Futatsubashi G, Irie S, Komiyama T, Ohki Y: Plastic changes in inhibitory system of indirect cortico-motoneuronal excitation after repetitive combined stimulation of pyramidal tract and peripheral nerve stimulation in humans in humans. 第38回日本神経科学大会, 神戸, 2015年7月28日.
- Suzuki S, Nakajima T, Irie S, Masugi Y, Komiyama T, Ohki Y: Inducing long-term potentiation of indirect cortico-motoneuronal excitation in relaxed arm muscle by utilizing vestibular stimulation in humans. 第38回日本神経科学大会, 神戸, 2015年7月28日.
- 中島剛: 足部の皮膚感覚情報に依存した反射制御動態について. BiNI Perspective conference 2015, 長野, 2015年8月23日.
- Ohki Y: Neural mechanisms inducing plasticity on body representation. IEEE EMBC 2015 Half-day Workshop on Embodied-Brain Systems Science, Italy, August 25th, 2015
- 渋谷賢, 畷中智志, 大木紫: 操作する身体オブジェクトの方向性が運動に及ぼす影響. 日本認知科学会第32回大会, 千葉, 2015年9月18-20日.
- Yagi J, Kobayashi Y, Hirai N, Ohki Y: In vivo whole-cell patch-clamp analysis of DRG neuronal excitation and suppression by chloroquine in adult rats. 8th World Congress on Itch (WCI VIII), Nara, September 27th-29th, 2015.
- Unenaka S, Shibuya S, Ohki Y: Interactions between agency and ownership by moving virtual hand illusion. *Neuroscience* 2015, USA, October 17th-21st, 2015.

11. Nakajima T, Suzuki S, Futatsubashi G, Irie S, Komiyama T, Ohki Y: Plasticity of inhibitory effect on indirect cortico-motoneuronal pathways in humans. Neuroscience 2015, USA, October 18th, 2015.
12. Suzuki S, Nakajima T, Irie S, Masugi Y, Komiyama T, Ohki Y: Galvanic vestibular stimulation is available to induce long-term potentiation of indirect cortico-motoneuronal excitation in a relaxed arm muscle in humans. Neuroscience 2015, USA, October 18th, 2015.
13. 大森雅夫, 五十嵐一峰, 佐野秀仁, 市村正一, 中島剛, 渋谷賢, 大木紫, 遠藤隆志: 頸髄症患者における巧緻運動障害の客観的評価法の開発. 第45回日本臨床神経生理学会学術大会, 大阪, 2015年11月5-7日.
14. 渋谷賢, 畠中智志, 大木紫: 実際の手と近接したラバーハンドの操作が身体性自己意識と身体表象に与える影響. 第7回多感覚研究会, 東京, 2015年11月7-8日.
15. 渋谷賢, 畠中智志, 大木紫: 操作する身体オブジェクトの方向性がドリフト運動に与える影響. 第7回多感覚研究会, 東京, 2015年11月7-8日.
16. 畠中智志, 渋谷賢, 大木紫: 仮想現実下における仮想手の操作が身体性自己意識および脳活動に与える影響. 第7回多感覚研究会, 東京, 2015年11月7-8日.
17. 渋谷賢, 畠中智志, 大木紫: 操作する身体オブジェクトの方向性がドリフト運動に与える影響. 計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会, 函館, 2015年11月18-19日.
18. 畠中智志, 渋谷賢, 大木紫: 仮想現実下における仮想手の操作が身体性自己意識および脳活動に与える影響. 計測自動制御学会 システム・情報部門学術講演会, 函館, 2015年11月18-19日.
19. 大木紫: ヒトの運動性脊髄介在ニューロンに生じる可塑的变化. 医歯学総合研究科大学院特別講義/お茶の水ニューロサイエンスセミナー, 東京, 2015年11月20日.
20. 渋谷賢, 畠中智志: 実際の手と近接したラバーハンドの操作—身体所有感と固有感覚ドリフトの乖離—. 日本スポーツ心理学会第42回大会, 福岡, 2015年11月21-23日.
21. 畠中智志, 渋谷賢: 身体性自己意識の長期変容に伴う身体表現および脳活動の変化. 日本スポーツ心理学会第42回大会, 福岡, 2015年11月21-23日.
22. 渋谷賢, 畠中智志, 大木紫: 実際の手に近接したラバーハンドの操作が身体性自己意識と身体表象に及ぼす影響. 日本基礎心理学会第34回大会, 大阪, 2015年11月28-29日.
23. 八木淳一, 小林靖: かゆみ誘発物質クロロキンによる興奮作用と抑制作用. 平成27年度生理研研究会「痛みの理解を目指した先端的アプローチ」, 岡崎, 2015年12月17-18日.
24. 大森雅夫, 渋谷賢, 佐野秀仁, 五十嵐一峰, 市村正一, 中島剛, 渋谷賢, 大木紫, 遠藤隆志: 頸髄症患者における巧緻運動障害の客観的評価法の開発. 第37回脊髄機能診断研究会, 東京, 2016年2月6日.
25. 中島剛, 小宮山伴与志, 大木紫: 運動機能向上を目指すヒト間接的皮質-脊髄路興奮の可塑性誘導とその応用. 第1回スポーツ脳科学セミナー, 富良野, 2016年3月24-25日.
2. Suzuki S, Nakajima T, Futatsubashi G<sup>1</sup>, Mezzarane RA<sup>2</sup>, Ohtsuka H<sup>3</sup>, Ohki Y, Komiyama T<sup>4</sup> (<sup>1</sup>Jobu University, <sup>2</sup>University of Brasilia, <sup>3</sup>Health Science University of Hokkaido, <sup>4</sup>Chiba University): Phase-dependent reversal of the crossed conditioning effect on the soleus Hoffmann reflex from cutaneous afferents during walking in humans. Exp Brain Res 234: 617-626, 2016.
3. 中島剛, 小宮山伴与志<sup>1</sup>, 大木紫 (<sup>1</sup>千葉大学): ヒト脊髄固有ニューロンの機能とその可塑性について. 日本運動生理学雑誌23: 11-15, 2016.
4. Suzuki S, Nakajima T, Futatsubashi G<sup>1</sup>, Mezzarane RA<sup>2</sup>, Ohtsuka H<sup>3</sup>, Ohki Y, Zehr EP<sup>4</sup>, Komiyama T<sup>5</sup> (<sup>1</sup>Jobu University, <sup>2</sup>University of Brasilia, <sup>3</sup>Health Science University of Hokkaido, <sup>4</sup>University of Victoria, <sup>5</sup>Chiba University): Soleus Hoffmann reflex amplitudes are specifically modulated by cutaneous inputs from the arms and opposite leg during walking but not standing. Exp Brain Res. 2016. (in press).
5. Sasada S<sup>1</sup>, Tazoe T<sup>2</sup>, Nakajima T, Futatsubashi G<sup>3</sup>, Ohtsuka H<sup>4</sup>, Suzuki S, Zehr EP<sup>5</sup>, Komiyama T<sup>6</sup> (<sup>1</sup>Sagami Women's University, <sup>2</sup>University of Miami, <sup>3</sup>Jobu University <sup>4</sup>Health Science University of Hokkaido, <sup>5</sup>University of Victoria, <sup>6</sup>Chiba University): A common neural element receiving rhythmic arm and leg activity as assessed by reflex modulation in arm muscles. J Neurophysiol. 2016. (in press).
6. Nakajima T, Suzuki S, Futatsubashi G<sup>1</sup>, Ohtsuka H<sup>2</sup>, Mezzarane RA<sup>3</sup>, Barss TS<sup>4</sup>, Klärner T<sup>4</sup>, Zehr EP<sup>4</sup>, Komiyama T<sup>5</sup> (<sup>1</sup>Jobu University <sup>2</sup>Health Science University of Hokkaido, <sup>3</sup>University of Brasilia, <sup>4</sup>University of Victoria, <sup>5</sup>Chiba University): Regionally distinct cutaneous afferent populations contribute to reflex modulation evoked by stimulation of the tibial nerve during walking. J Neurophysiol. 2016. (in press).
7. Shibuya S, Unenaka S, Ohki Y: Is this my hand? Body-ownership and rubber hand illusion. J Phys Fitness Sports Med 4(2): 213-216, 2016.
8. Oouchida Y<sup>1</sup>, Sudo S<sup>1</sup>, Inamura T<sup>2,3</sup>, Tanaka N<sup>1</sup>, Ohki Y, Izumi S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tohoku University, <sup>2</sup>National Institute of Informatics, <sup>3</sup>The Graduate University for Advanced Studies): Maladaptive change of body representation in the brain after damage to central or peripheral nervous system. Neuroscience Research 104: 38-43, 2016.

#### 著書

1. 八木淳一: 胸痛 虚血性心疾患; 虚血性疼痛の発生機序. 痛みのメカニズムとこれからの治療薬・治療法の開発. 菅原隆編. 東京, 技術情報協会出版, 2015. p.91-95.

#### その他

1. 八木淳一: 杏林見聞録第6回「痛みの研究」, 杏林大学新聞, 第15号, 2016年3月7日.

#### 細胞生理学教室

#### 講演

1. 小藤剛史, 林優子, 藤原智徳, 真田ますみ, 楊國昌, 田丸政男, 赤川公朗: 自閉症スペクトラム障害とHPC-1/syntaxin1A遺伝子発現異常の関連性の検討. 第38回日本神経科学大会, 神戸, 2015年7月28-31日.
2. 藤原智徳, 真田ますみ, 小藤剛史, 赤川公朗: HPC-1/syntaxin1A

#### 論文

1. Nakajima T, Mezzarane RA<sup>1</sup>, Komiyama T<sup>2</sup>, Zehr EP<sup>3</sup> (<sup>1</sup>University of Brasilia, <sup>2</sup>University of Victoria, <sup>3</sup>Chiba University): Reflex control of human locomotion: Existence, features and functions of common interneuronal system induced by multiple sensory inputs in humans (Invited Review). J Phys

欠損マウスの社会行動障害に対するOXTおよびVPの効果.  
第38回日本神経科学大会, 神戸, 2015年7月28-31日.

3. 須賀圭, 齋藤綾子, 三嶋竜弥, 赤川公朗: ER and Golgi stresses upregulate ER-Golgi SNARE Syntaxin5 and suppress A $\beta$  peptide secretion in primary hippocampal neurons. 第58回日本神経化学学会大会, 大宮, 2015年9月11日.
4. 大津昌弘, 須賀圭, 山本幸子, 赤川公朗, 丑丸真: ヒト Secretory Pathway Ca<sup>2+</sup>/Mn<sup>2+</sup>-ATPase2 (SPCA2)は細胞質側N末端にER export signalを持つ. 第38回日本分子生物学会大会, 神戸, 2015年12月3日.

## 論文

1. Fujiwara T, Sanada M, Kofuji T, Akagawa K: Unusual social behavior in HPC-1/syntaxin1A knockout mice is caused by disruption of the oxytocinergic system. *J. Neurochem*, 2015(in press)
2. Suga K, Saito A, Akagawa K: ER stress response in NG108-15 cells involves upregulation of syntaxin 5 expression and reduced amyloid  $\beta$  peptide secretion. *Exp. Cell Res.* 332(1):11-23, 2015.
3. Suga K, Saito A, Mishima T, Akagawa K: ER and Golgi stresses increase ER-Golgi SNARE Syntaxin5: Implications for organelle stress and  $\beta$ APP processing. *Neurosci. Lett.* 604:30-35, 2015.
4. Suga K, Saito A, Mishima T, Akagawa K: Data for the effects of ER and Golgi stresses on the ER-Golgi SNARE Syntaxin5 expression and on the  $\beta$ APP processing in cultured hippocampal neurons. Data in Brief 5:114-123, 2015.
5. Suga K, Saito A, Akagawa K: Data supporting ER stress response in NG108-15 cells involves upregulation of syntaxin 5 expression and reduced amyloid  $\beta$  peptide secretion. Data in Brief 5:782-788, 2015.
6. Saito A, Suga K, Ono-Nakagawa R, Sanada M, Akagawa K: Time lapse imaging analysis of the effect of ER stress modulators on apoptotic cell assessed by caspase3/7 activation in NG108-15 cells. Data in Brief 6:20-27, 2016.

## 生化学教室 (1)

## 講演

1. 山本隆史, 代田翠, 飯塚陽子, 藤田敏郎, 後藤田貴也: SHRの遺伝解析により同定された内臓脂肪蓄積関連遺伝子SLC22A18の生理的機能の解析. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-24日.
2. 山本隆史, 飯塚陽子, 藤田敏郎, 後藤田貴也: SHRの遺伝解析により同定された内臓脂肪蓄積関連遺伝子Slc22a18の生理的機能の解析. 第47回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 仙台, 2015年7月9-10日.
3. 山本隆史, 後藤田貴也: SHRの遺伝解析により同定された内臓脂肪蓄積関連遺伝子Slc22a18の生理的機能の解析. BMB2015 (第88回日本生化学会), 神戸, 2015年12月1-4日.

## 論文

1. Gotoda T: From association to function in the Post-GWAS era. *J Atheroscler Thromb* 22(5):442-444, 2015.
2. Gotoda T: Another paradox regarding adiponectin revisited. *J Atheroscler Thromb* 23(3):292-294, 2016.

## 著書

1. 後藤田貴也: CASE 32 以前から脂質異常症を指摘され,

会社の健康診断受診後に精査目的で来院した46歳男性.  
New専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ. 肥塚直美編. 東京, 日本医事新報社, 2015. p.299-312.

## 生化学教室 (2)

## 講演

### シンポジウム講演

1. 今泉美佳: 膵 $\beta$ 細胞からのインスリン開口放出機構研究. 第4回糖尿病トランスレーショナルリサーチ研究会, 弘前, 2015年7月21日.
2. Ohara-Imaizumi M: The active zone protein family ELKS facilitates glucose-stimulated Ca<sup>2+</sup> influx and insulin secretion in pancreatic beta cell. 第9回Diabetes Leading-edge Conference, 大津, 2015年8月8-9日.
3. 今泉美佳, 青柳共太, 飛田耶馬人, 崎村建司, 大塚稔久: インスリン開口分泌におけるアクティブゾーン構成タンパク質の役割. 第121回日本解剖学会総会・全国学術集会, 福島, 2016年3月28-30日.

## 学会発表

1. 青柳共太, 今泉美佳, 板倉誠, 鳥居征司, 西脇知世乃, 中道洋子, 岸本拓磨, 原田彰宏, 秋元義弘, 高橋正身, 永松信哉: VAMP7による第2相インスリン分泌の制御機構. 第58回日本糖尿病学会年次学術集会, 下関, 2015年5月21-24日.
2. 岸本拓磨, 永松信哉, 植田和光, 小林俊秀: コレステロール細胞膜二層間動態が及ぼす細胞膜変形機構. 脂質生化学会, 東京, 2015年5月28-29日.
3. 青柳共太, 今泉美佳, 板倉誠, 鳥居征司, 西脇知世乃, 中道洋子, 岸本拓磨, 原田彰宏, 秋元義弘, 高橋正身, 永松信哉: VAMP7はオートファジーによるミトコンドリア恒常性維持機構を介して膵 $\beta$ 細胞からの第2相インスリン分泌を制御する. 第67回日本細胞生物学会大会, 東京, 2015年6月30日-7月2日.
4. 岸本拓磨, 永松信哉, 植田和光, 小林俊秀: コレステロールの細胞膜二層間動態と低分子量 GTPaseCdc42 によるフィードバック制御機構. 第67回日本細胞生物学会大会, 東京, 2015年6月30日-7月2日.
5. 稲葉岳彦, 岸本拓磨, 田島拓也, 牧野麻美, 阿部充宏, 村手源英, 石塚玲子, 池田康夫, 武岡真司, 小林俊秀: リボソームの暗視野顕微鏡観察による脂質膜変形因子の探索. 第67回日本細胞生物学会大会, 東京, 2015年6月30日-7月2日.
6. 青柳共太, 今泉美佳, 西脇知世乃, 中道洋子, 岸本拓磨, 永松信哉: VAMP7 regulates autophagy to maintain mitochondrial homeostasis and to control second phase insulin secretion in pancreatic  $\beta$ -cells. 第58回日本神経化学学会大会, 大宮, 2015年9月11-13日.
7. 青柳共太, 今泉美佳, 西脇知世乃, 中道洋子, 岸本拓磨, 永松信哉: VAMP7はオートファジーの制御を介してミトコンドリア恒常性の維持と膵 $\beta$ 細胞からのインスリン分泌を制御する. 第44回杏林医学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
8. 青柳共太, 今泉美佳, 板倉誠, 鳥居征司, 秋元義弘, 西脇知世乃, 中道洋子, 岸本拓磨, 原田彰宏, 高橋正身, 永松信哉: VAMP7はオートファジーを制御してミトコンドリアの恒常性維持と第2相インスリン分泌を調節する. 第88回日本生化学会大会, 第38回日本分子生物学会年次学術集会, 神戸, 2015年12月1-4日.
9. 有田祐子, 西村慎一, 石塚玲子, 岸本拓磨, 池ノ内順一, 梅田真郷, 松永茂樹, 小林俊秀, Charles Boone, 吉田稔: 海洋天然物セオネラミドはコレステロールの膜秩序を乱し細胞形態を変化させる. 第88回日本生化学会大会,

第38回日本分子生物学会年会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.

10. 山内祥生, 岩本紀之, Maximillian A. Rogers, 堂前純子, 藤本豊士, Catherine C.Y. Chang, 石神正登, 岸本拓磨, 小林俊秀, 植田和光, 古川鋼一, Ta-Yuan Chang, 横山信治 : ABCトランスポーター-ABCA1はダイナミン依存性エンドサイトーシスを介したステロール逆行輸送を調節する. 第88回日本生化学会大会, 第38回日本分子生物学会年会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
11. 牧野麻美, 阿部充宏, 村手源英, 稲葉岳彦, Yilmaz Neval, Hullin-Matsuda Françoise, 岸本拓磨, 田口友彦, 新井洋由, 小林俊秀 : 細胞質分裂, 極性形成, スフィンゴ脂質蓄積症におけるスフィンゴミエリンの不均一な膜分布の可視化. 第88回日本生化学会大会, 第38回日本分子生物学会年会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.

#### 特別講義・招請セミナー

1. 今泉美佳:「インスリン開口分泌のイメージング解析」. 北海道大学薬学研究院 講義, 札幌, 2015年8月5日.

#### 論文

1. Kim K<sup>1</sup>, Oh CM<sup>1</sup>, Ohara-Imaizumi M, Park S<sup>1</sup>, Namkung J<sup>1,2</sup>, Yadav VK<sup>3</sup>, Tamarina NA<sup>4</sup>, Roe MW<sup>5</sup>, Philipson LH<sup>4</sup>, Karsenty G<sup>3</sup>, Nagamatsu S, German MS<sup>6</sup>, Kim H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Catholic Kwandong University College of Medicine, <sup>2</sup>Yonsei University Wonju College of Medicine, <sup>3</sup>Columbia University Medical Center, <sup>4</sup>The University of Chicago, <sup>5</sup>SUNY Upstate Medical University, <sup>6</sup>University of California San Francisco) : Functional role of serotonin in insulin secretion in a diet-induced insulin-resistant state. *Endocrinology* 156 : 444-452, 2015.
2. Aoyagi K, Rossignol E<sup>1</sup>, Hamdan FF<sup>1</sup>, Mulcahy B<sup>2</sup>, Xie L<sup>2</sup>, Nagamatsu S, Rouleau GA<sup>3</sup>, Zhen M<sup>2</sup>, Michaud JL<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Montreal, <sup>2</sup>University of Toronto, <sup>3</sup>McGill University) : A gain-of-function mutation in NALCN in a child with intellectual disability, ataxia, and arthrogryposis. *Hum Mutat* 36 : 753-757, 2015.
3. Yamauchi Y<sup>1</sup>, Iwamoto N<sup>1</sup>, Rogers MA<sup>1</sup>, Abe-Dohmae S<sup>1</sup>, Fujimoto T<sup>1</sup>, Chang CC<sup>3</sup>, Ishigami M<sup>1</sup>, Kishimoto T<sup>4</sup>, Kobayashi T<sup>4</sup>, Ueda K<sup>3</sup>, Furukawa K<sup>1</sup>, Chang TY<sup>2</sup>, Yokoyama S<sup>5</sup>. (<sup>1</sup>Nagoya University, <sup>2</sup>Geisel School of Medicine, <sup>3</sup>Kyoto University, <sup>4</sup>RIKEN, <sup>5</sup>Chubu University) : Deficiency in the lipid exporter ABCA1 impairs retrograde sterol movement and disrupts sterol sensing at the endoplasmic reticulum. *J Biol Chem* 290 : 23464-23477, 2015.
4. Arita Y<sup>1</sup>, Nishimura S<sup>1</sup>, Ishitsuka R<sup>1</sup>, Kishimoto T<sup>1</sup>, Ikenouchi J<sup>2</sup>, Ishii K<sup>3</sup>, Umeda M<sup>2</sup>, Matsunaga S<sup>3</sup>, Kobayashi T<sup>1</sup>, Yoshida M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>RIKEN, <sup>2</sup>Kyoto University, <sup>3</sup>The University of Tokyo) : Targeting cholesterol in a liquid-disordered environment by theonellamides modulates cell membrane order and cell shape. *Chem Biol* 22 : 604-610, 2015.
5. Bhat HB<sup>1</sup>, Ishitsuka R<sup>1</sup>, Inaba T<sup>1</sup>, Murate M<sup>1</sup>, Abe M<sup>1</sup>, Makino A<sup>1</sup>, Kohyama-Koganeya A<sup>1</sup>, Nagao K<sup>1</sup>, Kurahashi A<sup>1</sup>, Kishimoto T<sup>1</sup>, Tahara M<sup>1</sup>, Yamano A<sup>1</sup>, Nagamune K<sup>1</sup>, Hirabayashi Y<sup>1</sup>, Juni N<sup>1</sup>, Umeda M<sup>1</sup>, Fujimori F<sup>1</sup>, Nishibori K<sup>1</sup>, Yamaji-Hasegawa A<sup>1</sup>, Greimel P<sup>1</sup>, Kobayashi T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>RIKEN) : Evaluation of aegerolysins as novel tools to detect and visualize ceramide phosphoethanolamine, a major sphingolipid in invertebrates. *FASEB J* 29 : 3920-3934, 2015.
6. Lee S<sup>1</sup>, Uchida Y<sup>1</sup>, Wang J<sup>2</sup>, Matsudaira T<sup>1</sup>, Nakagawa T<sup>3</sup>, Kishimoto T<sup>4</sup>, Mukai K<sup>1</sup>, Inaba T<sup>4</sup>, Kobayashi T<sup>4</sup>, Molday RS<sup>2</sup>, Taguchi T<sup>1</sup>, Arai H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of

Tokyo, <sup>2</sup>University of British Columbia, <sup>3</sup>Osaka Medical College, <sup>4</sup>RIKEN) : Transport through recycling endosomes requires EHD recruitment by a phosphatidylserine translocase. *EMBO J* 34 : 669-688, 2015.

7. Makino A<sup>1</sup>, Abe M<sup>1</sup>, Murate M<sup>1</sup>, Inaba T<sup>1</sup>, Yilmaz N<sup>1</sup>, Hullin-Matsuda F<sup>1</sup>, Kishimoto T<sup>1</sup>, Schieber NL<sup>1</sup>, Taguchi T<sup>1</sup>, Arai H<sup>1</sup>, Anderlueh G<sup>1</sup>, Parton RG<sup>1</sup>, Kobayashi T<sup>1</sup> (RIKEN) : Visualization of the heterogeneous membrane distribution of sphingomyelin associated with cytokinesis, cell polarity and sphingolipidosis. *FASEB J* 29 : 477-493, 2015.

#### 薬理学教室

#### 講演 口演

1. 大槻英男, 木村徹, 山賀貴, 末弘淳一, 櫻井裕之 : 前立腺癌アンドロゲン受容体高発現細胞株におけるロイシン輸送トランスポータ. 第132回日本薬理学会関東部会, 浦安, 2015年7月4日.
2. 秋元義弘, 三浦ゆり, 戸田年総, 福富俊之, 菅原大介, Gerald W Hart, 楊國昌, 遠藤玉夫, 川上速人 : 糖尿病性腎症に伴う糖修飾アクチンの局在の変化. 第121回日本解剖学会, 福島, 2016年3月28-30日.

#### ポスター

1. 山賀貴, 遠藤仁, 櫻井裕之 : 抗LAT療法 の指標としてのAutophagy活性の検討. 第132回日本薬理学会関東部会, 千葉, 2015年7月4日.
2. 菅原大介, 福富俊之, 秋元義弘, 川上速人 : マウス腸管上皮恒常性維持におけるフコシル化糖タンパク質の機能探索. 第34回日本糖質学会年会, 東京, 2015年7月31日-8月2日.
3. 菅原大介, 福富俊之, 秋元義弘, 川上速人 : コアタンパク質の多様性に着目した糖タンパク質の免疫組織化学的検出. 第56回日本組織細胞化学会総会・学術集会, 枚方, 2015年10月3-4日.
4. 堅田智久, 櫻井裕之 : LAT1は眼の発生に必須である. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
5. 末弘淳一, 田中弦, 木村徹, 櫻井裕之 : アミノ酸トランスポーターLAT1阻害薬は血管内皮細胞増殖及び血管新生を抑制する. 第23回日本血管生物医学学会学術集会, 神戸, 2015年12月11日.
6. Katada T, Sakurai H : LAT1 is essential for eye development in Xenopus. 第89回日本薬理学会年会, 横浜, 2016年3月9-11日.

#### 論文

1. Xu M<sup>1</sup>, Sakamoto S<sup>1</sup>, Matsushima J<sup>1</sup>, Kimura T, Ueda T<sup>2</sup>, Mizokami A<sup>3</sup>, Kanai A<sup>4</sup>, Ichikawa T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Chiba Univ., <sup>2</sup>Chiba Cancer Center, <sup>3</sup>Kanazawa Univ., <sup>4</sup>Osaka Univ.) : Up-Regulation of LAT1 during Antiandrogen Therapy Contributes to Progression in Prostate Cancer Cells. *J Urol.* 15:05395-1, 2015.
2. Marumo T<sup>1</sup>, Yagi S<sup>1</sup>, Kawarazaki W<sup>1</sup>, Nishimoto M<sup>1</sup>, Ayuzawa N<sup>1</sup>, Watanabe A<sup>1</sup>, Ueda K<sup>1</sup>, Hirahashi J<sup>2</sup>, Hishikawa K<sup>1</sup>, Sakurai H, Shiota K<sup>1</sup>, Fujita T<sup>1</sup> (Univ. Tokyo, <sup>2</sup>Keio Univ.) : Diabetes Induces Aberrant DNA Methylation in the Proximal Tubules of the Kidney. *J Am Soc Nephrol.* 26:2388-2397, 2015.
3. Hanawa T<sup>1</sup>, Kamachi K<sup>2</sup>, Yonezawa H<sup>1</sup>, Fukutomi T, Kawakami H<sup>3</sup>, Kamiya S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Infectious Diseases, Kyorin Univ., <sup>2</sup>Natl. Inst. of Infectious Diseases, <sup>3</sup>Dept. of Anatomy, Kyorin Univ.) :

Glutamate Limitation, BvgAS Activation, and (p)ppGpp Regulate the Expression of the Bordetella pertussis Type 3 Secretion System. *J Bacteriol.* 198:343-351, 2015.

4. Kogashiwa Y<sup>1</sup>, Sakurai H, Akimoto Y<sup>2</sup>, Sato D<sup>3</sup>, Ikeda T<sup>3</sup>, Matsumoto Y<sup>3</sup>, Moro Y<sup>3</sup>, Kimura T, Hamanoue Y<sup>3</sup>, Nakamura T<sup>3</sup>, Yamauchi K<sup>3</sup>, Saito K<sup>3</sup>, Sugasawa M<sup>1</sup>, Kohno N<sup>3</sup> (<sup>1</sup>Saitama Medical Univ., <sup>2</sup>Dept. of Anatomy, Kyorin Univ., <sup>3</sup>Dept. of Otolaryngology, Kyorin Univ.) : Sentinel Node Biopsy for the Head and Neck Using Contrast-Enhanced Ultrasonography Combined with Indocyanine Green Fluorescence in Animal Models: A Feasibility Study. *PLoS One* 10:e0132511, 2015.
5. Katada T, Sakurai H: Proper Notch activity is necessary for the establishment of proximal cells and differentiation of intermediate, distal, and connecting tubule in *Xenopus* pronephros development. *Dev Dyn.* 245:472-482, 2016.

### 病理学教室

#### 講演

1. 菅間博：乳頭癌特殊型について。第104回日本病理学会総会，名古屋，2015年4月30日-5月2日。
2. 原田巽矢，池崎隆三郎，浦田翔一，小川晃次，藤原正親，石井順，矢澤卓也，菅間博：内分泌腫瘍におけるREST発現の免疫組織化学的検討。第104回日本病理学会総会，名古屋，2015年4月30日-5月2日。
3. 大森嘉彦，石井順，寺戸雄一，藤原正親，下山田博明，近藤凡子，海野みちる，菅間博：ACTH産生褐色細胞腫の一例。第104回日本病理学会総会，名古屋，2015年4月30日-5月2日。
4. 千葉知宏，住石歩，澤文，石井順，水谷奈津子，菅間博：cAMP細胞内情報刺激による甲状腺癌の移動・浸潤の抑制 (Activation of cAMP signals suppresses migration and invasion of thyroid papillary carcinoma cells)。第104回日本病理学会総会，名古屋，2015年4月30日-5月2日。
5. 石井順，小島薫子，千葉知宏，住石歩，有益優，宍戸(原)由紀子，佐藤華子，矢澤卓也，菅間博：甲状腺髄様癌の内分泌顆粒形成におけるPROX1の役割について。第104回日本病理学会総会，名古屋，2015年4月30日-5月2日。
6. 澤文，千葉知宏，住石歩，水谷奈津子，藤原正親，菅間博：20年の経過を示した乳腺分泌癌の一例。第104回日本病理学会総会，名古屋，2015年4月30日-5月2日。
7. 磯村杏耶，千葉知宏，下山田博明，藤原正親，石黒晴久，舟橋紗耶華，吉野秀朗，菅間博：著明な肉眼像を呈した巨細胞性心筋炎の高齢男性の1剖検例。第104回日本病理学会総会，名古屋，2015年4月30日-5月2日。
8. 氣賀澤秀明，藤原正親，千葉知宏，海野みちる，石井順，仲矢丈雄，平野和彦，菅間博，大倉康男：大腸癌における腫瘍境界部の非腫瘍腺管でのCytokeratin 7, CD117発現の変化。第104回日本病理学会総会，名古屋，2015年4月30日-5月2日。
9. 鮫島由友，蕨澤融司，浮山越史，渡邊佳子，佐藤順一朗，藤原正親：先天性小腸閉鎖症と胎便性腹膜炎。第52回日本小児外科学会学術集会，神戸，2015年5月28-30日。
10. 百村麻衣，小林陽一，島海玲奈，齋藤将也，坂本憲彦，平野和彦，望月眞，寺戸雄一，岩下光利：子宮頸部大細胞神経内分泌癌の1例。第56回日本臨床細胞学会総会春期大会，松江，2015年6月12-14日。
11. 望月眞：眼窩のリンパ腫。多摩リンパ腫研究会，調布，2015年6月19日。
12. 千葉知宏，澤文，住石歩，菅間博：肺高血圧症患者剖検例における甲状腺腫大。第3回日本甲状腺病理学会総会，浜松，2015年7月10日。
13. 森下恵美子，本谷啓太，大原有紗，仲村明恒，森井健司，望月眞：稀な発生部位に生じた骨巨細胞腫の2症例。第51回日本医学放射線学会秋季臨床大会，盛岡，2015年10月2-4日。
14. 石井順，矢澤卓也，千葉知宏，有益優，菅間博：PROX1は甲状腺髄様癌の内分泌顆粒形成に関与する。第19回日本内分泌病理学会学術総会，佐賀，2015年10月24日。
15. 千葉知宏，澤文，住石歩，菅間博：分子標的薬ソラフェニブとcAMP経路の相互作用 甲状腺癌増殖シグナルの解析。第48回日本甲状腺外科学会，東京，2015年10月29-30日。
16. 鳥森直子，岸野智則，渡辺敬子，森井健司，藤原正親，大塚弘毅，関口久美子，高城靖志，菅間博，大西宏明，渡邊卓：骨外性Ewing肉腫の一例 超音波所見の考察。第62回日本臨床検査医学会学術集会，岐阜，2015年11月19-22日。
17. 大塚弘毅，大西宏明，小倉航，松島早月，岸野智則，藤原正親，近藤晴彦，渡邊卓：混合型肺腺癌症例における分子異常のheterogeneityの検討。第62回日本臨床検査医学会学術集会，岐阜，2015年11月19-22日。
18. 宮脇晴子，岸野智則，渡辺敬子，大塚弘毅，関口久美子，高城靖志，伊東大樹，寺戸雄一，原由紀子，菅間博，井本滋，大西宏明，渡邊卓：肺癌乳腺転移の一例。第62回日本臨床検査医学会学術集会，岐阜，2015年11月19-22日。
19. 菅間博，千葉知宏，住石歩，近藤凡子，山野環：甲状腺細胞診『鑑別困難』を発癌の分子メカニズムから考える甲状腺細胞診への分子病理診断の応用。第54回日本臨床細胞学会秋期大会，名古屋，2015年11月21-22日。
20. 加藤拓，坂本憲彦，水谷奈津子，市川美雄，鈴木瞳，稲嶺圭祐，菅野大輝，住石歩，近藤凡子，藤原正親，望月眞，大倉康男：頭頸部領域の細胞診におけるギムザ染色の有用性。第54回日本臨床細胞学会秋期大会，名古屋，2015年11月21-22日。
21. 稲嶺圭祐，加藤拓，坂本憲彦，水谷奈津子，市川美雄，鈴木瞳，菅野大輝，住石歩，近藤凡子，藤原正親，大倉康男：第54回日本臨床細胞学会秋期大会，名古屋，2015年11月21-22日。
22. 百村麻衣，小林陽一，望月眞，坂本憲彦，長内喜代乃，西ヶ谷順子，松本浩範：子宮頸部 Condylomatous carcinomaの1例。第54回日本臨床細胞学会秋期大会，名古屋，2015年11月21-22日。
23. 田中良太，坂本憲彦，橘啓盛，中里陽子，武井秀史，加藤拓，藤原正親，大倉康男，菅間博，近藤晴彦：迅速細胞診において肺癌の組織型推定は可能か？気管支鏡下での生検材料を用いた検討。第54回日本臨床細胞学会秋期大会，名古屋，2015年11月21-22日。

#### 論文

1. 加藤良平<sup>1</sup>，菅間博（<sup>1</sup>山梨大・医・病理）：甲状腺癌の病理診断：新たな展開，乳頭癌特殊型。日本甲状腺学会雑誌6(2):109-112, 2015.
2. 宍戸-原由紀子<sup>1</sup>，千葉知宏，菅間博（<sup>1</sup>東京医大・病理学）：Breast carcinoma with osteoclast-like stromal giant cells 破骨細胞様間質巨細胞の出現と富血管性炎症性間質の関係とは？。病理と臨床 33(7):793-797, 2015.
3. 千葉知宏，宍戸-原由紀子<sup>1</sup>，木戸直樹<sup>1</sup>，千葉厚郎<sup>2</sup>，菅間博（<sup>1</sup>東京医大・病理学，<sup>2</sup>杏林大・医・神経内科）：CPC解説（第72回）発症8年目のMIBG心筋シンチで集積低下が乏しかったParkinson病の1剖検例。病理と臨床 33(7):763-770, 2015.

4. 千葉知宏, 菅間博: 充実型乳頭癌. *Thyroid Cancer Explore* 1:10-13, 2015.
  5. 小暮正晴<sup>1</sup>, 中里徹矢<sup>1</sup>, 横山政明<sup>1</sup>, 鈴木裕<sup>1</sup>, 阿部展次<sup>1</sup>, 正木忠彦<sup>1</sup>, 森俊幸<sup>1</sup>, 望月眞, 大倉康男, 杉山政則<sup>1</sup> (杏林大・医・外科学): 非特異的胆管炎. *肝・胆・膵* 71(3): 495-500, 2015.
  6. 田中昭文<sup>1</sup>, 徳永健吾<sup>1</sup>, 土岐真朗<sup>1</sup>, 森秀明<sup>1</sup>, 久松理一<sup>1</sup>, 大倉康男, 高橋信一<sup>1</sup> (杏林大・医・第三内科): 放射線治療が奏功したH.pylori陰性胃MALTリンパ腫の3例. *Progress of Digestive Endoscopy*87(1):110-111, 2015.
  7. 三富弘之<sup>1</sup>, 田中大貴, 山岸秀嗣, 五十嵐誠治, 平林かおる, 大倉康男, 伴慎一, 岩淵三哉, 新井富生, 九嶋亮治, 河内洋, 和田了, 八尾隆史 (関東労災病院病理診断科): 大腸鋸歯状病変の病理診断. *胃と腸*50(13):1636-1647, 2015.
  8. 三浦みき<sup>1</sup>, 齋藤大祐<sup>1</sup>, 徳永創太郎, 林田真理<sup>1</sup>, 徳永健吾<sup>1</sup>, 大倉康男, 高橋信一<sup>1</sup> (杏林大・医・第三内科): 発熱を契機に診断された小腸内分泌細胞癌の1例. *Progress of Digestive Endoscopy*86(1):174-175, 2015.
  9. 大倉康男: 胃癌の生検診断. *臨床消化器内科*30(7): 829-833, 2015.
  10. 大倉康男: 早期消化管癌の深達度診断 病理の立場から. *胃と腸*50(5): 498-506, 2015.
  11. 大倉康男: 食道胃接合部の新しい定義. *外科*77(4): 377-382, 2015.
  12. 齋藤裕輔<sup>1</sup>, 岡志郎, 田中信治, 齋藤豊, 池松弘朗, 和田祥城, 工藤進英, 小林清典, 井上雄志, 浦岡俊夫, 飯石浩康, 山野泰穂, 鶴田修, 永田信二, 蔵原晃一, 山口裕一郎, 佐野寧, 榎田博史, 堀松高博, 齋藤彰一, 上野秀樹, 石黒めぐみ, 石川秀樹, 味岡洋一, 大倉康男, 藤盛孝博, 渡邊聡明, 杉原健一 (旭川市立旭川病院 消化器病センター): 内視鏡摘除後大腸T1(SM)癌の転移・再発に関する多施設共同研究 大腸癌研究会プロジェクト研究の結果から. *胃と腸*50(4):448-456, 2015.
  13. 尾坂真<sup>1</sup>, 秋田貴之<sup>1</sup>, 寺戸雄一, 矢澤卓也<sup>2</sup>, 菅間博, 大倉康男, 西ヶ谷順子<sup>3</sup>, 百村麻衣<sup>3</sup>, 小林陽一<sup>3</sup>, 望月眞 (杏林大・医・医学科, <sup>2</sup>千葉大・医・病理, <sup>3</sup>杏林大・医・産婦人科): 子宮内腔, 腹膜に転移を示した卵管原発明細胞腺癌の1例. *診断病理* 33(1):106-110, 2016.
  14. 秋田貴之<sup>1</sup>, 尾坂真<sup>1</sup>, 大森嘉彦, 菅間博, 大倉康男, 松本吉史<sup>2</sup>, 高山信之<sup>3</sup>, 河合伸<sup>4</sup>, 片野晴隆<sup>5</sup>, 望月眞 (杏林大・医・医学科, <sup>2</sup>杏林大・医・耳鼻咽喉科, <sup>3</sup>杏林大・医・血液内科, <sup>4</sup>杏林大・医・総合医療学教室感染症科, <sup>5</sup>国立感染症研究所 感染病理部): Human immunodeficiency virus リンパ節炎と Human immunodeficiency virus 顎下腺炎を伴った顎下腺原発 Diffuse large B-cell lymphoma の1例. *診断病理* 33(1): 111-115, 2016.
  15. 齋藤大祐<sup>1</sup>, 林田真理<sup>1</sup>, 三浦みき<sup>1</sup>, 櫻庭彰人<sup>1</sup>, 徳永健吾<sup>1</sup>, 小山元一<sup>1</sup>, 森秀明<sup>1</sup>, 久松理一<sup>1</sup>, 大倉康男, 高橋信一<sup>1</sup> (杏林大・医・第三内科): 大腸ポリープ摘除における cold snare polypectomy と内視鏡的粘膜切除術の比較検討. *Gastroenterological Endoscopy*58(1): 32-37, 2016.
  16. 井下尚子<sup>1</sup>, 飯塚敏郎, 貝瀬満, 大倉康男 (国家公務員共済組合連合会虎の門病院病理診断科): 下咽頭癌の病理診断と問題点. *消化器内視鏡*28(1):58-63, 2016.
  17. Saraya T, Fujiwara M, Shimura C, Goto H: Not paraneoplastic pemphigus but pemphigus vulgaris in a patient of thymoma. *BMJ Case Rep* ,2015.
  18. Matsumoto Y, Yokoi H, Ikeda T, Fujiwara M, Kamma H, Kohno N: Intra-adenoid cyst: A case report with an immunohistochemical study and review of literature. *Clin Med Insights Case Rep* 8:41-45, 2015.
  19. Yokoi H, Yazawa T, Matsumoto Y, Ikeda T, Fujiwara M, Ohkura Y, Kohno N: An inflammatory pseudotumor arising from pterygopalatine fossa with invasion to the maxillary sinus and orbital cavity. *Case Rep Otolaryngol* :950823, 2015.
  20. Gilbert B, Ahmad K, Roos J, Lehmann C, Chiba T, Ulrich-Rückert S, Smeenk L, van Heeringen S, Maier TJ, Groner B, Steinhilber D: The 5-Lipoxygenase is a direct p53 target gene in humans. *Biochim Biophys Acta* :1849(8): 1003-1016, 2015.
  21. Yang CM, Chiba T, Brill B, Delis N, von Manstein V, Vafaizadeh V, Oellerich T, Groner B: Expression of the miR-302/367 cluster in glioblastoma cells suppresses tumorigenic gene expression patterns and abolishes transformation related phenotypes. *Int J Cancer* 137:2296-2309, 2015.
  22. Higaki M, Wada H, Mikura S, Yasutake T, Nakamura M, Niikura M, Kobayashi F, Kamma H, Kamiya S, Ito K, Barnes PJ, Goto H, Takizawa H: Interleukin-10 modulates pulmonary neutrophilic inflammation induced by cigarette smoke exposure. *Exp Lung Res* 41(10): 525-534, 2015.
  23. Nakamura M, Wada H, Honda K, Nakamoto K, Inui T, Sada M, Watanabe M, Takata S, Yokoyama T, Saraya T, Kurai D, Ishii H, Goto H, Kamma H, Takizawa H: Clarithromycin ameliorates pulmonary inflammation induced by short term cigarette smoke exposure in mice. *Pulm Pharmacol Ther* 35:60-66, 2015.
  24. Horita A, Kurata A, Ohno S, Shimoyamada H, Saito I, Kamma H, Kuroda M: Immaturity of smooth muscle cells in the neointima is associated with acute coronary syndrome. *Cardiovasc Pathol* 24(1):26-32, 2015.
  25. Koji H, Yazawa T, Nakabayashi K, Fujioka Y, Kamma H, Yamada A: CD8-positive T-cell lymphoproliferative disorder associated with Epstein-Barr virus-infected B-cells in a rheumatoid arthritis patient under methotrexate treatment. *Mod Rheumatol* 26(2):271-275, 2016.
  26. Ishii J, Yazawa T, Chiba T, Shishido-Hara Y, Arimasu Y, Sato H, Kamma H: PROX1 Promotes Secretory Granule Formation in Medullary Thyroid Cancer Cells. *Endocrinology* 157:1289-1298, 2016.
  27. Chiba T: STAT3 Inhibitors for Cancer Therapy-the Rationale and Remained Problems. *EC Cancer (E-Cronicon)* 1: S1-S8, 2016.
  28. Chiba T: Clinical Pathology in The Future:do Genetic Analyses Replace The Morphological Observation?. *EC Cancer (E-Cronicon)* 2:26-27, 2016.
- 著書**
1. 澤文, 菅間博: 内分泌 濾胞型乳頭癌, 濾胞癌, 髓様癌. 病理診断クイックリファレンス. 深山正久編. 東京, 文光堂, 2015. p.224-226.
  2. 寺戸雄一: 女性生殖器 卵巣甲状腺腫, 未熟奇形種, 線維腫. 病理診断クイックリファレンス. 深山正久編. 東京, 文光堂, 2015, p.184-185.
  3. 大森嘉彦, 寺戸雄一: 女性生殖器 未分化胚細胞腫 (デイスジャーミノーマ). 病理診断クイックリファレンス. 深山正久編. 東京, 文光堂, 2015, p.183.
- その他**
1. 石井順: 第19回日本内分泌病理学会学術総会 研究最優秀賞, 佐賀, 2015年10月24-25日.

感染症学教室  
(微生物学)

## 講演

1. 蔵田訓, 大崎敬子, 田口晴彦, 神谷茂: マウス脾臓細胞を用いた肺炎マイコプラズマ菌体抗原によるTh2細胞誘引性ケモカインの誘導について. 第89回日本感染症学会総会, 京都, 2015年4月16-17日.
2. 大崎敬子, 蔵田訓, 神谷茂: 鉄制限食投与スナネズミに対する*Helicobacter pylori*感染の影響. 第89回日本感染症学会総会, 京都, 2015年4月16-17日.
3. 神谷茂: *Clostridium difficile*の病原因子と院内感染対策. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月26-27日
4. 大崎敬子, 徳永健吾, 米澤英雄, Zaman Cynthia, 田中昭文, 北条史, 花輪智子, 高橋信一, 神谷茂: 慢性胃炎患者における胃内常在細菌叢のメタゲノム解析. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月26-27日.
5. 米澤英雄, 大崎敬子, 北条史, Zaman Cynthia, 神谷茂: AlpBの*Helicobacter pylori* TK1402株バイオフィーム形成への関与. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月26-27日.
6. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori*の自由生活性アメーバ*Acanthamoeba castellanii*共培養時のトランスクリプトーム解析~*Helicobacter pylori*生存性との関連. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月26-27日.
7. 花輪智子, 蒲地一成, 米澤英雄, 大崎敬子, 神谷茂: 百日咳菌のバイオフィーム形成における3型分泌装置の役割. 第29回日本バイオフィーム学会学術集会, 蒲郡, 2015年7月10-11日.
8. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂: *Helicobacter pylori*外膜タンパク質AlpBの多様性とバイオフィーム形成. 第29回日本バイオフィーム学会学術集会, 蒲郡, 2015年7月10-11日.
9. 神谷茂: 国境を越える感染症の脅威~エボラウイルス疾患, デング熱などを含めて~. フェニックスメディカルクリニック2015年セミナー, 東京, 2015年7月17日.
10. 神谷茂: 腸内細菌と疾病. 茨城県立中央病院感染症セミナー, 笠間, 2015年8月21日.
11. 米澤英雄, 大崎敬子, 蔵田訓, 神谷茂: *Helicobacter pylori* バイオフィーム形成は抗菌薬抵抗性を亢進する. 第64回日本感染症学会東日本地方会総会学術集会 第62回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 札幌, 2015年10月21-23日.
12. 米澤英雄, 大崎敬子, 北条史, 花輪智子, 蔵田訓, Zaman Cynthia, 神谷茂: *Helicobacter pylori*外膜タンパク質AlpABの多様性がバイオフィーム形成に及ぼす影響. 第98回日本細菌学会関東支部総会, 東京, 2015年10月29-30日.
13. Hanawa T, Kamachi K, Yonezawa H, Kawakami H, Kamiya S: Characterization of pellicle formed by *Bordetella pertussis*. 7th ASM Conference on Biofilms, USA, October 24th-29th, 2015.
14. Kamiya S, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T: Dominantly persistent infection in gastric mucosa of Mongolian gerbils with *H. pylori* strain isolated from 3 children compared to those from their parents (Oral presentation). 18<sup>th</sup> International workshop on Campylobacter, Helicobacter and related organisms, New Zealand, November 1st-5th, 2015.
15. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka A, Nozaki E, Zaman C, Hojo F, Takahashi S, Kamiya S: 16S metagenomic study on gastric microbiota of the patients with chronic gastritis. 18<sup>th</sup> International workshop on Campylobacter, Helicobacter and related organisms, New Zealand, November 1st-5th, 2015.
16. Yonezawa H, Osaki T, Kamiya S: Involvement of AlpB as a key role in in biofilm formation of *Helicobacter pylori*. 18<sup>th</sup> International workshop on Campylobacter, Helicobacter and related organisms, New Zealand, November 1st-5th, 2015.
17. Hojo F, Osaki T, Kamiya S: Transcriptome and proteome analysis of *Helicobacter pylori* in co culture with *Acanthamoeba castellanii*. 18<sup>th</sup> International workshop on Campylobacter, Helicobacter and related organisms, New Zealand, November 1st-5th, 2015.
18. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori* の自由生活性アメーバ共培養系における生存性の向上と遺伝子発現について. 第49回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 仙台, 2016年1月29-30日.
19. 神谷茂, Zaman Cynthia, 米澤英雄, 大崎敬子: *Helicobacter pylori* の家族内感染の解析と分離菌株のスナネズミ感染症の比較. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-26日.
20. 山口博之, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村眞二, 北条史, 花輪智子, 神谷茂: 絨毛虫と病原細菌の相互作用: 絨毛虫食胞内での大腸菌の接合とクォーラムセンシングの発動について. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-26日.
21. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 北条史, Zaman Cynthia, 神谷茂: *Helicobacter pylori* が産生するouter membrane vesicle の役割. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-26日.
22. 大崎敬子, Zaman Cynthia, 米澤英雄, 高橋志達, 岡健太郎, 北条史, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 慢性胃炎患者における胃内細菌叢の16Sメタゲノム解析. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-26日.
23. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦, 神谷茂: The effects of *M. pneumoniae* antigen sensitization on follicular helper T cell differentiation. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-26日.
24. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori* の自由生活性アメーバ共培養系における生存性の向上と遺伝子発現差解析. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-26日.
25. 花輪智子, 蒲地一成, 米澤英雄, 蔵田訓, 北条史, 大崎敬子, Zaman Cynthia, 神谷茂: 百日咳菌ペリクル型バイオフィーム内の病原因子に関する解析. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-26日.

## 論文

1. Kobayashi T<sup>1,2</sup>, Osaki T, Oikawa S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Miyagi University, <sup>2</sup>RIKEN): Use of T-RFLP and seven restriction enzymes to compare the faecal microbiota of obese and lean Japanese healthy men. *Benef Microbes*, 6(5):735-745, 2015.
2. Furuta Y<sup>1</sup>, Konno M<sup>2</sup>, Osaki T, Yonezawa H, Ishige T<sup>3</sup>, Imai M<sup>3</sup>, Shiwa Y<sup>3</sup>, Shibata-Hatta M<sup>3</sup>, Kanesaki Y<sup>3</sup>, Yoshikawa H<sup>3</sup>, Kamiya S, Kobayashi I<sup>1</sup> (<sup>1</sup>University of Tokyo, <sup>2</sup>Sapporo Kosei General Hospital, <sup>3</sup>Tokyo University of Agriculture): Microevolution of Virulence-Related Genes in *Helicobacter pylori* Familial Infection. *PLoS ONE*, 10(5): e0127197, 2015.



3. Isa K<sup>1</sup>, Oka K<sup>1</sup>, Beauchamp N<sup>2</sup>, Sato M<sup>1</sup>, Wada K<sup>1</sup>, Ohtani K<sup>3</sup>, Nakanishi S<sup>1</sup>, McCartney E<sup>4</sup>, Tanaka M<sup>1</sup>, Shimizu T<sup>3</sup>, Kamiya S, Kruger C<sup>2</sup>, Takahashi M<sup>1</sup> (Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., <sup>2</sup>Spherix Consulting, Rockville, MD, <sup>3</sup>Kanazawa University, <sup>4</sup>Pen & Tec Consulting) : Safety assessment of the *Clostridium butyricum* MIYAIRI 588® probiotic strain including evaluation of antimicrobial sensitivity and presence of *Clostridium* toxin genes in vitro and teratogenicity in vivo. Hum Exp Toxicol, 2015. pii: 0960327115607372 (Epub ahead of print).
  4. Okuda M<sup>1</sup>, Osaki T, Lin Y<sup>2</sup>, Yonezawa H, Maekawa K<sup>1</sup>, Kamiya S, Fukuda Y<sup>1</sup>, Kikuchi S<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Hyogo College of Medicine, <sup>2</sup>Aichi Medical University) : Low prevalence and incidence of *Helicobacter pylori* infection in children: a population-based study in Japan. Helicobacter, 20(2):133-138, 2015.
  5. Yonezawa H, Osaki T, Kamiya S : Biofilm formation by *Helicobacter pylori* and its involvement for antibiotic resistance. Biomed Res Int, 2015:914791, doi: 10.1155/2015/914791. (2015).
  6. Tomoda A<sup>1</sup>, Kamiya S, Suzuki H<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Medical University, <sup>2</sup>Keio University) : *Helicobacter pylori* and Pathogenesis. Biomed Res Int, 2015:304768, doi: 10.1155/2015/304768. (2015).
  7. Oguri S<sup>1,2</sup>, Hanawa T, Matsuo J<sup>2</sup>, Ishida K<sup>2</sup>, Yamazaki T<sup>2,4</sup>, Nakamura S<sup>3</sup>, Okubo T<sup>2</sup>, Fukumoto T<sup>1</sup>, Akizawa K<sup>1</sup>, Shimizu C<sup>1</sup>, Kamiya S, Yamaguchi H<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Hokkaido University Hospital, <sup>2</sup>Hokkaido University, <sup>3</sup>Juntendo University, <sup>4</sup>Japan Society for the Promotion of Science) : Protozoal ciliate promotes bacterial autoinducer-2 accumulation in mixed culture with *Escherichia coli*. J Gen Appl Microbiol. 61(5):203-210, 2015.
  8. Higaki M<sup>1</sup>, Wada H<sup>1,2</sup>, Mikura S<sup>1</sup>, Yasutake T<sup>1</sup>, Nakamura M<sup>1</sup>, Niikura M, Kobayashi F, Kamma H<sup>3</sup>, Kamiya S, Takizawa H<sup>1</sup>, Goto H<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Department of Respiratory Medicine, Kyorin University School of Medicine, <sup>2</sup>Juntendo University, <sup>3</sup>Department of Pathology, Kyorin University School of Medicine) : Interleukin-10 modulates pulmonary neutrophilic inflammation induced by cigarette smoke exposure. Exp Lung Res 41(10):525-534, 2015.
  9. Usui M<sup>1</sup>, Suzuki K<sup>1</sup>, Oka K<sup>2</sup>, Miyamoto K<sup>2</sup>, Takahashi M<sup>2</sup>, Inamatsu T<sup>3</sup>, Kamiya S, Tamura Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Rakuno Gakuen University, <sup>2</sup>Miyarisan Pharmaceutical Co., Ltd., <sup>3</sup>Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital) : Distribution and characterization of *Clostridium difficile* isolated from dogs in Japan. Anaerobe 37(1): 58-61, 2016.
  10. Hanawa T, Kamachi K<sup>1</sup>, Yonezawa H, Fukutomi T<sup>2</sup>, Kawakami H<sup>3</sup>, Kamiya S (<sup>1</sup>National Institute of Infectious Diseases, <sup>2</sup> Department of Pharmacology, Kyorin University School of Medicine, <sup>3</sup> Department of Anatomy, Kyorin University School of Medicine) : Glutamate limitation, BvgAS activation, and (p)ppGpp regulate the expression of the *Bordetella pertussis* type 3 secretion system. J Bacteriology, 198(2):343-351, 2016.
  11. 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 神谷茂 : *Helicobacter pylori*バイオフィーム形成が及ぼすアモキシシリン, メトロニダゾールへの抵抗性への影響. Bacterial Adherence & Biofilm 28:47, 2015.
  12. 蔵田訓, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 田口晴彦<sup>1</sup>, 神谷茂 (<sup>1</sup>杏林大学保健学部免疫学) : *Mycoplasma pneumoniae*菌体抗原感作がT細胞サブセットに及ぼす影響. 無菌生物 45(2):78-80, 2015.
  13. 神谷茂 : *Clostridium difficile*の病原因子. 臨床と微生物 42(5):387-393, 2015.
  14. 神谷茂 : マイクロバイオームとウィローム, 疾患との関連: 腸疾患, 肝疾患. 臨床と微生物 42(6):703-709, 2015.
  15. 大崎敬子, 神谷茂 : マイクロバイオームとウィローム, 疾患との関連: 肥満と痩せ. 臨床と微生物 42(6): 739-744, 2015.
  16. 神谷茂 : *Helicobacter pylori*感染症の基礎—細菌学的性状, 疫学, 感染経路, 病原因子を中心として—. 小児科臨床 68(10):1821-1831, 2015.
  17. 神谷茂 : 小児感染症2015 - 小児感染症のマネージメント - ディフィシル菌感染症 (CDI) . 小児科臨床 68(12): 2561-2568, 2015.
  18. 神谷茂 : 特集 腸内細菌叢は病気とどう関連するか—腸内細菌叢の形成と役割. 成人病と生活習慣病 45(12): 1462-1468, 2015.
  19. 神谷茂, 大崎敬子: 腸内細菌研究を進歩させた技術革新. 肝胆膵 70(6):803-811. 2015.
  20. 神谷茂, 大崎敬子 : 特集 腸内細菌叢の最新知見—腸内細菌の解析方法. 小児科 57(2):113-120, 2016.
  21. 神谷茂 : 腸内細菌研究の過去・現在・未来. G. I. Research 24(1):3-8, 2016.
  22. 神谷茂, 大崎敬子: ピロリ菌感染と胃内常在細菌叢 - 16S リボソームRNA遺伝子 (16S リボソームDNA) 解析データを含めて -. 化学療法の領域 32(2):262-271, 2016.
- 著書**
1. 神谷茂: 腸内フローラと難病・自己免疫疾患. 神谷茂編. 東京, 医薬出版, 2015.
  2. 神谷茂: はじめに. 腸内フローラと難病・自己免疫疾患. 神谷茂編. 東京, 医薬出版, 2015. p.1-8.
  3. 神谷茂: 最新マイコプラズマ学. 日本マイコプラズマ学会編 (編集委員長 神谷茂, 編集委員 泉川欣一, 賀来満夫, 佐々木次雄, 難波成任, 宮田真人). 東京, 近代出版, 2016.
  4. 田口晴彦, 神谷茂 : 基礎編4-3. マイコプラズマ感染モデル. 最新マイコプラズマ学. 日本マイコプラズマ学会編 (編集委員長 神谷茂, 編集委員 泉川欣一, 賀来満夫, 佐々木次雄, 難波成任, 宮田真人). 東京, 近代出版, 2016. p.45-48.
  5. 蔵田訓 : 技術編3. ヒトから検出される *Mycoplasma* 属細菌の培地と培養. 最新マイコプラズマ学. 日本マイコプラズマ学会編 (編集委員長 神谷茂, 編集委員 泉川欣一, 賀来満夫, 佐々木次雄, 難波成任, 宮田真人). 東京, 近代出版, 2016. p.179-181.
  6. 神谷茂 : 近年の学会活動. 最新マイコプラズマ学. 日本マイコプラズマ学会編 (編集委員長 神谷茂, 編集委員 泉川欣一, 賀来満夫, 佐々木次雄, 難波成任, 宮田真人). 東京, 近代出版, 2016. p.219-221.
  7. 神谷茂 : マイコプラズマ研究機関の歴史, 杏林大学医学部微生物学教室 (現: 感染症学講座). 最新マイコプラズマ学. 日本マイコプラズマ学会編 (編集委員長 神谷茂, 編集委員 泉川欣一, 賀来満夫, 佐々木次雄, 難波成任, 宮田真人). 東京, 近代出版, 2016. p.225-227.
  8. 神谷茂 : カンピロバクター感染症. 人獣共通感染症改訂3版. 木村哲, 喜田宏編. 東京, 医薬ジャーナル社, 2016. p.301-309.
  9. 神谷茂 : 腸内細菌叢と腸管免疫. 高齢者感染症〜超高齢社会の課題と特徴. 光山正雄編. 東京, 医薬ジャーナル社, 2016. p.69-79.
- その他**

1. 神谷茂：ヘモフィルス属. 南山堂医学大辞典 第20版. p.2241-2242, 2015.
2. 神谷茂:インフルエンザ菌. 南山堂医学大辞典 第20版. p.170-171, 2015.
3. 神谷茂：バラインフルエンザ菌. 南山堂医学大辞典 第20版. p.1983, 2015.
4. 神谷茂：軟性下疳菌. 南山堂医学大辞典, 第20版. p.1817, 2015.
5. 神谷茂：「腸から始まる健康ライフ」プロバイオティクスについて解説, TBSラジオ, 2015年4月6日.
6. 神谷茂：「腸から始まる健康ライフ」腸内環境と肥満について解説, TBSラジオ, 2015年4月13日.
7. 神谷茂：「腸から始まる健康ライフ」腸内環境と老化について解説, TBSラジオ, 2015年4月20日.
8. 神谷茂：「腸から始まる健康ライフ」腸内フローラと食事・便秘について解説, TBSラジオ, 2015年4月27日.
9. 神谷茂：腸内細菌（フローラ）研究の進歩. Medical View Point, 第5号, p.6, 2015.
10. 神谷茂：*Helicobacter pylori*の除菌と胃癌の関係. BioScan Fresh and Future, No.10, p.9, 2015.
11. 神谷茂, 北条史：クリーニングに使用される界面活性剤および溶媒の抗病原性原生動物作用の解析. 平成26年度クリーニングと公衆衛生に関する研究報告書(クリーニングと公衆衛生に関する研究委員会委員長, 相澤好治編), 第41巻 p.16-19, 2015.
12. 神谷茂：サイエンス・インフォメーション：感染症とプロバイオティクス. 健康のしおり2015-4, 公益社団法人日本栄養士会, 2015.
13. 大崎敬子：第21回日本ヘリコバクター学会学術集会<基礎から>. *Helicobacter Research* vol.19, no.5, p.508-509, 2015.
14. 花輪智子：細菌感染症と治療薬. *ミルシル*. 8(4):8-11, 2015.
- セットの解明. 第44回杏林医学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
7. 兼松健也, 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵：LPS刺激はマラリア免疫記憶能を低下させる. 第44回杏林医学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
8. 中村益夫, 和田裕雄, 佐田充, 乾俊哉, 中本啓太郎, 檜垣学, 宮東昭彦, 井上信一, 花輪智子, 小林富美恵, 菅間博, 滝澤始：IL-17A/F遺伝子欠損マウスは長期喫煙曝露による気腔開大が抑制される (Interleukin-17A/F regulates MMP-9 expression in the lung of mice after inhalation of cigarette smoke.) .第38回日本分子生物学会年会/第88回日本生化学会大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
9. 救仁郷圭祐, Lucky Runtuwene, 朝日博子, 鈴木穰：熱帯熱マラリア原虫 *P. falciparum* における1細胞トランスクリプトーム解析. 第38回日本分子生物学会年会/第88回日本生化学会大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
10. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: Maternal immune response to *Plasmodium* infection during pregnancy is associated with development of placental pathology. 第17回日韓寄生虫セミナー Forum Cheju, Osaka, November 13th, 2015.
11. Inoue S-I, Niikura M, Asahi H, Kobayashi K:  $V\gamma 1^+$   $\gamma\delta$  T-cell subset preferentially responds to *Plasmodium berghei* XAT infection. 第17回日韓寄生虫セミナー Forum Cheju, Osaka, November 13th, 2015.
12. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: Maternal immune response is associated with development of placental pathology during *Plasmodium* infection. 第9回寄生虫感染免疫研究会, 鹿児島, 2016年2月11-12日.
13. Inoue S-I, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F:  $V\gamma 1^+$   $\gamma\delta$  T cells preferentially respond to *Plasmodium* infection. 第9回寄生虫感染免疫研究会, 鹿児島, 2016年2月11-12日.
14. Kobayashi F, Niikura M, Inoue S-I, Asahi H: Studies on malaria using mouse models of uncomplicated and fatal malaria. Scientific Symposium of Japan-India Research Exchange Projects within "Strategic International Research Cooperative Program (SICP)", Tokyo, February 25th, 2016.
15. Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: Establishment of genetically attenuated rodent malaria parasites for predicting the severity. Scientific Symposium of Japan-India Research Exchange Projects within "Strategic International Research Cooperative Program (SICP)", Tokyo, February 25th, 2016.
16. Inoue S-I, Niikura M, Asahi H, Kobayashi F: Protective immunity against a low virulent *Plasmodium* infection. Scientific Symposium of Japan-India Research Exchange Projects within "Strategic International Research Cooperative Program (SICP)", Tokyo, February 25th, 2016.
17. 朝日博子, 救仁郷圭祐, 竹田美香, 矢幡一英, 井上信一, 新倉保, Indah S. Tantular, Fumihiko Kawamoto, 中澤秀介, 小林富美恵, 金子修, 鈴木穰：*Plasmodium falciparum* ガメトサイト形成に伴って特異的に発現される分子の網羅的解析. 第85回日本寄生虫学会大会, 宮崎, 2016年3月19-20日.
18. 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵：マラリア原虫感染防御において樹状細胞を活性化させる  $V\gamma 1^+$   $\gamma\delta$  T細胞. 第85回日本寄生虫学会大会, 宮崎, 2016年3月19-20日.

感染症学教室  
(寄生虫学)

講演

1. 鈴木重雄, 彦坂健児, Balogun Emmanuel, 小松谷啓介, 新倉保, 小林富美恵, 高橋究, 田中徹, 中島元夫, 北潔：ALA/鉄化合物で治療したマラリア感染マウスに付与された防御免疫. 第5回ボルフィリン・ALA学会年会, 東京, 2015年4月25-26日.
2. 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵：マラリア原虫感染防御において  $\gamma\delta$  T細胞は抗原虫抗体産生能の維持に働く.  $\gamma\delta$  T cells maintain humoral immunity against *Plasmodium berghei* XAT parasites. 第26回日本生体防御学会学術総会, 東京, 2015年7月10-12日.
3. 井上信一： $\gamma\delta$  T細胞によるマラリア免疫防御機構. BioJapan 2015, 横浜, 2015年10月14-16日.
4. 新倉保, 井上信一, 朝日博子, 小林富美恵：マウスモデルを用いた妊娠中のマラリアの病態発症機序の解明. 第23回分子寄生虫学ワークショップ&第13回分子寄生虫マラリアフォーラム合同大会, 帯広, 2015年8月30日-9月2日.
5. 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵： $\gamma\delta$  T細胞を介したマラリア原虫感染防御の免疫機構を探る. 第23回分子寄生虫学ワークショップ&第13回分子寄生虫マラリアフォーラム合同大会, 帯広, 2015年8月30日-9月2日.
6. 井上信一, 新倉保, 朝日博子, 小林富美恵：マラリア原虫感染に対する宿主免疫防御を促進する  $\gamma\delta$  T細胞サブ

- 北潔, 鈴木重雄, 小松谷啓介, 新倉保, 小林富美恵, 田中徹, 中島元夫, 高橋究: 新規抗マラリア薬としての5-アミノレブリン酸. 第85回日本寄生虫学会大会, 宮崎, 2016年3月19-20日.
- Niikura M, Inoue S-I, Asahi H, Kobayashi F: IFNGR1 signaling is involved in development of placental pathology during *Plasmodium* infection. 第85回日本寄生虫学会大会, 宮崎, 2016年3月19-20日.

## 論文

- Higaki M, Wada H, Mikura S, Yasutake T, Nakamura M, Niikura M, Kobayashi F, Kamma H, Kamiya S, Ito K, Barnes PJ, Goto H, Takizawa H: IL-10 modulates pulmonary neutrophilic inflammation induced by cigarette smoke exposure. *Expl Lung Res.* 41(10): 525-534, 2015.
- Suzuki S<sup>1</sup>, Hikosaka K<sup>1</sup>, Balogun EO<sup>1</sup>, Komatsuya K<sup>1</sup>, Niikura M, Kobayashi F, Takahashi K<sup>2</sup>, Tanaka T<sup>2</sup>, Nakajima M<sup>2</sup>, Kita K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Univ of Tokyo, <sup>2</sup>SBI Pharma): *In vivo* curative and protective potential of orally administrated 5-aminolevulinic acid plus ferrous iron against malaria. *Antimicrob Agents Chemother.* 59(11): 6960-6967, 2015.
- Asahi H, Kobayashi F, Niikura M, Inoue S-I, Yagita K<sup>1</sup>, Tolba MEM<sup>2</sup> (<sup>1</sup>NIID Japan, <sup>2</sup>Univ of Tokyo): Copper homeostasis for the developmental progression of intraerythrocytic malarial parasite. *Curr Topic Med Chem.* 16(20): 1-10, 2016.
- Furusawa J-I<sup>1</sup>, Mizoguchi I<sup>1</sup>, Chiba Y<sup>1</sup>, Hisada M<sup>1</sup>, Kobayashi F, Yoshida H<sup>2</sup>, Nakae S<sup>3</sup>, Tsuchida A<sup>1</sup>, Matsumoto T<sup>1</sup>, Ema H<sup>4</sup>, Mizuguchi J<sup>1</sup>, Yoshimoto T<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Tokyo Med Univ, <sup>2</sup>Saga Univ, <sup>3</sup>Univ of Tokyo, <sup>4</sup>Keio Univ Sch Med): Promotion of expansion and differentiation of hematopoietic stem cells by interleukin-27 into myeloid progenitors to control infection in emergency myelopoiesis. *PLoS Pathogens.* 12(3): e1005507, 2016.
- 八木田健司<sup>1</sup>, 朝日博子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>感染研): クドア・セブテンブシククタータ (*Kudoa septempunctata*). *検査と技術* 43(9): 756-758, 2015.

## その他 報告など

- 山田悠騎, 井上信一, 新倉保, 小林富美恵: 2014年度杏林大学学生リサーチ賞 受賞報告「弱毒株マラリア原虫感染における $\gamma\delta$  T細胞と液性免疫の関連性」(平成26年度保健学部臨床検査技術学科卒業論文 指導: 医学部感染症学講座寄生虫学部門). 杏林医学会雑誌, 46(補遺): s1, 2015.
- 井上信一: 平成26年度杏林大学医学部研究奨励賞 報告「免疫細胞のミトコンドリア活性酸素がマラリア感染防御において果たす役割」. 杏林医学会雑誌, 46(補遺): s35-37, 2015.
- 井上信一: 第4回杏林医学会研究奨励賞 受賞報告「マラリア原虫感染防御における $\gamma\delta$  T細胞を介した樹状細胞活性化は感染初期に重要である」. 杏林医学会雑誌, 46(補遺): s41, 2015.
- 小林富美恵: 「ぎょう虫検査」考. *モダンメディア*, 61(9): 「随筆」頁, 2015.

## 受賞

- 井上信一: 第4回杏林医学会研究奨励賞「マラリア原虫感染防御における $\gamma\delta$  T細胞を介した樹状細胞活性化は感染初期に重要である」. 第44回杏林医学会事務総会, 三鷹, 2015年11月21日.
- 兼松健也: 杏林医学会第5回学生リサーチ賞「サルモネラ共感染によるマラリア原虫感染防御免疫への影響」

(平成27年度保健学部臨床検査技術学科卒業論文 指導: 医学部感染症学講座寄生虫学部門). 2016年3月15日. <http://www.kyorin-u.ac.jp/cn/html/kyorin/00010/201603231/index.html>

- 新倉保: 第85回日本寄生虫学会第10回ベストプレゼンテーション賞「IFNGR1 signaling is involved in development of placental pathology during *Plasmodium* infection」. 第85回日本寄生虫学会大会, 宮崎, 2016年3月19日.
- 新倉保: 第25回日本寄生虫学会奨励賞「妊娠によるマラリア病態重症化機構の解明」. 第85回日本寄生虫学会大会, 宮崎, 2016年3月19-20日.

## 衛生学公衆衛生学教室

### 講演

- Yoshida M, Takeuchi T, Yamane T, Kawagoe T, Nakamura J, Sakano T, Okada E: A thirteen and a half year large scale follow-up study into the distribution of astigmatic axis in Japan. - The result of analysis of approximately 120,000 eyes of Japanese patients by spherical surface power and astigmatic power-. ARVO 2015, USA, May 3rd-7th, 2015.
- Ogasawara J, Shirato K, Sakurai T, Ohno H, Kizaki T: Enzyme-treated asparagus extract (ETAS) induced heat shock protein 70 expression and attenuates stress. The 12<sup>th</sup> Asian Congress of Nutrition, Yokohama, May 17th, 2015.
- 櫻井拓也, 小笠原準悦, 白土健, 石橋義永, 井澤鉄也, 大野秀樹, 木崎節子: 運動トレーニングは脂肪組織のTGF- $\beta$ -TIMP1経路を減弱させる. 第164回日本体力医学会関東地方会, 横浜, 2015年7月11日.
- Shirato K, Takanari J, Ogasawara J, Sakurai T, Ishibashi Y, Imaizumi K, Ohno H, Kizaki T: Enzyme-treated asparagus extract attenuates hydrogen peroxide-induced matrix metalloproteinase-9 expression in murine dermal fibroblast L929. The 23rd International Congress on Nutrition and Integrative Medicine, Sapporo, July 25th-26th, 2015.
- 西尾聖剛, 笹尾真美, 白土健, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 長澤純一: 富士登山に対する酸化ストレスセンサーの変動. 第23回日本運動生理学会大会, 東京, 2015年7月25-26日.
- 石黒睦子, 岡本晋, 吉田正雄, 山本実: 当院人間ドック受診者のnon-HDL-コレステロールの検討. 第56回日本人間ドック学会学術大会, 横浜, 2015年7月30-31日.
- 小笠原準悦, 高成準, 白土健, 櫻井拓也, 大野秀樹, 木崎節子: ETASはPC12細胞の神経突起の形成を促進する. 第25回体力・栄養・免疫学会大会, 東京, 2015年8月22-23日.
- 谷口善仁, 相澤陽太: 疾患モデルへのメダカの応用. むさしのバイオ研究会 Fish & Fly 2015, 三鷹, 2015年8月29日.
- Sakurai T, Ogasawara J, Shirato K, Ishibashi Y, Ozawa T, Ohira Y, Imaizumi K, Ohno H, Kizaki T: The TGF- $\beta$ -TIMP1 pathway, which inhibits glucose uptake in adipocytes, is attenuated by exercise training. The 16th International Biochemistry of Exercise Conference, Brazil, September 7th-9th, 2015.
- Ogasawara J, Izawa T, Sakurai T, Shirato K, Kato H, Ishibashi Y, Ohira Y, Ohno H, Kizaki T: Effect

- of acute swimming exercise on switching action of PRDM16 in skeletal muscles. The 16th International Biochemistry of Exercise Conference, Brazil, September 7th-9th, 2015.
11. Shirato K, Sakurai Y, Ogasawara J, Ishibashi Y, Kato H, Izawa T, Ohira Y, Imaizumi K, Ohno H, Kizaki T: Voluntary exercise reduces *O*-linked *N*-acetylglucosamine levels in murine macrophages. The 16th International Biochemistry of Exercise Conference, Brazil, September 7th-9th, 2015.
  12. 柳谷歩, 宮田幸造, 山川達也, 岳真一郎, 吉田正雄: 差尺と上肢の作業効率との関連—簡易上肢機能検査による動作速度の比較—. 第57回全日本病院学会in北海道, 札幌, 2015年9月12-13日.
  13. 高田裕司, 高井健太郎, 渡邊正樹, 岳真一郎, 吉田正雄: 拘束をしない転倒リスクの軽減~センサーマットから超音波センサー導入~. 第57回全日本病院学会in北海道, 札幌, 2015年9月12-13日.
  14. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 石橋義永, 今泉和彦, 大野秀樹, 木崎節子: マウス腹腔マクロファージの*O*-結合型*N*-アセチルグルコサミン修飾に及ぼす自発性走運動の影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月18-20日.
  15. 加藤久詞, 田中剛貴, 増田慎也, 高倉久志, 小笠原準悦, 櫻井拓也, 木崎節子, 大野秀樹, 井澤鉄也: 時計遺伝子の発現リズムに基づいた運動トレーニングが脂肪分解反応に及ぼす影響. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月18-20日.
  16. 今泉和彦, 白土健, 小林歩, 川島悠, 鈴木惇, 牧野友祐, 佐々木裕子, 鈴木英樹, 立屋敷かおる: 亜鉛欠乏による幼齡ラットの成長抑制とinsulin-like growth factor-1 receptorの発現応答. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月18-20日.
  17. 鈴木英樹, 白土健, 船木留里, 山本直樹, 久保孝史, 牧野友祐, 佐々木裕子, 川島悠, 立屋敷かおる, 今泉和彦: 亜鉛欠乏による成熟ラットの直腸温および褐色脂肪細胞のUCP1発現の応答. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月18-20日.
  18. 川島悠, 白土健, 山本直樹, 久保孝史, 牧野友祐, 佐々木裕子, 鈴木英樹, 立屋敷かおる, 今泉和彦: 亜鉛欠乏による成熟および幼齡の各ラットの白血球系細胞の応答の比較. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月18-20日.
  19. 牧野友祐, 白土健, 橋爪陽子, 山村真由, 川島悠, 佐々木裕子, 鈴木英樹, 立屋敷かおる, 今泉和彦: ニンニク的主要含硫化合物投与によるラット総白血球数とリンパ球サブセット数の応答. 第70回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015年9月18-20日.
  20. 荻田香苗: 地域包括ケアの実現に向けた多職種協働と住民参加を考える~多様な人材を活かす男女共同参画を推進する立場から~. 上尾中央医科グループ埼玉回生病院第5回特別講演, 八潮, 2015年9月19日.
  21. Aizawa Y, Sakuma T, Ansai S, Nishimaki T, Oota H, Ogawa M, Ochiai H, Yamamoto T, Kinoshita M, Taniguchi Y: Role for Metallothionein in Cadmium Toxicity in Fish Embryos and Larvae. 第21回小型魚類研究会, 大阪, 2015年9月19-20日.
  22. 荻田香苗, 原田まつ子, 吉田正雄, 井上聡, 小風暁: 若年女性の味覚認知閾値に関する調査研究—自律神経機能および身体活動量との関係—. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月4-6日.
  23. 照屋浩司, 岡本博照, 楠田美奈, 松井知子, 角田透: 地域における運動相談事業への頻回の参加と高齢者の健康指標との関連について. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月5日.
  24. 谷口善仁: 小型魚類の遺伝子解析を利用したストレス研究. 第31回日本ストレス学会学術総会, 三鷹, 2015年11月7-8日.
  25. 井上聡, 原田まつ子, 吉田正雄, 荻田香苗: 柔道整復施術所の最近の10年間における地理的分布の変化. 第80回日本民族衛生学会総会, 弘前, 2015年11月13-14日.
  26. 原田まつ子, 吉田正雄, 井上聡, 荻田香苗: 若年女性の味覚感度低下と食生活習慣との関連性について. 第80回日本民族衛生学会総会, 弘前, 2015年11月13-14日.
  27. 松井知子, 角田透: 現場ニーズに基づいた事業所担当者のためのメンタルヘルス対策支援ツールの開発. 第80回日本民族衛生学会総会, 弘前, 2015年11月13-14日.
  28. Yoshida M, Karita K, Kokaze A, Take S, Okada E: Association of age with refractive change: 5 years prospective study against 287,019 Japanese eyes. GSA 2015, USA, November 18th-22nd, 2015.
  29. 吉田正雄: 白内障, 緑内障および高度近視のリスク要因と一次予防対策解明のための分析疫学的研究. 第44回杏林医学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
  30. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 楊國昌, 大野秀樹, 木崎節子: 加齢性慢性炎症性疾患に対する運動効果: マクロファージ時計遺伝子をプローブとして. 第44回杏林医学会総会, 三鷹, 2015年11月21日.
  31. 櫻井拓也: 運動ですてきな老後を~認知症・アルツハイマー病予防の観点から~. 第165回日本体力医学会関東地方会, 三鷹, 2015年11月28日.
  32. 牧野友祐, 白土健, 橋爪陽子, 川島悠, 立屋敷かおる, 今泉和彦: ラットリンパ球サブセット数に及ぼすニンニク主要含硫化合物投与の効果. 第165回日本体力医学会関東地方会, 三鷹, 2015年11月28日.
  33. 谷口善仁, 相澤陽太, 佐久間哲史, 安齋賢, 西槇俊之, 太田博樹, 小川元之, 落合博, 山本卓, 木下政人: 魚類胚と仔魚でのカドミウム毒性に対するメタロチオネインの役割. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
  34. 白土健, 櫻井拓也, 小笠原準悦, 今泉和彦, 谷口直之, 大野秀樹, 木崎節子: マクロファージの*O*-結合型*N*-アセチルグルコサミン修飾調節機構に及ぼす運動トレーニングの影響. 第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
  35. 松井知子, 森崎美奈子, 角田透: 事業所担当者のためのメンタルヘルス対策支援ツールの開発. 第22回日本産業ストレス学会, 京都, 2015年12月11-12日.
  36. 角田透: ストレスチェックの概要とマニュアルの解説. 平成27年度三鷹市医師会産業医学講習会・第44回日本産業精神保健学会研修セミナー, 三鷹, 2015年12月19日.
  37. 白土健: 運動は生体防御能をどのように高めるか?. 早稲田大学人科生命科学系公開シンポジウム「生命の理解からはじまる人間科学」, 所沢, 2016年2月7日.
  38. Ogasawara J, Sakurai T, Shirato K, Ishibashi Y, Ohno H, Kizaki T: Acute swimming exercise can accelerate the browning of skeletal muscle in interscapular region. 第93回日本生理学会大会, 札幌, 2016年3月22-24日.
- 論文**
1. Kizaki T, Sato S<sup>1</sup>, Shirato K, Sakurai T, Ogasawara J, Izawa T<sup>2</sup>, Ohira Y<sup>2</sup>, Suzuki K<sup>3</sup>, Ohno H (1<sup>University of Texas Southwestern Medical Center, 2<sup>Doshisha University, 3Ritsumeikan University</sup>): Effect of Circadian Rhythm on Clinical and Pathophysiological Conditions and Inflammation. Crit Rev Immunol 35(4):261-275, 2015.</sup>

2. Ogasawara J, Izawa T<sup>1</sup>, Sakurai T, Shirato K, Ishibashi Y, Ohira Y<sup>1</sup>, Ishida H<sup>2</sup>, Ohno H, Kizaki T (1Doshisha University, 2Third Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine): Habitual exercise training acts as a physiological stimulator for constant activation of lipolytic enzymes in rat primary white adipocytes. *Biochem Biophys Res Commun* 464(1):348-353, 2015.
  3. Kato H<sup>1</sup>, Tanaka G<sup>1</sup>, Masuda S<sup>2</sup>, Ogasawara J, Sakurai T, Kizaki T, Ohno H, Izawa T<sup>1</sup> (1Doshisha University, 2National Hospital Organization Kyoto Medical Center): Melatonin promotes adipogenesis and mitochondrial biogenesis in 3T3-L1 preadipocytes. *J Pineal Res* 59(2): 267-275, 2015.
  4. Ogasawara J, Izawa T<sup>1</sup>, Sakurai T<sup>2</sup>, Sakurai T, Shirato K, Ishibashi Y, Ishida H<sup>3</sup>, Ohno H, Kizaki T (1Doshisha University, 2Toin University of Yokohama, 3Third Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine): The Molecular Mechanism Underlying Continuous Exercise Training-Induced Adaptive Changes of Lipolysis in White Adipose Cells. *J Obes* 2015: 473430, 2015.
  5. Ohira T<sup>1</sup>, Wang XD<sup>2</sup>, Ito T<sup>3</sup>, Kawano F<sup>2</sup>, Goto K<sup>4</sup>, Izawa T<sup>5</sup>, Ohno H, Kizaki T, Ohira Y<sup>5</sup> (1Space Biomedical Research Office, Japan Aerospace Exploration Agency, 2Osaka University, 3Yamagata University School of Medicine, 4Toyoashi SOZO University, 5Doshisha University): Macrophage deficiency in osteopetrotic (op/op) mice inhibits activation of satellite cells and prevents hypertrophy in single soleus fibers. *Am J Physiol Cell Physiol* 308 (10):C848-855, 2015.
  6. Kokaze A<sup>1</sup>, Yoshida M, Ishikawa M<sup>2</sup>, Matsunaga N, Karita K, Ochiai H<sup>1</sup>, Shirasawa T<sup>1</sup>, Nanri H<sup>1</sup>, Mitsui K<sup>1</sup>, Hoshimo H<sup>1</sup>, Takashima Y (1Showa University School of Medicine, 2Mito Red Cross Hospital): Mitochondrial DNA 5178 C/A polymorphism modulates the effects of coffee consumption on elevated levels of serum liver enzymes in male Japanese health check-up examinees: an exploratory cross-sectional study. *J Physiol Anthropol* 35(1):15, 2016.
  7. Haga S<sup>1</sup>, Sakurai T, Hamaoka T<sup>2</sup>, Esaki K<sup>3</sup>, Ueya K<sup>4</sup>, Toshinai K<sup>5</sup>, Miyazaki H<sup>6</sup>, Ogasawara J, Shirato K, Hashimoto N<sup>7</sup>, Kastumura T<sup>2</sup>, Nioka S<sup>3</sup>, Chance B<sup>8</sup>, Yamaguchi I<sup>1</sup>, Kizaki T, Ohno H (1Tsukuba University, 2Tokyo Medical University, 3Tokuyama University, 4University of Yamanashi, 5Shigakkan University, 6National Defense Medical College Research Institute, 7Tokyo Ariake University of Medical and Health Sciences, 8University of Pennsylvania): Cerebral artery blood flow and oxygenation in the frontal lobe region in response to a judo chokehold (shimewaza). *J Exerc Sports Orthop* 3(1):1-8, 2016.
  8. Shirato K, Takanari J<sup>1</sup>, Ogasawara J, Sakurai T, Imaizumi K<sup>2</sup>, Ohno H, Kizaki T (1Amino up chemical company limited, 2Waseda University): Enzyme-Treated Asparagus Extract Attenuates Hydrogen Peroxide-Induced Matrix Metalloproteinase-9 Expression in Murine Skin Fibroblast L929 Cells. *Nat Prod Commun* 11(5): 677-680, 2016.
  9. Okamoto H, Teruya K, Nakata A<sup>1</sup>, Yamaguchi Y<sup>2</sup>, Matsuda T<sup>2</sup>, Tsunoda T (1University of Occupational and Environmental Health, 2Dept of Traumatology & Critical Care Medicine, Kyorin University School of Medicine): Number of patients examined may affect natural killer cell activity in Japanese emergency physicians: A preliminary study. *Japanese Journal of Health and Human Ecology* 82(2): 72-83, 2016.
  10. 角田透:ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会について. *杏林医学会雑誌*46(2): 165-168, 2015.
  11. 照屋浩司, 岡本博照, 角田透:三鷹市民を対象とした健康増進事業について. *杏林医学会雑誌*46(2): 159-163, 2015.
- 平成26年度追加分**
1. Kitahara A<sup>1</sup>, Takahashi K<sup>1</sup>, Moriya R<sup>1</sup>, Onuma H<sup>1</sup>, Handa K<sup>1</sup>, Sumitani Y<sup>1</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Katsuta H<sup>1</sup>, Nishida S<sup>1</sup>, Sakurai T, Inukai K<sup>1</sup>, Ohno H, Ishida H<sup>1</sup> (1Third Department of Internal Medicine, Kyorin University School of Medicine): Ghrelin augments the expressions and secretions of proinflammatory adipokines, VEGF120 and MCP-1, in differentiated 3T3-L1 adipocytes. *J Cell Physiol* 230(1):199-209, 2015.
- 著書**
1. Shirato K, Imaizumi K: Mechanisms underlying the suppression of inflammatory responses in peritoneal macrophages of middle-aged mice. In: *Sport Science Series on "Active Life"*. Kanosue K, Series Ed., Vol. II.: Physical Activity, Exercise, Sedentary Behavior and Health Promotion. Oka K, et al., Ed., Tokyo, Springer-Japan, 2015. pp.193-202.
  2. Shirato K, Imaizumi K, et al.: Effects of  $\beta$ 2-agonist administration on bacterial phagocytosis by splenic macrophages in mice. In: *Sport Science Series on "Active Life"*. Kanosue K, Series Ed., Vol. II.: Physical Activity, Exercise, Sedentary Behavior and Health Promotion. Oka K, et al., Ed., Tokyo, Springer-Japan, 2015. pp.203-212.
  3. Sato S, Shirato K, Mitsuhashi R, Imaizumi K, et al.: Functional roles of  $\beta$ 2-adrenergic receptors in skeletal muscle hypertrophy and atrophy. In: *Sport Science Series on "Active Life"*. Kanosue K, Series Ed., Vol. II.: Physical Activity, Exercise, Sedentary Behavior and Health Promotion. Oka K, et al., Ed., Tokyo, Springer-Japan, 2015. pp.213-234.
  4. 角田透:医学研究と倫理/睡眠, 休養, ストレス. *エッセンシャル社会・環境と健康*第2版第8刷. 高島豊, 櫻井裕編. 東京, 医歯薬出版, 2016. p.96-97/p.129-132.
  5. 吉田正雄:食習慣/学校保健対策. *エッセンシャル社会・環境と健康*第2版第8刷. 高島豊, 櫻井裕編. 東京, 医歯薬出版, 2016. p.111-114/p.237-242.
  6. 荻田香苗:環境の衛生, 環境汚染と公害, 食物と健康, 職業生活と健康, 保健・医療の行政. *学生のための現代公衆衛生*第7版第1刷. 野中浩一編. 東京, 南山堂, 2016, p.143-218.
  7. 荻田香苗:健康と環境. *新版 中学校保健体育 (文部科学省検定教科書・保体726)*. 東京, 大日本図書, 2016, p.69-84.
  8. 荻田香苗:新版 中学校保健体育・教師用指導書. 朱書編, 指導編 (保健分野). 東京, 大日本図書, 2016.
- 特許等知的財産関係, 報告書**
1. 荻田香苗 (分担): 光化学オキシダント等大気汚染物質文献レビュー. 環境省受託, 平成27年度報告書, 数理計画, 2016年3月.
  2. 荻田香苗 (分担): メチル水銀曝露による健康影響に関

するレビュー;「水俣病に関する総合的研究(重金属等の健康影響に関する総合研究)」。平成27年度環境省委託業務報告書。2016年3月。

- Shirato K, Takanari J, Ogasawara J, Sakurai T, Ishibashi Y, Imaizumi K, Ohno H, Kizaki T: Enzyme-treated asparagus extract attenuates hydrogen peroxide-induced matrix metalloproteinase-9 expression in murine dermal fibroblast L929. Proceedings of the 23rd International Congress on Nutrition and Integrative Medicine. Sapporo, Japan, 2015. pp.43-46.

#### その他

- 角田透:平成27年度第16回日本EAP協会総会・講演会主催,東京,2015年7月4日。
- 角田透:第31回日本ストレス学会学術総会主催,三鷹,2015年11月7-8日。
- 角田透:平成27年度三鷹市医師会産業医講習会/第44回日本産業精神保健学会研修セミナー主催,三鷹,2015年12月19日。
- 角田透:第45回日本産業精神保健学会研修セミナー主催,東京,2016年3月3日。
- 木崎節子:第165回日本体力医学会関東地方会主催,三鷹,2015年11月28日。
- Shirato K: The 23rd International Congress on Nutrition and Integrative Medicine the Young Investigator Award 2015. Sapporo, Japan, July 25th, 2015.
- 白土健:公益財団法人中富健康科学振興財団,平成27年度(第28回)研究助成金:運動による慢性炎症性代謝疾患改善効果:マクロファージのグルコース代謝経路に着目して。研究費:150万円。
- 白土健:公益財団法人明治安田厚生事業団,第32回(2015年度)若手研究者のための健康科学研究助成:2型糖尿病マウスにおける慢性炎症に対する運動の効果とメカニズム-マクロファージのみ結合型N-アセチルグルコサミンに着目して-。研究費:50万円。

#### 法医学教室

#### 講演

- 氣賀澤秀明,海野みちる,石井順,千葉知宏,中矢丈雄,平野和彦,藤原正親,菅間博,大倉康男:大腸癌における腫瘍境界部の非腫瘍腺管でのCytokeratin 7, CD117発現の変化。第104回日本病理学会総会,名古屋,2015年4月30日-5月2日。
- 氣賀澤秀明,高木徹也,大谷正紀,山田千歩,吉田昌記,高篠智,岩橋桜子,北村修,佐藤喜宣:オピオイド系鎮痛薬であるトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠の過量服薬によって死亡した1剖検例。第99次日本法医学会学術全国集会,高知,2015年6月10-12日。
- 吉田昌記,高篠智,氣賀澤秀明,山田千歩,岩橋桜子,高木徹也,岩原香織,都築民幸,北村修,佐藤喜宣:特殊メイク用シリコンを応用して作成した人工皮膚を用いた遺体修復についての報告2。第99次日本法医学会学術全国集会,高知,2015年6月10-12日。
- 大谷正紀,高木徹也,岡本博照,和田貴子,北村修,佐藤喜宣:A discussion of acetaldehyde concentration in autopsy blood samples。第99次日本法医学会学術全国集会,高知,2015年6月10-12日。
- 氣賀澤秀明,高木徹也,山田千歩,吉田昌記,高篠智,岩橋桜子,王璐,佐藤喜宣,北村修:左心房粘液腫の僧帽弁嵌頓により急死した1剖検例。第84回日本法医学会学術関東地方集会,東京,2015年10月24日。

#### 論文

- Kigasawa H, Fujiwara M<sup>1</sup>, Ishii J<sup>1</sup>, Chiba T<sup>1</sup>, Terado Y<sup>1</sup>, Shimoyamada H<sup>1</sup>, Mochizuki M<sup>1</sup>, Kitamura O, Kamma H<sup>1</sup>, Ohkura Y<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Departments of Pathology, Kyorin University School of Medicine): Altered expression of CK7 and CD117 in transitional mucosa adjacent to human colorectal cancer. *Oncology Letters*, 2016 (in press).
- 高篠智, 宮木孝昌<sup>1,2</sup>, 池崎隆三郎<sup>3</sup>, 小川晃汰<sup>3</sup>, 原田巽矢<sup>3</sup>, 灰塚嘉典<sup>4</sup>, 天野カオリ<sup>4</sup>, 北村修, 松村讓兒<sup>4</sup> (<sup>1</sup>東医大・人体構造学分野, <sup>2</sup>愛医大・解剖学, <sup>3</sup>杏林大・医・学生, <sup>4</sup>杏林大・医・解剖学): 馬蹄腎の1例。 *形態科学* 19(1): 23-27, 2016.

#### その他

- 高木徹也:ドラマ「無痛〜診える眼」,法医学監修担当,フジテレビ,2015年10月7日。
- 高木徹也:「世界一受けたい授業」,法医学的観点から近年増えている30代から40代といった働き盛りの人の突然死などについて解説,日本テレビ,2016年1月23日。
- 高木徹也,吉田昌記:特集ドラマ「クロスロード」(全6回),法医学監修担当,NHK BSプレミアム,2016年2月25日。

#### 共同研究施設 R I 部門

#### 講演

- 小藤剛史,林優子,藤原智徳,真田ますみ,楊國昌,田丸政男,赤川公朗:自閉症スペクトラム障害とHPC-1/syntaxin1A遺伝子発現異常の関連性の検討。第38回日本神経科学大会,神戸,2015年7月28-31日。
- 藤原智徳,真田ますみ,小藤剛史,赤川公朗:HPC-1/syntaxin1A欠損マウスの社会行動障害に対するOXTおよびVPの効果。第38回日本神経科学大会,神戸,2015年7月28-31日。

#### 論文

- Fujiwara T<sup>1</sup>, Sanada M<sup>1</sup>, Kofuji T, Akagawa K<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kyorin Univ. Sch. Med., Dept. Cell Physiol.): Unusual social behavior in HPC-1/syntaxin1A knockout mice is caused by disruption of the oxytocinergic neural system. *J Neurochem*, (in press).

#### その他

- 小藤剛史:第4回杏林医学会研究奨励賞(以下の論文による) Takefumi Kofuji, Tomonori Fujiwara<sup>1</sup>, Masumi Sanada<sup>1</sup>, Tatsuya Mishima<sup>1</sup> and Kimio Akagawa<sup>1</sup> (<sup>1</sup>Kyorin Univ. Sch. Med., Dept. Cell Physiol.) HPC-1/syntaxin1A and syntaxin1B play distinct roles in neuronal survival. *J Neurochem*, 130(4):514-25, 2014. 2015年11月21日。

#### フローサイトメトリー部門

#### 講演

- Shiohara T: DRESS/DIHS-Pathogenesis-What's new? and What's next?. *International Severe Cutaneous Adverse Reaction 2015*, Canada, June 8th, 2015.
- Shiohara T: Newly described drug eruptions. *23rd World Congress of Dermatology*, Canada, June 11th, 2015.
- Shiohara T: Pathophysiology of fixed drug eruption. *23rd World Congress of Dermatology*, Canada, June 12th, 2015.
- Shiohara T: Cutaneous drug eruptions. *International*

Summer Academy, Germany, July 31st, 2015.

5. Shiohara T: The physiological role of IgE and scratching in negatively regulating innate immune responses. 8th World Congress on Itch, Nara, September 29th, 2015.
6. Shiohara T: Drug-induced hypersensitivity syndrome. 24th World Allergy Organization, Korea, October 14th, 2015.
7. Takahashi R, Ushigome Y, Shiohara T: An unfavorable shift from Treg to Th17 development can be preventable by selective depletion of IL-6-producing proinflammatory monocytes. 40th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Okayama, December 11th-13th, 2015.
8. 塩原哲夫: DiHSの病態と臨床. 第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会, 松江, 2015年11月21日.
9. 塩原哲夫: 薬剤性過敏症候群 (DiHS) の発症機序と治療. 第79回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2016年2月20日.

## 論文

1. Kano Y<sup>1</sup>, Tohyama M<sup>2</sup>, Aihara M<sup>3</sup>, Matsukura S<sup>4</sup>, Watanabe H<sup>5</sup>, Sueki H<sup>5</sup>, Iijima M<sup>5</sup>, Morita E<sup>6</sup>, Niihara H<sup>6</sup>, Asada H<sup>7</sup>, Kabashima K<sup>8</sup>, Azukizawa H<sup>9</sup>, Hashizume H<sup>10</sup>, Nagao K<sup>11</sup>, Takahashi H<sup>11</sup>, Abe R<sup>12</sup>, Sotozono C<sup>13</sup>, Kurosawa M<sup>14</sup>, Aoyama Y<sup>15</sup>, Chu CY<sup>16</sup>, Chung WH<sup>17</sup>, Shiohara T (<sup>1</sup>Department of Dermatology, <sup>2</sup>Ehime University Graduate School of Medicine <sup>3</sup>Yokohama City University Graduate School of Medicine, <sup>4</sup>Yokohama City University Medical Center, <sup>5</sup>Showa University School of Medicine, <sup>6</sup>Shimane University School of Medicine, <sup>7</sup>Nara Medical University School of Medicine, <sup>8</sup>Kyoto University Graduate School of Medicine, <sup>9</sup>Osaka University Graduate School of Medicine, <sup>10</sup>Shimada Municipal Hospital, <sup>11</sup>Keio University School of Medicine, <sup>12</sup>Hokkaido University Graduate School of Medicine, <sup>13</sup>Kyoto Prefectural University of Medicine, <sup>14</sup>Juntendo University Faculty of Medicine, <sup>15</sup>Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry, and Pharmaceutical Sciences, <sup>16</sup>National Taiwan University College of Medicine, <sup>17</sup>Linkou Branch of Chang Gung Memorial Hospital): Sequelae in 145 patients with drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms: survey conducted by the Asian Research Committee on Severe Cutaneous Adverse Reactions (ASCAR). *J Dermatol* 42: 276-282, 2015.
2. Shiohara T, Mizukawa Y<sup>1</sup>, Aoyama Y<sup>2</sup> (<sup>1</sup>Department of Dermatology, <sup>2</sup>Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry, and Pharmaceutical Sciences): Monitoring the acute response in severe hypersensitivity reactions to drugs. *Curr Opin Allergy Clin Immunol* 14: 294-299, 2015.
3. Kurata M<sup>1</sup>, Horie C, Kano Y<sup>1</sup>, Shiohara T (<sup>1</sup>Department of Dermatology): Pompholyx as a clinical manifestation suggesting increased serum immunoglobulin G (IgG) levels in a patient with drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DiHS/DRESS). *Br J Dermatol* 174: 681-683, 2015.
4. Horie C<sup>1</sup>, Kano Y<sup>1</sup>, Mitomo T<sup>1</sup>, Shiohara T (<sup>1</sup>Department of Dermatology): Possible involvement of mycoplasma fermentans in the development of nonsexually acquired genital ulceration (Lipschütz Ulcers) in 3 young female patients. *JAMA Dermatol* 151: 1388-1389, 2015.
5. Shiohara T, Ushigome Y<sup>1</sup>, Kano Y<sup>1</sup>, Takahashi R (<sup>1</sup>Department of Dermatology): Crucial role of viral reactivation in the development of severe drug eruptions: a comprehensive review. *Clin Rev Allergy Immunol* 49: 192-202, 2015.
6. Kurata M<sup>1</sup>, Kano Y<sup>1</sup>, Sato Y<sup>1</sup>, Hirahara K<sup>1</sup>, Shiohara T (<sup>1</sup>Department of Dermatology): Synergistic effects of mycoplasma pneumoniae infection and drug reaction on the development of atypical Stevens-Johnson syndrome in adults. *Acta Derm Venereol* 96: 111-113, 2016.

## 著書

1. 塩原哲夫: 皮膚疾患—薬疹. 極める! 副作用モニタリング 調剤と情報 21 (臨時増刊). 飯島正文監修. 東京, じほう, 2015. p. 61-67.
2. 塩原哲夫: Stevens-Johnson症候群. 小児疾患診療のための病態生理2 小児内科47巻増刊号. 東京, 東京医学社, 2015. p. 886-890.
3. 塩原哲夫: 薬疹. 今日の診断指針第7版. 金澤一郎, 永井良三編. 東京, 医学書院, 2015. p. 1599-1602.
4. 塩原哲夫: 薬剤性過敏症候群. 日本臨床別冊 免疫症候群 (第2版) II その他の免疫疾患を含めて. 大阪, 日本臨床社, 2016. p. 497-500.
5. Shiohara T, Mizukawa Y: Lichen planus and lichenoid dermatoses. *Dermatology* 4th Edition. Bologna JL, et al. eds. U.S.A, Elsevier, (in press).

## 実験動物施設部門

## 講演

1. 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori*の自由生活性アミーバ *Acanthamoeba castellanii*共培養時のトランスクリプトーム解析~*Helicobacter pylori*生存性との関連. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月26-27日.
2. 大崎敬子, 徳永健吾, 米澤英雄, Zaman Cynthia, 田中昭文, 北条史, 花輪智子, 高橋信一, 神谷茂: 慢性胃炎患者における胃内常在細菌叢のメタゲノム解析. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月26-27日.
3. 米澤英雄, 大崎敬子, 北条史, Zaman Cynthia, 神谷茂: AlpBの*Helicobacter pylori* TK1402株バイオフィーム形成への関与. 第21回日本ヘリコバクター学会学術集会, 神戸, 2015年6月26-27日.
4. 米澤英雄, 大崎敬子, 北条史, 花輪智子, 蔵田訓, Zaman Cynthia, 神谷茂: *Helicobacter pylori*外膜タンパク質 AlpABの多様性がバイオフィーム形成に及ぼす影響. 第98回日本細菌学会関東支部総会, 東京, 2015年10月29-30日.
5. Kamiya S, Zaman C, Yonezawa H, Hojo F, Osaki T: Dominantly persistent infection in gastric mucosa of Mongolian gerbils with *H. pylori* strain isolated from 3 children compared to those from their parents. 18<sup>th</sup> International workshop on *Campylobacter*, *Helicobacter* and related organisms, New Zealand, November 1st-5th, 2015.
6. Osaki T, Tokunaga K, Yonezawa H, Tanaka A, Nozaki E, Zaman C, Hojo F, Takahashi S, Kamiya S: 16S metagenomic study on gastric microbiota of the patients with chronic gastritis. 18<sup>th</sup> International workshop on *Campylobacter*,

- Helicobacter and related organisms, New Zealand, November 1st-5th, 2015.
- Yonezawa H, Osaki T, Kamiya S: Involvement of AlpB as a key role in in biofilm formation of *Helicobacter pylori*. 18<sup>th</sup> International workshop on Campylobacter, Helicobacter and related organisms, New Zealand, November 1st-5th, 2015.
  - Hojō F, Osaki T, Yonezawa H, Hanawa T, Kurata S, Yamaguchi H, Kamiya S: Transcriptome and proteome analysis of *Helicobacter pylori* in co culture with *Acanthamoeba castellanii*. 18<sup>th</sup> International workshop on Campylobacter, Helicobacter and related organisms, New Zealand, November 1st-5th, 2015.
  - 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori*の自由生活性アメーバ共培養系における生存性の向上と遺伝子発現について. 第49回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会, 仙台, 2016年1月29-30日.
  - 北条史, 大崎敬子, 米澤英雄, 花輪智子, 蔵田訓, 山口博之, 神谷茂: *Helicobacter pylori*の自由生活性アメーバ共培養系における生存性の向上と遺伝子発現差解析. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-25日.
  - 山口博之, 松尾淳司, 大久保寅彦, 中村真二, 北条史, 花輪智子, 神谷茂: 絨毛虫と病原細菌の相互作用: 絨毛虫食胞内での大腸菌の接合とクォーラムセンシングの発動について. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-25日.
  - 米澤英雄, 大崎敬子, 花輪智子, 蔵田訓, 北条史, Zaman Cynthia, 神谷茂: *Helicobacter pylori* が産生する outer membrane vesicle の役割. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-25日.
  - 大崎敬子, Zaman Cynthia, 米澤英雄, 高橋志達, 岡健太郎, 北条史, 蔵田訓, 花輪智子, 神谷茂: 慢性胃炎患者における胃内細菌叢の16Sメタゲノム解析. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-25日.
  - 花輪智子, 蒲地一成, 米澤英雄, 蔵田訓, 北条史, 大崎敬子, Zaman Cynthia, 神谷茂: 百日咳菌ペリクル型バイオフィーム内の病原因子に関する解析. 第89回日本細菌学会総会, 大阪, 2016年3月23-25日.
- その他**
- 神谷茂, 北条史: クリーニングに使用される界面活性剤および溶媒の抗病原性原生動物作用の解析. 平成26年度クリーニングと公衆衛生に関する研究報告書(クリーニングと公衆衛生に関する研究委員会委員長, 相澤好治編), 第41巻 p.16-19, 2015.

### 生物学教室

#### 講演

- Watada M, Takano T, Matsuda M, Akashi R, Ueda R: National BioResource Project “*Drosophila*” is Fly Stock Centers Consortium in Japan. 3<sup>rd</sup> Asia - Pacific *Drosophila* Research Conference (3<sup>rd</sup> APDR), China, May 11th-15th, 2015.
- Matsuda M: Why is recombination of meiotic origin rare in male *Drosophila*?. International Symposium of Molecular Population Genetics and Evolution; Genes, Genomes, and Models, U.S.A., May 21st-24th, 2015.
- Kato K, Tomura M, Awasaki T: Scarp and build of glial assemblies in the *Drosophila* brains. 48<sup>th</sup> Annual meeting of japan society of developmental biologists, 筑波, 2015年6月2-5日.

- Kato K, Umeki Y, Tomura M, Awasaki T: Remodeling of glial assembly in *Drosophila* brain during metamorphosis. 38<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 神戸, 2015年7月28-31日.
- 加藤健太郎: 損傷応答を支える分子メカニズム. むさしのバイオ研究会 Fish & Fly 2015, 三鷹, 2015年8月29日.
- 栗崎健: ショウジョウバエを用いたグリアアセンブリの研究. むさしのバイオ研究会 Fish & Fly 2015, 三鷹, 2015年8月29日.
- 佐藤玄, 松田宗男: アナナスショウジョウバエ雄の組換えホットスポット領域の構造. むさしのバイオ研究会 Fish & Fly 2015, 三鷹, 2015年8月29日.
- 松田宗男, 佐藤玄, 平井和之: アナナスショウジョウバエを用いた遺伝学研究からの展開. むさしのバイオ研究会 Fish & Fly 2015, 三鷹, 2015年8月29日.
- Hirai K, Minakuchi Y, Toyoda A, Matsuda M: De novo formation of centrosome-like structures and their roles in the progression of the first mitosis and diploid nucleus formation in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*. EMBO Workshop Cell cycle, Hungary, September 4th-7th, 2015.
- 平井和之, 鈴木遥, 水口洋平, 豊田敦, 松田宗男: アナナスショウジョウバエ単為発生胚における核分裂開始と二倍体核形成機構. 日本動物学会第86回大会, 新潟, 2015年9月17-19日.
- 栗崎健: 変態期のショウジョウバエ脳におけるグリアアセンブリの再編成. 日本遺伝学会第87回大会, 仙台, 2015年9月24-26日.
- 栗崎健: ショウジョウバエ種群における脳神経回路の多様性. ショウジョウバエ多様性研究会, 三島, 2015年9月28日.
- 栗崎健: ショウジョウバエ脳におけるグリア組織のリモデリング. ミニシンポジウム「認識と形成」, 熊本, 2015年11月27日.
- 上田龍, 高野敏行, 和多田正義, 松田宗男: ショウジョウバエ 歴史と先端が融合するバイオリソース. 第38回日本分子生物学会年会, 神戸, 2015年12月1-3日.
- 平井和之, 鈴木遥, 水口洋平, 豊田敦, 松田宗男: アナナスショウジョウバエの単為発生における核分裂開始機構. De novo synthesis of microtubule-organizing centers in parthenogenetic embryos of *Drosophila ananassae*. 第38回日本分子生物学会年会, 第88回日本生化学会大会合同大会, 神戸, 2015年12月1-4日.
- 栗崎健, 伊藤啓, 加藤健太郎: ショウジョウバエ脳をモデルとしたグリアアセンブリ動作原理の解明. グリアアセンブリによる脳機能発現の制御と病態 班会議, 2016年1月8-9日.

#### 論文

- Kato K<sup>1,2</sup>, Konno D<sup>1</sup>, Berry M<sup>2</sup>, Matsuzaki F<sup>1</sup>, Logan A<sup>2</sup>, Hidalgo A<sup>2</sup>(<sup>1</sup>RIKEN CDB, <sup>2</sup>University of Birmingham, UK): Prox1 Inhibits Proliferation and Is Required for Differentiation of the Oligodendrocyte Cell Lineage in the Mouse. PLoS ONE 10(12): e0145334, 2015.
- Awasaki T, Ito K<sup>1</sup>(<sup>1</sup>Tokyo Univ): Regeneration switch is a gas (NEWS & VIEWS). Nature 531: 182-183, 2016.

### 物理学教室

#### 講演

- 大谷宗久: 拡張されたランダム行列模型におけるカイラル対称性の回復と非閉じ込め相転移. 日本物理学会



2015年秋季大会, 大阪, 2015年9月26日.

2. 遠山満: ハートリー・フォック・ボゴリューボフ理論に対する高次効果. 日本物理学会2015年秋季大会, 大阪, 2015年9月27日.
3. 大谷宗久: Pion mass effects on wave number of the chiral density wave. KEK 理論センター研究会「原子核・ハドロン物理の課題と将来」, つくば, 2015年11月24日.
4. 大谷宗久: Pion mass effects on wave number of the chiral density wave. Kyoto Meeting 2015 winter「高密度核物質と中性子星」, 京都, 2015年12月20日.
5. 遠山満: 重イオン核融合反応における2体散逸効果. 日本物理学会第71回年次大会, 仙台, 2016年3月21日.
6. 大谷宗久: カイラル密度波の波数に対するパイオン質量の影響. 日本物理学会第71回年次大会, 仙台, 2016年3月22日.

#### 論文

1. Tohyama M: Accuracy of pairing theory for a trapped magnetic dipole fermion gas. Prog Theor Exp Phys (2016): 023D01, 2016.
2. Delion D.<sup>1</sup>, Schuck P.<sup>2</sup>, Tohyama M.<sup>1</sup>(Bioterra University, <sup>2</sup>IPN Orsay): Sum-rules and Goldstone modes from extended random phase approximation theories in Fermi systems with spontaneously broken symmetries. Eur Phys J B 89: 45-1-12, 2016.
3. Tohyama M, Umar A.S.<sup>1</sup>(Vanderbilt University): Two-body dissipation effects on the synthesis of superheavy elements. Phys Rev C 93: 034607-1-5, 2016.

### 化学教室

#### 講演

1. 大津昌弘, 須賀圭, 山本幸子, 赤川公朗, 丑丸真: ヒト Secretory Pathway  $\text{Ca}^{2+}/\text{Mn}^{2+}$ -ATPase2 (SPCA2)は細胞質側N末端にER export signalを持つ. 第88回生化学会大会BMB2015, 神戸, 2015年12月1-4日.
2. 誉田晴夫, 大津昌弘, 山本幸子, 丑丸真, 原諭吉: カイコ由来培養細胞BM-Nにおけるカイコ神経細胞 $\text{Na}^+/\text{K}^+$ -ATPaseの発現 (II). 生体エネルギー研究会第41回討論会, 東京, 2015年12月21-23日.

### 英語学教室

#### 講演

1. 黒田航: 理論言語学の方法論を証拠に基づく医療 (EBM) との比較を通じて見直す. 第9回言語学・自然言語処理合同研究会, 東京, 2015年9月6日.
2. 黒田航: 理論言語学の方法論を証拠に基づく医療 (EBM) との比較を通じて見直す. 日本認知言語学会16回大会, 京都, 2015年9月11日.
3. Kuroda K: How are inflectional paradigms represented (in the mind)?-Formal Concept Analysis meets Czech declension. In Proceedings of the 22nd Annual Meeting of the Natural Language Processing Association, Sendai, March 7th-11th, 2016.

#### 論文

1. 黒田航: 表層語形から品詞はどれぐらい正確に予測できるか?-英語形態論とチェコ語形態論の比較から. 認知科学 22(4):621-637, 2015.